

令和4年度

講義計画書

(シラバス)

鹿児島県立短期大学

総目次

1	教養科目（人文，社会，自然，総合）	1
2	教養科目（外国語科目）	12
3	教養科目（スポーツ・健康科目）	41
4	教養科目（情報科目）	45
5	日本語日本文学専攻専門科目	51
6	英語英文学専攻専門科目	75
7	生活科学科共通科目	111
8	食物栄養専攻専門科目	113
9	生活科学専攻専門科目	133
10	第一部商経学科の専攻間で共通する科目（専門基礎科目）	157
11	経済専攻専門科目	169
12	経営情報専攻専門科目	182
13	第二部商経学科教養科目（教養一般）	191
14	第二部商経学科教養科目（外国語科目）	197
15	第二部商経学科教養科目（スポーツ・健康科目）	202
16	第二部商経学科教養科目（情報科目）	203
17	第二部商経学科専門科目	205
18	商経学科の演習・実習科目	233
19	教職に関する科目	236
20	司書教諭に関する科目	272

文学科 日本語日本文学専攻

【教養科目】

(人文)	
日本の歴史	1
こころの科学	2
芸術論	2
(社会)	
日本国憲法	3
法学概論	3
社会学	4
生活と経済	4
キャリアデザイン	5
(自然)	
数学の世界	5
物理の世界	6
生物の科学	6
化学の世界	7
食生活と健康	7
(総合)	
現代人権論	8
鹿児島学	8
かごしまと世界	9
社会活動	9
企業研修	10
かごしま教養プログラム	10
かごしまフィールドスクール	11
(外国語科目)	
英語 I (A)	12
英語 I (A)	12
英語 II (A)	17
英語 II (A)	17
英語 III (D)	23
英語 III (E)	24
英語 III (F)	24
英語 III (G)	25
英語 III (H)	25
英語 IV (A)	26
英語 IV (B)	26
英語 IV (G)	28
異文化コミュニケーション (英語)	29
異文化コミュニケーション (中国語)	29
中国語 I (A)	32
中国語 I (B)	32
中国語 I (H)	35
中国語 II (A)	36
中国語 II (B)	36
中国語 II (H)	39
中国語 III	40
中国語 IV	40
(スポーツ・健康科目)	
スポーツ・健康論	41
生涯スポーツ実習 I (A)	41
生涯スポーツ実習 II (A)	43
(情報科目)	
情報リテラシー I (A)	45
情報リテラシー II (A)	48
【専門科目】	
(専門基礎科目)	
日本文学概論	51
言語学概論	51
(日本語学科目)	
日本語学概論	52
日本語教育概論	52
日本語史	53
日本文法論	53
日本語学講義	54
日本語学講読 I	54
日本語学講読 II	55

日本語学演習 I	55
日本語学演習 IV・VI	56
日本語学演習 V	56
日本語表現法	57
日本語表現法演習	57
対照言語学	58
(日本文学「古典」科目)	
日本文学史・古典 I	58
日本文学史・古典 II	59
日本文学講義 I	59
日本文学講読 I	60
日本文学講読 II	60
日本文学講読 III	61
日本文学演習 I・III	61
日本文学演習 II	62
(日本文学「近代」科目)	
日本文学講義 II	62
日本文学講読 IV	63
日本文学講読 V	63
日本文学講読 VI	64
日本文学講読 VII	64
日本文学演習 IV・VI	65
日本文学演習 V	65
(地域文学・中国文学科目)	
中国文学史 I	66
中国文学史 II	66
中国文学講読 I	67
中国文学講読 II	67
中国文学演習 I	68
中国文学演習 II	68
中国文学演習 III	69
(卒業研究)	
卒業研究 I・II	69
(関連科目)	
比較文化	70
英文学史	70
米文学史	71
読書と豊かな人間性	71
情報メディアの活用	72
書道 I	73
書道 II	73
書道 III	74
書道 IV	74
【教職に関する科目】	
教職入門	236
教育原理	237
教育心理学	238～239
特別支援教育概論	240～241
教育行政学概論	242
教育課程論	243～246
国語科教育法 I	247
国語科教育法 II	248
道徳教育指導論	255
総合的な学習の時間の指導法	257～258
特別活動指導論	259
教育方法学概論	261
学校教育における ICT 活用	262
生徒指導論	263～264
進路指導論	265
教育相談	266～267
教職実践演習 (中)	268
教育実習	270
【司書教諭に関する科目】	
学校経営と学校図書館	272
学校図書館メディアの構成	272
読書と豊かな人間性	273
情報メディアの活用	273

文学科 英語英文学専攻

【教養科目】			
（人文）			
日本の歴史	1	英語表現法Ⅰ	86
こころの科学	2	英語表現法Ⅱ	87
芸術論	2	英語表現法Ⅲ	88
（社会）			
日本国憲法	3	英語コミュニケーション演習Ⅰ	89
法学概論	3	英語コミュニケーション演習Ⅱ	89
社会学	4	英語コミュニケーション演習Ⅲ	90
生活と経済	4	通訳入門Ⅰ	90
キャリアデザイン	5	通訳入門Ⅱ	91
（自然）			
数学の世界	5	（英語学科目）	
物理の世界	6	英文法	91
生物の科学	6	英語史	92
化学の世界	7	英語音声学	92
食生活と健康	7	講読演習Ⅰ	93
（総合）			
現代人権論	8	基礎演習Ⅰ	93～94
鹿児島学	8	英語学演習	94～95
かごしまと世界	9	（英米文学科目）	
社会活動	9	英文学史	95
企業研修	10	米文学史	96
かごしま教養プログラム	10	比較文学	96
かごしまフィールドスクール	11	英米文学講読Ⅰ	97
（外国語科目）			
英語Ⅲ（A）	22	英米文学講読Ⅱ	97
英語Ⅲ（B）	22	英米文学講読Ⅲ	98
英語Ⅲ（C）	23	講読演習Ⅱ	98
英語Ⅲ（D）	23	基礎演習Ⅱ	99
英語Ⅲ（E）	24	英米文学演習	100
英語Ⅲ（F）	24	（比較文化科目）	
英語Ⅲ（G）	25	イギリス事情	101
英語Ⅲ（H）	25	アメリカ事情	101
英語Ⅳ（A）	26	ヨーロッパ事情	102
英語Ⅳ（B）	26	講読演習Ⅲ	102
英語Ⅳ（C）	27	基礎演習Ⅲ	103
英語Ⅳ（D）	27	比較文化演習	103
英語Ⅳ（E）	28	（関連科目）	
英語Ⅳ（G）	28	対照言語学	104
異文化コミュニケーション（英語）	29	言語学概論	104
異文化コミュニケーション（中国語）	29	日本語学概論	105
ドイツ語Ⅰ	30	日本文学史Ⅰ	105
ドイツ語Ⅱ	30	日本文学史Ⅱ	106
フランス語Ⅰ	31	日本語教育概論	106
フランス語Ⅱ	31	国際経済論	107
中国語Ⅰ（B）	32	国際関係論	107
中国語Ⅰ（G）	35	検定対策講座Ⅱ	108
中国語Ⅰ（H）	35	（卒業研究）	
中国語Ⅱ（B）	36	卒業研究	108～110
中国語Ⅱ（G）	39	【教職に関する科目】	
中国語Ⅱ（H）	39	教職入門	236
中国語Ⅲ	40	教育原理	237
中国語Ⅳ	40	教育心理学	238～239
（スポーツ・健康科目）			
スポーツ・健康論	41	特別支援教育概論	240～241
生涯スポーツ実習Ⅰ（B）	41	教育行政学概論	242
生涯スポーツ実習Ⅱ（B）	43	教育課程論	243～246
（情報科目）			
情報リテラシーⅠ（B）	45	英語科教育法Ⅰ	249～250
情報リテラシーⅡ（B）	48	英語科教育法Ⅱ	251～252
【専門科目】			
（専門基礎科目）			
スタディスキルズ	75	道徳教育指導論	255
コミュニケーション概論	75	総合的な学習の時間の指導法	257～258
英語学概論	76	特別活動指導論	259
英文学概論	76	教育方法学概論	261
比較文化	77	学校教育におけるICT活用	262
（コミュニケーション科目）			
オーラルコミュニケーションⅠ	78～80	生徒指導論	263～264
オーラルコミュニケーションⅡ	81～83	進路指導論	265
オーラルコミュニケーションⅢ	83～84	教育相談	266～267
オーラルコミュニケーションⅣ	85	教職実践演習（中）	268
		教育実習	270
		【司書教諭に関する科目】	
		学校経営と学校図書館	272
		学校図書館メディアの構成	272
		読書と豊かな人間性	273
		情報メディアの活用	273

生活科学科 食物栄養専攻

【教養科目】			
(人文)			
文学の世界	1		
日本の歴史	1		
こころの科学	2		
芸術論	2		
(社会)			
日本国憲法	3		
法学概論	3		
社会学	4		
生活と経済	4		
キャリアデザイン	5		
(自然)			
数学の世界	5		
物理の世界	6		
化学の世界	7		
食生活と健康	7		
(総合)			
現代人権論	8		
鹿児島学	8		
かごしまと世界	9		
社会活動	9		
企業研修	10		
かごしま教養プログラム	10		
かごしまフィールドスクール	11		
(外国語科目)			
英語Ⅰ(C)	14		
英語Ⅰ(C)	14		
英語Ⅱ(C)	19		
英語Ⅱ(C)	19		
英語Ⅲ(A)	22		
英語Ⅲ(B)	22		
英語Ⅲ(C)	23		
英語Ⅳ(A)	26		
英語Ⅳ(B)	26		
英語Ⅳ(G)	28		
異文化コミュニケーション(英語)	29		
異文化コミュニケーション(中国語)	29		
フランス語Ⅰ	31		
フランス語Ⅱ	31		
中国語Ⅰ(F)	34		
中国語Ⅰ(H)	35		
中国語Ⅱ(F)	38		
中国語Ⅱ(H)	39		
(スポーツ・健康科目)			
生涯スポーツ実習Ⅰ(C)	42		
生涯スポーツ実習Ⅱ(C)	43		
(情報科目)			
情報リテラシーⅠ(C)	46		
情報リテラシーⅡ(C)	49		
【専門科目】			
(生活科学科目)			
生活科学概論	111		
生活経営学	111		
人間関係論	112		
社会福祉論	112		
(基礎科目)			
〈食物に関する科目〉			
食品学Ⅰ	113		
食品学Ⅱ	113		
食品学実験	114		
食品衛生学	114		
食品衛生学実験	115		
食品加工学	115		
調理学	116		
調理学実習Ⅰ	116		
調理学実習Ⅱ	117		
調理学実習Ⅲ	117		
〈消化・吸収・代謝に関する科目〉			
栄養学総論	118		
栄養学各論	118		
栄養学実習	119		
解剖生理学	119		
解剖生理学実験	120		
生化学Ⅰ	120		
生化学Ⅱ	121		
生化学実験	121		
〈健康と運動に関する科目〉			
健康と運動	122		
公衆衛生学	122		
健康管理概論	123		
運動生理学	123		
(応用科目)			
〈給食の管理に関する科目〉			
給食管理	124		
給食管理実習Ⅰ	124		
給食管理実習Ⅱ	125		
給食管理実習Ⅲ	125		
〈栄養の指導〉			
栄養教育論	126		
栄養指導論Ⅰ	126		
栄養指導論Ⅱ	127		
栄養指導論実習Ⅰ	127		
栄養指導論実習Ⅱ	128		
公衆栄養学	128		
栄養情報処理	129		
〈臨床関連科目〉			
臨床栄養学Ⅰ	129		
臨床栄養学Ⅱ	130		
臨床栄養学実習	130		
病理学	131		
〈栄養教諭関連科目〉			
学校栄養教育論	131		
(その他)			
化学概論	132		
生物概論	132		
【教職に関する科目】			
教職入門	236		
教育原理	237		
教育心理学	238~239		
特別支援教育概論	240~241		
教育行政学概論	242		
教育課程論	243~246		
道徳教育の指導法	256		
特別活動論	260		
教育方法学概論	261		
生徒指導論	263~264		
教育相談	266~267		
教職実践演習(栄養教諭)	269		
栄養教育実習	270		
栄養教育実習の事前事後の指導	271		

生活科学科 生活科学専攻

【教養科目】

(人文)	
文学の世界	1
日本の歴史	1
こころの科学	2
芸術論	2
(社会)	
日本国憲法	3
法学概論	3
社会学	4
生活と経済	4
キャリアデザイン	5
(自然)	
数学の世界	5
物理の世界	6
生物の科学	6
食生活と健康	7
(総合)	
現代人権論	8
鹿児島学	8
かごしまと世界	9
社会活動	9
企業研修	10
かごしま教養プログラム	10
かごしまフィールドスクール	11
(外国語科目)	
英語Ⅰ(B)	13
英語Ⅰ(B)	13
英語Ⅱ(B)	18
英語Ⅱ(B)	18
英語Ⅲ(A)	22
英語Ⅲ(B)	22
英語Ⅲ(C)	23
英語Ⅳ(A)	26
英語Ⅳ(B)	26
英語Ⅳ(G)	28
異文化コミュニケーション(英語)	29
異文化コミュニケーション(中国語)	29
フランス語Ⅰ	31
フランス語Ⅱ	31
中国語Ⅰ(G)	35
中国語Ⅰ(H)	35
中国語Ⅱ(G)	39
中国語Ⅱ(H)	39
(スポーツ・健康科目)	
スポーツ・健康論	41
生涯スポーツ実習Ⅰ(D)	42
生涯スポーツ実習Ⅱ(D)	43
(情報科目)	
情報リテラシーⅠ(D)	46
情報リテラシーⅡ(D)	49
【専門科目】	
(専門基礎系)	
生活科学概論	111
生活化学	133
ビジュアルデザイン論Ⅰ	133
住生活学	134
人間関係論	112
色彩学	134
衣生活学	135
ファッション造形基礎	135
消費生活論	136
(ライフデザイン系)	
生活経営学	111
社会福祉論	112
被服材料学	136

生活化学実験	137
食物と栄養	137
調理学	138
調理実習	138
服飾文化史	139
保育学	139
卒業研究A	140
(ファッションデザイン系)	
ファッションデザイン論	141
ファッション造形Ⅰ	141
ファッション造形Ⅱ	142
ファッションアイテム演習	142
ファッションビジネス	143
卒業研究B	143
(ビジュアルデザイン系)	
ビジュアルデザイン基礎Ⅰ	144
ビジュアルデザイン基礎Ⅱ	144
ビジュアルデザイン論Ⅱ	145
ビジュアルデザインⅠ	145
ビジュアルデザインⅡ	146
卒業研究C	146
(建築デザイン系)	
住居史	147
住居・インテリア設計学	147
設計製図Ⅰ	148
設計製図Ⅱ	148
住居構造学Ⅰ	149
住居構造学Ⅱ	149
住居環境学	150
住居環境学演習	150
建築材料学	151
建築生産	151
建築法規	152
CAD設計	152
建築史	153
CAD設計特講	153
設計製図Ⅲ	154
設計製図Ⅳ	154
空間デザイン論	155
空間デザインⅠ	155
空間デザインⅡ	156
卒業研究D	156

【教職に関する科目】

教職入門	236
教育原理	237
教育心理学	238～239
特別支援教育概論	240～241
教育行政学概論	242
教育課程論	243～246
家庭科教育法Ⅰ	253
家庭科教育法Ⅱ	254
道徳教育指導論	255
総合的な学習の時間の指導法	257～258
特別活動指導論	259
教育方法学概論	261
学校教育におけるICT活用	262
生徒指導論	263～264
進路指導論	265
教育相談	266～267
教職実践演習(中)	268
教育実習	270

【司書教諭に関する科目】

学校経営と学校図書館	272
学校図書館メディアの構成	272
読書と豊かな人間性	273
情報メディアの活用	273

商経学科 経済専攻

【教養科目】

(人文)	
文学の世界	1
日本の歴史	1
こころの科学	2
芸術論	2
(社会)	
日本国憲法	3
法学概論	3
社会学	4
キャリアデザイン	5
(自然)	
数学の世界	5
物理の世界	6
生物の科学	6
化学の世界	7
食生活と健康	7
(総合)	
現代人権論	8
鹿児島学	8
かごしまと世界	9
かごしま教養プログラム	10
かごしまフィールドスクール	11
(外国語科目)	
英語 I (D)	15
英語 I (D)	15
英語 I (D)	16
英語 I (D)	16
英語 II (D)	20
英語 II (D)	20
英語 II (D)	21
英語 II (D)	21
英語 III (D)	23
英語 III (E)	24
英語 III (F)	24
英語 III (G)	25
英語 III (H)	25
英語 IV (C)	27
英語 IV (D)	27
英語 IV (E)	28
英語 IV (G)	28
異文化コミュニケーション (英語)	29
異文化コミュニケーション (中国語)	29
中国語 I (C)	33
中国語 I (E)	34
中国語 I (H)	35
中国語 II (C)	37
中国語 II (E)	38
中国語 II (H)	39
中国語 III	40
中国語 IV	40
(スポーツ・健康科目)	
スポーツ・健康論	41
生涯スポーツ実習 I (E)	42
生涯スポーツ実習 II (E)	43~44
(情報科目)	
情報リテラシー I (E)	47
情報リテラシー II (E)	50

【専門科目】

(専門基礎科目)	
〈基礎理論〉	
経済学	157
消費者問題	157
行政法	158
経済政策	158
金融論	159
社会政策	159
社会思想	160
民法	160
商法	161
産業心理学	161
会計学総論	162
簿記論 I	162
経営学総論	163
〈情報基礎〉	
情報科学概論	163
文書作成実習	164
統計学	165
応用文書処理	165
PCデータ活用	166
PCデータ活用実習	166
PCアプリケーション実習	168
(専攻専門科目)	
〈経済理論〉	
日本経済論	169
財政学	170
農業経済論	171
ファイナンス論	171
経済学史	172
経済学特講 I	172
経済学特講 II	173
法学特講	173
簿記論 II	174
〈国際環境〉	
国際経済論	174
国際立地論	175
アジア経済論	175
外国貿易論	176
国際関係論	176
比較文化	177
アジア事情	177
国際経済特講 I	178
〈地域政策〉	
地域経済論	178
地域産業政策	179
地方財政論	179
非営利組織論	180
労働法	180
地域研究特講	181
地方自治法	181
〈演習・実習〉	
基礎演習	233~234
演習 I	233~234
演習 II	233~234
卒業研究	233~234
社会活動	235
企業研修	235

商経学科 経営情報専攻

【教養科目】

(人文)	
文学の世界	1
日本の歴史	1
こころの科学	2
芸術論	2
(社会)	
日本国憲法	3
法学概論	3
社会学	4
キャリアデザイン	5
(自然)	
数学の世界	5
物理の世界	6
生物の科学	6
化学の世界	7
食生活と健康	7
(総合)	
現代人権論	8
鹿児島学	8
かごしまと世界	9
かごしま教養プログラム	10
かごしまフィールドスクール	11
(外国語科目)	
英語 I (D)	15
英語 I (D)	15
英語 I (D)	16
英語 I (D)	16
英語 II (D)	20
英語 II (D)	20
英語 II (D)	21
英語 II (D)	21
英語 III (D)	23
英語 III (E)	24
英語 III (F)	24
英語 III (G)	25
英語 III (H)	25
英語 IV (C)	27
英語 IV (D)	27
英語 IV (E)	28
英語 IV (G)	28
異文化コミュニケーション (英語)	29
異文化コミュニケーション (中国語)	29
中国語 I (D)	33
中国語 I (E)	34
中国語 I (H)	35
中国語 II (D)	37
中国語 II (E)	38
中国語 II (H)	39
中国語 III	40
中国語 IV	40
(スポーツ・健康科目)	
スポーツ・健康論	41
生涯スポーツ実習 I (F)	42
生涯スポーツ実習 II (F)	43~44
(情報科目)	
情報リテラシー I (F)	47
情報リテラシー II (F)	50

【専門科目】

(専門基礎科目)	
〈基礎理論〉	
経済学	157
消費者問題	157
行政法	158
経済政策	158
金融論	159
社会政策	159
社会思想	160
民法	160
商法	161
産業心理学	161
会計学総論	162
簿記論 I	162
経営学総論	163
〈情報基礎〉	
情報科学概論	163
文書作成実習	164
統計学	165
応用文書処理	165
PCデータ活用	167
PCデータ活用実習	167
PCアプリケーション実習	168
(専攻専門科目)	
〈経営理論〉	
簿記論 II	182
経営管理論	182
労務管理論	183
管理会計論	183
原価計算	184
経営学特講 I	184
経営学特講 II	185
〈情報分析〉	
情報管理論	185
会計情報論	186
経営戦略論	186
財務会計論	187
マーケティング論	187
流通論	188
〈情報活用〉	
経営工学	188
応用データ活用	189
プログラミング	189
簿記論 III	190
情報論特講	190
〈演習・実習〉	
基礎演習	233~234
演習 I	233~234
演習 II	233~234
卒業研究	233~234
社会活動	235
企業研修	235

第二部商経学科

【教養科目】			
（教養一般）			
人間と文化	191		
日本の歴史	191		
日本文学・近代	192		
こころの科学	192		
比較文化	193		
アジア文化論	193		
日本国憲法	194		
キャリアデザイン	194		
ライフプランニング	195		
環境問題	195		
かごしま教養プログラム	196		
かごしまフィールドスクール	196		
（外国語科目）			
英語Ⅰ（A）	197		
英語Ⅰ（B）	197		
英語Ⅱ（A）	198		
英語Ⅱ（B）	198		
異文化コミュニケーション（英語）	199		
異文化コミュニケーション（中国語）	199		
中国語Ⅰ（A）	200		
中国語Ⅰ（B）	200		
中国語Ⅱ（A）	201		
中国語Ⅱ（B）	201		
（スポーツ・健康科目）			
生涯スポーツ実習Ⅰ	202		
生涯スポーツ実習Ⅱ	202		
（情報科目）			
情報リテラシーⅠ（A）	203		
情報リテラシーⅠ（B）	203		
情報リテラシーⅡ（A）	204		
情報リテラシーⅡ（B）	204		
【専門科目】			
（専門基礎科目）			
〈基礎理論〉			
現代社会論	205		
経済学	205		
社会学	206		
文化と社会	206		
行政法	207		
金融論	207		
社会政策	208		
社会思想	208		
民法	209		
商法	209		
産業心理学	210		
会計学総論	210		
簿記論Ⅰ	211		
経営学総論	211		
〈情報基礎〉			
情報科学概論	212		
文書作成実習	212		
統計学	213		
応用文書処理	213		
PCデータ活用	214		
PCデータ活用実習	214		
PCアプリケーション実習（A）	215		
PCアプリケーション実習（B）	215		
（専門応用科目）			
〈経済理論〉			
日本経済論	216		
財政学	217		
農業経済論	218		
ファイナンス論	218		
経済学史	219		
経済学特講	219		
〈地域と国際〉			
国際経済論	220		
アジア経済論	220		
外国貿易論	221		
国際関係論	221		
アジア事情	222		
地域経済論	222		
地域産業政策	223		
地方財政論	223		
非営利組織論	224		
労働法	224		
地域研究特講	225		
地方自治法	225		
〈経営理論〉			
簿記論Ⅱ	226		
経営管理論	226		
労務管理論	227		
原価計算	227		
経営学特講	228		
〈情報分析・活用〉			
情報管理論	228		
会計情報論	229		
経営戦略論	229		
応用データ活用	230		
プログラミング	230		
財務会計論	231		
情報論特講	231		
マーケティング論	232		
流通論	232		
〈演習・実習〉			
基礎演習	233～234		
演習Ⅰ	233～234		
演習Ⅱ	233～234		
卒業研究	233～234		
社会活動	235		
企業研修	235		

1 教養科目（人文，社会，自然，総合）

授業科目	文学の世界		担当者	土肥克己, 小林朋子, 木戸裕子				
	[履修年次]	1, 2年いずれでも履修可	授業外対応	講義終了時				
	[学期]	後期	[単位]	2	[必修/選択]	選択 (注)	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】世界の文学</p> <p>【概要】「文学」というとなんだか難しそうで敬遠していませんか？この授業では、3人の教員が中国、アメリカ、日本の3カ国を中心に、時間を超え空間を越えさまざまな文学作品の世界にご案内します。時代や地域による作品の違いを楽しんでみてください。</p> <p>【到達目標】様々な作品を読み解き、文学作品に親しみを持ってもらう。各国の文学作品について考える。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) なし (プリント資料配付)</p> <p>(2) ビギナーズクラシックス『古事記』(角川ソフィア文庫) ビギナーズクラシックス『源氏物語』(角川ソフィア文庫), その他必要に応じて授業時に指示する</p>							
授業スケジュール	<p>第1回 中国の文学：三国志の魅力(1)</p> <p>第2回 中国の文学：三国志の魅力(2)</p> <p>第3回 中国の文学：三国志の魅力(3)</p> <p>第4回 中国の文学：三国志の魅力(4)</p> <p>第5回 中国の文学：日本での三国志</p> <p>第6回 17世紀アメリカ文学：アメリカ先住民の文学とブラッドフォード</p> <p>第7回 18世紀アメリカ文学：フランクリン『自叙伝』</p> <p>第8回 19世紀アメリカ文学：アメリカン・ルネッサンス</p> <p>第9回 20世紀アメリカ文学：人種系文学</p> <p>第10回 20世紀アメリカ文学とその後：自己の探求</p> <p>第11回 奈良時代の日本文学：『古事記』神々と英雄</p> <p>第12回 奈良時代の日本文学：『日本書紀』日本の内と外</p> <p>第13回 平安時代の日本文学：『源氏物語』中国文学との関係</p> <p>第14回 平安時代の日本文学：『源氏物語』父と子その1</p> <p>第15回 平安時代の日本文学：『源氏物語』父と子その2</p>							
授業外学習(予習・復習)	授業で紹介された作品を読む。(事前でも事後でも可)							
成績評価の方法	期末レポートの提出(70点), および講義に関する毎回の意見・感想等(30点)で評価します。レポートは3人の教員が出した課題から2つを選んで書くことになります。							

(注) 文学科を除く

(注) 受講者が45人を超えた場合は人数を制限する場合があります。

授業科目	日本の歴史		担当者	梶尾 達哉				
	[履修年次]	1年, 2年	授業外対応	講義終了時				
	[学期]	後期	[単位]	2	[必修/選択]	選択 (注)	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>日本の歴史。日本史上の重要な学説、発見、思想、資料を学ぶ。</p> <p>【概要】高等学校までの「日本史」では学ばないこと、深く学ぶ機会がなかったことをトピック的に取り上げ、日本の歴史についての関心呼び起こすための授業。日本の歴史が現代の私たちにどのような影響を与えているかを考える。</p> <p>【到達目標】</p> <p>日本の歴史が現代の私たちにどのような影響を与えているかを考え、私たちが歴史切り離された存在ではなく、歴史的な存在であることを深く理解する。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2)</p>							
授業スケジュール	<p>第1回 騎馬民族征服説(1) 日本史を学ぶ意義何か</p> <p>第2回 騎馬民族征服説(2) 日本の国家はいつ成立したか</p> <p>第3回 稲荷山古墳出土鉄剣銘文(1) 銘文発見の経緯</p> <p>第4回 稲荷山古墳出土鉄剣銘文(2) 銘文の釈読</p> <p>第5回 稲荷山古墳出土鉄剣銘文(3) 銘文発見の歴史学的意義</p> <p>第6回 古代の罪と罰(1) 平城宮跡から出た墨書土器</p> <p>第7回 古代の罪と罰(2) 日本律の科刑軽減</p> <p>第8回 古代の罪と罰(3) 贈答と賄賂</p> <p>第9回 中世の悪口 罵倒のこぼれに見る中世社会</p> <p>第10回 絵巻を読む(1) 絵巻とは何か</p> <p>第11回 絵巻を読む(2) 描かれた中世の人びとのしぐさ</p> <p>第12回 絵巻を読む(3) 女性の一人旅</p> <p>第13回 古文書を読む(1) 正倉院文書の残された休暇願・借用書</p> <p>第14回 古文書を読む(2) 戦国時代の古文書</p> <p>第15回 古文書を読む(3) 江戸時代の離縁状</p>							
授業外学習(予習・復習)	予習：配布プリントにあらかじめ目を通す。復習：配布プリント・ノートを参照しながら、授業内容を見返す。							
成績評価の方法	筆記試験(100%)							
実務経験について	1983年より鹿児島大学法文学部において日本史担当教員として勤務。							

(注) 受講者が72人を超えた場合は人数を制限する場合があります。

授業科目	こころの科学		担当者	安部 幸志	
	[履修年次]	1年, 2年	授業外対応	適宜対応	
	[学期]	前期	[単位]	2	
		[必修/選択]	選択 (注)	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】科学的学問としての心理学について理解し、その方法論や心理学的知見の応用について知識を深める。受講生の多くは青年期に位置するため、思春期・青年期の心理学や親世代に当たる成人期以降の心理にも着目して講義を展開する。</p> <p>【概要】本講義では科学としての心理学を理解するために、単なる受け身による講義だけでなく、統計や実験についても可能な限り体験を通じて理解することを目指している。また、ほぼ毎回グループワークを実施する。</p> <p>【到達目標】①現代社会におけるこころの問題を理解するために、実証科学としての心理学に対する理解を深める。 ②身近な問題としてのこころの健康やその予防・維持に関する知識を身につける。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 毎事プリントによる資料を配布する。</p> <p>(2) ①鹿取 廣人他著『心理学 第5版』東京大学出版会, 2015年 ②サトウ タツヤ・渡邊 芳之著『心理学・入門—心理学はこんなに面白い』有斐閣, 2011年</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 心理学とは：科学としての心理学</p> <p>第3回 こころの進化：動物にもこころはあるか</p> <p>第4回 こころの発達：赤ちゃんの心理</p> <p>第5回 こころの発達：人間の発達、青年期の心理</p> <p>第6回 こころの発達：中年期と女性の心理</p> <p>第7回 こころの発達：老年期の心理</p> <p>第8回 性格：血液型と認知バイアス</p> <p>第9回 知能：頭が良いのは遺伝か環境か 感覚・知覚</p> <p>第10回 感覚・知覚</p> <p>第11回 記憶の不思議</p> <p>第12回 災害と心理</p> <p>第13回 社会と心理</p> <p>第14回 心理療法</p> <p>第15回 ストレス</p>				
授業外学習(予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	授業内課題 (20%)、グループワーク (20%)、試験 (60%)				
実務経験について	国立研究所にて保健医療に関する研究に従事した経験をもとに現代社会で求められる理論的・実践的知識を教授する。				

(注) 受講者が130人を超えた場合は人数を制限する場合があります。

授業科目	芸術論		担当者	北 一浩	
	[履修年次]	1・2年	授業外対応	適宜対応 (要予約)	
	[学期]	後期	[単位]	2	
		[必修/選択]	選択 (注)	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】芸術を鑑賞する視点を通して、新たな視点を持つきっかけをつくる。</p> <p>【概要】芸術の中でも難解といわれる20世紀以降の現代アート(造形芸術)を中心に、具体的事例を通して芸術作品との向き合い方を学び、新たな視点を持つきっかけをつくる。</p> <p>【到達目標】さまざまなアプローチがある芸術との向き合い方を学び、それを芸術のみならず、さまざまな場面で活用できるようになる。</p> <p>※受講者が100人を超えた場合は人数を制限する場合があります。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 使用しない。適宜、プリントを配布する。</p> <p>(2) 参考文献は適宜紹介する。</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 現代アートとは？ 西洋美術史、現代アート、ルネサンス</p> <p>第3回 伝統と違うから興味ない？ アンリ・マティス、緑のすじのあるマティス夫人の肖像、</p> <p>第4回 美しいとは思えないのだけれど？ パブロ・ピカソ、アビニョンの娘たち</p> <p>第5回 何が描いてあるかわからない ワシリー・カンディンスキー、コンポジションIV</p> <p>第6回 上手だとは思えないのだけれど？ エルンスト・ルートヴィヒ・キルヒナー、ストリートシーン ベルリン</p> <p>第7回 これがアートといえるの？ マルセル・デュシャン、泉</p> <p>第8回 そんなに値打ちがあるものなの？ ピエト・モンドリアン、コンポジションIII</p> <p>第9回 わかったような、わからないような ルネ・マグリット、光の帝国</p> <p>第10回 何なのか、意味がわからない マーク・ロスコ、無題</p> <p>第11回 アートとアートでないものの違いって？ アンディー・ウォーホール、プリロボックス</p> <p>第12回 許せる？許せない？ リチャード・セラ、傾いた狐</p> <p>第13回 きれいなのに汚い？ アンドレス・セラノ、ピス・クライスト</p> <p>第14回 名作はあなたが見つけるもの 菅亮平、an actor</p> <p>第15回 まとめ</p>				
授業外学習(予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	毎講義ごとのレポート (60%) 講義内で行うワーク (40%)				
実務経験について	広告会社にてグラフィックデザイナーとして勤務 フリーランスのグラフィックデザイナーとして活動				

(注) 受講者が130人を超えた場合は人数を制限する場合があります。

授業科目	日本国憲法		担当者	山本 敬生																																																	
	〔履修年次〕	1,2年履修可	授業外対応	適宜対応(要予約)																																																	
	〔学期〕	後期	〔単位〕	2単位	〔必修/選択〕	選択(注)	〔授業形態〕	講義																																													
テーマ及び概要	<p>【テーマ】日本国憲法の基本原理である国民主権、基本的人権の尊重、平和主義を体系的に理解した上で、日本国憲法の理念とその普遍的妥当性について検証することをテーマにする。</p> <p>【概要】日本国憲法はわが国の最高法規であるとともに、基本的人権および国家の統治機構を定めた基本法である。近年、その価値が問い直されている一方、新世紀における新しい世界秩序の中で新たな意義をもちはじめている。本講義では、国の政治のあり方を究極的に決定する権威が国民にあることをいう国民主権、平和に崇高な価値をおき、その擁護に最大限の努力を払う原則である平和主義、個人の尊厳の原理に基づき、個人が有する人権は最大限尊重されるべきとする基本的人権の尊重の三つの基本原理を中心として、人類の叡智の結晶である日本国憲法の本質を学習する。</p> <p>【到達目標】日本国憲法の基本原理を深く理解し、政治的・社会的諸問題について憲法の視点から考察できる力を習得することを目標にする。</p>																																																				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 佐伯仁志他編、『ポケット六法(令和4年度版)』、有斐閣</p>																																																				
授業スケジュール	<table border="0"> <tr> <td>第1回</td> <td>憲法概論</td> <td>・国民主権、基本的人権の尊重、平和主義、権力分立主義の理念について</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>基本権総論</td> <td>・私人間の人権保障、基本権の享有主体性、二重の基準の理論について</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>幸福追求権</td> <td>・幸福追求権、人間の尊厳、プライバシーの権利、法の下での平等について</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>精神的自由権(1)</td> <td>・思想・良心の自由、信教の自由、政教分離の原則について</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>精神的自由権(2)</td> <td>・表現の自由、検閲の禁止、知る権利、通信の秘密、報道の自由について</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>精神的自由権(3)</td> <td>・集会・結社の自由、検閲の禁止、IRAの基準、学問の自由、大学の自治について</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>経済的自由権</td> <td>・職業選択の自由、居住・移転の自由、国籍離脱の自由、財産権について</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>受益権</td> <td>・裁判を受ける権利、請願権、国家賠償請求権、刑事補償請求権について</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>社会権(1)</td> <td>・生存権、環境権、教育を受ける権利、教育の自由について</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>社会権(2)</td> <td>・勤労権、労働基本権、争議権、参政権、選挙権について</td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>国会(1)</td> <td>・国権の最高機関の意味、唯一の立法機関の意味、衆議院の優越について</td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>国会(2)</td> <td>・国会議員の地位、議員の特権、国会の活動、国会と議院の権能について</td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>内閣</td> <td>・内閣の地位、内閣総理大臣の権限、国務大臣の権限、内閣の責任について</td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>裁判所</td> <td>・最高裁判所の権限、統治行為論、違憲審査制について</td> </tr> <tr> <td>第15回</td> <td>財政</td> <td>・財政民主主義、租税法律主義、国費支出議決主義、公金支出の禁止について</td> </tr> </table>								第1回	憲法概論	・国民主権、基本的人権の尊重、平和主義、権力分立主義の理念について	第2回	基本権総論	・私人間の人権保障、基本権の享有主体性、二重の基準の理論について	第3回	幸福追求権	・幸福追求権、人間の尊厳、プライバシーの権利、法の下での平等について	第4回	精神的自由権(1)	・思想・良心の自由、信教の自由、政教分離の原則について	第5回	精神的自由権(2)	・表現の自由、検閲の禁止、知る権利、通信の秘密、報道の自由について	第6回	精神的自由権(3)	・集会・結社の自由、検閲の禁止、IRAの基準、学問の自由、大学の自治について	第7回	経済的自由権	・職業選択の自由、居住・移転の自由、国籍離脱の自由、財産権について	第8回	受益権	・裁判を受ける権利、請願権、国家賠償請求権、刑事補償請求権について	第9回	社会権(1)	・生存権、環境権、教育を受ける権利、教育の自由について	第10回	社会権(2)	・勤労権、労働基本権、争議権、参政権、選挙権について	第11回	国会(1)	・国権の最高機関の意味、唯一の立法機関の意味、衆議院の優越について	第12回	国会(2)	・国会議員の地位、議員の特権、国会の活動、国会と議院の権能について	第13回	内閣	・内閣の地位、内閣総理大臣の権限、国務大臣の権限、内閣の責任について	第14回	裁判所	・最高裁判所の権限、統治行為論、違憲審査制について	第15回	財政	・財政民主主義、租税法律主義、国費支出議決主義、公金支出の禁止について
第1回	憲法概論	・国民主権、基本的人権の尊重、平和主義、権力分立主義の理念について																																																			
第2回	基本権総論	・私人間の人権保障、基本権の享有主体性、二重の基準の理論について																																																			
第3回	幸福追求権	・幸福追求権、人間の尊厳、プライバシーの権利、法の下での平等について																																																			
第4回	精神的自由権(1)	・思想・良心の自由、信教の自由、政教分離の原則について																																																			
第5回	精神的自由権(2)	・表現の自由、検閲の禁止、知る権利、通信の秘密、報道の自由について																																																			
第6回	精神的自由権(3)	・集会・結社の自由、検閲の禁止、IRAの基準、学問の自由、大学の自治について																																																			
第7回	経済的自由権	・職業選択の自由、居住・移転の自由、国籍離脱の自由、財産権について																																																			
第8回	受益権	・裁判を受ける権利、請願権、国家賠償請求権、刑事補償請求権について																																																			
第9回	社会権(1)	・生存権、環境権、教育を受ける権利、教育の自由について																																																			
第10回	社会権(2)	・勤労権、労働基本権、争議権、参政権、選挙権について																																																			
第11回	国会(1)	・国権の最高機関の意味、唯一の立法機関の意味、衆議院の優越について																																																			
第12回	国会(2)	・国会議員の地位、議員の特権、国会の活動、国会と議院の権能について																																																			
第13回	内閣	・内閣の地位、内閣総理大臣の権限、国務大臣の権限、内閣の責任について																																																			
第14回	裁判所	・最高裁判所の権限、統治行為論、違憲審査制について																																																			
第15回	財政	・財政民主主義、租税法律主義、国費支出議決主義、公金支出の禁止について																																																			
授業外学習(予習・復習)	復習を重視する。																																																				
成績評価の方法	筆記試験(90%) + 授業での発言内容(10%)を基準にして評価する。																																																				

(注) 教職必修。

(注) 受講者が72人を超えた場合は人数を制限する場合があります。

授業科目	法学概論		担当者	疋田 京子																																		
	〔履修年次〕	1,2年	授業外対応	メールでアポイント																																		
	〔学期〕	後期	〔単位〕	2単位	〔必修/選択〕	選択(注)	〔授業形態〕	講義																														
テーマ及び概要	<p>【テーマ】生まれてから死ぬまでの間に遭遇する可能性のある法律問題を概観する</p> <p>【概要】「法律家は悪しき隣人」という法諺があるように、中立性や客観性、合理性を追求する法の世界は、日常の感覚からすると何かよそよそしい冷たい感じがするかもしれません。しかし、法律は、私たちの日常生活の中で起こった様々な紛争や人権が侵害されたマイノリティの人たちの声を反映させたルールという優しい側面も持っています。</p> <p>【到達目標】様々な角度から法の事象に触れることによって、日常生活の中にある出来事どう対処すればよいか、その基本的な判断力を磨くことを目指します。</p>																																					
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布する。</p> <p>(2) 森本直子・織原保尚『法学ダイアリー』ナカニシヤ出版</p>																																					
授業スケジュール	<table border="0"> <tr> <td>第1回</td> <td>オリエンテーション：法の世界のプロローグ</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>人生初期の法(1) 家族・社会の一員になる</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>人生初期の法(2) 法的な意味での「人」はいつ始まるか</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>人生初期の法(3) 法的な意味での親子と親権</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>人生初期の法(4) いつまでが「子ども」?</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>人生初期の法(5) 子どもの虐待への取り組み</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>人生中期の法(1) 18歳・19歳の法的位置づけ</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>人生中期の法(2) 市民生活と法：わたしたちと裁判</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>人生中期の法(3) 企業を取り巻く法</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>人生中期の法(4) 契約と消費者問題</td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>人生中期の法(5) 民法と消費者契約法/特定商取引法</td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>人生中期の法(6) 職業生活と法</td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>人生中期の法(7) パートナーシップと法</td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>人生終期の法(1) 高齢化と法</td> </tr> <tr> <td>第15回</td> <td>人生終期の法(2) 終末期医療と法</td> </tr> </table>								第1回	オリエンテーション：法の世界のプロローグ	第2回	人生初期の法(1) 家族・社会の一員になる	第3回	人生初期の法(2) 法的な意味での「人」はいつ始まるか	第4回	人生初期の法(3) 法的な意味での親子と親権	第5回	人生初期の法(4) いつまでが「子ども」?	第6回	人生初期の法(5) 子どもの虐待への取り組み	第7回	人生中期の法(1) 18歳・19歳の法的位置づけ	第8回	人生中期の法(2) 市民生活と法：わたしたちと裁判	第9回	人生中期の法(3) 企業を取り巻く法	第10回	人生中期の法(4) 契約と消費者問題	第11回	人生中期の法(5) 民法と消費者契約法/特定商取引法	第12回	人生中期の法(6) 職業生活と法	第13回	人生中期の法(7) パートナーシップと法	第14回	人生終期の法(1) 高齢化と法	第15回	人生終期の法(2) 終末期医療と法
第1回	オリエンテーション：法の世界のプロローグ																																					
第2回	人生初期の法(1) 家族・社会の一員になる																																					
第3回	人生初期の法(2) 法的な意味での「人」はいつ始まるか																																					
第4回	人生初期の法(3) 法的な意味での親子と親権																																					
第5回	人生初期の法(4) いつまでが「子ども」?																																					
第6回	人生初期の法(5) 子どもの虐待への取り組み																																					
第7回	人生中期の法(1) 18歳・19歳の法的位置づけ																																					
第8回	人生中期の法(2) 市民生活と法：わたしたちと裁判																																					
第9回	人生中期の法(3) 企業を取り巻く法																																					
第10回	人生中期の法(4) 契約と消費者問題																																					
第11回	人生中期の法(5) 民法と消費者契約法/特定商取引法																																					
第12回	人生中期の法(6) 職業生活と法																																					
第13回	人生中期の法(7) パートナーシップと法																																					
第14回	人生終期の法(1) 高齢化と法																																					
第15回	人生終期の法(2) 終末期医療と法																																					
授業外学習(予習・復習)	適宜指示																																					
成績評価の方法	最終レポート(80%) + 授業ごとのミニレポート(20%)																																					

(注) 受講者が100人を超えた場合は人数を制限する場合があります。

授業科目	社会学	担当者	西原 誠司
	[履修年次] 1年, 2年 [学期] 前期 [単位] 2 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 講義	授業外対応	メール・Line で連絡。
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 Love & Peace の社会学——ベルリンの壁崩壊後の社会現象を科学する。</p> <p>【概要】 ベルリンの壁・ソ連邦の崩壊によって、米ソ冷戦体制は終結し、多くの人々が平和な世界の到来を予想した。だが、現実には、湾岸戦争、ユーゴスラビア紛争、9.11 同時多発テロを契機としたアフガン・イラク侵略戦争、ウクライナ紛争、シリア内戦、イスラム国の台頭、アフリカにおける部族紛争、米国における黒人青年射殺等々、むしろ平和な世界から遠ざかっているように思える。この講義ではこのような国際的な社会現象がおこる諸原因を科学的に分析・解明しその解決の方向性を探る。</p> <p>【到達目標】 世界の様々な人間と社会にかかわる諸現象をみずみずしい感性でとらえ、科学的に分析する能力を身につける。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 朝日吉太郎編著『欧州グローバル化の新ステージ』(文理閣、2015年)</p> <p>(2) 池田香代子&マガジンハウス『世界がもし100人の村だったら 2』(マガジンハウス、2002年6月)</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 はじめに——日・中・韓の緊張とヘイトスピーチを考える</p> <p>第2回 ベルリンの壁崩壊と米・ソ冷戦体制の終結の世界史的意味を考える</p> <p>第3回 民族紛争・国家間紛争を暴力で解決しない新しいシステムの誕生——EUの新しい実験 ①</p> <p>第4回 民族紛争・国家間紛争を暴力で解決しない新しいシステムの誕生——EUの新しい実験 ②</p> <p>第5回 民族紛争・国家間紛争を暴力で解決しない新しいシステムの誕生——EUの新しい実験 ③</p> <p>第6回 民族紛争・国家間紛争を暴力で解決しない新しいシステムの誕生——EUの新しい実験 ④</p> <p>第7回 民族紛争・国家間紛争を暴力で解決しない新しいシステムの誕生——EUの新しい実験 ⑤</p> <p>第8回 なぜ、アメリカは戦争をやめられないのか——9.11後のアメリカ社会を考える ①</p> <p>第9回 なぜ、アメリカは戦争をやめられないのか——9.11後のアメリカ社会を考える ②</p> <p>第10回 なぜ、アメリカは戦争をやめられないのか——9.11後のアメリカ社会を考える ③</p> <p>第11回 EU加盟をめざすモダンイスラム・トルコの挑戦と苦悩 ①</p> <p>第12回 EU加盟をめざすモダンイスラム・トルコの挑戦と苦悩 ②</p> <p>第13回 「イスラム国」/ウクライナ/アフリカの部族紛争</p> <p>第14回 非暴力主義の系譜と世界平和——ガンジー/キング牧師/チャップリン/ネルソンマンデラ/ジョンレノン</p> <p>第15回 おわりに——東アジア共同体・北東アジア共同体の可能性をさぐる。</p>		
授業外学習(予習・復習)	テキストの該当箇所を事前に読み、講義のあと、復習をし、それを通じて自分の見解を形成することに心がけてください。		
成績評価の方法	授業態度(積極的に授業に参加しているか、感想文の提出50%)および筆記試験(50%)。		

(注) 受講生が62人を超えた場合は人数を制限する場合があります。

授業科目	生活と経済	担当者	山口 祐司
	[履修年次] 1, 2年 [学期] 後期 [単位] 2 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 講義	授業外対応	メール等で予約の上適宜対応します。
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>現代の私たちはもはや自給自足だけでは生きていけず、コンビニやスーパー、レストラン、あるいは身の周りのものを作るメーカーといったさまざまな企業やそこで働く人たちに頼って生きています。また私たち自身誰かのために働きます。この意味で経済は人間社会の基礎です。この授業では生活にかかわる身近な経済問題を手がかりに経済の味方の基礎を学んでいきます。</p> <p>【概要】</p> <p>人間社会の歴史的発展の中で経済システムがどのように形作られたのか(第2~3回)。消費者としての視点から、モノやサービスの生産と流通の仕組みや生産と消費の関係を学ぶ(第4~6回)。労働者としての視点から、賃金や働き方をめぐる現状と問題を学ぶ(第7~10回)。市民としての視点から、税や社会保障制度をめぐる現状と問題を学ぶ(第11~14回)。</p> <p>【到達目標】</p> <p>身近なことから経済のニュースへの関心をもつこと。企業の役割や課題を知ること。労働や社会保障にかんして、社会的役割、個人の権利、日本の実態について知識を身につけること。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 講義時に提示</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 人間社会と経済の発展</p> <p>第3回 戦後日本の経済発展と現在</p> <p>第4回 生産と消費(1)ものづくり</p> <p>第5回 生産と消費(2)サービス</p> <p>第6回 生産と消費(3)社会的存在としての企業</p> <p>第7回 労働と賃金(1)働くということ</p> <p>第8回 労働と賃金(2)働きすぎの日本社会</p> <p>第9回 労働と賃金(3)失業、不安定就労、貧困問題</p> <p>第10回 労働と賃金(4)人間らしい労働への取り組み</p> <p>第11回 税と社会保障(1)日本における税負担の構造</p> <p>第12回 税と社会保障(2)税制度の公平性</p> <p>第13回 税と社会保障(3)社会保障制度の役割</p> <p>第14回 税と社会保障(4)日本における社会保障の貧困</p> <p>第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	事前に提示する参考文献を予習し、授業後にはプリントをよく見直すようにしてください。新聞の経済記事に日常から目を通すようにしておいてください。		
成績評価の方法	期末レポート(60%)、授業ごとの小論文(40%)		

(注) 商経学科を除く

(注) 受講生が62人を超えた場合は人数を制限する場合があります。

授業科目	キャリアデザイン	担当者	担当教員
		[履修年次] 1年 [単位] 1	[学期] 通年 [必修/選択] 選択
テーマ及び概要	<p>【テーマ】1年生が就職活動が始める前に、卒業後のキャリア形成について具体的なイメージを描けるようにする。</p> <p>【概要】就業後の職業や人生設計について適切な考察を行う能力の獲得のため、個々の体験に基づく就活イメージの提供や就活のノウハウの伝授にとどまらず、キャリアパス再設計の機会に対応可能なように、職業についての基本的な考え方、企業社会の理解、企業選択に対して知っておくべきことや、退職や転職、再就職などに際して考えるべきこと等を体系的に学習することを通じて、将来、自らのキャリアパスを再デザインし、マネージするための支援となるような内容についても学習する。</p> <p>【到達目標】8回の授業を通じて自らの進路のイメージを形成する。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント (2) 適宜紹介</p>		
授業スケジュール	<p>◆5月18日(水)(特設時間を利用) 第1回 総論 キャリア、キャリアデザインとは</p> <p>◆6月15日(水)(特設時間を利用) 第2回 自己分析 志望動機</p> <p>◆7月13日(水)(特設時間を利用) 第3回 企業研究の必要性和そのやり方</p> <p>◆9月21日(木)3限 第4回 企業が求める人材</p> <p>◆9月21日(木)4限 第5回 先輩の就活体験・職業体験から学ぶ</p> <p>◆10月19日(水)(特設時間を利用) 第6回 働いて「困った」への対応方法</p> <p>◆11月9日(水)(特設時間を利用) 第7回 これから働くあなたへのメッセージ</p> <p>◆12月21日(水)(特設時間を利用) 第8回 プロフェッショナルになろう(パネルディスカッション)</p> <p>※4年度の講師については適宜掲示する。</p>		
成績評価の方法	ワークシート及び授業から学んだことの感想を提出(100%)		

授業科目	数学の世界	担当者	愛甲 正
		[履修年次] 1年, 2年 [学期] 前期 [単位] 2	授業外対応
テーマ及び概要	<p>【テーマ】基礎的な数学を理解し、さらに数学を楽しむ</p> <p>【概要】中学校や高等学校で学習した数学に関する知識を活用して、数学がどのように活用されているかを知り、数学を楽しむことを目的とする。</p> <p>【到達目標】基礎的な数学を理解し、数学の応用を通して数学の重要性を理解する。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを適宜紹介する。 (2) 講義中に適宜紹介する。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 実数・有理数・無理数</p> <p>第3回 白銀比とコピー用紙・黄金比</p> <p>第4回 確率(くじ引きの順番)</p> <p>第5回 指数と対数(利息計算への応用)</p> <p>第6回 指数と対数の計算(電卓の利用)</p> <p>第7回 データの最頻値・中央値・平均値・箱ひげ図</p> <p>第8回 データの分散・標準偏差・偏差値</p> <p>第9回 ピタゴラスの定理・ヒポクラテスの定理</p> <p>第10回 急勾配を表す標識・三角比と三角測量</p> <p>第11回 数列(等差数列・等比数列)</p> <p>第12回 数列の和の極限(曲線の囲む図形の面積の例)</p> <p>第13回 弧長法と円の面積</p> <p>第14回 非ユークリッド幾何の紹介</p> <p>第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	講義中に適宜指示する。		
成績評価の方法	レポート(100%)による		
実務経験について	鹿児島県立高等学校にて教諭として勤務(昭和56年4月～昭和62年3月)		

(注) 受講生が45人を超えた場合は人数を制限する場合があります。

授業科目	物理の世界	担当者	藤井 伸平
	[履修年次] 1年, 2年 [学期] 前期 [単位] 2	授業外対応	講義終了時
		[必修/選択]	選択 (注) [授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】身近なものや身のまわりでおこる現象に題材を求め、それらを物理という視点から眺めてみようというのがこの講義のテーマです。</p> <p>【概要】ほとんどの方は子供の頃シャボン玉で遊んだことと思います。そのシャボン玉ですが、きれいな色がついていたことを覚えていますか？ 覚えていない方はぜひシャボン玉をつくって眺めてみてください。きれいですよ。どうしてきれいな色がつくのでしょうか？ このように、いくつかの題材について考えていくつもりです。また、簡単な実験も予定しています。</p> <p>【到達目標】物理学を身近に感じる。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) なし (適宜プリントを配布)</p> <p>(2) 適宜授業中に紹介</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 講義の概要、基本的な量について</p> <p>第 2 回 身近な現象・・・大気圧を感じる</p> <p>第 3 回 身近な現象・・・地球の大きさ・丸さを感じる</p> <p>第 4 回 身近な現象・・・まさつを感じる</p> <p>第 5 回 身近な現象・・・水の特異な性質について</p> <p>第 6 回 身近な現象・・・ろうそくの炎について</p> <p>第 7 回 力学・・・釣り合いとてこの原理を感じる</p> <p>第 8 回 力学・・・無重量状態を感じる</p> <p>第 9 回 力学・・・慣性を感じる</p> <p>第 10 回 熱学・・・断熱膨張を感じる</p> <p>第 11 回 熱学・・・気化熱を感じる</p> <p>第 12 回 電磁気学・・・分極を感じる</p> <p>第 13 回 電磁気学・・・磁場を感じる</p> <p>第 14 回 振動・波動・・・光の屈折を感じる</p> <p>第 15 回 まとめ</p> <p>(理解の度合いなどにより、講義の内容や順番が変更になることがあります。)</p>		
授業外学習(予習・復習)	授業で学んだ内容を振り返り、必要であれば関連した情報を収集しまとめる。		
成績評価の方法	(A)授業ごとの小レポート (50%)、(B)課題レポート (50%)。(詳細については第 1 回目の講義で説明します。)		

(注) 受講生が 62 人を超えた場合は人数を制限します。

授業科目	生物の科学	担当者	塔筋 弘章
	[履修年次] 1年, 2年 [学期] 前期 [単位] 2	授業外対応	講義終了時
		[必修/選択]	選択 (注) [授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】細胞・遺伝・進化</p> <p>【概要】生物は細胞からできていて、その特徴として代謝・自己複製 (増殖)・成長などがあげられます。それは、外部から物質を取り込み、他の物質に変換しながらエネルギーを作ったり、体そのものを作ったり、子孫を作ることです。そして、長い歴史の中ではこの遺伝子が少しずつ変化し、進化を引き起こします。</p> <p>本講義では、生物、生命の基礎を理解するために、細胞・遺伝・進化について学びます。</p> <p>【到達目標】生物の成り立ちや生命についての基礎を理解する。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 適宜指示</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 生物の基本構造：化学成分と細胞</p> <p>第 2 回 代謝：エネルギー産生のしくみ</p> <p>第 3 回 DNA からタンパク質へ：転写と翻訳、遺伝子の調節</p> <p>第 4 回 バイオテクノロジー：遺伝子組換えと制限酵素</p> <p>第 5 回 細胞分裂 (1)：細胞分裂と細胞周期</p> <p>第 6 回 細胞分裂 (2)：減数分裂と受精、発生</p> <p>第 7 回 免疫：生体防御システム</p> <p>第 8 回 遺伝の基礎：メンデルの法則</p> <p>第 9 回 染色体と遺伝子：遺伝と確率、連鎖、遺伝地図</p> <p>第 10 回 突然変異：変異原、遺伝子の修復、発がん</p> <p>第 11 回 進化論：ラマルクとダーウィン</p> <p>第 12 回 生物の進化 (1)：遺伝子の変化、単細胞から多細胞へ</p> <p>第 13 回 生物の進化 (2)：動物の進化</p> <p>第 14 回 生物の進化 (3)：恐竜から鳥へ</p> <p>第 15 回 生物の進化 (4)：猿人からヒトへ</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	筆記試験 (100%)		
実務経験について	鹿児島県総合教育センター短期研修講座講師、鹿児島大学教員免許状更新講習講師		

(注) 生活科学科食物栄養専攻を除く

(注) 受講生が 45 人を超えた場合は人数を制限する場合があります。

授業科目	化学の世界		担当者	木下 朋美・古川 那由太			
	[履修年次]	1年,2年いずれでも履修可	授業外対応	講義終了時			
	[学期]	後期	[単位]	2	[必修/選択]	選択 (注)	[授業形態]
テーマ及び概要	<p>【テーマ】身近なものや現象を通して、私たちの生活の中で、化学がどのようにかかわっているかを学ぶ。</p> <p>【概要】物質の科学である化学は、自然や生物の資源を利用して有用な物質を作ること等により、私たちの暮らしを豊かにしている。一方で、化学は環境や資源の問題等とも密接に関わっており、化学を学ぶことは身の回りの物質についての知識を得、理解を深めるだけでなく、私たち自身の生活や身のまわりの自然について考える良い機会となる。こうした生活と物質の関わり の視点から、身の回りの物質や現象、茶の化学について、講義を行う。 木下：1～9回、古川：10～15回</p> <p>【到達目標】化学的視点から、課題を探索し、解決していくための基本的な能力を培う。</p>						
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 日本茶インストラクター協会『日本茶のすべてがわかる本』農文協</p>						
授業スケジュール	<p>第 1回 様々な茶を生み出した歴史 鹿児島と茶</p> <p>第 2回 緑茶の違いを作り出す 製造方法と栽培方法—茶成分(アミノ酸, ポリフェノール, カフェイン等) への影響 (1)</p> <p>第 3回 緑茶の違いを作り出す 製造方法と栽培方法—茶成分(アミノ酸, ポリフェノール, カフェイン等) への影響 (2)</p> <p>第 4回 緑茶に付加価値をつける 流通と仕上げ加工(ブレンド・火入れ)・アミノカルボニル反応</p> <p>第 5回 味をも作り出す 香りの特性と役割・香気成分と受容体</p> <p>第 6回 緑茶の味は淹れ方次第 溶出成分の特徴(急須とペットボトル)・茶成分の品質への影響</p> <p>第 7回 緑茶の味は淹れ方次第 溶出成分の特徴(実習)</p> <p>第 8回 紅茶・烏龍茶の製造方法と品質・ポリフェノール, 香気成分等</p> <p>第 9回 茶の品質を見極める 官能検査と化学成分(実習)</p> <p>第10回 気体の化学(元素と原子, 大気成分, 気体の密度)</p> <p>第11回 生活の化学(酸と塩基, 洗剤と漂白剤, プラスチック, 容器の素材)</p> <p>第12回 爆発の化学(化学反応, 火薬による爆発, 火薬以外の爆発)</p> <p>第13回 エネルギーの化学(化石燃料と火力発電, 原子力発電と核融合炉, 次世代エネルギー)</p> <p>第14回 生物の化学(生体物質の分類, 糖質, たんぱく質とアミノ酸, 脂質, ビタミン, ミネラル)</p> <p>第15回 話題の化学(ノーベル賞, ノーベル化学賞を受賞した日本人)</p>						
授業外学習(予習・復習)	復習を重視する。						
成績評価の方法	木下担当分(60%)：レポート 古川担当分(40%)：授業ごとのレポート						

(注) 生活科学科生活学科専攻を除く

(注) 受講生が62人を超えた場合は人数を制限する場合があります。

授業科目	食生活と健康		担当者	中熊美和・広瀬直人・木下朋美・古川那由太			
	[履修年次]	1,2年	授業外対応	担当ごとに適宜対応			
	[学期]	前期	[単位]	2単位	[必修/選択]	選択(注)	[授業形態]
テーマ及び概要	<p>【テーマ】健康な食生活を送るためにはどうしたらよいか。</p> <p>【概要】バランスの取れた食事, 運動, 休養, 睡眠によって健康な日常生活を送ることは私たちの願いである。今日, 健康や栄養についての情報はあふれており, 私たちの関心を喚起し, 生活に大きな影響を与えている。しかし, それらの中には十分な検証がされないまま提供される有害な情報も少なくない。本科目では, 健康で安全・安心な生活を送るためにはどうしたらよいかについて, 各種の活動を取り入れて, 実践的に学ぶ。</p> <p>【到達目標】健康な食生活を送るための知識とスキルを獲得する。</p>						
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 適宜紹介</p>						
授業スケジュール	<p>第 1回 健康な食生活：健康とは何か？(中熊)</p> <p>第 2回 健康な食生活：食品の特性(木下)</p> <p>第 3回 健康な食生活：食の安全(木下)</p> <p>第 4回 口腔と健康：口内環境正常化(古川)</p> <p>第 5回 口腔と健康：味覚を変える食品(古川)</p> <p>第 6回 食物と生活：食品加工と保藏(広瀬)</p> <p>第 7回 食物と生活：食品の機能性(広瀬)</p> <p>第 8回 食物と生活：保健機能食品(広瀬)</p> <p>第 9回 健康な食生活：食品に含まれる栄養素とその特性(中熊)</p> <p>第10回 健康な食生活：食事バランス・食品選択の方法(中熊)</p> <p>第11回 健康な食生活：ダイエット(中熊)</p> <p>第12回 健康な生活習慣：運動・睡眠・休養(中熊)</p> <p>第13回 健康な生活習慣：生活習慣病(中熊)</p> <p>第14回 健康な食生活：食のおいしさ・食文化(中熊)</p> <p>第15回 まとめ：健康な食生活とは(中熊)</p>						
授業外学習(予習・復習)	プリントや参考文献にて学習する。						
成績評価の方法	授業ごとのレポート及び小テスト(70%), 授業態度(30%)を基準に総合的に評価する。 担当者ごとの成績を集計して, 加重平均にて算出, 評価する。						

(注) 受講生が130人を超えた場合は人数を制限する場合があります。

授業科目	現代人権論		担当者	小栗実・疋田京子・田口康明				
	[履修年次]	1, 2年	授業外対応	講義前後に適宜対応				
	[学期]	前期	[単位]	2単位	[必修/選択]	選択(注)	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】憲法はなぜ人権を保障しているのか</p> <p>【概要】世界人権宣言に「すべて人間は、生まれながらにして自由であり、かつ、尊厳と権利とにおいて平等である」と規定されているように、人権は世界的規模で保障されるべき普遍的な権利です。しかし、それは具体的にどんな権利なのでしょう。人として生きていくために絶対に必要な権利である人権を具体的にイメージしてみましょう。</p> <p>【到達目標】グローバル化する社会のなかで、私たちはどのような人権問題に直面し、それをどう乗り越えようとしているのか、その原因と背景を踏まえ、人権の普遍性と不可譲性を理解する。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布する。</p> <p>(2) 後日担当者が指定する</p>							
授業スケジュール	<p>第1回 人権の歴史：近代憲法から現代憲法へ人権はいかに保障されるようになってきたか（小栗）</p> <p>第2回 人権の内容：いろいろな人権問題（1）市民の自由（小栗）</p> <p>第3回 人権の内容：いろいろな人権問題（2）生存の人権（小栗）</p> <p>第4回 人権の主体：外国人・子ども・女性の人権（小栗）</p> <p>第5回 ディベート：「夫婦同氏（姓）原則をどう考えたらいいのだろうか（小栗）</p> <p>第6回 人権の主体：女性の参政権は保障されているか（疋田）</p> <p>第7回 平等と差異：雇用における差別と労働者保護（疋田）</p> <p>第8回 ジェンダーと法：労働法の保護から排除される労働者（疋田）</p> <p>第9回 性と生殖の権利：優生保護法からリプロダクティブ・ヘルス/ライツまで（疋田）</p> <p>第10回 家族法とその課題：日本の家族の現実と社会システム（疋田）</p> <p>第11回 「子ども」とは何か：子どもの定義（日本と諸外国）（第11回～第15回：田口）</p> <p>第12回 近代日本における子どもの権利：明治憲法体制下から今日まで</p> <p>第13回 国連・子どもの権利条約：国連子どもの権利条約の成立と内容</p> <p>第14回 子どもの教育・福祉の人権：人権という観点からの日本における子どもの教育・福祉の状況の検討</p> <p>第15回 人権教育の課題：さまざまな差別と子どもの権利擁護に向けた教育的な課題</p>							
授業外学習(予習・復習)	適宜指示							
成績評価の方法	レポート3回提出：3人の担当者からそれぞれ課題を出し、その評価点の平均で評価する。提出期限は各担当者が指示する。							

(注) 受講生が72人を超えた場合は人数を制限する場合があります。

授業科目	鹿児島学		担当者	島津義秀、三嶽公子、岡田登				
	[履修年次]	1, 2年	授業外対応					
	[学期]	後期	[単位]	2	[必修/選択]	選択(注)	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】鹿児島島の過去と現在を多角的に解析し、未来を展望する。</p> <p>【概要】歴史、文学、まちづくり、農業と食の視点から鹿児島島の特性を理解し、鹿児島島の未来を考える。</p> <p>【到達目標】鹿児島島の理解を深め、地域の一員として鹿児島島のあるべき姿を考察する。</p> <p>※鹿児島市役所からゲストスピーカーを呼ぶこともあります。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 「薩摩のキセキ」総合法令出版社、「薩摩の秘剣」新潮新書 「みたけさきこと読むかごしまの文学」、「屋久島文学散歩」</p>							
授業スケジュール	<p>第1回 はじめに：鹿児島学の講義内容の説明（島津、三嶽、岡田）</p> <p>第2回 歴史（1）：鹿児島島の歴史について（島津）</p> <p>第3回 歴史（2）：鹿児島島の思想について（島津）</p> <p>第4回 歴史（3）：鹿児島島の土風文化について（島津義弘の生き様など）（島津）</p> <p>第5回 歴史（4）：鹿児島島の土風文化について（薩摩琵琶・天吹について）（島津）</p> <p>第6回 文学（1）：霧島～霧島神宮・古事記 「女と刀」 与謝野寛・晶子「霧島の歌」～（三嶽）</p> <p>第7回 文学（2）：奄美群島の文学～加計呂麻島・島尾敏雄 硫黄島「俊寛」（三嶽）</p> <p>第8回 文学（3）：桜島～文学碑巡り 梅崎春生「桜島」 新田次郎「桜島」（三嶽）</p> <p>第9回 文学（4）：梨木香歩「海うそ」の世界 廃仏毀釈について（三嶽）</p> <p>第10回 まちづくり（1）：都市・文化（岡田）</p> <p>第11回 まちづくり（2）：観光・自然（岡田）</p> <p>第12回 まちづくり（3）：産業・防災（岡田）</p> <p>第13回 まちづくり（4）：環境・福祉（岡田）</p> <p>第14回 農業と食（1）：農業法人化による企業的農業（岡田）</p> <p>第15回 農業と食（2）：農村空間の商品化と都市の農村化（岡田）</p>							
授業外学習(予習・復習)	適宜指示							
成績評価の方法	担当者で分担して評価をする（島津30点、三嶽30点、岡田40点）							
実務経験について	島津義秀（精矛神社の宮司、加治木島津家の第13代当主）、三嶽公子（月の舟自由大学の学長、きりしま月の舟主宰）、岡田登（自治体の元職員）							

(注) 受講生が72人を超えた場合は人数を制限する場合があります。

授業科目	かごしまと世界		担当者	未定, 非常勤講師 (未定)				
	[履修年次]	1, 2 年	授業外対応	適宜対応				
	[学期]	後期	[単位]	2	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【目的】 本県の発展に寄与する人材を育てるため、国際感覚を高め、幅広い視点を養成するとともに、鹿児島に関する知識「郷土知」を深め、産業・貿易・観光振興を通じた本県の発展に資することを目的とする。</p> <p>【テーマと到達目標】</p> <p>① グローバルな視点から鹿児島を評価し、海外との交流促進の可能性を学ぶ</p> <p>② 郷土鹿児島の特徴や強みを再認識し、地域発展に貢献する国際人材を育成する</p> <p>③ 産業・貿易・観光各分野における本県のポテンシャルを最大限に生かした地域振興を担う国際人材を育成する</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 必要に応じて授業中に印刷資料を配布します。</p> <p>(2)</p>							
授業スケジュール	<p>第 1 回 未定</p> <p>第 2 回 未定</p> <p>第 3 回 未定</p> <p>第 4 回 未定</p> <p>第 5 回 未定</p> <p>第 6 回 未定</p> <p>第 7 回 未定</p> <p>第 8 回 未定</p> <p>第 9 回 未定</p> <p>第 10 回 未定</p> <p>第 11 回 未定</p> <p>第 12 回 未定</p> <p>第 13 回 未定</p> <p>第 14 回 未定</p> <p>第 15 回 未定</p>							
授業外学習(予習・復習)	適宜指示							
成績評価の方法	未定							

授業科目	社会活動		担当者	担当教員全員		
	[履修年次]	年次指定なし	[学期]	通年		
	[単位]	2~4	[必修/選択]	選択 (注)	[授業形態]	実習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】「社会活動」は、非営利組織を中心とした研修先において、実際の現場での体験を得ることにより、将来のキャリアの形成に役立てることを狙いとしている。</p> <p>【概要】公共機関等が開催するイベントへのボランティア参加や外国の大学生との交流活動などを通じて、社会での実践力・企画力を養うとともに「社会を見る目」を養う。 具体的な研修先、及び研修内容等は多様であり、毎年4月末から6月頃に掲示され、募集が行われる。</p> <p>【到達目標】自分の職業適性や将来計画を考える機会を持つことができる、研修先の現場体験で専門分野における高度な知識・技術にふれることができる、自立的に考え行動できるようになる、など。</p>					
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 未定 (事前指導のなかで指示する)</p> <p>(2) 未定 (事前指導のなかで指示する)</p>					
授業スケジュール	<p>第 1 回 事前指導：主に前期を中心に研修先の決定、各研修先での研修内容の確認および研修先での諸注意や保険の説明などを行う。</p> <p>研 修：主に夏期休暇期間に、実際に研修先での研修を行う。</p> <p>事後指導：研修終了後は、研修日誌の作成・提出、研修レポートの作成、研修報告会の発表の準備などを行う。</p>					
成績評価の方法	研修レポートおよび事前事後指導の出席状況・履修態度を中心に評価する。(100%)					

(注) 商経学科を除く

授業科目	企業研修	担当者	担当教員全員
		[履修年次] 1年 [単位] 2	[学期] 通年 [必修/選択] 選択 (注)
テーマ及び概要	<p>【テーマ】この科目は、一般的には「インターンシップ」と呼ばれている。「企業研修」は、民間企業を中心に県庁、病院などの研修先において、現場で就業体験を行い、将来のキャリアの形成に役立てることを狙いとしている。</p> <p>【概要】県内外企業や県庁・市役所の現場で働く経験を通じて、社会人としての課題、企業運営、職務遂行に必要な知識・技術を理解し、働くことの自覚や自信を身につける。 具体的な研修先、及び研修内容等は多様であり、毎年4月末から6月頃に掲示され、募集が行われる。</p> <p>【到達目標】自分の職業適性や将来計画を考える機会を持つことができる、研修先の現場体験で専門分野における高度な知識・技術にふれることができる、自立的に考え行動できるようになる、など。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 未定 (事前指導のなかで指示する) (2)		
授業スケジュール	<p>事前指導：主に前期を中心にインターンシップの意義、研修先の決定、各研修先での研修内容の確認および研修先での諸注意や保険の説明などを行う。</p> <p>研 修：主に夏期休暇期間に、実際に研修先での研修を行う。</p> <p>事後指導：研修終了後は、研修日誌の作成・提出、研修レポートの作成、研修報告会の発表の準備などを行う。</p>		
成績評価の方法	研修レポートおよび事前事後指導の出席状況・履修態度を中心に評価する。(100%)		

(注) 商経学科を除く

授業科目	かごしま教養プログラム	担当者	県内7大学等の担当教員
		[履修年次] 1年 [単位] 2	[学期] 通年 [必修/選択] 選択 (注)
テーマ及び概要	<p>【概要】この講義では、鹿児島県内のすべての大学等が伝統を活かして開発してきた、鹿児島を素材にした授業を持ち寄り、「グローバルな視点から見たかごしま再発見」というテーマに基づき、リベラルアーツ教育を行います。また、地域の特色ある分野について対象としていることから、特に、地域社会での活躍を目指す学生にとっては、充実した内容となっている。3日間の夏季集中授業で、講義とグループ学習を行います。ディベートなどを取り入れ、学生間できよく話し合い、切磋琢磨しながら学習します。</p> <p>【学習目標】①講義で提示される鹿児島独自の文化、自然、社会、産業、防災、食と観光などのテーマについて、内容をよく理解し、自分の考えに従って問題点を正しく整理できる。 ②グループ学習により、テーマに関連する問題を独自の視点で討論を行い、グループとしての考えと方策などを具体的にまとめ上げ、それを適切に発表できる。 ③テーマに関してグループで検討し得られた結論等について、受講生全員がそれぞれレポートにまとめて提出する。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 未定 (2) 未定		
授業スケジュール	<p>第 1 回 令和3年度実施概要 (令和4年度については未定) 遠隔授業で実施</p> <p>日程：8月18日(水)～20日(金) 場所：鹿児島大学 定員：県内4大学等の学生 44人</p>		
授業外学習(予習・復習)			
成績評価の方法	<p>・発表とレポートを合わせて評価する。従って、どちらか一方がかけた場合は、評価対象外とする。</p> <p>・レポート提出期限までにレポートを提出しなかった者は、評価対象外とする。</p>		

(注)「日本文学概論」(日本語日本文学専攻)、「スタディスキルズ」(英語英文学専攻)、「生活科学概論」(生活科学科)、「基礎演習」(商経学科)の履修が条件となります。

授業科目	かごしまフィールドスクール	担当者	県内7大学等の担当教員	
	[履修年次] 1年 [単位] 2	[学期] [必修/選択]	通年 選択 (注)	[授業形態] 実習
テーマ及び概要	<p>【概要】地場産業、農業、商業、文化、観光、環境、暮らし、防災などにかかわる地域・施設などを学習の場とし、そこに内在する特徴や住民・関係者の暮らし、今後の方向性への住民・関係者の意識などを実践的に学習し、今後、地域の課題を解決していくための方策について考察し、若者のグローバルな視点でそれらの方策を実現する可能性について検討します。</p> <p>この活動により、鹿児島の特徴と問題点を理解し、国際社会の中での鹿児島の個性化・活性化を考える「グローバルな素養」を身につけ、あるいは自己開発の能力を身につけます。具体的には、実践的な学びの場において体験的な学習能力を向上し、考察・討論・発表を通じた理解力と問題解決能力の修得を促進するとともに、発表後の意見交換を加味して本授業全体を通じた総合的な成果を文書化することにより、日本語コミュニケーション能力の向上を図ります。</p> <p>【学習目標】①指定地域内の調査地区の現地視察や関係者との交流を通して、同地区の住民生活、商業活動、文化活動、防災等の特徴を把握し、選択したテーマに関する独自の問題を調査する。</p> <p>②同地区等の課題解決のために、今後どのような展望が望ましいか、どのような可能性があるか等の視点でテーマを考え、グループ討論により改善策等を具体的に討論しその成果を発表する。</p> <p>③現地調査、討論、発表を通して得られた成果を総合的にとりまとめたレポートを作成する。 テーマ別に編成されたグループにおいて、これら三つの学習目標を達成する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 未定 (2) 未定			
授業スケジュール	第 1 回 令和3年度実施概要 (令和4年度については未定) 中止			
授業外学習(予習・復習)				
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・発表とレポートを合わせて評価する。従って、どちらか一方がかけた場合は、評価対象外とする。 ・レポート提出期限までにレポートを提出しなかった者は、評価対象外とする。 			

(注)「かごしま教養プログラム」の履修が条件となります。

2 教養科目（外国語科目）

授業科目	英語 I (A)	担当者	小林 朋子
	[履修年次] 1年	授業外対応	適宜対応 (要予約)
	[学期] 前期 [単位] 1単位	[必修/選択] 必修 (注)	[授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】リスニング力、発音力、文法力を総合的に鍛えることで、スピーキングの基礎力を養成する。</p> <p>【概要】英語のリスニング、文法、読解を総合的に学習することで、バランスのとれた英語力を養います。使用頻度の高い英語表現のリスニングや音読練習、基本的、発展的な文法事項の確認、「フレーズ・リーディング」(意味のまとまりごとに区切って英語の語順で読む読解法)を意識した速読理解の練習などを通して、総合的コミュニケーション能力の向上を目指します。</p> <p>【到達目標】日常生活の様々な場面において、相手の情報や考えを理解でき、プロソディー面は理解に支障がない発音で情報や考えを正確に表現できる。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 角山照彦、Simon Capper 著 『Let's Read Aloud & Learn English 音読で始める基礎英語』 成美堂 刊</p> <p>(2) 授業で随時紹介します。</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 オリエンテーション</p> <p>第 2 回 Please to meet you. <be 動詞></p> <p>第 3 回 Do you remember me? <一般動詞 (現在) ></p> <p>第 4 回 I spoke to Ms. Hayashi yesterday. <一般動詞 (過去) ></p> <p>第 5 回 When does the meeting start? <疑問詞></p> <p>第 6 回 Can you meet me at the airport? <助動詞 1 ></p> <p>第 7 回 Feel free to ask me anytime. <文の種類、命令文></p> <p>第 8 回 I'm thinking about quitting my job. <進行形></p> <p>第 9 回 I'll give her your message. <未来形></p> <p>第 10 回 I haven't received the latest figures. <現在完了形></p> <p>第 11 回 The cafeteria is closed today. <受動態></p> <p>第 12 回 We expect higher sales in China. <比較></p> <p>第 13 回 I'd like to check in. <助動詞 2 ></p> <p>第 14 回 How about going to the theater? <動名詞></p> <p>第 15 回 I like to travel a lot. <to 不定詞></p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。		
成績評価の方法	筆記試験 (70%)、提出物 (10%)、授業への取組み態度 (20%) で評価する。		

(注) 教職必修, 日本語日本文学専攻

授業科目	英語 I (A)	担当者	松元 貴子
	[履修年次] 1年	授業外対応	授業終了後。または、メールにて。
	[学期] 前期 [単位] 1	[必修/選択] 必修 (注)	[授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】英語を総合的に学び、主にライティングとスピーキングを通して、表現する力を鍛える。</p> <p>【概要】ライティング活動を通して、アイデアの出し方、パラグラフの構成力を習得する。スピーキング活動を通して、英語の音声を正しく理解し、実践する。また、語彙力・表現力を習得する。ペア活動・グループ活動を通して、相手に伝わる、そして、相手を動かす表現を習得する。</p> <p>【到達目標】構成力のあるライティングができる。自分の書いた文をもとに、正しい音でスピーキングができる。ペアワークでの会話を2, 3分続けることができる。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布する。</p> <p>(2) 適宜紹介する。</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 オリエンテーション</p> <p>第 2 回 How to start a conversation & how to introduce myself.</p> <p>第 3 回 How to organize a paragraph & Brainstorming.</p> <p>第 4 回 Explain about yourself & people 1</p> <p>第 5 回 Explain about yourself & people 2</p> <p>第 6 回 Explain about yourself & people 3</p> <p>第 7 回 Let's talk about yourself and people</p> <p>第 8 回 Describing about your experience 1</p> <p>第 9 回 Describing about your experience 2</p> <p>第 10 回 Describing about your experience 3</p> <p>第 11 回 Let's talk about your experience</p> <p>第 12 回 Presentation project preparation 1</p> <p>第 13 回 Presentation project preparation 2</p> <p>第 14 回 Presentation project preparation 3</p> <p>第 15 回 Preparation and review for final</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。		
成績評価の方法	授業への取り組み (25%) + 提出物 (25%) + グループ発表・プレゼンテーション発表 (50%)		

(注) 教職必修, 日本語日本文学専攻

授業科目	英語Ⅰ(B)		担当者	新福 豊実				
	〔履修年次〕	1年	授業外対応	授業開始前、あるいは終了時、他の時間帯は要予約				
	〔学期〕	前期	〔単位〕	1	〔必修/選択〕	必修(注)	〔授業形態〕	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 英語を「読む」「聞く」「話す」「書く」技能の基礎を確認し、リスニングおよびスピーキング能力の向上を図る。</p> <p>【概要】 日常の様々な場面を想定し、ペアワークやグループワークで基本的な会話の練習を行い、コミュニケーション能力の向上を目指す。あわせて、リスニング、発音、文法を総合的に学習しバランスの取れた英語力を養成する。</p> <p>【到達目標】 日常の様々な場面で、相手の発言を理解し、英語で的確に応答することができる。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Marc Helgesen et al. 『English Firsthand (5th Edition) Success』 Pearson Longman</p> <p>(2) 授業時に適宜指示する。</p>							
授業スケジュール	<p>第 1 回 Class overview: Learning goals and strategies (Unit zero)</p> <p>第 2 回 Introduce yourself to a partner/Talk about your hobbies and interests (Unit 1)</p> <p>第 3 回 Describe the clothes you are wearing/Talk about fashions you enjoy (Unit 2)</p> <p>第 4 回 Give advice about staying healthy/Ask about your partner's habits (Unit 3)</p> <p>第 5 回 Ask for and give directions to a place/Identify places in your community (Unit 4)</p> <p>第 6 回 Describe different objects/Listen to your partner describe an object (Unit 5)</p> <p>第 7 回 Talk about your goals/Ask about your partner's goals (Unit 6)</p> <p>第 8 回 Review I</p> <p>第 9 回 Talk about your past experiences/Ask your partner about past experiences (Unit 7)</p> <p>第 10 回 Describe animals and nature/Ask questions about animals and nature (Unit 8)</p> <p>第 11 回 Talk about things you can and can't do/Ask your partner about what he or she can and can't do (Unit 9)</p> <p>第 12 回 Ask about likes and dislikes/Invite someone to do something you like with you (Unit 10)</p> <p>第 13 回 Talk about rules and laws in other countries/Describe what people in your life should or shouldn't do (Unit 11)</p> <p>第 14 回 Make up a story and tell it to your partner/Tell a story you know to your partner (Unit 12)</p> <p>第 15 回 Review II</p>							
授業外学習(予習・復習)	毎時、具体的に指示する。							
成績評価の方法	期末試験 (40%) 小テスト・復習テスト (30%) 課題 (20%) ポートフォリオ (10%)							

(注) 教職必修, 生活科学専攻

授業科目	英語Ⅰ(B)		担当者	新福 豊実				
	〔履修年次〕	1年	授業外対応	授業開始前、あるいは終了時、他の時間帯は要予約				
	〔学期〕	前期	〔単位〕	1	〔必修/選択〕	必修(注)	〔授業形態〕	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 英語を「読む」「聞く」「話す」「書く」技能の基礎を確認し、リスニングおよびスピーキング能力の向上を図る。</p> <p>【概要】 日常の様々な場面を想定し、ペアワークやグループワークで基本的な会話の練習を行い、コミュニケーション能力の向上を目指す。あわせて、リスニング、発音、文法を総合的に学習しバランスの取れた英語力を養成する。</p> <p>【到達目標】 日常の様々な場面で、相手の発言を理解し、英語で的確に応答することができる。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Marc Helgesen et al. 『English Firsthand (5th Edition) Success』 Pearson Longman</p> <p>(2) 授業時に適宜指示する。</p>							
授業スケジュール	<p>第 1 回 Class overview: Learning goals and strategies (Unit zero)</p> <p>第 2 回 Introduce yourself to a partner/Talk about your hobbies and interests (Unit 1)</p> <p>第 3 回 Describe the clothes you are wearing/Talk about fashions you enjoy (Unit 2)</p> <p>第 4 回 Give advice about staying healthy/Ask about your partner's habits (Unit 3)</p> <p>第 5 回 Ask for and give directions to a place/Identify places in your community (Unit 4)</p> <p>第 6 回 Describe different objects/Listen to your partner describe an object (Unit 5)</p> <p>第 7 回 Talk about your goals/Ask about your partner's goals (Unit 6)</p> <p>第 8 回 Review I</p> <p>第 9 回 Talk about your past experiences/Ask your partner about past experiences (Unit 7)</p> <p>第 10 回 Describe animals and nature/Ask questions about animals and nature (Unit 8)</p> <p>第 11 回 Talk about things you can and can't do/Ask your partner about what he or she can and can't do (Unit 9)</p> <p>第 12 回 Ask about likes and dislikes/Invite someone to do something you like with you (Unit 10)</p> <p>第 13 回 Talk about rules and laws in other countries/Describe what people in your life should or shouldn't do (Unit 11)</p> <p>第 14 回 Make up a story and tell it to your partner/Tell a story you know to your partner (Unit 12)</p> <p>第 15 回 Review II</p>							
授業外学習(予習・復習)	毎時、具体的に指示する。							
成績評価の方法	期末試験 (40%) 小テスト・復習テスト (30%) 課題 (20%) ポートフォリオ (10%)							

(注) 教職必修, 生活科学専攻

授業科目	英語 I (C)	担当者	新福 豊実
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1	授業外対応	授業開始前、あるいは終了時、他の時間帯は要予約
		[必修/選択] 必修 (注)	[授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 英語を「読む」「聞く」「話す」「書く」技能の基礎を確認し、リスニングおよびスピーキング能力の向上を図る。</p> <p>【概要】 日常の様々な場面を想定し、ペアワークやグループワークで基本的な会話の練習を行い、コミュニケーション能力の向上を目指す。あわせて、リスニング、発音、文法を総合的に学習しバランスの取れた英語力を養成する。</p> <p>【到達目標】 日常の様々な場面で、相手の発言を理解し、英語で的確に応答することができる。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Marc Helgesen et al. 『English Firsthand (5th Edition) Success』 Pearson Longman</p> <p>(2) 授業時に適宜指示する。</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 Class overview: Learning goals and strategies (Unit zero)</p> <p>第 2 回 Introduce yourself to a partner/Talk about your hobbies and interests (Unit 1)</p> <p>第 3 回 Describe the clothes you are wearing/Talk about fashions you enjoy (Unit 2)</p> <p>第 4 回 Give advice about staying healthy/Ask about your partner's habits (Unit 3)</p> <p>第 5 回 Ask for and give directions to a place/Identify places in your community (Unit 4)</p> <p>第 6 回 Describe different objects/Listen to your partner describe an object (Unit 5)</p> <p>第 7 回 Talk about your goals/Ask about your partner's goals (Unit 6)</p> <p>第 8 回 Review I</p> <p>第 9 回 Talk about your past experiences/Ask your partner about past experiences (Unit 7)</p> <p>第 10 回 Describe animals and nature/Ask questions about animals and nature (Unit 8)</p> <p>第 11 回 Talk about things you can and can't do/Ask your partner about what he or she can and can't do (Unit 9)</p> <p>第 12 回 Ask about likes and dislikes/Invite someone to do something you like with you (Unit 10)</p> <p>第 13 回 Talk about rules and laws in other countries/Describe what people in your life should or shouldn't do (Unit 11)</p> <p>第 14 回 Make up a story and tell it to your partner/Tell a story you know to your partner (Unit 12)</p> <p>第 15 回 Review II</p>		
授業外学習(予習・復習)	毎時、具体的に指示する。		
成績評価の方法	期末試験 (40%) 小テスト・復習テスト (30%) 課題 (20%) ポートフォリオ (10%)		

(注) 教職必修, 食物栄養専攻

授業科目	英語 I (C)	担当者	小林 朋子
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1	授業外対応	適宜対応 (要予約)
		[必修/選択] 必修 (注)	[授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 リスニング力、発音力、文法力を総合的に鍛えることで、スピーキングの基礎力を養成する。</p> <p>【概要】 英語のリスニング、文法、読解を総合的に学習することで、バランスのとれた英語力を養います。使用頻度の高い英語表現のリスニングや音読練習、基本的、発展的な文法事項の確認、「フレーズ・リーディング」(意味のまとまりごとに区切って英語の語順で読む読解法)を意識した速読理解の練習などを通して、総合的コミュニケーション能力の向上を目指します。</p> <p>【到達目標】 日常生活の様々な場面において、相手の情報や考えを理解でき、プロソディー面は理解に支障がない発音で情報や考えを正確に表現できる。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 角山照彦、Simon Capper 著 『Let's Read Aloud & Learn English 音読で始める基礎英語』 成美堂 刊</p> <p>(2) 授業で随時紹介します。</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 オリエンテーション</p> <p>第 2 回 Please to meet you. <be 動詞></p> <p>第 3 回 Do you remember me? <一般動詞 (現在) ></p> <p>第 4 回 I spoke to Ms. Hayashi yesterday. <一般動詞 (過去) ></p> <p>第 5 回 When does the meeting start? <疑問詞></p> <p>第 6 回 Can you meet me at the airport? <助動詞 1 ></p> <p>第 7 回 Feel free to ask me anytime. <文の種類、命令文></p> <p>第 8 回 I'm thinking about quitting my job. <進行形></p> <p>第 9 回 I'll give her your message. <未来形></p> <p>第 10 回 I haven't received the latest figures. <現在完了形></p> <p>第 11 回 The cafeteria is closed today. <受動態></p> <p>第 12 回 We expect higher sales in China. <比較></p> <p>第 13 回 I'd like to check in. <助動詞 2 ></p> <p>第 14 回 How about going to the theater? <動名詞></p> <p>第 15 回 I like to travel a lot. <to 不定詞></p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。		
成績評価の方法	筆記試験 (70%)、提出物 (10%)、授業への取組み態度 (20%) で評価する。		

(注) 教職必修, 食物栄養専攻

授業科目	英語 I (D)		担当者	金岡 正夫
	[履修年次] 1年		授業外対応	授業終了後
	[学期] 前期	[単位] 1	[必修/選択] 必修(注)	[授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】英語を使い、どれだけ自分を幅広く、奥深く説明できるかに挑戦していく。発信に向け、正しく効果的な発話・音読技法、ライティング技法を学んでいく。同時に自分自身の内面性を高めていく文献(英語資料)も読み込んでいく。</p> <p>【概要】英語の4技能をバランスよく高めていく。</p> <p>自分をテーマにするため、深い視点から生き方(進路)やこだわりを明らかにしていく。</p> <p>【到達目標】正しく発音でき、効果的な発話技法を示すことができる。より多くの語彙(同義語)、美しい英文スタイル、理解しやすい内容と論理構成を使ったり、作り上げることができる。聞き取りの際にメモをとり、重要点を述べるができる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント資料を製本化したものをテキストとして利用する(要購入)。(購入方法は第1回目の授業で説明・指示)</p> <p>(2) なし</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 音読・発話実践(発音記号) / 辞書指導(英英事典の使い方概説)</p> <p>第3回 音読・発話実践(チャンキング、WPM) / 辞書指導(英英事典、同義語・類義語)</p> <p>第4回 音読・発話実践(リエゾン) / 辞書指導(英英事典、同義語・類義語)</p> <p>第5回 音読・発話実践(バラ言語) / ライティング(パラグラフ構成)</p> <p>第6回 ライティング(英文スタイル:文体論)</p> <p>第7回 ライティング(語彙増強:同義語)</p> <p>第8回 まとめ</p> <p>第9回 自分の人生軸を語る(過去)<1> 発話、やり取り(リスニング、ノートテイキング)</p> <p>第10回 自分の人生軸を語る(過去)<2> 同上</p> <p>第11回 自分の人生軸を語る(現在)<1> 同上</p> <p>第12回 自分の人生軸を語る(現在)<2> 同上</p> <p>第13回 自分の人生軸を語る(近未来)<1> 同上</p> <p>第14回 自分の人生軸を語る(近未来)<2> 同上</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)				
成績評価の方法	発表(50%) + 提出物(30%) + 筆記試験(20%)。			

(注) 教職必修, 経済専攻, 経営情報専攻

授業科目	英語 I (D) 月曜 3限		担当者	石原 知英
	[履修年次] 1年		授業外対応	原則授業後に行う。必要に応じてメールによる対応も可。
	[学期] 前期	[単位] 1	[必修/選択] 必修(注)	[授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】英語による自己発信(書くことと話すこと)と相互理解</p> <p>【概要】この授業では、様々な種類の英語によるスピーチ(あるいはプレゼンテーション)を聞いたり読んだりすることで、その構成や表現を理解するとともに、各自でスピーチ原稿を作成したり、そのスピーチを発表することを通して、情報の要点や自分の考えなどを的確に伝え合うための活動を行います。</p> <p>【到達目標】(1) 300語程度のまとまりのある英語の文章を書くことができる、(2) 事前に準備した上で、英語で3分程度のスピーチを行うことができる、(3) 聞き手の理解に配慮しながら自分の考えを英語で話すことができる</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布する</p> <p>(2) 適宜紹介する</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 授業ガイダンス(到達目標、スケジュールおよび毎時の課題の説明)</p> <p>第2回 Informative Presentation 1: 時系列で述べる</p> <p>第3回 Informative Presentation 2: 場所について述べる</p> <p>第4回 Informative Presentation 3: 話題ごとに述べる</p> <p>第5回 Informative Presentation 4: 分類する</p> <p>第6回 Informative Presentation 5: 定義する</p> <p>第7回 Informative Presentation 6: 多角的に説明する</p> <p>第8回 中間プレゼンテーションと振り返り</p> <p>第9回 Persuasive Presentation 1: 賛成する・反対する</p> <p>第10回 Persuasive Presentation 2: 事実に基づいて主張する</p> <p>第11回 Persuasive Presentation 3: 問題点を指摘する</p> <p>第12回 Persuasive Presentation 4: 改善策を提案する</p> <p>第13回 Persuasive Presentation 5: 因果関係を論じる</p> <p>第14回 Persuasive Presentation 6: 比較して主張する</p> <p>第15回 最終プレゼンテーションと振り返り</p>			
授業外学習(予習・復習)	スピーチ原稿の作成と発表に向けた練習(予習)、前時に学習した語句および例文の確認(復習)			
成績評価の方法	毎週の授業内課題(小テスト20%、振り返りシート20%) クラスでの発表課題(中間プレゼンテーション20%、最終プレゼンテーション40%)			

(注) 教職必修, 経済専攻, 経営情報専攻

授業科目	英語 I (D) 月曜 4 限		担当者	石原 知英	
	[履修年次]	1 年	授業外対応	原則授業後に行う。必要に応じてメールによる対応も可。	
	[学期]	前期	[単位]	1	
		[必修/選択]	必修 (注)	[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】英語による自己発信（書くことと話すこと）と相互理解</p> <p>【概要】この授業では、様々な種類の英語によるスピーチ（あるいはプレゼンテーション）を聞いたり読んだりすることで、その構成や表現を理解するとともに、各自でスピーチ原稿を作成したり、そのスピーチを発表することを通して、情報の要点や自分の考えなどを的確に伝え合うための活動を行います。</p> <p>【到達目標】(1) 300 語程度のまとまりのある英語の文章を書くことができる、(2) 事前に準備した上で、英語で 3 分程度のスピーチを行うことができる、(3) 聞き手の理解に配慮しながら自分の考えを英語で話すことができる</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布する</p> <p>(2) 適宜紹介する</p>				
授業スケジュール	<p>第 1 回 授業ガイダンス (到達目標、スケジュールおよび毎時の課題の説明)</p> <p>第 2 回 Informative Presentation 1: 時系列で述べる</p> <p>第 3 回 Informative Presentation 2: 場所について述べる</p> <p>第 4 回 Informative Presentation 3: 話題ごとに述べる</p> <p>第 5 回 Informative Presentation 4: 分類する</p> <p>第 6 回 Informative Presentation 5: 定義する</p> <p>第 7 回 Informative Presentation 6: 多角的に説明する</p> <p>第 8 回 中間プレゼンテーションと振り返り</p> <p>第 9 回 Persuasive Presentation 1: 賛成する・反対する</p> <p>第 10 回 Persuasive Presentation 2: 事実に基づいて主張する</p> <p>第 11 回 Persuasive Presentation 3: 問題点を指摘する</p> <p>第 12 回 Persuasive Presentation 4: 改善策を提案する</p> <p>第 13 回 Persuasive Presentation 5: 因果関係を論じる</p> <p>第 14 回 Persuasive Presentation 6: 比較して主張する</p> <p>第 15 回 最終プレゼンテーションと振り返り</p>				
授業外学習(予習・復習)	スピーチ原稿の作成と発表に向けた練習 (予習)、前時に学習した語句および例文の確認 (復習)				
成績評価の方法	毎週の授業内課題 (小テスト 20%、振り返りシート 20%) クラスでの発表課題 (中間プレゼンテーション 20%、最終プレゼンテーション 40%)				

(注) 教職必修, 経済専攻, 経営情報専攻

授業科目	英語 I (D)		担当者	土持 かおり	
	[履修年次]	1 年	授業外対応	適宜対応	
	[学期]	前期	[単位]	1	
		[必修/選択]	必修 (注)	[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】この授業のテーマは、ナチュラルスピードの英語の聞き取りに慣れ親しむとともに、日常会話で役立つ表現や語彙を習得していくことです。</p> <p>【概要】授業の前半では、洋楽で英語の音になじむことからスタートし、音声変化についての学習、リピーティングなどの口頭練習で、「ナチュラルな英語を聞き取るコツ」、「英語らしく発音するコツ」をつかんでいきます。授業の後半では、アメリカ旅行と留学を題材にした映像教材で、ナチュラルスピードの口語英語の聞き取りに徐々に慣れるとともに、旅行や日常生活で使われる英会話表現や語彙を場面ごとに学習していきます。さらにコースの後半では応用編として映画を利用したリスニング演習に取り組みます。</p> <p>【到達目標】会話展開が予測可能な場面、またはなじみのある場面において、相手の情報や考えを理解でき、相手に誤解を生じない程度の発音で、簡潔に対応できる英語力の習得を目標とします。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Hiroto Ohyagi & Timothy Kiggell 著, <i>Viva! San Francisco</i> 出版社: マクミラン・ランゲージハウス</p> <p>(2) なし</p>				
授業スケジュール	<p>第 1 回 授業ガイダンス: 授業内容と進め方について / ナチュラルな英語の特徴と聞き取り</p> <p>第 2 回 Do you have a reservation, Ma'am?: ホテルでのチェックインに使う表現</p> <p>第 3 回 Would you like soup or salad?: レストランでのチェックインに使う表現</p> <p>第 4 回 Could you repeat that?: 道順を尋ねる時に使う表現</p> <p>第 5 回 Where's fitting room?: ショッピングに使う表現</p> <p>第 6 回 Good to see you!: 挨拶に使う表現</p> <p>第 7 回 I enjoyed my stay.: ホテルでのチェックアウトに使う表現</p> <p>第 8 回 You are one of the family now.: ホームステイ先で使う表現</p> <p>第 9 回 I want to help.: 申し出る・申し出を受ける表現</p> <p>第 10 回 Would you like to join us?: 人を誘う・誘いに応じる表現</p> <p>第 11 回 Let's keep in touch, OK?: 別れに使う表現</p> <p>第 12 回 映画を利用したリスニング演習: その (1)</p> <p>第 13 回 映画を利用したリスニング演習: その (2)</p> <p>第 14 回 映画を利用したリスニング演習: その (3)</p> <p>第 15 回 まとめ</p>				
授業外学習(予習・復習)	小テストのための復習				
成績評価の方法	授業への取り組み (30%) + 復習のための小テスト (20%) + 定期試験(50%)				
実務経験について					

(注) 経済専攻, 経営情報専攻

授業科目	英語Ⅱ (A)	担当者	パトリック・ゴーラム Patrick Gorham		
	[履修年次] 1年	授業外対応	授業終了後		
	[学期] 前期 [単位] 1	[必修/選択]	必修 (注)	[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】English II A is a four skills course with an emphasis on speaking and listening. Students will complete information gap, fill in the gap and communication exchange activities. Students will be required to work in pairs and groups and assist each other in learning.</p> <p>【概要】Students will work have regular homework assignments.</p> <p>【到達目標】The aim of the course is to develop their overall English abilities.</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Smart Choice 2A Third Edition, Ken Wilson, Oxford University Press (2)				
授業スケジュール	第1回 Class orientation 第2回 Unit 1, How was your vacation? 第3回 Unit 1, How was your vacation? 第4回 Unit 1, How was your vacation? 第5回 Unit 2, I think it's exciting! 第6回 Unit 2, I think it's exciting! 第7回 Unit 2, I think it's exciting! 第8回 Unit 3, Do it before you're 30! 第9回 Unit 3, Do it before you're 30! 第10回 Unit 4, The best place in the world! 第11回 Unit 4, The best place in the world! 第12回 Unit 5, Where's the party? 第13回 Unit 5, Where's the party? 第14回 Unit 6, You should try it! 第15回 Final Exam				
授業外学習(予習・復習)					
成績評価の方法	Final Exam (50%), Speaking test (30%), Quizzes (10%), Attendance (10%)				

(注) 教職必修, 日本語日本文学専攻

授業科目	英語Ⅱ (A)	担当者	ガルシア・アロヨ ホルヘ Jorge García Arroyo		
	[履修年次] 1年	授業外対応	By email		
	[学期] 前期 [単位] 1	[必修/選択]	必修 (注)	[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】Students will develop their communication, listening and grammar skills in English through discussing about different general topics of everyday life from the textbook.</p> <p>【概要】Students will work on speaking and listening skills through discussing about a wide range of grammar-based general everyday topics from the text book.</p> <p>【到達目標】Students will be able to maintain spontaneous conversations on a variety of everyday life topics while improving their listening skills and acquiring new vocabulary and expressions.</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Marc Helgesen, John Wiltshier, Steven Brown, <i>English Firsthand 1</i> , Fifth Edition, Pearson (2)				
授業スケジュール	第1回 Introduction to the course. Unit 1. Hobbies and interests . Self-introductions. 第2回 Unit 1. Pair talk . Using simple present . Unit review. 第3回 Unit 2. Appearance adjectives. Describing your friends. 第4回 Unit 2. Pair talk. Differences between have and be in simple present . Unit review. 第5回 Unit 3. Daily activities and routines. Making a date. 第6回 Unit 3. Pair talk. Using adverbs of frequency. Unit Review. 第7回 Unit 4. Locations. Negotiating with a parent. 第8回 Unit 4. Pair talk. Using prepositions with there is and there are. Unit review. 第9回 Unit 5. Giving directions. Asking for directions. 第10回 Unit 5. Pair talk. Using imperative form with prepositions. Unit review. 第11回 Unit 6. Important events in life, past experiences. Talk about a trip you took. 第12回 Unit 6. Pair talk. Using the past tense: irregular verbs. Unit review. 第13回 Unit 7. Types of Jobs. What do you do? 第14回 Unit 7. Pair talk. Using the simple present to ask about jobs and skills. Unit review 第15回 Course review.				
授業外学習(予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	In-class activities (40%) Final presentation (60%)				
実務経験について	I have been teaching this class since 2018.				

(注) 教職必修, 日本語日本文学専攻

授業科目	英語Ⅱ (B)		担当者	ルイーズ・ケネディ・中村 Louise Kennedy Nakamura
	[履修年次] 1年	[学期] 前期	[単位] 1	[必修/選択] 必修 (注)
			[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This is an everyday conversation course to help students to develop confidence in speaking and develop their listening , vocabulary and grammar. skills.</p> <p>【概要】</p> <p>【到達目標】</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Materials will be supplied by the teacher</p> <p>(2)</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 Introduction to the class</p> <p>第 2回 Getting to know the classmates</p> <p>第 3回 Daily Routines</p> <p>第 4回 Describing Appearance</p> <p>第 5回 Describing Appearance</p> <p>第 6回 Clothes / Fashion</p> <p>第 7回 Personality Traits</p> <p>第 8回 Review</p> <p>第 9回 Making Requests</p> <p>第 10回 Hobbies / Interests</p> <p>第 11回 Movies</p> <p>第 12回 Movies</p> <p>第 13回 Travel Plans</p> <p>第 14回 Travel Plans</p> <p>第 15回 Review</p>			
授業外学習(予習・復習)	Students should review classroom materials ; utilize online ESL listening websites.			
成績評価の方法	Grade : test×2 = 50% Homework, quizzes and class participation = 50%			

(注) 教職必修, 生活科学専攻

授業科目	英語Ⅱ (B)		担当者	ガルシア・アロヨ ホルヘ Jorge García Arroyo
	[履修年次] 1年	[学期] 前期	[単位] 1	[必修/選択] 必修 (注)
			[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 Students will develop their communication, listening and grammar skills in English through discussing about different general topics of everyday life from the textbook.</p> <p>【概要】 Students will work on speaking and listening skills through discussing about a wide range of grammar-based general everyday topics from the text book.</p> <p>【到達目標】 Students will be able to maintain spontaneous conversations on a variety of everyday life topics while improving their listening skills and acquiring new vocabulary and expressions.</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Marc Helgesen, John Wiltshier, Steven Brown, <i>English Firsthand 1</i>, Fifth Edition, Pearson</p> <p>(2)</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 Introduction to the course.</p> <p>Unit 1. Hobbies and interests . Self-introductions.</p> <p>第 2回 Unit 1. Pair talk . Using simple present . Unit review.</p> <p>第 3回 Unit 2. Appearance adjectives. Describing your friends.</p> <p>第 4回 Unit 2. Pair talk. Differences between have and be in simple present . Unit review.</p> <p>第 5回 Unit 3. Daily activities and routines. Making a date.</p> <p>第 6回 Unit 3. Pair talk. Using adverbs of frequency. Unit Review.</p> <p>第 7回 Unit 4. Locations. Negotiating with a parent.</p> <p>第 8回 Unit 4. Pair talk. Using prepositions with there is and there are. Unit review.</p> <p>第 9回 Unit 5. Giving directions. Asking for directions.</p> <p>第 10回 Unit 5. Pair talk. Using imperative form with prepositions. Unit review.</p> <p>第 11回 Unit 6. Important events in life, past experiences. Talk about a trip you took.</p> <p>第 12回 Unit 6. Pair talk. Using the past tense: irregular verbs. Unit review.</p> <p>第 13回 Unit 7. Types of Jobs. What do you do?</p> <p>第 14回 Unit 7. Pair talk. Using the simple present to ask about jobs and skills. Unit review</p> <p>第 15回 Course review.</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	In-class activities (40%) Final presentation (60%)			
実務経験について	I have been teaching this class since 2018.			

(注) 教職必修, 生活科学科専攻

授業科目	英語Ⅱ(C)	担当者	ジョン・トレマーコ John Tremarco	
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1	授業外対応	授業終了後	
		[必修/選択]	必修(注)	[授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 Everyday Conversation.</p> <p>【概要】 This course will build upon the students' previous studies. They will practice everyday conversation and review the basic grammar needed to engage in those conversation.</p> <p>【到達目標】 To improve students' conversational skills.</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	(1) English with Hit Songs, Author(s): T. Kadoyama & S. Capper Publisher: Seibido (2)			
授業スケジュール	第 1 回 Introduction and Orientation Explanation of course aims, tests, evaluation methods and teacher expectations. (導入ーコースの目標についての説明) 第 2 回 Unit 1: My heart will go on 第 3 回 Unit 2: Open arms 第 4 回 Unit 3: Life 第 5 回 Unit 4: Don't look back in anger 第 6 回 Unit 5: A whole new world 第 7 回 Unit 6: I don't want to miss a thing 第 8 回 Unit 7: Review Unit 1 第 9 回 Unit 8: The stranger 第 10 回 Unit 9: Hey Now 第 11 回 Unit 10: Every time I close my eyes 第 12 回 Unit 11: Kiss of life 第 13 回 Unit 12: All I want for Christmas is you 第 14 回 Unit 13: Livin'la vida loca 第 15 回 Unit 14: Review of Unit 2 and Course Review: followed by an end of term test in week 16			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	Classroom Contribution 20% Groupwork/Homework 40% Final Test 40%			

(注) 教職必修, 食物栄養専攻

授業科目	英語Ⅱ(C)	担当者	内尾ホープ	
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1	授業外対応		
		[必修/選択]	必修(注)	[授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 The textbook contains reading, listening and speaking exercises on various topics. The main objective is for students to develop their listening, speaking and writing skills.</p> <p>【概要】 Students will mainly practice listening to and speaking English.</p> <p>【到達目標】 The emphasis will be on improving listening, speaking and writing skills.</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	(1) English Firsthand 1 by Marc Helgesen, Steve Brown and John Wiltshier (Longman Pearson) (2)			
授業スケジュール	第 1 回 4/14 (Unit 0/ Unit 1): (It's Nice to meet you) Introduction (listening, speaking and writing) 第 2 回 4/21 (Unit 1): (listening, speaking and writing) 第 3 回 4/28 (Unit 1 and Unit 2): (Who are they talking about?) (Listening, speaking and writing) 第 4 回 5/12 (Unit 2 and Unit 3): (When do you start?) (Listening, speaking and writing) 第 5 回 5/19 (Unit 3 and Unit 4): (Where does this go?) (Listening, speaking and writing) 第 6 回 5/26 (Unit 5): (How do I get there?) (Listening, speaking and writing) 第 7 回 6/2 (Unit 5 and Unit 6): (What happened?) (Listening, speaking and writing) 第 8 回 6/9 (Unit 6) and Review Unit and test 第 9 回 6/16 (Review Unit and Unit 7): (I'd love that job) (Listening, speaking and writing) 第 10 回 6/23 (Unit 7 and Unit 8): (What's playing?) (Listening, speaking and writing) 第 11 回 6/30 (Unit 8 and Unit 9): (What are you going to do?) (Listening, speaking and writing) 第 12 回 7/7 (Unit 9 and Unit 10): (How much is this?) (Listening, speaking and writing) 第 13 回 7/14 (Unit 10 and Unit 11): (How do you make it?) (Listening, speaking and writing) 第 14 回 7/21 (Unit 11 and Unit 12): (Listen to the music) (Listening, speaking and writing) 第 15 回 7/28 (Unit 12 and Review Unit): (Listen to the music) (Listening, speaking and writing)			
授業外学習(予習・復習)	A short homework assignment will be assigned each week.			
成績評価の方法	Homework and short quizzes: 20% Midterm: 30% Final Exam: 50%			

(注) 教職必修, 食物栄養専攻

授業科目	英語Ⅱ(D) 月曜3限	担当者	グレゴリー・ダン Gregory Dunne
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1	授業外対応	授業終了後
		[必修/選択]	必修(注) [授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This course aims to develop the listening and speaking proficiency of students through the study and use of English in everyday situations. The topics in each unit reflect the kinds of situations students come across both when studying in Japan and abroad.</p> <p>【概要】 Each unit will include a variety of listening and speaking activities designed to improve the students ability to comprehend spoken English and to use English in short conversation and brief presentations.</p> <p>【到達目標】 Emphasis will be placed on developing the students ability, and confidence, to speak smoothly and naturally while engaging in short conversations.</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Listen Up, Talk Back, Book 1. English for Everyday Communication by Gillian Flaherty (Seibido Press) (2)		
授業スケジュール	第1回 Introduction of the course and key topics 第2回 Meeting New People 第3回 Home 第4回 Family 第5回 Transportation in the City 第6回 Shopping 第7回 Celebrations 第8回 Review Quiz 第9回 Volunteering 第10回 Staying Well 第11回 Pets 第12回 Free Time Activities 第13回 Music 第14回 Review of key units in class groups 第15回 Final Oral Review Practice in pairs		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	In class short presentations 20% Homework 10% Short vocabulary tests 20% Mid Term Quiz 20% Final Oral Quiz 30%		

(注) 教職必修, 経済専攻, 経営情報専攻

授業科目	英語Ⅱ(D)	担当者	ルーズ・ケネディ・中村 Louise Kennedy Nakamura
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1	授業外対応	授業終了後
		[必修/選択]	必修(注) [授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This is an everyday conversation course to help students to develop confidence in speaking and develop their listening, vocabulary and grammar skills.</p> <p>【概要】</p> <p>【到達目標】</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Materials will be supplied by the teacher (2)		
授業スケジュール	第1回 Introduction to the class 第2回 Getting to know the classmates 第3回 Daily Routines 第4回 Describing Appearance 第5回 Describing Appearance 第6回 Clothes / Fashion 第7回 Personality Traits 第8回 Review 第9回 Making Requests 第10回 Hobbies / Interests 第11回 Movies 第12回 Movies 第13回 Travel Plans 第14回 Travel Plans 第15回 Review		
授業外学習(予習・復習)	Students should review classroom materials ; utilize online ESL listening websites.		
成績評価の方法	Grade : test×2 = 50% Homework, quizzes and class participation = 50%		

(注) 教職必修, 経済専攻, 経営情報専攻

授業科目	英語Ⅱ(D) 月曜4限	担当者	グレゴリー・ダン Gregory Dunne
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1	授業外対応	授業終了後
		[必修/選択]	必修(注) [授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This course aims to develop the listening and speaking proficiency of students through the study and use of English in everyday situations. The topics in each unit reflect the kinds of situations students come across both when studying in Japan and abroad.</p> <p>【概要】 Each unit will include a variety of listening and speaking activities designed to improve the students ability to comprehend spoken English and to use English in short conversation and brief presentations.</p> <p>【到達目標】 Emphasis will be placed on developing the students ability, and confidence, to speak smoothly and naturally while engaging in short conversations.</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Listen Up, Talk Back, Book 1. English for Everyday Communication by Gillian Flaherty (Seibido Press)</p> <p>(2)</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 Introduction of the course and key topics</p> <p>第 2 回 Meeting New People</p> <p>第 3 回 Home</p> <p>第 4 回 Family</p> <p>第 5 回 Transportation in the City</p> <p>第 6 回 Shopping</p> <p>第 7 回 Celebrations</p> <p>第 8 回 Review Quiz</p> <p>第 9 回 Volunteering</p> <p>第 10 回 Staying Well</p> <p>第 11 回 Pets</p> <p>第 12 回 Free Time Activities</p> <p>第 13 回 Music</p> <p>第 14 回 Review of key units in class groups</p> <p>第 15 回 Final Oral Review Practice in pairs</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	In class short presentations 20% Homework 10% Short vocabulary tests 20% Mid Term Quiz 20% Final Oral Quiz 30%		

(注) 教職必修, 経済専攻, 経営情報専攻

授業科目	英語Ⅱ(D)	担当者	アンドルー・ダニエルズ Andrew Daniels
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1	授業外対応	授業終了後
		[必修/選択]	必修(注) [授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This course aims to help students develop speaking strategies in basic English conversation situations. Working around units from a set textbook, students will be encouraged to give their own opinions as well as finding out the views of their classmates through participating in group discussions.</p> <p>【概要】 Students will work on listening and speaking skills to develop their confidence in familiar scenarios.</p> <p>【到達目標】 Emphasis will be on trying to reduce unnatural silence and practicing transitional or filler words to create natural, friendly conversations that students can reproduce easily.</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Impact Conversation 1 by Kristen Sullivan and Todd Beuckens Publisher Pearson Longman</p> <p>(2)</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 Introduction of the course and key topics</p> <p>第 2 回 Unit 2 Movies Lifestyle</p> <p>第 3 回 Unit 3 Art</p> <p>第 4 回 Unit 3 (continued) Art and artists</p> <p>第 5 回 Unit 4 Family</p> <p>第 6 回 Unit 4 (continued) Family. Describing People</p> <p>第 7 回 Unit 5 Fears</p> <p>第 8 回 Unit 5 (continued) Feelings about things</p> <p>第 9 回 Review Quiz</p> <p>第 10 回 Unit 8 Health</p> <p>第 11 回 Unit 8 (continued) Habits and Lifestyles</p> <p>第 12 回 Unit 14 Cooking</p> <p>第 13 回 Cooking Presentation</p> <p>第 14 回 Unit 16 Goals and Dreams</p> <p>第 15 回 Pair Practice on key topics</p> <p>第 16 回 Final Oral Review</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	<p>In class short presentations 30%</p> <p>Short vocabulary tests 20%</p> <p>Mid Term Quiz 20%</p> <p>Final Oral Quiz 30%</p>		

(注) 教職必修, 経済専攻, 経営情報専攻

授業科目	英語 Ⅲ (A)	担当者	James Murray ジェイムズ・マレー
	[履修年次] 1年, 2年 [学期] 後期 [単位] 1	授業外対応	授業終了後・メール
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This is a course for practicing all skills in English: Reading, Writing, Listening, Speaking, and Comprehension.</p> <p>【概要】 Lectures will teach vocabulary, phrases, and grammar that is used in everyday English conversation. Students will learn useful English for introductions, expressing emotions, making excuses and explanations, etc. Relaxed group discussions will give students the chance to use what they are learning, and to improve their confidence when communicating.</p> <p>【到達目標】 The aim of this course is to learn the basic skills of English used in everyday life, and to improve confidence in communicating and expressing oneself.</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Helgesen, Wiltshier, Brown 「English Firsthand 2」 (Fifth Edition) Pearson, 2018 (ISBN: 9789813130234) (2)		
授業スケジュール	第 1 回 Unit 1: Introductions and Relationships 第 2 回 Unit 1: Using Simple past; Simple present; Present perfect; Present Continuous 第 3 回 Unit 2: Feelings and Emotions 第 4 回 Unit 2: Using Conditionals; Adjectives for emotions 第 5 回 Quiz (1) and Discussion 第 6 回 Unit 3: Making Recommendations 第 7 回 Unit 3: Comparatives and Superlatives to describe places; Amplifiers for comparisons 第 8 回 Unit 4: Sharing opinions; Agreeing and Disagreeing 第 9 回 Unit 4: Using Superlatives to describe events; Tag questions 第 10 回 Quiz (2) and Discussion 第 11 回 Unit 5: Excuses and Requests; Accepting and Refusing 第 12 回 Unit 5: Using Could and Would: Using clauses in complex sentences 第 13 回 Unit 6: Culture differences; Symbols 第 14 回 Unit 6: Using wh~ questions; Relative pronouns 第 15 回 Final Exam		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	Class participation 授業での参加の度合 (25%), Tests 試験 (50%), Homework 宿題 (25%)		

(注) 食物栄養専攻, 生活科学専攻

授業科目	英語Ⅲ (B)	担当者	グレゴリー・ダン Gregory Dunne
	[履修年次] 1年, 2年 [学期] 後期 [単位] 1	授業外対応	事業終了後
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This course focuses on the use of conversational English while developing the students' ability to express opinions and engage in short discussions. The units covered relate to types of situations and challenges learners encounter in everyday life.</p> <p>【概要】 Students will listen to short conversations, practice short conversations, and develop/create their own conversations. They will learn how to express their opinions and engage in short discussions related to the topics encountered in the text.</p> <p>【到達目標】 This course aims to develop the students overall proficiency in the use of everyday conversational English while Enhancing their ability to confidently express their own opinions on a variety of topics.</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Live Escalate Book 2, Trekking (Seibido Press) (2)		
授業スケジュール	第 1 回 Introduction to the Course 第 2 回 Occupations 第 3 回 At the Dinner Table 第 4 回 Sports 第 5 回 Health 第 6 回 What's on Your Playlist? 第 7 回 At the Movies 第 8 回 Review 1 第 9 回 Technology in Daily Life 第 10 回 Social Network 第 11 回 Looking on the Bright Side 第 12 回 Love Affairs 第 13 回 Storytelling 第 14 回 The Power of Words 第 15 回 Review 2		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	Role plays and Skits: 30% Homework: 15% Quizzes: 25% Final Project (Oral) 30%		
実務経験について	Pair work, small group discussion, role plays, short presentations		

(注) 食物栄養専攻, 生活科学専攻 Food and Nutrition or Life Science students

授業科目	英語Ⅲ(C)	担当者	金岡 正夫
	[履修年次] 1年, 2年 [学期] 後期 [単位] 1 [必修/選択] 選択(注) [授業形態] 演習	授業外対応	授業終了後
テーマ及び概要	<p>【テーマ】英語を使い、どれだけ自分を幅広く、奥深く説明できるかに挑戦していく。発信に向け、正しく効果的な発話・音読技法、ライティング技法を学んでいく。同時に自分自身の内面性を高めていく文献(英語資料)も読み込んでいく。</p> <p>【概要】英語の4技能をバランスよく高めていく。</p> <p>自分をテーマにするため、深い視点から生き方(進路)やこだわりを明らかにしていく。</p> <p>【到達目標】正しく発音でき、効果的な発話技法を示すことができる。より多くの語彙(同義語)、美しい英文スタイル、理解しやすい内容と論理構成を使ったり、作り上げることができる。聞き取りの際にメモをとり、重要点を述べるができる。</p> <p>【テーマ】英語を使い、どれだけ自分を幅広く、奥深く説明できるかに挑戦していく。発信に向け、正しく効果的な発話・音読技法、ライティング技法を学んでいく。同時に自分自身の内面性を高めていく文献(英語資料)も読み込んでいく。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント資料を製本化したものをテキストとして利用する(要購入)。(購入方法は第1回目の授業で説明・指示)</p> <p>(2) なし</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 音読・発話実践(発音記号) / 辞書指導(英英事典の使い方概説)</p> <p>第3回 音読・発話実践(チャンキング、WPM) / 辞書指導(英英事典、同義語・類義語)</p> <p>第4回 音読・発話実践(リエゾン) / 辞書指導(英英事典、同義語・類義語)</p> <p>第5回 音読・発話実践(バラ言語) / ライティング(パラグラフ構成)</p> <p>第6回 ライティング(英文スタイル:文体論)</p> <p>第7回 ライティング(語彙増強:同義語)</p> <p>第8回 まとめ</p> <p>第9回 自分の人生軸を語る(過去)<1> 発話、やり取り(リスニング、ノートテイキング)</p> <p>第10回 自分の人生軸を語る(過去)<2> 同上</p> <p>第11回 自分の人生軸を語る(現在)<1> 同上</p> <p>第12回 自分の人生軸を語る(現在)<2> 同上</p> <p>第13回 自分の人生軸を語る(近未来)<1> 同上</p> <p>第14回 自分の人生軸を語る(近未来)<2> 同上</p> <p>第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)			
成績評価の方法	発表(50%) + 提出物(30%) + 筆記試験(20%)。		

(注) 食物栄養、生活科学専攻。

授業科目	英語Ⅲ(D)	担当者	グレゴリー・ダン Gregory Dunne
	[履修年次] 1年, 2年 [学期] 後期 [単位] 1 [必修/選択] 選択(注) [授業形態] 演習	授業外対応	授業終了後
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This course focuses on developing the student's ability to talk about topics related to science and nutrition and to comprehend related listening and written activities</p> <p>【概要】 Students will listen to short talks, read the talks for comprehension and practice short conversations related to them. Students will have opportunities to develop/create their own conversations related to the topics. The topics encountered in the text will be discussed and students will have the opportunity to offer their opinions concerning them.</p> <p>【到達目標】 This course aims to develop the students overall proficiency in the use of English related to science and nutrition while enhancing their ability to confidently express their own opinions related to the various topics encountered in the classroom. This course will improve the student knowledge and use of vocabulary related to science and nutrition.</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Healthy Habits for a Better Life by Joan McConnell and Kiyoshi Yamauchi (Seibido Press)</p> <p>(2)</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 Introduction to the course and Unit 1: Sleep is Important</p> <p>第2回 Is Salt Bad for Us</p> <p>第3回 Water is Wonderful</p> <p>第4回 Hot Springs: A Miracle of Nature</p> <p>第5回 Healthy Lessons from the Blue Zones</p> <p>第6回 Unhealthy Habits</p> <p>第7回 The Story of Sugar</p> <p>第8回 Companion Animals</p> <p>第9回 Music and Medicine</p> <p>第10回 Please Listen to Me!</p> <p>第11回 Let's Eat Together!</p> <p>第12回 Being Alone vs Being Lonely</p> <p>第13回 Believe in Yourself</p> <p>第14回 The Interview</p> <p>第15回 Review</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	Role plays and Skits: 30% Homework: 15% Quizzes: 25% Final Project (Oral) 30%		
実務経験について	Pair work, small group discussion, role plays, short presentations		

※ (注) 日本語日本文学専攻, 経済専攻, 経営情報専攻 Business or Japanese Literature students

授業科目	英語Ⅲ (E)				担当者	グレゴリー・ダン Gregory Dunne		
	[履修年次]	1年, 2年		授業外対応	授業終了後			
	[学期]	後期	[単位]	1	[必修/選択]	選択 (注)	[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This course focuses on the use of conversational English in everyday settings and situations. It provides the students with many opportunities to develop their listening skills, conversational skills, and vocabulary knowledge.</p> <p>【概要】 Students will listen to short conversations, practice short conversations, and develop/create their own conversations. Student will create role plays and perform them before the class.</p> <p>【到達目標】 This course aims to develop the students overall proficiency in the use of conversational English. By giving the students many opportunities to practice their English (in pairs, small groups, and before the class) the course aims to strengthen the students confidence in the use of English.</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) <i>Listen to this!</i> (Intermediate) by James Bean with Gillian Flaherty, (Seibido Press)</p> <p>(2)</p>							
授業スケジュール	<p>第 1回 Introduction to the course and key topics. "Please leave a message"</p> <p>第 2回 You need a break!</p> <p>第 3回 I think we're lost</p> <p>第 4回 Where did you grow up?</p> <p>第 5回 It's a goal!</p> <p>第 6回 Sightseeing</p> <p>第 7回 TV violence</p> <p>第 8回 I'd like to return this</p> <p>第 9回 What a great vacation!</p> <p>第10回 Can you help me with my essay?</p> <p>第11回 What happens to our trash?</p> <p>第12回 I feel terrible</p> <p>第13回 Future plans</p> <p>第14回 I disagree!</p> <p>第15回 Review and Conversational Practice</p>							
授業外学習(予習・復習)	適宜指示							
成績評価の方法	Role plays and Skits: 30% Homework: 15% Quizzes: 25% Final Project (Oral) 30%							
実務経験について	Pair work, small group discussion, role plays, short presentations							

※ (注) 日本語日本文学専攻, 経済専攻, 経営情報専攻 Business or Japanese Literature students

授業科目	英語Ⅲ (F)				担当者	新福 豊実		
	[履修年次]	1年, 2年		授業外対応	授業開始前、あるいは終了時、他の時間帯は要予約			
	[学期]	後期	[単位]	1	[必修/選択]	選択 (注)	[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 英語を「読む」「聞く」「話す」「書く」技能の基礎を確認し、リスニングおよびスピーキング能力の向上を図る。</p> <p>【概要】 後期開講の科目なので、前期よりもスキルアップすることを目指す。日常の様々な場面を想定し、ペアワークやグループワークで基本的な会話の練習を行い、コミュニケーション能力の向上を目指す。あわせて、リスニング、発音、文法を総合的に学習しバランスの取れた英語力を養成する。</p> <p>【到達目標】 日常の様々な場面で、相手の発言を理解し、英語で的確に回答することができる。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Marc Helgesen et al. 『English Firsthand (5th Edition) Level 1』 Pearson Longman</p> <p>(2) 授業時に適宜指示する。</p>							
授業スケジュール	<p>第 1回 Class overview: Learning goals and strategies (Unit zero)</p> <p>第 2回 Meeting people/introducing yourself. (Unit 1)</p> <p>第 3回 Describing people - personality and character (Unit 2)</p> <p>第 4回 Schedules and frequency - personal schedule (Unit 3)</p> <p>第 5回 Stating locations - describing differences between two places (Unit 4)</p> <p>第 6回 Giving directions - following map directions (Unit 5)</p> <p>第 7回 Describing personal experiences (Unit 6)</p> <p>第 8回 Review I</p> <p>第 9回 Abilities and interests - exchanging job skills information (Unit 7)</p> <p>第10回 Invitations and preferences - identifying entertainment information (Unit 8)</p> <p>第11回 Future plans and predictions - identifying vacation plans and activities (Unit 9)</p> <p>第12回 Shopping - understanding prices and inferring shopping decisions (Unit 10)</p> <p>第13回 Describing processes - food and cooking (Unit 11)</p> <p>第14回 Music - Giving opinions about music (Unit 12)</p>							
授業外学習(予習・復習)	第 15回							
成績評価の方法	毎時、具体的に指示する。							
実務経験	期末試験 (40%) 小テスト・復習テスト・授業中の活動 (40%) 課題 (20%)							

(注) 日本語日本文学専攻, 経済専攻, 経営情報専攻

授業科目	英語Ⅲ (G)	担当者	ルイーズ・ケネディ・中村 Louise Kennedy Nakamura
	[履修年次] 1, 2年 [学期] 後期 [単位] 1	授業外対応	授業終了後
		[必修/選択]	選択 (注) [授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This is an everyday English communications course. It will build help to improve students' English speaking and listening skills , along with their confidence and willingness to speak English.</p> <p>【概要】</p> <p>【到達目標】</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Materials will be supplied by the teacher (2)		
授業スケジュール	第 1 回 Introduction to the class 第 2 回 Vacations 第 3 回 Last Weekend 第 4 回 Food 第 5 回 Food 第 6 回 Jobs 第 7 回 Jobs 第 8 回 Review 第 9 回 Health 第 10 回 Giving Advice 第 11 回 Christmas 第 12 回 Rules / Obligation 第 13 回 Rules / Obligation 第 14 回 Future Plans 第 15 回 Review		
授業外学習(予習・復習)	Students should review classroom materials ; utilize online ESL listening websites		
成績評価の方法	Grade : test×2 = 50% Homework, quizzes and class participation = 50%		

(注) 日本語日本文学専攻, 経済専攻, 経営情報専攻

授業科目	英語Ⅲ (H)	担当者	ルイーズ・ケネディ・中村 Louise Kennedy Nakamura
	[履修年次] 1, 2年 [学期] 後期 [単位] 1	授業外対応	授業終了後
		[必修/選択]	選択 (注) [授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This is an everyday English communications course. It will build help to improve students' English speaking and listening skills , along with their confidence and willingness to speak English.</p> <p>【概要】</p> <p>【到達目標】</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Materials will be supplied by the teacher (2)		
授業スケジュール	第 1 回 Introduction to the class 第 2 回 Vacations 第 3 回 Last Weekend 第 4 回 Food 第 5 回 Food 第 6 回 Jobs 第 7 回 Jobs 第 8 回 Review 第 9 回 Health 第 10 回 Giving Advice 第 11 回 Christmas 第 12 回 Rules / Obligation 第 13 回 Rules / Obligation 第 14 回 Future Plans 第 15 回 Review		
授業外学習(予習・復習)	Students should review classroom materials ; utilize online ESL listening websites		
成績評価の方法	Grade : test×2 = 50% Homework, quizzes and class participation = 50%		

(注) 日本語日本文学専攻, 経済専攻, 経営情報専攻

授業科目	英語Ⅳ (A)	担当者	Nikolay Gyulemetov ギュレメトヴ・ニコライ		
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1	授業外対応	授業終了後		
		[必修/選択]	選択 (注)	[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】中級レベルの英語をつかひながら自分の意見を伝えること。</p> <p>Expressing your opinion about different topics in English.</p> <p>【概要】様々なトピックについて考えて、話し合つて、発表して、自分のコミュニケーション力を強める。 教科書、映像、プリントなどをつかう。</p> <p>We will use the textbook, handouts and videos in our class and discussions.</p> <p>【到達目標】グループワークや発表による英語コミュニケーションのスキルアップ。文法、語彙、聞き取り・読解の練習をしながら discussion を行います。</p> <p>Our goal is to practice grammar, vocabulary, reading and listening in order to improve our communication skills.</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 未定 (プリントを配布する場合もある) (2)				
授業スケジュール	第 1 回 オリエンテーション・説明 Orientation and objectives 第 2 回 クラスワーク (文法、語彙) Grammar and vocabulary 第 3 回 クラスワーク (発表をする方法) Making a presentation 第 4 回 グループワーク 1 Group work, preparation for presentation 第 5 回 グループ発表 1 First presentation 第 6 回 クラスワーク (コミュニケーション力) Communication skill 第 7 回 クラスワーク (ディスカッション力) Discussion skill 第 8 回 クラスワーク (スピーチ力) Speech skill 第 9 回 グループワーク 2 Group work, preparation for presentation 第 10 回 グループ発表 2 Second presentation 第 11 回 クラスワーク (classmate のインタビュー) Interview your classmate! 第 12 回 クラスワーク (文法、語彙) Grammar and vocabulary 2 第 13 回 クラスワーク (聞き取り・読解力) Listening and Reading skills 第 14 回 クラスワーク (コース復習) Revision of all topics covered. 第 15 回 まとめ				
授業外学習(予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	筆記試験 (60%) + グループ発表 30 + 作文 (宿題—10%) を基準に、総合的に評価する。				

(注) 日本語日本文学専攻, 食物栄養専攻, 生活科学専攻

授業科目	英語Ⅳ(B)	担当者	ジョン・トレマーコ John Tremarco		
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1	授業外対応	授業終了後		
		[必修/選択]	選択 (注)	[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 Everyday Conversation.</p> <p>【概要】 This course will build upon the students' previous studies. They will practice everyday conversation and review the basic grammar needed to engage in those conversation.</p> <p>【到達目標】 To improve students' conversational skills.</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) English with Pop Hits: Author(s): T. Kadoyama & S. Capper Publisher: Seibido (2)				
授業スケジュール	第 1 回 Introduction and Orientation Explanation of course aims, tests, evaluation methods and teacher expectations. (導入—コースの目標についての説明) 第 2 回 Unit 1: Complicated 第 3 回 Unit 2: SOS 第 4 回 Unit 3: You are not alone 第 5 回 Unit 4: Don't want to lose you 第 6 回 Unit 5: How crazy are you 第 7 回 Unit 6: Sunday Morning 第 8 回 Unit 7: Review Unit 1 第 9 回 Unit 8: I want ti that way 第 10 回 Unit 9: Suddenly I see 第 11 回 Unit 10: How am I supposed to live without you 第 12 回 Unit 11: Save the best for Last 第 13 回 Unit 12: Torn 第 14 回 Unit 13: La La means I love you 第 15 回 Unit 14: Review of Unit 2 and Course Review: followed by an end of term test in week 16				
授業外学習(予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	Classroom Contribution 20% Groupwork/Homework 40% Final Test 40%				

(注) 日本語日本文学専攻, 食物栄養専攻, 生活科学専攻

授業科目	英語Ⅳ(C)	担当者	グレゴリー・ダン Gregory Dunne
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1	授業外対応	授業終了後
		[必修/選択]	選択(注) [授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This course aims to develop the listening and speaking proficiency of students through the study and use of English in everyday situations. The course also aims to encourage the students' creativity in developing conversations of their own. The topics in each unit reflect the kinds of situations students come across both when studying in Japan and abroad.</p> <p>【概要】 Each unit will include a variety of listening and speaking activities designed to improve the students ability to comprehend spoken English and to use English with confidence in conversation and brief presentations. Students will also have the opportunity to create their own conversations, communicating more freely within the language structures being introduced in class.</p> <p>【到達目標】 Emphasis will be placed on developing the students ability and confidence to speak smoothly and naturally while engaging in short conversations.</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Listen Up, Talk Back, Book 2. English for Everyday Communication by Gillian Flaherty (Seibido Press) (2)		
授業スケジュール	第 1回 Introduction of the course and key topics 第 2回 Campus Life 第 3回 Health Care 第 4回 My Favorite Things 第 5回 International Travel 第 6回 Weather 第 7回 Education 第 8回 Review Quiz 第 9回 Exploring a New City 第 10回 Learning English 第 11回 Money 第 12回 The Environment 第 13回 News 第 14回 Review of key units in class groups 第 15回 Final Oral Review Practice in pairs		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	Short Presentations 20% Homework 10% Short Vocabulary Tests 20% Mid Term Quiz 20% Final Oral Quiz 30%		

(注) 経済専攻、経営情報専攻

授業科目	英語Ⅳ(D)	担当者	土持 かおり
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1	授業外対応	適宜対応
		[必修/選択]	選択(注) [授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 この授業のテーマは、映画を利用して、英語圏の人々が日常生活で使用している「生きた自然な英語」に触れながら、リスニング・スピーキングを中心に英語でのコミュニケーションに必要な力を養成していくことです。</p> <p>【概要】 授業では、映画『ゴースト』を教材として使用し、毎回、予習プリントによる語彙の学習、音声変化の学習の後、映画を視聴し、その後、1場面を使用しリスニング演習に取り組みとともに、日常生活で使われる口語表現を学習していきます。さらに日・英セリフの対比や日本語セリフ作成練習で表現力を高めていきます。また、この授業では、各自「ポートフォリオ」(「学習ファイル」と「学習の記録」)を作成し、毎回リフレクションシートの記入を通し自己の取り組みを振り返ることで、自律的に英語学習を進めていきます。</p> <p>【到達目標】 日常生活のなじみある場面において、ナチュラルスピードの自然な英語での発話の意図を理解できる英語力、それに簡潔に対応できる / 自分の意思で表現できる英語力の習得を目標とします。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 教師作成のプリントを毎回使用します。 (2) なし		
授業スケジュール	第 1回 授業ガイダンス：映画を使った英語学習/ 映画の英語 / 授業内容と進め方について 第 2回 The Loft：友人同士の会話(新居) 第 3回 Unchained Melody：同僚との会話(オフィス) 第 4回 Propose：恋人同士の会話(路上) 第 5回 Eternal Good-bye：友人同士の会話(自宅) 第 6回 Spiritual Adviser：初対面の相手との会話(自宅) 第 7回 The Truth：初対面の相手との会話(カフェ) 第 8回 At Molly's Apartment：知人との会話(自宅) 第 9回 The Police Station：警察官との会話(警察) 第 10回 Rita Miller：顧客との会話(銀行) 第 11回 Revenge：友人との会話(自宅) 第 12回 The Penny：知人との会話(自宅) 第 13回 Re-union：知人との会話(自宅) 第 14回 Last Chance：恋人同士の会話 第 15回 まとめ		
授業外学習(予習・復習)	小テストのための復習、毎回の予習プリント		
成績評価の方法	リフレクションシート(30%) + 復習のための小テスト(20%) + 定期試験(50%)		

(注) 経済専攻、経営情報専攻

授業科目	英語 IV (E)	担当者	金岡 正夫
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1	授業外対応	授業終了後
		[必修/選択] 選択 (注)	[授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】英語を使い、どれだけ自分を幅広く、奥深く説明できるかに挑戦していく。発信に向け、正しく効果的な発話・音読技法、ライティング技法を学んでいく。同時に自分自身の内面性を高めていく文献（英語資料）も読み込んでいく。</p> <p>【概要】英語の4技能をバランスよく高めていく。 自分をテーマにするため、深い視点から生き方（進路）やこだわりを明らかにしていく。</p> <p>【到達目標】正しく発音でき、効果的な発話技法を示すことができる。より多くの語彙（同義語）、美しい英文スタイル、理解しやすい内容と論理構成を使ったり、作り上げることができる。聞き取りの際にメモをとり、重要点を述べるができる。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント資料を製本化したものをテキストとして利用する（要購入）。（購入方法は第1回目の授業で説明・指示）</p> <p>(2) なし</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 音読・発話実践（発音記号）/ 辞書指導（英英事典の使い方概説）</p> <p>第3回 音読・発話実践（チャンキング、WPM）/ 辞書指導（英英事典、同義語・類義語）</p> <p>第4回 音読・発話実践（リエゾン）/ 辞書指導（英英事典、同義語・類義語）</p> <p>第5回 音読・発話実践（パラ言語）/ ライティング（パラグラフ構成）</p> <p>第6回 ライティング（英文スタイル：文体論）</p> <p>第7回 ライティング（語彙増強：同義語）</p> <p>第8回 まとめ</p> <p>第9回 自分の人生軸を語る（過去）<1> 発話、やり取り（リスニング、ノートテイキング）</p> <p>第10回 自分の人生軸を語る（過去）<2> 同上</p> <p>第11回 自分の人生軸を語る（現在）<1> 同上</p> <p>第12回 自分の人生軸を語る（現在）<2> 同上</p> <p>第13回 自分の人生軸を語る（近未来）<1> 同上</p> <p>第14回 自分の人生軸を語る（近未来）<2> 同上</p> <p>第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)			
成績評価の方法	発表（50%）＋提出物（30%）＋筆記試験（20%）		

(注) 経済専攻、経営情報専攻

授業科目	英語 IV (G)	担当者	遠峯 伸一郎
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1単位	授業外対応	講義前後に適宜対応
		[必修/選択] 選択 (注)	[授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】論理的な英語に慣れる。4年生大学編入試験に対応できる英文読解力を養成する。</p> <p>【概要】論説記事などを読みながら、構文と論理の組み立てを追いながら、英文を正確に読む練習をする。実用英語技能検定試験2級程度の読解問題を正しく解ける力を養成することを目標とする。</p> <p>【到達目標】構文と論理展開を手がかりにして英文を正確に読めるようになる。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) なし。</p> <p>(2) 随時紹介する。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 English Aizuchi</p> <p>第3回 The Power of Compliments</p> <p>第4回 試験(1), ピダハンの子育て (1)</p> <p>第5回 ピダハンの子育て (2)</p> <p>第6回 ピダハンの子育て (3)</p> <p>第7回 試験(2), 哲学とは何か?(1)</p> <p>第8回 哲学とは何か?(2)</p> <p>第9回 哲学とは何か?(3)</p> <p>第10回 試験(3), 会議で話し続けるのは男性か女性か?(1)</p> <p>第11回 会議で話し続けるのは男性か女性か?(2)</p> <p>第12回 会議で話し続けるのは男性か女性か?(3)</p> <p>第13回 Shukatsu Sexism (1)</p> <p>第14回 Shukatsu Sexism (2)</p> <p>第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	予習2時間以上、復習1時間以上必要である。		
成績評価の方法	試験（60%）＋課題（15%）＋授業への参加状況（25%）		

(注) 全専攻の学生が選択可能

授業科目	異文化コミュニケーション(英語)		担当者	英語担当教員全員		
	[履修年次]	1, 2年いずれでも履修可	[学期]	通年		
	[単位]	2単位	[必修/選択]	選択	[授業形態]	実習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】生きた英語の運用能力を高める。</p> <p>【概要】ハワイ大学カピオラニ・コミュニティ・カレッジで研修を行う。授業は英語研修とハワイ文化研修から成り立ち、滞在期間中、基礎的な生活英語とハワイの文化習慣などについて直接体験する。</p> <p>2019年度の実績 日程：9月4日～9月17日 参加者：31名 研修費用：約38万円（授業料、往復航空運賃、宿泊費、平日の朝・昼食費等）</p> <p>【到達目標】英語運用能力を高めるだけでなく、ハワイの文化を学び、多文化が共生するハワイで「国際化」「グローバル化」の意味を自らの実体験を通して考え、理解する。</p>					
(1)テキスト (2)参考文献	(1) ハワイ大学附属カピオラニ・コミュニティ・カレッジの担当教員が指示 (2)					
授業スケジュール	<p>事前指導： 特設時間を利用して受講希望者に3～4回行う。ハワイ大学カピオラニ・コミュニティ・カレッジでの研修内容の説明、パスポートの取得方法など、海外渡航に伴うさまざまな必要事項の説明、課題（研修中の日記、研修後のレポート作成）の指示など。</p> <p>海外研修： 9月を予定（約2週間）。現地の大学では、午前中に英語の授業、午後にはハワイ文化に関する授業（フラダンス）、KCC学生との異文化交流。その他、学外授業としてプランテーションヴィレッジ、イオラニ宮殿、真珠湾の見学。</p> <p>事後指導：帰国後に総括。</p>					
成績評価の方法	担当教員が課した課題（研修日誌・体験記）（50%）とハワイでの研修状況（50%）で評価する。					

授業科目	異文化コミュニケーション(中国語)		担当者	中国語担当教員全員		
	[履修年次]	1, 2年いずれでも可	授業外対応	メールで事前連絡すること		
	[学期]	通年	[単位]	2	[必修/選択]	選択
	[単位]	2	[必修/選択]	選択	[授業形態]	実習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】生きた中国語の運用能力を高める。</p> <p>【概要】南京農業大学国際教育学院で研修を行います。南京農業大学国際教育学院は、わたしたち県立短大と交流協定を結んでいる中国の大学です。この科目は、中国語研修と中国文化研修から成り立ちます。中国滞在期間中、基礎的な実用中国語を習得し、さらに、南京農業大学の学生と交流し、中国の文化習慣などについて直接体験します。中国語を用いて活動するため、あらかじめ「中国語Ⅰ」を受講または修得していることが履修条件になります。</p> <p>※2019年度中国研修の実績 ・日程：9月7日（土）～21日（土）[15日間] ・参加者：11名（日本語日本文学専攻3名、英語英文学専攻4名、経済専攻1名、経営情報専攻2名、第二部商経学科1名） ・費用：約16万円（ビザ、往復航空券、授業料、宿泊費、南京市内・市外の見学費用など）</p> <p>【到達目標】「国際化」の意味を自らの実体験を通して考え理解する。</p>					
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 南京農業大学国際教育学院の担当教員が指示します。 (2)					
授業スケジュール	<p>事前指導 受講希望者に3～5回行います。 [1] 南京農業大学国際教育学院での研修内容の説明、 [2] 海外渡航に伴うさまざまな事柄の説明、 [3] 課題（レポート作成）の指示などです。</p> <p>海外研修 休業期間に約2週間実施予定です。現地の大学で中国語の授業を受けます。そのほか、さまざまな活動を通じて中国の生活・文化に関する体験をします。さらに南京農業大学外国語学院日本語専攻の学生と交流します。</p> <p>事後指導 帰国後に総括します。</p>					
授業外学習(予習・復習)	適宜指示					
成績評価の方法	担当教員が課した課題（50%）、および中国での学習成果（50%）を基に成績を算出します。					

授業科目	ドイツ語Ⅰ		担当者	竹内 宏			
	[履修年次]	1年	授業外対応	メールによる。場合により非常勤講師室にて対応（アポイントメント必要）			
	[学期]	前期	[単位]	1	[必修/選択]	選択（注）	[授業形態]
テーマ及び概要	<p>【テーマ】現在ヨーロッパでは、EU（ヨーロッパ連合、つまりヨーロッパの統一）という歴史的な大実験が進行中で、ドイツはフランスとともにこの動きの中核をなす国の一つです。また、ドイツ語は1億2000万弱の母国語人口を擁し、ヨーロッパに限れば最大の言語とすることができます。このように、社会的・文化的に大きな影響力を持つ現代ドイツの事情に関する話を適宜盛り込みながら、ドイツ語を学習します。揺れるEUの行方、殺到する難民問題等のトピックも随時取り上げる予定です。</p> <p>【概要】ほとんどのの人にとっては初めて習う外国語ですが、「習うより慣れろ」をモットーに、授業は元気よく声を出して簡単な練習を何度も繰り返すやり方で進めます。</p> <p>【到達目標】</p> <p>1年間の学習で、自己紹介から日常生活の簡単な会話表現を身に付け、ドイツ語のしくみの概観を得ることが目標です。</p>						
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 羽根田知子 他著『クマといっしょにドイツ語』、朝日出版社</p> <p>(2) 在間進 他『アクセス独和辞典』三修社</p>						
授業スケジュール	<p>第1回 ドイツ及びドイツ語圏について、文字、アルファベット</p> <p>第2回 第0課 発音の規則</p> <p>第3回 第1課 動詞の現在人称変化</p> <p>第4回 第1課</p> <p>第5回 第1課</p> <p>第6回 第2課 名詞の性と複数形</p> <p>第7回 第2課</p> <p>第8回 第3課 格変化（名詞・人称代名詞）</p> <p>第9回 第3課</p> <p>第10回 第3課</p> <p>第11回 第4課 前置詞</p> <p>第12回 第4課</p> <p>第13回 第4課</p> <p>第14回 これまでの復讐</p> <p>第15回 復習と試験の説明</p>						
授業外学習(予習・復習)	1回の授業につき、予習1時間、復習1時間が必要						
成績評価の方法	筆記試験80%、授業への参加状況20%						
実務経験について	通訳（法廷通訳を含む）、翻訳経験多数						

(注) 英語英文学専攻のみ

授業科目	ドイツ語Ⅱ		担当者	竹内 宏			
	[履修年次]	1年	授業外対応	メールによる。場合により非常勤講師室にて対応（アポイントメント必要）			
	[学期]	後期	[単位]	1	[必修/選択]	選択（注）	[授業形態]
テーマ及び概要	<p>【テーマ】現在ヨーロッパでは、EU（ヨーロッパ連合、つまりヨーロッパの統一）という歴史的な大実験が進行中で、ドイツはフランスとともにこの動きの中核をなす国の一つです。また、ドイツ語は1億2000万弱の母国語人口を擁し、ヨーロッパに限れば最大の言語とすることができます。このように、社会的・文化的に大きな影響力を持つ現代ドイツの事情に関する話を適宜盛り込みながら、ドイツ語を学習します。揺れるEUの行方、殺到する難民問題等のトピックも随時取り上げる予定です。</p> <p>【概要】ほとんどのの人にとっては初めて習う外国語ですが、「習うより慣れろ」をモットーに、授業は元気よく声を出して簡単な練習を何度も繰り返すやり方で進めます。</p> <p>【到達目標】</p> <p>1年間の学習で、自己紹介から日常生活の簡単な会話表現を身に付け、ドイツ語のしくみの概観を得ることが目標です。</p>						
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 羽根田知子 他著『クマといっしょにドイツ語』、朝日出版社</p> <p>(2) 在間進 他『アクセス独和辞典』三修社</p>						
授業スケジュール	<p>第1回 前期の復習</p> <p>第2回 第5課 命令形・助動詞</p> <p>第3回 第5課</p> <p>第4回 第5課</p> <p>第5回 第6課 数詞・形容詞</p> <p>第6回 第6課</p> <p>第7回 第7課 複合動詞・zu不定詞</p> <p>第8回 第7課</p> <p>第9回 第7課</p> <p>第10回 第8・9課 時制と三基本形</p> <p>第11回 第8・9課</p> <p>第12回 第8・9課</p> <p>第13回 第10課 副文・関係分</p> <p>第14回 第10課、これまでの復習</p> <p>第15回 復習と試験の説明</p>						
授業外学習(予習・復習)	1回の授業につき、予習1時間、復習1時間が必要						
成績評価の方法	筆記試験80%、授業への参加状況20%						
実務経験について	通訳（法廷通訳を含む）、翻訳経験多数						

(注) 英語英文学専攻のみ

授業科目	フランス語Ⅰ		担当者	梁川 英俊
	[履修年次]	英語英文学専攻は1年次、生活科学科は2年次	授業外対応	授業終了後
	[学期]	前期	[単位]	1
			[必修/選択]	選択 (注)
			[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】フランス語の基礎を学びます。</p> <p>【概要】フランス語はフランスのみならず、ベルギー、スイス、カナダ、中東、アフリカ諸国など広い地域で話される国際語で、フランス語を公用語とする国は28カ国に及びます。フランス語はまた国連やEUなどの主要な国際機関でも公用語として使用されています。同じラテン語から派生したスペイン語、イタリア語、ポルトガル語などの共通点も多く、これらの言葉はフランス語を学ぶことにより学習が容易になります。また歴史的に英語に多くの語彙を提供し、英語の語彙の3分の1はフランス語に由来すると言われていています。もちろん、ファッションや料理を勉強する上でも欠かせない言葉です</p> <p>【到達目標】まずフランス語の発音をきちんとできるようになることが大事です。その上で、簡単な日常会話のフレーズも覚えれば楽しいでしょう。外国語はこまめな学習が大切です。こつこつやる習慣を身につけましょう！</p>			
(1)テキスト	(1) 『クロワッサン：基礎からわかるフランス語』(朝日出版社)			
(2)参考文献	(2) 適宜指示する			
授業スケジュール	第1回 授業全体の説明、アルファベットの発音など 第2回 Leçon 1 第3回 Leçon 1 第4回 Leçon 2 第5回 Leçon 2 第6回 Leçon 3 第7回 Leçon 3 第8回 Leçon 4 第9回 Leçon 4 第10回 Leçon 5 第11回 Leçon 5 第12回 Leçon 6 第13回 Leçon 6 第14回 まとめ 1 第15回 まとめ 2			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	筆記試験 (70%) + 小テスト (30%)			

(注) 英語英文学専攻は1年次、生活科学科は2年次

授業科目	フランス語Ⅱ		担当者	梁川 英俊
	[履修年次]	英語英文学専攻は1年次、生活科学科は2年次	授業外対応	授業終了後
	[学期]	後期	[単位]	1
			[必修/選択]	選択 (注)
			[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】フランス語の基礎を学びます。</p> <p>【概要】フランス語はフランスのみならず、ベルギー、スイス、カナダ、中東、アフリカ諸国など広い地域で話される国際語で、フランス語を公用語とする国は28カ国に及びます。フランス語はまた国連やEUなどの主要な国際機関でも公用語として使用されています。同じラテン語から派生したスペイン語、イタリア語、ポルトガル語などの共通点も多く、これらの言葉はフランス語を学ぶことにより学習が容易になります。また歴史的に英語に多くの語彙を提供し、英語の語彙の3分の1はフランス語に由来すると言われていています。もちろん、ファッションや料理を勉強する上でも欠かせない言葉です</p> <p>【到達目標】まずフランス語の発音をきちんとできるようになることが大事です。その上で、簡単な日常会話のフレーズも覚えれば楽しいでしょう。外国語はこまめな学習が大切です。こつこつやる習慣を身につけましょう！</p>			
(1)テキスト	(1) 『クロワッサン：基礎からわかるフランス語』(朝日出版社)			
(2)参考文献	(2) 適宜指示する			
授業スケジュール	第1回 Leçon 7 第2回 Leçon 7 第3回 Leçon 8 第4回 Leçon 8 第5回 Leçon 9 第6回 Leçon 9 第7回 Leçon 10 第8回 Leçon 10 第9回 Leçon 11 第10回 Leçon 11 第11回 Leçon 12 第12回 Leçon 12 第13回 まとめ 1 第14回 まとめ 2 第15回 まとめ 3			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	筆記試験 (70%) + 小テスト (30%)			

(注) 英語英文学専攻は1年次、生活科学科は2年次

授業科目	中国語Ⅰ(A)		担当者	楊 虹
	[履修年次]	1年	授業外対応	適宜対応(要予約)
	[学期]	前期	[単位]	1
			[必修/選択]	選択(注)
			[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 中国語に親しむ。</p> <p>【概要】 この授業では、中国語の発音を身につけ、ロールプレイ、ゲームなど様々な教室活動を通して、中国語の基本構文を楽しく学ぶ。さらに中国の音楽や映画などの映像、留学生との交流活動を通して中国の社会や文化にも触れる。</p> <p>【到達目標】 中国語の発音記号(ピンイン)の読み方と綴り方がわかり、簡単な日常あいさつ、自己紹介ができる。</p>			
(1)テキスト	(1) 陳淑梅・胡興智『楽々学習初級中国語12課』同学社			
(2)参考文献	(2) 授業中に紹介する。			
授業スケジュール	第1回 オリエンテーション：授業の概要説明、中国語で自分の名前を言う練習 第2回 発音(1)：単母音と声調の導入、練習 第3回 発音(2)：複母音の導入、練習 第4回 発音(3)：子音の導入、練習 第5回 発音(4)：子音の練習、発音のまとめ 第6回 動詞是の使い方 第7回 姓の言い方、尋ね方。フルネームの言い方、尋ね方 第8回 これまでの復習 第9回 動詞文の導入と練習 第10回 動詞文の練習、疑問文の練習 第11回 二つ以上の動詞からなる連動文 第12回 希望や願望を表す助動詞「想」の導入、練習 第13回 留学生との交流：中国人留学生と中国語で話してみる 第14回 全体の復習 第15回 まとめ			
授業外学習(予習・復習)	適宜小テストを実施するので、毎回復習が必要である。			
成績評価の方法	小テスト(40%)と中国に関する発表またはレポート(10%)、口頭試験(50%)で評価する			

(注) 日本語日本文学専攻

(注) 受講登録が30人を超えたときは、人数を制限する場合があります。

授業科目	中国語Ⅰ(B)		担当者	尾崎 孝宏
	[履修年次]	1年	授業外対応	メールによる(ozakit@leh.kagoshima-u.ac.jp)
	[学期]	前期	[単位]	1
			[必修/選択]	選択(注)
			[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】中国語と中国について学ぶ(1)</p> <p>【概要】中国の経済発展にともない、今後は中国と交流する機会が増加すると思います。鹿児島は中国との距離も近く、旅行や仕事で中国を訪れるチャンスが多くなることでしょう。そこで本授業では、一人で中国に行った場合でも、基本的なことに対応できるようにすることを目指します。前期では特に発音を中心として、簡単な文型を学習します。また中国の文化や社会に対する理解を深めるために、毎回10分程度のビデオを視聴します。</p> <p>【到達目標】中国語検定準4級程度(後期終了時の目標)</p>			
(1)テキスト	(1) 岩井伸子・胡興智著『できる・つたわる コミュニケーション中国語』(白水社)			
(2)参考文献	(2) 辞書などについては授業時に指示します。			
授業スケジュール	第1回 発音(1) 第2回 発音(2) 第3回 発音(3) 第4回 名前を中国語で言う、覚えておきたい表現 第5回 「あいさつする」第1課 第6回 「名前を尋ねる」第2課 第7回 「食べたいものを尋ねる」第3課 第8回 「近況を尋ねる」第4課 第9回 第1課～第4課の復習 第10回 「予定を尋ねる」第5課 第11回 「場所を尋ねる」第6課 第12回 「注文する」第7課 第13回 「値段の交渉をする」第8課 第14回 試験対策練習 第15回 まとめ			
授業外学習(予習・復習)	予習として事前にテキストに目を通すことと、復習としてテキスト添付の音源を使った発音練習をすることが望ましい			
成績評価の方法	期末試験(50%)、授業への貢献度(50%)			

(注) 日本語日本文学専攻、英語英文学専攻

(注) 受講登録が30人を超えたときは、人数を制限する場合があります。

授業科目	中国語Ⅰ(C)		担当者	尾崎 孝宏
	[履修年次] 1年		授業外対応	メールによる (ozakit@leh.kagoshima-u.ac.jp)
	[学期] 前期	[単位] 1	[必修/選択] 選択(注)	[授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】中国語と中国について学ぶ(1)</p> <p>【概要】中国の経済発展にともない、今後は中国と交流する機会が増加すると思います。鹿児島は中国との距離も近く、旅行や仕事で中国を訪れるチャンスが多くなることでしょう。そこで本授業では、一人で中国に行った場合でも、基本的なことに対応できるようにすることを目指します。前期では特に発音を中心として、簡単な文型を学習します。また中国の文化や社会に対する理解を深めるために、毎回10分程度のビデオを視聴します。</p> <p>【到達目標】中国語検定準4級程度(後期終了時の目標)</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 岩井伸子・胡興智著『できる・つたわる コミュニケーション中国語』(白水社)</p> <p>(2) 辞書などについては授業時に指示します。</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 発音(1)</p> <p>第2回 発音(2)</p> <p>第3回 発音(3)</p> <p>第4回 名前を中国語で言う、覚えておきたい表現</p> <p>第5回 「あいさつする」第1課</p> <p>第6回 「名前を尋ねる」第2課</p> <p>第7回 「食べたいものを尋ねる」第3課</p> <p>第8回 「近況を尋ねる」第4課</p> <p>第9回 第1課～第4課の復習</p> <p>第10回 「予定を尋ねる」第5課</p> <p>第11回 「場所を尋ねる」第6課</p> <p>第12回 「注文する」第7課</p> <p>第13回 「値段の交渉をする」第8課</p> <p>第14回 試験対策練習</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	予習として事前にテキストに目を通すことと、復習としてテキスト添付の音源を使った発音練習をすることが望ましい			
成績評価の方法	期末試験(50%)、授業への貢献度(50%)			

(注) 経済専攻

(注) 受講登録が30人を超えたときは、人数を制限する場合があります。

授業科目	中国語Ⅰ(D)		担当者	三木 夏華
	[履修年次] 1年		授業外対応	授業終了時に対応
	[学期] 前期	[単位] 1	[必修/選択] 選択(注)	[授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】テーマ 初めて中国語を学ぶ学生のための入門コース。</p> <p>【概要】中国語で最も難しいとされる発音と声調をしっかりとマスターし、基本的な文法事項を学ぶことを目的とする。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ビンイン、声調記号が読めるようになる。 2 自己紹介など簡単な会話能力を身につける。 			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 「しゃべっていいとも 中国語」朝日出版社 陳淑梅、劉光赤 著</p> <p>(2) 授業で紹介する。</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 発音、声調</p> <p>第2回 発音、声調</p> <p>第3回 発音、声調</p> <p>第4回 発音、声調</p> <p>第5回 人称代名詞、名前の言い方</p> <p>第6回 会話練習、ヒアリング</p> <p>第7回 “的”、“是”について</p> <p>第8回 会話練習、ヒアリング</p> <p>第9回 動詞述語文、連動文</p> <p>第10回 会話練習、ヒアリング</p> <p>第11回 指示代名詞、“有”構文</p> <p>第12回 会話練習、ヒアリング</p> <p>第13回 “在”構文、方位詞</p> <p>第14回 会話練習、ヒアリング</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	前回学習した課をCDを聞いて必ず復習すること。重要フレーズは暗記すること。			
成績評価の方法	期末試験50%+授業での発言内容、出席態度、復習・課題の状況50%			

(注) 経営情報専攻

(注) 受講登録が30人を超えたときは、人数を制限する場合があります。

授業科目	中国語 I (E)	担当者	中筋 健吉
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1	授業外対応	メールで対応します。k9553471@kadai.jp
		[必修/選択]	選択 (注) [授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】初級中国語の学習を行います。</p> <p>【概要】中国語 I ではまず基本的な中国語の発音を学び、その後テキストに従って文法、会話を勉強します。毎回小テストを行いますので、頑張ってください。なお、中国事情や文化の理解のために、適宜中国文化紹介DVDや、期間中1回は中国映画を鑑賞する予定です。</p> <p>【到達目標】中国語の基本的な発音の習得および簡単な中国語の会話・読解・作文能力の習得をめざします。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 寺西光輝『使って学ぶ!中国語コミュニケーション』(朝日出版社) (2)		
授業スケジュール	<p>第1回 イントロダクション 中国語について 教科書の使い方 第2回 発音篇(1) ピンイン、声調、母音、複合母音、子音 第3回 発音篇(2) 鼻母音、声調変化、発音まとめ 第4回 第0課 名前について話す 第5回 第1課(1) 身分や出身について話す 第6回 第1課(2) 身分や出身について話す 第7回 第2課(1) 身の回りの物や人について話す 第8回 第2課(2) 身の回りの物や人について話す 第9回 第3課(1) 年齢や学年、所有について話す 第10回 第3課(2) 年齢や学年、所有について話す 第11回 第4課(1) 時間や一日の行動について話す 第12回 第4課(2) 時間や一日の行動について話す 第13回 第5課(1) 性質や状態、天候について話す 第14回 第5課(2) 性質や状態、天候について話す 第15回 前期のまとめ *スケジュールは授業進度その他の状況によって変更することもあります。</p>		
授業外学習(予習・復習)	予習、復習ともに、教科書添付のCDの音声資料をよく聞き、テキストの中国語文の音読、日本語訳を確認すること。		
成績評価の方法	筆記試験(50%) + 授業中に実施する小テスト(10%) + 授業での発言内容(40%) 但し状況により変更の可能性もあります。		

(注) 経済専攻、経営情報専攻

(注) 受講登録が30名を超えた時は、受講制限をする場合があります。

授業科目	中国語 I (F)	担当者	土肥 克己
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1	授業外対応	メールで事前連絡すること
		[必修/選択]	選択 (注) [授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】単語で作文 I</p> <p>【概要】1回に25個ほどの単語を覚えてきてもらい、それを使って作文をします。基本的に単純な文だけにして、書かず口頭で答えてみましょう。短い文がぱっと口から出るようになれば、外国語もそれほど難しくはないものです。</p> <p>【到達目標】中国語検定準4級、漢語水平考試 HSK 筆記1級程度に1年間の語学目標レベルを設定します。前期はその前半分の学習に当てます。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリントを配布します。 (2) 関西大学中国語教材研究会編『中国語検定徹底対策準4級』アルク		
授業スケジュール	<p>第1回 授業の進め方について 第2回 声調と母音 第3回 子音 第4回 発音のまとめ 第5回 表記の規則 第6回 クラス名簿、あいさつ(1) 第7回 クラス名簿、あいさつ(2) 第8回 数字、お金、時刻(1) 第9回 数字、お金、時刻(2) 第10回 数字、お金、時刻(3) 第11回 簡単な動詞の文(1) 第12回 簡単な動詞の文(2) 第13回 意思表示、誘いかけ(1) 第14回 意思表示、誘いかけ(2) 第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	筆記の小テストを毎回実施するので予習してきてください。		
成績評価の方法	作文と小テスト50%、定期試験50%		

(注) 食物栄養専攻

(注) 受講登録が30人を超えたときは、人数を制限する場合があります。

授業科目	中国語 I (G)	担当者	中筋 健吉
	[履修年次] 1年, 2年 (注) [学期] 前期 [単位] 1	授業外対応	メールで対応します。k9553471@kadai.jp
		[必修/選択]	選択 (注) [授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】初級中国語の学習を行います。</p> <p>【概要】中国語 I ではまず基本的な中国語の発音を学び、その後テキストに従って文法、会話を勉強します。毎回小テストを行いますので、頑張ってください。なお、中国事情や文化の理解のために、適宜中国文化紹介DVDや、期間中1回は中国映画を鑑賞する予定です。</p> <p>【到達目標】中国語の基本的な発音の習得および簡単な中国語の会話・読解・作文能力の習得をめざします。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 寺西光輝『使って学ぶ!中国語コミュニケーション』(朝日出版社) (2)		
授業スケジュール	<p>第1回 インTRODクシヨン 中国語について 教科書の使い方 第2回 発音篇(1) ピンイン、声調、母音、複合母音、子音 第3回 発音篇(2) 鼻母音、声調変化、発音まとめ 第4回 第0課 名前について話す 第5回 第1課(1) 身分や出身について話す 第6回 第1課(2) 身分や出身について話す 第7回 第2課(1) 身の回りの物や人について話す 第8回 第2課(2) 身の回りの物や人について話す 第9回 第3課(1) 年齢や学年、所有について話す 第10回 第3課(2) 年齢や学年、所有について話す 第11回 第4課(1) 時間や一日の行動について話す 第12回 第4課(2) 時間や一日の行動について話す 第13回 第5課(1) 性質や状態、天候について話す 第14回 第5課(2) 性質や状態、天候について話す 第15回 前期のまとめ *スケジュールは授業進度その他の状況によって変更することもあります。</p>		
授業外学習(予習・復習)	予習、復習ともに、教科書に指定する音声ファイルをよく聞き、テキストの中国語文の音読、日本語訳を確認すること。		
成績評価の方法	筆記試験(50%) + 授業中に実施する小テスト(10%) + 授業での発言内容(40%) 但し状況により変更の可能性もあります。		

(注) 英語英文学専攻は1年次、生活科学専攻は2年次

(注) 受講登録が30名を超えた時は、受講制限をする場合があります。

授業科目	中国語 I (H)	担当者	陳 躍
	[履修年次] 1年, 2年 (注) [学期] 前期 [単位] 1	授業外対応	授業終了後及びメールによる(アドレスは講義中に告知)
		[必修/選択]	選択 (注) [授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】楽しい中国語会話</p> <p>【概要】中国語会話の練習はスポーツだと考える。会話は頭より口を使い、説明を聞くより真似て練習する。言葉は形で文化がその中身である。文化を言葉と平行して学んでいくのが最速な方法だと考える。90分のうち、70分程度練習し、残りの時間は文化や事情を語る。中国の映画を数回鑑賞する。授業毎に感想を書いてもらい、参考にする。希望に応えるように、授業のあり方を随時修正する。</p> <p>【到達目標】中国語検定準四級。漢語水平考試HSK筆記1級程度。前期はその前半部分の学習に当てる</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) テキスト①『楽しい中国』于国軍著 斯文堂 (2) ①関西大学中国語教材研究会編「中国語検定徹底対策準四級」アルク ②『恋文の翻訳一日中往来』陳躍著 南日本新聞社		
授業スケジュール	<p>第1回 我是上海人 第2回 我叫王平 第3回 这里是南京路 第4回 现在几点了? 第5回 今天是星期几? 第6回 你家有几口人? 第7回 没关系(映画) 第8回 香港的夏天热吗?(映画) 第9回 四川菜很好吃(中間テスト) 第10回 我经常散步 第11回 牌价是多少? 第12回 汉语难不难? 第13回 我没吃蒜 第14回 我想去超市 第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	評価割合を定期試験50%にする。残り50%の評価は小テストとレポートにする		

(注) 文学科・商経学科は1年次、生活科学学科は2年次

(注) 受講登録が30名を超えたときは、人数を制限する場合があります。

授業科目	中国語Ⅱ (A)		担当者	楊 虹
	〔履修年次〕	1年	授業外対応	適宜対応 (要予約)
	〔学期〕	後期	〔単位〕	1
			〔必修/選択〕	選択 (注)
			〔授業形態〕	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 中国語によるコミュニケーションに慣れる。</p> <p>【概要】 この授業では、中国語Ⅰを履修した受講生を対象としている。前期の内容を復習しつつ、引き続き中国語の基本構文を導入し、中国語を聞いて、話す力を伸ばす。さらに、中国の音楽や映画などの映像、留学生との交流活動を通して中国の社会や文化にも触れる。</p> <p>【到達目標】 学習を進める上での基礎的知識を有し、中国語による家族構成の紹介や、簡単な買い物ができる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 陳淑梅・胡興智『楽々学習初級中国語 12課』同学社</p> <p>(2) 授業中に紹介する。</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 オリエンテーション：授業の概要説明，前期の復習</p> <p>第 2回 動詞「有」の導入，練習</p> <p>第 3回 動詞「在」の導入，練習</p> <p>第 4回 「有」と「在」の応用練習</p> <p>第 5回 年月日、曜日の言い方の練習</p> <p>第 6回 助動詞「得」と「要」言い方の導入，練習</p> <p>第 7回 助動詞を使った文の応用練習</p> <p>第 8回 復習 (1) これまでの内容の復習</p> <p>第 9回 形容詞述語文の導入，練習</p> <p>第 10回 時刻の言い方の導入，練習</p> <p>第 11回 形容詞述語文の応用練習</p> <p>第 12回 お金の言い方の導入，練習</p> <p>第 13回 量詞の導入，練習</p> <p>第 14回 復習 (4)：全体の復習</p> <p>第 15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜小テストを実施するので、毎回復習が必要である。			
成績評価の方法	小テスト (40%) と中国に関するレポート (10%)、口頭試験 (50%) で評価する			

(注) 日本語日本文学専攻

(注) 受講登録が 30 人を超えたときは、人数を制限する場合があります。

授業科目	中国語Ⅱ (B)		担当者	尾崎 孝宏
	〔履修年次〕	1年	授業外対応	メールによる (ozakit@leh.kagoshima-u.ac.jp)
	〔学期〕	後期	〔単位〕	1
			〔必修/選択〕	選択 (注)
			〔授業形態〕	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】中国語と中国について学ぶ (2)</p> <p>【概要】中国の経済発展にともない、今後は中国と交流する機会が増加すると思います。鹿児島は中国との距離も近く旅行や仕事で中国を訪れるチャンスが多くなることでしょう。そこで本授業では、一人で中国に行った場合でも基本的なことに対応できるようになることを目指します。後期では、日常的に良く使う文型を中心に、表現の幅を広げます。また前期に引き続き毎回中国の文化や社会に関するビデオを視聴します。</p> <p>【到達目標】中国語検定準4級程度 (後期終了時の目標)</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 岩井伸子・胡興智著『できる・つたわる コミュニケーション中国語』(白水社)</p> <p>(2) 辞書などについては授業時に指示します。</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 第5課～第8課の復習</p> <p>第 2回 「出来事を尋ねる1」第9課</p> <p>第 3回 「出来事を尋ねる2」第10課</p> <p>第 4回 「希望を尋ねる」第11課</p> <p>第 5回 「行き方を尋ねる」第12課</p> <p>第 6回 「経験を尋ねる」第13課</p> <p>第 7回 第9課～第13課の復習</p> <p>第 8回 「相手の都合を尋ねる」第14課</p> <p>第 9回 「比較する」第15課</p> <p>第 10回 「条件・情報を尋ねる」第16課</p> <p>第 11回 「進行状況を尋ねる」第17課</p> <p>第 12回 「別れを告げる」第18課</p> <p>第 13回 第14課～第18課の復習</p> <p>第 14回 試験対策練習</p> <p>第 15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	予習として事前にテキストに目を通すことと、復習としてテキスト添付の音源を使った発音練習をすることが望ましい			
成績評価の方法	期末試験 (50%)、授業への貢献度 (50%)			

(注) 日本語日本文学専攻，英語英文学専攻

(注) 受講登録が 30 人を超えたときは、人数を制限する場合があります。

授業科目	中国語Ⅱ (C)		担当者	尾崎 孝宏
	[履修年次]	1年	授業外対応	メールによる (ozakit@leh.kagoshima-u.ac.jp)
	[学期]	後期	[単位]	1
			[必修/選択]	選択 (注)
			[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】中国語と中国について学ぶ (2)</p> <p>【概要】中国の経済発展にともない、今後は中国と交流する機会が増加すると思います。鹿児島は中国との距離も近く旅行や仕事で中国を訪れるチャンスが多くなることでしょう。そこで本授業では、一人で中国に行った場合でも基本的なことに対応できるようになることを目指します。後期では、日常的に良く使う文型を中心に、表現の幅を広げます。また前期に引き続き毎回中国の文化や社会に関するビデオを視聴します。</p> <p>【到達目標】中国語検定準4級程度 (後期終了時の目標)</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 岩井伸子・胡興智著『できる・つたわる コミュニケーション中国語』(白水社)</p> <p>(2) 辞書などについては授業時に指示します。</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 第5課～第8課の復習</p> <p>第 2回 「出来事を尋ねる1」第9課</p> <p>第 3回 「出来事を尋ねる2」第10課</p> <p>第 4回 「希望を尋ねる」第11課</p> <p>第 5回 「行き方を尋ねる」第12課</p> <p>第 6回 「経験を尋ねる」第13課</p> <p>第 7回 第9課～第13課の復習</p> <p>第 8回 「相手の都合を尋ねる」第14課</p> <p>第 9回 「比較する」第15課</p> <p>第10回 「条件・情報を尋ねる」第16課</p> <p>第11回 「進行状況を尋ねる」第17課</p> <p>第12回 「別れを告げる」第18課</p> <p>第13回 第14課～第18課の復習</p> <p>第14回 試験対策練習</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	予習として事前にテキストに目を通すことと、復習としてテキスト添付の音源を使った発音練習をすることが望ましい			
成績評価の方法	期末試験 (50%)、授業への貢献度 (50%)			

(注) 経済専攻

(注) 受講登録が30人を超えたときは、人数を制限する場合があります。

授業科目	中国語Ⅱ (D)		担当者	三木 夏華
	[履修年次]	1年	授業外対応	授業終了時に対応
	[学期]	後期	[単位]	1
			[必修/選択]	選択 (注)
			[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】前期の中国語Ⅰに続く入門コース。</p> <p>【概要】前期に引き続き、中国語の発音要領と中国語文法の基礎をマスターする。 道の尋ね方、買い物仕方など、日常生活で不可欠な表現を身につける。</p> <p>【到達目標】中国語検定準4級、漢語水平考試HSK筆記1級のレベルにまで到達することを目標とする。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 「しゃべっていいとも 中国語」朝日出版社 陳淑梅、劉光赤 著</p> <p>(2) 授業で紹介する。</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 数の言い方、中国のお金の言い方、値段の尋ね方</p> <p>第 2回 会話練習、ヒアリング</p> <p>第 3回 値段の尋ね方、年月日、曜日の言い方</p> <p>第 4回 会話練習、ヒアリング</p> <p>第 5回 年齢の言い方、量詞、動詞の重ね型</p> <p>第 6回 会話練習、ヒアリング</p> <p>第 7回 時刻の言い方、語気助詞の“了”</p> <p>第 8回 会話練習、ヒアリング</p> <p>第 9回 時間の長さの言い方、完了の“了”</p> <p>第10回 会話練習、ヒアリング</p> <p>第11回 前置詞、助動詞1</p> <p>第12回 会話練習、ヒアリング</p> <p>第13回 動詞の進行を表す表現、助動詞2</p> <p>第14回 会話練習、ヒアリング</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	前回学習した課をCDを聞いて必ず復習すること。重要フレーズは暗記すること。			
成績評価の方法	期末試験50%+授業での発言内容、出席態度、復習・課題の状況50%			

(注) 経営情報専攻

(注) 受講登録が30人を超えたときは、人数を制限する場合があります。

授業科目	中国語Ⅱ(E)		担当者	中筋 健吉
	[履修年次] 1年		授業外対応	メールで対応します。k9553471@kadai.jp
	[学期] 後期	[単位] 1	[必修/選択] 選択(注)	[授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】初級中国語の学習を行います。</p> <p>【概要】中国語Ⅰで培った初級の中国語力をさらにステップアップさせるべく、テキストに従って、さまざまな文法、会話のパターンを習得します。小テストも同様に毎回行います。今期も適宜中国文化紹介DVDや中国映画(1回)を鑑賞します。</p> <p>【到達目標】中国語の基本的な発音の習得および簡単な中国語の会話・読解・作文能力の習得をめざします。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 寺西光輝『使って学ぶ!中国語コミュニケーション』(朝日出版社)			
授業スケジュール	<p>第1回 第6課(1) 趣味や好み、できることについて話す</p> <p>第2回 第6課(2) 趣味や好み、できることについて話す</p> <p>第3回 第7課(1) 住んでいる場所や家族について話す</p> <p>第4回 第7課(2) 住んでいる場所や家族について話す</p> <p>第5回 第8課(1) 場所や存在について話す</p> <p>第6回 第8課(2) 場所や存在について話す</p> <p>第7回 第9課(1) 交通手段や希望について話す</p> <p>第8回 第9課(2) 交通手段や希望について話す</p> <p>第9回 第10課(1) 動作の発生や進行について話す</p> <p>第10回 第10課(2) 動作の発生や進行について話す</p> <p>第11回 第11課(1) 過去の出来事や値段について話す</p> <p>第12回 第11課(2) 過去の出来事や値段について話す</p> <p>第13回 中国映画鑑賞+中国映画の中国語</p> <p>第14回 中国映画鑑賞+中国映画の中国語</p> <p>第15回 授業まとめ</p> <p>*スケジュールは授業進度その他の状況によって変更することもあります。</p>			
授業外学習(予習・復習)	予習、復習ともに、教科書添付のCDの音声資料をよく聞き、テキストの中国語文の音読、日本語訳を確認すること。			
成績評価の方法	筆記試験(50%) + 授業中に実施する小テスト(10%) + 授業での発言内容(40%) 但し状況により変更の可能性もあります。			

(注) 経済専攻、経営情報専攻

(注) 受講登録が30名を超えた時は、受講制限をする場合があります。

授業科目	中国語Ⅱ(F)		担当者	土肥 克己
	[履修年次] 2年		授業外対応	メールで事前連絡すること
	[学期] 後期	[単位] 1	[必修/選択] 選択(注)	[授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】単語で作文Ⅱ</p> <p>【概要】1回に25個ほどの単語を覚えてきてもらい、それを使って作文をします。やや複雑な文にして、基本的に書かず口頭で答えてみましょう。長い作文は文法的に間違えやすいですがそれは気にせず、相手に気持ちを伝えることを大切にします。</p> <p>【到達目標】中国語検定準4級、漢語水平考試 HSK 筆記1級程度に1年間の語学目標レベルを設定します。後期はその後半分の学習に当てます。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリントを配布します。 (2) 関西大学中国語教材研究会編『中国語検定徹底対策準4級』アルク			
授業スケジュール	<p>第1回 連続動作、意向確認(1)</p> <p>第2回 連続動作、意向確認(2)</p> <p>第3回 なに? どこ? だれ?(1)</p> <p>第4回 なに? どこ? だれ?(2)</p> <p>第5回 モノ(1)</p> <p>第6回 モノ(2)</p> <p>第7回 場所(1)</p> <p>第8回 場所(2)</p> <p>第9回 状態(1)</p> <p>第10回 状態(2)</p> <p>第11回 態度、ある瞬間(1)</p> <p>第12回 態度、ある瞬間(2)</p> <p>第13回 1年間の復習(1)</p> <p>第14回 1年間の復習(2)</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	筆記の小テストを毎回実施するので予習してきてください。			
成績評価の方法	作文と小テスト50%、定期試験50%			

(注) 食物栄養専攻

(注) 受講登録が30人を超えたときは、人数を制限する場合があります。

授業科目	中国語Ⅱ (G)		担当者	中筋 健吉
	[履修年次] 1年, 2年 (注)		授業外対応	メールで対応します。k9553471@kadai.jp
	[学期] 後期	[単位] 1	[必修/選択] 選択 (注)	[授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】初級中国語の学習を行います。</p> <p>【概要】中国語Ⅰで培った初級の中国語力をさらにステップアップさせるべく、テキストに従って、さまざまな文法、会話のパターンを習得します。小テストも同様に毎回行います。今期も適宜中国文化紹介DVDや中国映画(1回)を鑑賞します。</p> <p>【到達目標】中国語の基本的な発音の習得および簡単な中国語の会話・読解・作文能力の習得をめざします。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 寺西光輝『使って学ぶ!中国語コミュニケーション』(朝日出版社)			
授業スケジュール	<p>第1回 第6課(1) 趣味や好み、できることについて話す</p> <p>第2回 第6課(2) 趣味や好み、できることについて話す</p> <p>第3回 第7課(1) 住んでいる場所や家族について話す</p> <p>第4回 第7課(2) 住んでいる場所や家族について話す</p> <p>第5回 第8課(1) 場所や存在について話す</p> <p>第6回 第8課(2) 場所や存在について話す</p> <p>第7回 第9課(1) 交通手段や希望について話す</p> <p>第8回 第9課(2) 交通手段や希望について話す</p> <p>第9回 第10課(1) 動作の発生や進行について話す</p> <p>第10回 第10課(2) 動作の発生や進行について話す</p> <p>第11回 第11課(1) 過去の出来事や値段について話す</p> <p>第12回 第11課(2) 過去の出来事や値段について話す</p> <p>第13回 中国映画鑑賞+中国映画の中国語</p> <p>第14回 中国映画鑑賞+中国映画の中国語</p> <p>第15回 授業まとめ</p> <p>*スケジュールは授業進度その他の状況によって変更することもあります。</p>			
授業外学習(予習・復習)	予習、復習ともに、教科書添付のCDの音声資料をよく聞き、テキストの中国語文の音読、日本語訳を確認すること。			
成績評価の方法	筆記試験(50%) + 授業中に実施する小テスト(10%) + 授業での発言内容(40%) 但し状況により変更の可能性もあります。			

(注) 英語英文学専攻は1年次、生活科学専攻は2年次

(注) 受講登録が30名を超えた時は、受講制限をする場合があります。

授業科目	中国語Ⅱ (H)		担当者	陳 躍
	[履修年次] 1年, 2年 (注)		授業外対応	授業終了後、メールによる(アドレスは講義中に告知)
	[学期] 後期	[単位] 1	[必修/選択] 選択 (注)	[授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】楽しい中国語会話</p> <p>【概要】中国語会話の練習はスポーツだと考える。会話は頭より口を使い、説明を聞くより真似て練習する。言葉は形で文化がその中身である。文化を言葉と平行して学んでいくのが最速な方法だと考える。90分のうち、70分程度練習し、残りの時間は文化や事情を語る。中国の映画を数回鑑賞する。授業毎に感想を書いてもらい、参考にする。希望に応えるように、授業のあり方を随時修正する。</p> <p>【到達目標】中国語検定準四級。漢語水平考試HSK筆記1級程度。後期はその後半部分の学習に当てる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) テキスト①『楽しい中国』于国軍著 斯文堂</p> <p>(2) ①関西大学中国語教材研究会編「中国語検定徹底対策準四級」アルク</p> <p>②『恋文の翻訳一日中往来』陳躍著 南日本新聞社</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 来我家玩吧</p> <p>第2回 我打算去旅行</p> <p>第3回 没看过, 听过</p> <p>第4回 我能参加</p> <p>第5回 我记一下</p> <p>第6回 我们边走边谈</p> <p>第7回 好像借给小李了(中間テスト)</p> <p>第8回 我不会打日文(映画)</p> <p>第9回 你知道号码吗?(映画)</p> <p>第10回 什么都可以</p> <p>第11回 被谁偷走了呢?</p> <p>第12回 让你久等了</p> <p>第13回 有没有单间?</p> <p>第14回 我说得不好</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	筆記の小テストを毎回実施するので予習してきてください。			
成績評価の方法	評価割合を定期試験50%にする。残り50%の評価は小テストとレポートにする			

(注) 文学科・商経学科は1年次、生活科学専攻は2年次

(注) 受講登録が30人を超えたときは、人数を制限する場合があります。

授業科目	中国語Ⅲ		担当者	楊 虹			
	[履修年次]	2年	授業外対応	適宜対応 (要予約)			
	[学期]	前期	[単位]	1	[必修/選択]	選択 (注) [授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 中国語の体系を把握する。</p> <p>【概要】 この授業は、中国語Ⅰ・Ⅱを履修した受講生を対象とする。中国語検定試験4級程度の語彙、文法の獲得を目指し、中国語の読む・聞く・話す力をさらに伸ばす。また、後半では自立的に中国語を学ぶ力を身につけることを目的に、グループで中国語の寸劇を作って発表する活動を取り入れる。</p> <p>【到達目標】 中国語検定試験4級を取得することを目指すと同時に今後自立的に中国語を学習していく方法を身につける。</p>						
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布する。</p> <p>(2) 授業中に紹介する。</p>						
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション：授業の概要説明および1年次に習った内容の復習</p> <p>第2回 年齢の言い方と尋ね方</p> <p>第3回 前置詞「在」(～で～をする)の導入、練習</p> <p>第4回 完了の「了」の導入、練習</p> <p>第5回 時間量の言い方の導入、練習</p> <p>第6回 文末詞「了」の導入、練習</p> <p>第7回 場所の言い方の導入、練習</p> <p>第8回 必要の「得」：「ねばならない」を表す助動詞「得」の導入、練習</p> <p>第9回 これまでの復習：これまで習った内容の復習を行う。</p> <p>第10回 中国語で寸劇①：シナリオの作成</p> <p>第11回 中国語で寸劇②：シナリオの修正</p> <p>第12回 中国語で寸劇③：シナリオの決定、台本を読む練習</p> <p>第13回 中国語で寸劇④：台本を読む練習、通し稽古</p> <p>第14回 中国語で寸劇⑤：発表</p> <p>第15回 まとめ</p>						
授業外学習(予習・復習)	適宜小テストを実施するので、毎回復習が必要である。						
成績評価の方法	小テスト (50%)、口頭試験 (50%) で評価する						

(注) 生活科学科を除く

授業科目	中国語Ⅳ		担当者	土肥 克己			
	[履修年次]	2年	授業外対応	メールで事前連絡すること			
	[学期]	後期	[単位]	1	[必修/選択]	選択 (注) [授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】中国語で本を読む</p> <p>【概要】中国のラジオドラマの台本を読みます。台本ですので自然な会話文を学べます。発音を特に重視しますので、十分に予習・復習してから受講してください。</p> <p>【到達目標】中国語検定4級レベル、漢語水平考試 HSK 筆記2級程度に半年間の語学目標レベルを設定します。</p>						
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布します。</p> <p>(2)</p>						
授業スケジュール	<p>第1回 授業の進め方について</p> <p>第2回 発音の復習 (1)</p> <p>第3回 発音の復習 (2)</p> <p>第4回 発音の復習 (3)</p> <p>第5回 発音の復習 (4)</p> <p>第6回 講読 (1)</p> <p>第7回 講読 (2)</p> <p>第8回 講読 (3)</p> <p>第9回 講読 (4)</p> <p>第10回 講読 (5)</p> <p>第11回 講読 (6)</p> <p>第12回 講読 (7)</p> <p>第13回 講読 (8)</p> <p>第14回 講読 (9)</p> <p>第15回 まとめ</p>						
授業外学習(予習・復習)	中国語の原文と発音をプリントにして事前に配布するので予習・復習をしてきてください。						
成績評価の方法	予習と発表 100%。定期試験は実施しません。						

(注) 生活科学科を除く

3 教養科目（スポーツ・健康科目）

授業科目	スポーツ・健康論	担当者	西迫 貴美代
	[履修年次] 2年次	授業外対応	随時 nisizako@k-kentan.ac.jp
	[学期] 前期 [単位] 1	[必修/選択] 必修 (注)	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】本講義は、心身の基本的機能やその適応能力について理解し、健康づくりに重要な三つのポイントである運動・栄養・休養の内容を中心に、ライフスタイルのあり方について学習することを主な目的とする。</p> <p>【概要】導入において、過去の健康にかかわる現象を題材とし、「変わらないもの」と「変わったもの」を浮き彫りにする内容を取り扱い、社会と個人の健康問題の関連についての関心を高め、様々な健康ブームの現象の背景を探究する。また毎回の講義では、日常生活を浮き彫りにするワークを取り入れ、自分に適した健康づくりやライフスタイルを形成するための知識と技能を身につけるための方法を提案する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1)日常生活における健康の重要性について知識を深める 2)生活習慣による健康阻害要因について理解する(社会的健康問題と個人的健康問題との関連) 3)運動習慣と健康との関係について理解する 4)運動、栄養、休養などを柱とした望ましいライフスタイルを形成するためのポイントを理解する 5)自ら健康管理をすることの重要性を理解し、その方法を身につける(日常生活での運動・栄養・休養のバランスチェック) 		
(1)テキスト	(1)	毎回、講義資料を配布する。	
(2)参考文献	(2)	毎回の講義の参考文献を紹介する。興味関心をもった文献を是非読んでもらいたい。	
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション (講義の進め方、スポーツ・健康科目講義の意義)</p> <p>第2回 健康施策の変遷とその背景について (健康観の変遷を探索)</p> <p>第3回 健康と休養 (生活リズムと睡眠)</p> <p>第4回 健康と運動1 (運動の必要性について)</p> <p>第5回 健康と運動2 (ダイエットと運動処方)</p> <p>第6回 健康と栄養 (ダイエットと食事)</p> <p>第7回 ライフスタイルを考える</p> <p>第8回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	講義中に配布する参考資料は必ず読むこと (毎回のワークレポートの他に1回のレポート提出あり)		
成績評価の方法	毎回のワークレポート提出 (60%1回/7回まで) + レポート1回 (10%) + 8回目まとめ(30%)		
実務経験について	鹿児島県内高等学校及び養護学校 保健体育科目及び養護訓練実習担当経験あり		

(注) 教職必修

(注) 食物栄養専攻を除く全専攻対象 7.5 回

授業科目	生涯スポーツ実習Ⅰ (A)・(B)・(E)・(F)	担当者	道向 良
	[履修年次] 1年	授業外対応	授業終了後
	[学期] 前期 [単位] 1	[必修/選択] 必修 (注)	[授業形態] 実習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】ラケットスポーツと健康づくり (体力づくり、仲間づくり)</p> <p>【概要】ラケットスポーツとして主にテニスをとりあげ、クラスメートと各種ゲームを楽しめるようになることを目指す。体力づくりや仲間づくりを意識して活動し、ペアまたはグループで段階的に学習することを通して、各自の能力に応じた技術や動き、さらにはプレイスタイルを模索していく。雨天時にはバドミントンや卓球を行うこともある。</p> <p>【到達目標】ダブルスのゲームが円滑にできるようになる。体力をつけ、仲間をつくる。</p>		
(1)テキスト	(1)	必要に応じてプリントを配布する	
(2)参考文献	(2)		
授業スケジュール	<p>第1回 グループ分け、ボール遊び、ラケットイング、種々の基本動作</p> <p>第2回 基本のストローク (基礎と応用)、ボール・トスの練習、スキルチェック 1</p> <p>第3回 ラリーを続ける、ミニテニス</p> <p>第4回 グループ練習 1 (左右打ち)、ミニゲーム</p> <p>第5回 グループ練習 2 (前後打ち)、ミニゲーム</p> <p>第6回 シングルス・ルールの理解、ミニゲーム</p> <p>第7回 サーブとレシーブの基本、スキルチェック 2</p> <p>第8回 ダブルス・ルールの理解、試しのゲーム</p> <p>第9回 ダブルスゲーム 1 (チーム内での対抗戦) 振り返り 1</p> <p>第10回 ダブルスゲーム 2 (同等ペアとの対抗戦) 振り返り 2</p> <p>第11回 課題練習 (自主的に練習を組み立てよう)</p> <p>第12回 ファイナル・コンペティション (団体戦) 1</p> <p>第13回 ファイナル・コンペティション (団体戦) 2、スキルチェック 3</p> <p>第14回 ファイナル・コンペティション (個人戦) 1</p> <p>第15回 ファイナル・コンペティション (個人戦) 2 期末レポート課題の提示 (期限までに提出)</p> <p style="text-align: right;">※ シューズや帽子などは各自適切なものを準備すること。</p>		
授業外学習(予習・復習)	各種運動を日頃から実践し、身体感覚を新鮮に保っておくこと		
成績評価の方法	出席・課題への取り組み状況 (40%)、運動能力全般 (20%)、小レポートおよび期末レポート (40%)		

(注) 教職必修

(注) (A) 日本語日本文学専攻、(B)英語英文学専攻、(E)経済専攻、(F) 経済情報専攻

授業科目	生涯スポーツ実習 I (C) (D) (E) (F)	担当者	西迫 貴美代
	[履修年次] 1年次	授業外対応	随時 nisizako@k-kentan.ac.jp
	[学期] 前期 [単位] 1	[必修/選択] 必修 (注)	[授業形態] 実習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】生涯にわたって運動に親しむ力を身につけることを目的とし、スポーツを通じて、その特徴的な身体技法の学習の中で、自分に合った種目や得意な運動を発見する。また、大学生活が始まり、新しい環境に適応する手立てとして所属専攻の仲間と共にスポーツを楽しむことをめざす。</p> <p>【概要】主に球技教材としてバレーボール・バスケットボールのスポーツ種目を採用する。それぞれのスポーツ種目の特徴的な技術認識(わかる)ことと技能習得(できる)を融合させることを目的とする。また常に球技は他者との関係性を意識しながら実施する必要がある、基本的な身体技法を習得する際に自分のからだやうごきの特徴を知る。 (後期はラケット種目を履修する)</p> <p>【到達目標】①バレーボール・バスケットボールの歴史・ルールを理解する ②バレーボール・バスケットボールの基本的な技術を理解し、技能を習得する、③自分やチームの課題を発見し、課題を克服するための練習計画を立てることができる④他者と協力して、チームを組織し、運営することができる、⑤自分のからだの管理ができ、安全に運動する配慮ができる</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 適時資料配付する。また各人の学習ノートを準備する(毎回提出)。なお、雨天時の場合は、同時間担当者との話し合いの上、種目変更の可能性はある(EFの場合)。運動にふさわしい服装とシューズを準備すること。実習中のケガや体調不良の場合は必ず申し出ること。		
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション(からだほぐしとからだでコミュニケーションワーク)</p> <p>第2回 バレーボールの歴史 試しのゲーム アタックからの学習について理解する</p> <p>第3回 Aアタックのタイミングの理解と習熟 2対2の簡易ゲーム</p> <p>第4回 2:2の簡易ゲーム(AクイックとAのトスの習熟) 3:3ゲームへの発展について理解する(考える)</p> <p>第5回 3:3の簡易ゲームのルールについて理解する(Aクイックともう一つのアタックの習熟)</p> <p>第6回 3:3の簡易ゲーム① ローテーションルールの中で、各ポジションの役割について考える。</p> <p>第7回 3:3の簡易ゲーム② 3名の中で、セッターを固定したゲーム 6:6ゲームへの発展について理解する</p> <p>第8回 6:6ゲーム 3:3から、6:6のゲームへの発展 ポジションの配置ルールを理解し、試しのゲーム(2人セッター)</p> <p>第9回 6:6ゲーム バレーボール最終 ゲーム条件(コートの広さと人数)とルールを把握し、チーム作戦を立てる</p> <p>第10回 原初的なゲームの体験と試しのゲーム(シュート確率調査からバスケットボールの特徴について理解する)</p> <p>第11回 2:2簡易ゲーム バスケットボールに必要な技術について理解し、習得する(シュート、ドリブル、パスなど)</p> <p>第12回 2:0の練習 2:1の練習 2:2の練習(制限区域内での攻撃と防御について理解する)から 3:3ゲームへ</p> <p>第13回 各チームで練習(各チームの触球数調査からチームの課題を発見し、克服する練習内容を導き出す)</p> <p>第14回 オールコートでのゲームの展開 5:5 にむけて</p> <p>第15回 5:5ゲーム(バスケットゲームの運営について協議し、最終ゲームのルールの確認 審判の役割)</p>		
授業外学習(予習・復習)	体調管理に留意すること		
成績評価の方法	毎回の学習ノート記入回数及び内容(自己評価記入も含む)60%+スキル及び技術認識(種目毎)40%を基準に総合的に評価		
実務経験について	鹿児島県内高等学校及び養護学校 保健体育科目及び養護訓練実習担当経験あり		

(注) 教職必修

授業科目	生涯スポーツ実習Ⅱ (A) (B) (E) (F)		担当者	西迫 貴美代
	[履修年次] 1年次	[学期] 後期	授業外対応	随時 nisizako@k-kentan.ac.jp
	[単位] 1	[必修/選択]	必修 (注)	[授業形態] 実習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】生涯にわたって運動に親しむ力を身につけることを目的とし、スポーツを通じて、その特徴的な身体技法の学習の中で、自分に合った種目や得意な運動を発見する。また、大学生活が始まり、新しい環境に適応する手立てとして所属専攻の仲間と共にスポーツを楽しむことをめざす。</p> <p>【概要】主に球技教材としてバレーボール・バスケットボールのスポーツ種目を採用する。それぞれのスポーツ種目の特徴的な技術認識(わかる)ことと技能習得(できる)を融合させることを目的とする。また常に球技は他者との関係性を意識しながら実施する必要がある、基本的な身体技法を習得する際に自分のからだやうごきの特徴を知る。 (前期はラケット種目を履修済み)</p> <p>【到達目標】①バレーボール・バスケットボールの歴史・ルールを理解する ②バレーボール・バスケットボールの基本的な技術を理解し、技能を習得する、③自分やチームの課題を発見し、課題を克服するための練習計画を立てることができる④他者と協力して、チームを組織し、運営することができる、⑤自分のからだの管理ができ、安全に運動する配慮ができる</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 適時資料配付する。また各人の学習ノートを準備する(毎回提出)。なお、雨天時の場合は、同時間担当者との話し合いの上、種目変更の可能性がある(EFの場合)。運動にふさわしい服装とシューズを準備すること。実習中のケガや体調不良の場合は必ず申し出ること。			
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション(からだほぐしとからだでコミュニケーションワーク)</p> <p>第2回 バレーボールの歴史 試しのゲーム アタックからの学習について理解する</p> <p>第3回 Aアタックのタイミングの理解と習熟 2対2の簡易ゲーム</p> <p>第4回 2:2の簡易ゲーム(AクイックとAのトスの習熟) 3:3ゲームへの発展について理解する(考える)</p> <p>第5回 3:3の簡易ゲームのルールについて理解する(Aクイックともう一つのアタックの習熟)</p> <p>第6回 3:3の簡易ゲーム① ローテーションルールの中で、各ポジションの役割について考える。</p> <p>第7回 3:3の簡易ゲーム② 3名の中で、セッターを固定したゲーム 6:6ゲームへの発展について理解する(考える)</p> <p>第8回 6:6ゲーム 3:3から、6:6のゲームへの発展 ポジションの配置ルールを理解し、試しのゲーム(2名セッター)</p> <p>第9回 6:6ゲーム バレーボール最終 ゲーム条件(コートのださと人数)とルールを把握し、チーム作戦を立てる</p> <p>第10回 原初的なゲームの体験と試しのゲーム(シュート確率調査からバスケットボールの特徴について理解する)</p> <p>第11回 2:2簡易ゲーム バスケットボールに必要な技術について理解し、習得する(シュート、ドリブル、パスなど)</p> <p>第12回 2:0の練習 2:1の練習 2:2の練習(制限区域内での攻撃と防御について理解する)から 3:3ゲームへ</p> <p>第13回 各チームで練習(各チームの触球数調査からチームの課題を発見し、克服する練習内容を導き出す)</p> <p>第14回 オールコートでのゲームの展開 5:5 にむけて</p> <p>第15回 5:5ゲーム(バスケットゲームの運営について協議し、最終ゲームのルールの確認 審判の役割)</p>			
授業外学習(予習・復習)	体調管理に留意すること			
成績評価の方法	毎回の学習ノート記入回数及び内容(自己評価記入も含む)60%+スキル及び技術認識(種目毎)40%を基準に総合的に評価			
実務経験について	鹿児島県内高等学校及び養護学校 保健体育科目及び養護訓練実習担当経験あり			

(注) 教職必修

(注) (A) 日本語日本文学専攻, (B) 英語英文学専攻 (E) 経済専攻, (F) 経営情報専攻

授業科目	生涯スポーツ実習Ⅱ (C)・(D)		担当者	道向 良
	[履修年次] 1年	[学期] 後期	授業外対応	授業終了後
	[単位] 1	[必修/選択]	必修 (注)	[授業形態] 実習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】ラケットスポーツと健康づくり(体力づくり、仲間づくり)</p> <p>【概要】ラケットスポーツとして主にテニスをとりあげ、クラスメートと各種ゲームを楽しめるようになることを目指す。体力づくりや仲間づくりを意識して活動し、ペアまたはグループで段階的に学習することを通して、各自の能力に応じた技術や動き、さらにはプレイスタイルを模索していく。雨天時にはバドミントンや卓球を行うこともある。</p> <p>【到達目標】ダブルスのゲームが円滑にできるようになる。体力をつけ、仲間をつくる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 必要に応じてプリントを配布する (2)			
授業スケジュール	<p>第1回 グループ分け、ボール遊び、ラケットティング、種々の基本動作</p> <p>第2回 基本のストローク(基礎と応用)、ボール・トスの練習、スキルチェック1</p> <p>第3回 ラリーを続ける、ミニテニス</p> <p>第4回 グループ練習1(左右打ち)、ミニゲーム</p> <p>第5回 グループ練習2(前後打ち)、ミニゲーム</p> <p>第6回 シングルス・ルールの理解、ミニゲーム</p> <p>第7回 サーブとレシーブの基本、スキルチェック2</p> <p>第8回 ダブルス・ルールの理解、試しのゲーム</p> <p>第9回 ダブルスゲーム1(チーム内での対抗戦) 振り返り1</p> <p>第10回 ダブルスゲーム2(同等ペアとの対抗戦) 振り返り2</p> <p>第11回 課題練習(自主的に練習を組み立てよう)</p> <p>第12回 ファイナル・コンペティション(団体戦) 1</p> <p>第13回 ファイナル・コンペティション(団体戦) 2、スキルチェック3</p> <p>第14回 ファイナル・コンペティション(個人戦) 1</p> <p>第15回 ファイナル・コンペティション(個人戦) 2 期末レポート課題の提示 (期限までに提出) ※ シューズや帽子などは各自適切なものを準備すること。</p>			
授業外学習(予習・復習)	各種運動を日頃から実践し、身体感覚を新鮮に保っておくこと			
成績評価の方法	出席・課題への取り組み状況(40%)、運動能力全般(20%)、小レポートおよび期末レポート(40%)			

(注) 教職必修 (注) (C) 食物栄養専攻 (D) 生活科学専攻

授業科目	生涯スポーツ実習Ⅱ (E)(F)	担当者	西谷 憲明
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1単位	授業外対応	西迫先生を通して
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>本講義では、野外ネット型スポーツの典型として硬式テニスを中心に確かな認識に裏づけられた技能に習熟することによって、生涯にわたって生活の質を維持・向上することのできる基礎的素養の獲得を旨とする。</p> <p>【概要】</p> <p>教材として硬式テニスを採用する(雨天時は体育館で、卓球に切り替える)。生涯にわたってスポーツを享受するために不可欠な認識(わかる)を深め広げ、さらに生涯にわたって、自らの技能習熟(できる)を見通せる能力を形成する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>1)生涯にわたりテニス(主としてダブルスゲーム)を楽しめる主体を形成する そのために 2)テニスや卓球の技術構造を理解する 3)その理解に基づいて自他の技能における達成度合いや挑戦課題を発見し、課題達成の道筋を探索する 4)この課題達成の過程において他者との協力やリーダーシップ、組織的に運営する諸能力を向上させる</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) (2)</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション・基本動作や操作、コンビネーションによるボール慣れ</p> <p>第2回～ 1. テニスの世界への誘い(様々な操作・運用をとおした、ボール、ラケット、コートへの慣れ) 2. テニスにおける基本的技能(グラウンドストローク、ボレー、スマッシュ、サービス等)、ペアとの連携、相手への対応能力の習熟と向上。 3. テニスにおけるゲーム運営(ルール、戦術・戦略、試合運営等)についての理解・習熟 上記1～3の課題内容について丁寧な説明による理解の進展をはかり、以上の学習課題について、段階的、らせん的な学習指導を展開する。なお、習熟段階に遅れのみられる受講生には時間を設定し復習指導を行うので心配はいらない。</p> <p>第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	機会があれば、前時に学習した内容を実践確認しておくことが望ましい		
成績評価の方法	授業に関する認識内容(70%)、技能の理解・習熟段階(30%)を総合的に評価する		

(注) 教職必修 (注) (E) 経済専攻, (F) 経営情報専攻

4 教養科目（情報科目）

授業科目	情報リテラシー I (A)		担当者	上野 祐子
	[履修年次] 1年		授業外対応	講義終了時, 適宜対応 (要予約)
	[学期] 前期	[単位] 1単位	[必修/選択] 必修 (注)	[授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】現代社会に必要な情報活用技術の修得</p> <p>【概要】学内メールの送受信方法を習得し、メールを扱う際には注意すべき点があることを理解する。学校やビジネスで必要不可欠なアプリケーションソフト Microsoft Word 及び Excel の基本操作を習得し、必要な情報を収集・選択・加工し、受け手の状況を踏まえた情報発信ができる能力を身に付ける。Web による情報検索を習得し、著作権や情報セキュリティ、ネチケットなどに触れていく。パソコンだけでなく、スマートフォン等を活用する演習も実施する。</p> <p>【到達目標】上記アプリケーションソフト及び検索機能を用いて、他の授業の課題やレポートを作成できるようになる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 富士通エフ・オー・エム株式会社『よくわかる Microsoft Word 2019 & Microsoft Excel 2019 & Microsoft PowerPoint 2019』FOM 出版</p> <p>(2) 授業にて紹介する。</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 オリエンテーション, 電子メール</p> <p>第 2 回 電子メール, 第 1 章 Word さあ、はじめよう (概要, 起動と終了, 画面構成), USB メモリの使い方</p> <p>第 3 回 第 2 章 Word 文書を作成しよう (文字の入力, 文章の入力, コピー, 移動, 印刷, 保存)</p> <p>第 4 回 第 3 章 Word グラフィック機能を使ってみよう (ワードアート, 画像, 文字の効果, ページ罫線)</p> <p>第 5 回 第 4 章 Word 表のある文書を作成しよう (表の作成と編集, 段落罫線), 課題 1</p> <p>第 6 回 レポート作成に役立つ Word の機能 (配布プリント使用)</p> <p>第 7 回 Web による情報検索 (配布プリント使用)</p> <p>第 8 回 Web による情報検索(2) (配布プリント使用)</p> <p>第 9 回 ファイルの整理 (ファイルの概念, フォルダの概念) 及びファイルの検索 (プリント), 課題 2</p> <p>第 10 回 第 5 章 Excel さあ、はじめよう (概要, 起動と終了, 画面構成)</p> <p>第 11 回 第 6 章 Excel データを入力しよう (データの入力, オートフィル)</p> <p>第 12 回 第 7 章 Excel 表を作成しよう (表の作成と編集, 関数, 絶対参照と相対参照), ピボットテーブル</p> <p>第 13 回 第 8 章 Excel グラフを作成しよう (グラフ機能の概要, 円グラフ, 縦棒グラフ), 課題 3</p> <p>第 14 回 Excel 練習問題</p> <p>第 15 回 まとめ (Word・Excel・情報検索)</p>			
授業外学習(予習・復習)	タイピング練習を適宜実施すること。授業内容の復習をすること。課題 (単元の復習問題) を実施すること。			
成績評価の方法	3 回の課題 (60%) と期末試験 (40%) の総合評価			
実務経験について	大企業ではシステムエンジニア, 中小企業では会計事務員として勤務した経験有り。日商マスター。市民講座講師。			

(注) 教職必修, 日本語日本文学専攻

授業科目	情報リテラシー I (B)		担当者	上野 祐子
	[履修年次] 1年		授業外対応	講義終了時, 適宜対応 (要予約)
	[学期] 前期	[単位] 1単位	[必修/選択] 必修 (注)	[授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】現代社会に必要な情報活用技術の修得</p> <p>【概要】学内メールの送受信方法を習得し、メールを扱う際には注意すべき点があることを理解する。学校やビジネスで必要不可欠なアプリケーションソフト Microsoft Word 及び Excel の基本操作を習得し、必要な情報を収集・選択・加工し、受け手の状況を踏まえた情報発信ができる能力を身に付ける。Web による情報検索を習得し、著作権や情報セキュリティ、ネチケットなどに触れていく。パソコンだけでなく、スマートフォン等を活用する演習も実施する。</p> <p>【到達目標】上記アプリケーションソフト及び検索機能を用いて、他の授業の課題やレポートを作成できるようになる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 富士通エフ・オー・エム株式会社『よくわかる Microsoft Word 2019 & Microsoft Excel 2019 & Microsoft PowerPoint 2019』FOM 出版</p> <p>(2) 授業にて紹介する。</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 オリエンテーション, 電子メール</p> <p>第 2 回 電子メール, 第 1 章 Word さあ、はじめよう (概要, 起動と終了, 画面構成), USB メモリの使い方</p> <p>第 3 回 第 2 章 Word 文書を作成しよう (文字の入力, 文章の入力, コピー, 移動, 印刷, 保存)</p> <p>第 4 回 第 3 章 Word グラフィック機能を使ってみよう (ワードアート, 画像, 文字の効果, ページ罫線)</p> <p>第 5 回 第 4 章 Word 表のある文書を作成しよう (表の作成と編集, 段落罫線), 課題 1</p> <p>第 6 回 レポート作成に役立つ Word の機能 (配布プリント使用)</p> <p>第 7 回 Web による情報検索 (配布プリント使用)</p> <p>第 8 回 Web による情報検索(2) (配布プリント使用)</p> <p>第 9 回 ファイルの整理 (ファイルの概念, フォルダの概念) 及びファイルの検索 (プリント), 課題 2</p> <p>第 10 回 第 5 章 Excel さあ、はじめよう (概要, 起動と終了, 画面構成)</p> <p>第 11 回 第 6 章 Excel データを入力しよう (データの入力, オートフィル)</p> <p>第 12 回 第 7 章 Excel 表を作成しよう (表の作成と編集, 関数, 絶対参照と相対参照), ピボットテーブル</p> <p>第 13 回 第 8 章 Excel グラフを作成しよう (グラフ機能の概要, 円グラフ, 縦棒グラフ), 課題 3</p> <p>第 14 回 Excel 練習問題</p> <p>第 15 回 まとめ (Word・Excel・情報検索)</p>			
授業外学習(予習・復習)	タイピング練習を適宜実施すること。授業内容の復習をすること。課題 (単元の復習問題) を実施すること。			
成績評価の方法	3 回の課題 (60%) と期末試験 (40%) の総合評価			
実務経験について	大企業ではシステムエンジニア, 中小企業では会計事務員として勤務した経験有り。日商マスター。市民講座講師。			

(注) 教職必修, 英語英文学専攻

授業科目	情報リテラシー I (C)		担当者	上野 祐子
	[履修年次] 1年	[学期] 前期 [単位] 1単位	授業外対応	講義終了時, 適宜対応 (要予約)
			[必修/選択] 必修	[授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】現代社会に必要な情報活用技術の修得</p> <p>【概要】学内メールの送受信方法を習得し、メールを扱う際には注意すべき点があることを理解する。学校やビジネスで必要不可欠なアプリケーションソフト Microsoft Word 及び Excel の基本操作を習得し、必要な情報を収集・選択・加工し、受け手の状況を踏まえた情報発信ができる能力を身に付ける。Web による情報検索を習得し、著作権や情報セキュリティ、ネチケットなどに触れていく。パソコンだけでなく、スマートフォン等を活用する演習も実施する。</p> <p>【到達目標】上記アプリケーションソフト及び検索機能を用いて、他の授業の課題やレポートを作成できるようになる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 富士通エフ・オー・エム株式会社『よくわかる Microsoft Word 2019 & Microsoft Excel 2019 & Microsoft PowerPoint 2019』FOM 出版</p> <p>(2) 授業にて紹介する。</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 オリエンテーション, 電子メール</p> <p>第 2 回 電子メール, 第 1 章 Word さあ、はじめよう (概要, 起動と終了, 画面構成), USB メモリの使い方</p> <p>第 3 回 第 2 章 Word 文書を作成しよう (文字の入力, 文章の入力, コピー, 移動, 印刷, 保存)</p> <p>第 4 回 第 3 章 Word グラフィック機能を使ってみよう (ワードアート, 画像, 文字の効果, ページ罫線)</p> <p>第 5 回 第 4 章 Word 表のある文書を作成しよう (表の作成と編集, 段落罫線), 課題 1</p> <p>第 6 回 レポート作成に役立つ Word の機能 (配布プリント使用)</p> <p>第 7 回 Web による情報検索 (配布プリント使用)</p> <p>第 8 回 Web による情報検索(2) (配布プリント使用)</p> <p>第 9 回 ファイルの整理 (ファイルの概念, フォルダの概念) 及びファイルの検索 (プリント), 課題 2</p> <p>第 10 回 第 5 章 Excel さあ、はじめよう (概要, 起動と終了, 画面構成)</p> <p>第 11 回 第 6 章 Excel データを入力しよう (データの入力, オートフィル)</p> <p>第 12 回 第 7 章 Excel 表を作成しよう (表の作成と編集, 関数, 絶対参照と相対参照), ピボットテーブル</p> <p>第 13 回 第 8 章 Excel グラフを作成しよう (グラフ機能の概要, 円グラフ, 縦棒グラフ), 課題 3</p> <p>第 14 回 Excel 練習問題</p> <p>第 15 回 まとめ (Word・Excel・情報検索)</p>			
授業外学習(予習・復習)	タイピング練習を適宜実施すること。授業内容の復習をすること。課題 (単元の復習問題) を実施すること。			
成績評価の方法	3 回の課題 (60%) と期末試験 (40%) の総合評価			
実務経験について	大企業ではシステムエンジニア, 中小企業では会計事務員として勤務した経験有り。日商マスター。市民講座講師。			

(注) 食物栄養専攻

授業科目	情報リテラシー I (D)		担当者	上野 祐子
	[履修年次] 1年	[学期] 前期 [単位] 1単位	授業外対応	講義終了時, 適宜対応 (要予約)
			[必修/選択] 必修 (注)	[授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】現代社会に必要な情報活用技術の修得</p> <p>【概要】学内メールの送受信方法を習得し、メールを扱う際には注意すべき点があることを理解する。学校やビジネスで必要不可欠なアプリケーションソフト Microsoft Word 及び Excel の基本操作を習得し、必要な情報を収集・選択・加工し、受け手の状況を踏まえた情報発信ができる能力を身に付ける。Web による情報検索を習得し、著作権や情報セキュリティ、ネチケットなどに触れていく。パソコンだけでなく、スマートフォン等を活用する演習も実施する。</p> <p>【到達目標】上記アプリケーションソフト及び検索機能を用いて、他の授業の課題やレポートを作成できるようになる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 富士通エフ・オー・エム株式会社『よくわかる Microsoft Word 2019 & Microsoft Excel 2019 & Microsoft PowerPoint 2019』FOM 出版</p> <p>(2) 授業にて紹介する。</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 オリエンテーション, 電子メール</p> <p>第 2 回 電子メール, 第 1 章 Word さあ、はじめよう (概要, 起動と終了, 画面構成), USB メモリの使い方</p> <p>第 3 回 第 2 章 Word 文書を作成しよう (文字の入力, 文章の入力, コピー, 移動, 印刷, 保存)</p> <p>第 4 回 第 3 章 Word グラフィック機能を使ってみよう (ワードアート, 画像, 文字の効果, ページ罫線)</p> <p>第 5 回 第 4 章 Word 表のある文書を作成しよう (表の作成と編集, 段落罫線), 課題 1</p> <p>第 6 回 レポート作成に役立つ Word の機能 (配布プリント使用)</p> <p>第 7 回 Web による情報検索 (配布プリント使用)</p> <p>第 8 回 Web による情報検索(2) (配布プリント使用)</p> <p>第 9 回 ファイルの整理 (ファイルの概念, フォルダの概念) 及びファイルの検索 (プリント), 課題 2</p> <p>第 10 回 第 5 章 Excel さあ、はじめよう (概要, 起動と終了, 画面構成)</p> <p>第 11 回 第 6 章 Excel データを入力しよう (データの入力, オートフィル)</p> <p>第 12 回 第 7 章 Excel 表を作成しよう (表の作成と編集, 関数, 絶対参照と相対参照), ピボットテーブル</p> <p>第 13 回 第 8 章 Excel グラフを作成しよう (グラフ機能の概要, 円グラフ, 縦棒グラフ), 課題 3</p> <p>第 14 回 Excel 練習問題</p> <p>第 15 回 まとめ (Word・Excel・情報検索)</p>			
授業外学習(予習・復習)	タイピング練習を適宜実施すること。授業内容の復習をすること。課題 (単元の復習問題) を実施すること。			
成績評価の方法	3 回の課題 (60%) と期末試験 (40%) の総合評価			
実務経験について	大企業ではシステムエンジニア, 中小企業では会計事務員として勤務した経験有り。日商マスター。市民講座講師。			

(注) 教職必修, 生活科学専攻

授業科目	情報リテラシー I (E)		担当者	永仮 ゆかり
	[履修年次] 1年		授業外対応	講義終了時および必要に応じてメール
	[学期] 前期	[単位] 1単位	[必修/選択] 必修	[授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>ワープロソフト「Microsoft Word」を活用した基本的な文書作成能力の習得</p> <p>【概要】</p> <p>ワープロソフト「Microsoft Word」を活用し、文字の入力から文書の作成、編集、保存、印刷などの基本操作をはじめ、表・図形・画像を盛り込んだ文書の作成技法までを習得することを目的とする。また、あわせて基本的なビジネス文書に関する知識やライティング技術についても解説する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>タッチタイピングの習得、「Microsoft Word」の基本操作の習得、基本的なビジネス文書の作成能力の習得</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 富士通エフ・オー・エム (株)『よくわかる Microsoft Word 2019 基礎』FOM 出版、プリント</p> <p>(2) 授業にて紹介する</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 パソコンの基本操作 : 概要説明、起動と終了、ウインドウ操作、ファイル操作、Word の画面構成</p> <p>第 2 回 文字の入力 : キータッチ練習、文字の入力・訂正・削除・変換</p> <p>第 3 回 文章の入力 : キータッチ練習、文章の入力 (分節単位の変換、一括変換)、IME パッドの利用</p> <p>第 4 回 文書の作成 1 : ページレイアウト設定、あいさつ文の挿入、範囲選択、コピーと移動、保存</p> <p>第 5 回 文書の作成 2 : 文字の配置、書式設定 (フォント、サイズ変更など)、印刷</p> <p>第 6 回 課題文書作成 1 : お知らせ文書の作成、ビジネス文書の構成について</p> <p>第 7 回 表の作成 : 表の作成、表の選択、行の挿入・削除、列幅変更、文書の書き方について</p> <p>第 8 回 表の編集 : セルの結合・分割、セル内の配置、塗りつぶし、罫線の変更、表のスタイル</p> <p>第 9 回 課題文書作成 2 : 表を含むビジネス文書の作成</p> <p>第 10 回 文書の編集 : 均等割り付け、行間、段組み、改ページ</p> <p>第 11 回 グラフィック機能の利用 : ワードアートの挿入、画像の挿入、図形の作成、ページ罫線の設定、図解について</p> <p>第 12 回 課題文書作成 3 : 案内状の作成、文書管理について</p> <p>第 13 回 便利な機能 : 検索・置換、PDF ファイルとして保存</p> <p>第 14 回 レポートの作成 : レポート作成に役立つ機能を利用した文書作成</p> <p>第 15 回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	文字入力・Word 操作の復習、知識問題の予習など適宜指示			
成績評価の方法	期末試験 (知識科目 20%+実技科目 50%) +授業中に実施する課題 (30%)			
実務経験について	OA インストラクター、職業訓練校パソコン実習科目の講師、市民講座パソコン講座の講師			

(注) 経済専攻

授業科目	情報リテラシー I (F)		担当者	永仮 ゆかり
	[履修年次] 1年		授業外対応	講義終了時および必要に応じてメール
	[学期] 前期	[単位] 1単位	[必修/選択] 必修	[授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>ワープロソフト「Microsoft Word」を活用した基本的な文書作成能力の習得</p> <p>【概要】</p> <p>ワープロソフト「Microsoft Word」を活用し、文字の入力から文書の作成、編集、保存、印刷などの基本操作をはじめ、表・図形・画像を盛り込んだ文書の作成技法までを習得することを目的とする。また、あわせて基本的なビジネス文書に関する知識やライティング技術についても解説する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>タッチタイピングの習得、「Microsoft Word」の基本操作の習得、基本的なビジネス文書の作成能力の習得</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 富士通エフ・オー・エム (株)『よくわかる Microsoft Word 2019 基礎』FOM 出版、プリント</p> <p>(2) 授業にて紹介する</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 パソコンの基本操作 : 概要説明、起動と終了、ウインドウ操作、ファイル操作、Word の画面構成</p> <p>第 2 回 文字の入力 : キータッチ練習、文字の入力・訂正・削除・変換</p> <p>第 3 回 文章の入力 : キータッチ練習、文章の入力 (分節単位の変換、一括変換)、IME パッドの利用</p> <p>第 4 回 文書の作成 1 : ページレイアウト設定、あいさつ文の挿入、範囲選択、コピーと移動、保存</p> <p>第 5 回 文書の作成 2 : 文字の配置、書式設定 (フォント、サイズ変更など)、印刷</p> <p>第 6 回 課題文書作成 1 : お知らせ文書の作成、ビジネス文書の構成について</p> <p>第 7 回 表の作成 : 表の作成、表の選択、行の挿入・削除、列幅変更、文書の書き方について</p> <p>第 8 回 表の編集 : セルの結合・分割、セル内の配置、塗りつぶし、罫線の変更、表のスタイル</p> <p>第 9 回 課題文書作成 2 : 表を含むビジネス文書の作成</p> <p>第 10 回 文書の編集 : 均等割り付け、行間、段組み、改ページ</p> <p>第 11 回 グラフィック機能の利用 : ワードアートの挿入、画像の挿入、図形の作成、ページ罫線の設定、図解について</p> <p>第 12 回 課題文書作成 3 : 案内状の作成、文書管理について</p> <p>第 13 回 便利な機能 : 検索・置換、PDF ファイルとして保存</p> <p>第 14 回 レポートの作成 : レポート作成に役立つ機能を利用した文書作成</p> <p>第 15 回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	文字入力・Word 操作の復習、知識問題の予習など適宜指示			
成績評価の方法	期末試験 (知識科目 20%+実技科目 50%) +授業中に実施する課題 (30%)			
実務経験について	OA インストラクター、職業訓練校パソコン実習科目の講師、市民講座パソコン講座の講師			

(注) 経営情報専攻

授業科目	情報リテラシーⅡ (A)		担当者	上野 祐子
	[履修年次] 1年	[学期] 後期	[単位] 1単位	[必修/選択] 必修(注)
			[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】現代社会に必要な情報活用技術の修得</p> <p>【概要】学校やビジネスで必要不可欠なアプリケーションソフト Microsoft Word 及び Excel, PowerPoint を習得し、必要な情報を収集・選択・加工し、受け手の状況を踏まえた情報発信ができる能力を身に付ける。3つのアプリケーションソフトの理解を深めるために、日商PC検定3級問題集を用いて、ビジネス実務を想定した問題演習を行う。</p> <p>デジタル化に伴うメリット・デメリット、情報セキュリティを守る技術等、ICT利活用に関する基本的な知識を習得する。</p> <p>【到達目標】上記アプリケーションソフトを用いて、簡単なビジネス文書が作成できるようになる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 富士通エフ・オー・エム株式会社『よくわかる Microsoft Word 2019 & Microsoft Excel 2019 & Microsoft PowerPoint 2019』FOM 出版</p> <p>(2) 授業にて紹介する。</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 Word 及び Excel の基本操作の復習、レポート作成に役立つ Word の機能の復習</p> <p>第2回 第10章 PowerPoint さあ、はじめよう (概要、起動と終了、画面構成)</p> <p>第3回 第11章 PowerPoint プレゼンテーションを作成しよう (テーマ、スライドの作成、図形、SmartArt グラフィック)</p> <p>第4回 第12章 PowerPoint スライドショーを実行しよう (画面切り替え効果、アニメーション、印刷、課題1)</p> <p>第5回 第13章 アプリ間でデータを共有しよう (Excel と Word の連携、Word 文書を PowerPoint で利用)</p> <p>第6回 Word 練習問題 (主にグラフィック機能) (配布プリント使用)</p> <p>第7回 Word 練習問題 (主に表中心) (配布プリント使用)</p> <p>第8回 Word 練習問題 (配布プリント使用)、課題2</p> <p>第9回 第9章 Excel データを分析しよう (データベース機能)</p> <p>第10回 Excel 練習問題 (主に関数中心) (配布プリント使用)</p> <p>第11回 Excel 練習問題 (主にグラフ中心) (配布プリント使用)、課題3</p> <p>第12回 Excel 練習問題 (配布プリント使用)</p> <p>第13回 ビジネス実務を想定した問題演習 (配布プリント使用)</p> <p>第14回 ビジネス実務を想定した問題演習2 (配布プリント使用)</p> <p>第15回 まとめ (PowerPoint・Word・Excel)</p>			
授業外学習(予習・復習)	タイピング練習を適宜実施すること。授業内容の復習をすること。課題(単元の復習問題)を実施すること。			
成績評価の方法	3回の課題(60%)と期末試験(40%)の総合評価			
実務経験について	大企業ではシステムエンジニア、中小企業では会計事務員として勤務した経験有り。日商マスター。市民講座講師。			

(注) 教職必修、日本語日本文学専攻

授業科目	情報リテラシーⅡ (B)		担当者	上野 祐子
	[履修年次] 1年	[学期] 後期	[単位] 1単位	[必修/選択] 必修(注)
			[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】現代社会に必要な情報活用技術の修得</p> <p>【概要】学校やビジネスで必要不可欠なアプリケーションソフト Microsoft Word 及び Excel, PowerPoint を習得し、必要な情報を収集・選択・加工し、受け手の状況を踏まえた情報発信ができる能力を身に付ける。3つのアプリケーションソフトの理解を深めるために、日商PC検定3級問題集を用いて、ビジネス実務を想定した問題演習を行う。</p> <p>デジタル化に伴うメリット・デメリット、情報セキュリティを守る技術等、ICT利活用に関する基本的な知識を習得する。</p> <p>【到達目標】上記アプリケーションソフトを用いて、簡単なビジネス文書が作成できるようになる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 富士通エフ・オー・エム株式会社『よくわかる Microsoft Word 2019 & Microsoft Excel 2019 & Microsoft PowerPoint 2019』FOM 出版</p> <p>(2) 授業にて紹介する。</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 Word 及び Excel の基本操作の復習、レポート作成に役立つ Word の機能の復習</p> <p>第2回 第10章 PowerPoint さあ、はじめよう (概要、起動と終了、画面構成)</p> <p>第3回 第11章 PowerPoint プレゼンテーションを作成しよう (テーマ、スライドの作成、図形、SmartArt グラフィック)</p> <p>第4回 第12章 PowerPoint スライドショーを実行しよう (画面切り替え効果、アニメーション、印刷、課題1)</p> <p>第5回 第13章 アプリ間でデータを共有しよう (Excel と Word の連携、Word 文書を PowerPoint で利用)</p> <p>第6回 Word 練習問題 (主にグラフィック機能) (配布プリント使用)</p> <p>第7回 Word 練習問題 (主に表中心) (配布プリント使用)</p> <p>第8回 Word 練習問題 (配布プリント使用)、課題2</p> <p>第9回 第9章 Excel データを分析しよう (データベース機能)</p> <p>第10回 Excel 練習問題 (主に関数中心) (配布プリント使用)</p> <p>第11回 Excel 練習問題 (主にグラフ中心) (配布プリント使用)、課題3</p> <p>第12回 Excel 練習問題 (配布プリント使用)</p> <p>第13回 ビジネス実務を想定した問題演習 (配布プリント使用)</p> <p>第14回 ビジネス実務を想定した問題演習2 (配布プリント使用)</p> <p>第15回 まとめ (PowerPoint・Word・Excel)</p>			
授業外学習(予習・復習)	タイピング練習を適宜実施すること。授業内容の復習をすること。課題(単元の復習問題)を実施すること。			
成績評価の方法	3回の課題(60%)と期末試験(40%)の総合評価			
実務経験について	大企業ではシステムエンジニア、中小企業では会計事務員として勤務した経験有り。日商マスター。市民講座講師。			

(注) 教職必修、英語英文学専攻

授業科目	情報リテラシーⅡ (C)		担当者	上野 祐子
	[履修年次] 1年	[学期] 前期	[単位] 1単位	[授業外対応] 講義終了時, 適宜対応 (要予約)
	[必修/選択]	必修	[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】現代社会に必要な情報活用技術の修得</p> <p>【概要】学校やビジネスで必要不可欠なアプリケーションソフト Microsoft Word 及び Excel, PowerPoint を習得し, 必要な情報を収集・選択・加工し, 受け手の状況を踏まえた情報発信ができる能力を身に付ける。3つのアプリケーションソフトの理解を深めるために, 日商 PC 検定 3級問題集を用いて, ビジネス実務を想定した問題演習を行う。</p> <p>デジタル化に伴うメリット・デメリット, 情報セキュリティを守る技術等, ICT 利活用に関する基本的な知識を習得する。</p> <p>【到達目標】上記アプリケーションソフトを用いて, 簡単なビジネス文書が作成できるようになる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 富士通エフ・オー・エム株式会社『よくわかる Microsoft Word 2019 & Microsoft Excel 2019 & Microsoft PowerPoint 2019』FOM 出版</p> <p>(2) 授業にて紹介する。</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 Word 及び Excel の基本操作の復習, レポート作成に役立つ Word の機能の復習</p> <p>第 2 回 第 10 章 PowerPoint さあ, はじめよう (概要, 起動と終了, 画面構成)</p> <p>第 3 回 第 11 章 PowerPoint プレゼンテーションを作成しよう (テーマ, スライドの作成, 図形, SmartArt グラフィック)</p> <p>第 4 回 第 12 章 PowerPoint スライドショーを実行しよう (画面切り替え効果, アニメーション, 印刷, 課題 1)</p> <p>第 5 回 第 13 章 アプリ間でデータを共有しよう (Excel と Word の連携, Word 文書を PowerPoint で利用)</p> <p>第 6 回 Word 練習問題 (主にグラフィック機能) (配布プリント使用)</p> <p>第 7 回 Word 練習問題 (主に表中心) (配布プリント使用)</p> <p>第 8 回 Word 練習問題 (配布プリント使用), 課題 2</p> <p>第 9 回 第 9 章 Excel データを分析しよう (データベース機能)</p> <p>第 10 回 Excel 練習問題 (主に関数中心) (配布プリント使用)</p> <p>第 11 回 Excel 練習問題 (主にグラフ中心) (配布プリント使用), 課題 3</p> <p>第 12 回 Excel 練習問題 (配布プリント使用)</p> <p>第 13 回 ビジネス実務を想定した問題演習 (配布プリント使用)</p> <p>第 14 回 ビジネス実務を想定した問題演習 2 (配布プリント使用)</p> <p>第 15 回 まとめ (PowerPoint・Word・Excel)</p>			
授業外学習(予習・復習)	タイピング練習を適宜実施すること。授業内容の復習をすること。課題 (単元の復習問題) を実施すること。			
成績評価の方法	3 回の課題 (60%) と期末試験 (40%) の総合評価			
実務経験について	大企業ではシステムエンジニア, 中小企業では会計事務員として勤務した経験有り。日商マスター。市民講座講師。			

(注) 食物栄養専攻

授業科目	情報リテラシーⅡ (D)		担当者	上野 祐子
	[履修年次] 1年	[学期] 後期	[単位] 1単位	[授業外対応] 講義終了時, 適宜対応 (要予約)
	[必修/選択]	必修 (注)	[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】現代社会に必要な情報活用技術の修得</p> <p>【概要】学校やビジネスで必要不可欠なアプリケーションソフト Microsoft Word 及び Excel, PowerPoint を習得し, 必要な情報を収集・選択・加工し, 受け手の状況を踏まえた情報発信ができる能力を身に付ける。3つのアプリケーションソフトの理解を深めるために, 日商 PC 検定 3級問題集を用いて, ビジネス実務を想定した問題演習を行う。</p> <p>デジタル化に伴うメリット・デメリット, 情報セキュリティを守る技術等, ICT 利活用に関する基本的な知識を習得する。</p> <p>【到達目標】上記アプリケーションソフトを用いて, 簡単なビジネス文書が作成できるようになる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 富士通エフ・オー・エム株式会社『よくわかる Microsoft Word 2019 & Microsoft Excel 2019 & Microsoft PowerPoint 2019』FOM 出版</p> <p>(2) 授業にて紹介する。</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 Word 及び Excel の基本操作の復習, レポート作成に役立つ Word の機能の復習</p> <p>第 2 回 第 10 章 PowerPoint さあ, はじめよう (概要, 起動と終了, 画面構成)</p> <p>第 3 回 第 11 章 PowerPoint プレゼンテーションを作成しよう (テーマ, スライドの作成, 図形, SmartArt グラフィック)</p> <p>第 4 回 第 12 章 PowerPoint スライドショーを実行しよう (画面切り替え効果, アニメーション, 印刷, 課題 1)</p> <p>第 5 回 第 13 章 アプリ間でデータを共有しよう (Excel と Word の連携, Word 文書を PowerPoint で利用)</p> <p>第 6 回 Word 練習問題 (主にグラフィック機能) (配布プリント使用)</p> <p>第 7 回 Word 練習問題 (主に表中心) (配布プリント使用)</p> <p>第 8 回 Word 練習問題 (配布プリント使用), 課題 2</p> <p>第 9 回 第 9 章 Excel データを分析しよう (データベース機能)</p> <p>第 10 回 Excel 練習問題 (主に関数中心) (配布プリント使用)</p> <p>第 11 回 Excel 練習問題 (主にグラフ中心) (配布プリント使用), 課題 3</p> <p>第 12 回 Excel 練習問題 (配布プリント使用)</p> <p>第 13 回 ビジネス実務を想定した問題演習 (配布プリント使用)</p> <p>第 14 回 ビジネス実務を想定した問題演習 2 (配布プリント使用)</p> <p>第 15 回 まとめ (PowerPoint・Word・Excel)</p>			
授業外学習(予習・復習)	タイピング練習を適宜実施すること。授業内容の復習をすること。課題 (単元の復習問題) を実施すること。			
成績評価の方法	3 回の課題 (60%) と期末試験 (40%) の総合評価			
実務経験について	大企業ではシステムエンジニア, 中小企業では会計事務員として勤務した経験有り。日商マスター。市民講座講師。			

(注) 教職必修, 生活科学専攻

授業科目	情報リテラシーⅡ (E)		担当者	刈屋 美枝子
	[履修年次]	1年	授業外対応	授業前後。メールでの質問にも随時対応。
	[学期]	前期	[単位]	1
			[必修/選択]	必修
			[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 学習における Windows パソコンの基本的な使い方をマスターし、各種アプリケーションに習熟する。</p> <p>【概要】 情報リテラシーⅡ (E) と (F) は、授業開始前にパソコン使用経験に応じて経済・経営情報の 2 専攻を合わせて中級 (経験者 : E) と初級 (初心者 : F) に分けてクラス編成する。Windows パソコンの基本的な使い方から始まり、電子メール (学校指定メール)、インターネット検索、画像処理、ユーティリティソフト、クラウドの利用等、学習やビジネスの場で活用できる様々なアプリケーション・ソフトウェアの実践的な使い方を習得する。</p> <p>【到達目標】 初心者クラスは、Windows パソコンの基本的な使い方を理解し、日常的にパソコンの使用を身近なものとする。経験者クラスは、基本レベルに習熟し、スマートフォンと連携させながら応用レベルまで使いこなせるようになる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) なし</p> <p>(2) 随時、資料ファイルを配信。</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 Windows パソコンの基本的な使い方 タイピング練習ソフトの紹介</p> <p>第 2 回 電子メールにおける文書処理とスマートフォンとの連携</p> <p>第 3 回 Windows パソコンでのファイルの基本操作</p> <p>第 4 回 電子メールの応用 授業アンケート (パソコン使用歴、授業への希望など)</p> <p>第 5 回 パソコンによる効率的な検索</p> <p>第 6 回 インターネット検索 第 1 回課題</p> <p>第 7 回 画像ファイルの扱い方…さまざまなアプリの選択</p> <p>第 8 回 画像ファイルの扱い方…画像の加工・編集</p> <p>第 9 回 WORD での画像の活用 (1)</p> <p>第 10 回 WORD での画像の活用 (2) 第 2 回課題</p> <p>第 11 回 ファイルの応用的処理…圧縮・解凍</p> <p>第 12 回 ファイルの応用的処理…その他のユーティリティソフト</p> <p>第 13 回 インターネットを利用したデータのやり取り…パソコンとスマートフォンの連携</p> <p>第 14 回 インターネットの活用…クラウドの利用</p> <p>第 15 回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	2回の課題は基本的に宿題。自宅にパソコンがない場合は空き時間に学校で取り組むこと。			
成績評価の方法	2 回の課題 (70%) と実技試験 (30%) の総合評価			
実務経験について	本学でのパソコン講師歴 20 年以上、実務翻訳業 20 年以上 (鹿児島商工会議所会員)			

(注) 経済専攻

授業科目	情報リテラシーⅡ (F)		担当者	刈屋 美枝子
	[履修年次]	1年	授業外対応	授業前後。メールでの質問にも随時対応。
	[学期]	前期	[単位]	1
			[必修/選択]	必修
			[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 学習におけるパソコンの基本的な使い方をマスターし、各種アプリケーション・ソフトウェアに習熟する。</p> <p>【概要】 情報リテラシーⅡ (E) と (F) は、授業開始前にパソコン使用経験に応じて経済・経営情報の 2 専攻を合わせて中級 (経験者 : E) と初級 (初心者 : F) に分けてクラス編成する。Windows パソコンの基本的な使い方から始まり、電子メール (学校指定メール)、インターネット検索、画像処理、ユーティリティソフト、クラウドの利用等、学習やビジネスの場で活用できる様々なアプリケーション・ソフトウェアの実践的な使い方を習得する。</p> <p>【到達目標】 初心者クラスは、Windows パソコンの基本的な使い方を理解し、日常的にパソコンの使用を身近なものとする。経験者クラスは、基本レベルに習熟し、スマートフォンと連携させながら応用レベルまで使いこなせるようになる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) なし</p> <p>(2) 随時、資料ファイルを配信。</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 Windows パソコンの基本的な使い方 タイピング練習ソフトの紹介</p> <p>第 2 回 電子メールにおける文書処理とスマートフォンとの連携</p> <p>第 3 回 Windows PC でのファイルの基本操作</p> <p>第 4 回 電子メールの応用 授業アンケート (パソコン使用歴、授業への希望など)</p> <p>第 5 回 パソコンによる効率的な検索</p> <p>第 6 回 インターネット検索 第 1 回課題</p> <p>第 7 回 画像ファイルの扱い方…さまざまなアプリの選択</p> <p>第 8 回 画像ファイルの扱い方…画像の加工・編集</p> <p>第 9 回 WORD での画像の活用 (1)</p> <p>第 10 回 WORD での画像の活用 (2) 第 2 回課題</p> <p>第 11 回 ファイルの応用的処理…圧縮・解凍</p> <p>第 12 回 ファイルの応用的処理…その他のユーティリティソフト</p> <p>第 13 回 インターネットを利用したデータのやり取り…パソコンとスマートフォンの連携</p> <p>第 14 回 インターネットの活用…クラウドの利用</p> <p>第 15 回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	2回の課題は基本的に宿題。自宅にパソコンがない場合は空き時間に学校で取り組むこと。			
成績評価の方法	2 回の課題 (70%) と実技試験 (30%) の総合評価			
実務経験について	本学パソコン講師歴 20 年以上、実務翻訳業 20 年以上 (鹿児島商工会議所会員)			

(注) 経営情報専攻

5 日本語日本文学専攻専門科目

授業科目	日本文学概論		担当者	木戸 裕子・竹本 寛秋				
	[履修年次]	1	授業外対応	適宜対応 (要予約)				
	[学期]	前期	[単位]	2	[必修/選択]	必修 (注)	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 高校から大学の教育カリキュラムにスムーズに新生が移行できるためのリテラシー教育、ならびに各専門分野への橋渡しとなるような基礎的能力の育成を目的とする。</p> <p>【概要】 大学での文学研究は高校の国語の授業の内容とは大きく違います。この授業では、1. 古典文学研究に必要な文献学、書誌学の初歩とくずし字の読み方、2. 主に近代文学研究に必要な文学理論の初歩、3. 大学生にふさわしい「書く力」「話す力」を身につけるためのレポート作成方法の三部構成で、日本文学を学ぶ学生に必要な知識と能力を習得できるようにします。</p> <p>【到達目標】 本の古典・近代文学に関する基礎的な知識を修得し、変体仮名（くずし字）の基本的な読み方を身につける。演習や2年次の卒業研究に必要なディスカッションの仕方、論理的なレポートの書き方を身につける。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 小島孝之『古筆切で読む くずし字練習帳』『字典かな』 新典社 (担当者: 木戸)</p> <p>(2) プリント (担当者: 竹本)</p>							
授業スケジュール	<p>第 1 回 オリエンテーション：本学での日本文学関連の授業と高校の国語の授業の違い。</p> <p>第 2 回 古典文学を学ぶとは：仮名史について くずし字の読み方 1</p> <p>第 3 回 文献学（写本と板本）、書誌学について：くずし字の読み方 2</p> <p>第 4 回 古典の季節観と暦：くずし字の読み方 3</p> <p>第 5 回 古典文学研究の方法 1：くずし字小テスト</p> <p>第 6 回 古典文学研究の方法 2：くずし字の読み方 4</p> <p>第 7 回 古典における比較文学 中国古典文学との関わり：くずし字の読み方 5</p> <p>第 8 回 総括 1：前半のまとめ</p> <p>第 9 回 近代文学を学ぶとは：文学理論について</p> <p>第 10 回 「読む」ときに行われていること：解釈モデルについて</p> <p>第 11 回 「作者」とは何か：作者/作品/テキストについて</p> <p>第 12 回 「語り」とは何か：ナラトロジーについて</p> <p>第 13 回 「物語」とは何か：物語の構造について</p> <p>第 14 回 論文の書き方</p> <p>第 15 回 総括 2：後半のまとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	授業で指示する課題など。							
成績評価の方法	毎時間提出するミニレポート（感想文等）20% 講義期間中の提出課題又は小テスト30% 試験50%（竹本担当分はレポート50%）の合計で評価する。							

(注) 教職必修

授業科目	言語学概論		担当者	楊 虹				
	[履修年次]	1年	授業外対応	適宜対応 (要予約)				
	[学期]	前期	[単位]	2	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 言語学に関する基礎知識を学ぶ。</p> <p>【概要】 この授業では、言語学に関する基礎知識を学ぶ。音声学・音韻論、形態論、統語論、意味論および語用論、さらに言語獲得のメカニズムや言語によるコミュニケーションの仕組みから「ことば」を多角的に捉えていく。身近な例をあげてこれらの問題について考えながら授業を進める。</p> <p>【到達目標】 言語学の全体像を体系的に把握すると同時に、身近なことばと私たちの生活、社会の関連について理解を深める。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布する。</p> <p>(2) 授業中に紹介する。</p>							
授業スケジュール	<p>第 1 回 オリエンテーション：言語学とはどんな学問か、授業の概要説明</p> <p>第 2 回 音声学・音韻論 (1)：調音音声学、子音・母音</p> <p>第 3 回 音声学・音韻論 (2)：モーラ、音節①</p> <p>第 4 回 音声学・音韻論 (3)：モーラ、音節②</p> <p>第 5 回 音声学・音韻論 (4)：連濁、枝分かれ制約</p> <p>第 6 回 形態論 (1)：形態素、派生、複合など単語を生み出す仕組み</p> <p>第 7 回 形態論 (2)：新語、流行語</p> <p>第 8 回 意味論 (1)：単語の意味</p> <p>第 9 回 意味論 (2)：類義語と対義語</p> <p>第 10 回 語用論 (1)：発話行為論①</p> <p>第 11 回 語用論 (2)：発話行為論②</p> <p>第 12 回 語用論 (3)：発話機能と語学教育</p> <p>第 13 回 言語コミュニケーションと社会：対人関係と地域差</p> <p>第 14 回 これまでの復習</p> <p>第 15 回 まとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	適宜小テストを実施するので、毎回復習が必要である。							
成績評価の方法	授業での発言や参加度、宿題：50%、期末試験：50%							

授業科目	日本語学概論		担当者	小亀 拓也
	[履修年次]	1年(注)	授業外対応	適宜対応(要予約)
	[学期]	前期	[単位]	2
			[必修/選択]	必修(注)
				[授業形態]
				講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>日本語を研究する際や日本文学(特に古典文学)を講読する際に必要となる日本語学の基礎知識を学ぶ。</p> <p>【概要】</p> <p>日本語の各研究分野(音声・音韻、文字・表記、語彙・意味、文法、待遇表現、方言)について概観する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>日本語学の基本的な考え方を身につけ、身の回りの言語現象について、的確に表現できるようになる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 衣畑智秀 編『基礎日本語学』ひつじ書房</p> <p>(2) 授業中に紹介します。</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション:「日本語」か「国語」か、「日本語学」とは。</p> <p>第2回 現代日本語の音声と音韻1:音声と音韻、音声器官、音声記号</p> <p>第3回 現代日本語の音声と音韻2:日本語の母音、母音の無声化、促音化</p> <p>第4回 現代日本語の音声と音韻3:日本語の子音、調音点・調音法・声帯振動</p> <p>第5回 現代日本語の音声と音韻4:音素と異音、拍と音節、特殊音素</p> <p>第6回 現代日本語の音声と音韻5:アクセント、イントネーション</p> <p>第7回 文字・表記:日本語の表記の特色、漢字の構造・音と訓・送り仮名、国語施策</p> <p>第8回 現代日本語の語彙と意味1:語彙、語彙量、語種</p> <p>第9回 現代日本語の語彙と意味2:語構成、語の意味、原義と転義</p> <p>第10回 現代日本語の文法1:形態論と統語論、文の分類、主語と述語、主題</p> <p>第11回 現代日本語の文法2:学校文法とその限界、動詞の活用、自動詞・他動詞</p> <p>第12回 現代日本語の文法3:ヴォイス、テンス、アスペクト</p> <p>第13回 現代日本語の文法4:モダリティ、複文、授受表現</p> <p>第14回 現代日本語の待遇表現:待遇行動、待遇表現の種類、敬語</p> <p>第15回 現代日本語の方言:言語変種、社会方言と地域方言、言語変化</p>			
授業外学習(予習・復習)	各自事前にテキストを読んでくること。また、毎授業冒頭に復習小テストを行うため、復習が必要である。			
成績評価の方法	筆記試験(テキスト・ノート等持ち込み可)の成績(70%)、小テストの成績及び授業での発言内容(30%)			
実務経験について	KEC日本語学院にて、「音声・音韻」「文字・表記」「語彙・意味」「文法」「言語と社会」の教授経験あり。			

(注) 日本語日本文学専攻では、1年次 必修科目かつ教職必修。英語英文学専攻では、2年次 選択科目。

なお、教育職員免許法施行規則の「音声言語及び文章表現に関するもの」のうち、「音声言語」にあたる内容を扱う。

授業科目	日本語教育概論		担当者	楊 虹
	[履修年次]	1年(注)	授業外対応	適宜対応(要予約)
	[学期]	後期	[単位]	2
			[必修/選択]	選択
				[授業形態]
				講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>日本語教育学の基礎を学ぶ。</p> <p>【概要】</p> <p>この授業では、日本語教育に初めて接する人を対象として、日本語教師及び学習者を取り巻く社会情勢、教育政策等日本語教育に関わる基本的な環境、言語(外国語)習得の仕組み、日本語教育の教授法等を解説する。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本語教育に関する基礎知識を身につけ、日本語教育に興味を持ち、その全体像を把握できること。 グローバル化が進む今日の日本及び世界に対し、より広い視野と多様な見方を持つようになること。 			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布する。</p> <p>(2) 授業中に紹介します。</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション:授業の概要説明および日本語教育の現状の概観</p> <p>第2回 異文化接触と日本語教育:少子高齢化、定住外国人の増加、ボランティア教室</p> <p>第3回 年少者に対する日本語教育:帰国子女・外国人児童生徒に対する教育</p> <p>第4回 教師の役割①コースデザインとニーズ分析</p> <p>第5回 教師の役割②シラバス・デザイン</p> <p>第6回 教材分析</p> <p>第7回 教授法①:直接法 オーディオリンガルメソッド コミュニカティブ・アプローチ</p> <p>第8回 教授法②:授業見学</p> <p>第9回 教授法③:授業見学の振り返り</p> <p>第10回 授業の計画と実施①授業の組み立て方</p> <p>第11回 授業の計画と実施②初級レベルの場合:導入 基本練習 応用練習</p> <p>第12回 授業の計画と実施③中級以上のレベルの場合:ストラテジー教育 プロジェクトワーク</p> <p>第13回 フォリナートークとやさしい日本語</p> <p>第14回 模擬授業の準備</p> <p>第15回 模擬授業の実施、全体のまとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜小テストを実施するので、復習が必要である。			
成績評価の方法	授業での参加度や提出物:50%、期末レポート:50%			

(注) 日本語日本文学専攻は1年、英語英文学専攻は2年。

授業科目	日本語史		担当者	小亀 拓也	
	[履修年次]	1年	授業外対応	適宜対応 (要予約)	
	[学期]	後期	[単位]	2	
		[必修/選択]	必修 (注)	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】日本語の史的変遷について学ぶ。</p> <p>【概要】古代から現代に至る各時代の日本語について、音韻・文字・語彙・文法の観点から、資料を読み解きながら、その史的変遷を概観する。</p> <p>【到達目標】上代から近代までの各時代における音韻・文字・語彙・文法の特徴を理解した上で、現代日本語の成立に至る過程を説明することができるようになる。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 衣畑智秀 編『基礎日本語学』ひつじ書房</p> <p>(2) 古語辞典を毎回持参すること（電子辞書・辞書アプリでも可）。</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 時代区分と資料：日本語の範囲、日本語の資料、日本語史の時代区分</p> <p>第2回 奈良時代までの日本語1：漢字の伝来、万葉仮名、上代特殊仮名遣い、頭音法則</p> <p>第3回 奈良時代までの日本語2：動詞の活用成立、形容詞・代名詞の整備、和語と漢語</p> <p>第4回 平安時代の日本語1：和文と漢文訓読文、平仮名・片仮名の誕生、いろは歌と五十音図</p> <p>第5回 平安時代の日本語2：音韻の混同（ハ行転呼音）、声調の表示、下一段活用の成立、ナリ活用とタリ活用</p> <p>第6回 平安時代の日本語3：音便と表記、代名詞、助動詞と助詞、漢語の日本語化</p> <p>第7回 鎌倉時代の日本語1：和漢混濁文、直音と拗音、開合、連声</p> <p>第8回 鎌倉時代の日本語2：終止形と連体形の合一化、ラ変と形容詞の活用変化、係り結びの崩壊</p> <p>第9回 鎌倉時代の日本語3：二段活用の一段化、コソアド体系の整備、助動詞類の変化、漢語の普及と意味変化</p> <p>第10回 室町時代の日本語1：天草本『伊曾保物語』、アクセントの変化、外来語の発達</p> <p>第11回 室町時代の日本語2：近代語法への変容、尊敬語・丁寧語の発達</p> <p>第12回 江戸時代の日本語1：上方語と江戸語、四つ仮名の区別の消滅、合拗音の直音化、漢語の多用、当て字</p> <p>第13回 江戸時代の日本語2：近代語法の確立、複合辞の増加、敬語表現の細分化</p> <p>第14回 明治以降の日本語：言文一致、現代表記の確立、漢語の急増、外来語の使用</p> <p>第15回 日本語学史</p>				
授業外学習(予習・復習)	予習：各自事前にテキストを読んでくること。／復習：授業で配布した文献資料等を再度読んでおくこと。				
成績評価の方法	筆記試験（テキスト・ノート・辞書・配布資料等持ち込み可）の成績（80%）、随時実施する小テストの成績（20%）				
実務経験について	KEC 日本語学院にて、「日本語の歴史」の教授経験あり。				

(注) 教職必修。

授業科目	日本文法論		担当者	小亀 拓也	
	[履修年次]	2年	授業外対応	適宜対応 (要予約)	
	[学期]	前期	[単位]	2	
		[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>身の回りの日本語の中にひそむ、さまざまな文法現象の「不思議」について考察する。</p> <p>【概要】</p> <p>「風もないのに、木の葉がはらはらと散る」「風はないのに、木の葉がはらはらと散る」——どちらも同じ事柄を表していると言えそうであるが、一方で、その文が表す意味には微妙な差異も感じられる。これらの助詞は、何が同じで何が違うのか。この講義では、上記のような、普段特に意識されることはないが、改めて考えてみると不思議な文法現象について考察する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>受講生自身が、身の回りの日本語の不思議な現象に気づき、記述・分析できるようになる。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 授業中に紹介します。</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション：「4色ボールペン、北京でありましたよ」</p> <p>第2回 助詞「か」の多義：「ん、何かあったのか?」「なんだ、非常ベルの誤作動か」</p> <p>第3回 助詞「も」の多義：「私<u>も</u>その怪談話、聞いたことある」「怖くて夜<u>も</u>寝られない」</p> <p>第4回 助詞「は」の多義：「私、お酒は<u>は</u>飲めないの」「クジラは<u>は</u>哺乳動物である」</p> <p>第5回 助詞「か」「も」「は」のまとめ</p> <p>第6回 助詞「が」の用法：「机の上に本<u>が</u>ある」「鳥が飛んでいる」「水が飲みたい」「納豆が食べられない」</p> <p>第7回 「は」と「が」1：「恋人（は/が）サンタクロース」「十円玉（は/が/φ）ある?」</p> <p>第8回 「は」と「が」2：「は」と「が」の位置関係と使い分け</p> <p>第9回 動詞シタ形の多義：「先週、沖縄へ<u>行</u>った」「あ、スマホの画面が<u>割</u>れた」「あ、こんなところに<u>あ</u>った!」</p> <p>第10回 動詞シテイル形の多義：「鳥が飛んでいる」「ガラスが<u>割</u>れている」「森の向こうに富士山が<u>見</u>えている」</p> <p>第11回 「た」と「ている」：「織田信長は1582年に（死んだ/死んでいる）」「（濁った/濁っている）水」</p> <p>第12回 動詞スル形の多義：「明日はきっと雪が<u>降</u>る」「僕、一人で<u>帰</u>る!」「さっさと<u>歩</u>く!」</p> <p>第13回 動詞シヨウ形の多義：「この中にはその話を聞いた人も<u>あ</u>ろう」「よし、<u>勉</u>強しよう」「一緒に<u>勉</u>強しよう」</p> <p>第14回 現代日本語の叙法組織：動詞スル形、動詞シヨウ形、動詞シタ形、動詞シテイル形</p> <p>第15回 まとめ</p>				
授業外学習(予習・復習)	予習：次回授業までに配布された文献を読んでくること。／復習：毎授業冒頭に復習小テストを行う。				
成績評価の方法	筆記試験（テキスト・ノート等持ち込み可）の成績（70%）、小テストの成績及び授業での発言内容（30%）				
実務経験について	KEC 日本語学院にて、「文法」の教授経験あり。				

授業科目	日本語学講義	担当者	小亀 拓也
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 2	授業外対応	適宜対応 (要予約)
		[必修/選択]	選択 [授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>1年次に「日本語学概論」で扱った諸問題について、より専門的な見地から分析・考察する。 また「日本語学概論」で扱わなかった内容についても検討し、より広範な日本語学的知識を獲得する。</p> <p>【概要】</p> <p>日本語学の諸分野（音声学・音韻論・意味論・統語論・語用論など）の基礎的な概念を踏まえ、具体的な言語現象を分析する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>日本語学の基本的な考え方を習得し、身の回りの言語現象について、自力で分析・考察・表現できるようになる。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 授業中に紹介します。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 世界の言語における「日本語」の位置づけ</p> <p>第2回 音の作り方1：母音と子音，アクセント，リズム，イントネーション</p> <p>第3回 音の作り方2：単音と音素，弁別的素性，音素配列論</p> <p>第4回 単語の仕組み：形態素，語根と接辞，複合と派生，逆成，縮約，異分析</p> <p>第5回 意味の世界1：同音語と多義語，メタファー，メトニミー，シネクドキー</p> <p>第6回 意味の世界2：同義語と類義語，対義語，レトロニム，カテゴリーとプロトタイプ</p> <p>第7回 文の構造：構成素，樹形図，人称・性・数・格，冠詞</p> <p>第8回 文の意味：文法カテゴリー（態，時，相，法）</p> <p>第9回 談話の仕組み：文脈，直示，一貫性，結束性</p> <p>第10回 会話の仕組み：発話行為，協調の原理，格率，会話分析</p> <p>第11回 言語と変異：変異，地域方言，社会方言，多言語使用</p> <p>第12回 言語と変化：言語接触，言語政策，言語計画</p> <p>第13回 文の理解：構文解析，あいまい文，袋小路文，眼球運動</p> <p>第14回 文の産出：言い間違い，語彙化，レンマ，舌先現象，プライミング</p> <p>第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	予習：次回授業までに配布された文献を読んでくること。／復習：毎授業冒頭に復習小テストを行う。		
成績評価の方法	筆記試験（テキスト・ノート等持ち込み可）の成績（70%），小テストの成績及び授業での発言内容（30%）		
実務経験について	KEC日本語学院にて、「音声・音韻」「文字・表記」「語彙・意味」「文法」「言語と社会」「言語と心理」の教授経験あり。		

授業科目	日本語学講義 I	担当者	小亀 拓也
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1	授業外対応	適宜対応 (要予約)
		[必修/選択]	選択 [授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>日本語学の基本的な研究方法について学ぶ。</p> <p>【概要】</p> <p>「日本語学」という学問分野がどのような問題意識に基づくものであるのか，具体的にはどのような現象を対象とするのか，観察や分析の方法にはどのような観点があり得るのか，といったことについて学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <p>普段何気なく使用している「日本語」という言語について，客観的に眺めることができるようになる。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 授業中に紹介します。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 導入：辞書，単語，普通名詞，固有名詞</p> <p>第2回 ことばの意味：類義語，多義語，複合語</p> <p>第3回 若者ことば：略語，程度副詞，婉曲表現</p> <p>第4回 語種：和語，漢語，外来語，意味の範囲</p> <p>第5回 コミュニケーションの失敗：会話の意図</p> <p>第6回 音声と文字：文字と表記の不一致，長音</p> <p>第7回 ことば遊び：回文，なぞなぞ，早口言葉</p> <p>第8回 音声と書記：音の変化，語順，繰り返し</p> <p>第9回 あいまい文：意味理解，係り受け，省略</p> <p>第10回 仮名：平仮名，片仮名，擬音語と擬態語</p> <p>第11回 小説と漫画：かたい言葉とくだけた言葉</p> <p>第12回 方言：意識されにくい言葉，動詞の活用</p> <p>第13回 スタイルの違い：普通体と丁寧体，混淆</p> <p>第14回 ことばと笑い：ボケとツッコミ，裏切り</p> <p>第15回 まとめ</p> <p style="text-align: right;">以上の予定ですが，進行状況次第で変更の可能性があります。</p>		
授業外学習(予習・復習)	予習：次回授業までに配布されたプリントを読んでくること。／復習：毎授業冒頭に復習小テストを行う。		
成績評価の方法	筆記試験（テキスト・ノート等持ち込み可）の成績（70%），小テストの成績及び授業での発言内容（30%）		
実務経験について	KEC日本語学院にて、「文字・表記」「語彙・意味」「文法」「言語と社会」の教授経験あり。		

授業科目	日本語学講読Ⅱ	担当者	小亀 拓也
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1	授業外対応	適宜対応 (要予約)
		[必修/選択]	選択 [授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 日本語の方言(学)に関する基礎的な知識を学び、そこで得た知見をもとに自身の方言について分析・考察し、発表する。</p> <p>【概要】 日本語の方言について、方言研究の各分野を概観する。学生諸氏にも調査・分析を実際に行ってもらい、研究発表という形で報告してもらう。</p> <p>【到達目標】 方言を多角的な視点から捉えることができるようになる。自身の方言を、学問的な観点から分析することができるようになる。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント (2) 授業中に紹介します。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 授業の進め方の説明 第2回 方言の区画と東西差, 方言圏論 第3回 発音・アクセント・イントネーションの地域差① 第4回 発音・アクセント・イントネーションの地域差② 第5回 アスペクト・条件表現の地域差 第6回 オノマトペ・あいさつの地域差 第7回 研究発表準備 第8回 研究発表 第9回 話の進め方・コミュニケーション意識の地域差 第10回 敬語表現・卑罵表現の地域差 第11回 共通語化の進行, 方言と共通語の使い分け 第12回 方言に対する受け止め方の変化, 方言コンプレックス, 方言prestige 第13回 リアル方言とヴァーチャル方言, 方言コスプレ 第14回 研究発表準備 第15回 研究発表</p>		
授業外学習(予習・復習)	予習: 次回授業までに配布されたプリントを読んでくること。/復習: 毎授業冒頭に復習小テストを行う。		
成績評価の方法	筆記試験(テキスト・ノート等持ち込み可)の成績(70%), 小テストの成績及び授業での発言内容(30%)		
実務経験について	KEC日本語学院にて、「言語と社会」の教授経験あり。		

授業科目	日本語学演習Ⅰ	担当者	小亀 拓也
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1	授業外対応	適宜対応 (要予約)
		[必修/選択]	選択 [授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 日本語学(特に音声・音韻・文法)に関する文献を読み、それをもとに議論する。</p> <p>【概要】 授業の前半では、担当者が文献の内容をまとめ、発表する。その際、他の受講生は文献をあらかじめ熟読した上で、疑問点や問題点について質問し、担当者を中心にディスカッションする。1年生は卒業研究に向けて研究テーマを決める。</p> <p>【到達目標】 演習を行いながら、日本語学(特に音声・音韻・文法)に対する理解をさらに深める。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント (2) 授業中に紹介します。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 導入: 授業の概要を説明, 担当者を決める。 第2回 導入: 教師による発表 第3回 発表: 担当者が日本語学の文献を読み, 内容をまとめて発表する。 第4回 発表: 担当者が日本語学の文献を読み, 内容をまとめて発表する。 第5回 発表: 担当者が日本語学の文献を読み, 内容をまとめて発表する。 第6回 発表: 担当者が日本語学の文献を読み, 内容をまとめて発表する。 第7回 発表: 担当者が日本語学の文献を読み, 内容をまとめて発表する。 第8回 演習: 学生による発表(1年生担当①) 第9回 演習: 学生による発表(1年生担当②) 第10回 演習: 学生による発表(1年生担当③) 第11回 演習: 学生による発表(1年生担当④) 第12回 演習: 学生による発表(1年生担当⑤) 第13回 演習: 学生による発表(1年生担当⑥) 第14回 演習: 学生による発表(1年生担当⑦) 第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜課題等を出すので授業外学習が必要である。発表担当の際には(追加の補充調査を含め)15時間程度充てるものとする。		
成績評価の方法	担当者として作成した発表資料および口頭発表の成績(50%) + 質疑応答等の授業中の発言(20%) + 試験の成績(30%)		

授業科目	日本語学演習Ⅳ、Ⅵ	担当者	楊 虹
	[履修年次] 演習Ⅳは1年、演習Ⅵは2年 [学期] 後期 [単位] 1	授業外対応	適宜対応(要予約)
		[必修/選択]	選択 [授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 語用論や社会言語学に関する基礎知識を学ぶ。</p> <p>【概要】 毎回、担当者がテキストの内容をまとめて、発表し、他の受講生は、テキストをあらかじめ熟読し、疑問点や問題点について質問し、担当者を中心にディスカッションを行う、といった形式で授業を進める。1年生は卒業研究に向けて研究テーマを決める、2年生は社会人になるためのさらなる批判的思考力を鍛える場として授業に取り組むよう求める</p> <p>【到達目標】 演習を行いながら、語用論、社会言語学に対する理解を深める。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布する。</p> <p>(2) 授業中に紹介する。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 授業の概要を説明し、各回の担当者を決める。</p> <p>第2回 語用論、社会言語学の分野の研究について</p> <p>第3回 配慮を考えるとときの視点①(2年生担当)</p> <p>第4回 配慮を考えるとときの視点②(2年生担当)</p> <p>第5回 配慮を考えるとときの視点③(2年生担当)</p> <p>第6回 日本語の配慮の多面性①(1年生担当)</p> <p>第7回 日本語の配慮の多面性②(1年生担当)</p> <p>第8回 卒論中間報告(2年生)</p> <p>第9回 役割語①(2年生担当)</p> <p>第10回 役割語②(2年生担当)</p> <p>第11回 談話分析(1年生)</p> <p>第12回 会話分析(1年生)</p> <p>第13回 卒論計画発表(1年生)</p> <p>第14回 卒論発表練習(2年生)</p> <p>第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜課題等を出すので、授業外学習が必要である。		
成績評価の方法	授業への参加度：50%、発表資料および発表のパフォーマンス評価：50%		

授業科目	日本語学演習Ⅴ	担当者	楊 虹
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1	授業外対応	適宜対応(要予約)
		[必修/選択]	選択 [授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 語用論、社会言語学の分野に関する研究の方法及び学術的文章の作成を学ぶ。</p> <p>【概要】 毎回、担当者がテキストの内容をまとめて、発表し、他の受講生は、テキストをあらかじめ熟読し、疑問点や問題点について質問し、担当者を中心にディスカッションを行う、といった形式で授業を進める。卒業研究に向けて研究テーマを決め、論文執筆の基礎を学ぶ場として授業に取り組むよう求める。</p> <p>【到達目標】 演習を行いながら、語用論、社会言語学に対する理解を深める、簡単な学術的レポートが作成できる。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布する。</p> <p>(2) 授業中に紹介する。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 授業の概要を説明し、各回の担当者を決める。</p> <p>第2回 担当者による発表：担当者が語用論、社会言語学の文献を読み、内容をまとめて発表する。</p> <p>第3回 担当者による発表：担当者が語用論、社会言語学の文献を読み、内容をまとめて発表する。</p> <p>第4回 担当者による発表：担当者が語用論、社会言語学の文献を読み、内容をまとめて発表する。</p> <p>第5回 レポート作成指導①</p> <p>第6回 担当者による発表：担当者が語用論、社会言語学の文献を読み、内容をまとめて発表する。</p> <p>第7回 レポート作成指導②</p> <p>第8回 担当者による発表：担当者が語用論、社会言語学の文献を読み、内容をまとめて発表する。</p> <p>第9回 担当者による発表：担当者が語用論、社会言語学の文献を読み、内容をまとめて発表する。</p> <p>第10回 レポート作成指導③</p> <p>第11回 担当者による発表：担当者が語用論、社会言語学の文献を読み、内容をまとめて発表する。</p> <p>第12回 レポート作成指導④</p> <p>第13回 担当者による発表：担当者が語用論、社会言語学の文献を読み、内容をまとめて発表する。</p> <p>第14回 レポートに基づく口頭発表</p> <p>第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜課題等を出すので、授業外学習が必要である。		
成績評価の方法	レポート：50%、発表資料および発表のパフォーマンス評価：50%		

授業科目	日本語表現法		担当者	小亀 拓也
	[履修年次]	1年	授業外対応	適宜対応 (要予約)
	[学期]	前期	[単位]	2
			[必修/選択]	選択 (注)
			[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 ことば（特に文章表現）によって、事実を正確に示して意見を的確に伝える方法を学ぶ。</p> <p>【概要】 発表、論文、エッセイなどの課題にグループで取り組みながら、ことば（特に文章表現）によって事実を正確に示し、意見を的確に伝える方法を身につける。表現の自由と人権の問題についても取り上げる予定である。この授業は講義方式であるが、実際には後期の日本語表現法演習と一体のものとして進めていくので、演習的な内容も織り込んでいく。その意味で、後期の日本語表現法演習も併せて受講することが望ましい。</p> <p>【到達目標】 簡単な口頭発表ができる。また、原稿用紙を適切に使ってレポートを書くことができる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 未定</p> <p>(2) 国語辞典（電子辞書、スマホアプリも可）←毎時持参すること。教職課程履修者は筆順・教科書体も必要。</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 導入：自己紹介</p> <p>第 2回 絵をことばに変える，ことばを絵に変える（図，空間，地図）</p> <p>第 3回 情報収集の方法：辞典・事典類の活用法，図書館の利用法</p> <p>第 4回 ネット利用：ドメイン，電子メール利用，リンク集作成</p> <p>第 5回 調査方法：論文を調べる，新聞を調べる，引用・書誌情報</p> <p>第 6回 調査開始：班分け発表，リーダー選出，図書館・ネット調査</p> <p>第 7回 調査実施：課題についての調査続行，中間報告</p> <p>第 8回 中間発表：口頭発表と質疑応答</p> <p>第 9回 図表：統計などの数字の扱い，図表の読み方と説明の仕方</p> <p>第 10回 レポート：文章表現の基本（文体，表記，原稿の使い方）</p> <p>第 11回 レポート：文章を書く技法（パラグラフライティング，推敲）</p> <p>第 12回 レポート：電子ツールを用いた文書作成法（マッピング，アウトラインプロセッサ，編集）</p> <p>第 13回 レポート：わかりやすく書く技法</p> <p>第 14回 レポート：提出</p> <p>第 15回 まとめ，表現の自由と人権</p>			
授業外学習(予習・復習)	ネット調査，図書館調査，レポート作成など，毎回授業の中で指示する。			
成績評価の方法	レポート (40%) + 小テスト (30%) + グループ討論や発表等の授業中の発言・コメント (30%)			

(注) 教職必修

授業科目	日本語表現法演習		担当者	小亀 拓也
	[履修年次]	1年	授業外対応	適宜対応 (要予約)
	[学期]	後期	[単位]	1
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 ことば（音声言語および文章表現）によって、事実を正確に示して意見を的確に伝える方法を、演習を通して学ぶ。</p> <p>【概要】 前期の日本語表現法の講義での学習を生かしながら、課題に対するレポート作成，および口頭発表を行ってもらう。この授業は講義方式であるが、実際には前期の日本語表現法と一体のものとして進めていくので、一部講義も織り込んでいく。その意味で、日本語表現法と併せて受講することが望ましい。</p> <p>【到達目標】 資料を調べて、口頭発表やレポート作成が適切にできる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 未定</p> <p>(2) 国語辞典（電子辞書、スマホアプリも可）←毎時持参すること。</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 プレゼンテーションの基本（目的と態度）</p> <p>第 2回 スライドのデザインと制作1</p> <p>第 3回 スライドのデザインと制作2</p> <p>第 4回 プレゼンテーション実践</p> <p>第 5回 課題レポート1：作成</p> <p>第 6回 課題レポート1：発表</p> <p>第 7回 課題レポート1：討論</p> <p>第 8回 課題レポート2：作成</p> <p>第 9回 課題レポート2：発表</p> <p>第 10回 課題レポート2：討論</p> <p>第 11回 課題レポート3：作成</p> <p>第 12回 課題レポート3：発表</p> <p>第 13回 課題レポート3：討論</p> <p>第 14回 試験レポート：資料収集</p> <p>第 15回 試験レポート：テーマに関する討論</p>			
授業外学習(予習・復習)	ネット調査，図書館調査，レポート作成など，毎回授業の中で指示する。			
成績評価の方法	成果資料（レポート，PPT）の出来 (50%) + 小テスト (30%) + グループ討論や発表等の授業中の発言・コメント (20%)			

授業科目	対照言語学	担当者	楊 虹
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 2	授業外対応	適宜対応 (要予約)
		[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 対照言語学の基礎を学ぶ。</p> <p>【概要】 この授業では、対照言語学とはどのような学問かについて学ぶ。日本語と英語、中国語を中心とした外国語の話しことばの文法の比較対照を通して、それぞれの特徴を明らかにし、日本語の話し言葉の特徴をより深く理解する。また、言語学習または言語教育における対照言語学の役割と応用についても触れる。</p> <p>【到達目標】 日本語と外国語（英語、中国語）の主な共通点と相違点を理解し、実際の言語データを使って分析することができる。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布する。</p> <p>(2) 授業中に紹介する。</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 オリエンテーション：対照言語学とはどんな学問か、授業の概要説明</p> <p>第 2 回 日英中の対照 (1)：主語の立て方</p> <p>第 3 回 日英中の対照 (2)：主語の顕示と暗示</p> <p>第 4 回 日英中の対照 (3)：実際の発話における文の形</p> <p>第 5 回 日英中の対照 (4)：時に関する比較①</p> <p>第 6 回 日英中の対照 (5)：時に関する比較②</p> <p>第 7 回 日英中の対照 (6)：呼びかけ語の比較①</p> <p>第 8 回 日英中の対照 (7)：呼びかけ語の比較②</p> <p>第 9 回 日英中の対照 (8)：待遇表現に関する比較①</p> <p>第 10 回 日英中の対照 (9)：待遇表現に関する比較②</p> <p>第 11 回 日英中の対照 (10)：言語行動に関する比較①</p> <p>第 12 回 日英中の対照 (11)：言語行動に関する比較②</p> <p>第 13 回 発表準備</p> <p>第 14 回 学生による発表</p> <p>第 15 回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜課題等を出すので、授業外学習が必要である。		
成績評価の方法	授業への参加度：30%、発表：30%、レポート：40%		

授業科目	日本文学史・古典 I	担当者	木戸 裕子
	[履修年次] 1,2年 [学期] 前期 [単位] 2単位	授業外対応	オフィスアワーに準じる
		[必修/選択] 必修 (注)	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】上代から中古までの文学史を各時代の社会的・文化的背景を踏まえて概観する。</p> <p>【概要】日本文学史・古典 I は上代 (奈良時代以前) から中古 (平安時代) の和歌史・物語史までを対象とする。テキストに従って、ジャンルごとに解説していくが、高校の授業であまり触れることのない作品などには、できるかぎり実際に読み、具体的に理解できるようにしたい。教員採用試験受験者、四年制大学編入学希望者はテキスト全体に目を通しておかねばならない。</p> <p>【到達目標】上代から中古に至る文学史の流れを理解し、文学史的知識を身につける。各ジャンルの特徴を知る。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 小西甚一『日本文学史』講談社学術文庫</p> <p>(2) 吉田孝『飛鳥・奈良時代』岩波ジュニア新書、保立道久『平安時代』岩波ジュニア新書</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 オリエンテーション：文学の発生、文学史の区分</p> <p>第 2 回 上代の文学その 1：古代概観、古事記 1</p> <p>第 3 回 上代の文学その 2：概観、古事記 2</p> <p>第 4 回 上代の文学その 3：日本書紀、風土記</p> <p>第 5 回 上代の文学その 4：万葉集 1</p> <p>第 6 回 上代の文学その 5：万葉集 2</p> <p>第 7 回 上代の文学その 6：万葉集 3</p> <p>第 8 回 上代の文学その 7：上代の漢詩、説話</p> <p>第 9 回 中古の文学その 1：概観 中世第 1 期 漢詩文と和歌 1</p> <p>第 10 回 中古の文学その 2：漢詩文と和歌 2 古今集</p> <p>第 11 回 中古の文学その 3：古今集 2</p> <p>第 12 回 中古の文学その 4：散文の発達 1</p> <p>第 13 回 中古の文学その 5：散文の発達 2</p> <p>第 14 回 中古の文学その 6：白氏文集の影響</p> <p>第 15 回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	授業中に紹介した作品を読む。その他授業中に指示する。		
成績評価の方法	毎回の感想 (ミニレポート) 30% 筆記試験 70%		

(注) 教職必修

授業科目	日本文学史・古典Ⅱ		担当者	木戸 裕子
	[履修年次] 1,2年		授業外対応	オフィスアワーに準じる
	[学期] 後期	[単位] 2単位	[必修/選択] 必修(注)	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】中古から中世までの文学史を各時代の社会的・文化的背景を踏まえて概観する。</p> <p>【概要】日本文学史・古典Ⅱは中古(平安時代)の和歌史・物語史から中世(鎌倉・室町時代)文学までを対象とする。テキストに従って、ジャンルごとに解説していくが、高校の授業であまり触れることのない作品などには、できるかぎり実際に読み、具体的に理解できるようにしたい。教員採用試験受験者、四年制大学編入学希望者はテキスト全体に目を通しておかれたい。</p> <p>【到達目標】中古から中世に至る文学史の流れを理解し、文学史的知識を身につける。各ジャンルの特徴を知る。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 小西甚一『日本文学史』講談社学術文庫</p> <p>(2) 保立道久『平安時代』岩波ジュニア新書、五味文彦『武士の時代』岩波ジュニア新書</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 中古の文学その1：拾遺和歌集とその時代</p> <p>第2回 中古の文学その2：女性と文学 日記</p> <p>第3回 中古の文学その3：枕草子</p> <p>第4回 中古の文学その4：源氏物語1</p> <p>第5回 中古の文学その5：源氏物語2</p> <p>第6回 中古の文学その6：和歌と歌壇</p> <p>第7回 中古の文学その7：院政期の散文</p> <p>第8回 中古の文学その8：歌謡と芸能</p> <p>第9回 中世の文学その1：中世第2期 歌壇の統合と分裂</p> <p>第10回 中世の文学その2：漢詩文</p> <p>第11回 中世の文学その3：新しい散文 軍記</p> <p>第12回 中世の文学その4：随筆と物語</p> <p>第13回 中世の文学その5：芸能</p> <p>第14回 中世の文学その6：連歌</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	授業中に紹介した作品を読む。 その他授業中に指示する。			
成績評価の方法	毎回の感想(ミニレポート)30% 筆記試験70%			

(注) 教職必修

授業科目	日本文学講義Ⅰ		担当者	木戸 裕子
	[履修年次] 2年		授業外対応	オフィスアワーに準じる
	[学期] 後期	[単位] 2	[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】女性と漢文学—一条朝を中心として—</p> <p>【概要】平安時代中期、『源氏物語』作者の紫式部は、『紫式部日記』の中で、清少納言のことを「漢字を書き散らしているけれど、よくみれば足りない点が多い」といい、自分自身は漢字の一の字も書けないふりをしたと言いつつ、「中宮の御前で白氏文集を読んだ」と記す。果たして平安朝の女性にとって漢詩文とはどのような存在だったのか、紫式部以外の一条朝の女性について考える。</p> <p>【到達目標】平安時代の女房文学について学ぶ。和歌の解釈について学ぶ。平安時代の日本漢詩文について興味を持つ。平安時代の女性の生き方を考える。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 服藤早苗『平安朝 女の生き方』小学館 ビギナーズクラシック『枕草子』角川ソフィア文庫</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション：平安時代の漢詩文</p> <p>第2回 女性と漢詩文：一条朝以前</p> <p>第3回 紫式部の場合：『紫式部日記』清少納言批判と「日本紀の御局」</p> <p>第4回 清少納言の場合：『枕草子』1 「香炉峰の雪は」</p> <p>第5回 紫式部の場合：『源氏物語』「長恨歌と諷諭詩」</p> <p>第6回 赤染衛門の場合：『赤染衛門集』の和歌1</p> <p>第7回 赤染衛門の場合：『赤染衛門集』の和歌2 「法華経和歌」</p> <p>第8回 選子内親王？：『発心和歌集』1</p> <p>第9回 選子内親王？：『発心和歌集』2</p> <p>第10回 一条朝後の物語：『浜松中納言物語』平安人が想像した唐</p> <p>第11回 一条朝後の物語：『唐物語』故事と物語1</p> <p>第12回 一条朝後の物語：『唐物語』故事と物語2</p> <p>第13回 和歌と漢詩：題を詠むということ</p> <p>第14回 女性と漢詩文：一条朝以後</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	授業中に指示する			
成績評価の方法	授業の感想ミニレポート(毎回)20% レポート80%			

授業科目	日本文学講読Ⅰ		担当者	木戸 裕子	
	[履修年次]	1,2年	授業外対応	オフィスアワーに準じる	
	[学期]	後期	[単位]	1単位	
		[必修/選択]	選択	[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】『萬葉集』巻十三、十四の講読を通して上代文学に親しむ</p> <p>【概要】『萬葉集』の中でも、巻十三は他とは違って長歌を中心に雑歌、相聞、挽歌の三大部立てに添って並べられているのが特徴的な巻である。また、巻十四は東国地方に伝わる歌、すなわち東歌を集めたこれも特異な巻である。この二巻の作品を読むことで、上代人が歌に託した思いを読み取りたい。本講読は基本的に、受講生による輪読形式で読み進めていき、適宜教員が説明を補っていく。受講者数にもよるが、一回の授業で3人から5人が担当することになる。</p> <p>【到達目標】万葉仮名についての基礎的な知識を身につける。『萬葉集』について学び、上代和歌と平安以降の和歌の違いを知る。東歌についてその特徴を理解する。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 伊藤博『萬葉集積注(七)』集英社文庫</p> <p>(2) 渡部泰明編『和歌のルール』笠間書院</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション 『萬葉集』について(编者、諸本、万葉仮名など)</p> <p>第2回 巻十三、巻十四について。教員による模範演習</p> <p>第3回 『萬葉集』巻十三輪読その1: 雑歌1</p> <p>第4回 その2: 雑歌2</p> <p>第5回 その3: 相聞1</p> <p>第6回 その4: 相聞2</p> <p>第7回 その5: 問答歌</p> <p>第8回 その6: 挽歌1</p> <p>第9回 その6: 挽歌2</p> <p>第10回 その7: 挽歌3</p> <p>第11回 巻十四輪読その1: 雑歌</p> <p>第12回 その2: 相聞1</p> <p>第13回 その3: 相聞2</p> <p>第14回 その4: 防人歌</p> <p>第15回 まとめ</p>				
授業外学習(予習・復習)	輪読担当の準備。『萬葉集』について全体の内容を把握しておく。その他は授業中に指示する。				
成績評価の方法	輪読担当60%、レポート40%				

授業科目	日本文学講読Ⅱ		担当者	木戸 裕子	
	[履修年次]	1年	授業外対応	オフィスアワーに準じる	
	[学期]	前期	[単位]	1	
		[必修/選択]	選択	[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】『伊勢物語』の講読を通して、平安時代の歌物語に親しむとともに、変体仮名(くずし字)の読み方の基礎を身につける。</p> <p>【概要】高校の古文の授業でもおなじみの『伊勢物語』だが、「昔男」と俗称される主人公は、平安の昔から、ある時は雅な貴公子として、ある時は菩薩の生まれ変わりとして、またある時は好色の神様として多くの人々に愛されてきた。本講読では江戸時代初期の木活字本『嵯峨本伊勢物語』の影印本(写真版)を用いて、昔男の恋と友情の物語を読んでいく。</p> <p>【到達目標】『伊勢物語』についての知識を身につける。『伊勢物語』が後世に残した影響について知る。基本的な変体仮名が読めるようにする。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 片桐洋一編『伊勢物語 慶長十三年刊 嵯峨本第一種』和泉書院 『字典かな』笠間書院</p> <p>(2) 角川ビギナーズクラシック『伊勢物語』角川ソフィア文庫、渡部泰明編『和歌のルール』笠間書院</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 はじめに: 『伊勢物語』について(書名、主人公など)</p> <p>第2回 初段1: 昔男の登場 変体仮名の読み方1</p> <p>第3回 初段2: 和歌と語りの関係 変体仮名の読み方2</p> <p>第4回 三段: 二条後の物語その1 変体仮名の読み方3</p> <p>第5回 四段: 二条後の物語その2 変体仮名の読み方4</p> <p>第6回 五段: 二条後の物語その3 変体仮名の読み方小テスト1</p> <p>第7回 六段1: 二条後の物語その4</p> <p>第8回 六段2: 二条後の物語その5</p> <p>第9回 七・八段: 東下りその1 浅間の山</p> <p>第10回 九段1: 東下りその2 八橋・宇津の山</p> <p>第11回 九段2: 東下りその3 富士の山・隅田川</p> <p>第12回 六九段1: 伊勢の斎宮その1 歴史との関わり 変体仮名の読み方小テスト2</p> <p>第13回 六九段2: 伊勢の斎宮その2 漢文学との関わり</p> <p>第14回 一六段: 男の友情</p> <p>第15回 まとめ</p>				
授業外学習(予習・復習)	各段のくずし字を読めるように復習する。				
成績評価の方法	小テスト20% 筆記試験80%				

授業科目	日本文学講読Ⅲ	担当者	木戸 裕子
	〔履修年次〕 2年 〔学期〕 前期 〔単位〕 1単位	授業外対応	オフィスアワーに準じる
		〔必修/選択〕 選択	〔授業形態〕 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 中古文学の代表的作品である『源氏物語』を、近世初期の注釈本『首書 源氏物語』の影印本を使って読む</p> <p>【概要】 講読Ⅲでは毎年『源氏物語』の一巻を受講生の輪読方式で読み進めていく。本年度は「帯木」「空蝉」を読む。前年度は「帯木」巻の前半を読んだが、今年度は「帯木」巻後半の源氏と空蝉女君の物語を読む。空蝉は作者紫式部が自身をモデルにして造形したともいわれる女君で、いわゆる「中の品の女」である。若き日の源氏のエゴイズムと空蝉の葛藤に注目して読み進めていく。テキストは江戸時代の注釈付き本文『首書 源氏物語』を用い、受講生による輪読形式で読み進める。</p> <p>【到達目標】 『源氏物語』について基礎的な知識を身につける。中世の主な『源氏物語』注釈について作者と注釈の特徴を知る。『源氏物語』の構成と登場人物について考える。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 藤岡 忠美 編『首書 源氏物語 帯木・空蝉』和泉書院</p> <p>(2) ビギナーズクラシック『源氏物語』角川ソフィア文庫 『源氏物語の鑑賞と基礎知識 帯木』至文堂</p>		
授業スケジュール	<p>第 1回 はじめに：『源氏物語』とは 作者紫式部について</p> <p>第 2回 『源氏物語』の享受：テキスト『首書源氏物語』について</p> <p>第 3回 「帯木」・「空蝉」巻を読むために：あらすじと登場人物の紹介。</p> <p>第 4回 「帯木」輪読：その1 担当の役割説明</p> <p>第 5回 「帯木」輪読：その2</p> <p>第 6回 「帯木」輪読：その4</p> <p>第 7回 「帯木」輪読：その5</p> <p>第 8回 補足説明：紫式部と「空蝉の女」</p> <p>第 9回 「空蝉」輪読：その1</p> <p>第 10回 「空蝉」輪読：その2</p> <p>第 11回 「空蝉」輪読：その3</p> <p>第 12回 「空蝉」輪読：その4</p> <p>第 13回 「空蝉」輪読：その5</p> <p>第 14回 「空蝉」輪読：その6</p> <p>第 15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	輪読担当の準備。『源氏物語』について全体の内容を把握しておく。その他は授業中に指示する。		
成績評価の方法	輪読担当50% 筆記試験50%		

授業科目	日本文学演習Ⅰ、Ⅲ	担当者	木戸 裕子
	〔履修年次〕 1, 2年 〔学期〕 後期 〔単位〕 1	授業外対応	オフィスアワーに準じる。
		〔必修/選択〕 選択	〔授業形態〕 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 平安時代の私家集のなかでも歌物語的な性格が強いものを輪読し、歌集と物語文学との関わりを考える。あわせて文学研究における資料調査の方法を学ぶ。</p> <p>【概要】 本演習は、新たに1年生が加わり、1年生の日本文学演習Ⅰと2年生の日本文学演習Ⅲを合同で行なうことにより、2年生には1年生に説明することで、いっそう作品に対する理解が深まることを期待する。また、1年生には、2年生の発表を聴くことを通して、調査、発表の仕方を学んでほしい。取り扱う作品は前期日本文学演習Ⅱと同じく『四条宮下野集』である。</p> <p>【到達目標】 和歌解釈の方法を身につける。話し合いを通じて作品理解を深める。平安時代の文学状況を理解する</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント、『字典かな』</p> <p>(2) 片桐洋一『歌枕歌ことば辞典増訂版』笠間書院</p>		
授業スケジュール	<p>第 1回 2年生によるオリエンテーション： 四条宮下野集について</p> <p>第 2回 グループワーク1：演習の進め方について。辞書索引の引き方、資料の探し方</p> <p>第 3回 グループワーク2：翻字と解釈の実習</p> <p>第 4回 グループワーク3：翻字と解釈の実習その2</p> <p>第 5回 四条宮下野集を読む：2</p> <p>第 6回 四条宮下野集を読む：3</p> <p>第 7回 四条宮下野集を読む：4</p> <p>第 8回 四条宮下野集を読む：5</p> <p>第 9回 四条宮下野集を読む：6</p> <p>第 10回 四条宮下野集を読む：7</p> <p>第 11回 四条宮下野集を読む：8</p> <p>第 12回 四条宮下野集を読む：9</p> <p>第 13回 四条宮下野集を読む：10</p> <p>第 14回 四条宮下野集を読む：11</p> <p>第 15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	演習担当の準備		
成績評価の方法	日本文学演習Ⅰ 担当時外発言 20% レポート80% 日本文学演習Ⅲ 担当時外発言 20% 担当発表80%		

授業科目	日本文学演習Ⅱ	担当者	木戸 裕子
	[履修年次] 2年	授業外対応	オフィスアワーに準じる
	[学期] 前期 [単位] 1	[必修/選択] 選択	[授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】平安時代の私家集のなかでも歌物語的な性格が強いものを輪読し、歌集と物語文学との関わりを考える。あわせて文学研究における資料調査の方法を学ぶ。</p> <p>【概要】昨年度に引き続き、『四条宮下野（しじょうのみやしもつけしゅう）』を読む。四条宮下野は撰開期、藤原頼道の娘で後冷泉天皇皇后であった四条宮こと藤原寛子に仕えた女房である。その家集『四条宮下野集』は後冷泉後宮、なかでも四条宮寛子のもとでの華やかな宮廷生活が描かれ、『枕草子』的な家集と言われている。さまざまな和歌とエピソードを読むことで平安時代の貴族の文化、交友関係について考えたい。</p> <p>【到達目標】和歌解釈の方法を身につける。平安時代の貴族文化について考える。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント、『字典かな』</p> <p>(2) 片桐洋一『歌枕歌ことば辞典増訂版』笠間書院</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション：前年度の内容の確認</p> <p>第2回 四条宮下野集について：</p> <p>第3回 四条宮下野集を読む：1</p> <p>第4回 四条宮下野集を読む：2</p> <p>第5回 四条宮下野集を読む：3</p> <p>第6回 四条宮下野集を読む：4</p> <p>第7回 四条宮下野集を読む：5</p> <p>第8回 四条宮下野集を読む：6</p> <p>第9回 四条宮下野集を読む：7</p> <p>第10回 四条宮下野集を読む：8</p> <p>第11回 四条宮下野集を読む：9</p> <p>第12回 四条宮下野集を読む：10</p> <p>第13回 四条宮下野集を読む：11</p> <p>第14回 四条宮下野集を読む：12</p> <p>第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	演習担当の準備		
成績評価の方法	担当発表 80%、担当時以外の発言（質問、意見など） 20%		

授業科目	日本文学講義Ⅱ	担当者	竹本 寛秋
	[履修年次] 2年	授業外対応	適宜対応（要予約）
	[学期] 前期 [単位] 2	[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 日本近代の詩を読む</p> <p>【概要】 今、日本で一般に「詩」と呼ばれるものは、明治以降、日本の西洋化とともに作られた、比較的新しいジャンルです。日本近現代の詩の歴史を、実際の作品を読み解きながら振り返り、多様な日本の「詩」の世界を考えます。</p> <p>【到達目標】 「文学」を多様な角度から読む方法を理解する。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 大岡信『蕩児の家系—日本現代詩の歩み』（思潮社）、他授業中に紹介する</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス：日本の詩を読むために</p> <p>第2回 北村透谷『楚囚之詩』</p> <p>第3回 島崎藤村『若菜集』</p> <p>第4回 薄田泣菫『白羊宮』</p> <p>第5回 高村光太郎『道程』</p> <p>第6回 高村光太郎『道程』</p> <p>第7回 萩原朔太郎『月に吠える』</p> <p>第8回 萩原朔太郎『氷島』</p> <p>第9回 前半のまとめ</p> <p>第10回 大手拓次『藍色の墓』</p> <p>第11回 宮澤賢治『春と修羅』</p> <p>第12回 宮澤賢治『春と修羅』</p> <p>第13回 中原中也『山羊の歌』</p> <p>第14回 中原中也『山羊の歌』</p> <p>第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	対象テキストの精読。		
成績評価の方法	授業ごとのコメントカード（40%）、レポート（60%）		

授業科目	日本文学講読Ⅳ		担当者	丹羽 謙治
	[履修年次]	1年・2年	授業外対応	授業終了後に対応
	[学期]	前期	[単位]	1
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】浮世草子の世界—西鶴作品を読む—</p> <p>【概要】天和2年（1682）刊行の『好色一代男』以降の当世風俗を描いた娯楽的な散文作品を浮世草子と称する。今期は、西鶴の浮世草子作品のうち、好色物・雑話物数について注釈をつけながら講読する。</p> <p>【到達目標】江戸時代前期の風俗小説およびその成立背景について理解する。 西鶴の描く人間像について考察する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布する。</p> <p>(2) 新篇日本古典文学全集『井原西鶴集』（一）（二）（小学館）</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 導入1（日本文学の中の近世）</p> <p>第2回 導入2（版本と写本について）</p> <p>第3回 井原西鶴と浮世草子について</p> <p>第4回 『好色一代男』巻一の一</p> <p>第5回 『好色一代男』巻五の一</p> <p>第6回 『好色一代男』巻六の六・巻八の五</p> <p>第7回 『好色一代女』巻一の一</p> <p>第8回 『好色一代女』巻二の三</p> <p>第9回 『好色一代女』巻五の五</p> <p>第10回 『西鶴諸国ものがたり』巻二の六</p> <p>第11回 『西鶴諸国ものがたり』巻三の二</p> <p>第12回 『西鶴諸国ものがたり』巻三の五</p> <p>第13回 『懷硯』巻二の四</p> <p>第14回 『懷硯』巻三の三</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	配布するテキストを事前に読む（予習）。授業後にテキストの内容や構成について考察する（復習）。			
成績評価の方法	期末試験。			

授業科目	日本文学講読Ⅴ		担当者	丹羽 謙治
	[履修年次]	1年・2年	授業外対応	授業終了後に対応
	[学期]	後期	[単位]	1
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】草双紙の世界</p> <p>【概要】近世の庶民に親しまれた絵と文章が相半ばする絵本類を草双紙という。表紙の色・形態の変化をもとに、赤本・黒本・青本・黄表紙・合巻と形を変えて続き、明治に至る。今期は草双紙の歴史を概観しながら、重要な作品数編を講読する。</p> <p>【到達目標】江戸時代の庶民文芸のひとつである絵本の形態と内容を正しく理解し、現代の漫画との比較などを通して日本文化と絵画の関わりについて考える。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布する。</p> <p>(2) 新日本古典文学大系『草双紙集』（岩波書店）、鈴木重三ほか『近世子どもの絵本集』（岩波書店）</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 草双紙とは何か</p> <p>第2回 赤本『桃太郎』について</p> <p>第3回 赤本『鼠の嫁入』について</p> <p>第4回 黒本・富川吟雪『あはは三太郎三代菅笠』（上）</p> <p>第5回 黒本『あはは三太郎三代菅笠』（下）</p> <p>第6回 黄表紙・恋川春町『金々先生栄花夢』（上）</p> <p>第7回 黄表紙『金々先生栄花夢』（下）</p> <p>第8回 黄表紙『金々先生栄花夢』と洒落本</p> <p>第9回 黄表紙・朋誠堂喜三二『文武二道万石通』（上）</p> <p>第10回 黄表紙『文武二道万石通』（下）</p> <p>第11回 黄表紙・山東京伝『江戸生浮気蒲焼』</p> <p>第12回 黄表紙・山東京伝『心学早染草』</p> <p>第13回 初期合巻—読本の影響—</p> <p>第14回 後期合巻（長編合巻）について</p> <p>第15回 明治合巻について</p>			
授業外学習(予習・復習)	配布するテキストを事前に読む（予習）。授業後にテキストの内容や構成について考察する（復習）。			
成績評価の方法	期末試験			

授業科目	日本文学講読Ⅵ		担当者	竹本 寛秋				
	[履修年次]	1年	授業外対応	適宜対応 (要予約)				
	[学期]	前期	[単位]	1	[必修/選択]	選択	[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>日本近代の文学テキストを、様々な角度から検討する</p> <p>【概要】</p> <p>日本近代の詩、短歌、小説を、様々な観点から読み解く。小説の方法論、言語表現の仕組み、時代毎の価値観などを理解し、テキストについて根拠を持って検討できるようになるとともに、現代を対象化する視点を身につける。</p> <p>【到達目標】</p> <p>「文学」を多様な角度から読む方法を理解する。 テキストを基にした妥当な読みを提示でき、問題意識を持って、報告にまとめることができる。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 適宜、授業中に紹介する。</p>							
授業スケジュール	<p>第 1回 ガイダンス</p> <p>第 2回 梶井基次郎「檸檬」</p> <p>第 3回 結核の時代と文学</p> <p>第 4回 芥川龍之介「蜜柑」</p> <p>第 5回 科学技術と文学</p> <p>第 6回 有島武郎「カインの末裔」</p> <p>第 7回 日本の国境と日本文学</p> <p>第 8回 前半のまとめ</p> <p>第 9回 萩原朔太郎「猫町」</p> <p>第 10回 心理学と文学</p> <p>第 11回 宮澤賢治「猫の事務所」</p> <p>第 12回 原稿、草稿と文学</p> <p>第 13回 太宰治「道化の華」</p> <p>第 14回 「語り」からテキストを読み解く</p> <p>第 15回 まとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	対象テキストの精読と検討。							
成績評価の方法	毎回のミニレポート (40%)、レポート (60%)							

授業科目	日本文学講読Ⅶ		担当者	竹本 寛秋				
	[履修年次]	1年	授業外対応	適宜対応 (要予約)				
	[学期]	後期	[単位]	1	[必修/選択]	選択	[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>小説を分析するための様々な方法論について学ぶ</p> <p>【概要】</p> <p>文学研究の基礎的な方法論を身につける。文学研究においても、客観的な妥当性のもとに結論を導き出す方法論が、様々な蓄積されてきた。それらの方法論を学び、様々な文学テキストに応用することで、素朴な感想にとどまらない読みの可能性を見出し、客観的、論理的に考察し、文章として表現する能力を身につける。</p> <p>【到達目標】</p> <p>文学研究に必要なものとなる、テキスト読解の方法を実践できる。 テキストを基にした妥当な読みを提示し、客観的、論理的な考察のもとに、報告にまとめることができる。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 小平麻衣子『小説は、わかってくればおもしろい』慶應義塾大学出版会</p> <p>(2) 適宜、授業中に紹介する。</p>							
授業スケジュール	<p>第 1回 ガイダンス：授業の進め方、感想と研究の違い</p> <p>第 2回 志賀直哉「小僧の神様」：語り手・テキスト・焦点化</p> <p>第 3回 夢野久作「瓶詰地獄」：テキストの「空白」</p> <p>第 4回 太宰治「葉桜と魔笛」：一人称の語り</p> <p>第 5回 中島敦「文字禍」：テキストと時代背景</p> <p>第 6回 井伏鱒二「朽助のゐる谷間」：本文校異</p> <p>第 7回 川端康成「水月」：三人称の語り</p> <p>第 8回 有吉佐和子「亀遊の死」：小説と歴史</p> <p>第 9回 川上弘美「蛇を踏む」：固有名詞の問題</p> <p>第 10回 久米正雄「不死鳥」：小説と挿絵</p> <p>第 11回 堀辰雄「風立ちぬ」：小説の受容の問題</p> <p>第 12回 倉田由美子「暗い旅」：論争について</p> <p>第 13回 資料調査について</p> <p>第 14回 文学史について</p> <p>第 15回 全体のまとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	対象テキストの精読と検討。							
成績評価の方法	毎回のミニレポートと授業内での活動 (40%)、レポート (60%)							

授業科目	日本文学演習Ⅳ,Ⅵ	担当者	竹本 寛秋
	[履修年次] 1, 2年 [学期] 後期 [単位] 1	授業外対応	適宜対応 (要予約)
		[必修/選択] 選択	[授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 近現代文学の代表的な作品を取り上げ、研究的視点からテキストを検討する。</p> <p>【概要】 明治から現代までの近現代文学作品を取り上げ、研究的視点から検討する。1年生はテキストの中から対象を選び発表する。2年生は関心のある作家について発表する。</p> <p>【到達目標】 文学研究の方法論を身につけ、根拠を示して発表することができる。様々な資料を使い、テキストを複数の角度から検討できる。自分の考えをまとめ、ディスカッションすることができる。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 紅野敏郎, 千葉俊二他編『日本近代短編小説選 昭和篇 2』岩波文庫</p> <p>(2) 適宜, 授業中に紹介する。</p>		
授業スケジュール	<p>第 1回 ガイダンス: 授業の進め方, 担当者の決定</p> <p>第 2回 文学研究の方法: 研究の多様な方法論について</p> <p>第 3回 資料の扱い方: 資料の収集方法, 資料の検討方法について</p> <p>第 4回 口頭発表 (1)</p> <p>第 5回 口頭発表 (2)</p> <p>第 6回 口頭発表 (3)</p> <p>第 7回 口頭発表 (4)</p> <p>第 8回 口頭発表 (5)</p> <p>第 9回 前半のまとめ</p> <p>第 10回 口頭発表 (6)</p> <p>第 11回 口頭発表 (7)</p> <p>第 12回 口頭発表 (8)</p> <p>第 13回 口頭発表 (9)</p> <p>第 14回 口頭発表 (10)</p> <p>第 15回 全体のまとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	論文収集、資料作成、発表準備など。		
成績評価の方法	口頭発表等 (70%), 討議での発言・参加 (30%)		

授業科目	日本文学演習Ⅴ	担当者	竹本 寛秋
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1	授業外対応	適宜対応 (要予約)
		[必修/選択] 選択	[授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 日本近現代における文学作品を対象として、論文作成の方法を身につける</p> <p>【概要】 明治以降の日本近代文学作品について、論文として構成できる能力を身につける。対象とする作品を自主的に選択し、論点を発見して論理的な考察を行い、他者と共有できるよう言語化して発表する。自分が研究する手法に自覚的になるために、さまざまな文学理論について解説を行う。</p> <p>【到達目標】 日本近代文学の作品について、選択したテキストから論点を発見し、論として発展させることができる。様々な文学理論を理解し、自己の発表に生かすことができる。発表をもとに、ディスカッションすることができる。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 授業中に適宜紹介する。</p>		
授業スケジュール	<p>第 1回 ガイダンス: 授業の進め方, 研究論文を作成する意義</p> <p>第 2回 対象となる作品の決定, 文学理論について</p> <p>第 3回 発表資料の作成, 発表の方法, ディスカッションの方法について</p> <p>第 4回 口頭発表 (1)</p> <p>第 5回 口頭発表 (2)</p> <p>第 6回 口頭発表 (3)</p> <p>第 7回 口頭発表 (4)</p> <p>第 8回 口頭発表 (5)</p> <p>第 9回 前半のまとめ</p> <p>第 10回 口頭発表 (6)</p> <p>第 11回 口頭発表 (7)</p> <p>第 12回 口頭発表 (8)</p> <p>第 13回 口頭発表 (9)</p> <p>第 14回 論文作成の方法について</p> <p>第 15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	論文収集、資料作成、発表準備など。		
成績評価の方法	口頭発表, ディスカッションでの発言 (40%), レポート (60%)		

授業科目	中国文学史 I	担当者	土肥 克己
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 2	授業外対応	メールで事前連絡すること
		[必修/選択] 必修	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】中国文学史</p> <p>【概要】中国文学を時代順に説明します。当時の文学者の置かれた状況を再現し、そのなかから文学作品が生まれてくる必然性を解説します。</p> <p>【到達目標】中国文学の存在意義、社会とのかかわりを理解する。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布します。</p> <p>(2) 前野直彬編『中国文学史』東京大学出版会</p>		
授業スケジュール	<p>第 1回 授業の進め方について</p> <p>第 2回 詩経 (1)</p> <p>第 3回 詩経 (2)</p> <p>第 4回 詩経 (3)</p> <p>第 5回 楚辞 (1)</p> <p>第 6回 楚辞 (2)</p> <p>第 7回 楚辞 (3)</p> <p>第 8回 諸子 (1)</p> <p>第 9回 諸子 (2)</p> <p>第 10回 諸子 (3)</p> <p>第 11回 辞賦 (1)</p> <p>第 12回 辞賦 (2)</p> <p>第 13回 辞賦 (3)</p> <p>第 14回 辞賦 (4)</p> <p>第 15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	定期試験 100%		

授業科目	中国文学史 II	担当者	土肥 克己
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 2	授業外対応	メールで事前連絡すること
		[必修/選択] 必修	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】中国文学史</p> <p>【概要】中国文学を時代順に説明します。当時の文学者の置かれた状況を再現し、そのなかから文学作品が生まれてくる必然性を解説します。</p> <p>【到達目標】中国文学の存在意義、社会とのかかわりを理解する。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布します。</p> <p>(2) 前野直彬編『中国文学史』東京大学出版会</p>		
授業スケジュール	<p>第 1回 楽府 (1)</p> <p>第 2回 楽府 (2)</p> <p>第 3回 楽府 (3)</p> <p>第 4回 五言詩 (1)</p> <p>第 5回 五言詩 (2)</p> <p>第 6回 五言詩 (3)</p> <p>第 7回 志怪小説 (1)</p> <p>第 8回 志怪小説 (2)</p> <p>第 9回 志怪小説 (3)</p> <p>第 10回 近体詩 (1)</p> <p>第 11回 近体詩 (2)</p> <p>第 12回 近体詩 (3)</p> <p>第 13回 伝奇 (1)</p> <p>第 14回 伝奇 (2)</p> <p>第 15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	定期試験 100%		

授業科目	中国文学講読Ⅰ	担当者	土肥 克己
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1	授業外対応	メールで事前連絡すること
		[必修/選択]	選択 (注) [授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】漢文の文法</p> <p>【概要】短い漢文を使って、漢文の基本的な構文を学習します。高校までは漢文を返り点や送り仮名に従って受動的に読んできました。この授業では初歩的な漢文（白文）を能動的に読む力を養うために、構文と句法に重点を置いてくり返し訓練します。</p> <p>【到達目標】教職で求められるレベルを目安にして、漢文の基本的な構文・句法を習得する。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリントを配布します。 (2)		
授業スケジュール	第 1回 授業の進め方について 第 2回 基本文型 (1) 第 3回 基本文型 (2) 第 4回 基本文型 (3) 第 5回 基本文型 (4) 第 6回 基本文型 (5) 第 7回 基本文型 (6) 第 8回 副詞 第 9回 基本文型の連続 第 10回 フレーズ (1) 第 11回 フレーズ (2) 第 12回 フレーズ (3) 第 13回 フレーズ (4) 第 14回 フレーズ (5) 第 15回 まとめ		
授業外学習(予習・復習)	小テストを数回実施するので予習してください。		
成績評価の方法	小テスト 50%, 定期試験 50%		

(注) 教職必修

授業科目	中国文学講読Ⅱ	担当者	土肥 克己
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1	授業外対応	メールで事前連絡すること
		[必修/選択]	選択 (注) [授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】漢文学の基礎</p> <p>【概要】中国における文学と日本における漢文学の基礎的事項を概説します。これは漢文を読むとき、知っているのと役立つ知識です。このなかで漢文学作品をいくつか紹介し、構文・句法についての訓練も同時におこないます。</p> <p>【到達目標】教職で求められるレベルを目安にして、漢文に関連する基礎知識を習得する。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリントを配布します。 (2)		
授業スケジュール	第 1回 授業の進め方について 第 2回 漢字 (1) 第 3回 漢字 (2) 第 4回 漢字 (3) 第 5回 漢字 (4) 第 6回 漢字 (5) 第 7回 漢文 (1) 第 8回 漢文 (2) 第 9回 漢文 (3) 第 10回 漢文学 (1) 第 11回 漢文学 (2) 第 12回 中国文学 (1) 第 13回 中国文学 (2) 第 14回 中国文学 (3) 第 15回 まとめ		
授業外学習(予習・復習)	小テストを数回実施するので予習してください。		
成績評価の方法	小テスト 50%, 定期試験 50%		

(注) 教職必修

授業科目	中国文学演習Ⅰ	担当者	土肥 克己
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1	授業外対応	メールで事前連絡すること
		[必修/選択] 選択	[授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】白居易の作品を読む</p> <p>【概要】白居易の作品集のなかから、仮想判決文を読みます。これは社会のさまざまな事件に対し自分が裁判官になったつもりで判決を下したもので、そこから中国社会の特徴を読み取っていきます。</p> <p>【到達目標】中国前近代の社会現象を理解する。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布します。</p> <p>(2)</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 授業の進め方について</p> <p>第2回 講読(1)</p> <p>第3回 講読(2)</p> <p>第4回 講読(3)</p> <p>第5回 講読(4)</p> <p>第6回 講読(5)</p> <p>第7回 講読(6)</p> <p>第8回 講読(7)</p> <p>第9回 講読(8)</p> <p>第10回 講読(9)</p> <p>第11回 講読(10)</p> <p>第12回 講読(11)</p> <p>第13回 講読(12)</p> <p>第14回 講読(13)</p> <p>第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	作品をプリントにして事前に配布するので予習をしてきてください。		
成績評価の方法	予習と発表100%。定期試験は実施しません。		

授業科目	中国文学演習Ⅱ	担当者	土肥 克己
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1	授業外対応	メールで事前連絡すること
		[必修/選択] 選択	[授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】中国文学の研究のしかたと漢作文</p> <p>【概要】みなさんが中国文学を研究するにあたり、素材選択から調査、分析、構想、発表までの一連のステップを訓練します。さらに鹿児島県の漢文石碑を調査し、漢文と実際の社会がどのようにつながっているのかを学びます。</p> <p>【到達目標】中国文学研究のための技術を習得する。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布します。</p> <p>(2)</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 授業の進め方について</p> <p>第2回 文献調査の基礎(1)</p> <p>第3回 文献調査の基礎(2)</p> <p>第4回 論文の読み方</p> <p>第5回 石碑調査(1)</p> <p>第6回 石碑調査(2)</p> <p>第7回 石碑調査(3)</p> <p>第8回 石碑調査(4)</p> <p>第9回 石碑調査(5)</p> <p>第10回 プレゼン練習(1)</p> <p>第11回 プレゼン練習(2)</p> <p>第12回 プレゼン練習(3)</p> <p>第13回 プレゼン練習(4)</p> <p>第14回 プレゼン練習(5)</p> <p>第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	ステップごとに具体的な指示があるので十分に予習をしてきてください。		
成績評価の方法	予習と発表100%。定期試験は実施しません。		

授業科目	中国文学演習Ⅲ	担当者	土肥 克己
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 1	授業外対応	メールで事前連絡すること
		[必修/選択] 選択	[授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】中国文学の論文を整理して発表する</p> <p>【概要】発表担当者は中国文学の論文を複数読み、整理・考察したうえで発表してもらいます。質疑応答を通して中国文学全体への関心を高めつつ、発表の技術や論文の形式、構成、発想を身につけていきます。</p> <p>【到達目標】専門性を高め、学問的に探求する姿勢を習得する。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) (2)		
授業スケジュール	第 1回 授業の進め方について 第 2回 論文整理と発表 (1) 第 3回 論文整理と発表 (2) 第 4回 論文整理と発表 (3) 第 5回 論文整理と発表 (4) 第 6回 論文整理と発表 (5) 第 7回 論文整理と発表 (6) 第 8回 論文整理と発表 (7) 第 9回 論文整理と発表 (8) 第 10回 論文整理と発表 (9) 第 11回 論文整理と発表 (10) 第 12回 論文整理と発表 (11) 第 13回 論文整理と発表 (12) 第 14回 論文整理と発表 (13) 第 15回 まとめ		
授業外学習(予習・復習)	関係論文を調査し、発表に備えてください。		
成績評価の方法	予習と質疑応答 100%。定期試験は実施しません。		

授業科目	卒業研究Ⅰ,Ⅱ	担当者	専攻教員全員
	[履修年次] 2年 [学期] 前期,後期 [単位] 各1	授業外対応	
		[必修/選択] 必修	[授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】卒業論文の作成</p> <p>【概要】卒業論文は2年間の学習の集大成となる授業です。日本語日本文学専攻の学生は、日本語学演習・日本文学演習・中国文学演習のいずれかを選択したあと、それぞれの分野で自主的に課題を設けて研究し、成果を卒業論文として提出します。</p> <p>1年次にどの分野で卒業論文を書くかをまず選択し、2年次後期に卒業論文作成に向けた準備を整えて中間報告にまとめ、冬期には、卒業論文を完成させたいうえで専攻全体の卒業研究発表会に備えます。</p> <p>教員は演習と連動させながら卒業研究課題の絞り込みを助け、みなさんの研究の進捗状況に応じて適宜指導します。</p> <p>【到達目標】卒業論文の完成とその口頭発表</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 授業中に紹介します。 (2)		
授業スケジュール	第 1回 I オリエンテーション：卒業論文の進め方 II 論文作成：その1 第 2回 論文作成：その1 論文作成：その2 第 3回 論文作成：その2 論文作成：その3 第 4回 論文作成：その3 論文作成：その4 第 5回 論文作成：その4 論文作成：その5 第 6回 論文作成：その5 論文作成：その6 第 7回 論文作成：その6 論文作成：その7 第 8回 論文作成：その7 論文作成：その8 第 9回 論文作成：その8 論文作成：その9 第 10回 論文作成：その9 論文作成：その10 第 11回 論文作成：その10 論文作成：その11 第 12回 論文作成：その11 論文作成：その12 第 13回 論文作成：その12 論文作成：その13 第 14回 論文作成：その13 論文作成：その14 第 15回 論文作成：まとめ 論文作成：まとめ		
授業外学習(予習・復習)			
成績評価の方法	I：中間報告 100% II：卒業論文 75%、口頭発表 25%		

授業科目	比較文化		担当者	小林 朋子
	[履修年次] 2年		授業外対応	適宜対応 (要予約)
	[学期] 前期	[単位] 2	[必修/選択] 選択 (注)	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】異文化理解・異文化コミュニケーション・異文化交流とは何か。</p> <p>【概要】今日のグローバル化社会では、毎日の生活で異なる文化を持つ人々とのコミュニケーションが増加している。また、「異文化」とは国境を越える出会いを背景とした文化であるというステレオタイプを取り払えば、異質な他者との出会いも私たちの日常にあふれている。本講義では、そうした他者とのような「関係性=コミュニケーション」を構築していくべきなのか、様々な観点から学んでいく。講義終了後は外国人との交流の時間を設ける。受講者はこの「異文化交流会」に向けて、主体的に考えながら講義を受ける必要がある。</p> <p>【到達目標】・広い視野から異文化を正しく理解した上で、他言語を話す人々の価値観を知り、適切にコミュニケーションを行うことができる。・異文化交流の意義について体験的に理解する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 伊佐雅子監修『多文化社会と異文化コミュニケーション』（三修社刊、2007年）</p> <p>(2) 池田理知子編著『よくわかる異文化コミュニケーション』（ミネルヴァ書房、2010年）他。（授業で随時紹介します）</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 異文化コミュニケーションを学ぶことの意義：文化・異文化とは何か</p> <p>第2回 グローバル社会と異文化コミュニケーション（1）：グローバル化の意味</p> <p>第3回 グローバル社会と異文化コミュニケーション（2）：異文化交流の歴史と異文化への根差</p> <p>第4回 空間、時間、異文化コミュニケーション：さまざまな意味をもつ空間と時間</p> <p>第5回 「地球都市の出現とコミュニケーション」：都市化する世界</p> <p>第6回 女性と異文化適応：異文化適応におけるジェンダー</p> <p>第7回 異文化コミュニケーションと誤解の接点：誤解という身近なできごと</p> <p>第8回 異文化コミュニケーションにおける言語選択：「英語の普及」をどう捉えるか</p> <p>第9回 異文化コミュニケーション者としての通訳者（1）：通訳の種類、通訳の歴史</p> <p>第10回 異文化コミュニケーション者としての通訳者（2）：通訳は言葉の置き換え作業？</p> <p>第11回 異文化交流会準備（1）：異文化接触とは「よそ者」と異文化適応</p> <p>第12回 異文化交流会準備（2）：グローバル化とアイデンティティー自分のことば、他者のことば</p> <p>第13回 異文化交流会準備（3）：異文化コミュニケーションとは</p> <p>第14回 異文化交流会：異文化コミュニケーションの実践</p> <p>第15回 異文化交流会まとめ：新しい「異文化コミュニケーション」に向けて</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。			
成績評価の方法	授業への参加態度（40%）、小レポート（異文化交流会前の準備レポートを含む）（20%）、最終レポート（40%）			

(注) 英語英文学専攻は1年選択（教職必修）、日本語日文学専攻は2年選択、

授業科目	英文学史		担当者	轟 義昭
	[履修年次] 2年		授業外対応	質問等はメールもしくはオフィスアワーで対応
	[学期] 後期	[単位] 2	[必修/選択] 選択 (注)	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】18世紀～20世紀における「小説」の流れを概観する。</p> <p>【概要】まず、文学史のテキストに潜んでいる問題点を考えます。次に、18世紀～20世紀における主要な作家と作品を取り上げて、「小説」の流れを概観し、18世紀の特徴、19世紀（ビクトリア朝）の特徴、20世紀の特徴を理解してもらいます。また、受講者にはイギリス文学に親しんでもらうために、指定した映像作品を鑑賞してもらい、「映画作品から親しむイギリス文学」というレポートを課します。</p> <p>【到達目標】18世紀の小説の特徴、19世紀の小説の特徴、20世紀の小説の特徴を理解する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 川崎寿彦著『イギリス文学史』成美堂</p> <p>(2) サブテキストは講義中に指定する。</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション（講義方式の説明、文学史のテキストに潜む問題点の探求）</p> <p>第2回 18世紀の小説（1）：18世紀の小説とその周辺に関する諸問題（J. パニヤン、D. デフォー、J. スイフト、S. リチャードソン）</p> <p>第3回 18世紀の小説（2）：18世紀の小説におけるH. フィールドイング、L. スターン、T.G. スモレットの役割</p> <p>第4回 18世紀の小説（3）：18世紀後半のゴシック小説（H. ウォルポール）</p> <p>第5回 19世紀初頭の小説：J. オースティンの小説</p> <p>第6回 18世紀～19世紀初頭の小説に関する小テスト、19世紀の小説（1）：19世紀（ヴィクトリア朝）小説の特徴</p> <p>第7回 19世紀の小説（2）：C. ディケンズの小説</p> <p>第8回 19世紀の小説（3）：W.M. サッカーレーの小説、ブロンテ姉妹（シャーロット、エミリー、アン）の小説</p> <p>第9回 19世紀の小説（4）：ダーウィニズムの影響、19世紀後半（ヴィクトリア朝後期）の小説（T. ハーディ）</p> <p>第10回 19世紀（ビクトリア朝）の小説に関する小テスト、20世紀の小説（1）：20世紀小説の特徴</p> <p>第11回 20世紀の小説（2）：D.H. ロレンスの小説</p> <p>第12回 20世紀の小説（3）：V. ウルフの小説</p> <p>第13回 20世紀の小説（4）：H.G. ウェルズの小説</p> <p>第14回 20世紀の小説（5）：H. ジェームズズの小説、E.M. フォスターの小説</p> <p>第15回 20世紀の小説に関する小テスト、まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	予習は授業で扱う作家と作品に関する事前調査3回（プリント）、復習は小テスト（3回）の準備			
成績評価の方法	筆記試験（60%）、講義中の小テスト/授業への取り組み（30%）、課題レポート分(10%)			

(注) 日本語日文学専攻は選択、英語英文学専攻は必修

授業科目	米文学史	担当者	小林 朋子
	[履修年次] 2年	授業外対応	適宜対応 (要予約)
	[学期] 前期 [単位] 2	[必修/選択] 選択 (注)	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】アメリカ文学史から読み解くアメリカ社会・文化の源流</p> <p>【概要】本講義は、ネイティブ・アメリカンの口承文学から、ポスト・モダニズムの文学までのアメリカ文学史上の名作を、作家の経歴や時代背景に照らして学び、その作品の抜粋を英語で精読することで、アメリカ社会・文化の源流について理解を深めることを目的としている。文学作品から時代思潮を読み取る方法を知ること、今氾濫しているアメリカの情報が、どんな風に発祥し、史的にどんな紆余曲折を経て、私たちの現在に届けられているのか推し量る力を養うことができる。そのような「文化理解力」をこの米文学史の講義で涵養してほしい。授業では作品についてのディスカッションの時間を設け理解を深める。</p> <p>*授業には必ず英和辞典を持参すること。</p> <p>【到達目標】アメリカ社会・文化の源流について理解を深める。アメリカ文学の作品を原書で読むことで英語読解力を向上させる。他言語を話す人々の価値観を知る。情報を的確に調査する能力、またそれを発信する自己表現能力を向上させる。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 井上謙治著 『An Outline of American Literature アメリカ文学概観』(南雲堂、2004年)</p> <p>(2) 授業で随時紹介します。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 インTRODクシヨン—ネイティブ・アメリカンの詩</p> <p>第2回 信仰とアメリカ—ピューリタン文学と理性の文学(1)</p> <p>第3回 信仰とアメリカ—ピューリタン文学と理性の文学(2)</p> <p>第4回 「驚異」の世界—ロマン主義の勃興</p> <p>第5回 アメリカン・ルネッサンス—ロマン主義の隆盛(1)</p> <p>第6回 アメリカン・ルネッサンス—ロマン主義の隆盛(2)</p> <p>第7回 「金めつき時代」—リアリズムの勃興</p> <p>第8回 危機と革新—リアリズムの展開</p> <p>第9回 繁栄と解放の文学—ロスト・ジェネレーション</p> <p>第10回 世界へ向けて—モダニズムの文学</p> <p>第11回 戦後文学の出発—第2次世界大戦と冷戦</p> <p>第12回 自我をつくろう—人種系文学(1)</p> <p>第13回 自我をつくろう—人種系文学(2)</p> <p>第14回 自己の探求—ポスト・モダニズムの文学</p> <p>第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。		
成績評価の方法	授業への参加態度(40%)、小レポート(20%)、最終レポート(40%)		

(注) 日本語日本文学専攻は選択、英語英文学専攻は必修

授業科目	読書と豊かな人間性	担当者	木戸 裕子
	[履修年次] 2年	授業外対応	オフィスアワーに準じる
	[学期] 後期 [単位] 2	[必修/選択] 選択 (注)	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】本と図書館に関する現状を学び、読書が子どもの成長にもたらすものについて考える。</p> <p>【概要】子どもにとって読書とは、広い世界への興味や想像力をはぐくむために大切なものである。この授業では、本と図書館に関する話題や、読書活動の方法を通して、読書が私たちにもたらす豊かな世界を考えていく。授業では、実際に図書館や書店を訪問したり、読みかせ、ブックトークなどの子どもの読書の手助けとなる方法を実際に体験したりする。</p> <p>【到達目標】読書と心の豊かさの関連について考えることができる。児童生徒の読書活動に対する学校図書館の役割を理解する。様々な読書活動(読み聞かせ、ブックトークなど)の方法を知る。自分の読書活動について振り返る。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 立田 慶裕編著『読書教育の方法—学校図書館の活用に向けて—』学文社</p> <p>(2) 「読むチカラ」プロジェクト編「鍛えよう！読むチカラ学校図書館で育てる25の方法」明治書院、小林功「楽しい読み聞かせ 改訂版」全国学校図書館協議会、渡部康夫「読む力を育てる読書のアニメーション」全国学校図書館協議会、</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 読書教育とは何か：発達に応じた読書</p> <p>第2回 読書教育の担い手：学校図書館を支える人々</p> <p>第3回 学校図書館の歴史：制度としての学校図書館</p> <p>第4回 読書教育のための学校環境：学校における読書環境、地域との連携</p> <p>第5回 読書教育の方法1：就学前・学校全体</p> <p>第6回 読書教育の方法2：教科と読書教育</p> <p>第7回 小学校の読書：物語を楽しみ、言葉をはぐくむ</p> <p>第8回 中学校・高校の読書教育：言語教育と科学的探究の融合</p> <p>第9回 公共図書館の児童室と学校図書館：グループワークとディスカッション</p> <p>第10回 発達を支える読書：特別支援教育との関係</p> <p>第11回 読書活動1：読書案内、ブックトーク、ブックリスト</p> <p>第12回 読書活動2：読み聞かせ、読みあい、ストーリーテリング</p> <p>第13回 読書活動3：パネルシアター、紙芝居</p> <p>第14回 実演1：ブックトーク、読み聞かせ、読みあいなど</p> <p>第15回 実演2：ブックトーク、読み聞かせ、読みあいなど</p>		
授業外学習(予習・復習)	積極的に読書活動に取り組み、読書記録を取るようにする。		
成績評価の方法	課題提出(50%)と、授業第14回、15回での実演(50%)		

(注) 司書教諭資格必修

授業科目	情報メディアの活用	担当者	竹本 寛秋
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 2	授業外対応	適宜対応 (要予約)
		[必修/選択]	選択 (注) [授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 高度情報化社会である現代における多様な情報メディアの特性を学び、学校図書館での活用方法について考える。</p> <p>【概要】 テクノロジーの発展により高度情報化した現代において、情報と人々の関係は急速に変化している。新たな情報環境を積極的に活用していくことが学校図書館には常に求められており、その中で、司書教諭は多様なメディアについて理解し、活用する能力を持つことが期待される。授業においては、情報化社会と人間の関係について基礎的な理解に基づき、様々なメディアの特性を知って、効果的に活用する方法を学ぶ。またデジタル社会における著作権について学ぶ。</p> <p>【到達目標】 現代社会の多様な情報メディアの特性について理解し、説明できる。 学校図書館における情報メディアを活用した教育や応用の手法について理解し、説明できる。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント (2) なし</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 高度情報化社会と人間 : 情報化社会と司書教諭の役割 第 2 回 情報メディアの歴史の変遷 第 3 回 学校教育と情報メディア 第 4 回 情報メディアの種類と特性 第 5 回 情報メディアの選択 : 状況に応じた選択の必要と留意点 第 6 回 視聴覚メディアの活用 第 7 回 情報メディアの活用 1 : コンピュータの活用と運用 第 8 回 教育メディアの活用 2 : 教育用ソフトウェアの活用 第 9 回 情報メディアの活用 3 : データベースと情報検索 第 10 回 情報メディアの活用 4 : インターネットと情報検索 第 11 回 情報メディアの活用 5 : インターネットによる情報発信 第 12 回 情報セキュリティ 第 13 回 ネットワーク環境と学校教育 第 14 回 学校図書館メディアと著作権 第 15 回 まとめ : 情報メディア活用の課題と将来</p>		
授業外学習(予習・復習)	教科書の精読, 授業で課す課題の調査など。		
成績評価の方法	授業での課題 (30%)、期末試験 (70%)		
実務経験について	高等学校, 高等専門学校に教員として勤務		

注) 司書教諭資格必修

授業科目	書道Ⅰ	担当者	松元 徳雄
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1	授業外対応	授業終了後に対応
		[必修/選択] 選択 (注)	[授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】楷書・行書・かなの特徴と書法</p> <p>【概要】書道は文字を素材とする芸術である。その文字の姿もさまざまな形があり、実に興味深い。しかし、現代において文字はまさに書く時代ではなく打つ時代であるが、筆を執って文字を書くすばらしさと大切さを実感してもらいたい。</p> <p>本講座では、書体の変遷について概要を学び、実技へと移行する。まず、書の重要な書体である楷書の基本点画を学習してから行書、さらにはかなの基本へと進む。</p> <p>【到達目標】楷書・行書・かなの書き方を習得する</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 青山杉雨編『改訂 書道の古典Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ』二玄社刊</p> <p>(2)</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 書について(書体の特徴とその変遷)</p> <p>第2回 楷書の特徴とその書法(基本点画の書き方)</p> <p>第3回 " "</p> <p>第4回 " "</p> <p>第5回 " (細字の書き方)</p> <p>第6回 " "</p> <p>第7回 行書の特徴とその書法(基本点画の書き方)</p> <p>第8回 " "</p> <p>第9回 " "</p> <p>第10回 " (細字の書き方)</p> <p>第11回 " "</p> <p>第12回 かなの特徴と書き方(いろは単体)</p> <p>第13回 " "</p> <p>第14回 " (連綿とその応用)</p> <p>第15回 " "</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	授業における清書作品(100%)		

(注) 教職必修

授業科目	書道Ⅱ	担当者	松元 徳雄
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1	授業外対応	授業終了後に対応
		[必修/選択] 選択 (注)	[授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】中学校における書写教育の把握と楷書・行書の古典学習</p> <p>【概要】中学校の書写教育の現況を通覧するとともに教材と同じ課題を練習し、その執筆法を習得する。さらに、書の基本である楷書の古典を通して、その造型と運筆の要領を学ぶ。また、日常生活において最も多用されている行書の巧みな筆法を学習する。</p> <p>【到達目標】中学校における書写教育の概要を簡単に説明できること。さらに楷書・行書の特徴とその運筆の技法を古典を通して取得する。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 青山杉雨編『改訂 書道の古典Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ』二玄社刊</p> <p>(2)</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 中学校における書写教育について</p> <p>第2回 中学校で学ぶ楷書の基本とその応用</p> <p>第3回 " "</p> <p>第4回 楷書の古典(九成宮醜泉銘)</p> <p>第5回 " "</p> <p>第6回 " (始平公造像記)</p> <p>第7回 " (孫秋生造像記)</p> <p>第8回 中学校で学ぶ行書の基本とその応用</p> <p>第9回 " "</p> <p>第10回 中学校で学ぶ漢字と仮名の調和</p> <p>第11回 行書の古典(蘭亭叙)</p> <p>第12回 " "</p> <p>第13回 " (苕溪詩卷)</p> <p>第14回 " (吳昌碩詩稿)</p> <p>第15回 " (風信帖)</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	授業における清書作品(100%)		

(注) 教職必修

授業科目	書道Ⅲ		担当者	松元 徳雄
	[履修年次]	2年	授業外対応	授業終了後に対応
	[学期]	前期	[単位]	1
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】草書・隸書・篆書の特徴とその運筆の技法</p> <p>【概要】書道Ⅲでは草書・隸書・篆書の3つの書体について学習する。草書は日常生活においてはほとんど目にする文字ではないが、芸術性が高く、書のすばらしさを理解していくためには不可欠な書体である。隸書は今から1800年位前に生まれた書体であるが、日常よく目にする文字である。隸書は独特な技法と造型のおもしろさを理解してもらう。篆書は中国最古の文字であり、その典型とされる小篆のユニークな字形や運筆の技法を学ぶ。</p> <p>【到達目標】草書・隸書・篆書のくツメル特徴とその運筆の技法を古典を通して習得する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 青山杉雨編『改訂 書道の古典Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ』二玄社刊 (2)			
授業スケジュール	第1回 草書の特徴とその書法（基本点画の書き方） 第2回 草書の古典（書譜） 第3回 " " 第4回 " （擬山園帖） 第5回 " " 第6回 隸書の特徴とその書法（基本点画の書き方） 第7回 隸書の古典（曹全碑） 第8回 " " 第9回 " （礼器碑） 第10回 " " 第11回 篆書の特徴とその書法（基本点画の書き方） 第12回 篆書の古典（泰山刻石） 第13回 " " 第14回 " （趙之謙篆書対聯） 第15回 " "			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	授業における清書作品（100%）			

授業科目	書道Ⅳ		担当者	松元 徳雄
	[履修年次]	2年	授業外対応	授業終了後に対応
	[学期]	後期	[単位]	1
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】自用印並びに創作作品の制作とかなの古典学習</p> <p>【概要】書道学習の集大成として創作にチャレンジする。まず、自分の名を刻した印を制作し、漢字と調和体の創作作品に押印する。書の楽しさと魅力を味わってもらうことを目的とする。後半は日本の書を代表するかな（古筆）の臨書学習を通して、その芸術性と文学の特徴を学ぶ。かなは漢字がくずされて発生したものであるが、日本人が独自に創出した文字である。その真の姿を追究したい。かながいかに大切な文字であるか、実感してもらうのも目的の一つである。</p> <p>【到達目標】漢字と調和体の創作作品が書けるようになることとかな古典の学習によりその魅力を習得すること</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 青山杉雨編『改訂 書道の古典Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ』二玄社刊 (2)			
授業スケジュール	第1回 作品制作（篆刻—自用印） 第2回 " " 第3回 " " 第4回 " " 第5回 " （漢字作品—4字熟語） 第6回 " " 第7回 " " 第8回 " （調和体作品） 第9回 " " 第10回 かなの古典（高野切第1種） 第11回 " " 第12回 " （高野切第3種） 第13回 " " 第14回 " （寸松庵色紙） 第15回 " "			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	授業における清書作品（100%）			

6 英語英文学専攻専門科目

授業科目	スタディスキルズ		担当者	小林 朋子 遠峯 伸一郎				
	[履修年次]	1年	授業外対応	適宜対応 (要予約)				
	[学期]	前期	[単位]	2	[必修/選択]	必修	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 高校から大学の教育カリキュラムにスムーズに新入生が移行できるためのリテラシー教育、ならびに各専門分野への橋渡しとなるような基礎的能力の育成</p> <p>【概要】 大学での専門的「勉強」は、受動的に知識を吸収するだけでは不十分で、あるテーマについて疑問を持ち（批判的検討能力）、それについて論理的に議論を展開し、自らその問題に対して「解答」を与えること（問題解決能力）が求められます。この講義では、その種の能力に達するために必要な基礎的学習技術—「聴く」「読む」「調べる」「整理する」「まとめる」「書く」「伝える」—を段階的に学んでいき、あるテーマについて論理的な論述を展開したレポートを作成できるようにします。</p> <p>【到達目標】 与えられたテーマについて自らの意見を持ち、その意見を論理的に展開できるようにする。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) (小林) 学習技術研究会 『知へのステップ 第5版—大学生からのスタディ・スキルズ』 くろしお出版 (遠峯) なし。</p> <p>(2) 随時紹介</p>							
授業スケジュール	<p>第1回 インTRODクシヨン:「生徒」から「学生」へ</p> <p>第2回 「聴く」と「読む」:積極的な聞き手と読み手になるために</p> <p>第3回 「深く読む」:論旨や要点を整理して分析的に進む</p> <p>第4回 論文ってどんなもの?:基礎編1—よく使われる語と表現、引用</p> <p>第5回 論文ってどんなもの?:基礎編2—よく使われる文の形、句読点、表記規則</p> <p>第6回 「調べる」と「整理する」:大学図書館とインターネットを用いた効率的な情報検索の仕方</p> <p>第7回 本論の役割:論拠提示、結論提示</p> <p>第8回 結びの役割:総括する、展望提示</p> <p>第9回 図表・資料に関する表現:使用する資料を示す、図表を用いて説明する</p> <p>第10回 レポート作成の第一歩(テーマ設定から結びに至る展開術の確認)</p> <p>第11回 レポート作成の実践(その一)</p> <p>第12回 レポート作成の実践(その二)</p> <p>第13回 レポート作成の実践(その三)</p> <p>第14回 発表用スライドの作成:パワーポイントの活用</p> <p>第15回 プレゼンテーション</p>							
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。							
成績評価の方法	レポート(60%)、プレゼンテーション(10%)、授業時の取り組み(30%)							

授業科目	コミュニケーション概論		担当者	石井 英里子				
	[履修年次]	1年	授業外対応	オフィスアワーおよびGoogle Classroom				
	[学期]	前期	[単位]	2	[必修/選択]	必修(注)	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>英語で学ぶ異文化コミュニケーション入門、CLIL (Content and Language Integrated Learning)</p> <p>【概要】</p> <p>この授業は、領域統合型の言語活動を実践する授業です。テーマに関連する様々なトピックを扱いながら、多様な領域統合型の言語活動を実践し英語運用能力を高めます。本授業の使用言語は英語です。</p> <p>【到達目標】(1)英語で書かれた資料から、必要な情報を読み取ることができる。(2)英語の説明を聞いて、概要や要点を理解することができる。(3)トピックに関して簡単な英語を用いて情報や意見を交換することができる。(4)まとまりのある英語の文章で具体的に説明するとともに、自分の意見やその理由を加えて書いたり、口頭で説明したりすることができる。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Vincent, P. (2017). <i>Speaking of intercultural communication</i>. Nan'undō.</p> <p>(2) Stringer M. D. & Cassidy, A. P. (2009). <i>52 activities for improving cross-cultural communication</i>. Intercultural Press.</p>							
授業スケジュール	<p>第1回 Course Introduction (授業の進め方と課題の取り組み方の説明, 初回アンケート)</p> <p>第2回 Communication</p> <p>第3回 Culture</p> <p>第4回 Nonverbal Communication</p> <p>第5回 Communicating Clearly</p> <p>第6回 Culture and Values</p> <p>第7回 Culture and Perception</p> <p>第8回 Diversity</p> <p>第9回 Stereotypes</p> <p>第10回 Culture Shock</p> <p>第11回 Culture and Change</p> <p>第12回 Talking about Japan</p> <p>第13回 Becoming a Global Person</p> <p>第14回 Final Presentation (1)</p> <p>第15回 Final Presentation (2)</p>							
授業外学習(予習・復習)	予習(発表準備含む)2時間以上必要である。							
成績評価の方法	毎回の授業でのプレゼンテーション30% Final Presentation 30% レポート課題40%で評価する。							

(注) 教職必修

授業科目	英語学概論	担当者	遠峯 伸一郎
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 2単位	授業外対応	講義前後に適宜対応
		[必修/選択]	必修(注) [授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】英語学諸分野の概説</p> <p>【概要】英語を分析の題材にして、音声学・音韻論、形態論、意味論、統語論の各分野を概観する。</p> <p>【到達目標】音声学・音韻論、形態論、統語論、意味論について基礎的な知識を習得する。習得した知識を応用して、英語の例を分析できるようになる。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) なし。</p> <p>(2) 大名力(2014)『英語の文字・綴り・発音のしくみ』研究社、東京。その他随時紹介する。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス、英語学とは何か</p> <p>第2回 音声学・音韻論(1) 英語の母音・子音</p> <p>第3回 音声学・音韻論(2) 音素と異音、綴りと発音の対応</p> <p>第4回 音声学・音韻論(3) 英語のアクセントとイントネーション</p> <p>第5回 音声学・音韻論(4) 英語の音変化と音脱落</p> <p>第6回 形態論(1) 派生、屈折</p> <p>第7回 形態論(2) 複合語</p> <p>第8回 形態論(3) 転換、その他の語形成過程</p> <p>第9回 統語論(1) 句や文の組み立てに見る規則性</p> <p>第10回 統語論(2) 句構造規則</p> <p>第11回 統語論(3) 動詞を中心とする構文 時制、相、態</p> <p>第12回 統語論(4) 冠詞・名詞を中心とする構文</p> <p>第13回 意味論(1) 上位語・下位語、同義・類義・反義</p> <p>第14回 意味論(2) 比喩</p> <p>第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	予習1時間以上、復習3時間以上必要である。		
成績評価の方法	試験(40%) + 小テスト(40%) + 授業内活動への積極的な参加(20%)		

(注) 教職必修

授業科目	英文学概論	担当者	轟 義昭
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 2	授業外対応	質問等はメールもしくはオフィスアワーで対応
		[必修/選択]	必修(注) [授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】「劇」「散文」「小説」の作品を読む。作品に潜む問題点を考える能力(探求能力)を身に付ける。</p> <p>【概要】「劇」「散文」「小説」のジャンルから作品を取り上げて鑑賞し、作品の問題点を探求します。問題点の探求においては、グループ活動をとおして受講生とのディスカッションを取り入れ、他の学生の見解や思考を共有しながら作品の理解に努めます(受講生は発言が求められるので、前もってテキストをしっかりと読んでおく必要があります)。</p> <p>【到達目標】イギリス文学の「劇」「散文」「小説」に関する作品を鑑賞して5つの作品を理解する。また、作品に潜む問題点を探求しながら、多様な文化的・歴史的・社会的背景を理解する。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) W.シェイクスピア作 小田島雄志訳 『リア王』 白水Uブックス C.ディケンズ作 村岡花子訳 『クリスマス・キャロル』 新潮文庫 エミリー・ブロンテ作 鴻巣友季子訳 『嵐が丘』 新潮文庫</p> <p>(2) 高橋源次『英文学概論』(南雲堂)、高柳俊一・中野記偉『英文学の世界』(大修館書店)</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション、「英文学の学習とは何か」についての検討</p> <p>第2回 『アーサー王物語』に関する考察(1):アーサー王伝説の映像鑑賞+まとめ(理解力の確認)</p> <p>第3回 『アーサー王物語』に関する考察(2):大衆文化のなかで生き続けるアーサー王伝説</p> <p>第4回 『アーサー王物語』に関する考察(3):作品にまつわる解説</p> <p>第5回 シェイクスピア『リア王』に関する考察(1):「シェイクスピアはどういう人物か」の検討、悲劇の原因の探究</p> <p>第6回 シェイクスピア『リア王』に関する考察(2):道化の役割(卵と畑のイメジャリー)</p> <p>第7回 シェイクスピア『リア王』に関する考察(3):道化の役割(嵐の場面、途中で退場し出場しなくなる理由)</p> <p>第8回 シェイクスピア『リア王』に関する考察(4):コーディリアの死の役割と意味</p> <p>第9回 スイフト『ガリヴァー旅行記』に関する考察(1):映像鑑賞+まとめ(理解力の確認)</p> <p>第10回 スイフト『ガリヴァー旅行記』に関する考察(2):子供が読む作品と大人が読む作品に関する解説</p> <p>第11回 ディケンズ『クリスマス・キャロル』に関する考察:作品の魅力と作者の主張</p> <p>第12回 エミリー・ブロンテ『嵐が丘』に関する考察(1):ワイラー監督の映画『嵐が丘』(1939)と原作</p> <p>第13回 エミリー・ブロンテ『嵐が丘』に関する考察(2):榎太郎演出家による『嵐が丘』(2015)と原作</p> <p>第14回 エミリー・ブロンテ『嵐が丘』に関する考察(3):アダプテーション映画『嵐が丘』の魅力</p> <p>第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	3作品を読んで授業に臨む(予習)、授業で学習したことをまとめる数回のレポート(復習)		
成績評価の方法	課題提出・宿題・予習を含む授業への取り組み(60%)、筆記試験(40%)		

(注) 教職必修

授業科目	比較文化	担当者	小林 朋子
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 2	授業外対応	適宜対応 (要予約)
		[必修/選択] 選択 (注)	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】異文化理解・異文化コミュニケーション・異文化交流とは何か。</p> <p>【概要】今日のグローバル化社会では、毎日の生活で異なる文化を持つ人々とのコミュニケーションが増加している。また、「異文化」とは国境を越える出会いを背景とした文化であるというステレオタイプを取り払えば、異質な他者との出会いも私たちの日常にあふれている。本講義では、そうした他者とのような「関係性=コミュニケーション」を構築していくべきなのか、様々な観点から学んでいく。講義終盤では外国人との交流の時間を設ける。受講者はこの「異文化交流会」に向けて、主体的に考えながら講義を受ける必要がある。</p> <p>【到達目標】・広い視野から異文化を正しく理解した上で、他言語を話す人々の価値観を知り、適切にコミュニケーションを行うことができる。・異文化交流の意義について体験的に理解する。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 伊佐雅子監修『多文化社会と異文化コミュニケーション』（三修社刊、2007年）</p> <p>(2) 池田理知子編著『よくわかる異文化コミュニケーション』（ミネルヴァ書房、2010年）他。（授業で随時紹介します）</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 異文化コミュニケーションを学ぶことの意義：文化・異文化とは何か</p> <p>第2回 グローバル社会と異文化コミュニケーション（1）：グローバル化の意味</p> <p>第3回 グローバル社会と異文化コミュニケーション（2）：異文化交流の歴史と異文化への根差し</p> <p>第4回 空間、時間、異文化コミュニケーション：さまざまな意味をもつ空間と時間</p> <p>第5回 「地球都市の出現とコミュニケーション」：都市化する世界</p> <p>第6回 女性と異文化適応：異文化適応におけるジェンダー</p> <p>第7回 異文化コミュニケーションと誤解の接点：誤解という身近なできごと</p> <p>第8回 異文化コミュニケーションにおける言語選択：「英語の普及」をどう捉えるか</p> <p>第9回 異文化コミュニケーション者としての通訳者（1）：通訳の種類、通訳の歴史</p> <p>第10回 異文化コミュニケーション者としての通訳者（2）：通訳は言葉の置き換え作業？</p> <p>第11回 異文化交流会準備（1）：異文化接触とは「よそ者」と異文化適応</p> <p>第12回 異文化交流会準備（2）：グローバル化とアイデンティティ—自分のことば、他者のことば</p> <p>第13回 異文化交流会準備（3）：異文化コミュニケーションとは</p> <p>第14回 異文化交流会：異文化コミュニケーションの実践</p> <p>第15回 異文化交流会まとめ：新しい「異文化コミュニケーション」に向けて</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。		
成績評価の方法	授業への参加態度（40%）、小レポート（異文化交流会前の準備レポートを含む）（20%）、最終レポート（40%）		

(注) 教職必修

授業科目	オーラルコミュニケーション I	担当者	Jorge García Arroyo (ガルシア・アロヨ ホルヘ)
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 2 (注) [必修/選択] 必修 (注) [授業形態] 演習	授業外対応	By coming to my office or by email.
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This course is focused on enhancing the student's basic speaking skills so that they can express themselves in many situations in life and give short, simple presentations.</p> <p>【概要】 Students will express their ideas and discuss about different topics from the text book. Each topic will have its vocabulary and specific expressions and they will learn communication techniques while they are discussing.</p> <p>【到達目標】 In this course students will acquire and use a significant variety of vocabulary and expressions adapted to various situations in life. In addition, they will learn essential points for making a presentation such as intonation, pronunciation, body language, etc.</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Antonia Clare, JJ Wilson. Speakout pre-intermediate. 2nd edition. Pearson Education</p> <p>(2)</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 Introduction to the course. Warm-up activities: Why do you study English?</p> <p>第 2 回 Unit 1. Speaking: Talking about relationships (family, friends, classmates, pets, etc.). Grammar review: past simple.</p> <p>第 3 回 Unit 1. Communication Skills: Stressed verbs and the pronunciation of past simple endings (-ed). Unit 1 review.</p> <p>第 4 回 Unit 1 short presentation. Introduce a family member or a friend and tell a funny story experienced with her/him/.</p> <p>第 5 回 Unit 2. Speaking: Talking about work and types of jobs. Grammar review: present simple and continuous.</p> <p>第 6 回 Unit 2 Communication skills: intonation: express likes and dislikes. Unit 2 review</p> <p>第 7 回 Unit 2 short presentation. Your dreamed job.</p> <p>第 8 回 Unit 3. Speaking: Talking about food; food and recipe vocabulary.</p> <p>第 9 回 Unit 3. Communication skills: how to present a recipe. Unit 3 review.</p> <p>第10 回 Unit 3 short presentation. Recipe. The students will present a recipe.</p> <p>第11 回 Unit 4. Speaking: talking about what we do in our free time. Grammar review: present continuous and the be going to future.</p> <p>第12 回 Unit 4. Communication skills: stress in compound nouns; how to make a phone call in English. Unit 4 review.</p> <p>第13 回 Unit 4. Short presentation. Phone call. The students perform a phone call in English.</p> <p>第14 回 Unit 5. Speaking: Our story. Talking about some great, scary, rare or curious situation we experienced. Grammar review: past simple and past continuous.</p> <p>第15 回 Unit 5. Communication skills: intonation of questions; stressed syllables. Review of unit 5.</p> <p>第16 回 Unit 5 short presentation. The best day of your life.</p> <p>第17 回 Unit 6. Speaking: City or countryside? Discussion about the advantages and disadvantages concerning living in the city or in the countryside. While discussing the students learn vocabulary and expressions to talk about problems of living in the city or in the countryside.</p> <p>第18 回 Unit 6. Communication skills: express agreement and disagreement; intonation to express certainty and uncertainty. Unit 6 review.</p> <p>第19 回 Unit 6. Short presentation. My city: candidate for the next Olympic Games.</p> <p>第20 回 Unit 7. Speaking. Music. Talking about our favorite music. While discussing the students learn about collocations and some prepositions related to them.</p> <p>第21 回 Unit 7. Communication skills: pronunciation of some difficult words; the rhythm in complex sentences. Unit 7 review.</p> <p>第22 回 Unit 7. Short presentation. My favorite singer or band</p> <p>第23 回 Unit 8. Speaking: Pop Culture. Talking about our favorite book, comic-book, TV series, movie or videogame.</p> <p>第24 回 Unit 8. Communication skills: polite intonations and contrastive stress. Unit 8 review.</p> <p>第25 回 Unit 8. Short presentation. This is my movie/book/game.</p> <p>第26 回 Unit 9. Speaking: Would you like to be famous? Talking about fame. Grammar review: the conditionals.</p> <p>第27 回 Unit 9. Communication skills: polite intonation when making requests. Unit 9 review.</p> <p>第28 回 Unit 9. Short presentation. The cost of fame.</p> <p>第29 回 Preparation for the final presentation.</p> <p>第30 回 Review of the course.</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	In-class presentations (60%); Final presentation (40%)		
実務経験について	I have been teaching this class since 2019.		

(注) 週 2 回, 教職必修

授業科目	オーラルコミュニケーション I	担当者	ジェイムズ・マレー (James Murray)		
	[履修年次] 1年	授業外対応	授業終了後		
	[学期] 前期 [単位] 2 (注)	[必修/選択]	必修 (注)	[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This is a course for students to improve their basic English listening and speaking skills.</p> <p>【概要】 Class time will be centered on the study and practice of language patterns and functional expressions, information exchange activities, discussion, and listening tasks. Pair practice and oral presentations will be an integral part of class work.</p> <p>【到達目標】 The goal of this class is to help students comprehend and communicate in English freely and confidently.</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Miles Craven, <i>Breakthrough Plus 2, 2nd Edition</i>, Macmillan Education (ISBN: 9781380001115)</p> <p>(2)</p>				
授業スケジュール	<p>第 1 回 Introduction / Conversation Activities</p> <p>第 2 回 Speaking: Talking about Daily Life and Routines</p> <p>第 3 回 Pronunciation: Linking words</p> <p>第 4 回 Listening: Listen for Details</p> <p>第 5 回 Presentation (1) Preparation</p> <p>第 6 回 Presentation (1)</p> <p>第 7 回 Speaking: Talking about Likes and Dislikes</p> <p>第 8 回 Pronunciation: Sentence Stress</p> <p>第 9 回 Listening: Predicting What Will Be Said</p> <p>第 10 回 Conversation Activities</p> <p>第 11 回 Presentation (2) Preparation</p> <p>第 12 回 Presentation (2)</p> <p>第 13 回 Speaking: Making Requests / Responding to Requests</p> <p>第 14 回 Pronunciation: Linking Sounds</p> <p>第 15 回 Test (1) / Conversation Activities</p> <p>第 16 回 Speaking: Talking about Hobbies and Interests</p> <p>第 17 回 Pronunciation: Past Forms</p> <p>第 18 回 Listening: Listen for Keywords</p> <p>第 19 回 Presentation (3) Preparation</p> <p>第 20 回 Presentation (3)</p> <p>第 21 回 Speaking: Talking about Something That Happened To You</p> <p>第 22 回 Pronunciation: "Schwa"</p> <p>第 23 回 Listening: Listen for Specific Information</p> <p>第 24 回 Conversation Activities</p> <p>第 25 回 Presentation (4) Preparation</p> <p>第 26 回 Presentation (4)</p> <p>第 27 回 Speaking: Talking about Important Celebrations</p> <p>第 28 回 Pronunciation: Shortening Words</p> <p>第 29 回 Listening: Listen for Context</p> <p>第 30 回 Test (2)</p>				
授業外学習(予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	Class participation 授業での参加の度合 (25%), Presentations 発表 (25%), Tests 試験 (25%), Homework 宿題 (25%)				

(注) 週 2 回, 教職必修

授業科目	オーラルコミュニケーション I	担当者	Nikolay Gyulemetov ギュレメトヴ・ニコライ
	[履修年次] 1年	授業外対応	授業終了後
	[学期] 前期 [単位] 2 (注)	[必修/選択]	必修 (注) [授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>テーマ：英語を使ってスピーキング力、発音、自信を向上させる</p> <p>Improve your speaking, pronunciation and confidence when using English.</p> <p>【概要】グループ・ディスカッション、スピーキングの練習、ショートスピーチなどを行います。</p> <p>【到達目標】The main goal is to help the students use English with more skill and confidence.</p> <p>テーマ：英語を使ってスピーキング力、発音、自信を向上させる</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Impact Issues 2 (3rd Edition), by Richard Day et al.. Published by Pearson Longman</p> <p>(2) プリントを配布する場合もある</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 Orientation & class goals, Vocabulary worksheets (2 classes per week schedule)</p> <p>第 2 回 Unit 1 First Impressions, Unit 2 Big or small?</p> <p>第 3 回 Unit 3 The Good Language Learner, Video watching and discussion</p> <p>第 4 回 Vocabulary Worksheets, Unit 4 Getting Ahead</p> <p>第 5 回 Unit 5 Forever Single, Unit 6 What are friends for?</p> <p>第 6 回 Unit 7 What's for lunch?, Video watching and discussion</p> <p>第 7 回 Unit 8 Your Online Past, Unit 9 Taking Care of Father</p> <p>第 8 回 Unit 10 My Student Life, Unit 11 International Relationships</p> <p>第 9 回 Unit 12 Create another future, Introduction to SDGs</p> <p>第 10 回 Unit 13 Ben and Mike, Video watching and discussion</p> <p>第 11 回 Unit 14 Government Control, Unit 15 Ask Annie</p> <p>第 12 回 Unit 16 What makes you happy?, Vocabulary worksheets</p> <p>第 13 回 Unit 17 Who will help them? Unit 18 Finding the Right One</p> <p>第 14 回 Unit 19 Dress for Success, Video watching and discussion</p> <p>第 15 回 Unit 20 A Mother's Story, Course summary</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	授業中のパフォーマンス (60%) + 発表・スピーチ (期末ショートスピーチを含む) (40%) による評価します。		

(注) 週 2 回, 教職必修

授業科目	オーラルコミュニケーションⅡ	担当者	Jorge García Arroyo (ガルシア・アロヨ ホルヘ)
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 2 (注) [必修/選択] 必修 [授業形態] 演習	授業外対応	By Coming to my office or by email
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This is a course focused on improving the students' communicative skills in English.</p> <p>【概要】 The students will express their point of view and ideas on different topics from the text book. Through this the students will learn the necessary expressions, vocabulary and other language patterns (such as body language and pronunciation) that will allow them to communicate fluently in English.</p> <p>【到達目標】 The main goal of this course is to provide the students with the necessary communicative tools to make them gain confidence, naturalness and spontaneity when speaking in English.</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Antonia Clare, JJ Wilson, Speakout. Intermediate. Pearson Education</p> <p>(2)</p>		
授業スケジュール	<p>第 1回 Introduction to the course. Warm-up activity: why do you think English is important nowadays?</p> <p>第 2回 Unit 1. Speaking: talking about an important news event (national and international). Review on past simple and present perfect</p> <p>第 3回 Unit 1. Communication skills: difference between say and tell; pronunciation of have, had, was (weak forms); intonation: sounding interested.</p> <p>第 4回 Unit 1. Presentation: reporting news.</p> <p>第 5回 Unit 2. Speaking: Talking about technology. How new technologies are changing our lives. Review on future (will tense).</p> <p>第 6回 Unit 2. Communication skills: time markers (idioms); fast speech (going to future); linking in connected speech.</p> <p>第 7回 Unit 2. Presentation: The students will choose a new technology related to communication (social networks, smartphone, etc.) and they will explain why they use it and its good and bad points.</p> <p>第 8回 Unit 3. Speaking: talking about amazing jobs. Review on modal verbs (obligation) and used to and simple conditional tense</p> <p>第 9回 Unit 3. Communication skills: intonation (emphasis); fast speech (have to); sentence stress.</p> <p>第10回 Unit 3. Presentation: The students will search for an amazing job in the internet, then they talk about that job.</p> <p>第11回 Unit 4. Talking about emotions. Review on real and hypothetical conditionals</p> <p>第12回 Unit 4. Communication skills: pronouns (weak forms); connected speech (would); intonation: giving bad news.</p> <p>第13回 Unit 4. Presentation: The students will choose an important event in their lives and will describe it and explain the emotions they felt about it.</p> <p>第14回 Unit 5. Speaking: Talking about success. What is necessary to achieve success? Review on present perfect VS present continuous</p> <p>第15回 Unit 5. Communication Skills: present and past ability; clarifying opinions; word stress: contractions.</p> <p>第16回 Unit 5. Presentation: The students will talk about the greatest achievement they did so far.</p> <p>第17回 Unit 6. Speaking: When life was better, now or in the past? Review on passive voice</p> <p>第18回 Unit 6. Vocabulary (history); collocations (periods of time); pausing for effect.</p> <p>第19回 Unit 6. Presentation: the students will explain their favorite historical event.</p> <p>第20回 Unit 7. What are the problems the world is facing today? Review on reported speech.</p> <p>第21回 Unit 7. Communication skills: vocabulary (the environment); word building: prefixes.</p> <p>第22回 Unit 7. Presentation: The students in groups will give some solutions to the problems of the world.</p> <p>第23回 Unit 8. Speaking: Talking about books and movies. Review on relative clauses and quantifiers.</p> <p>第24回 Unit 8. Communication skills: verb phrases: stress pattern: short phrases.</p> <p>第25回 Unit 8. Presentation: The students will talk about a movie or a book they like.</p> <p>第26回 Unit 9. Speaking: Talking about the cultural differences between Japan and abroad. Review on comparatives and superlatives.</p> <p>第27回 Unit 9. Communication skills: syllable stress; intonation: question tags and polite requests.</p> <p>第28回 Unit 9. Presentation: The students try to explain Japanese culture to a foreigner.</p> <p>第29回 Unit 10 Speaking: talking about communities. Communication skills: Compound nouns (stress); pausing for effect; linking words.</p> <p>第30回 Review of the course</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	In-class presentations (60%) final presentation (40%).		
実務経験について	I have been teaching this class since 2019		

(注) 週2回

授業科目	オーラルコミュニケーション II	担当者	ジェイムズ・マレー (James Murray)
	[履修年次] 1年	授業外対応	授業終了後
	[学期] 後期 [単位] 2 (注)	[必修/選択] 必修	[授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This is a course for students to improve their basic English listening and speaking skills.</p> <p>【概要】 Class time will be centered on the study and practice of language patterns and functional expressions, information exchange activities, discussion, and listening tasks. Pair practice and oral presentations will be an integral part of class work.</p> <p>【到達目標】 The goal of this class is to help students comprehend and communicate in English freely and confidently.</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Miles Craven, <i>Breakthrough Plus 2, 2nd Edition</i>, Macmillan Education (ISBN: 9781380001115)</p> <p>(2)</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 Introduction / Conversation Activities</p> <p>第 2 回 Speaking: Talking about Food & Drink Preferences</p> <p>第 3 回 Pronunciation: Stress to Contrast</p> <p>第 4 回 Listening: Identifying Context</p> <p>第 5 回 Presentation (1) Preparation</p> <p>第 6 回 Presentation (1)</p> <p>第 7 回 Speaking: Talking about Rules in Your Life</p> <p>第 8 回 Pronunciation: Linking /w/ and /j/</p> <p>第 9 回 Listening: Listen for the "Gist"</p> <p>第 10 回 Conversation Activities</p> <p>第 11 回 Presentation (2) Preparation</p> <p>第 12 回 Presentation (2)</p> <p>第 13 回 Speaking: Talking about Things You've Done</p> <p>第 14 回 Pronunciation: Shortened Words</p> <p>第 15 回 Test (1) / Conversation Activities</p> <p>第 16 回 Speaking: Talking about Health & Staying Healthy</p> <p>第 17 回 Pronunciation: Intonation</p> <p>第 18 回 Listening: Listening for Opinion</p> <p>第 19 回 Presentation (3) Preparation</p> <p>第 20 回 Presentation (3)</p> <p>第 21 回 Speaking: Making Comparisons / Expressing Preferences</p> <p>第 22 回 Pronunciation: Word Stress</p> <p>第 23 回 Listening: Note-Taking</p> <p>第 24 回 Conversation Activities</p> <p>第 25 回 Presentation (4) Preparation</p> <p>第 26 回 Presentation (4)</p> <p>第 27 回 Speaking: Talking about Technology</p> <p>第 28 回 Pronunciation: /j/ and /h/</p> <p>第 29 回 Listening: Listen for Detail</p> <p>第 30 回 Test (2)</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	Class participation 授業での参加の度合 (25%), Presentations 発表 (25%), Tests 試験 (25%), Homework 宿題 (25%)		

(注) 週 2 回

授業科目	オーラルコミュニケーション II	担当者	Nikolay Gyulemetov ギュレメトヴ・ニコライ
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 2 (注) [必修/選択] 必修 [授業形態] 演習	授業外対応	授業終了後
テーマ及び概要	<p>テーマ：英語を使ってスピーキング力、発音、自信を向上させる</p> <p>Improve your speaking, pronunciation and confidence when using English.</p> <p>【概要】グループ・ディスカッション、スピーキングの練習、ショートスピーチなどを行います。</p> <p>【到達目標】The main goal is to help the students use English with more skill and confidence.</p> <p>テーマ：英語を使ってスピーキング力、発音、自信を向上させる</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Impact Issues 2 (3rd Edition), by Richard Day et al.. Published by Pearson Longman</p> <p>(2) プリントを配布する場合もある</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 Orientation & class goals, Vocabulary worksheets (2 classes per week schedule)</p> <p>第 2 回 Unit 1 First Impressions, Unit 2 Big or small?</p> <p>第 3 回 Unit 3 The Good Language Learner, Video watching and discussion</p> <p>第 4 回 Vocabulary Worksheets, Unit 4 Getting Ahead</p> <p>第 5 回 Unit 5 Forever Single, Unit 6 What are friends for?</p> <p>第 6 回 Unit 7 What's for lunch?, Video watching and discussion</p> <p>第 7 回 Unit 8 Your Online Past, Unit 9 Taking Care of Father</p> <p>第 8 回 Unit 10 My Student Life, Unit 11 International Relationships</p> <p>第 9 回 Unit 12 Create another future, Introduction to SDGs</p> <p>第 10 回 Unit 13 Ben and Mike, Video watching and discussion</p> <p>第 11 回 Unit 14 Government Control, Unit 15 Ask Annie</p> <p>第 12 回 Unit 16 What makes you happy?, Vocabulary worksheets</p> <p>第 13 回 Unit 17 Who will help them? Unit 18 Finding the Right One</p> <p>第 14 回 Unit 19 Dress for Success, Video watching and discussion</p> <p>第 15 回 Unit 20 A Mother's Story, Course summary</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	授業中のパフォーマンス (60%) + 発表・スピーチ (期末ショートスピーチを含む) (40%) による評価します。		

(注) 週 2 回

授業科目	オーラルコミュニケーションⅢ	担当者	Jorge García Arroyo (ガルシア・アロヨ ホルヘ)
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1 [必修/選択] 必修 [授業形態] 演習	授業外対応	By coming to my office or by email
テーマ及び概要	<p>【テーマ】This course is focused on enhancing the student's oral communication skills so that they will be able to express themselves in several situations and give short speeches.</p> <p>【概要】Students will express their ideas about different topics from the text book. Each topic will have its vocabulary and specific expressions and they will learn communication techniques while they are discussing.</p> <p>【到達目標】In this course students will acquire and use a wide variety of vocabulary and expressions adapted to various situations in life. In addition, emphasis will also be placed on important factors when giving a speech such as intonation, pronunciation, body language, etc.</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Antonia Clare, JJ Wilson. <i>Speakout intermediate plus</i>. 2nd edition. Pearson Education.</p> <p>(2)</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 Introduction to the course. Warm-up activity: why are you interested in speaking English?</p> <p>第 2 回 Unit 1. Speaking: talking about fears and phobias. Review on making suggestions.</p> <p>第 3 回 Unit 1. Communication skills. Stress patterns: responses; Verb + preposition</p> <p>第 4 回 Unit 1. Presentation: the students talk about scary stories they know</p> <p>第 5 回 Unit 2. Speaking: talking about lifestyles. Review on passive and causative <i>have</i>.</p> <p>第 6 回 Unit 2. Communication skills. Everyday objects; stress: causative <i>have</i>.; connected speech: linking</p> <p>第 7 回 Unit 2. Presentation: the students describe their lifestyles, outlining its good and bad points (if any).</p> <p>第 8 回 Unit 3. Speaking: talking about health. Review on passive reporting structures.</p> <p>第 9 回 Unit 3. Communication skills. Vocabulary: health; disagreeing politely; how to debate.</p> <p>第 10 回 Unit 3. Presentation: the students present some healthy advices to introduce in our life.</p> <p>第 11 回 Unit 4. Speaking: is the Smartphone that necessary? Review on questions forms (indirect questions) and present perfect simple and continuous.</p> <p>第 12 回 Unit 4. Communication skills. Intonation (statement, questions); intonation (sound enthusiastic).</p> <p>第 13 回 Unit 4. Presentation: the students will present an anecdote related to the use of the smartphone and social media networks.</p> <p>第 14 回 Review of the course.</p> <p>第 15 回 Preparation for the final presentation.</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	In-class presentations (60%) Final presentation (40%)		
実務経験について	I have been teaching this class since 2018.		

授業科目	オーラルコミュニケーションⅢ	担当者	ジェイムズ・マレー (James Murray)	
	[履修年次] 2年	授業外対応	授業終了後	
	[学期] 前期 [単位] 1	[必修/選択]	必修	[授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This is a course for students to improve their basic English listening and speaking skills.</p> <p>【概要】 Class time will be centered on the study and practice of language patterns and functional expressions, information exchange activities, discussion, and listening tasks. Pair practice and oral presentations will be an integral part of class work.</p> <p>【到達目標】 The goal of this class is to help students comprehend and communicate in English freely and confidently.</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Miles Craven, <i>Breakthrough Plus 3, 2nd Edition</i>, Macmillan Education (ISBN: 9781380001139)</p> <p>(2)</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 Introduction / Conversation Practice</p> <p>第 2 回 Speaking: Talking about People, Places, and Things.</p> <p>第 3 回 Pronunciation: Intonation. / Listening: Listen for Details.</p> <p>第 4 回 Presentation (1) Preparation</p> <p>第 5 回 Presentation (1) / Conversation Practice</p> <p>第 6 回 Speaking: Talking about Experiences</p> <p>第 7 回 Pronunciation: Expressing Emotion. / Listening: News Reports.</p> <p>第 8 回 Test (1) / Conversation Practice</p> <p>第 9 回 Presentation (2) Preparation</p> <p>第 10 回 Presentation (2) / Conversation Practice</p> <p>第 11 回 Speaking: Talking about Opinions.</p> <p>第 12 回 Pronunciation: -ed endings. / Listening: Identifying the Topic</p> <p>第 13 回 Presentation (3) Preparation</p> <p>第 14 回 Presentation (3) / Conversation Practice</p> <p>第 15 回 Test (2) / Conversation Practice</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	Class participation 授業での参加の度合 (25%), Presentations 発表 (25%), Tests 試験 (25%), Homework 宿題 (25%)			

授業科目	オーラルコミュニケーションⅢ	担当者	アンドルー・ダニエルズ Andrew Daniels	
	[履修年次] 2年	授業外対応	授業終了後	
	[学期] 前期 [単位] 1	[必修/選択]	必修	[授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This course will focus on a number of interesting topics from the textbook and allow students the chance to express themselves in pairs and group situations.</p> <p>【概要】 Students will work on listening skills, speaking skills and develop their ability to give impromptu short speeches on topics from the text by using key vocabulary patterns</p> <p>【到達目標】 The aim is to help students become more fluent in the way they express themselves on a wide variety of current issues which may have relevance to their own lives.</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Inspire 2 by Hartmann, Douglas and Boon Cengage learning</p> <p>(2)</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 Introduction of key topics from the first half of the textbook</p> <p>第 2 回 Festivals</p> <p>第 3 回 Food</p> <p>第 4 回 Cities</p> <p>第 5 回 Jobs (Part-time)</p> <p>第 6 回 Jobs (Unusual)</p> <p>第 7 回 Review Quiz of first half of semester</p> <p>第 8 回 Music</p> <p>第 9 回 Traditional Instruments</p> <p>第 10 回 Travel (Abroad)</p> <p>第 11 回 Travel (Domestic)</p> <p>第 12 回 Life Dreams and Hopes</p> <p>第 13 回 Happiness</p> <p>第 14 回 Life Goals</p> <p>第 15 回 Pair work practice on key topic</p> <p>第 16 回 Final Quiz</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	<p>Participation in class pair-work activities 40%</p> <p>Vocabulary and short quizzes 30%</p> <p>Final Speaking Activity and Quiz 30%</p>			

授業科目	オーラルコミュニケーション IV	担当者	ジェイムズ・マレー (James Murray)	
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 1	授業外対応	授業終了後	
		[必修/選択]	選択	[授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This is a course for students to improve their basic English listening and speaking skills.</p> <p>【概要】 Class time will be centered on the study and practice of language patterns and functional expressions, information exchange activities, discussion, and listening tasks. Pair practice and oral presentations will be an integral part of class work.</p> <p>【到達目標】 The goal of this class is to help students comprehend and communicate in English freely and confidently.</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Miles Craven, <i>Breakthrough Plus 3, 2nd Edition</i>, Macmillan Education (ISBN: 9781380001139)</p> <p>(2)</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 Introduction / Conversation Practice</p> <p>第 2 回 Speaking: Talking about Possibilities</p> <p>第 3 回 Pronunciation: Linking "Would you" / Listening: Listen for Opinion</p> <p>第 4 回 Presentation (1) Preparation</p> <p>第 5 回 Presentation (1) / Conversation Practice</p> <p>第 6 回 Speaking: Making Deductions</p> <p>第 7 回 Pronunciation: Reduced Forms / Listening: Inferring Meaning</p> <p>第 8 回 Test (1) / Conversation Practice</p> <p>第 9 回 Presentation (2) Preparation</p> <p>第 10 回 Presentation (2) / Conversation Practice</p> <p>第 11 回 Speaking: Talking about Key Events from the Past</p> <p>第 12 回 Pronunciation: Stress and Rhythm / Listening: Listen for Specific Information</p> <p>第 13 回 Presentation (3) Preparation</p> <p>第 14 回 Presentation (3) / Conversation Practice</p> <p>第 15 回 Test (2) / Conversation Practice</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	Class participation 授業での参加の度合 (25%), Presentations 発表 (25%), Tests 試験 (25%), Homework 宿題 (25%)			

授業科目	オーラルコミュニケーションIV	担当者	アンドルー・ダニエルズ Andrew Daniels	
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 1	授業外対応	授業終了後	
		[必修/選択]	選択	[授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This course is designed to allow students to express themselves on a wide range of topics, and help them develop strategies for making clear precise and interesting presentations in English.</p> <p>【概要】 Focus will be on key aspects of presentation skills such as eye contact, intonation, note cards, content and visual aids. Students will use these devices to present their information to the class.</p> <p>【到達目標】 The aim is to help students become more fluent in the way they express themselves on a wide variety of current issues which may have relevance to their own lives.</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) No Text. Materials prepared by teacher</p> <p>(2)</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 Introduction of Course and Goals for this semester Fashion, Global Youth Culture and Generation Gap</p> <p>第 2 回 Generation Gaps</p> <p>第 3 回 Family Issues</p> <p>第 4 回 Global Youth Culture</p> <p>第 5 回 World Music and expressing opinions about it</p> <p>第 6 回 Fashion</p> <p>第 7 回 Review Quiz</p> <p>第 8 回 Health</p> <p>第 9 回 Diets</p> <p>第 10 回 Pressures of the Mass Media</p> <p>第 11 回 Travel Plans</p> <p>第 12 回 Plans for the Future</p> <p>第 13 回 Life in the Future</p> <p>第 14 回 Generational Choices</p> <p>第 15 回 Pair work presentation practice</p> <p>第 16 回 Final Quiz</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	Participation in class pair-work activities 40% Vocabulary and short quizzes 30% Final Speaking Activity and Quiz 30%			

授業科目	英語表現法 I	担当者	James Murray ジェイムズ・マレー
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1	授業外対応	授業終了後
		[必修/選択] 必修	[授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This is an English writing course focused on the fundamentals of proper sentence and paragraph structure.</p> <p>【概要】 Lectures will teach students grammar rules and style choices to help develop skills in organizing and expressing their ideas. Students will work in pairs and groups to brainstorm topics and details to write about. They will work individually on writing drafts of compositions. They will receive corrections and editing advice in class to help give them a better sense of natural and effective paragraph construction.</p> <p>【到達目標】 The aim of this course is to organize ideas, and to express them through writing in sentences and paragraphs of natural English.</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Curtis Kelly, Arlen Gargagliano 「Writing from Within Level 1」 (2nd Edition) 2011 (ISBN: 9780521188272) (2)		
授業スケジュール	第 1 回 Introduction / Writing Practice 第 2 回 Unit 1: Main Ideas / General and Specific Information 第 3 回 Unit 1: Topic Sentences 第 4 回 Unit 2: Organizing Ideas 第 5 回 Unit 2: Inference Sentences 第 6 回 Unit 3: Facts and Examples in Paragraphs 第 7 回 Unit 3: Supporting Sentences / Direct and Indirect Speech 第 8 回 Unit 4: Descriptive Paragraphs 第 9 回 Unit 4: Getting Reader's Attention / Pronouns to Avoid Repetition 第 10 回 Unit 5: Topic Sentences 第 11 回 Unit 5: Organizing Information 第 12 回 Unit 6: Plans and Instructions 第 13 回 Unit 6: Using "so", "that", and "to" 第 14 回 Unit 1-6 Review / Final Writing Assignment 第 15 回 Final Writing Assignment		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	Weekly Homework 宿題 90%, Class Participation 授業での参加の度合 10%		

授業科目	英語表現法 I	担当者	パトリック・ゴーラム Patrick Gorham
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1	授業外対応	授業終了後
		[必修/選択] 必修	[授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This course is an elementary writing course for writing paragraphs. Students will be required to recognize and write topic, supporting and concluding sentences. Students must work through grammatical exercises to enable them to complete the required writing assignments. There will be weekly class assignments in addition to in class compositions.</p> <p>【概要】 Students will examine different paragraph samples and will then write their own paragraphs using the points studied in the textbook.</p> <p>【到達目標】 The aim of the course is to develop writing skills above the sentences level.</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Effective Academic Writing 1 (The Paragraph) Second Edition by Savage and Shafei, Publisher Oxford University Express (2)		
授業スケジュール	第 1 回 Class Orientation 第 2 回 Unit 1, The Sentence and the Paragraph 第 3 回 Unit 1, The Sentence and the Paragraph 第 4 回 Unit 1, The Sentence and the Paragraph 第 5 回 Unit 2, Descriptive Paragraph 第 6 回 Unit 2, Descriptive Paragraph 第 7 回 Unit 2, Descriptive Paragraph 第 8 回 Descriptive paragraph in-class writing assignment 1 st draft 第 9 回 Descriptive paragraph in-class writing assignment 2nd draft 第 10 回 Unit 3, Example paragraph 第 11 回 Unit 3, Example paragraph 第 12 回 Unit 3, Example paragraph 第 13 回 Unit 3, Example paragraph 第 14 回 Example paragraph in-class assignment 1 st draft 第 15 回 Example paragraph in-class assignment 2nd draft		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	Student essays 80%, freewriting 10%, attendance 10%		

授業科目	英語表現法 II	担当者	James Murray ジェイムズ・マレー
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1	授業外対応	授業終了後
		[必修/選択] 必修	[授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This is an English writing course focused on the fundamentals of proper sentence and paragraph structure.</p> <p>【概要】 Lectures will teach students grammar rules and style choices to help develop skills in organizing and expressing their ideas. Students will work in pairs and groups to brainstorm topics and details to write about. They will work individually on writing drafts of compositions. They will receive corrections and editing advice in class to help give them a better sense of natural and effective paragraph construction.</p> <p>【到達目標】 The aim of this course is to organize ideas, and to express them through writing in sentences and paragraphs of natural English.</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Curtis Kelly, Arlen Gargagliano 「Writing from Within Level 1」 (2nd Edition) 2011 (ISBN: 9780521188272)</p> <p>(2)</p>		
授業スケジュール	<p>第 1回 Introduction / Writing Practice</p> <p>第 2回 Unit 7: Time Markers: "before", "while" and "after" / Giving Reasons</p> <p>第 3回 Unit 7: Thank You Notes / Concluding Paragraphs / Use of Commas</p> <p>第 4回 Unit 8: Compare and Contrast Paragraphs</p> <p>第 5回 Unit 8: Using Pronouns</p> <p>第 6回 Unit 9: Persuasive Paragraphs / Sentence Transitions</p> <p>第 7回 Unit 9: Supporting Sentences</p> <p>第 8回 Unit 10: Using Examples</p> <p>第 9回 Unit 10: Writing About Wishes / "If I could __, I would __."</p> <p>第 10回 Unit 11: Attention-Getters</p> <p>第 11回 Unit 11: Using Persuasive Language</p> <p>第 12回 Unit 12: Writing Explanations / Conclusions</p> <p>第 13回 Unit 12: Writing Cards / Word Choice</p> <p>第 14回 Unit 7-12 Review / Final Writing Assignment</p> <p>第 15回 Final Writing Assignment</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	Weekly Homework 宿題 90%, Class Participation 授業での参加の度合 10%		

授業科目	英語表現法 II	担当者	パトリック・ゴーラム Patrick Gorham
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1	授業外対応	授業終了後
		[必修/選択] 必修	[授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This course is a continuation of the first semester course. It will cover paragraph writing in the form of process, opinion and narrative paragraphs. Students will learn the rhetorical modes which accompany each form of writing style. Students will be required to recognize various grammatical points and complete grammatical exercises. There will be weekly writing assignments and three in-class compositions.</p> <p>【概要】 Students will examine different paragraph samples and will then write their own paragraphs using the points studied in the textbook.</p> <p>【到達目標】 The aim of the course is to develop writing skills above the sentences level.</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Effective Academic Writing 1 (The Paragraph) Second Edition by Savage and Shafei, Publisher Oxford University Express</p> <p>(2)</p>		
授業スケジュール	<p>第 1回 Unit 4, Process paragraph</p> <p>第 2回 Unit 4, Process paragraph</p> <p>第 3回 Unit 4, Process paragraph</p> <p>第 4回 Process paragraph in-class writing assignment 1st draft</p> <p>第 5回 Process paragraph in-class writing assignment 2nd draft</p> <p>第 6回 Unit 5, Opinion paragraph</p> <p>第 7回 Unit 5, Opinion paragraph</p> <p>第 8回 Unit 5, Opinion paragraph</p> <p>第 9回 Opinion paragraph in-class writing assignment 1st draft</p> <p>第 10回 Opinion paragraph in-class writing assignment 2nd draft</p> <p>第 11回 Unit 6, Narrative paragraph</p> <p>第 12回 Unit 6, Narrative paragraph</p> <p>第 13回 Unit 6, Narrative paragraph</p> <p>第 14回 Narrative paragraph in-class writing assignment 1st draft</p> <p>第 15回 Narrative paragraph in-class writing assignment 2nd draft</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	Student essays 75%, freewriting 10% and attendance 10%		

授業科目	英語表現法Ⅲ	担当者	James Murray ジェイムズ・マレー
	[履修年次] 2年	授業外対応	授業終了後
	[学期] 前期 [単位] 1	[必修/選択] 必修	[授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This is an English writing course focused on the fundamentals of proper sentence and paragraph structure.</p> <p>【概要】 Lectures will teach students grammar rules and style choices to help develop skills in organizing and expressing their ideas. Students will work in pairs and groups to brainstorm topics and details to write about. They will work individually on writing drafts of compositions. They will receive corrections and editing advice in class to help give them a better sense of natural and effective paragraph construction.</p> <p>【到達目標】 The aim of this course is to organize ideas, and to express them through writing in sentences and paragraphs of natural English.</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Curtis Kelly, Arlen Gargagliano 「Writing from Within Level 2」 (2nd Edition) 2011 (ISBN: 9780521188340) (2)		
授業スケジュール	第 1 回 Introduction / Writing Practice 第 2 回 Unit 1: "About Me" Expository Paragraphs 第 3 回 Unit 1: Topic Sentences / Paragraph Format 第 4 回 Unit 2: "Career Consultant" Supporting Logical Conclusions 第 5 回 Unit 2: Conjunctions / Email requesting information 第 6 回 Unit 3: "Dream Come True" Supporting Sentences 第 7 回 Unit 3: Direct and Indirect Speech / Resumes, CVs 第 8 回 Unit 4: "Invent" Definition Paragraphs 第 9 回 Unit 4: Avoiding Repetition / Emailing Companies about a Product 第 10 回 Unit 5: "Changed My Life" Cause and Effect Paragraphs 第 11 回 Unit 5: Introductory Paragraphs / Greeting Cards 第 12 回 Unit 6: Process Paragraphs 第 13 回 Unit 6: Using Modifiers / Organizing Lists 第 14 回 Unit 1-6 Review / Final Writing Assignment 第 15 回 Final Writing Assignment		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	Weekly Homework 宿題 90%, Class Participation 授業での参加の度合 10%		

授業科目	英語表現法Ⅲ	担当者	パトリック・ゴーラム Patrick Gorham
	[履修年次] 2年	授業外対応	授業終了後
	[学期] 前期 [単位] 1	[必修/選択] 必修	[授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 Eigo Hyogen Ho III is a course designed for students to expand on their writing from Eigo Hyogen Ho II. Students will concentrate on building vocabulary and developing reading and writing skills needed in academic contexts. The reading and writing are similar to what students will encounter on TOEFL or IELTS exams. Sample essays will help students develop their own written essays.</p> <p>【概要】 Students will have regular homework assignments</p> <p>【到達目標】 Students will learn to grasp academic English.</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Academic Reading and Writing 2, Publisher ABAX ELT PUBLISHERS, Authors: Alistair Graham-Marr & Mark Rossiter (2)		
授業スケジュール	第 1 回 5 Paragraph Essay 第 2 回 Planning Your Writing 第 3 回 Planning Your Paragraph 第 4 回 Main Ideas and Details 第 5 回 Introductory Paragraph 第 6 回 Paragraph Styles: Details and Main Ideas 第 7 回 Writing Conclusions 第 8 回 Introduction, Main Ideas & Conclusions 第 9 回 Plan Your Paragraph 第 10 回 Tradition 第 11 回 Plan Your Paragraph 第 12 回 To be determined 第 13 回 To be determined 第 14 回 To be determined 第 15 回 To be determined		
授業外学習(予習・復習)	Students will complete regular exercises at home to discuss in the following lesson.		
成績評価の方法	Class Participation, Attendance, Completion of Assignments		

授業科目	英語コミュニケーション演習Ⅰ		担当者	土持 かおり	
	[履修年次]	1年	授業外対応	適宜対応	
	[学期]	前期	[単位]	1	
			[必修/選択]	必修(注)	
				[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】この授業のテーマは、視聴覚教材を利用して標準的なナチュラルな英語を聞き取る力を高めるとともに、オーストラリアの日常生活や社会について理解し知識を得ることです。</p> <p>【概要】ナチュラルな英語で紹介されるオーストラリアの日常生活や社会をビデオ教材を通して理解するとともに、様々な情報を掴み取る演習を通してリスニング力を高めます。さらに、毎回、シャドーイング(聞き取った音を再現する口頭練習)を継続的に行うことで、「ナチュラルな英語を聞き取る力」と「英語らしく発話できる力」を高めていきます。</p> <p>【到達目標】・様々なジャンルや話題の英語を聞いて、目的に応じて情報や考えなどを理解することができる。 ・英語の音声的特徴に慣れるとともに、パッセージを瞬時に聞き取り理解することができる。 ・オーストラリアの日常生活・社会について理解し知識を得る。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Kumiko T. Sato 他著 <i>Australia, Here We Come!</i> 出版社: Asahi Press</p> <p>(2) なし</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 授業ガイダンス: 効果的なリスニング学習とは? / 授業内容と進め方について</p> <p>第2回 Unit 1: Hello, Sydney, Australia! / 小テスト/シャドーイング演習</p> <p>第3回 Unit 2: Street Life / 小テスト/シャドーイング演習</p> <p>第4回 Unit 3: Public Transport – Commuting / 小テスト/シャドーイング演習</p> <p>第5回 Unit 4: University Life – The University of Sydney (1) / 小テスト/シャドーイング演習</p> <p>第6回 Unit 4: University Life – The University of Sydney (2) / シャドーイング演習</p> <p>第7回 Unit 5: Australian Home / 小テスト/シャドーイング演習</p> <p>第8回 Unit 6: Supermarket – Coles / 語彙テスト/シャドーイング演習</p> <p>第9回 Unit 7: Daily Life / 語彙テスト/シャドーイング演習</p> <p>第10回 Unit 8: Taronga Zoo – Australian Animals / 語彙テスト/シャドーイング演習</p> <p>第11回 Unit 9: Leisure Time at the Sea / 語彙テスト/シャドーイング演習</p> <p>第12回 Unit 10: Education Programmes in Taronga Zoo / 語彙テスト/シャドーイング演習</p> <p>第13回 Unit 11: Leisure Time at the Park / 語彙テスト/シャドーイング演習</p> <p>第14回 Unit 12: Australian Family / 語彙テスト/シャドーイング演習</p> <p>第15回 テキストのレビュー・アクティビティ</p>				
授業外学習(予習・復習)	毎回のテキストの予習(語彙等)、毎回の小テストのための学習				
成績評価の方法	授業でのワークシート(20%) + 復習のための小テスト(30%) + 定期試験(50%)				

(注) 教職必修

授業科目	英語コミュニケーション演習Ⅱ		担当者	石井 英里子	
	[履修年次]	1年	授業外対応	オフィスアワーおよびGoogle Classroom	
	[学期]	後期	[単位]	1	
			[必修/選択]	必修(注)	
				[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】異文化コミュニケーションの理論と実践, CLIL (Content and Language Integrated Learning)</p> <p>【概要】コミュニケーション概論で学習したことをさらに深めるため、テーマに関連する様々なトピックを扱いながら、読むことと書くことを中心に、多様な領域統合型の言語活動を実践し英語運用能力を高めます。本授業の使用言語は英語です。</p> <p>【到達目標】(1)英語で書かれた資料から、必要な情報を読み取ることができる。(2)英語で書かれた資料を読んで、その概要や要点を書いてまとめることができる。(3)簡単な英語を用いて情報や意見を交換することができる。(4)まとまりのある英語の文章で具体的に説明するとともに、自分の意見やその理由を加えて書いたり、口頭で説明したりすることができる。(5)様々なジャンルや話題の英語を読んで、目的に応じて情報や考えなどを理解することができる。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) McConachy, T. et al. (2017). <i>Intercultural communication for English language learners in Japan</i>. Nan'undō.</p> <p>(2) 授業で紹介する</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 Course Introduction (授業の進め方と課題の取り組み方の説明, 初回アンケート)</p> <p>第2回 Intercultural Communication in Today's World</p> <p>第3回 English for Intercultural Communication</p> <p>第4回 Important Features of Human Communication</p> <p>第5回 The Concept of Culture</p> <p>第6回 Language and Thought</p> <p>第7回 Communication Styles</p> <p>第8回 Human Psychology and Communication</p> <p>第9回 Speech Acts across Cultures</p> <p>第10回 Stereotypes and Intercultural Communication</p> <p>第11回 Cultural Accommodation in Intercultural Communication</p> <p>第12回 Intercultural Communication in Higher Education</p> <p>第13回 Study Abroad and Intercultural Adaptation</p> <p>第14回 Intercultural Competence for the Future</p> <p>第15回 Final Presentation</p>				
授業外学習(予習・復習)	予習(発表準備含む)2時間以上必要である。				
成績評価の方法	プレゼンテーション 30% 期末レポート 40% Extensive Reading 30%で評価する。				

(注) 教職必修

授業科目	英語コミュニケーション演習Ⅲ	担当者	石井 英里子
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1	授業外対応	オフィスアワーおよび Google Classroom
		[必修/選択] 必修	[授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 異文化コミュニケーションの理論と実践, CLIL (Content and Language Integrated Learning)</p> <p>【概要】 コミュニケーション概論, 英語コミュニケーション演習Ⅱで学習したことをさらに深めるため, テーマに関連する様々なトピックを扱いながら, 多様な領域統合型の言語活動を実践し英語運用能力を高めます。本授業の使用言語は英語です。</p> <p>【到達目標】(1)トピックに関する英語で書かれた資料から, 必要な情報を読み取ることができる。(2)英語で書かれた資料を読んで, その概要や要点を書いてまとめることができる。(3)トピックに関して簡単な英語を用いて情報や意見を交換することができる。(4)まとまりのある英語の文章で具体的に説明するとともに, 自分の意見やその理由を加えて書いたり, 口頭で説明したりすることができる。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント配布, 初回で指示する。</p> <p>(2) Cushner, K. & Brislin, W. R. (1996). <i>Intercultural interactions: A practical guide</i>. Sage Publications.</p>		
授業スケジュール	<p>第 1回 Course Introduction (授業の進め方と課題の取り組み方の説明, 初回アンケート)</p> <p>第 2回 演習 1</p> <p>第 3回 演習 2</p> <p>第 4回 演習 3</p> <p>第 5回 演習 4</p> <p>第 6回 演習 5</p> <p>第 7回 演習 6</p> <p>第 8回 演習 7</p> <p>第 9回 演習 8</p> <p>第 10回 演習 9</p> <p>第 11回 演習 10</p> <p>第 12回 演習 11</p> <p>第 13回 演習 12</p> <p>第 14回 Final Presentation (1)</p> <p>第 15回 Final Presentation (2)</p>		
授業外学習(予習・復習)	予習(発表準備含む) 2時間以上必要である。		
成績評価の方法	プレゼンテーション 30% Final Presentation 30% 期末レポート 40%で評価する。		

授業科目	通訳入門Ⅰ	担当者	石井 英里子
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1	授業外対応	オフィスアワー
		[必修/選択] 選択	[授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 通訳訓練法の習得 (トピック: 留学, 日本文化, ジェンダー, 環境とSDGs, ビジネス)</p> <p>【概要】本授業では, 集中力や記憶力の強化, 情報の取りこぼしを防ぐためのノートテイキングの練習をベースに, 様々なテーマやシチュエーションで, 英語から日本語, 日本語から英語へ, 双方向の通訳スキルを習得します。</p> <p>【到達目標】通訳訓練法 (Lagging, Quick Response, Shadowing, Retention, Consecutive Interpreting(英→日), Consecutive Interpreting(日→英), Sight Translation(日→英)) を理解し実践することができる。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 水野真木子 & Ashuroba, U. (2022) <i>Interpreting Skills for the World Beyond Borders</i>, Shohakusha</p> <p>(2) 適宜紹介する</p>		
授業スケジュール	<p>第 1回 ガイダンス, 通訳訓練法の紹介</p> <p>第 2回 Study Abroad (1)</p> <p>第 3回 Study Abroad (2)</p> <p>第 4回 Conversation: [Culture] At Kimono Gallery (1)</p> <p>第 5回 Conversation: [Culture] At Kimono Gallery (2)</p> <p>第 6回 Gender Issue (1)</p> <p>第 7回 Gender Issue (2)</p> <p>第 8回 Environment and SDGs (1)</p> <p>第 9回 Environment and SDGs (2)</p> <p>第 10回 Conversation: [Business] At a cutlery party (1)</p> <p>第 11回 Conversation: [Business] At a cutlery party (2)</p> <p>第 12回 Religion (1)</p> <p>第 13回 Religion (2)</p> <p>第 14回 通訳プレゼンテーション</p> <p>第 15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	予習 1時間以上, 復習 1時間以上必要である。		
成績評価の方法	授業への取り組み(40%), ブックレポート(30%), 通訳プレゼンテーション(30%)で評価する。		

授業科目	通訳入門Ⅱ		担当者	石井 英里子				
	[履修年次]	2年	授業外対応	オフィスアワー				
	[学期]	後期	[単位]	1	[必修/選択]	選択	[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 通訳訓練法の実践（トピック：ユニバーサルデザイン、食と料理、スポーツ、テクノロジー、歴史、健康）</p> <p>【概要】本授業では、集中力や記憶力の強化、情報の取りこぼしを防ぐためのノートテイキングの練習をベースに、様々なテーマやシチュエーションで、英語から日本語、日本語から英語へ、双方向の通訳スキルを習得します。</p> <p>【到達目標】通訳訓練法（Lagging, Quick Response, Shadowing, Retention, Consecutive Interpreting(英→日), Consecutive Interpreting(日→英), Sight Translation(日→英))を理解し実践することができる。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 水野真木子 & Ashuroba, U. (2022) <i>Interpreting Skills for the World Beyond Borders</i>, Shohakusha</p> <p>(2) 適宜紹介する</p>							
授業スケジュール	<p>第 1 回 ガイダンス、夏休みの思い出シェアリング（画像や動画をスライドに貼って持参してください）</p> <p>第 2 回 Universal Design (1)</p> <p>第 3 回 Universal Design (2)</p> <p>第 4 回 Food and Cooking (1)</p> <p>第 5 回 Food and Cooking (2)</p> <p>第 6 回 Conversation: [Sports] Interview with a figure skater (1)</p> <p>第 7 回 Conversation: [Sports] Interview with a figure skater (2)</p> <p>第 8 回 AI and Technology (1)</p> <p>第 9 回 AI and Technology (2)</p> <p>第 10 回 History (1)</p> <p>第 11 回 History (2)</p> <p>第 12 回 Conversation: [Healthcare] At a medical examination (1)</p> <p>第 13 回 Conversation: [Healthcare] At a medical examination (2)</p> <p>第 14 回 通訳プレゼンテーション</p> <p>第 15 回 まとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	予習 1 時間以上、復習 1 時間以上必要である。							
成績評価の方法	授業への取り組み(40%)、ブックレポート(30%)、通訳プレゼンテーション(30%)で評価する。							

授業科目	英文法		担当者	遠峯 伸一郎				
	[履修年次]	1年	授業外対応	講義前後に適宜対応				
	[学期]	前期	[単位]	2単位	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】英文法（文法化されている意味とその形態的・統語的具現）</p> <p>【概要】本授業は名詞・冠詞と複文に焦点を当てる。具体的には、準動詞（不定詞と動名詞）、法、関係節、名詞・冠詞について学ぶ。</p> <p>【到達目標】英語の文法について理解している。具体的には、中・高等学校で学んだ文法事項を再確認し理解を正確にする。その後、中・高等学校で学んだ文法事項の正確な理解を基盤として、発展的な事項を理解する。加えて、英文法と日本語文法と対比させて、基本的な異同を的確に把握できる。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Murphy, R. (著) 渡辺雅仁・田島祐規子 (訳) (2021) 『マーフィーのケンブリッジ英文法中級編 第4版』, ケンブリッジ大学出版局, シンガポール。</p> <p>(2) 久野暉・高見健一, 『謎解きの英文法』シリーズ, くろしお出版, 東京。その他の参考文献は随時紹介する。</p>							
授業スケジュール	<p>第 1 回 ガイダンス</p> <p>第 2 回 準動詞 (1) 不定詞</p> <p>第 3 回 準動詞 (2) 動名詞</p> <p>第 4 回 準動詞 (3) 不定詞, 動名詞, 定形節, 名詞句</p> <p>第 5 回 直説法と仮定法</p> <p>第 6 回 仮定法過去, 仮定法過去完了とそれらに関連する表現</p> <p>第 7 回 仮定法と助動詞</p> <p>第 8 回 名詞における可算不可算の区別</p> <p>第 9 回 不定冠詞と数量詞 some, any の用法</p> <p>第 10 回 定冠詞の用法</p> <p>第 11 回 関係節の先行詞と不定冠詞と定冠詞</p> <p>第 12 回 制限関係節と非制限関係節の接点</p> <p>第 13 回 総称</p> <p>第 14 回 名詞と冠詞問題演習</p> <p>第 15 回 まとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	予習 2 時間以上、復習 2 時間以上必要である。高校卒業程度の英語力を前提とする。							
成績評価の方法	試験 (40%) + 小テスト (50%) + 授業内活動への積極的な参加 (10%)							

授業科目	英語史	担当者	遠峯 伸一郎
	[履修年次] 2年	授業外対応	講義前後に適宜対応
	[学期] 前期 [単位] 2単位	[必修/選択]	選択 (注) [授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】英語の誕生から英語が世界共通語となった現代までの英語の歩んだ歴史を外面史（英語が使われる社会の歴史）と内面史（英語という言葉の通時的変化）の観点から学ぶ。</p> <p>【概要】現代英語には英語の歩んで来た歴史が反映している。例えば、英語にはいわゆる不規則動詞が存在するが、なぜ存在するのかを理解するためには英語の歴史を学ぶ必要がある。本講義では、このような英語自体の性質について歴史的側面からアプローチする。加えて、英語がどのような経緯で現代世界の共通語になったのか概略し、世界語としての英語が持つ特徴について触れる。</p> <p>【到達目標】英語の音声、文字、語彙、文法の歴史の変遷について基礎的な知識を持っている。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) なし。</p> <p>(2) 寺澤盾 (2013) 『聖書でたどる英語の歴史』大修館書店、東京。堀田隆一 (2014) 『英語史で解きほぐす英語の誤解』中央大学出版部、東京。井口篤、寺澤盾 (2013) 『英語の軌跡をたどる旅』放送大学教育振興会、東京。ブラッグ、メルヴィン (2008) 『英語の冒険』講談社、東京。その他随時紹介する。Bragg, Melvyn. (2002) The Adventure of English. (DVD)</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 ガイダンス</p> <p>第 2 回 英語の始まり</p> <p>第 3 回 インド・ヨーロッパ祖語</p> <p>第 4 回 英語のアルファベット</p> <p>第 5 回 古英語の特徴</p> <p>第 6 回 ヴァイキングの侵攻と英語</p> <p>第 7 回 ノルマン征服と中英語</p> <p>第 8 回 初期近代英語 ルネッサンス、シェイクスピアと英語</p> <p>第 9 回 中英語・初期近代英語を読む</p> <p>第 10 回 海外に広がった英語 アメリカ英語</p> <p>第 11 回 アジア諸国における英語</p> <p>第 12 回 ピジンとクレオール</p> <p>第 13 回 現代イギリス英語に見られる変化</p> <p>第 14 回 現代アメリカ英語に見られる変化</p> <p>第 15 回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	予習 1 時間以上、復習 3 時間以上必要である。		
成績評価の方法	試験 (70%) + 授業内活動への積極的参加 (30%)		

(注) 教職必修

授業科目	英語音声学	担当者	遠峯 伸一郎
	[履修年次] 1年	授業外対応	講義前後に適宜対応
	[学期] 後期 [単位] 2単位	[必修/選択]	選択 [授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】英語の音声の仕組み</p> <p>【概要】日本語の音声との相違に注意を向けながら、英語の音声の仕組みを学習する。まず、英語の分節音の調音方法を学習する。その後、超分節音素（ストレス、ピッチ、接続）を概略する。授業では、講義に加えてCALL機器を利用した練習を行い、英語の発音技能を高める。また、日本人学習者に対する効果的な指導方法を討議するためにグループワークも行う。</p> <p>【到達目標】英語の音声の仕組みを理解し、実践できる。加えて、日本語の音の仕組みと英語のそれがどのように異なるのか理解している。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 杉森幹彦ほか (2012) 『英語音声の基礎と聴解トレーニング』金星堂、東京。</p> <p>(2) キャットフォード、J. C., 竹林滋・設楽優子・内田洋子 (訳) (2006) 『実践音声学入門』大修館書店、東京。</p> <p>今井、ジュミック (2012) 『<フォニックス>できれいな英語の発音がおもしろいほど身につく本』明日香出版社、東京。その他随時紹介する。</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 ガイダンス</p> <p>第 2 回 分節音(1)</p> <p>第 3 回 分節音(2)</p> <p>第 4 回 分節音(3)</p> <p>第 5 回 分節音(4)</p> <p>第 6 回 分節音(5)</p> <p>第 7 回 アクセント(1)</p> <p>第 8 回 アクセント(2)</p> <p>第 9 回 音変化(1)</p> <p>第 10 回 音変化(2)</p> <p>第 11 回 音変化(3)</p> <p>第 12 回 イントネーション(1)</p> <p>第 13 回 イントネーション(2)</p> <p>第 14 回 音と綴りの関係</p> <p>第 15 回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	予習 1 時間以上、復習 3 時間以上必要である。		
成績評価の方法	試験 (40%) + 小テスト (実技課題を含む) (40%) + 授業内活動への積極的参加 (20%)		

授業科目	講読演習Ⅰ	担当者	遠峯 伸一郎
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1単位	授業外対応	講義前後に適宜対応
		[必修/選択]	選択必修 [授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】英語学の文献講読。英語学にはさまざまな分野があるが本授業では特に「社会言語学」を取り上げる。社会言語学は社会的要因（年齢、性差、地域、など）が言語にどのような影響を及ぼすかを研究する。</p> <p>【概要】社会言語学の代表的研究者の1人であるデボラ・タネンによる著書を精読することを通して、男女の性差がことばに与える影響について学ぶ。</p> <p>【到達目標】論理的な文章を読む力を高める。教科書の第2章以降を独力で読めるようになる。フレーム、メタメッセージなど基礎的な概念を理解し、具体的な言語分析に応用できるようになる。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Tannen, Deborah (1990) <i>You Just Don't Understand</i>, William Morrow, New York.</p> <p>(2) 随時紹介する。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 Different Words, Different Worlds (1)</p> <p>第3回 Different Words, Different Worlds (2)</p> <p>第4回 Intimacy and Independence (1)</p> <p>第5回 Intimacy and Independence (2)</p> <p>第6回 Asymmetries (1)</p> <p>第7回 Asymmetries (2)</p> <p>第8回 The Mixed Metamessages of help</p> <p>第9回 The Modern Face of Chivalry</p> <p>第10回 The Protective Frame</p> <p>第11回 Male-Female Conversation is Cross-Cultural Communication, It Begins at the Beginning (1)</p> <p>第12回 It Begins at the Beginning (2)</p> <p>第13回 It Begins at the Beginning (3)</p> <p>第14回 The Key is Understanding</p> <p>第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	予習2時間以上、復習2時間以上必要である。		
成績評価の方法	授業への取り組み (30%) + 試験 (70%)		

授業科目	基礎演習Ⅰ	担当者	遠峯 伸一郎
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1単位	授業外対応	講義前後に適宜対応
		[必修/選択]	選択必修 [授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】推理小説を英語で読みながら、高校までの英語学習では扱われない構文を学ぶ。</p> <p>【概要】アガサ・クリスティの <i>Murder on the Orient Express</i> を読みながら、高校まででは扱われない倒置や、目的語前置などの構文を学ぶ。</p> <p>【到達目標】文の単位を越えた情報の新旧、重要性によって決定される語順配置を見せる構文について理解を深める。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Christie, Agatha (1934, 2017) <i>Murder on the Orient Express</i>, HarperCollins, London.</p> <p>(2) 随時紹介する。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 文の文法と談話の文法</p> <p>第3回 ガイダンス、あらすじの確認</p> <p>第4回 登場人物の整理, Part 1, 第1章を読む</p> <p>第5回 Part 1, 第2章を読む</p> <p>第6回 Part 1, 第3章を読む</p> <p>第7回 Part 1, 第4章を読む</p> <p>第8回 Part 1, 第5章を読む</p> <p>第9回 Part 1, 第6章を読む</p> <p>第10回 Part 1, 第7章を読む</p> <p>第11回 Part 1, 第8章を読む</p> <p>第12回 Part 1, 第1章から第8章のまとめ</p> <p>第13回 学生によるプレゼンテーション</p> <p>第14回 学生によるプレゼンテーション</p> <p>第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	予習2時間以上、復習2時間以上必要である。		
成績評価の方法	授業への取り組み (60%) + プレゼンテーションとレポート (40%)		

授業科目	基礎演習 I	担当者	石井 英里子
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1	授業外対応	オフィスアワーおよび Google Classroom
		[必修/選択]	選択必修 [授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】異文化コミュニケーション、英語教育学、ワークショップのデザインと実践</p> <p>【概要】グループごとに異文化コミュニケーション、英語教育学に関する文献を読み、内容に関するワークショップをデザインする。ワークショップは英語で行う。</p> <p>【到達目標】①他のゼミ生と協力して課題を遂行できる。②聞き手にわかりやすく英語で発表することができる。③異文化コミュニケーション、英語教育学に関する研究の課題と方法について理解する。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布する。</p> <p>(2) 授業中に紹介する。</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 ゼミの進め方についてのガイダンス</p> <p>第 2 回 グループ発表 1 の準備 1</p> <p>第 3 回 グループ発表 1 の準備 2</p> <p>第 4 回 グループ発表 1</p> <p>第 5 回 グループ発表 2 の準備 1</p> <p>第 6 回 グループ発表 2 の準備 2</p> <p>第 7 回 グループ発表 2</p> <p>第 8 回 グループ発表 3 の準備 1</p> <p>第 9 回 グループ発表 3 の準備 2</p> <p>第 10 回 グループ発表 3</p> <p>第 11 回 グループ発表 4 の準備 1</p> <p>第 12 回 グループ発表 4 の準備 2</p> <p>第 13 回 グループ発表 4</p> <p>第 14 回 研究テーマと研究構想についての報告 1</p> <p>第 15 回 研究テーマと研究構想についての報告 2</p>		
授業外学習(予習・復習)	予習が 3 時間以上、復習が 3 時間以上必要である。		
成績評価の方法	グループ発表 30%。 グループ調査報告 30%。 レポート 40%で評価する。		

授業科目	英語学演習	担当者	遠峯 伸一郎
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1単位	授業外対応	講義前後に適宜対応
		[必修/選択]	選択必修 [授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】推理小説を英語で読みながら、高校までの英語学習では扱われない構文を学ぶ。卒業研究のテーマを絞る。</p> <p>【概要】「基礎演習 I」に引き続き、アガサ・クリスティの <i>Murder on the Orient Express</i> を読む。並行して、プレゼンテーションと個別指導を通して卒業研究のテーマを決定する。</p> <p>【到達目標】文の単位を越えた情報の新旧、重要性によって決定される語順配置を見せる構文について理解を深める。卒業研究のテーマを決定する。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Christie, Agatha (1934, 2017) <i>Murder on the Orient Express</i>, HarperCollins, London.</p> <p>(2) 随時紹介する。</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 ガイダンス</p> <p>第 2 回 Part 2, 第 1 章を読む</p> <p>第 3 回 Part 2, 第 2 章を読む</p> <p>第 4 回 Part 2, 第 3 章を読む</p> <p>第 5 回 卒業研究のテーマについてのプレゼンテーション (1)</p> <p>第 6 回 Part 2, 第 4 章を読む</p> <p>第 7 回 Part 2, 第 5 章を読む</p> <p>第 8 回 卒業研究のテーマについての個別指導 (1)</p> <p>第 9 回 卒業研究のテーマについてのプレゼンテーション (2)</p> <p>第 10 回 卒業研究のテーマについての個別指導 (2)</p> <p>第 11 回 Part 2, 第 6 章を読む</p> <p>第 12 回 Part 2, 第 7 章を読む</p> <p>第 13 回 Part 2, 第 8 章を読む</p> <p>第 14 回 Part 2, 第 9 章を読む</p> <p>第 15 回 卒業研究のテーマについてのプレゼンテーション (3)</p>		
授業外学習(予習・復習)	予習 2 時間、復習 3 時間以上必要である。		
成績評価の方法	授業への取り組み (70%) + レポートとプレゼンテーション (30%)		

授業科目	英語学演習	担当者	石井 英里子
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1	授業外対応	オフィスアワーおよび Google Classroom
		[必修/選択]	選択必修 [授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 異文化コミュニケーション、英語教育学に関する研究の課題と方法</p> <p>【概要】 異文化コミュニケーション、英語教育学に関するテーマについて研究する。</p> <p>【到達目標】 ①他のゼミ生と協力して課題を遂行できる。②聞き手にわかりやすく英語で発表することができる。③異文化コミュニケーション、英語教育学に関する研究の課題と方法について理解する。④先行研究や他者の研究を批判的に理解したり、建設的な意見を述べたりすることができるようになる。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布する。</p> <p>(2) 浦野研・亙陽一・田中武夫・藤田卓郎・高木亜希子・酒井英樹 (2016) 『はじめての英語教育研究 ― 押さえておきたいコツとポイント』 研究社 佐野正之 (2000) 『アクション・リサーチのすすめ ― 新しい英語授業研究』 大修館書店</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 ゼミの進め方についてのガイダンス、研究テーマと研究構想についての報告</p> <p>第 2 回 研究テーマと研究構想についての報告とアクション・リサーチ 1</p> <p>第 3 回 研究テーマと研究構想についての報告とアクション・リサーチ 2</p> <p>第 4 回 研究テーマと研究構想についての報告とアクション・リサーチ 3</p> <p>第 5 回 研究テーマと研究構想についての報告とアクション・リサーチ 4</p> <p>第 6 回 研究テーマと研究構想についての報告とアクション・リサーチ 5</p> <p>第 7 回 研究テーマと研究構想についての報告とアクション・リサーチ 6</p> <p>第 8 回 研究テーマと研究構想についての報告とアクション・リサーチ 7</p> <p>第 9 回 研究テーマと研究構想についての報告とアクション・リサーチ 8</p> <p>第 10 回 研究テーマと研究構想についての報告とアクション・リサーチ 9</p> <p>第 11 回 研究テーマと研究構想についての報告とアクション・リサーチ 10</p> <p>第 12 回 研究テーマと研究構想についての報告とアクション・リサーチ 11</p> <p>第 13 回 研究テーマと研究構想についての報告とアクション・リサーチ 12</p> <p>第 14 回 中間発表 1</p> <p>第 15 回 中間発表 2</p>		
授業外学習(予習・復習)	予習が 3 時間以上、復習が 3 時間以上必要である。		
成績評価の方法	報告とディスカッション 30% 中間発表 30% レポート 40% で評価する。		

授業科目	英文学史	担当者	轟 義昭
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 2	授業外対応	質問等はメールもしくはオフィスアワーで対応
		[必修/選択]	必修 [授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 18 世紀～20 世紀における「小説」の流れを概観する。</p> <p>【概要】 まず、文学史のテキストに潜んでいる問題点を考えます。次に、18 世紀～20 世紀における主要な作家と作品を取り上げて、「小説」の流れを概観し、18 世紀の特徴、19 世紀 (ビクトリア朝期) の特徴、20 世紀の特徴を理解してもらいます。また、受講者にはイギリス文学に親しんでもらうために、指定した映像作品を鑑賞してもらい、「映画作品から親しむイギリス文学」というレポートを課します。</p> <p>【到達目標】 18 世紀の小説の特徴、19 世紀の小説の特徴、20 世紀の小説の特徴を理解する。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 川崎寿彦著 『イギリス文学史』 成美堂</p> <p>(2) サブテキストは講義中に指定する。</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 オリエンテーション (講義方式の説明、文学史のテキストに潜む問題点の探求)</p> <p>第 2 回 18 世紀の小説 (1) : 18 世紀の小説とその周辺に関する諸問題 (J. バニヤン, D. デフォー, J. スイフト, S. リチャードソン)</p> <p>第 3 回 18 世紀の小説 (2) : 18 世紀の小説における H. フィールドイング, L. スターン, T. G. スモレットの役割</p> <p>第 4 回 18 世紀の小説 (3) : 18 世紀後半のゴシック小説 (H. ウォルポール)</p> <p>第 5 回 19 世紀初頭の小説 : J. オースティンの小説</p> <p>第 6 回 18 世紀～19 世紀初頭の小説に関する小テスト, 19 世紀の小説 (1) : 19 世紀 (ヴィクトリア朝期) 小説の特徴</p> <p>第 7 回 19 世紀の小説 (2) : C. ディケンズの小説</p> <p>第 8 回 19 世紀の小説 (3) : W. M. サッカレーの小説, ブロンテ姉妹 (シャーロット, エミリー, アン) の小説</p> <p>第 9 回 19 世紀の小説 (4) : ダーウィニズムの影響, 19 世紀後半 (ヴィクトリア朝後期) の小説 (T. ハーディ)</p> <p>第 10 回 19 世紀 (ビクトリア朝期) の小説に関する小テスト, 20 世紀の小説 (1) : 20 世紀小説の特徴</p> <p>第 11 回 20 世紀の小説 (2) : D. H. ロレンスの小説</p> <p>第 12 回 20 世紀の小説 (3) : V. ウルフの小説</p> <p>第 13 回 20 世紀の小説 (4) : H. G. ウェルズの小説</p> <p>第 14 回 20 世紀の小説 (5) : H. ジェイムズの小説, E. M. フォスターの小説</p> <p>第 15 回 20 世紀の小説に関する小テスト, まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	予習は授業で扱う作家と作品に関する事前調査 3 回 (プリント), 復習は小テスト (3 回) の準備		
成績評価の方法	筆記試験 (50%), 講義中の小テスト/授業への取り組み (40%), 課題レポート分(10%)		

授業科目	米文学史		担当者	小林 朋子		
	[履修年次]	2年	授業外対応	適宜対応 (要予約)		
	[学期]	前期	[単位]	2	[授業形態]	講義
			[必修/選択]	必修		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】アメリカ文学史から読み解くアメリカ社会・文化の源流</p> <p>【概要】本講義は、ネイティブ・アメリカンの口承文学から、ポスト・モダニズムの文学までのアメリカ文学史上の名作を、作家の経歴や時代背景に照らして学び、その作品の抜粋を英語で精読することで、アメリカ社会・文化の源流について理解を深めることを目的としている。文学作品から時代思潮を読み取る方法を知ること、今氾濫しているアメリカの情報が、どんな風に発祥し、史的にどんな紆余曲折を経て、私たちの現在に届けられているのか推し量る力を養うことができる。そのような「文化理解力」をこの米文学史の講義で涵養してほしい。授業では作品についてのディスカッションの時間を設け理解を深める。 *授業には必ず英和辞典を持参すること。</p> <p>【到達目標】アメリカ社会・文化の源流について理解を深める。アメリカ文学の作品を原書で読むことで英語読解力を向上させる。他言語を話す人々の価値観を知る。情報を的確に調査する能力、またそれを発信する自己表現能力を向上させる。</p>					
1)テキスト 2)参考文献	<p>(1) 井上謙治著 『An Outline of American Literature アメリカ文学概観』(南雲堂、2004年)</p> <p>(2) 授業で随時紹介します。</p>					
授業スケジュール	<p>第1回 インTRODクシヨン—ネイティブ・アメリカンの詩</p> <p>第2回 信仰とアメリカ—ピューリタン文学と理性の文学(1)</p> <p>第3回 信仰とアメリカ—ピューリタン文学と理性の文学(2)</p> <p>第4回 「驚異」の世界—ロマン主義の勃興</p> <p>第5回 アメリカン・ルネッサンス—ロマン主義の隆盛(1)</p> <p>第6回 アメリカン・ルネッサンス—ロマン主義の隆盛(2)</p> <p>第7回 「金めつき時代」—リアリズムの勃興</p> <p>第8回 危機と革新—リアリズムの展開</p> <p>第9回 繁栄と解放の文学—ロスト・ジェネレーション</p> <p>第10回 世界へ向けて—モダニズムの文学</p> <p>第11回 戦後文学の出發—第2次世界大戦と冷戦</p> <p>第12回 自我をつくろう—人種系文学(1)</p> <p>第13回 自我をつくろう—人種系文学(2)</p> <p>第14回 自己の探求—ポスト・モダニズムの文学</p> <p>第15回 まとめ</p>					
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。					
成績評価の方法	授業への参加態度(40%)、小レポート(20%)、最終レポート(40%)					

授業科目	比較文学		担当者	小林 朋子		
	[履修年次]	1年、2年	授業外対応	適宜対応 (要予約)		
	[学期]	後期	[単位]	2	[授業形態]	講義
			[必修/選択]	選択		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】「対話」的文学論で読む世界の文学</p> <p>【概要】現代アメリカを代表する作家トニ・モリスンの『ベラヴド』と、世界各国の様々な時代またジャンルの文学を比較検討することで、人類の文化の全体像にせまる。本講義が基本姿勢としているのは、ロシアの思想家バフチンが述べた「対話」の概念である。あるイデオロギーの存在を認めつつ、それとは対立する別のイデオロギーの存在も容認することを彼は促したが、本講義ではこの「対話」の思想をベースに各国の文学を対等な関係に置いて、その衝突、交流、混合を比較検討する。履修者は授業で紹介するテキストを丁寧に読み、そこから問題点を抽出し、その問題点を別の事象に結びつけることで、大きな視野で物事を理解する比較文学ならではの思考方法を学ぶことになる。</p> <p>【到達目標】比較文学の研究方法を学ぶ。図書の構造的読解力、情報を調査し活用する能力を向上させる。</p>					
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) Toni Morrison <i>Beloved</i> Plume-Penguin Putnam, 1998. 左記以外も授業で随時紹介します。</p>					
授業スケジュール	<p>第1回 インTRODクシヨン：対話的文学論とは</p> <p>第2回 <i>Beloved</i>と神話批評</p> <p>第3回 <i>Beloved</i>とウィネバゴ・インディアン神話(1)</p> <p>第4回 <i>Beloved</i>とウィネバゴ・インディアン神話(2)</p> <p>第5回 <i>Beloved</i>とヨルバ族神話</p> <p>第6回 大衆文化の中のトリックスター</p> <p>第7回 名称付与とは何か</p> <p>第8回 <i>Beloved</i>と「千と千尋の神隠し」(1)</p> <p>第9回 <i>Beloved</i>と「千と千尋の神隠し」(2)</p> <p>第10回 <i>Beloved</i>と「千と千尋の神隠し」(3)</p> <p>第11回 言語の表象不可能性</p> <p>第12回 <i>Beloved</i>と井上ひさし『父と暮せば』(1)</p> <p>第13回 <i>Beloved</i>と井上ひさし『父と暮せば』(2)</p> <p>第14回 <i>Beloved</i>と井上ひさし『父と暮せば』(3)</p> <p>第15回 レポートのテーマ報告会とまとめ</p>					
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。					
成績評価の方法	授業への参加態度(10%)、テーマごとに提出する小レポート(30%)、最終レポート(60%)					

授業科目	英米文学講読Ⅰ		担当者	小林 潤司				
	[履修年次]	1,2年	授業外対応	質問等には講義終了時に対応する。				
	[学期]	前期	[単位]	1単位	[必修/選択]	選択	[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】シェイクスピアとその時代</p> <p>【概要】エリザベス時代のロンドンは未曾有の人口増加の過程にあった。いわゆる「エリザベス朝演劇」とは、この都市の膨張に伴って生じた、娯楽の新規需要を背景にして栄えた芸能であった。「千万の心」をもって普遍的な人間性の真実を描いたと称えられるシェイクスピアは、同時に、当時のロンドン市民の好尚に合う新しい芸能を担った、興行資本家であり役者であり脚本作者だったのだ。本講では、この「<時代の落とし子>にして<世界の文豪>」を準備した演劇的風土を、周辺の劇作家群像をも視野に入れながら、できる限り立体的に論じてみたい。</p> <p>【到達目標】初期近代イングランドの演劇と文化の歴史的な背景を簡潔に説明することができる。ルネサンス、人文主義、宗教改革について、現代の世界のありかたと関連づけて、概略を説明することができる。シェイクスピアの伝記と作品の概要を説明することができる。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) (1) 柴田稔彦 (編) 『対訳シェイクスピア詩集』 (岩波文庫)</p> <p>(2) (2) 河合祥一郎・小林章夫 (編) 『シェイクスピア・ハンドブック』 (三省堂) G. L. ブルック 『シェイクスピアの英語』 (松柏社)</p>							
授業スケジュール	<p>第1回 世界の拡大</p> <p>第2回 ルネサンス観の多様性</p> <p>第3回 人文主義</p> <p>第4回 宗教改革と国民国家の形成</p> <p>第5回 ストラットフォードからロンドンへ</p> <p>第6回 歴史劇</p> <p>第7回 初期・中期の喜劇</p> <p>第8回 初期の悲劇</p> <p>第9回 『ハムレット』と『オセロー』</p> <p>第10回 『リア王』と『マクベス』</p> <p>第11回 後期の喜劇</p> <p>第12回 物語詩の概説</p> <p>第13回 『ヴィーナスとアドーニス』</p> <p>第14回 『ルークリース凌辱』</p> <p>第15回 まとめとふりかえり</p>							
授業外学習(予習・復習)	授業で指示した参考図書等に目を通すことが求められる。							
成績評価の方法	授業参加状況(予習の状況および授業時間中の発表と発言) 30% 学期末試験 70%							

授業科目	英米文学講読Ⅱ		担当者	小林 潤司				
	[履修年次]	1,2年	授業外対応	質問等には講義終了時に対応する。				
	[学期]	後期	[単位]	1単位	[必修/選択]	選択	[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】シェイクスピア『ソネット集』選訳</p> <p>【概要】時と永遠、無常と不易、愛欲と憎悪などをめぐる形而上学的な瞑想の断章をはさみながら展開していく『ソネット集』の「物語」が、詩人の実人生における経験を何らかの形で反映しているのかどうかはわからない。しかし、この一巻の詩集の中に生き生きと再現された思索と情感の運動の軌跡をたどる時、私たちはその向こう側に、驚くほどに自由で巨大な精神の存在を察知し肅然とせざるを得ないのである。『ソネット集』を読むことは、この巨大な精神との格闘に他ならない。それは格闘である以上、無傷で戻ってくることはできないことを覚悟して掛からねばならないであろう。</p> <p>【到達目標】シェイクスピアの歴史的背景、伝記、作品の概要を説明することができる。『ソネット集』の構造、その成立に関する主要な仮説について概略を説明できる。任意のソネットを、詩集全体の中での位置づけ、当時の社会背景とのかわり、語彙、表現、修辞をはじめとする表現形式などの複数の観点から分析、評釈することができる。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) (1) 柴田稔彦 (編) 『対訳シェイクスピア詩集』 (岩波文庫)</p> <p>(2) (2) 河合祥一郎・小林章夫 (編) 『シェイクスピア・ハンドブック』 (三省堂) G. L. ブルック 『シェイクスピアの英語』 (松柏社)</p>							
授業スケジュール	<p>第1回 ソネット連作詩集の世界(シドニー、スペンサー、シェイクスピア)</p> <p>第2回 シェイクスピア式ソネットの詩形と技巧</p> <p>第3回 『ソネット集』の成立と出版</p> <p>第4回 ソネット1番</p> <p>第5回 ソネット2番</p> <p>第6回 ソネット9番</p> <p>第7回 ソネット12番</p> <p>第8回 ソネット17番</p> <p>第9回 ソネット18番</p> <p>第10回 ソネット30番</p> <p>第11回 ソネット55番</p> <p>第12回 ソネット66番</p> <p>第13回 ソネット71番</p> <p>第14回 ソネット73番</p> <p>第15回 まとめとふりかえり</p>							
授業外学習(予習・復習)	授業で指示した参考図書等に目を通すことが求められる。							
成績評価の方法	授業参加状況(予習の状況および授業時間中の発表と発言) 30% 学期末試験 70%							

授業科目	英米文学講読Ⅲ		担当者	轟 義昭	
	[履修年次]	1, 2年	授業外対応	質問等はメールもしくはオフィスアワーで対応	
	[学期]	前期	[単位]	1	
			[必修/選択]	選択	
				[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】イギリス文学作品に親しむ。</p> <p>【概要】C.ディケンズの『オリヴァー・トゥイスト』を読みます。授業は速読形式で進め、担当者が用意したプリントに基づいて各章ごとに内容と問題点を確認していきます。作品を読むには記憶力が大事です。物語内容の理解度を確認するために、小テストを6回実施します。また作品は映画化されているので、プロットと背景が理解できるようにビデオを活用します。</p> <p>【到達目標】文学作品を速読で読む力を養う。作品の内容を考える力を養う。作品全体を通して作者の主張を読み解く力を養う。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Charles Dickens, <i>Oliver Twist</i> (ペンギンリーダーズ) 南雲堂フェニックス</p> <p>(2)</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション (授業の進め方の説明), 映像作品『オリヴァー・トゥイスト』の鑑賞</p> <p>第2回 映像作品『オリヴァー・トゥイスト』の鑑賞 (続き) と解説</p> <p>第3回 テキスト第1章～第3章を読む。プリントによる問題点の確認</p> <p>第4回 第1章～第3章の小テスト (1回目) およびその解説。第4章を読む。プリントによる問題点の確認</p> <p>第5回 第5章～第6章を読む。プリントによる問題点の確認</p> <p>第6回 第4章～第6章の小テスト (2回目) およびその解説。第7章を読む。プリントによる問題点の確認</p> <p>第7回 第8章～第9章を読む。プリントによる問題点の確認</p> <p>第8回 第7章～第9章の小テスト (3回目) およびその解説。第10章～第11章を読む。プリントによる問題点の確認</p> <p>第9回 第12章～第13章を読む。プリントによる問題点の確認</p> <p>第10回 第10章～第13章の小テスト (4回目) およびその解説。第14章～第15章を読む。プリントによる問題点の確認</p> <p>第11回 第16章～第17章を読む。プリントによる問題点の確認</p> <p>第12回 第14章～第17章の小テスト (5回目) およびその解説。第18章～第19章を読む。プリントによる問題点の確認</p> <p>第13回 第20章～第21章を読む。プリントによる問題点の確認</p> <p>第14回 第18章～第21章の小テスト (6回目) およびその解説</p> <p>第15回 まとめ『オリヴァー・トゥイスト』はどのような作品だったかを考える</p>				
授業外学習(予習・復習)	予習は担当者が用意したプリント (宿題), 復習は小テスト (6回) の準備				
成績評価の方法	レポート (40%), 予習を含む授業への取り組みと授業での発言内容 (30%), 小テスト (30%)				

授業科目	講読演習Ⅱ		担当者	轟 義昭	
	[履修年次]	1年	授業外対応	質問等はメールもしくはオフィスアワーで対応	
	[学期]	後期	[単位]	1	
			[必修/選択]	選択必修	
				[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】イギリス文学作品に親しむ。</p> <p>【概要】ペンギンリーダーズのテキストを利用して、J. オースティンの『分別と多感』を読みます。授業はテキストを読んで日本語に訳す精読方式です。また章ごとの訳だけでなく、担当者が準備したプリントに基づいて章ごとの内容と問題点も確認します。作品は映画化されているので、プロットと背景が理解できるようにビデオを活用します。最後に、学習からまとめた成果をパワポで発表 (プレゼン) してもらい、他の学生の見解や思考を共有しながら作品の理解に努めます。</p> <p>(グループ活動をととした授業とする。)</p> <p>【到達目標】文学作品を正確に読む力を養う。作品の内容を考える力を養う。作品全体を通して作者の主張を読み解く力を養う。プレゼンを通して自らの発信力を磨くと同時に、他の学生の発表を聴いて意見を述べる力を養う。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Jane Austen, <i>Sense and Sensibility</i> (英潮社フェニックス)</p> <p>(2)</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション (授業の進め方の説明: グループ活動, <u>代表</u>は指定された期日までに章の訳をとりまとめる), 映像作品『いつか晴れた日に』の鑑賞</p> <p>第2回 映像作品『いつか晴れた日に』の鑑賞 (続き) と解説</p> <p>第3回 グループ活動1: 英文テキストの第1章のプリントの検討と発表</p> <p>第4回 第1章と第2章の訳の訂正</p> <p>第5回 グループ活動2: 第3章のプリントの検討と発表</p> <p>第6回 第3章の訳の訂正</p> <p>第7回 グループ活動3: 第4章のプリントの検討と発表</p> <p>第8回 第4章の訳の訂正</p> <p>第9回 グループ活動4: 第5章のプリントの検討と発表</p> <p>第10回 第5章の訳の訂正</p> <p>第11回 グループ活動5: 第6章のプリントの検討と発表</p> <p>第12回 第6章の訳の訂正</p> <p>第13回 グループ活動6: 第7章のプリントの検討と発表</p> <p>第14回 第7章の訳の訂正</p> <p>第15回 まとめ (プレゼン: パワーポイントを使って発表)</p>				
授業外学習(予習・復習)	予習は各章の訳および担当者が用意したプリント				
成績評価の方法	予習を含む授業への取り組みと授業での発言内容 (60%), プレゼンテーション (40%)				

授業科目	基礎演習Ⅱ		担当者	轟 義昭
	[履修年次]	1年	授業外対応	質問等はメールもしくはオフィスアワーで対応
	[学期]	後期	[単位]	1
			[必修/選択]	選択必修
			[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】文学と映画（大衆文化のなかのイギリス文学）</p> <p>【概要】 アダプテーション映画の魅力を理解する授業です。取り上げる作品は、小泉堯史監督『博士の愛した数式』、黒澤明監督『乱』、アン・リー監督『いつか晴れた日に』、ジョン・マッデン監督『恋におちたシェイクスピア』の4作品です。授業は作品に関するディスカッションおよびプレゼンテーションが中心です。まず、学生の視点でその作品の「見どころ」「監督の主張」等についてディスカッションし、その作品の魅力を共有します。その上で、文学的視点からそれぞれの映画の鑑賞の仕方を学習します。最初の2本は映画作品の基となった小説（同名作品）および劇（『リア王』）と比較して相違点を探り、「アダプテーション映画」の魅力を考察します。あとの2本は映画に用いられた英詩に着目して文学的視点から映画を考察します。もちろん、ディスカッションした作品については、自らの考えをまとめてプレゼン（約5分）してもらいます。</p> <p>【到達目標】 アダプテーション映画の魅力を理解する。文学的視点から映画を鑑賞する力を身に付ける。プレゼンをとおして自らの考えを発信できる力を身に付け、同時に他の学生のプレゼンを聴いて質問できる力を養う（発信力とディスカッション力）。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 小川洋子『博士の愛した数式』 新潮文庫</p> <p>(2)</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 『博士の愛した数式』に関するディスカッション（1）</p> <p>第3回 『博士の愛した数式』に関するディスカッション（2）</p> <p>第4回 プレゼンテーション</p> <p>第5回 『乱』に関するディスカッション（1）</p> <p>第6回 『乱』に関するディスカッション（2）</p> <p>第7回 プレゼンテーション</p> <p>第8回 研究と発表：小川洋子の小説『博士の愛した数式』の考察（1）</p> <p>第9回 研究と発表：小川洋子の小説『博士の愛した数式』の考察（2）</p> <p>第10回 研究と発表：小川洋子の小説『博士の愛した数式』の考察（3）</p> <p>第11回 研究と発表：映画『いつか晴れた日に』とソネット116番（1）</p> <p>第12回 研究と発表：映画『いつか晴れた日に』とソネット116番（2）</p> <p>第13回 研究と発表：映画『恋におちたシェイクスピア』とソネット18番（1）</p> <p>第14回 研究と発表：映画『恋におちたシェイクスピア』とソネット18番（2）</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	ディスカッションの準備としてスクリプトを読む（4回）、プレゼンのためのパワーポイント作り（3回）			
成績評価の方法	授業への取り組み（50%）、プレゼンテーション（50%）			

授業科目	基礎演習Ⅱ		担当者	Jorge Garcia Arroyo (ガルシア・アロヨ ホルヘ)
	[履修年次]	1年	授業外対応	By coming to my office or by email
	[学期]	後期	[単位]	1
			[必修/選択]	選択必修
			[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 Analysis of American pop culture in relation to that of Japan.</p> <p>【概要】 In this class we will discuss different topics related to American popular culture and we will compare it with that of Japan.</p> <p>We will do it using as reference videos, music, pictures featuring both countries popular cultures.</p> <p>【到達目標】 The students will understand the main points of American popular culture and its differences with that of Japan.</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Materials will be provided by the teacher.</p> <p>(2)</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 Introduction to the course (discussion and debate hints).</p> <p>第2回 Brief introduction to American cultural values.</p> <p>第3回 American music and its message.</p> <p>第4回 Discussion: J-pop and American Pop. A comparison.</p> <p>第5回 American characters. Are they bearers of the American cultural values?</p> <p>第6回 Discussion: From Mickey Mouse to Doraemon. The popular characters and their differences.</p> <p>第7回 Hollywood: a factory of “dreams”.</p> <p>第8回 Discussion: Hayao Miyazaki and Walt Disney: two master ways of constructing popular legends.</p> <p>第9回 The Hamburger Country.</p> <p>第10回 Discussion: The influence of American “fast food” in Japan and other Asian countries.</p> <p>第11回 We live in a video game world.</p> <p>第12回 Discussion: Japanese games or American games?</p> <p>第13回 US: The King of Sports.</p> <p>第14回 Discussion: A Globalized spectacle beyond sports. From the NBA to the Super Bowl.</p> <p>第15回 Course review.</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	Class attendance (30%); participation in class (30%); Final reports (40%)			
実務経験について	I have been teaching this class since 2019.			

授業科目	英米文学演習	担当者	轟 義昭		
	[履修年次] 2年	授業外対応	質問等はメールもしくはオフィスアワーで対応		
	[学期] 前期 [単位] 1	[必修/選択]	選択必修	[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】「アダプテーション理論」の実践と報告</p> <p>【概要】前半の5回は『クリスマス・キャロル』の小説と映画を用いて学生に「アダプテーション理論」を実践してもらい、結果報告を求めます。その後の5回は先輩たちが取り組んだ卒業論文を取り上げて、「アダプテーション理論」に基づく作成の仕方を学習します。後半の5回は各自で取り組みたい題材を見つけて、卒業研究の骨格を研究していきます。</p> <p>【到達目標】「アダプテーションの理論」を実践し、文学的な視点から映画の良さと魅力を理解する。「アダプテーション理論」に基づく卒業論文の土台作りをする。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 随時紹介</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション (授業の進め方の説明), 『クリスマス・キャロル』の小説と映画の実践 (1)</p> <p>第2回 『クリスマス・キャロル』の小説と映画の実践 (2)</p> <p>第3回 『クリスマス・キャロル』の小説と映画の実践 (3)</p> <p>第4回 『クリスマス・キャロル』の小説と映画の実践 (4)</p> <p>第5回 取り組みの実践報告</p> <p>第6回 先輩たちの卒業論文を用いた「アダプテーション理論」の学習 (1)</p> <p>第7回 先輩たちの卒業論文を用いた「アダプテーション理論」の学習 (2)</p> <p>第8回 先輩たちの卒業論文を用いた「アダプテーション理論」の学習 (3)</p> <p>第9回 先輩たちの卒業論文を用いた「アダプテーション理論」の学習 (4)</p> <p>第10回 先輩たちの卒業論文から「アダプテーション理論」について学んだことを報告</p> <p>第11回 各自の取り組みによる実践 (1)</p> <p>第12回 前回までの報告+各自の取り組みによる実践 (2)</p> <p>第13回 前回までの報告+各自の取り組みによる実践 (3)</p> <p>第14回 前回までの報告+各自の取り組みによる実践 (4)</p> <p>第15回 まとめ (各自の取り組みの実践報告)</p>				
授業外学習(予習・復習)	適宜指示, 報告のためのパワーポイント作り (3回)				
成績評価の方法	授業への取り組み (60%), 実践報告 (プレゼンテーション) (40%)				

授業科目	英米文学演習	担当者	Jorge García Arroyo (ガルシア・アロヨ ホルヘ)		
	[履修年次] 2年	授業外対応	By coming to my office or by email.		
	[学期] 前期 [単位] 1	[必修/選択]	選択必修	[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 Analysis of Herman Melville and Ernest Hemingway's main works.</p> <p>【概要】 Through texts taken from Melville's and Hemingway's most important works, we will analyze the vision that these authors had on topics such as slavery, imperialism, war, religion and other cultural issues, etc. in relation to the United States. In addition we will also study how these authors related the United States with Europe (especially the case of Spain).</p> <p>【到達目標】 The understanding of these authors' vision about important aspects of American culture and society of the nineteenth and twentieth centuries and their relationship or image regarding Europe.</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) All materials will be provided by the teacher</p> <p>(2)</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 Introduction to the course (discussion and debate hints).</p> <p>第2回 Brief introduction to 19th Century American Literature. Who was this guy? Herman Melville's brief biographical notes.</p> <p>第3回 TEXT 1 (imperialism). Selection of brief texts from <i>Moby-Dick; or, the Whale</i>, and "Benito Cereno". Reading of the texts.</p> <p>第4回 TEXT 1. Discussion: Melville's vision on imperialism (in relation with Europe. The Spanish case).</p> <p>第5回 TEXT 2 (slavery). Selection of some texts from "Benito Cereno" and <i>Typee</i>. Reading of the texts.</p> <p>第6回 TEXT 2. Discussion: Melville and the slavery problem (in relation to the Spanish slavery system).</p> <p>第7回 TEXT 3 (religion). Selection of brief texts from <i>Pierre; or, the Ambiguities; Moby-Dick; or, the Whale</i> ("The Town-Ho's Story") and "Benito Cereno". Reading of the texts.</p> <p>第8回 TEXT 3. Discussion: Melville and religion (The Spanish Auto-da-fe).</p> <p>第9回 Melville's review and final discussion (conclusion).</p> <p>第10回 Brief introduction to 20th century American literature. Who is this guy? Ernest Hemingway's brief biographical notes.</p> <p>第11回 TEXT 4. (The new women). Text from <i>The Sun also Rises</i>. Reading of the text.</p> <p>第12回 TEXT 4. Discussion: Hemingway, new women and Spanish "Fiesta".</p> <p>第13回 TEXT 5 (war). Selection of brief texts from <i>Death in the Afternoon</i> and <i>For Whom the Bell Tolls</i>. Reading of the texts.</p> <p>第14回 TEXT 5. Discussion: Hemingway's vision on war and death (the corridas and The Spanish Civil War, 1936-1939).</p> <p>第15回 Hemingway final discussion (conclusion). Course review.</p>				
授業外学習(予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	Class Assistance (25%); Class participation (30%); Final presentation (45%)				
実務経験について	I am specialized in 19 th and 20 th centuries American literature				

授業科目	イギリス事情	担当者	ジョン・トレマーコ John Tremarco		
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 2	授業外対応	適宜対応 (要予約)		
		[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 British Culture, Modern and Traditional</p> <p>【概要】 This course will introduce the students to British cultural and social issues. The students will be encouraged to acquire a deep understanding of cross cultural communication that will enable them to understand the nature of cultural diversity. Learning Strategies and Active Learning will be encouraged so that they will be able to use/pass this knowledge on in their chosen professions and/or foreign language classes in Junior and Senior high schools. The aim of the course is to give the students the skills needed to be able to make a presentation at the end of the course that will show that they have acquired an understanding of a particular facet of British society. The course will be project-based. The theme of the project will be decided upon by the students; it will be chosen according to the aptitude, skill-level and number of students on the course. The students will study the social and cultural norms of British society, both present and past. The themes available will include, but are not limited to: Music (classical and modern), Education, Food and Current Issues. Any chosen project will include a comparative cultural component.</p> <p>【到達目標】 The main emphasis will be on speaking and listening with a view to having the students make a presentation at the end of the course.</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) All materials provided by the professor</p> <p>(2) Japanese/English Dictionary, (Use of mobile phones as dictionaries is not permitted.)</p>				
授業スケジュール	<p>第 1 回 Introduction & Orientation: Explanation of course aims, tests, evaluation methods and teacher expectations. コース、授業についての説明</p> <p>第 2 回 Choosing the Project theme</p> <p>第 3 回 ~ Planning and implementation of Project</p> <p>第 13 回</p> <p>第 14 回 Final Presentation</p> <p>第 15 回 Course Review</p>				
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。				
成績評価の方法	グループワークの点数と課題 40%+最終テスト 60%の合計				

授業科目	アメリカ事情	担当者	Jorge García Arroyo (ガルシア・アロヨ ホルヘ)		
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 2	授業外対応	By coming to my office or by email.		
		[必修/選択]	選択 (注)	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 American History; American Cultural History.</p> <p>【概要】 In this course we will see a general view of the major political, social and cultural events of American history. As reinforcement and support to the learning of this subject, the students will discuss about the topics seen in each unit.</p> <p>【到達目標】 The goal of this subject is to provide the students with a general knowledge of American major historical and cultural facts that will help them to understand better the United States of America.</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Materials will be provided by the teacher</p> <p>(2)</p>				
授業スケジュール	<p>第 1 回 Brief explanation about the course. Unit 1. The origin of a nation. The colonial times 1.</p> <p>第 2 回 Unit 1. The origin of a nation. The colonial times 2. Unit 1 Discussion.</p> <p>第 3 回 Unit 2. Building a new country. The American Revolution 1 (political and social facts). Additional learning. The founders of the US: John Adams (We will watch the HBO miniseries)</p> <p>第 4 回 Unit 2. Building a new country. The American Revolution 2 (cultural facts). Unit 2 discussion.</p> <p>第 5 回 Unit 3. Expansionism era 1 (political and social facts). Additional learning: Manifest Destiny.</p> <p>第 6 回 Unit 3. Expansionism era 2 (cultural facts). Unit 3 discussion.</p> <p>第 7 回 Unit 4. Civil war and reconstruction 1 (political facts).</p> <p>第 8 回 Unit 4. Civil War and reconstruction 2 (cultural facts). Additional learning: The Civil War literature. Unit 4 discussion.</p> <p>第 9 回 Unit 5. Emergence of Modern US 1 (political and social facts). Additional learning: Roosevelt, the great changes in American politics.</p> <p>第 10 回 Unit 5. Emergence of Modern US 2 (cultural facts). Unit 5 discussion.</p> <p>第 11 回 Unit 6. From the Great Depression to the II World War 1 (political and social facts).</p> <p>第 12 回 Unit 6. From the Great Depression to the II World War 2 (cultural facts). Additional learning: Disney and anti-Nazi propaganda (video).Unit 5 discussion.</p> <p>第 13 回 Unit 7. Current America (from the Cold War to the Twin Towers attack). Additional learning: 2001, September 11th (video).</p> <p>第 14 回 Unit 7 discussion.</p> <p>第 15 回 Course review.</p>				
授業外学習(予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	In-class discussions (40%); Final report (60%).				
実務経験について	I am specialized in world history, specially from 16 th to 18 th centuries.				

(注) 教職必修

授業科目	ヨーロッパ事情		担当者	小林 朋子				
	[履修年次]	2年	授業外対応	適宜対応 (要予約)				
	[学期]	後期	[単位]	2	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】「大西洋システム」から再考するヨーロッパ</p> <p>【概要】15世紀後半から19世紀前半にあたる「西洋近代」の開始期に、ヨーロッパ人はその主導力によって、大西洋を挟む南北アメリカ、西アフリカをひとつの交換システム、「大西洋システム」に包摂していき、その過程で人種奴隷制プランテーションという近代特有の生産様式をつくり出した。例えば砂糖はその生産様式のもと、ヨーロッパ各国の王侯貴族のステイタスを飾る奢侈品から一般大衆の必需品にまでなり、ヨーロッパ文化に溶け込んでいった。本講義は「国家」間に限定されない異文化交流の歴史をヨーロッパを中心に概観する。そして西洋近代がつくり出した「大西洋システム」をキーワードに、このシステムの「中核」に存在しダイナミックに分裂・統合を繰り返すヨーロッパとは一体何なのか歴史・文化的側面から解説していく。</p> <p>【到達目標】現在のヨーロッパ事情を歴史的背景を知った上で多角的に理解できる。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 明石和康著『ヨーロッパがわかる一起源から統合への道のり』岩波ジュニア新書 (岩波書店、2013年)</p> <p>(2) 池本幸三他著『近代世界と奴隷制』(人文書院、1995年)</p>							
授業スケジュール	<p>第1回 インTRODクシヨN</p> <p>第2回 ヨーロッパの砂糖はどこからきたのか (1)</p> <p>第3回 ヨーロッパの砂糖はどこからきたのか (2)</p> <p>第4回 近代世界と大西洋システム (1)</p> <p>第5回 近代世界と大西洋システム (2)</p> <p>第6回 近代世界と大西洋システム (3)</p> <p>第7回 大西洋奴隷貿易 (1): ルネサンスと地理上の発見</p> <p>第8回 大西洋奴隷貿易 (2): 海洋国家オランダ</p> <p>第9回 大西洋奴隷貿易 (3): 奴隷と砂糖をめぐる政治</p> <p>第10回 コーヒー・ハウスが育んだ近代文化</p> <p>第11回 イギリス資本主義・市民革命・「商業革命」</p> <p>第12回 大西洋システムとしての「イギリス帝国」</p> <p>第13回 資本主義世界と奴隷制: 地中海から大西洋へー砂糖の西漸運動</p> <p>第14回 資本主義世界と奴隷制: ヨーロッパの闘技場ーカリブ海領有をめぐる角逐</p> <p>第15回 まとめ: 砂糖と紅茶ーティータム儀礼化に内包された歴史</p>							
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。							
成績評価の方法	授業への参加態度 (20%)、発表 (30%)、最終レポート (50%)							

授業科目	講読演習Ⅲ		担当者	小林 朋子				
	[履修年次]	1年	授業外対応	適宜対応 (要予約)				
	[学期]	後期	[単位]	1	[必修/選択]	選択必修	[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】芸術表象から学ぶ比較文化</p> <p>【概要】歴史画、神話画、宗教画といった様々なジャンルの絵画を題材に「視線」のつくられ方を解説したテキストを精読しながら、その絵画が表す時代の価値観および特質と他の時代のそれを比較することで、比較文化的なものの見方を学ぶ。また英文を正確に読解する方法を実践的に学ぶ。輪読形式を取るので予習は必須である。</p> <p>【到達目標】速読・多読力を向上させると同時に、比較文化の方法を学ぶ。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 『Looking at Pictures 絵画の歴史』鈴木繁夫 編註 (松柏社、1994年)</p> <p>(2) 授業で随時紹介します。</p>							
授業スケジュール	<p>第1回 インTRODクシヨN</p> <p>第2回 Ways of looking at pictures (1): フレーズ・リーディングとは1</p> <p>第3回 Ways of looking at pictures (2): フレーズ・リーディングとは2</p> <p>第4回 History and mythology (1): フレーズ・リーディングの実践1</p> <p>第5回 History and mythology (2): フレーズ・リーディングの実践2</p> <p>第6回 Religious images (1): フレーズ・リーディングの実践3</p> <p>第7回 Religious images (2): フレーズ・リーディングの実践4</p> <p>第8回 An approach to stylistic analysis: Renaissance and Baroque contrasted (1): フレーズ・リーディングの実践5</p> <p>第9回 An approach to stylistic analysis: Renaissance and Baroque contrasted (2): フレーズ・リーディングの実践6</p> <p>第10回 Hidden Meaning (1): フレーズ・リーディングの実践7</p> <p>第11回 Hidden Meaning (2): フレーズ・リーディングの実践8</p> <p>第12回 Quality (1): フレーズ・リーディングの実践9</p> <p>第13回 Quality (2): フレーズ・リーディングの実践10</p> <p>第14回 Tradition: フレーズ・リーディングの実践11</p> <p>第15回 まとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。							
成績評価の方法	授業への積極的な参加態度 (60%)、筆記試験 (40%)							

授業科目	基礎演習Ⅲ	担当者	小林 朋子
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1	授業外対応	適宜対応 (要予約)
		[必修/選択]	選択必修 [授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】比較文学・比較文化</p> <p>【概要】本演習では、比較文学・比較文化に関連する論文を読み、この学問の方法論を学ぶことで次年度の学習につなげていく。担当箇所について発表し、全員で討論するかたちを取ることで、担当者以外も毎回あらかじめ論文を読み、疑問点を考えてくることが求められる。</p> <p>【到達目標】比較文学・文化の研究方法を学び、卒業研究に応用できるようになる。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 木下卓他編著『多文化主義で読む英米文学』、工藤庸子著『異文化の交流と共存』、渡邊守章他著『文化と芸術表象』</p>		
授業スケジュール	<p>第 1回 インTRODクシヨン</p> <p>第 2回 発表と討論：多文化主義的家族像（1）</p> <p>第 3回 発表と討論：多文化主義的家族像（2）</p> <p>第 4回 発表と討論：歴史の再構築と再記憶（1）</p> <p>第 5回 発表と討論：歴史の再構築と再記憶（2）</p> <p>第 6回 発表と討論：混血インディアン女性の自己表象（1）</p> <p>第 7回 発表と討論：混血インディアン女性の自己表象（2）</p> <p>第 8回 発表と討論：エキゾティシズム—他者憧憬と他者恐怖（1）</p> <p>第 9回 発表と討論：エキゾティシズム—他者憧憬と他者恐怖（2）</p> <p>第 10回 発表と討論：語りとは革新的創造行為である（1）</p> <p>第 11回 発表と討論：語りとは革新的創造行為である（2）</p> <p>第 12回 発表と討論：奴隷貿易・奴隷制というトラウマ（1）</p> <p>第 13回 発表と討論：奴隷貿易・奴隷制というトラウマ（2）</p> <p>第 14回 発表と討論：表象とその臨界（1）</p> <p>第 15回 発表と討論：表象とその臨界（2）とまとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。		
成績評価の方法	担当時のプレゼンテーション（60%）、演習全体への積極的な参加態度（40%）		

授業科目	比較文化演習	担当者	小林 朋子
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1	授業外対応	適宜対応 (要予約)
		[必修/選択]	選択必修 [授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】翻訳で学ぶ異文化接触</p> <p>【概要】二つの言語と文化が真つ向から相まみえる翻訳は、異文化接触の最前線である。本演習はいわゆる「文化の翻訳」という手続きを含む、広い意味での英語テキストの読み取りをテーマにした論文を精読する。また受講者は担当した論文についてプレゼンテーションを行い、それをベースに全員でディスカッションをする。テキストを批判的に読むクリティカル・リーディングの方法も学ぶ。</p> <p>【到達目標】比較文化、比較文学の研究方法を学び、卒業研究に応用できるようにする。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 井上健他編著『翻訳の方法』東京大学出版会 左記以外にも授業で随時紹介します。</p>		
授業スケジュール	<p>第 1回 インTRODクシヨン</p> <p>第 2回 英和辞典活用法：抽象語を翻訳する</p> <p>第 3回 入試英語とは何か</p> <p>第 4回 英語の女言葉：ジェンダーと敬語</p> <p>第 5回 英英辞典活用法：歴史的テキストを翻訳する</p> <p>第 6回 行間の＜傾向＞を読みとる</p> <p>第 7回 正しい翻訳とは</p> <p>第 8回 小説の翻訳：日本語の得意技</p> <p>第 9回 論文の翻訳：言葉は論理より愛に近い</p> <p>第 10回 漢文訓読と英文解釈</p> <p>第 11回 直訳から「超訳」へ</p> <p>第 12回 映し合う二つのテキスト：英訳された『雪国』</p> <p>第 13回 哲学の言葉の翻訳</p> <p>第 14回 翻訳の記号論：虚構としての言語</p> <p>第 15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。		
成績評価の方法	担当時のプレゼンテーション（50%）、討論への積極的な参加態度（50%）		

授業科目	対照言語学		担当者	楊 虹
	[履修年次] 2年	[学期] 後期 [単位] 2	授業外対応	適宜対応 (要予約)
			[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 対照言語学の基礎を学ぶ。</p> <p>【概要】 この授業では、対照言語学とはどのような学問かについて学ぶ。日本語と英語、中国語を中心とした外国語の話しことばの文法の比較対照を通して、それぞれの特徴を明らかにし、日本語の話し言葉の特徴をより深く理解する。また、言語学習または言語教育における対照言語学の役割と応用についても触れる。</p> <p>【到達目標】 日本語と外国語（英語、中国語）の主な共通点と相違点を理解し、実際の言語データを使って分析することができる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布する。 (2) 授業中に紹介する。</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 オリエンテーション：対照言語学とはどんな学問か、授業の概要説明 第 2 回 日英中の対照（1）：主語の立て方 第 3 回 日英中の対照（2）：主語の顕示と暗示 第 4 回 日英中の対照（3）：実際の発話における文の形 第 5 回 日英中の対照（4）：時に関する比較① 第 6 回 日英中の対照（5）：時に関する比較② 第 7 回 日英中の対照（6）：呼びかけ語の比較① 第 8 回 日英中の対照（7）：呼びかけ語の比較② 第 9 回 日英中の対照（8）：待遇表現に関する比較① 第 10 回 日英中の対照（9）：待遇表現に関する比較② 第 11 回 日英中の対照（10）：言語行動に関する比較① 第 12 回 日英中の対照（11）：言語行動に関する比較② 第 13 回 発表準備 第 14 回 学生による発表 第 15 回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜課題等を出すので、授業外学習が必要である。			
成績評価の方法	授業への参加度：30%，発表：30%，レポート：40%			

授業科目	言語学概論		担当者	楊 虹
	[履修年次] 1年	[学期] 前期 [単位] 2	授業外対応	適宜対応 (要予約)
			[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 言語学に関する基礎知識を学ぶ。</p> <p>【概要】 この授業では、言語学に関する基礎知識を学ぶ。音声学・音韻論、形態論、統語論、意味論および語用論、さらに言語獲得のメカニズムや言語によるコミュニケーションの仕組みから「ことば」を多角的に捉えていく。身近な例をあげてこれらの問題について考えながら授業を進める。</p> <p>【到達目標】 言語学の全体像を体系的に把握すると同時に、身近なことばと私たちの生活、社会の関連について理解を深める。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布する。 (2) 授業中に紹介する。</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 オリエンテーション：言語学とはどんな学問か、授業の概要説明 第 2 回 音声学・音韻論（1）：調音音声学、子音・母音 第 3 回 音声学・音韻論（2）：モーラ、音節① 第 4 回 音声学・音韻論（3）：モーラ、音節② 第 5 回 音声学・音韻論（4）：連濁、枝分かれ制約 第 6 回 形態論（1）：形態素、派生、複合など単語を生み出す仕組み 第 7 回 形態論（2）：新語、流行語 第 8 回 意味論（1）：単語の意味 第 9 回 意味論（2）：類義語と対義語 第 10 回 語用論（1）：発話行為論① 第 11 回 語用論（2）：発話行為論② 第 12 回 語用論（3）：発話機能と語学教育 第 13 回 言語コミュニケーションと社会：対人関係と地域差 第 14 回 これまでの復習 第 15 回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜小テストを実施するので、毎回復習が必要である。			
成績評価の方法	授業での発言や参加度、宿題：50%，期末試験：50%			

授業科目	日本語学概論		担当者	小亀 拓也	
	[履修年次]	2年 (注)	授業外対応	適宜対応 (要予約)	
	[学期]	前期	[単位]	2	
		[必修/選択]	選択 (注)	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>日本語を研究する際や日本文学（特に古典文学）を講読する際に必要となる日本語学の基礎知識を学ぶ。</p> <p>【概要】</p> <p>日本語の各研究分野（音声・音韻、文字・表記、語彙・意味、文法、待遇表現、方言）について概観する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>日本語学の基本的な考え方を身につけ、身の回りの言語現象について、的確に表現できるようになる。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 衣畑智秀 編『基礎日本語学』ひつじ書房</p> <p>(2) 授業中に紹介します。</p>				
授業スケジュール	<p>第 1回 オリエンテーション：「日本語」か「国語」か、「日本語学」とは。</p> <p>第 2回 現代日本語の音声と音韻 1：音声と音韻、音声器官、音声記号</p> <p>第 3回 現代日本語の音声と音韻 2：日本語の母音、母音の無声化、促音化</p> <p>第 4回 現代日本語の音声と音韻 3：日本語の子音、調音点・調音法・声帯振動</p> <p>第 5回 現代日本語の音声と音韻 4：音素と異音、拍と音節、特殊音素</p> <p>第 6回 現代日本語の音声と音韻 5：アクセント、イントネーション</p> <p>第 7回 文字・表記：日本語の表記の特色、漢字の構造・音と訓・送り仮名、国語施策</p> <p>第 8回 現代日本語の語彙と意味 1：語彙、語彙量、語種</p> <p>第 9回 現代日本語の語彙と意味 2：語構成、語の意味、原義と転義</p> <p>第 10回 現代日本語の文法 1：形態論と統語論、文の分類、主語と述語、主題</p> <p>第 11回 現代日本語の文法 2：学校文法とその限界、動詞の活用、自動詞・他動詞</p> <p>第 12回 現代日本語の文法 3：ヴォイス、テンス、アスペクト</p> <p>第 13回 現代日本語の文法 4：モダリティ、複文、授受表現</p> <p>第 14回 現代日本語の待遇表現：待遇行動、待遇表現の種類、敬語</p> <p>第 15回 現代日本語の方言：言語変種、社会方言と地域方言、言語変化</p>				
授業外学習(予習・復習)	各自事前にテキストを読んでくること。また、毎授業冒頭に復習小テストを行うため、復習が必要である。				
成績評価の方法	筆記試験（テキスト・ノート等持ち込み可）の成績（70%）、小テストの成績及び授業での発言内容（30%）				
実務経験について	KEC 日本語学院にて、「音声・音韻」「文字・表記」「語彙・意味」「文法」「言語と社会」の教授経験あり。				

(注) 日本語日本文学専攻では、1年次 必修科目かつ教職必修。英語英文学専攻では、2年次 選択科目。

なお、教育職員免許法施行規則の「音声言語及び文章表現に関するもの」のうち、「音声言語」にあたる内容を扱う。

授業科目	日本文学史 I		担当者	木戸 裕子	
	[履修年次]	1,2年	授業外対応	オフィスアワーに準じる	
	[学期]	前期	[単位]	2単位	
		[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】上代から中古までの文学史を各時代の社会的・文化的背景を踏まえて概観する。</p> <p>【概要】日本文学史・古典 I は上代（奈良時代以前）から中古（平安時代）の和歌史・物語史までを対象とする。テキストに従って、ジャンルごとに解説していくが、高校の授業であまり触れることのない作品などには、できるかぎり実際に読み、具体的に理解できるようにしたい。教員採用試験受験者、四年制大学編入学希望者はテキスト全体に目を通しておかねばならない。</p> <p>【到達目標】上代から中古に至る文学史の流れを理解し、文学史的知識を身につける。各ジャンルの特徴を知る。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 小西甚一『日本文学史』講談社学術文庫</p> <p>(2) 吉田孝『飛鳥・奈良時代』岩波ジュニア新書、保立道久『平安時代』岩波ジュニア新書</p>				
授業スケジュール	<p>第 1回 オリエンテーション：文学の発生、文学史の区分</p> <p>第 2回 上代の文学その 1：古代概観、古事記 1</p> <p>第 3回 上代の文学その 2：概観、古事記 2</p> <p>第 4回 上代の文学その 3：日本書紀、風土記</p> <p>第 5回 上代の文学その 4：万葉集 1</p> <p>第 6回 上代の文学その 5：万葉集 2</p> <p>第 7回 上代の文学その 6：万葉集 3</p> <p>第 8回 上代の文学その 7：上代の漢詩、説話</p> <p>第 9回 中古の文学その 1：概観 中世第 1 期 漢詩文と和歌 1</p> <p>第 10回 中古の文学その 2：漢詩文と和歌 古今集</p> <p>第 11回 中古の文学その 3：古今集 2</p> <p>第 12回 中古の文学その 4：散文の発達 1</p> <p>第 13回 中古の文学その 5：散文の発達 2</p> <p>第 14回 中古の文学その 6：白氏文集の影響</p> <p>第 15回 まとめ</p>				
授業外学習(予習・復習)	授業中に紹介した作品を読む。その他授業中に指示する。				
成績評価の方法	毎回の感想（ミニレポート）30% 筆記試験 70%				

授業科目	日本文学史Ⅱ		担当者	木戸 裕子				
	[履修年次]	1,2年	授業外対応	オフィスアワーに準じる				
	[学期]	後期	[単位]	2単位	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】中古から中世までの文学史を各時代の社会的・文化的背景を踏まえて概観する。</p> <p>【概要】日本文学史・古典Ⅱは中古（平安時代）の和歌史・物語史から中世（鎌倉・室町時代）文学までを対象とする。テキストに従って、ジャンルごとに解説していくが、高校の授業であまり触れることのない作品などには、できるかぎり実際に読み、具体的に理解できるようにしたい。教員採用試験受験者、四年制大学編入学希望者はテキスト全体に目を通しておかれたい。</p> <p>【到達目標】中古から中世に至る文学史の流れを理解し、文学史的知識を身につける。各ジャンルの特徴を知る。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 小西甚一『日本文学史』講談社学術文庫</p> <p>(2) 保立道久『平安時代』岩波ジュニア新書、五味文彦『武士の時代』岩波ジュニア新書</p>							
授業スケジュール	<p>第1回 中古の文学その1：拾遺和歌集とその時代</p> <p>第2回 中古の文学その2：女性と文学 日記</p> <p>第3回 中古の文学その3：枕草子</p> <p>第4回 中古の文学その4：源氏物語1</p> <p>第5回 中古の文学その5：源氏物語2</p> <p>第6回 中古の文学その6：和歌と歌壇</p> <p>第7回 中古の文学その7：院政期の散文</p> <p>第8回 中古の文学その8：歌謡と芸能</p> <p>第9回 中世の文学その1：中世第2期 歌壇の統合と分裂</p> <p>第10回 中世の文学その2：漢詩文</p> <p>第11回 中世の文学その3：新しい散文 軍記</p> <p>第12回 中世の文学その4：随筆と物語</p> <p>第13回 中世の文学その5：芸能</p> <p>第14回 中世の文学その6：連歌</p> <p>第15回 まとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	授業中に紹介した作品を読む。 その他授業中に指示する。							
成績評価の方法	毎回の感想（ミニレポート）30% 筆記試験70%							

授業科目	日本語教育概論		担当者	楊 虹				
	[履修年次]	2年(注)	授業外対応	適宜対応(要予約)				
	[学期]	後期	[単位]	2	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>日本語教育学の基礎を学ぶ。</p> <p>【概要】</p> <p>この授業では、日本語教育に初めて接する人を対象として、日本語教師及び学習者を取り巻く社会情勢、教育政策等日本語教育に関わる基本的な環境、言語(外国語)習得の仕組み、日本語教育の教授法等を解説する。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本語教育に関する基礎知識を身につけ、日本語教育に興味を持ち、その全体像を把握できること。 グローバル化が進む今日の日本及び世界に対し、より広い視野と多様な見方を持つようになること。 							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布する。</p> <p>(2) 授業中に紹介する。</p>							
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション：授業の概要説明および日本語教育の現状の概観</p> <p>第2回 異文化接触と日本語教育：少子高齢化、定住外国人の増加、ボランティア教室</p> <p>第3回 年少者に対する日本語教育：帰国子女・外国人児童生徒に対する教育</p> <p>第4回 教師の役割①コースデザインとニーズ分析</p> <p>第5回 教師の役割②シラバス・デザイン</p> <p>第6回 教材分析</p> <p>第7回 教授法①：直接法 オーディオリンガルメソッド コミュニカティブ・アプローチ</p> <p>第8回 教授法②：授業見学</p> <p>第9回 教授法③：授業見学の振り返り</p> <p>第10回 授業の計画と実施①授業の組み立て方</p> <p>第11回 授業の計画と実施②初級レベルの場合：導入 基本練習 応用練習</p> <p>第12回 授業の計画と実施③中級以上のレベルの場合：ストラテジー教育 プロジェクトワーク</p> <p>第13回 フォリナートークとやさしい日本語</p> <p>第14回 模擬授業の準備</p> <p>第15回 模擬授業の実施、全体のまとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	適宜小テストを実施するので、復習が必要である。							
成績評価の方法	授業での参加度や提出物：50%、期末レポート：50%							

(注) 日本語日本文学専攻は1年、英語英文学専攻は2年

授業科目	国際経済論		担当者	野村 俊郎
	[履修年次]	2年	授業外対応	講義前後に適宜対応
	[学期]	後期	[単位]	2単位
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】WTOについて学び、国境のない世界、自由で平和な世界を目指すとはどういうことか考える</p> <p>【概要】現在の世界は国境によって193の国に分かれている。しかし、WTOによって経済的な国境の壁は低くなり、企業は国境を超えて全世界で活動するようになった。WTOは第2次世界大戦の反省に基づいて生まれたGATTを前身としている。経済的な国境の壁を低くすることが、どのように国境のない世界、自由で平和な世界に繋がっていくかを順次説明していく。</p> <p>【到達目標】第2次大戦前のブロック経済がどのように戦争に進んだのか、それをどう反省してGATTが創設されたのか、自由で平和な世界に向かうWTOの意義と限界を理解する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布</p> <p>(2) 野村俊郎『トヨタの新興国車IMV』および『トヨタの新興国適応』文眞堂</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 テーマ説明：「国境のない世界、自由で平和な世界を目指す」とはどういうことか</p> <p>第2回 戦争と冷戦を超えて～WTOは何故生まれたのか～</p> <p>第3回 WTOの概要</p> <p>第4回 一般的最恵国待遇</p> <p>第5回 内国民待遇</p> <p>第6回 数量制限禁止</p> <p>第7回 経済制裁をWTOは禁止しているのに、実際には行われているのは何故なのか</p> <p>第8回 交渉に時間のかかるWTOを補充する地域統合</p> <p>第9回 EU①</p> <p>第10回 EU②</p> <p>第11回 EU③</p> <p>第12回 AFTAとAEC</p> <p>第13回 メルコスール</p> <p>第14回 TPP</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	筆記試験(100%)			

授業科目	国際関係論		担当者	福田 忠弘
	[履修年次]	2年	授業外対応	適宜対応
	[学期]	前期	[単位]	2
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】国際社会に生じうるさまざまな諸問題について理解する。同時に、国家以外の行為体についての理解を深める。</p> <p>【概要】本講義では、国際関係の史的展開を概説したうえで、現代国際関係における諸問題について分析する。国際関係の史的展開では、第二次世界大戦後の冷戦史(特にアジアにおける冷戦)を対象とし、国際システムの歴史の変遷をたどる。</p> <p>【到達目標】国際社会の現代的諸問題を把握し、その背景についての理解を深める。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 使用しない</p> <p>(2) 多賀秀敏編『平和学から見る世界』(成文堂、2020年)</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス：講義の目的、方法</p> <p>第2回 国際関係論の基礎1：国内社会と国際社会は何か違うのか</p> <p>第3回 国際関係論の基礎2：行為体と争点の多様化</p> <p>第4回 国際関係のなりたち1：第二次世界大戦後の秩序形成と冷戦</p> <p>第5回 国際関係のなりたち2：アジアにおける冷戦の拡大1</p> <p>第6回 国際関係のなりたち3：アジアにおける冷戦の拡大2</p> <p>第7回 国際関係のなりたち4：朝鮮戦争とベトナム戦争</p> <p>第8回 国際関係のなりたち5：大国の支配とナショナリズム</p> <p>第9回 国際関係のなりたち6：冷戦後の世界秩序</p> <p>第10回 国際社会における諸問題1：グローバリゼーションと貧困問題</p> <p>第11回 国際社会における諸問題2：貧困と開発</p> <p>第12回 国際社会における諸問題3：国境を越える諸問題</p> <p>第13回 国際社会における諸問題4：グローバルガバナンス(1)</p> <p>第14回 国際社会における諸問題5：グローバルガバナンス(2)</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する			
成績評価の方法	試験(100%)によって評価する。			

授業科目	検定対策講座Ⅱ		担当者	土持 かおり
	〔履修年次〕	1年	授業外対応	適宜対応
	〔学期〕	後期	〔単位〕	1
			〔必修/選択〕	選択
				〔授業形態〕
				演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】この授業のテーマは、TOEIC の各パートの攻略法を学び、演習を通して問題の対処法を習得するとともに、リスニング力、文法力、読解力を養成していくことです。</p> <p>【概要】TOEIC で測られる能力とは、「英語力+戦略力（ストラテジー）」です。つまり、TOEIC でスコアアップを目指すにTOEIC で求められる英語力とともに、問題を解くためのストラテジーを獲得していくことが効率的です。授業では、TOEIC のリスニング・リーディングパートの各セクションの攻略法を学び、演習問題に取り組んでいきます。また、自宅学習にも生かせる効果的な学習法についても学んでいきます。自己目標の点数の獲得を確実なものにしていくためには、授業だけでなく課外での継続した自己学習が求められます。TOEIC の学習に興味のある人は、この授業で一緒にがんばっていきましょう！（授業は毎回、LL 教室で行います。）</p> <p>【到達目標】TOEIC を受験し、550 点以上を取ることを目標とします。</p>			
(1)テキスト	(1)	Mitsuyasu Miyazaki, Milada Broukal 著、『Intensive Training for the TOEIC Test』 出版社：成美堂		
(2)参考文献	(2)	参考文献は授業時に随時紹介します。		
授業スケジュール	第 1 回	Preliminary Lesson – TOEIC とは？/ 授業内容と進め方 / Pre-TOEIC Test にチャレンジ！		
	第 2 回	Part 1 の攻略法 および問題演習 / 小テスト		
	第 3 回	Part 2 の攻略法および問題演習 (1) / 小テスト		
	第 4 回	Part 2 の攻略法および問題演習 (2) / 小テスト		
	第 5 回	Part 3 の攻略法および問題演習 (1) / 小テスト		
	第 6 回	Part 3 の攻略法および問題演習 (2) / 小テスト		
	第 7 回	Part 5 の攻略法および問題演習 (1) / 小テスト		
	第 8 回	Part 5 の攻略法および問題演習 (2) / 小テスト		
	第 9 回	Part 6 の攻略法および問題演習 / 小テスト		
	第 10 回	Part 7 の攻略法および問題演習 (1) / 小テスト		
	第 11 回	Part 7 の攻略法および問題演習 (2) / 小テスト		
	第 12 回	Part 7 の攻略法および問題演習 (3) / 小テスト		
	第 13 回	Part 4 の攻略法および問題演習 (1) / 小テスト		
	第 14 回	Part 4 の攻略法および問題演習 (2)		
	第 15 回	まとめ		
授業外学習(予習・復習)	小テストのための語彙学習、パートごとの語彙問題の予習、パートごとのミニ・テスト			
成績評価の方法	復習のための小テスト (30%) + 各パートのミニテストの提出 (30%) + 定期試験 (40%)			
実務経験について	外語学院で英検および TOEFL の資格対策の講師経験有り。授業では TOEIC に必要な英語力の養成に努めます。			

授業科目	卒業研究		担当者	轟 義昭
	〔履修年次〕	2年	授業外対応	質問等はメールもしくはオフィスアワーで対応
	〔学期〕	後期	〔単位〕	2
			〔必修/選択〕	選択必修
				〔授業形態〕
				演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】各人が設定したテーマに基づいて研究を進めさせ、「課題探求・解決能力」を育成する。</p> <p>【概要】「基礎演習Ⅱ」および「英米文学演習」から学んだことを応用して各人がテーマを設定し、研究を進めることとします。担当者は助言と指導を行い、論文の完成を補助します。 *卒業研究論文は日本語で作成しても構いません。この場合、350 語程度の英語の要約 (summary) を添付してもらいます。勿論、英語での作成が望ましいと思っています。</p> <p>【到達目標】「課題探求・解決能力」の集大成としての卒業研究論文を完成する。</p>			
(1)テキスト	(1)	随時プリント		
(2)参考文献	(2)	随時紹介		
授業スケジュール	第 1 回	オリエンテーション (卒業論文作成のスケジュール等の確認等)		
	第 2 回	個別指導：提出論文の添削・推敲 (1)		
	第 3 回	個別指導：提出論文の添削・推敲 (2)		
	第 4 回	個別指導：提出論文の添削・推敲 (3)		
	第 5 回	個別指導：提出論文の添削・推敲 (4)		
	第 6 回	個別指導：提出論文の添削・推敲 (5)		
	第 7 回	中間発表：進行状況の確認 (一部分の発表) とアドバイス		
	第 8 回	個別指導：提出論文の添削・推敲 (6)		
	第 9 回	個別指導：提出論文の添削・推敲 (7)		
	第 10 回	個別指導：提出論文の添削・推敲 (8)		
	第 11 回	個別指導：提出論文の添削・推敲 (9)		
	第 12 回	個別指導：提出論文の添削・推敲 (10)		
	第 13 回	英文サマリーの作成指導		
	第 14 回	提出前の最終指導 (レイアウト、目次、参考文献などの確認、英語での summary の確認)		
	第 15 回	プレゼンテーションのためのパワーポイント作成		
授業外学習(予習・復習)	論文を書き始めたら、担当者が指導・助言ができるように、毎回プリントの準備			
成績評価の方法	卒業研究論文の提出物 (60%)、授業への取り組み (30%)、プレゼンテーション (10%)			

授業科目	卒業研究	担当者	遠峯 伸一郎
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 2	授業外対応	講義終了時, 適宜 (要予約)
テーマ及び概要	<p>【テーマ】卒業研究の執筆を通し, 基礎演習 I, 英語学演習での研究成果をまとめる。</p> <p>【概要】基礎演習 I と英語学演習 I を通して研究した成果にもとづいて卒業研究を執筆する。</p> <p>【到達目標】卒業研究を完成させる。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) なし。</p> <p>(2) 浜田麻里ほか (1997) 『大学生と留学生のための論文ワークブック』, くろしお出版, 東京。その他随時紹介する。</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 ガイダンス 第 2 回 個別指導(1) 第 3 回 個別指導(2) 第 4 回 卒業研究テーマについての中間発表 第 5 回 個別指導(3) 第 6 回 個別指導(4) 第 7 回 先行研究と資料についての中間発表(1) 第 8 回 先行研究と資料についての中間発表(2) 第 9 回 個別指導(5) 第 10 回 個別指導(6) 第 11 回 考察についての中間発表 第 12 回 個別指導(7) 第 13 回 個別指導(8) 第 14 回 英文サマリーの作成 第 15 回 プレゼンテーション資料の作成</p>		
授業外学習(予習・復習)	予習 1 時間以上, 復習 5 時間以上必要である。		
成績評価の方法	授業への取り組み (10%) + 卒業研究 (90%)		

授業科目	卒業研究	担当者	石井 英里子
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 2	授業外対応	オフィスアワーおよび Google Classroom
テーマ及び概要	<p>【テーマ】異文化コミュニケーション, 英語教育学に関する研究の課題と方法</p> <p>【概要】異文化コミュニケーション, 英語教育学に関するテーマについて研究し, 卒業研究を完成させる。</p> <p>【到達目標】①他のゼミ生と協力して課題を遂行できる。②聞き手にわかりやすく英語で発表することができる。③先行研究や他者の研究を批判的に理解したり, 建設的な意見を述べたりすることができるようになる。④卒業研究を完成させる。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布する。</p> <p>(2) 適宜紹介する。</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 ゼミの進め方についてのガイダンス, 夏休みの報告, 卒業研究 first draft 提出 第 2 回 研究報告 1 第 3 回 研究報告 2 第 4 回 研究報告 3 第 5 回 研究報告 4 第 6 回 研究報告 5 第 7 回 研究報告 6 第 8 回 研究報告 7 第 9 回 研究報告 8, 卒業研究発表原稿 first draft 提出 第 10 回 卒業研究発表会の資料作成 1, 第 11 回 卒業研究発表会の資料作成 2 第 12 回 卒業研究発表の練習 1 第 13 回 卒業研究発表の練習 2 第 14 回 卒業研究発表の練習 3 第 15 回 まとめと全体討論</p>		
授業外学習(予習・復習)	予習が 3 時間以上, 復習が 3 時間以上必要である。		
成績評価の方法	卒業研究 40% 卒業研究発表 60% で評価する。		

授業科目	卒業研究		担当者	小林 朋子				
	[履修年次]	2年	授業外対応	適宜対応 (要予約)				
	[学期]	後期	[単位]	2	[必修/選択]	選択必修	[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】比較文学・比較文化</p> <p>【概要】自らテーマを選び比較文化演習で学んできた手法を活用して、卒業研究を行う。演習では受講者各々の卒業研究に關係のある資料を割り当てて発表してもらい、受講者全員で講評、討論をする。</p> <p>【到達目標】卒業研究につながる比較文学・比較文化の様々な研究方法を学び、卒業論文を完成する。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 崎村耕二著『英語論文によく使う表現』創元社、左記のほか各自の研究テーマに合わせて随時紹介します。</p>							
授業スケジュール	<p>第 1 回 オリエンテーション</p> <p>第 2 回 テーマの確認と指導</p> <p>第 3 回 研究論文執筆の指導：文献収集など</p> <p>第 4 回 研究論文執筆の指導：論文の構成 1</p> <p>第 5 回 研究論文執筆の指導：論文の構成 2</p> <p>第 6 回 研究論文執筆の指導：論文の構成 3</p> <p>第 7 回 中間発表 1</p> <p>第 8 回 研究論文執筆の指導：論文の書き方 1</p> <p>第 9 回 研究論文執筆の指導：論文の書き方 2</p> <p>第 10 回 研究論文執筆の指導：論文の書き方 3</p> <p>第 11 回 中間発表 2</p> <p>第 12 回 中間発表 3</p> <p>第 13 回 中間発表 4</p> <p>第 14 回 卒業研究発表について</p> <p>第 15 回 まとめ及び卒業研究発表の練習</p>							
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。							
成績評価の方法	授業への取組み態度 (30%)、卒業研究論文 (70%)							

授業科目	卒業研究		担当者	Jorge Garcia Arroyo (ガルシア・アロヨ ホルヘ)				
	[履修年次]	2年	授業外対応					
	[学期]	後期	[単位]	2	[必修/選択]	選択必修	[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】In this class students will acquire the necessary knowledge to conduct an academic research aimed at preparing their graduation paper. At the same time they will learn various techniques to present their paper.</p> <p>【概要】Firstly, students will be guided to find a research topic related to popular American literature or culture (we will also review those studied in the two previous seminars). Once they have chosen the topic, students will study (through examples and explanations in class) how an academic research related to the chosen topic is conducted. Finally they will practice the final presentation.</p> <p>【到達目標】To make the students able to write and present their graduation thesis.</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) All materials will be provided by the teacher</p> <p>(2)</p>							
授業スケジュール	<p>第 1 回 Introduction to the course.</p> <p>第 2 回 What is an academic research?</p> <p>第 3 回 Research topic guidance (1)</p> <p>第 4 回 Research topic guidance (2)</p> <p>第 5 回 How a research is conducted? (1)</p> <p>第 6 回 How a research is conducted? (2)</p> <p>第 7 回 Student research guidance (1)</p> <p>第 8 回 Student research guidance (2)</p> <p>第 9 回 Student research guidance (3)</p> <p>第 10 回 Student presentation guidance (1)</p> <p>第 11 回 Student presentation guidance (2)</p> <p>第 12 回 Student presentation guidance (3)</p> <p>第 13 回 Some hints on academic English. Preparation of presentation materials.</p> <p>第 14 回 Presentation (1)</p> <p>第 15 回 Presentation (2)</p>							
授業外学習(予習・復習)	適宜指示							
成績評価の方法	Class attendance (25%); in-class activities (30%); Final presentation (45%)							
実務経験について	I have already taught this class once.							

7 生活科学科共通科目

授業科目	生活科学概論	担当者	多田 司・浅海 真弓		
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 2	授業外対応	適宜対応		
		[必修/選択]	必修	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 生活を科学的視点で把握し、生活の諸課題を解決するための知識や力を身につける。</p> <p>【概要】 衣服・食・住まいの機能や将来の生活費、消費者問題など、毎回提示された課題について各自考えながら、生活全般についての理解を深める。また、現代の食生活や衣生活の現状と課題を把握し、その課題解決のために生活者としてできることは何か？についても考えていく。</p> <p>【到達目標】 生活者の視点から、様々な生活課題について科学的に考える力を養う。そして、解決に向けて主体的に行動し、豊かな生活を創造していくことを目標とする。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 山本直成, 浦上智子, 中根芳一共著『生活科学 (第6版)』オーム社 「生活する力を育てる」ための研究会編『人と生活』建帛社</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス — 生活を科学する? (第1回~第8回: 多田担当)</p> <p>第2回 食生活の科学1 — 自分の食生活を見直してみよう</p> <p>第3回 食生活の科学2 — 栄養の面から健康的な食生活を考える</p> <p>第4回 食生活の科学3 — 安全な食生活のあり方について</p> <p>第5回 食生活の科学4 — 食品添加物について考える</p> <p>第6回 生活環境の科学1 — 生活における科学技術の役割と弊害について</p> <p>第7回 生活環境の科学2 — 生活に及ぼす化学物質の影響について・その1</p> <p>第8回 生活環境の科学3 — 生活に及ぼす化学物質の影響について・その2</p> <p>第9回 衣生活の現状1 — 戦後の衣生活の変化を知り、現在の自分の衣生活について考える (第9回~第15回: 浅海担当)</p> <p>第10回 衣生活の現状2 — 衣服生産の背景を知り、衣服を作る人々の労働環境について考える</p> <p>第11回 住まいの機能 — 住む家がなくなったら困ることについて考える</p> <p>第12回 将来の生活を設計する1 — 25歳一人暮らしの生活費について考える (理想の生活パターンと改善)</p> <p>第13回 将来の生活を設計する2 — 25歳一人暮らしの生活費について考える (生活を維持するための手段や工夫)</p> <p>第14回 自立した消費者になるために — 消費者の権利と責任について考える</p> <p>第15回 持続可能な社会に向けて — SDGs やエシカル消費について考える</p>				
授業外学習(予習・復習)	適宜指示 (予習・復習用のプリント配布)				
成績評価の方法	<p>多田担当分 (50%) : レポート (40%) + 講義への取り組み状況 (10%)</p> <p>浅海担当分 (50%) : ワークシート・課題 (25%) + レポート (25%)</p>				

授業科目	生活経営学	担当者	坂上 ちえ子		
	[履修年次] 生活1年, 食栄2年 [学期] 後期 [単位] 2	授業外対応	適宜対応		
		[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 生活経営とは何かを含め、生活を営む上での諸問題を理解し、自立のための生活経営力の獲得を目指す。</p> <p>【概要】 自分と他者の関わりを捉えなおし、個人と家庭、社会をとりまく環境や問題を抽出し理解する。まず生活経営の基礎事項や最新情報を正確に把握する。それらを援用してライフステージごとの課題を各自整理しその解決方法を考える。</p> <p>【到達目標】 真の自立と共生のために必要なスキルやマネジメント力が身につくことを目指す。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 随時紹介</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション: 講義概要と進め方</p> <p>第2回 基礎事項1: 生活経営学と生活を考える</p> <p>第3回 基礎事項2: 家族と家庭を考える</p> <p>第4回 基礎事項3: 男女の役割を考える</p> <p>第5回 基礎事項4: 労働を考える</p> <p>第6回 基礎事項5: 経済と消費を考える①</p> <p>第7回 基礎事項6: 経済と消費を考える②</p> <p>第8回 基礎事項7: 家計を考える</p> <p>第9回 基礎事項8: 子どもと教育を考える</p> <p>第10回 基礎事項9: 高齢社会を考える</p> <p>第11回 応用事項1: 地域を考える</p> <p>第12回 応用事項2: 環境を考える</p> <p>第13回 応用事項3: 政治と社会を考える</p> <p>第14回 応用事項4: 自立を考える</p> <p>第15回 まとめ</p>				
授業外学習(予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	筆記試験 (70%) + 授業での活動内容 (30%)				

(注) 生活科学専攻は教職必修

授業科目	人間関係論	担当者	田中 真理
	〔履修年次〕 生活1年, 食栄2年 〔学期〕 前期 〔単位〕 2	授業外対応	適宜対応
		〔必修/選択〕	必修(生活)(注) 〔授業形態〕 講義 選択(食栄)
テーマ及び概要	<p>【テーマ】理論的な見地から人間関係を理解し、自分自身を取り巻く人間関係について振り返る。</p> <p>【概要】人間は人との関わりなくして生きていくことはできない。本講義では、家族関係を中心に人間関係やコミュニケーションに関する理論・概念を学ぶことで、理論的な枠組みから自己や周囲の人間関係について理解を深めていく。さらにワークやアクティビティ、コミュニケーション実習などの実習体験を通じた自己理解の深化を目指す。</p> <p>【到達目標】①人間関係に関する基礎知識を理解することができる。 ②実習体験を通じて、自分自身の対人関係やコミュニケーションの特徴について理解することができる。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 毎回プリントを配布する。</p> <p>(2) 平木典子著『家族の心理—家族への理解を深めるために 第2版』サイエンス社, 2019年 中釜洋子・野末武義他編著『家族心理学：家族システムの発達と臨床的援助. 第2版』有斐閣, 2019年 柏木恵子著『家族心理学—社会変動・発達・ジェンダーの視点』東京大学出版会, 2003年</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 人間関係に関する基礎知識：人間関係について</p> <p>第3回 人間関係に関する基礎知識：家族</p> <p>第4回 人間関係に関する基礎知識：思春期・青年期と家族</p> <p>第5回 人間関係に関する基礎知識：恋愛、結婚</p> <p>第6回 人間関係に関する基礎知識：子育て期の家族</p> <p>第7回 人間関係に関する基礎知識：中年期の家族</p> <p>第8回 人間関係に関する基礎知識：高齢期の家族</p> <p>第9回 人間関係に関する基礎知識：介護</p> <p>第10回 実習体験：対人態度</p> <p>第11回 実習体験：コミュニケーションワーク</p> <p>第12回 実習体験：自己開示</p> <p>第13回 実習体験：フィードバックによる自己理解</p> <p>第14回 実習体験：ふりかえり</p> <p>第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。		
成績評価の方法	期末レポート課題 (70%) + レポート課題 (20%) + 授業への参加度とリアクションペーパー (10%)		

(注) 生活科学専攻は教職必修

授業科目	社会福祉論	担当者	石踊 紳一郎
	〔履修年次〕 2年 〔学期〕 後期 〔単位〕 2単位	授業外対応	授業終了時
		〔必修/選択〕	選択(注) 〔授業形態〕 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】社会福祉とは何か?について、社会福祉の歴史的展開、法と行財政、ソーシャルワーク、地域ケアシステムなど、実践の中から総合的に理解する。</p> <p>【概要】1. 日本及びヨーロッパの社会福祉の歴史の変遷を学ぶ。 2. 社会福祉を形成する領域・体系の全体像を理解する。 3. 社会福祉のそれぞれの領域での実践活動を学ぶ。</p> <p>【到達目標】社会福祉の歴史、制度、政策を理解し、これからの社会福祉の方向性を探ることができる。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 「新社会福祉とはなにか 第3版」大久保秀子著 中央法規出版</p> <p>(2)</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 社会福祉は何かについて学ぶ。</p> <p>第2回 日本における社会福祉の歴史的展開について学ぶ。</p> <p>第3回 契約制度における福祉提供の現状について学ぶ。</p> <p>第4回 ヨーロッパ(イギリスを中心)における社会福祉の歴史的展開について学ぶ。</p> <p>第5回 ソーシャルワークについて理解する。</p> <p>第6回 生活保護制度について学ぶ。</p> <p>第7回 児童福祉と次世代育成の展開について学ぶ。</p> <p>第8回 障がい者の自立と福祉について学ぶ。</p> <p>第9回 高齢者福祉の歴史について学ぶ。</p> <p>第10回 介護保険制度について学ぶ。</p> <p>第11回 ケアマネジメントの実際について学ぶ。</p> <p>第12回 身体拘束廃止・虐待防止について学ぶ。</p> <p>第13回 認知症について理解する。</p> <p>第14回 地域福祉の展開と地域包括ケアシステムを理解する。</p> <p>第15回 これからの社会福祉を探る。</p>		
授業外学習(予習・復習)	予習では該当する箇所をテキストで確認する。復習は学んだ内容を資料等で読み直す。		
成績評価の方法	授業ごとの小論文40% レポート60%		
実務経験について	社会福祉法人理事長、高齢者福祉施設の施設長、非常勤講師(大学)		

(注) 栄養士選択必修

8 食物栄養専攻専門科目

授業科目	食品学Ⅰ		担当者	広瀬 直人
	[履修年次] 1年	[学期] 前期	授業外対応	授業終了後
	[単位] 2	[必修/選択]	必修	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】食品成分の特性や機能，健康の維持を助ける保健機能食品について学習する。</p> <p>【概要】食品の三つの機能「栄養面での一次機能（栄養機能），嗜好面での二次機能（感覚機能），病気予防面での三次機能（生体調節機能）」を中心に，食品の構成成分や役割，および食品機能について解説する。</p> <p>【到達目標】食品の分類と機能，および保健機能食品について理解する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 太田英明・北畠直文・白土英樹編『食べ物と健康 食品の科学 改訂第2版』南江堂</p> <p>(2) 適宜紹介する。</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 人間と食品</p> <p>第2回 食品の一次機能：水分</p> <p>第3回 食品の一次機能：たんぱく質とアミノ酸</p> <p>第4回 食品の一次機能：酵素</p> <p>第5回 食品の一次機能：炭水化物</p> <p>第6回 食品の一次機能：脂質</p> <p>第7回 食品の一次機能：脂溶性ビタミン</p> <p>第8回 食品の一次機能：水溶性ビタミン</p> <p>第9回 食品の一次機能：ミネラル</p> <p>第10回 食品の二次機能：色素成分</p> <p>第11回 食品の二次機能：呈味成分</p> <p>第12回 食品の二次機能：におい成分</p> <p>第13回 食品の三次機能：機能性と保健機能食品</p> <p>第14回 食品の種類と分類</p> <p>第15回 食品成分表</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	期末試験 70%，授業への取り組み・参加状況 30%			
実務経験について	食品会社および公設試験研究機関において研究職に従事			

(注) 栄養士必修，教職必修

授業科目	食品学Ⅱ		担当者	広瀬 直人
	[履修年次] 1年	[学期] 後期	授業外対応	授業終了後
	[単位] 2	[必修/選択]	必修	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】食品の種類と成分，およびそれら食品成分の三つの機能について学ぶとともに，食品の加工利用に対する考え方を理解する。</p> <p>【概要】植物性食品，動物性食品，油脂，調味料，香辛料，嗜好性飲料などについて，その成分や特性および機能性を解説する。</p> <p>【到達目標】食品の分類と成分，および機能性について理解する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 太田英明・北畠直文・白土英樹編『食べ物と健康 食品の科学 改訂第2版』南江堂</p> <p>(2) 適宜紹介する。</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 植物性食品：穀類</p> <p>第2回 植物性食品：穀類の利用</p> <p>第3回 植物性食品：いも類</p> <p>第4回 植物性食品：豆類</p> <p>第5回 植物性食品：種実類</p> <p>第6回 植物性食品：野菜類</p> <p>第7回 植物性食品：野菜類の利用</p> <p>第8回 植物性食品：果実類</p> <p>第9回 植物性食品：きのこ類，藻類</p> <p>第10回 動物性食品：食肉類</p> <p>第11回 動物性食品：魚介類</p> <p>第12回 動物性食品：乳類</p> <p>第13回 動物性食品：卵類</p> <p>第14回 油脂，調味料</p> <p>第15回 香辛料，嗜好性飲料</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	期末試験 70%，授業への取り組み・参加状況 30%			
実務経験について	食品会社および公設試験研究機関において研究職に従事			

(注) 栄養士必修，教職必修

授業科目	食品学実験		担当者	広瀬 直人	
	[履修年次]	1年	授業外対応	授業終了後	
	[学期]	前期	[単位]	1	
		[必修/選択]	選択 (注)	[授業形態]	実験
テーマ及び概要	<p>【テーマ】食品に含まれる成分などを分析するための各種実験器具の取り扱いや基礎的な分析方法について学ぶ。</p> <p>【概要】実験器具の取り扱い方や基礎的な化学実験の方法と食品学的実験への応用法について解説する。</p> <p>【到達目標】各種実験器具の取り扱い方や食品成分の基礎的な分析方法について理解する。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 青柳康夫・有田政信編『食品学実験』建帛社のほか、適宜紹介する。</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 食品学実験の基礎 (実験器具や試薬類の取り扱い方法)</p> <p>第2回 溶液の濃度計算1 (溶液の調製法)</p> <p>第3回 溶液の濃度計算2 (溶液の希釈法)</p> <p>第4回 溶液の濃度計算3 (微濃度溶液の調製法)</p> <p>第5回 酸溶液の濃度の調整 (酸の濃度とpHの関連)</p> <p>第6回 アルカリ溶液の調製 (アルカリ水和物溶液の調製とpH)</p> <p>第7回 タンパク質の検出 (ビウレット法による定性法)</p> <p>第8回 タンパク質の定量 (ビウレット法による定量法)</p> <p>第9回 アミノ酸の検出 (ニンヒドリン法による定性法)</p> <p>第10回 アミノ酸の同定 (薄層クロマトグラフィーによる同定)</p> <p>第11回 糖酸度の測定 (ポケット糖酸度計による測定法)</p> <p>第12回 食品の酵素的褐変 (りんごの酵素的褐変とその防止法)</p> <p>第13回 食品に含まれる糖類の分析</p> <p>第14回 食品に含まれる色素の分析</p> <p>第15回 食品学実験の総括 (実験器具類の整理と保管)</p>				
授業外学習(予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	実験レポート70%, 授業への取り組み・参加状況30%				
実務経験について	食品会社および公設試験研究機関において研究職に従事				

(注) 栄養士必修, 教職必修

授業科目	食品衛生学		担当者	広瀬 直人	
	[履修年次]	1年	授業外対応	授業終了後	
	[学期]	前期	[単位]	2	
		[必修/選択]	選択 (注)	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】食品の安全について、その問題点と予防策について学び、衛生観念を身に付ける。</p> <p>【概要】食中毒や食品汚染と流通の発達に伴う加工食品や多種多様な食品添加物の実態に目を向け、安心・安全な食生活を送るための方策を考える。</p> <p>【到達目標】食品の安全性と食中毒の予防法や衛生管理法を習得する。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 西瀬弘・桧垣俊介・和島孝浩著『食品衛生学』化学同人</p> <p>(2)</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 食品衛生と法規</p> <p>第2回 食品の変質 (発酵と腐敗)</p> <p>第3回 食品の変質 (腐敗の判定 微生物による成分変化)</p> <p>第4回 食品の変質 (化学的変質 鮮度の判定 変質の防止)</p> <p>第5回 食中毒 (細菌性食中毒 腸炎ビブリオ 他)</p> <p>第6回 食中毒 (細菌性食中毒 ブドウ球菌 他)</p> <p>第7回 食中毒 (細菌性食中毒 ボツリヌス菌 他)</p> <p>第8回 食中毒 (自然毒 食中毒予防 他)</p> <p>第9回 経口感染症・寄生虫症</p> <p>第10回 食品中の汚染・有害物質 (カビ毒 他)</p> <p>第11回 食品中の汚染・有害物質 (化学物質 内分泌かく乱物質 他)</p> <p>第12回 食品中の汚染・有害物質 (食物アレルギー 他)</p> <p>第13回 食品添加物</p> <p>第14回 食品の衛生管理 (HACCP 他)</p> <p>第15回 食品の安全性 (遺伝子組み換え 放射線 農薬 他)</p>				
授業外学習(予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	期末試験70%, 授業への取り組み・参加状況30%				
実務経験について	食品会社および公設試験研究機関において研究職に従事				

(注) 栄養士必修, 教職必修

授業科目	食品衛生学実験	担当者	広瀬 直人
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1	授業外対応	授業終了後
		[必修/選択]	選択 (注) [授業形態] 実験
テーマ及び概要	<p>【テーマ】食品衛生や微生物に関する実験器具の取り扱いや基礎的な方法について学ぶ。</p> <p>【概要】食品衛生検査の技術的な手法として、検査器具類の適切な使用法、理化学試験、食品添加物試験、微生物試験、衛生管理手法等について実習する。</p> <p>【到達目標】食品衛生検査に使用される種々の検査方法を習得し、食品の安全で安定な維持管理法について理解する。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 一戸正勝ら編著『図解 食品衛生学実験 第3版』講談社のほか、適宜紹介する。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 食品衛生学実験の基礎 (実験器具や試薬類の取り扱い方法)</p> <p>第2回 理化学試験 (飲料水の水質検査 アンモニア性窒素の検出)</p> <p>第3回 理化学試験 (容器のホルムアルデヒドの溶出試験)</p> <p>第4回 理化学試験 (魚肉中のヒスタミンの検出)</p> <p>第5回 食品添加物試験 (発色剤 亜硝酸ナトリウムの検出1)</p> <p>第6回 食品添加物試験 (発色剤 亜硝酸ナトリウムの検出2)</p> <p>第7回 食品添加物試験 (着色料 酸性タール色素の検出)</p> <p>第8回 微生物試験 (培地の調製法と画線分離1)</p> <p>第9回 微生物試験 (培地の調製法と画線分離2)</p> <p>第10回 微生物試験 (細菌の分離と染色法)</p> <p>第11回 微生物試験 (食品の細菌検査1)</p> <p>第12回 微生物試験 (食品の細菌検査2)</p> <p>第13回 衛生管理手法 (微生物の簡易検査1)</p> <p>第14回 衛生管理手法 (微生物の簡易検査2)</p> <p>第15回 食品衛生学実験の総括 (実験器具類の整理と保管)</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	実験レポート70%、授業への取り組み・参加状況30%		
実務経験について	食品会社および公設試験研究機関において研究職に従事		

(注) 栄養士必修, 教職必修

授業科目	食品加工学	担当者	広瀬 直人
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 2	授業外対応	授業終了後
		[必修/選択]	選択 [授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】食品加工の目的や原理を理解すると共に、食品素材毎の加工技術の多様性について学ぶ。</p> <p>【概要】食品の貯蔵法や加工法の基礎的な技術、それらの技術を利用して生産される農畜産ならびに水産加工製品、発酵食品、調味料、嗜好食品、インスタント食品、油脂食品について解説する。</p> <p>【到達目標】食品加工の目的と意義について理解する。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1)</p> <p>(2) 太田英明ら著『イラスト 食品加工・食品機能実験 第2版』東京教学社のほか、適宜紹介する。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 食品保蔵技術 (水分と水分活性 他)</p> <p>第2回 食品保蔵技術 (低温保存 殺菌 他)</p> <p>第3回 食品保蔵技術 (CA貯蔵 他)</p> <p>第4回 食品加工技術 (物理的操作, 化学的操作, 生物的操作)</p> <p>第5回 食品加工技術 (バイオテクノロジー)</p> <p>第6回 食品加工と成分変化 (成分間反応, 褐変, 酸化 他)</p> <p>第7回 食品添加物と加工食品の安全性確保 (食品添加物の目的と種類)</p> <p>第8回 保健機能食品と特別用途食品 (保健機能食品の種類)</p> <p>第9回 食品の表示と規格 (品質表示, 栄養成分表示, 遺伝子組換え表示, アレルギー表示, 食品の規格)</p> <p>第10回 加工食品の実習 (うどんの作成)</p> <p>第11回 加工食品の実習 (豆腐の作成)</p> <p>第12回 加工食品の実習 (ヨーグルトの作成1)</p> <p>第13回 加工食品の実習 (ヨーグルトの作成2)</p> <p>第14回 加工食品の実習 (ジャムの作成)</p> <p>第15回 加工食品の実習 (パンの作成)</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	期末試験70%、授業への取り組み・参加状況30%		
実務経験について	食品会社および公設試験研究機関において研究職に従事		

授業科目	調理学		担当者	山下三香子																																																	
	[履修年次]	1年	授業外対応	適宜対応 (要予約)																																																	
	[学期]	前期	[単位]	2単位	[必修/選択]	必修 (注)	[授業形態]	講義																																													
テーマ及び概要	<p>【テーマ】食品の調理過程における科学的現象</p> <p>【概要】調理の基礎から応用までの調理を具体的に調理操作や調理条件が及ぼす食品の特性を科学的に学ぶ。</p> <p>【到達目標】嗜好を満足させながらも、健康を維持することができ、おいしく調理でき、また、調理により適した食物選択ができる。</p>																																																				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) はじめて学ぶ『調理学』化学同人</p> <p>(2) 香川芳子監修『八訂日本食品成分表』・『調理のためのベーシックデータ』女子栄養大学出版社、山崎清子ら共著『NEW 調理と理論』 同文書院</p>																																																				
授業スケジュール	<table border="0"> <tr><td>第 1 回</td><td>調理学の意義と目的</td><td>調理実習 I に準じながら</td></tr> <tr><td>第 2 回</td><td>食べ物のおいしさ</td><td>〃</td></tr> <tr><td>第 3 回</td><td>調理操作と調理機器</td><td>〃</td></tr> <tr><td>第 4 回</td><td>植物性食品 1 の調理科学</td><td>〃</td></tr> <tr><td>第 5 回</td><td>植物性食品 2 の調理科学</td><td>〃</td></tr> <tr><td>第 6 回</td><td>調味料・香辛料の調理科学</td><td>〃</td></tr> <tr><td>第 7 回</td><td>ゲル化剤・とろみ剤の調理科学</td><td>〃</td></tr> <tr><td>第 8 回</td><td>植物性食品 3～5 の調理科学</td><td>〃</td></tr> <tr><td>第 9 回</td><td>植物性食品 6～8 の調理科学</td><td>〃</td></tr> <tr><td>第 10 回</td><td>油脂類の調理科学</td><td>〃</td></tr> <tr><td>第 11 回</td><td>動物性食品 1 の調理科学</td><td>〃</td></tr> <tr><td>第 12 回</td><td>〃 2 の調理科学</td><td>〃</td></tr> <tr><td>第 13 回</td><td>〃 3 の調理科学</td><td>〃</td></tr> <tr><td>第 14 回</td><td>〃 4 の調理科学</td><td>〃</td></tr> <tr><td>第 15 回</td><td>まとめ</td><td></td></tr> </table>								第 1 回	調理学の意義と目的	調理実習 I に準じながら	第 2 回	食べ物のおいしさ	〃	第 3 回	調理操作と調理機器	〃	第 4 回	植物性食品 1 の調理科学	〃	第 5 回	植物性食品 2 の調理科学	〃	第 6 回	調味料・香辛料の調理科学	〃	第 7 回	ゲル化剤・とろみ剤の調理科学	〃	第 8 回	植物性食品 3～5 の調理科学	〃	第 9 回	植物性食品 6～8 の調理科学	〃	第 10 回	油脂類の調理科学	〃	第 11 回	動物性食品 1 の調理科学	〃	第 12 回	〃 2 の調理科学	〃	第 13 回	〃 3 の調理科学	〃	第 14 回	〃 4 の調理科学	〃	第 15 回	まとめ	
第 1 回	調理学の意義と目的	調理実習 I に準じながら																																																			
第 2 回	食べ物のおいしさ	〃																																																			
第 3 回	調理操作と調理機器	〃																																																			
第 4 回	植物性食品 1 の調理科学	〃																																																			
第 5 回	植物性食品 2 の調理科学	〃																																																			
第 6 回	調味料・香辛料の調理科学	〃																																																			
第 7 回	ゲル化剤・とろみ剤の調理科学	〃																																																			
第 8 回	植物性食品 3～5 の調理科学	〃																																																			
第 9 回	植物性食品 6～8 の調理科学	〃																																																			
第 10 回	油脂類の調理科学	〃																																																			
第 11 回	動物性食品 1 の調理科学	〃																																																			
第 12 回	〃 2 の調理科学	〃																																																			
第 13 回	〃 3 の調理科学	〃																																																			
第 14 回	〃 4 の調理科学	〃																																																			
第 15 回	まとめ																																																				
授業外学習(予習・復習)	授業のノートを作成しまとめる。																																																				
成績評価の方法	筆記試験 (60%)・授業態度及び出席・小テスト・ノート (40%)																																																				
実務経験について	病院、高齢者施設等で施設側の管理栄養士として勤務																																																				

(注) 栄養士必修, 教職必修

授業科目	調理学実習 I		担当者	山下三香子																																		
	[履修年次]	1年	授業外対応	適宜対応 (要予約)																																		
	[学期]	前期	[単位]	1単位	[必修/選択]	選択 (注)	[授業形態]	実習																														
テーマ及び概要	<p>【テーマ】食品の特徴を生かす調理法と基礎的調理技術</p> <p>【概要】一食の献立として学習できるよう、様々な食品の利用法、料理の歴史・文化的特徴を、食事のマナーや常識を踏まえ、和洋中その他諸外国の基礎的な料理を網羅しながら基本的な調理技術を習得できるようなカリキュラム</p> <p>【到達目標】調理の仕方、考え方を確立させ、器具や食品の扱いを含め、栄養学的に望ましい食事作りができる力を養う。</p>																																					
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 『調理実習ノート』女子栄養大学出版社</p> <p>(2) 香川芳子監修『八訂日本食品成分表』女子栄養大学出版社</p>																																					
授業スケジュール	<table border="0"> <tr><td>第 1 回</td><td>調理機器の使い方、調味の割合、</td></tr> <tr><td>第 2 回</td><td>和食喫食法：炊飯、鰹と昆布のだしの取り方と利用法、魚の焼き物、即席漬物</td></tr> <tr><td>第 3 回</td><td>日本料理：煮干だし、魚の煮付け、お浸し (下洗い)、上新粉の扱い</td></tr> <tr><td>第 4 回</td><td>西洋風朝食：卵の扱い、トマトの湯剥き、洋風スープ (鶏がらの扱い)、パンケーキ</td></tr> <tr><td>第 5 回</td><td>中華喫食法：中華の鶏がらスープ、中華素材と器具の扱い、寒天の扱い、(大量調理)</td></tr> <tr><td>第 6 回</td><td>日本料理：炊きおこわ、炒め煮、乱切り、あく抜き、わらび粉</td></tr> <tr><td>第 7 回</td><td>冷凍食品</td></tr> <tr><td>第 8 回</td><td>洋食喫食法：洋風炊き込み、たまねぎの扱い、冷製魚の扱い、ラビゴット (ヴィネグレット) ソース、ゼラチンの扱い</td></tr> <tr><td>第 9 回</td><td>中華料理：コーンスープ、春巻き、えびの扱い、油通し、タピオカ・ココナツの扱い</td></tr> <tr><td>第 10 回</td><td>日本料理：ソーメン、焼魚 (器具と化粧塩、鮎の食べ方)、いり豆腐、和え物、水ようかん</td></tr> <tr><td>第 11 回</td><td>西洋料理：冷製スープ、果物のサラダ、ひき肉の扱い、カスタードプリン</td></tr> <tr><td>第 12 回</td><td>中華料理：中華麺の扱い、焼売、香辛料、中華風の漬物、白玉粉の扱い</td></tr> <tr><td>第 13 回</td><td>西洋料理：コンソメスープ、ドライカレー、ポテトサラダ(マヨネーズ作り)、レア・チーズケーキ</td></tr> <tr><td>第 14 回</td><td>お盆料理：かいのこ汁、落花生豆腐、にがごりの扱い、白和え、ふくれ菓子</td></tr> <tr><td>第 15 回</td><td>和食の朝食 レシピを作る (朝食定番おかず) 調理技術復習</td></tr> </table>								第 1 回	調理機器の使い方、調味の割合、	第 2 回	和食喫食法：炊飯、鰹と昆布のだしの取り方と利用法、魚の焼き物、即席漬物	第 3 回	日本料理：煮干だし、魚の煮付け、お浸し (下洗い)、上新粉の扱い	第 4 回	西洋風朝食：卵の扱い、トマトの湯剥き、洋風スープ (鶏がらの扱い)、パンケーキ	第 5 回	中華喫食法：中華の鶏がらスープ、中華素材と器具の扱い、寒天の扱い、(大量調理)	第 6 回	日本料理：炊きおこわ、炒め煮、乱切り、あく抜き、わらび粉	第 7 回	冷凍食品	第 8 回	洋食喫食法：洋風炊き込み、たまねぎの扱い、冷製魚の扱い、ラビゴット (ヴィネグレット) ソース、ゼラチンの扱い	第 9 回	中華料理：コーンスープ、春巻き、えびの扱い、油通し、タピオカ・ココナツの扱い	第 10 回	日本料理：ソーメン、焼魚 (器具と化粧塩、鮎の食べ方)、いり豆腐、和え物、水ようかん	第 11 回	西洋料理：冷製スープ、果物のサラダ、ひき肉の扱い、カスタードプリン	第 12 回	中華料理：中華麺の扱い、焼売、香辛料、中華風の漬物、白玉粉の扱い	第 13 回	西洋料理：コンソメスープ、ドライカレー、ポテトサラダ(マヨネーズ作り)、レア・チーズケーキ	第 14 回	お盆料理：かいのこ汁、落花生豆腐、にがごりの扱い、白和え、ふくれ菓子	第 15 回	和食の朝食 レシピを作る (朝食定番おかず) 調理技術復習
第 1 回	調理機器の使い方、調味の割合、																																					
第 2 回	和食喫食法：炊飯、鰹と昆布のだしの取り方と利用法、魚の焼き物、即席漬物																																					
第 3 回	日本料理：煮干だし、魚の煮付け、お浸し (下洗い)、上新粉の扱い																																					
第 4 回	西洋風朝食：卵の扱い、トマトの湯剥き、洋風スープ (鶏がらの扱い)、パンケーキ																																					
第 5 回	中華喫食法：中華の鶏がらスープ、中華素材と器具の扱い、寒天の扱い、(大量調理)																																					
第 6 回	日本料理：炊きおこわ、炒め煮、乱切り、あく抜き、わらび粉																																					
第 7 回	冷凍食品																																					
第 8 回	洋食喫食法：洋風炊き込み、たまねぎの扱い、冷製魚の扱い、ラビゴット (ヴィネグレット) ソース、ゼラチンの扱い																																					
第 9 回	中華料理：コーンスープ、春巻き、えびの扱い、油通し、タピオカ・ココナツの扱い																																					
第 10 回	日本料理：ソーメン、焼魚 (器具と化粧塩、鮎の食べ方)、いり豆腐、和え物、水ようかん																																					
第 11 回	西洋料理：冷製スープ、果物のサラダ、ひき肉の扱い、カスタードプリン																																					
第 12 回	中華料理：中華麺の扱い、焼売、香辛料、中華風の漬物、白玉粉の扱い																																					
第 13 回	西洋料理：コンソメスープ、ドライカレー、ポテトサラダ(マヨネーズ作り)、レア・チーズケーキ																																					
第 14 回	お盆料理：かいのこ汁、落花生豆腐、にがごりの扱い、白和え、ふくれ菓子																																					
第 15 回	和食の朝食 レシピを作る (朝食定番おかず) 調理技術復習																																					
授業外学習(予習・復習)	実習予習のためプリント配布、実習内容を実習ノートにまとめ、実習に関する事項を調べる。																																					
成績評価の方法	調理技術試験 40%、調理実習ノート 30%、実習態度及び出席 30%																																					
実務経験について	病院、高齢者施設等で施設側の管理栄養士として勤務																																					

(注) 栄養士必修, 教職必修

授業科目	調理学実習Ⅱ		担当者	山下三香子	
	〔履修年次〕	1年	授業外対応	適宜対応(要予約)	
	〔学期〕	後期	〔単位〕	1単位	
		〔必修/選択〕	選択(注)	〔授業形態〕	実習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】調理学実習Ⅰの基礎的調理技術の応用</p> <p>【概要】和食、洋食、中華料理を交互に、個人の食事はもちろん給食施設における食事作りへの応用を考慮したカリキュラム</p> <p>【到達目標】献立作成、衛生観念を身につけ、給食への応用ができる力を養う。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 『調理実習ノート』女子栄養大学出版部</p> <p>(2) 香川芳子監修『八訂日本食品成分表』女子栄養大学出版部</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 夏のお盆料理の報告</p> <p>第2回 日本料理：栗の扱い、さんまの扱い、茶碗蒸し、なます、十五夜団子</p> <p>第3回 中華料理：八宝菜、いかの扱い(花いか)、くらげの扱い、中国粥、さつま芋のあめがらめ、点心について</p> <p>第4回 日本料理：行楽弁当(いなり、出し巻き卵、きじ焼き、酢蓮根、高野豆腐の含め煮)、土瓶蒸し、小倉ケーキ</p> <p>第5回 スチームコンベクション料理：から揚げ(ドライモード)、焼きそば(コンビ)、温野菜・プリン(スチーム)、</p> <p>第6回 献立応用家庭料理かみかみメニュー</p> <p>第7回 日本料理：さつますもじ(ちらし寿司)、青のりの汁、芋のそぼろあんかけ、抹茶饅頭</p> <p>第8回 中国の行事食：春節の意味と代表料理、中華饅頭</p> <p>第9回 日本料理お魚講習：霜降りの方法と役目、刺身、かつら剥き魚の三枚おろし、魚のだし</p> <p>第10回 正月料理：おせち料理の意味と重箱の詰め方、雑煮、飾り切り</p> <p>第11回 クリスマス料理、ビーフストロガノフ(ブラウンソース)、ブッシュドノエル</p> <p>第12回 パンとスープ</p> <p>第13回 給食のための献立作成と調理(大量調理への応用)</p> <p>第14回 まとめ</p>				
授業外学習(予習・復習)	実習予習のためプリント配布、実習内容を実習ノートにまとめ、実習に関する事項を調べる。担当した料理の栄養価計算をする。				
成績評価の方法	調理技術試験 40%、調理実習ノート 30%、実習態度及び出席 30%				
実務経験について	病院、高齢者施設等で施設側の管理栄養士として勤務				

(注) 栄養士必修、教職必修

授業科目	調理学実習Ⅲ		担当者	山下三香子	
	〔履修年次〕	2年	授業外対応	適宜対応(要予約)	
	〔学期〕	後期	〔単位〕	1単位	
		〔必修/選択〕	選択(注)	〔授業形態〕	実習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】調理学実習Ⅱの調理技術の応用から上級レベル</p> <p>【概要】和食、洋食、中華料理の給食施設における食事作りへの応用を考慮し、食材の持つ特徴(糊化作用、凝固作用、膨張作用など)を十分活かした調理実習カリキュラム</p> <p>【到達目標】おいしく調理するための科学的根拠を実践的に理解できる力を養う</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 『調理実習ノート』女子栄養大学出版部</p> <p>(2) 香川芳子監修『八訂日本食品成分表』女子栄養大学出版部</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 郷土料理(芋ご飯、さつま揚げ、さつま汁、なまぶしの酢の物、かるかん)</p> <p>第2回 季節の和食・応用(五目炊き込み、ブリ大根、モズク酢)</p> <p>第3回 手作り餃子と中華メニュー</p> <p>第4回 季節の郷土料理と和食(豚骨、色なます、のっぺい汁)</p> <p>第5回 奄美の郷土料理(豚骨、鶏飯、がね、ぬた)</p> <p>第6回 西洋料理の応用：グラタン(ホワイトソースの活用)、ミネストローネ、シフォンケーキ等諸外国の調理</p> <p>第7回 自作の献立作成から調理技術への完成</p> <p>第8回 自作の献立作成から調理技術への完成</p> <p>第9回 正月料理：鹿児島のおせち料理、茶懐石料理大量調理の応用(真空料理、クックチル) 仕込み</p> <p>第10回 本調理</p> <p>第11回 クリスマス(ローストチキン、クラムチャウダー、パン・クッキー)</p> <p>第12回 クリスマスのショートケーキ</p> <p>第13回 災害食、おいしいお茶の入れ方</p> <p>第14回 市場見学、まとめ</p> <p>第15回 テーブルマナー(和・洋食)</p>				
授業外学習(予習・復習)	実習予習のためプリント配布、実習内容を実習ノートにまとめ、実習に関する事項を調べる。担当した料理の栄養価計算をする。				
成績評価の方法	調理技術試験 40%、調理実習ノート 30%、実習態度及び出席 30%				
実務経験について	病院、高齢者施設等で施設側の管理栄養士として勤務				

(注) 栄養士必修、教職必修

授業科目	栄養学総論		担当者	多田 司
	[履修年次]	1年	授業外対応	適宜対応
	[学期]	前期	[単位]	2
			[必修/選択]	必修
			[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】栄養とは何か、その意義について理解する。</p> <p>【概要】栄養の概念についての理解から始まり、日本における食の変遷や食生活の実態を学習する。次に摂食行動や消化・吸収の概念を理解し、その上で栄養素であるタンパク質・糖質・脂質・ビタミン・ミネラルや水・電解質などの栄養学的機能や消化・吸収・代謝について学習し、理解を深める。</p> <p>【到達目標】栄養士養成教育において栄養学は重要な基幹科目であり、栄養学総論は後に学ぶ栄養学各論や臨床栄養学の基礎となる科目とである。これらのことを念頭に、さまざまな栄養素の摂取、消化、吸収、代謝に関する幅広い分野について学習し、理解することで、その成果を個人および集団の健康維持・増進や疾病予防の活用に発展させることができるようにすることを目標とする。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 木戸康博・桑波田雅士・中坊幸弘編、『栄養科学シリーズNEXT 基礎栄養学』、講談社</p> <p>(2) 講義の際に適宜紹介する。</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 栄養の概念：栄養の意義と栄養学の目的</p> <p>第2回 食物の摂取：わが国の栄養と健康状態の推移、食事摂取基準について</p> <p>第3回 消化・吸収と栄養1：消化器系の構造と機能や消化酵素について</p> <p>第4回 消化・吸収と栄養2：栄養素の体内動態について</p> <p>第5回 糖質の栄養1：糖質の概要・分類について</p> <p>第6回 糖質の栄養2：体内代謝や血糖調節について</p> <p>第7回 脂質の栄養1：脂質の種類と働き、臓器間輸送について</p> <p>第8回 脂質の栄養2：貯蔵エネルギーとしての作用やコレステロール代謝、生理活性物質について</p> <p>第9回 タンパク質の栄養1：タンパク質・アミノ酸の構造・機能と体内動態について</p> <p>第10回 タンパク質の栄養2：摂取する量と質の評価や他の栄養素との関係について</p> <p>第11回 エネルギー代謝：エネルギー代謝の概念について</p> <p>第12回 ミネラルの栄養：ミネラルの分類と栄養学的機能について</p> <p>第13回 ビタミンの栄養1：脂溶性ビタミンについて</p> <p>第14回 ビタミンの栄養2：水溶性ビタミンについて</p> <p>第15回 水・電解質の栄養的意義：水の出納や電解質の代謝について</p>			
授業外学習(予習・復習)	復習を重視するが、教科書による予習に取り組んで講義を受けることが望ましい。			
成績評価の方法	期末試験(70%) + 小テスト(30%)により評価する。			

(注) 栄養士必修、教職必修

授業科目	栄養学各論		担当者	有村 恵美
	[履修年次]	2年	授業外対応	適宜対応(要予約)
	[学期]	前期	[単位]	2
			[必修/選択]	選択(注)
			[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】ライフステージ別の特性と栄養管理</p> <p>【概要】妊娠期、授乳期、乳児期、幼児期、学童期、思春期、成人・更年期、高齢期など各ライフステージ別の身体的・精神的特徴や変化について学び、栄養評価法、栄養摂取法、疾患との関連等について学ぶ。</p> <p>【到達目標】妊娠期、授乳期、乳児期、幼児期、学童期、思春期、成人・更年期、高齢期など各ライフステージ別の個人の身体状況や栄養状態に応じた栄養管理の実践について理解する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 奥田あかりほか『応用栄養学』(化学同人)</p> <p>伊藤貞嘉、佐々木敏監修『日本人の食事摂取基準 2020年版』(第一出版)</p> <p>香川明夫監修『八訂食品成分表』(女子栄養大学出版社)</p> <p>内田和宏ほか『ライフステージ実習栄養学』(医歯薬出版株式会社)</p> <p>(2)</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 食事摂取基準(概要)</p> <p>第2回 食事摂取基準(活用・実践)</p> <p>第3回 乳児期の栄養(特性・疾患)</p> <p>第4回 乳児期の栄養(栄養補給法)</p> <p>第5回 幼児期の栄養(特性・疾患)</p> <p>第6回 幼児期の栄養(栄養ケア)</p> <p>第7回 学童期の栄養(特性・食事摂取基準)</p> <p>第8回 高齢期の栄養(特性・疾患)</p> <p>第9回 献立作成演習(食事摂取基準と調理方法)</p> <p>第10回 思春期の栄養(特性・疾患)</p> <p>第11回 妊娠期の栄養(特性・栄養と病態)</p> <p>第12回 授乳期の栄養(特性・栄養ケア)</p> <p>第13回 成人・更年期の栄養(特性・疾患)</p> <p>第14回 成人・更年期の栄養(生活習慣病)</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	筆記試験(60%)、課題・小テスト・授業への取り組み・参加状況(40%)により評価する。			
実務経験について	病院で管理栄養士として勤務、病態栄養専門管理栄養士、糖尿病病態栄養専門管理栄養士			

(注) 栄養士必修、教職必修

授業科目	栄養学実習	担当者	有村 恵美
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1	授業外対応	適宜対応 (要予約)
		[必修/選択]	選択 (注) [授業形態] 実習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】ライフステージ別の健康と疾病予防, 臨床を対象とした栄養学の実践から応用</p> <p>【概要】各ライフステージ (妊娠期, 授乳期, 乳児期, 幼児期, 学童期, 思春期, 成人・更年期, 高齢期など) 別の健康保持・疾病予防のための食事, 各治療食 (形態別治療食・エネルギー調整食・食塩制限食・脂質調整食・たんぱく質調整食・カリウム制限食など) を理解し, 調理, 供食までを実際に行う (全実習)。</p> <p>【到達目標】各ライフステージ別の食形態, 疾患別の栄養・食事療法を具体的に食品・献立レベルで把握し, 実践できる力を養う。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 内田和宏ほか『ライフステージ実習栄養学』(医歯薬出版株式会社) 玉川和子ほか『臨床栄養学実習書』(医歯薬出版株式会社)</p> <p>(2) 日本病態栄養学会『病態栄養ガイドブック』(南江堂) 香川明夫監修『八訂食品成分表』(女子栄養大学出版社)</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 乳児期 (乳児期栄養の実際)</p> <p>第 2 回 離乳期 (離乳食の進め方の目安・実際)</p> <p>第 3 回 幼児期・学童期 (幼児期・学童期栄養の実際)</p> <p>第 4 回 実施献立 (献立作成, 調理方法)</p> <p>第 5 回 幼児期・学童期 (食物アレルギー食)</p> <p>第 6 回 高齢期 (高齢期栄養の実際)</p> <p>第 7 回 一般食治療食 (形態別治療食)</p> <p>第 8 回 特別治療食 (エネルギー調整食)</p> <p>第 9 回 特別治療食 (脂質調整食)</p> <p>第 10 回 特別治療食 (食塩制限食)</p> <p>第 11 回 特別治療食 (たんぱく質調整食)</p> <p>第 12 回 特別治療食 (糖尿病食)</p> <p>第 13 回 特別治療食 (腎臓病食)</p> <p>第 14 回 実施献立 (献立作成, 調理方法)</p> <p>第 15 回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	実習内容を実習ノートにまとめ,実習に関する事項を調べる。担当した料理の栄養価計算をする。		
成績評価の方法	実技試験 (40%), 実習ノート (30%), 実習への取り組み・参加状況 (30%) により評価する。		
実務経験について	病院で管理栄養士として勤務, 病態栄養専門管理栄養士, 糖尿病病態栄養専門管理栄養士		

(注) 栄養士必修, 教職必修

授業科目	解剖生理学	担当者	多田 司
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 2	授業外対応	適宜対応
		[必修/選択]	選択 (注) [授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】人体の構造と機能を理解する。</p> <p>【概要】人体の構造と機能および疾病の成り立ちを理解する上で必要となる、解剖生理学について学ぶ。</p> <p>【到達目標】人体を細胞、組織、器官、基幹系などのレベルでとらえ、それぞれの形状と仕組み、働きについて解説する。これを理解し、人における恒常性の維持の仕組みを、神経・内分泌・免疫などの機構から説明できるようになる。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 河田光博・三木健寿/編, 『栄養科学シリーズ NEXT 解剖生理学』, 講談社 佐藤達夫監修, 『新版 からだの地図帳』, 講談社</p> <p>(2) 山口和克ほか, 『新版 病気の地図帳』, 講談社</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 人体の構造 1: 細胞・組織・器官</p> <p>第 2 回 人体の構造 2: 消化器系 (1)</p> <p>第 3 回 人体の構造 3: 消化器系 (2)</p> <p>第 4 回 人体の構造 4: 心臓・血管系</p> <p>第 5 回 人体の構造 5: 呼吸器系</p> <p>第 6 回 人体の機能 1: 内分泌系 (1)</p> <p>第 7 回 人体の機能 2: 内分泌系 (2)</p> <p>第 8 回 人体の機能 3: 代謝系</p> <p>第 9 回 人体の機能 4: 血液系</p> <p>第 10 回 人体の機能 5: 免疫系 (1)</p> <p>第 11 回 人体の機能 6: 免疫系 (2)</p> <p>第 12 回 人体の機能 7: 脳・神経系</p> <p>第 13 回 人体の機能 8: 骨格・筋肉系</p> <p>第 14 回 人体の機能 9: 感覚器官</p> <p>第 15 回 人体の機能 10: 腎臓系</p>		
授業外学習(予習・復習)	復習を重視するが、教科書による予習に取り組んで講義を受けることが望ましい。		
成績評価の方法	期末試験 (70%) + レポート (30%) により評価する。		

(注) 栄養士必修, 教職必修

授業科目	解剖生理学実験		担当者	多田 司
	[履修年次]	1年	授業外対応	適宜対応
	[学期]	後期	[単位]	1
			[必修/選択]	選択 (注)
				[授業形態]
				実験
テーマ及び概要	<p>【テーマ】人体の構造と機能を理解する。</p> <p>【概要】講義で学んだ人体を構成している各種臓器、組織、細胞についての理解を観察や実験を通してさらに深める。</p> <p>【到達目標】観察や実験を通して、人体の構造と機能を理解する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 青峰正裕、藤田守編著、『Nブックス実験シリーズ解剖生理学実験』、建帛社</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 実験を始めるにあたって：実験の進め方、レポートの書き方、器具洗浄</p> <p>第2回 骨格観察1：頭・体躯</p> <p>第3回 骨格観察2：手・足</p> <p>第4回 人体モデル観察1：各種臓器</p> <p>第5回 人体モデル観察2：各種臓器</p> <p>第6回 組織標本観察1：胃・肝臓</p> <p>第7回 組織標本観察2：脾臓・腎臓</p> <p>第8回 血液に関する実験1：血球数の測定（赤血球・白血球）</p> <p>第9回 血液に関する実験2：ヘモグロビンの定量</p> <p>第10回 血液に関する実験3：ヘマトクリットの測定</p> <p>第11回 血液に関する実験4：タンパク質の定量（アルブミン・グロブリン比）</p> <p>第12回 血液に関する実験5：血糖値の定量</p> <p>第13回 血液に関する実験6：総コレステロール値の定量</p> <p>第14回 血液に関する実験7：HDLコレステロール値の定量</p> <p>第15回 まとめ：器具洗浄、片付け</p>			
授業外学習(予習・復習)	実験の復習としてレポートを重視する。			
成績評価の方法	レポート (70%) + 実験への取り組み状況 (30%)			

(注) 栄養士必修，教職必修

授業科目	生化学 I		担当者	多田 司
	[履修年次]	1年	授業外対応	適宜対応
	[学期]	後期	[単位]	2
			[必修/選択]	選択 (注)
				[授業形態]
				講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】生命現象を分子レベルで理解する。</p> <p>【概要】はじめに人体や細胞の基本構造に関して復習を行う。次にタンパク質・糖質・脂質といった栄養機能を持つ生体成分の構造や性質について学習し、生命現象を発現させる上で重要な核酸についても学習する。さらに、物質の代謝に欠かすことのできない酵素について、その分類や機能の調節について理解を深め、酵素反応に必要な補酵素（ビタミン）や補因子（ミネラル）の働きについても学習する。また生体の代謝調節と密接に関わるホルモンの働きについても理解を深める。</p> <p>【到達目標】生化学は、人体の構造と機能および疾病の成り立ちを学ぶ上で基礎となる科目である。生化学 I では、生体を構成している成分としてのタンパク質・糖質・脂質さらにはビタミン・ミネラル・核酸や酵素などについて構造と機能を学習し、理解することを目標とする。生化学 II で学習するさまざまな生体物質の代謝を理解する上での基礎作りとする。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 菌田勝編、『栄養科学イラストレイテッド 生化学』、羊土社</p> <p>(2) 講義の際に適宜紹介する。</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 人体の構成：人体を構成する成分や細胞の構造と仕組みについて</p> <p>第2回 タンパク質・アミノ酸1：アミノ酸・ペプチドについて</p> <p>第3回 タンパク質・アミノ酸2：タンパク質の種類と機能について</p> <p>第4回 糖質1：単糖類・二糖類・多糖類について</p> <p>第5回 糖質2：糖質の機能について</p> <p>第6回 脂質1：脂質の種類と分類について</p> <p>第7回 脂質2：脂質の機能について</p> <p>第8回 ビタミン：各種ビタミン類の体内での役割について</p> <p>第9回 ミネラル：各種ミネラルの体内での役割について</p> <p>第10回 核酸：ヌクレオチドの構造について</p> <p>第11回 酵素1：酵素の分類と性質について</p> <p>第12回 酵素2：酵素反応速度について</p> <p>第13回 酵素3：酵素活性の調節について</p> <p>第14回 ホルモン1：ホルモンの分類について</p> <p>第15回 ホルモン2：個体の調節機構とホメオスタシスについて</p>			
授業外学習(予習・復習)	復習を重視するが、教科書による予習に取り組んで講義を受けることが望ましい。			
成績評価の方法	期末試験 (70%) + 小テスト (30%) により評価する。			

(注) 栄養士必修，教職必修

授業科目	生化学Ⅱ		担当者	多田 司
	〔履修年次〕	2年	授業外対応	適宜対応
	〔学期〕	前期	〔単位〕	2
			〔必修/選択〕	選択 (注)
			〔授業形態〕	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】生命現象を分子レベルで理解する。</p> <p>【概要】はじめに生体内でのタンパク質の代謝、糖質の代謝、脂質の代謝について学習する。次に遺伝子発現に関わるスクレオチドの代謝や遺伝子の発現調節機構について学び、最後に個体の生体防御機構について非特異的・特異的生体防御機構について、特に特異的生体防御機構については免疫系やアレルギーに関する内容を中心に学習する。</p> <p>【到達目標】生化学は人体の構造と機能および疾病の成り立ちを学ぶ上で基礎となる科目である。生化学Ⅱでは、生化学Ⅰで学んだ内容を基に、生体内での物質代謝について理解することを目標とする。また、生体調節と密接に関わる遺伝子発現の調節機構について理解すること、個体の生体防御機構について理解を深めることも目標とする。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 藪田勝編、『栄養科学イラストレイテッド 生化学』, 羊土社</p> <p>(2) 講義の際に適宜紹介する。</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 代謝とは? : 生体エネルギーと代謝について</p> <p>第 2 回 タンパク質・アミノ酸の代謝 1 : タンパク質の分解とアミノ酸プール、窒素出納について</p> <p>第 3 回 タンパク質・アミノ酸の代謝 2 : アミノ酸の代謝とその代謝異常について</p> <p>第 4 回 糖質の代謝 1 : 解糖系・クエン酸回路・電子伝達系について</p> <p>第 5 回 糖質の代謝 2 : グリコーゲンの合成と分解について</p> <p>第 6 回 糖質の代謝 3 : 糖新生、ペントースリン酸経路、グルクロン酸経路について</p> <p>第 7 回 脂質の代謝 1 : 脂質の体内輸送と貯蔵、脂肪酸の代謝について</p> <p>第 8 回 脂質の代謝 2 : トリグリセリドとリン脂質の代謝について</p> <p>第 9 回 脂質の代謝 3 : コレステロールの代謝、ケトン体の生成、脂質の代謝異常について</p> <p>第 10 回 スクレオチドの代謝 : 塩基の合成と分解について</p> <p>第 11 回 遺伝子発現とその制御 1 : 遺伝情報の複製、転写、翻訳について</p> <p>第 12 回 遺伝子発現とその制御 2 : RNA の合成 (転写) について</p> <p>第 13 回 遺伝子発現とその制御 3 : タンパク質合成 (翻訳) について</p> <p>第 14 回 生体防御機構 1 : 非特異的生体防御機構と特異的生体防御機構について</p> <p>第 15 回 生体防御機構 2 : 免疫系の成り立ちについて</p>			
授業外学習(予習・復習)	復習を重視するが、教科書による予習に取り組んで講義を受けることが望ましい。			
成績評価の方法	期末試験 (70%) + 小テスト (30%) により評価する。			

(注) 栄養士必修, 教職必修

授業科目	生化学実験		担当者	多田 司
	〔履修年次〕	2年	授業外対応	適宜対応
	〔学期〕	後期	〔単位〕	1
			〔必修/選択〕	選択 (注)
			〔授業形態〕	実験
テーマ及び概要	<p>【テーマ】生体成分, 栄養成分の定性・定量的分析</p> <p>【概要】生化学は、食物栄養の専門知識に必須の基礎的分野で、人体の機能の化学と代謝に関して幅広く学ぶ分野である。講義で学んだ事項と生化学的基礎の重要性について、栄養成分の分析や尿、ホルモンなどの分析を通してさらに理解を深める。</p> <p>【到達目標】実験を通して、生体成分や栄養成分の生化学を理解する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 林淳三、『新訂生化学実験』, 建帛社</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 実験を始めるにあたって : 実験の進め方、レポートの書き方、器具洗浄</p> <p>第 2 回 尿に関する実験 (1) : 尿タンパク質の定量</p> <p>第 3 回 尿に関する実験 (2) : 尿糖の検出</p> <p>第 4 回 尿に関する実験 (3) : ケトン体の検出</p> <p>第 5 回 尿に関する実験 (4) : クレアチニンの定量</p> <p>第 6 回 酵素に関する実験 : 唾液アミラーゼ活性</p> <p>第 7 回 ホルモンに関する実験 : ステロイドホルモンの分離定性</p> <p>第 8 回 ビタミンに関する実験 (1) : ビタミン B₁ の定量</p> <p>第 9 回 ビタミンに関する実験 (2) : ビタミン B₂ の定性</p> <p>第 10 回 栄養成分に関する実験 (1) : タンパク質の定量 (1)</p> <p>第 11 回 栄養成分に関する実験 (2) : タンパク質の定量 (2)</p> <p>第 12 回 ミネラルに関する実験 (1) : カルシウムの定量 (1)</p> <p>第 13 回 ミネラルに関する実験 (2) : カルシウムの定量 (2)</p> <p>第 14 回 ミネラルに関する実験 (3) : カルシウムの定量 (3)</p> <p>第 15 回 まとめ : 器具洗浄、器具整理、片付け</p>			
授業外学習(予習・復習)	実験の復習としてレポートを重視する。			
成績評価の方法	レポート (70%) + 実験への取り組み状況 (30%)			

(注) 栄養士必修, 教職必修

授業科目	健康と運動		担当者	西迫 貴美代
	[履修年次]	2年	授業外対応	随時 nisizako@k-kentan.ac.jp
	[学期]	後期	[単位]	2
			[必修/選択]	必修(注)
			[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】現代社会において健康問題が取り上げられ、「健康ブーム」現象が起きている。その背景やその原因について言及することによって、本講義で取り扱う「健康」概念を明確にする。特に運動不足がもたらす現代人の健康問題に対して、運動の必要性を理解することはもちろんのこと、日常生活の中で実施しうる具体的な「運動処方」について理解することを目的とする</p> <p>【概要】健康にかかわる職業である、栄養士に必要な基本的な運動処方の知識を具体的なデータと自分のからだの感覚との対比を促すワークを取り入れ、データの意味をより深く理解することから、健康のための運動の必要性とその効果について他者へ伝える能力を身につける。講義内容に即して具体的な運動を実施する内容も予定しているため、事前にお知らせする。</p> <p>【到達目標】自分自身の測定データから導き出される運動課題を導き出すことができ、さらにその課題克服のための具体的なかつ適切な運動処方を組み立てることができることを到達目標とする。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 適時、講義資料を配付する</p> <p>(2) 適時、参考文献を紹介する</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 オリエンテーション (からだに刷り込まれた自分の体のクセを知る)</p> <p>第 2回 健康施策の変遷とその背景について(健康観の変遷を探る)</p> <p>第 3回 適切な運動処方について考える 1 (基本的な運動とリラクゼーションの方法について～ストレス解消法)</p> <p>第 4回 適切な運動処方について考える 2 (自己のデータを元に)</p> <p>第 5回 適切な運動処方について考える 3 (データの意味-1)</p> <p>第 6回 体力概念について (データの意味-2)</p> <p>第 7回 健康と運動 1 (運動の仕組みと運動の効果)</p> <p>第 8回 健康と運動 2 (運動とダイエット)</p> <p>第 9回 健康と運動 3 (運動と休養・栄養)</p> <p>第 10回 健康と運動 4 (ライフスタイルを考える)</p> <p>第 11回 ウォーキングによる自己の身体作業能力の測定</p> <p>第 12回 ペースウォーキングによる自己の身体作業能力の測定</p> <p>第 13回 ジョギングにおける自己の身体作業能力の測定 (ペースランニングの方法)</p> <p>第 14回 50M 走の測定 (自分の走りを科学する レポート課題)</p> <p>第 15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	これまで履修した講義(特に解剖学 運動生理学など)で使用したテキスト等、復習すること			
成績評価の方法	毎回、小レポートを提出と講義への参加状況(60%) + 最終レポート 40%			
実務経験について	高等学校及び養護学校にて教員として勤務			

(注) 教職必修 (注) 卒業必修

授業科目	公衆衛生学		担当者	郡山 千早
	[履修年次]	2年	授業外対応	授業終了後対応
	[学期]	後期	[単位]	2
			[必修/選択]	必修(注)
			[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】健康の増進と疾病・障害の発生・予防に関する社会的要因、自然環境、生物学的要因との相互作用、予防医学の理論ならびに実践を理解する。</p> <p>【概要】私たちを取り巻く社会的環境および自然環境は常に変化し、それとともに国際・地域社会における健康課題も変わってくる。その中で、健康増進をいかに図り、集団の健康を守っていくにはどうすべきかを理解することを目標とする。</p> <p>【到達目標】次の項目を理解し、説明できる。I) 社会と健康・疾病との関係、II) 保健統計の意義と現状、III) 疫学とその応用、IV) 生活習慣病とその予防対策、V) 日本の保健、医療、福祉および介護制度。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 配布プリント</p> <p>(2) 国民衛生の動向(厚生労働統計協会)</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 公衆衛生学総論</p> <p>第 2回 健康と病気の予防</p> <p>第 3回 健康増進</p> <p>第 4回 保健統計</p> <p>第 5回 地域保健(母子保健)</p> <p>第 6回 演習(母子保健)</p> <p>第 7回 生活習慣と疾病</p> <p>第 8回 社会保障制度</p> <p>第 9回 疫学 1</p> <p>第 10回 疫学 2</p> <p>第 11回 感染症</p> <p>第 12回 演習(感染症)</p> <p>第 13回 高齢者と健康</p> <p>第 14回 学校保健</p> <p>第 15回 職場と健康</p>			
授業外学習(予習・復習)	配布資料に添付する演習を復習として活用すること。			
成績評価の方法	筆記試験(80%)、レポート(20%)			

(注) 教職必修、栄養士選択必修

授業科目	健康管理概論		担当者	與儀 幸朝
	[履修年次]	2年	授業外対応	講義終了時
	[学期]	前期	[単位]	2
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】健康を維持及び増進を図るために必要な知識や実践につなげる方法について学ぶ</p> <p>【概要】我が国の健康の現状を把握し、健康問題への理解を深め、維持や増進を図っていく方法について科学的な根拠から見方や考え方を働かせて関連する知識を養う</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 健康の概念について説明できる 2) 人口統計および疾病統計の現状について把握し、その原因や要因について理解できる 3) ストレス発散の具体的な方法について列挙できる 4) 生活習慣病の成り立ちについて理解し、予防策を列挙できる 5) 情報の収集・処理・管理について理解することができる 			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 健康管理概論 光生館</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 オリエンテーション</p> <p>第 2回 健康の概念</p> <p>第 3回 健康の決定要因</p> <p>第 4回 健康の現状 1</p> <p>第 5回 健康の現状 2</p> <p>第 6回 健康増進対策 1</p> <p>第 7回 健康増進対策 2</p> <p>第 8回 ストレス</p> <p>第 9回 健康づくりの実際</p> <p>第 10回 健康の阻害要因と疾病の予防</p> <p>第 11回 健康管理の進め方 1</p> <p>第 12回 健康管理の進め方 2</p> <p>第 13回 情報処理と健康管理 1</p> <p>第 14回 情報処理と健康管理 2</p> <p>第 15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	筆記試験 70%, レポート 30%			
実務経験について	中学校教員			

(注) 栄養士選択必修

授業科目	運動生理学		担当者	高橋 恭平
	[履修年次]	2年	授業外対応	講義終了時
	[学期]	後期集中	[単位]	2
			[必修/選択]	必修(注)
			[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】厚生労働省の「健康日本21」で運動の重要性が述べられている他、コロナ禍、健康二次被害の懸念も高まる中、適度な運動が推奨されている。“Why Exercise?”の原点を探り、運動の重要性を理論的に理解することを目的とする。</p> <p>【概要】生物としての人体のしくみを理解した上で、ヒトの運動遂行に伴い生じる適応について学習する。また、それが、QOL保持・増進のために重要であることを理解し、具体的な運動実践の手法についても学習する。</p> <p>【到達目標】人体のしくみと運動遂行に伴い生じる適応について理解し、QOLの保持・増進の観点から、運動の重要性について説明できる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) なし 必要に応じて資料を配布する。</p> <p>(2) なし</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 オリエンテーション ～運動生理学とは～</p> <p>第 2回 生命の誕生と進化・細胞の構造とはたらき</p> <p>第 3回 生物の発生と生殖</p> <p>第 4回 ヒトのからだのしくみ・生態系のしくみ</p> <p>第 5回 循環器と呼吸器</p> <p>第 6回 脳と神経</p> <p>第 7回 筋肉・骨格と運動</p> <p>第 8回 筋収縮機構</p> <p>第 9回 エネルギー供給機構</p> <p>第 10回 健康の現状と生活習慣病</p> <p>第 11回 運動と栄養</p> <p>第 12回 運動と休養</p> <p>第 13回 運動と老化</p> <p>第 14回 トレーニングの新解釈</p> <p>第 15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	集中講義のため、初回授業時までに厚生労働省の「健康日本21」に目を通し、新知見や疑問点等をまとめておくこと。以降の授業外学習の内容は、授業時に指示する。			
成績評価の方法	・筆記試験 40% (集中講義のため、第15回講義終了後、第16回として即日実施) ・レポート 60%			

(注) 栄養士必修、教職必修

授業科目	給食管理		担当者	山下三香子																																									
	[履修年次]	1年	授業外対応	適宜対応(要予約)																																									
	[学期]	後期	[単位]	2																																									
		[必修/選択]	必修(注)	[授業形態]	講義																																								
テーマ及び概要	<p>【テーマ】特定多数の人に継続的に食事を供給する給食施設において、対象者の目的に応じた栄養管理と効率的な運用について</p> <p>【概要】食事計画から栄養計画、献立作成、衛生・安全管理、作業管理、設備管理、労務管理、原価管理など効率のよい経営と満足度の高い給食について、給食の目的、方法、評価を明らかにできる方法を学ぶ</p> <p>【到達目標】給食の運営管理できる力を養う。</p>																																												
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 『大量調理』 学建書院、『給食の運営』・『給食のための基礎からの献立作成』 建帛社、『糖尿病食事療法のための食品交換表』 日本糖尿病協会・文光堂、『給食の運営管理実習テキスト』 第一出版、『ライフステージ実習栄養学』 医歯薬出版</p> <p>(2) 『八訂日本食品成分表』 女子栄養大学出版部、</p>																																												
授業スケジュール	<table border="0"> <tr> <td>第1回</td> <td>給食の概念</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>栄養食事管理</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>食品構成</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>献立の立て方、糖尿病の献立、スチコンとは</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>献立計算</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>主菜の考え方、給食の調理管理</td> <td rowspan="5">主菜の献立作成 副菜の献立作成 汁の献立の立て方 デザートの献立の立て方 行事食</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>大量調理の献立</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>大量調理の調理</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>作業管理、設備管理</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>衛生・安全管理</td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>衛生・安全管理</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>市場調査、経営管理</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>施設別の栄養管理・献立</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>施設別の給食管理、研究・調査</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第15回</td> <td>まとめ</td> <td></td> </tr> </table>				第1回	給食の概念		第2回	栄養食事管理		第3回	食品構成		第4回	献立の立て方、糖尿病の献立、スチコンとは		第5回	献立計算		第6回	主菜の考え方、給食の調理管理	主菜の献立作成 副菜の献立作成 汁の献立の立て方 デザートの献立の立て方 行事食	第7回	大量調理の献立	第8回	大量調理の調理	第9回	作業管理、設備管理	第10回	衛生・安全管理	第11回	衛生・安全管理		第12回	市場調査、経営管理		第13回	施設別の栄養管理・献立		第14回	施設別の給食管理、研究・調査		第15回	まとめ	
第1回	給食の概念																																												
第2回	栄養食事管理																																												
第3回	食品構成																																												
第4回	献立の立て方、糖尿病の献立、スチコンとは																																												
第5回	献立計算																																												
第6回	主菜の考え方、給食の調理管理	主菜の献立作成 副菜の献立作成 汁の献立の立て方 デザートの献立の立て方 行事食																																											
第7回	大量調理の献立																																												
第8回	大量調理の調理																																												
第9回	作業管理、設備管理																																												
第10回	衛生・安全管理																																												
第11回	衛生・安全管理																																												
第12回	市場調査、経営管理																																												
第13回	施設別の栄養管理・献立																																												
第14回	施設別の給食管理、研究・調査																																												
第15回	まとめ																																												
授業外学習(予習・復習)	授業の課題プリントを配布、宿題として出す。																																												
成績評価の方法	出席・レポート・小テスト40%、試験60%																																												
実務経験について	病院、高齢者施設等で施設側の管理栄養士として勤務																																												

(注) 栄養士必修, 教職必修

授業科目	給食管理実習 I		担当者	山下三香子	
	[履修年次]	2年	授業外対応	適宜対応(要予約)	
	[学期]	前・後	[単位]	1単位	
		[必修/選択]	選択(注)	[授業形態]	実習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】学内実習 本学学生を主要対象とした給食サービス</p> <p>【概要】給食としての食事計画・献立作成・運営計画・評価の一連の実習を本学学生を対象として実際に大量調理を行う。帳票類の作成・まとめを行い、栄養教育の方法、評価を行う。</p> <p>【到達目標】給食施設でのすべての業務を理解、計画、実施できる力を養う。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 『大量調理』 学建書院、『給食の運営』・『給食のための基礎からの献立作成』 建帛社、『給食の運営管理実習テキスト』 第一出版、</p> <p>(2) 『八訂日本食品成分表』 女子栄養大学出版部 『糖尿病食事療法のための食品交換表』 日本糖尿病協会・文光堂</p>				
授業スケジュール	<p>オリエンテーション(実習の概要)</p> <p>献立計画・・食事計画・栄養計画のもと、期間献立計画および日別献立計画を作成し栄養価計算・原価計算をし、調整する。</p> <p>食材購入計画・・市場調査・食材利用計画・発注書作成を行う。</p> <p>運営計画・・大量調理機器を考慮した作業工程表を作成し、実施日の運営計画を立案する。</p> <p>試作・試食・・献立に忠実で正確な分量による料理を試作し、盛り付け方法・食器の選択・試食を行い、最終的な調整をする</p> <p>衛生管理計画・・給食における安全ポイントを確認し、衛生検査計画をたてる。</p> <p>実験調査計画・・評価のための調査計画を立案する。</p> <p>栄養教育計画・・対象者にとって必要と考えられる給食内容に関連したテーマで栄養教育計画を立案し、栄養教育媒体を作成する。</p> <p>供食サービス・・計画に従って、喫食者が満足できるサービスを実施する。</p> <p>評価・・実習後のデータ整理・総合評価・まとめ(実習結果報告と反省会)</p>				
授業外学習(予習・復習)	実習準備として各グループで分担して授業時間以外にも取り組み、実習前日、反省会、帳票整理までとする。				
成績評価の方法	実習ノート(20%)、反省・報告発表(10%)、実習態度及び出席(70%)				
実務経験について	病院、高齢者施設等で施設側の管理栄養士として勤務				

(注) 栄養士必修, 教職必修

授業科目	給食管理実習Ⅱ		担当者	山下三香子	
	[履修年次]	2年	授業外対応	適宜対応(要予約)	
	[学期]	前期集中	[単位]	2単位	
		[必修/選択]	選択(注)	[授業形態]	実習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】学外実習 給食施設(事業所、福祉施設など)での栄養士の給食業務</p> <p>【概要】学内実習で学んだことをもとに、喫食対象者のニーズや給食条件、それに伴う献立やサービス、栄養管理のあり方などを県内外の実践の場で学習する。</p> <p>【到達目標】給食運営の実態を体得し、給食施設における栄養士の業務や役割について実践的能力を身につける。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 『給食の運営』・『給食のための基礎からの献立作成』建帛社 実習ノート</p> <p>(2) 『ライフステージ実習栄養学』医歯薬出版、『八訂日本食品成分表』女子栄養大学出版部 『給食経営管理論』東京化学同人</p>				
授業スケジュール	<p>各施設による特徴</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、給食施設の概要 2、給食業務の流れ 3、給食組織と業務分担および栄養士業務 4、栄養教育 5、献立内容 6、大量調理の技術 7、食材管理 8、衛生管理 9、各調査と評価 10、実習終了後、学内で報告発表を行う。 <p>各施設による特徴</p>				
授業外学習(予習・復習)	実習課題の取り組み、報告会の準備、実習ノート作成				
成績評価の方法	実習ノート(20%)、報告発表(10%)、実習態度および出席(70%)				
実務経験について	病院、高齢者施設等で施設側の管理栄養士として勤務				

(注) 栄養士必修 ※栄養教諭二種免許を取得しない者のみ履修できる。

授業科目	給食管理実習Ⅲ		担当者	山下三香子	
	[履修年次]	2年	授業外対応	適宜対応(要予約)	
	[学期]	前期集中	[単位]	1単位	
		[必修/選択]	選択(注)	[授業形態]	実習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】学外実習 給食施設(学校給食)での栄養士の給食業務</p> <p>【概要】学内実習で学んだことをもとに、喫食対象者のニーズや給食条件、それに伴う献立やサービス、栄養管理のあり方などを県内外の実践の場で学習する。</p> <p>【到達目標】給食運営の実態を体得し、給食施設における栄養士の業務や役割について実践的能力を身につける。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 『給食の運営』・『給食のための基礎からの献立作成』建帛社、 実習ノート</p> <p>(2) 『ライフステージ実習栄養学』医歯薬出版、『八訂日本食品成分表』女子栄養大学出版部 『給食経営管理論』東京化学同人</p>				
授業スケジュール	<p>各施設による特徴</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、給食施設の概要 2、給食業務の流れ 3、給食組織と業務分担および栄養士業務 4、栄養教育 5、献立内容 6、大量調理の技術 7、食材管理 8、衛生管理 9、各調査と評価 10、実習終了後、学内で報告発表を行う。 <p>各施設による特徴</p>				
授業外学習(予習・復習)	実習課題の取り組み、報告会の準備、実習ノート作成				
成績評価の方法	実習ノート(20%)、報告発表(10%)、実習態度および出席(70%)				
実務経験について	病院、高齢者施設等で施設側の管理栄養士として勤務				

(注) 栄養士必修、教職必修 ※栄養教諭二種免許を取得する者のみ履修できる。

授業科目	栄養教育論	担当者	未定
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 1	授業外対応	
		[必修/選択]	必修(注) [授業形態] 講義
テーマ及び概要	【テーマ】 【概要】 【到達目標】		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) (2)		
授業スケジュール	第1回 第2回 第3回 第4回 第5回 第6回 第7回 第8回		
授業外学習(予習・復習)			
成績評価の方法			

(注) 栄養士必修, 教職必修 ※ 7.5回

授業科目	栄養指導論Ⅰ	担当者	町田 和恵
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 2単位	授業外対応	適宜対応(要予約)
		[必修/選択]	必修(注) [授業形態] 講義
テーマ及び概要	【テーマ】 栄養学的基础理論に基づいた栄養指導に必要な知識と実態の把握 【概要】 本講義では, 栄養指導に必要な基礎知識と, 対象となる個人や集団及び地域の栄養指導の基本的役割やその食習慣を形作った背景の実態把握の方法について学ぶ。 【到達目標】 栄養指導に必要な基本的知識・役割・実態把握の方法を理解する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 芦川修貳, 田中弘之編集『栄養士のための栄養指導論』学建書院 (2) 菱田明, 佐々木敏監修『日本人の食事摂取基準2020年版』第一出版 日本栄養士会編 『2022年度版 管理栄養士 栄養士必携』第一出版		
授業スケジュール	第1回 栄養指導の目的, 栄養指導の歴史 第2回 食事摂取基準 (身体活動指数, エネルギー) 第3回 食事摂取基準 (各栄養素) 第4回 食品構成 (各栄養素の基準量) 第5回 食品構成 (栄養比率の考え方) 第6回 食品構成作成 栄養価の算定 (1) 第7回 食品構成作成 栄養価の算定 (2) 第8回 各種調査による実態把握 (身体状況 生活時間) 第9回 各種調査による実態把握 (栄養調査) 第10回 各種調査による実態把握 (食生活調査) 第11回 栄養指導の基本的な進め方 (個別指導と集団指導) 第12回 栄養指導の基本的な進め方 (栄養状態の評価) 第13回 栄養指導の基本的な進め方 (運動) 第14回 栄養指導の基本的な進め方 (休養) 第15回 まとめ		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	筆記試験の成績(70%) + 課題と小テスト(30%) により評価する。		

(注) 栄養士必修, 教職必修

授業科目	栄養指導論Ⅱ		担当者	未定
	[履修年次] 1年	[学期] 後期	授業外対応	適宜対応(要予約)
	[単位] 2		[必修/選択] 必修(注)	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	【テーマ】 【概要】 【到達目標】。			
(1)テキスト (2)参考文献	(1) (2)			
授業スケジュール	第1回 第2回 第3回 第4回 第5回 第6回 第7回 第8回 第9回 第10回 第11回 第12回 第13回 第14回 第15回			
授業外学習(予習・復習)				
成績評価の方法				

(注) 栄養士必修, 教職必修

授業科目	栄養指導論実習Ⅰ		担当者	未定
	[履修年次] 1年	[学期] 後期	授業外対応	適宜対応(要予約)
	[単位] 1		[必修/選択] 選択(注)	[授業形態] 実習
テーマ及び概要	【テーマ】 【概要】 【到達目標】			
(1)テキスト (2)参考文献	(1) (2)			
授業スケジュール	第1回 第2回 第3回 第4回 第5回 第6回 第7回 第8回 第9回 第10回 第11回 第12回 第13回 第14回 第15回			
授業外学習(予習・復習)				
成績評価の方法				

(注) 栄養士必修, 教職必修

授業科目	栄養指導論実習Ⅱ		担当者	町田 和恵
	[履修年次]	2年	授業外対応	適宜対応(要予約)
	[学期]	前期	[単位]	1単位
			[必修/選択]	選択(注)
			[授業形態]	実習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】個人・集団を対象とした食に関する指導を通じて生涯にわたる健康づくりのための基礎を築く教育方法</p> <p>【概要】栄養指導論で得た基本的に必要なとする指導内容や方法ならびに具体的な技術を統合し、栄養指導論実習Ⅱでは、集団・個別を対象とし、福祉施設・病院での栄養指導のシミュレーションを展開し、体験学習により栄養指導に対する理解を深めると共に栄養指導・教育技能の向上を図る。</p> <p>【到達目標】(1) 対象者に対する的確な栄養アセスメントが出来る。(2) 対象に応じた指導案の作成、媒体の選択が出来る。(3) 対象に応じたプレゼンテーションが出来る。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 菱田明, 佐々木敏監修『日本人の食事摂取基準 2020年版』第一出版 日本栄養士会編 『2021年度版 管理栄養士 栄養士必携』第一出版</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 集団を対象とした栄養指導の方法 栄養指導内容の作成 (1)</p> <p>第2回 集団を対象とした栄養指導の方法 栄養指導内容の作成 (2)</p> <p>第3回 集団を対象とした栄養指導の方法 プレゼンテーション その1</p> <p>第4回 集団を対象とした栄養指導の方法 プレゼンテーション その2</p> <p>第5回 集団を対象とした栄養指導の方法 プレゼンテーション その3</p> <p>第6回 集団を対象とした栄養指導の方法 プレゼンテーション その4</p> <p>第7回 集団を対象とした栄養指導の方法 プレゼンテーション その5</p> <p>第8回 個別対応の栄養指導の基本的な考え方</p> <p>第9回 個別対応の栄養指導の方法 栄養指導計画の作成</p> <p>第10回 個別対応の栄養指導の方法(病院) プレゼンテーション その1</p> <p>第11回 個別対応の栄養指導の方法(病院) プレゼンテーション その2</p> <p>第12回 個別対応の栄養指導の方法(病院) プレゼンテーション その3</p> <p>第13回 個別対応の栄養指導の方法(病院) プレゼンテーション その4</p> <p>第14回 個別対応の栄養指導の方法(病院) プレゼンテーション その5</p> <p>第15回 個別対応の栄養指導の方法(病院) プレゼンテーション その6とまとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	発表(50%) + 課題と小テスト(30%) + 実習への取り組み状況(20点)により評価する。			

(注) 栄養士必修, 教職必修

授業科目	公衆栄養学		担当者	児玉 敬三
	[履修年次]	2年	授業外対応	授業終了後
	[学期]	後期	[単位]	2
			[必修/選択]	選択(注)
			[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>地域で生活している様々な人々のQOL向上のために、集団を対象とした「栄養学」をどのように実践するかを学ぶ</p> <p>【概要】公衆栄養の概念。健康・栄養問題の現状と課題。栄養政策。栄養疫学。公衆栄養マネジメント。公衆栄養プログラムの展開</p> <p>【到達目標】QOLの向上と健康寿命の延伸につながる様々な施策の内容を理解し、栄養士としての具体的な働きが理解できる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) ウェルネス 公衆栄養学 2019年度版 医歯薬出版株式会社</p> <p>(2) 日本人の食事摂取基準 に関連する図書</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス「公衆栄養学」とは</p> <p>第2回 公衆栄養学プログラムの展開 (1)</p> <p>第3回 公衆栄養学プログラムの展開 (2)</p> <p>第4回 公衆栄養マネジメント (1)</p> <p>第5回 公衆栄養マネジメント (2)</p> <p>第6回 公衆栄養マネジメント (3)</p> <p>第7回 栄養疫学 (1)</p> <p>第8回 栄養疫学 (2)</p> <p>第9回 栄養政策 (1)</p> <p>第10回 栄養政策 (2)</p> <p>第11回 健康・栄養問題の現状と課題 (1)</p> <p>第12回 健康・栄養問題の現状と課題 (2)</p> <p>第13回 公衆栄養学の概念 (1)</p> <p>第14回 公衆栄養学の概念 (2)</p> <p>第15回 まとめ、総括</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	筆記試験(80%)、出席20%			
実務経験について	病院に勤務、災害支援栄養士			

(注) 栄養士必修, 教職必修

授業科目	栄養情報処理	担当者	未定
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1	授業外対応	適宜対応 (要予約)
		[必修/選択]	選択 (注) [授業形態] 実習
テーマ及び概要	【テーマ】 【概要】 【到達目標】		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) (2)		
授業スケジュール	第 1 回 第 2 回 第 3 回 第 4 回 第 5 回 第 6 回 第 7 回 第 8 回 第 9 回 第 10 回 第 11 回 第 12 回 第 13 回 第 14 回 第 15 回		
授業外学習(予習・復習)			
成績評価の方法			

(注) 栄養士必修, 教職必修

授業科目	臨床栄養学 I	担当者	有村 恵美
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 2	授業外対応	適宜対応 (要予約)
		[必修/選択]	選択 (注) [授業形態] 講義
テーマ及び概要	【テーマ】 病態に基づいた栄養・食事療法 【概要】 主要な疾患の概要 (疫学・発症機序・病態・臨床症状)、診断基準、治療法を学習することで、各種疾患の栄養学的なアプローチの基本的な考え方を理解する。 【到達目標】 主要な疾患の概要 (疫学・発症機序・病態・臨床症状)、診断基準、治療法を理解し、栄養の関連を認識し、各疾患別に必要とされている栄養・食事療法について理解する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 秋山栄一ほか『臨床栄養学概論』(化学同人) 日本糖尿病学会編『糖尿病食事療法のための食品交換表』(日本糖尿病協会・文光堂) 香川明夫監修『八訂食品成分表』(女子栄養大学出版部) (2) 日本病態栄養学会『病態栄養ガイドブック』(南江堂)		
授業スケジュール	第 1 回 臨床栄養学 (概念・意義) 第 2 回 代謝性疾患 (病態と栄養管理: 糖尿病) 第 3 回 代謝性疾患 (病態と栄養管理: 糖尿病) 第 4 回 代謝性疾患 (病態と栄養管理: 脂質異常症) 第 5 回 代謝性疾患 (病態と栄養管理: 脂質異常症) 第 6 回 代謝性疾患 (病態と栄養管理: 痛風,高尿酸血症) 第 7 回 代謝性疾患 (病態と栄養管理: 肥満) 第 8 回 栄養法 (経腸栄養・経静脈栄養) 第 9 回 消化器疾患 (病態と栄養管理: 肝臓疾患) 第 10 回 消化器疾患 (病態と栄養管理: 肝臓疾患) 第 11 回 消化器疾患 (病態と栄養管理: 胃腸疾患) 第 12 回 消化器疾患 (病態と栄養管理: 胃腸疾患) 第 13 回 腎疾患 (病態と栄養管理: 慢性腎臓病) 第 14 回 腎疾患 (病態と栄養管理: 透析) 第 15 回 まとめ		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	筆記試験 (60%), 課題・小テスト・授業への取り組み・参加状況 (40%) により評価する。		
実務経験について	病院で管理栄養士として勤務, 病態栄養専門管理栄養士, 糖尿病病態栄養専門管理栄養士		

(注) 栄養士必修, 教職必修

授業科目	臨床栄養学Ⅱ		担当者	有村 恵美
	〔履修年次〕	2年	授業外対応	適宜対応 (要予約)
	〔学期〕	前期	〔単位〕	2
			〔必修/選択〕	選択 (注)
			〔授業形態〕	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】病態に基づいた栄養・食事療法 (実践から応用)</p> <p>【概要】主要な疾患の成因・病態を学習することで、各種疾患の栄養学的なアプローチの基本的な考え方を理解する。各疾患別の病態の知識をもとに、治療のための栄養・食事基準・調理のポイントを理解する。</p> <p>【到達目標】主要な疾患の病態を理解し、栄養の関連を認識できること。各疾患別の栄養・食事療法を理解し、具体的な治療食を考えられる力を身につける。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 秋山栄一ほか『臨床栄養学概論』(化学同人) 玉川和子ほか『臨床栄養学実習書』(医歯薬出版株式会社) 日本糖尿病学会編『糖尿病食事療法のための食品交換表』(日本糖尿病協会・文光堂) 黒川清監修『腎臓病食品交換表』(医歯薬出版株式会社) 香川明夫監修『八訂食品成分表』(女子栄養大学出版部)</p> <p>(2) 日本病態栄養学会『病態栄養ガイドブック』(南江堂)</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 循環器疾患 (病態と栄養管理：動脈硬化症)</p> <p>第2回 循環器疾患 (病態と栄養管理：高血圧)</p> <p>第3回 循環器疾患 (病態と栄養管理：心疾患)</p> <p>第4回 その他の疾患 (病態と栄養管理)</p> <p>第5回 その他の疾患 (病態と栄養管理)</p> <p>第6回 栄養評価 (栄養アセスメント・スクリーニング)</p> <p>第7回 一般治療食 (常食)</p> <p>第8回 一般治療食 (形態別治療食)</p> <p>第9回 特別治療食 (エネルギーコントロール食)</p> <p>第10回 特別治療食 (脂質調整食)</p> <p>第11回 特別治療食 (食塩制限食)</p> <p>第12回 特別治療食 (腎臓病食品交換表)</p> <p>第13回 特別治療食 (たんぱく質調整食)</p> <p>第14回 特別治療食 (カリウム制限食・水分制限食)</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	筆記試験 (60%)、課題・小テスト・授業への取り組み・参加状況 (40%) により評価する。			
実務経験について	病院で管理栄養士として勤務、病態栄養専門管理栄養士、糖尿病病態栄養専門管理栄養士			

(注) 栄養士必修，教職必修

授業科目	臨床栄養学実習		担当者	有村 恵美
	〔履修年次〕	2年	授業外対応	適宜対応 (要予約)
	〔学期〕	前期集中	〔単位〕	2
			〔必修/選択〕	選択 (注)
			〔授業形態〕	実習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】学外実習 病院での栄養士全般 (給食管理・栄養管理・栄養食事指導) の業務による実習</p> <p>【概要】県内外の医療現場における2週間の実習で給食管理業務と以下のような内容を学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療に携わる多職種と連携を図ったチーム医療の中で、専門職として栄養士の実情を把握。 2. 対象者の臨床成績を把握し、的確な食事計画や栄養管理、栄養食事指導。 3. 対象者の心理を理解し信頼を得る。 <p>【到達目標】医療現場で提供されている治療食の実態を把握し、実際に遂行されている栄養士全般 (給食管理・栄養管理・栄養食事指導) 業務の習得。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 秋山栄一ほか『臨床栄養学概論』(化学同人) 玉川和子ほか『臨床栄養学実習書』(医歯薬出版株式会社) 日本糖尿病学会編『糖尿病食事療法のための食品交換表』(日本糖尿病協会・文光堂) 黒川清監修『腎臓病食品交換表』(医歯薬出版株式会社) 香川明夫監修『八訂食品成分表』(女子栄養大学出版部) 伊藤貞嘉, 佐々木敏監修『日本人の食事摂取基準 2020年版』(第一出版)</p> <p>(2) 日本病態栄養学会『病態栄養ガイドブック』(南江堂)</p>			
授業スケジュール	<p>各施設により異なる</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 指導管理栄養士等からの説明 (院内における栄養部門の位置と役割 等) 2. 病院給食管理業務の実際 (施設概要・給食組織・業務分担および栄養士業務 等) 3. 供食状況の実際 (一般治療食・特別治療食 等) 4. 病態栄養管理業務の実際 (栄養アセスメント・栄養計画・栄養評価 等) 5. 栄養食事指導業務の実際 (個人指導・集団指導・栄養教育用媒体作成および栄養食事指導評価の方法 等) 6. 多職種連携の実際 (チーム医療・各種委員会見学 等) 7. 報告会 (実習内容・反省・課題 等) 			
授業外学習(予習・復習)	実習課題の取り組み、実習ノート作成、報告会準備			
成績評価の方法	実習ノート (20%)、報告発表 (10%)、実習への取り組み状況 (70%) により評価する。			
実務経験について	病院で管理栄養士として勤務、病態栄養専門管理栄養士、糖尿病病態栄養専門管理栄養士			

(注) 栄養士必修，教職必修

授業科目	病理学		担当者	山田 博久				
	[履修年次]	2年	授業外対応	授業終了後				
	[学期]	後期	[単位]	1	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】人体等における病気の成り立ち。</p> <p>【概要】1)ヒトの代表的な疾患について基本的な理解を持つこと。2)学生の知識や理解度に応じて授業内容は変化します。学習効果を上げるため、以前授業でとりあげた項目を繰り返し授業することもあります。</p> <p>【到達目標】管理栄養士国家試験に必要な基本知識を得ること。この試験の医学系設問はレベルが高く指定時間内で必要な所すべてを講義することは困難です。試験合格のみに目標をしぼった授業も可能ですが、表面的な知識しか持たず、本当の問題解決能力がない者となる危険性が大です。また大学は試験合格の為の予備校ではありません。そこで幾つかの部分にしぼって程度の高い授業(医学部3-5年生相当)を行い、また逆に基本的な科学知識の部分も押さえ、以後の自分で勉強を行う力をつけることを目標にします。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 系統看護学講座 専門基礎4 病理学</p> <p>(2) 特に定めないが、さまざまな分野の書物を多量に読むことは学生の基本であることを心得ておくこと。管理栄養士国家試験の医学系設問は(1)の教科書のみでは不十分です。これについては講義中にも説明します。</p>							
授業スケジュール	<p>第1回 病理学で学ぶこと</p> <p>第2回 炎症、免疫、感染症 呼吸器系の疾患</p> <p>第3回 循環障害、循環器、の疾患 代謝障害</p> <p>第4回 先天異常、遺伝子異常、神経系の疾患</p> <p>第5回 補足</p> <p>第6回 消化器系、腎泌尿器系、内分泌系の疾患</p> <p>第7回 腫瘍、血液の疾患、老化と死</p> <p>第8回 補足</p>							
授業外学習(予習・復習)	適宜指示							
成績評価の方法	筆記試験の成績に加え授業中の発言や学生からの質問を併せて評価する。							
実務経験について	内科神経内科医師として30年以上病院勤務。大学非常勤講師として数年間講義を行う。複数の看護学校で講義を行う。							

※7.5回

授業科目	学校栄養教育論		担当者	中西 智美・未定				
	[履修年次]	1年	授業外対応					
	[学期]	後期	[単位]	2	[必修/選択]	選択(注)	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>【概要】</p> <p>【到達目標】</p> <p>。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1)</p> <p>(2)</p>							
授業スケジュール	<p>第1回</p> <p>第2回</p> <p>第3回</p> <p>第4回</p> <p>第5回</p> <p>第6回</p> <p>第7回</p> <p>第8回</p> <p>第9回</p> <p>第10回</p> <p>第11回</p> <p>第12回</p> <p>第13回</p> <p>第14回</p> <p>第15回</p>							
授業外学習(予習・復習)								
成績評価の方法								

(注) 教職必修

授業科目	化学概論		担当者	古川那由太・木下朋美			
	[履修年次]	1年	授業外対応	オフィスアワーを参照			
	[学期]	前期	[単位]	2	[必修/選択]	選択	[授業形態]
テーマ及び概要	<p>【テーマ】化学の基礎を体系的に学ぶことにより化学への理解を深め、専門科目を履修する上で必要な基礎固めをします。</p> <p>【概要】化学の基礎的知識として、原子・分子の構造、化学結合、物質・溶液の濃度の表し方、酸・塩基、酸化・還元、有機化合物の種類について解説します。1～8回：古川、9～15回：木下</p> <p>【到達目標】①物質の構成を知り、化学結合について理解する。②物質を使った溶液の濃度表示を理解する。③酸・塩基および酸化・還元化学反応について理解する。④有機化合物の種類と基本的な官能基を理解する。</p>						
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 高校「基礎化学」および「化学」レベルのプリントを配布します。 (2)						
授業スケジュール	第1回 オリエンテーション、原子の構造 第2回 化学結合（イオンの成り立ちとイオン結合） 第3回 化学結合（共有結合、極性、金属結合） 第4回 質量と濃度（原子量、物質質量、モル濃度） 第5回 化学反応式（化学反応式のつくり方、化学反応の量的関係） 第6回 酸と塩基（酸・塩基の性質、水素イオン濃度、中和反応と塩の性質） 第7回 酸化と還元（酸化・還元の定義、酸化数、酸化還元反応） 第8回 前半のまとめ 第9回 有機化合物の特徴と分類（官能基、構造式、異性体） 第10回 脂肪族炭化水素—1（アルカン） 第11回 脂肪族炭化水素—2（アルケン、アルキン） 第12回 酸素を含む脂肪族化合物—1（アルコール、アルデヒド、ケトン） 第13回 酸素を含む脂肪族化合物—2（カルボン酸、エステル） 第14回 芳香族化合物—1（フェノール類、芳香族カルボン酸） 第15回 芳香族化合物—2（ニトロ化合物、芳香族アミン）						
授業外学習(予習・復習)	適宜指示						
成績評価の方法	期末試験（60%）、小テスト（40%）						

授業科目	生物概論		担当者	古川 那由太			
	[履修年次]	1年	授業外対応	適宜対応			
	[学期]	前期	[単位]	2単位	[必修/選択]	選択	[授業形態]
テーマ及び概要	<p>【テーマ】食物栄養専攻で学習する専門科目の基礎となる生物学について系統的に理解する。</p> <p>【概要】そこに存在するものが生命体かどうか直感的に理解することは簡単だが、生命体を正確に定義することは難しい。生命体は地球にありふれた物質で構成されているのにもかかわらず、その本質を理解しにくくしている要因の1つとして、巧妙精緻に組織化された生命現象が挙げられる。本教科では生命体を構成する物質と、生命体の基本的な機能であるエネルギー代謝、自己増殖、恒常性維持に関する学習を通じて生命体について理解を深める。</p> <p>【到達目標】生物を構成する基本的な物質の特徴を説明できる。細胞内のエネルギー代謝について説明できる。生物の増殖方法と遺伝の仕組みを関連づけて説明できる。生物の情報伝達システムと生体防御機構について説明できる。</p>						
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 南雲保 編著 『やさしい基礎生物学 第2版』 羊土社 2014 (2) 適宜紹介						
授業スケジュール	第1回 オリエンテーション、生命体の構造と働き1（細胞の構造と生命誕生） 第2回 生命体の構造と働き2（生命体を構成する物質） 第3回 生命体の構造と働き3（アミノ酸、タンパク質、酵素） 第4回 生命体の構造と働き4（生体とエネルギー） 第5回 生命体の構造と働き5（光合成と窒素同化） 第6回 生命体の構造と働き6（遺伝子の構造と機能） 第7回 生命体の連続性1（細胞の分裂・情報伝達・がん化） 第8回 生命体の連続性2（生命体の受精と成長） 第9回 前半のまとめ（発表） 第10回 生命体の反応と調節1（細胞間情報伝達システムと生体維持機構） 第11回 生命体の反応と調節2（生体防御機構） 第12回 生命体の反応と調節3（遺伝の基本的なしくみといろいろな遺伝） 第13回 生命体の反応と調節4（連鎖と独立、性と遺伝、ヒトの遺伝病） 第14回 動物個体の形成1（組織と消化系） 第15回 動物個体の形成2（循環系、呼吸器系、排出系、感覚系）						
授業外学習(予習・復習)	教科書の熟読、関連動画の閲覧						
成績評価の方法	筆記試験（50%）、小テスト（25%）、発表（25%）						

9 生活科学専攻専門科目

授業科目	生活化学	担当者	浅海 真弓
	[履修年次] 1年	授業外対応	適宜対応
	[学期] 前期 [単位] 2	[必修/選択]	必修 [授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 生活の中にある化学物質や現象について学び、化学の役割について考える。</p> <p>【概要】 私たちの生活には、様々な化学物質や化学的な現象が関わっている。この授業では、衣生活に関わる物質や現象を取り上げ、化学の力やしくみを学ぶ。主に被服の洗浄（被服整理学分野）と染色のメカニズム（染色加工学分野）について解説する。</p> <p>【到達目標】 化学的な視点から洗浄や染色の現象について理解し、被服の適切な管理に活かすことができる。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 片山倫子編著『衣服管理の科学』建帛社 日本衣料管理協会刊行委員会編『改訂 被服整理学』日本衣料管理協会 日本衣料管理協会出版部会編『染色加工学』日本衣料管理協会 和歌山県工業技術センター編『現場で役立つプラスチック・繊維材料のきほん』コロナ社</p>		
授業スケジュール	<p>第 1回 生活の中の化学 — 身近な生活用品と化学との関わり</p> <p>第 2回 被服整理 1 — 被服の汚れ (汚れの分類)</p> <p>第 3回 被服整理 2 — 被服の洗浄 (洗濯用水と洗剤)</p> <p>第 4回 被服整理 3 — 被服の洗浄 (界面活性剤の種類と働き)</p> <p>第 5回 被服整理 4 — 被服の洗浄 (配合剤の種類と働き)</p> <p>第 6回 被服整理 5 — 被服の洗浄 (洗濯条件と洗浄力の関係)</p> <p>第 7回 被服整理 6 — 被服の洗浄 (商業洗濯)</p> <p>第 8回 被服整理 7 — しみ抜き、漂白と増白、柔軟仕上げ</p> <p>第 9回 被服整理 8 — 被服の保管 (防虫・防カビ)</p> <p>第 10回 染色加工 1 — 染色の方法 (浸染と捺染)</p> <p>第 11回 染色加工 2 — 染料の種類</p> <p>第 12回 染色加工 3 — 染料と繊維の結合</p> <p>第 13回 染色加工 4 — 染色堅ろう度 (変退色と汚染)</p> <p>第 14回 染色加工 5 — 繊維加工 (外観・風合いを変える加工と機能加工)</p> <p>第 15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示 (予習・復習用のプリント配布)		
成績評価の方法	レポート・課題 (65%) + 授業ごとに提出するワークシート (35%)		

授業科目	ビジュアルデザイン論 I	担当者	北 一浩
	[履修年次] 1年	授業外対応	適宜対応 (要予約)
	[学期] 前期 [単位] 2	[必修/選択]	必修 [授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 デザインを学ぶ上で前提となる、アイデアに関する基礎的な知識及び考え方を学ぶ。</p> <p>【概要】 ビジュアルデザインのみならず様々な分野で求められるアイデアに関する基礎的な知識及び考え方を学ぶ。アイデアの生み出し方を段階的に講義していく。</p> <p>【到達目標】 アイデアとは何かを理解し、その生み出し方を習得する。 また、それらが日常の多様な場面で活用できることを理解する。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 使用しない。適宜、プリントを配布する。</p> <p>(2) 参考文献は適宜紹介する。</p>		
授業スケジュール	<p>第 1回 オリエンテーション</p> <p>第 2回 導入 アイデアとは?</p> <p>第 3回 発想の準備 1 もっと楽しもう</p> <p>第 4回 発想の準備 2 自分を信じよう</p> <p>第 5回 発想の準備 3 「その気」になろう</p> <p>第 6回 発想の準備 4 子供に戻ろう</p> <p>第 7回 発想の準備 5 「知りたがり」になろう</p> <p>第 8回 発想の準備 6 笑われることを恐れるな</p> <p>第 9回 発想の準備 7 「考え方」のヒント</p> <p>第 10回 発想の準備 8 いろいろなものを組み合わせよう</p> <p>第 11回 発想のプロセス 1 質問を変えてみよう</p> <p>第 12回 発想のプロセス 2 情報をかき集めよう</p> <p>第 13回 発想のプロセス 3 いったん全部忘れてしまおう</p> <p>第 14回 発想のプロセス 4 ひらめいたら実践しよう</p> <p>第 15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	プレゼンテーション (60%) 提出課題 (40%)		
実務経験について	広告会社にてグラフィックデザイナーとして勤務 フリーランスのグラフィックデザイナーとして活動		

授業科目	住生活学		担当者	川島 茂																																																
	[履修年次]	1年	授業外対応	適宜対応 (要予約)																																																
	[学期]	前期	[単位]	2	[必修/選択]	必修 (注)	[授業形態]	講義																																												
テーマ及び概要	<p>【テーマ】生活環境をとりまく建築計画理論の学習と計画手法の習得</p> <p>【概要】建築計画における基本的な検討要因や手法を解説しつつ、建築設計立案における要件の多様性を理解しつつ、住環境の将来展望を問う。</p> <p>【到達目標】建築計画の基本的な原理を理解しつつ、現代生活に対応し得る設計、計画手法の知識を習得する。</p>																																																			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 建築計画教材研究所 編「改訂版 建築計画を学ぶ」理工学図書</p> <p>(2) 日本建築学会 編「コンパクト建築設計資料」丸善</p>																																																			
授業スケジュール	<table border="0"> <tr><td>第 1 回</td><td>ガイダンス</td><td>建築の学び方、考え方</td></tr> <tr><td>第 2 回</td><td>建築設計の主題</td><td>建築設計理念について</td></tr> <tr><td>第 3 回</td><td>建築技術者の役割</td><td>設計競技による設計者選定</td></tr> <tr><td>第 4 回</td><td>建築計画とは-1</td><td>建築行為 (生産) と建築計画</td></tr> <tr><td>第 5 回</td><td>建築計画とは-2</td><td>建築計画と設計図書</td></tr> <tr><td>第 6 回</td><td>空間と行為-1</td><td>建築の機能 その歴史的背景</td></tr> <tr><td>第 7 回</td><td>空間と行為-2</td><td>建築の機能 合理からコミュニティーデザインへ</td></tr> <tr><td>第 8 回</td><td>近現代建築について-1</td><td>ル・コルビュジェの建築</td></tr> <tr><td>第 9 回</td><td>近現代建築について-2</td><td>ミース・ファン・デル・ローエの建築</td></tr> <tr><td>第 10 回</td><td>近現代建築について-3</td><td>建築の公共空間</td></tr> <tr><td>第 11 回</td><td>寸法の計画</td><td>人体寸法と動作寸法</td></tr> <tr><td>第 12 回</td><td>プランニング演習</td><td>室空間のプランニング</td></tr> <tr><td>第 13 回</td><td>風土・文化・建築</td><td>日本の住空間</td></tr> <tr><td>第 14 回</td><td>文化・社会・建築</td><td>日本の現代住宅建築</td></tr> <tr><td>第 15 回</td><td>まとめ・総合レポート出題</td><td></td></tr> </table>							第 1 回	ガイダンス	建築の学び方、考え方	第 2 回	建築設計の主題	建築設計理念について	第 3 回	建築技術者の役割	設計競技による設計者選定	第 4 回	建築計画とは-1	建築行為 (生産) と建築計画	第 5 回	建築計画とは-2	建築計画と設計図書	第 6 回	空間と行為-1	建築の機能 その歴史的背景	第 7 回	空間と行為-2	建築の機能 合理からコミュニティーデザインへ	第 8 回	近現代建築について-1	ル・コルビュジェの建築	第 9 回	近現代建築について-2	ミース・ファン・デル・ローエの建築	第 10 回	近現代建築について-3	建築の公共空間	第 11 回	寸法の計画	人体寸法と動作寸法	第 12 回	プランニング演習	室空間のプランニング	第 13 回	風土・文化・建築	日本の住空間	第 14 回	文化・社会・建築	日本の現代住宅建築	第 15 回	まとめ・総合レポート出題	
第 1 回	ガイダンス	建築の学び方、考え方																																																		
第 2 回	建築設計の主題	建築設計理念について																																																		
第 3 回	建築技術者の役割	設計競技による設計者選定																																																		
第 4 回	建築計画とは-1	建築行為 (生産) と建築計画																																																		
第 5 回	建築計画とは-2	建築計画と設計図書																																																		
第 6 回	空間と行為-1	建築の機能 その歴史的背景																																																		
第 7 回	空間と行為-2	建築の機能 合理からコミュニティーデザインへ																																																		
第 8 回	近現代建築について-1	ル・コルビュジェの建築																																																		
第 9 回	近現代建築について-2	ミース・ファン・デル・ローエの建築																																																		
第 10 回	近現代建築について-3	建築の公共空間																																																		
第 11 回	寸法の計画	人体寸法と動作寸法																																																		
第 12 回	プランニング演習	室空間のプランニング																																																		
第 13 回	風土・文化・建築	日本の住空間																																																		
第 14 回	文化・社会・建築	日本の現代住宅建築																																																		
第 15 回	まとめ・総合レポート出題																																																			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示																																																			
成績評価の方法	総合レポート (40%)、レポート・課題 (60%)																																																			
実務経験について	建築設計監理、コンサルタント業務																																																			

(注) 二級建築士 (木造建築士) 資格指定科目, 教職必修

授業科目	色彩学		担当者	坂上 ちえ子																																	
	[履修年次]	1年	授業外対応	適宜対応																																	
	[学期]	前期	[単位]	2	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義																													
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>生活のあらゆる場面で欠かすことのできない重要な要素である「色彩」について学ぶ。</p> <p>【概要】</p> <p>「色」は身近にあるため、好き、嫌いといった感覚で捉えがちである。この講義では、色覚のメカニズムや色彩心理、色彩調和、色彩計画といった色の基礎的な理論や体系的な知識を学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <p>基礎理論を習得し、それらをコーディネーターなどに応用できることと、色彩に関する検定に挑戦することを目指す。</p>																																				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 大井義雄・川崎秀昭『カラーコーディネーター入門 色彩 改訂増補版』財団法人 日本色彩研究所</p> <p>(2) 随時紹介</p>																																				
授業スケジュール	<table border="0"> <tr><td>第 1 回</td><td>オリエンテーション：講義概要と進め方</td></tr> <tr><td>第 2 回</td><td>色の基礎知識 1：色とは：色が見える仕組み</td></tr> <tr><td>第 3 回</td><td>色の基礎知識 2：色の記録・伝達方法① 色名</td></tr> <tr><td>第 4 回</td><td>色の基礎知識 3：色の記録・伝達方法② 表色系</td></tr> <tr><td>第 5 回</td><td>色の基礎知識 4：色の混合：加法混色・減法混色</td></tr> <tr><td>第 6 回</td><td>色の基礎知識 5：照明：演色性</td></tr> <tr><td>第 7 回</td><td>色の基礎知識 6：色彩の心理① 色の見えの効果</td></tr> <tr><td>第 8 回</td><td>色の基礎知識 7：色彩の心理② 色のイメージ</td></tr> <tr><td>第 9 回</td><td>色の基礎知識 8：色彩調和① 色彩調和の基本形式</td></tr> <tr><td>第 10 回</td><td>色の基礎知識 9：色彩調和② 配色技法</td></tr> <tr><td>第 11 回</td><td>色の基礎知識 10：色彩調和論</td></tr> <tr><td>第 12 回</td><td>色の応用 1：色彩計画</td></tr> <tr><td>第 13 回</td><td>色の応用 2：色と文化</td></tr> <tr><td>第 14 回</td><td>色の応用 3：商品と色</td></tr> <tr><td>第 15 回</td><td>まとめ</td></tr> </table>							第 1 回	オリエンテーション：講義概要と進め方	第 2 回	色の基礎知識 1：色とは：色が見える仕組み	第 3 回	色の基礎知識 2：色の記録・伝達方法① 色名	第 4 回	色の基礎知識 3：色の記録・伝達方法② 表色系	第 5 回	色の基礎知識 4：色の混合：加法混色・減法混色	第 6 回	色の基礎知識 5：照明：演色性	第 7 回	色の基礎知識 6：色彩の心理① 色の見えの効果	第 8 回	色の基礎知識 7：色彩の心理② 色のイメージ	第 9 回	色の基礎知識 8：色彩調和① 色彩調和の基本形式	第 10 回	色の基礎知識 9：色彩調和② 配色技法	第 11 回	色の基礎知識 10：色彩調和論	第 12 回	色の応用 1：色彩計画	第 13 回	色の応用 2：色と文化	第 14 回	色の応用 3：商品と色	第 15 回	まとめ
第 1 回	オリエンテーション：講義概要と進め方																																				
第 2 回	色の基礎知識 1：色とは：色が見える仕組み																																				
第 3 回	色の基礎知識 2：色の記録・伝達方法① 色名																																				
第 4 回	色の基礎知識 3：色の記録・伝達方法② 表色系																																				
第 5 回	色の基礎知識 4：色の混合：加法混色・減法混色																																				
第 6 回	色の基礎知識 5：照明：演色性																																				
第 7 回	色の基礎知識 6：色彩の心理① 色の見えの効果																																				
第 8 回	色の基礎知識 7：色彩の心理② 色のイメージ																																				
第 9 回	色の基礎知識 8：色彩調和① 色彩調和の基本形式																																				
第 10 回	色の基礎知識 9：色彩調和② 配色技法																																				
第 11 回	色の基礎知識 10：色彩調和論																																				
第 12 回	色の応用 1：色彩計画																																				
第 13 回	色の応用 2：色と文化																																				
第 14 回	色の応用 3：商品と色																																				
第 15 回	まとめ																																				
授業外学習(予習・復習)	適宜指示																																				
成績評価の方法	筆記試験 (70%) + 授業での活動内容 (30%)																																				

授業科目	衣生活学	担当者	浅海 真弓		
	[履修年次] 1年	授業外対応	適宜対応		
	[学期] 前期 [単位] 2	[必修/選択]	選択 (注)	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 衣服について様々な側面から多角的に学び、生活における衣服の役割について考える。</p> <p>【概要】 衣服の歴史や着用目的、衣服の機能、衣服素材の特性、衣服の管理方法などの内容を取り上げ、快適、安全で豊かな衣生活を送るために必要な知識を習得する。</p> <p>【到達目標】 衣服の役割を理解するとともに、日常の衣生活に関わる多様な知識を習得する。そして、自らの衣生活の現状と問題点を把握し、解決に向けて実践できるようになることを目標とする。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 岡田宣子編著『ビジュアル衣生活論』建帛社 酒井豊子、藤原康晴編著『ファッションと生活—現代衣生活論』放送大学教育振興会</p>				
授業スケジュール	<p>第 1回 衣服と人間 — あなたはなぜ服を着ますか？</p> <p>第 2回 衣服と民族 — 気候風土と民族衣装の形態</p> <p>第 3回 衣服の変遷 1 — 西洋の服装の変遷</p> <p>第 4回 衣服の変遷 2 — 日本の服装の変遷</p> <p>第 5回 衣服の装いと心理 — 服装から受ける印象と引き起こされる感情</p> <p>第 6回 衣服の素材 1 — 繊維の種類と特徴</p> <p>第 7回 衣服の素材 2 — 糸・布の種類と特徴</p> <p>第 8回 衣服の管理 1 — 洗濯、漂白、柔軟仕上げ、糊付け、アイロン仕上げ、保管</p> <p>第 9回 衣服の管理 2 — 〈実習〉しみ抜き</p> <p>第 10回 衣服の品質と表示 — 繊維の組成と取扱い表示、サイズ表示</p> <p>第 11回 衣服の機能と快適性 1 — 衣服による体温調節 (衣服内気候)</p> <p>第 12回 衣服の機能と快適性 2 — 衣服の動きやすさと拘束性 (衣服圧)</p> <p>第 13回 衣服の設計 — 乳幼児・高齢者の衣服への配慮と工夫、ユニバーサルファッション</p> <p>第 14回 衣服の生産と流通 — アパレル産業と既製服</p> <p>第 15回 衣服と環境 — 衣服の廃棄とリサイクル</p>				
授業外学習(予習・復習)	適宜指示 (予習・復習用のプリント配布)				
成績評価の方法	筆記試験 (50%) + 授業ごとに提出するワークシート (35%) + 課題 (15%)				

(注) 教職必修

授業科目	ファッション造形基礎	担当者	坂上 ちえ子		
	[履修年次] 1年	授業外対応	適宜対応		
	[学期] 前期 [単位] 1	[必修/選択]	選択 (注)	[授業形態]	実習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 被服製作に関わる基礎理論と基本的な製作技術を学ぶ。</p> <p>【概要】 まず基礎縫いを行い、縫製用具や機器の正確な使用方法を身につける。つぎに、基本的な被服の製作を通して着用するヒトの体型を把握しながら縫製の手順や技術を理解する。さらに、編物、刺繍など手芸の基礎も学ぶ。</p> <p>【到達目標】 裏地なしの上衣や手芸品などが作成できるよう基本的な縫製、手芸技法を身につける。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 適宜紹介</p>				
授業スケジュール	<p>第 1回 オリエンテーション：講義概要と進め方</p> <p>第 2回 基礎縫い 1：手縫い① 用具の説明、並縫い</p> <p>第 3回 基礎縫い 2：手縫い② まつり縫い、他</p> <p>第 4回 基礎縫い 3：手縫い③ ボタン、スナップつけ</p> <p>第 5回 基礎縫い 4：ミシン縫製 ミシン、ロックミシン</p> <p>第 6回 上衣 (チュニックブラウス) 製作 1：人体計測と製図</p> <p>第 7回 上衣 (チュニックブラウス) 製作 2：裁断、しるしつけ</p> <p>第 8回 上衣 (チュニックブラウス) 製作 3：仮縫い、試着</p> <p>第 9回 上衣 (チュニックブラウス) 製作 4：本縫い①</p> <p>第 10回 上衣 (チュニックブラウス) 製作 5：本縫い②</p> <p>第 11回 上衣 (チュニックブラウス) 製作 6：仕上げ、着装評価</p> <p>第 12回 工芸 1：レース編み</p> <p>第 13回 工芸 2：毛糸棒針編み</p> <p>第 14回 工芸 3：フランス刺繍</p> <p>第 15回 まとめ</p>				
授業外学習(予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	提出課題 (70%) + 授業での活動内容 (30%)				

(注) 教職必修

授業科目	消費生活論		担当者	坂上 ちえ子				
	[履修年次]	2年	授業外対応	適宜対応				
	[学期]	後期	[単位]	2	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 私たちが「生活すること」は「消費すること」である。消費者問題とその背景を知り、課題と解決、関連する事項を学ぶ。</p> <p>【概要】 2004年に改正消費者保護基本法「消費者基本法」が施行され、消費者の権利が明記された。その中に、「教育の機会の確保」があり、自ら学び、協働して課題を解決することが求められている。主体的に参画できるように基礎知識を身に付ける。</p> <p>【到達目標】 保護されるべき消費者ではなく、生産企業や社会問題との関わりを見直し、真に自立した消費者となることを目指す。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 随時紹介</p>							
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション：講義概要と進め方</p> <p>第2回 消費者問題1：消費者問題とは</p> <p>第3回 消費者問題2：消費者教育</p> <p>第4回 消費者問題3：表示と消費者</p> <p>第5回 消費者問題4：消費者行政</p> <p>第6回 消費者問題5：特定商取引と契約トラブル①</p> <p>第7回 消費者問題6：特定商取引と契約トラブル②</p> <p>第8回 消費者問題7：消費者の安全</p> <p>第9回 消費者問題8：地球環境とエネルギー需給</p> <p>第10回 関連基礎事項1：企業と経営の基礎知識</p> <p>第11回 関連基礎事項2：経済と金融の基礎知識</p> <p>第12回 関連基礎事項3：生活経済と家計</p> <p>第13回 関連基礎事項4：社会保障制度の概要</p> <p>第14回 関連基礎事項5：衣・食・住生活における消費者問題</p> <p>第15回 まとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	適宜指示							
成績評価の方法	筆記試験 (70%) + 授業での活動内容 (30%)							

授業科目	被服材料学		担当者	浅海 真弓				
	[履修年次]	1年	授業外対応	適宜対応				
	[学期]	前期	[単位]	2	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 衣服を構成している繊維、糸、布それぞれの特徴を知り、これらが総合された被服材料の特性について学ぶ。</p> <p>【概要】 繊維や糸、布の種類や構造などについて概説した後、被服材料の諸性質と関連させて解説する。サンプルや映像の紹介、簡単な実験を取り入れながら、身近な衣服の素材に対する理解を深める。</p> <p>【到達目標】 いつも自分が着ている衣服の素材や構造、特性を理解し、これらの知識を衣服の製作・購入、着用、洗濯、保管などの場面で活用できるようになる。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 島崎恒蔵編著『衣服材料の科学』建帛社 日下部信幸著『生活のための被服材料学』家政教育社</p>							
授業スケジュール	<p>第1回 繊維とは？ — 繊維の歴史と分類</p> <p>第2回 繊維の構造 — 繊維の構造と性質の関係</p> <p>第3回 天然繊維1 — 植物繊維 (綿, 麻)</p> <p>第4回 天然繊維2 — 動物繊維 (羊毛)</p> <p>第5回 天然繊維3 — 動物繊維 (絹)</p> <p>第6回 化学繊維1 — 再生繊維 (レーヨン, キュプラ)</p> <p>第7回 化学繊維2 — 半合成繊維 (アセテート, トリアセテート)</p> <p>第8回 化学繊維3 — 合成繊維 (ナイロン, ポリエステル, アクリル), 繊維の性能比較</p> <p>第9回 新しい繊維 — 繊維化技術の発展と高機能素材</p> <p>第10回 糸の種類と構造 — 紡績糸・フィラメント糸の性質, 糸の太さにより (ミニ実験: 糸の観察)</p> <p>第11回 布の種類と構造1 — 織物の組織と性質</p> <p>第12回 布の種類と構造2 — 編物の組織と性質, 織物と編物の性能比較</p> <p>第13回 布の種類と構造3 — 不織布・皮革の性質, 布の構造特性 (ミニ実験: 織物の観察)</p> <p>第14回 被服材料の性質1 — 耐久性と形態的性質</p> <p>第15回 被服材料の性質2 — 快適性と外観的性質</p>							
授業外学習(予習・復習)	適宜指示 (予習・復習用のプリント配布)							
成績評価の方法	筆記試験 (50%) + 授業ごとに提出するワークシート (35%) + 課題 (15%)							

授業科目	生活化学実験	担当者	浅海 真弓
	[履修年次] 1年	授業外対応	適宜対応
	[学期] 後期 [単位] 1	[必修/選択]	選択 [授業形態] 実験
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 被服の素材や洗濯、染色についての知識を深め、科学的に考察する力を身につける。</p> <p>【概要】 被服材料学（繊維・糸・布の性質）、被服整理学（洗濯処理等の効果）および染色学（染色方法、染色堅ろう度）に関連する実験を行う。</p> <p>【到達目標】 実験を通じて被服素材や洗濯、染色への知識や技術を習得する。また、データ処理やレポートの作成方法を習熟するとともに、感覚的ではなく具体的根拠に基づいて論理的に考える力を身につける。</p> <p>※ 生活化学および被服材料学を履修しておくことが望ましい。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント（実験書配布）</p> <p>(2) 島崎恒蔵編著『衣服材料の科学』建帛社 片山倫子編著『衣服管理の科学』建帛社 日本規格協会編『JISハンドブック 31 繊維』日本規格協会</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 実験の説明 — 実験を行う上での注意点、レポートの作成方法</p> <p>第 2 回 糸の太さ — 番手の測定</p> <p>第 3 回 織物の構造 — 厚さ・目付・含気率・織り縮み率の測定</p> <p>第 4 回 吸水性試験 — バイレック法および浸漬法</p> <p>第 5 回 繊維の燃焼性 — 繊維の燃え方・におい・灰の観察</p> <p>第 6 回 繊維の染色性 — 繊維と染料の相性</p> <p>第 7 回 繊維の溶解性 — 混用率の測定</p> <p>第 8 回 糊付け・柔軟仕上げの効果 — 剛軟度の測定</p> <p>第 9 回 漂白・蛍光増白の効果 — 目視観察および機器による測定</p> <p>第 10 回 洗浄試験 — 洗浄力の評価</p> <p>第 11 回 合成染料による染色 — 直接染料および反応染料（染色堅ろう度試験用染色布の作製）</p> <p>第 12 回 染色堅ろう度試験 1 — 洗濯堅ろう度</p> <p>第 13 回 染色堅ろう度試験 2 — 摩擦堅ろう度</p> <p>第 14 回 天然染料による染色 — 媒染した染色布の色彩比較</p> <p>第 15 回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	事前に実験書を精読し、実験の目的や方法を理解しておくこと。実験後は結果を整理・考察してレポートを作成すること。		
成績評価の方法	実験ごとに提出するレポート・課題（70%）＋ 実験への取り組み（30%）		

授業科目	食物と栄養	担当者	広瀬 直人
	[履修年次] 1年	授業外対応	授業終了後
	[学期] 後期 [単位] 2	[必修/選択]	選択(注) [授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 食物に含まれている栄養成分について学ぶ。</p> <p>【概要】 食物に含まれている水分、炭水化物、脂質、タンパク質、ミネラル、ビタミン、その他成分を紹介し、食物の保存や調理中に生じる栄養成分の化学的な変化について解説する。</p> <p>【到達目標】 食物に含まれている種々の栄養成分や加工利用について理解する。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1)</p> <p>(2) 太田英明・北島直文・白土英樹編『食べ物と健康 食品の科学 改訂第2版』南江堂</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 人間と食物、食品加工</p> <p>第 2 回 穀類の栄養</p> <p>第 3 回 穀類の加工利用</p> <p>第 4 回 いも類の栄養と加工利用</p> <p>第 5 回 豆類の栄養と加工利用</p> <p>第 6 回 野菜類の栄養</p> <p>第 7 回 野菜類の加工利用</p> <p>第 8 回 果実類の栄養</p> <p>第 9 回 果実類の加工利用</p> <p>第 10 回 きのこと、海藻類の栄養と加工利用</p> <p>第 11 回 食肉類の栄養と加工利用</p> <p>第 12 回 魚介類の栄養と加工利用</p> <p>第 13 回 乳類の栄養と加工利用</p> <p>第 14 回 卵類の栄養と加工利用</p> <p>第 15 回 油脂、調味料の栄養と加工利用</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	期末試験 70%、授業への取り組み・参加状況 30%		
実務経験について	食品会社および公設試験研究機関において研究職に従事		

(注) 教職必修

授業科目	調理学		担当者	立石 百合恵
	[履修年次] 1年		授業外対応	講義終了時
	[学期] 後期	[単位] 2単位	[必修/選択]	選択 [授業形態]
テーマ及び概要	<p>【テーマ】食品素材を食べやすくするための調理操作を、基礎的、系統的、科学的理論で解明し実際に役立つよう体系化して再現できる法則を見出す。</p> <p>【概要】・自然科学の手法により、調理過程に生じる種々の諸現象を確認する。 ・調理操作、味、食品素材、調理と生活環境について学ぶ</p> <p>【到達目標】調理学の意義を理解し、調理の体系的な理論を実生活に応用し役立てる能力を培う 基本的な調理操作法の習得</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) オールガイド食品成分表 実教出版株式会社</p> <p>(2) 山崎清子 島田キミエ「調理と理論」同文書院 石松成子 銚 吉 外西壽鶴子 NEW 基礎調理学</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 オリエンテーション 調理学の意義</p> <p>第 2 回 調理科学：砂糖の温度変化による変化について</p> <p>第 3 回 調理の基本：調味料の働きと特徴について</p> <p>第 4 回 調理の基本：食事と栄養素・調理器具について</p> <p>第 5 回 調理科学：卵の熱変性について</p> <p>第 6 回 調理の基本：卵類・乳類・豆類の特徴について</p> <p>第 7 回 調理科学：小麦粉の特性について</p> <p>第 8 回 調理の基本：穀類の調理的意義・芋類・でん粉類・油の特性について</p> <p>第 9 回 調理科学：油の乳化について</p> <p>第 10 回 魚の基本と操作：鹿児島県の食材調理（魚介）</p> <p>第 11 回 調理科学：ゲル化剤の特徴について</p> <p>第 12 回 調理の基本：海藻類・魚類・肉類について</p> <p>第 13 回 調理の基本：野菜類・果実類・きのこ類について</p> <p>第 14 回 調理の基本：嗜好飲料類・香辛料類・調理加工食品について</p> <p>第 15 回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	予習・復習を重視			
成績評価の方法	筆記試験 50%、実技試験 50%			
実務経験について	病院で管理栄養士として勤務、新聞やテレビ等へのレシピ提供、漢方・薬膳料理研究、小児科にて育児支援、講演会活動			

授業科目	調理実習		担当者	立石 百合恵
	[履修年次] 2年		授業外対応	講義終了時
	[学期] 前期	[単位] 1単位	[必修/選択]	選択 (注) [授業形態]
テーマ及び概要	<p>【テーマ】調理理論と調理操作の融合</p> <p>【概要】・具体的な調理操作（和・洋・中）を行い、それぞれの献立について学び、調理技術を向上させる ・清潔な食品の取り扱いの習得 ・食環境整備の有効性を学ぶ ・食事の作法とマナーについて学習する</p> <p>【到達目標】基本的な調理技術の習得と清潔で安全な調理操作の習得 食育による社会適応力の習得</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 石原三姉ら共著 あすの健康と調理 アイ・ケイコーポレーション</p> <p>(2) 山崎清子 島田キミエ「調理と理論」同文書院</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 オリエンテーション（調理の意義と目的、実習方法について）</p> <p>第 2 回 日本料理 米のガス炊飯 若竹汁、煮魚、春野菜のお浸し</p> <p>第 3 回 西洋料理 ロールパン、ハンバーグステーキ、ミネストローネスープ、フレンチサラダ、コーヒー</p> <p>第 4 回 日本料理 親子丼、潮汁、なます、サイダー寒</p> <p>第 5 回 中国料理 白飯、酢豚、棒棒鶏、杏仁豆腐</p> <p>第 6 回 レンジ調理 インスタント食品を用いた栄養バランス食</p> <p>第 7 回 西洋料理 サンドイッチ、マカロニグラタン、トマトのラビゴットソースサラダ、紅茶</p> <p>第 8 回 日本料理 散らし寿司、むらも汁、即席漬、水羊羹</p> <p>第 9 回 中国料理 白飯、カニと野菜のスープ、マーボー豆腐、焼き餃子、中華饅</p> <p>第 10 回 日本料理 茶飯、茶碗蒸し、天ぷら、もずく酢、抹茶ゼリー</p> <p>第 11 回 西洋料理 チキンカレー、バターピラフ、コールスローサラダ、ブラマンジェ</p> <p>第 12 回 日本料理 きつねうどん、おにぎり、肉じゃが、ねぎ味噌、黒蜜かけ</p> <p>第 13 回 西洋料理 パンの調理（食パン）、コンソメスープ（牛）、マヨネーズサラダ、ヨーグルト</p> <p>第 14 回 郷土料理 鶏飯、糸瓜のみそ炒め、きびなご菊作り、ゴーヤチャンプルー、両棒餅</p> <p>第 15 回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	実技試験（40%）、実技試験（40%）、授業ごとの実技内容の評価（20%）			
実務経験について	病院で管理栄養士として勤務、新聞やテレビ等へのレシピ提供、漢方・薬膳料理研究、小児科にて育児支援、講演会活動			

(注) 教職必修

授業科目	服飾文化史		担当者	田邊 しずか				
	[履修年次]	2	授業外対応	適宜対応				
	[学期]	後期	[単位]	2	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】西洋と日本の服飾文化史、現代衣生活の成り立ち</p> <p>【概要】西洋と日本に分けて古い時代からの変遷を辿り、形態的特徴だけでなく、社会的、文化的背景を踏まえて服飾の歴史を学ぶ。授業は大きく分けて三部構成である。</p> <p>【第一部】西洋服飾史、【第二部】日本服飾史、【第三部】服飾文化史を捉える上で重要なテーマに関する西洋と日本の服飾</p> <p>【到達目標】西洋と日本の服飾の歴史、形態的特徴とその背景を理解する。</p> <p>多様な文化、服飾観を学ぶことによって、現代衣生活や今後の可能性について考え、自分なりの見解を持つことができる。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布，一部 Web でも公開</p> <p>(2) 深井晃子（監修），『増補新装カラー版 世界服飾史』，美術出版社，2010. 増田美子（編），『日本服飾史』，東京堂出版，2013.</p>							
授業スケジュール	<p>第 1 回 ガイダンス、服飾文化史の資料（史料）、衣服の起源と機能</p> <p>第 2 回 西洋服飾文化史 1：古代ギリシャ、古代ローマの服飾</p> <p>第 3 回 西洋服飾文化史 2：中世ゴシック、ルネサンスの服飾</p> <p>第 4 回 西洋服飾文化史 3：17 世紀オランダ市民、フランス絶対王政の貴族の服飾</p> <p>第 5 回 西洋服飾文化史 4：18 世紀フランス、革命期までの服飾</p> <p>第 6 回 西洋服飾文化史 5：19 世紀・20 世紀初頭 — 百貨店、オートクチュール・メゾン</p> <p>第 7 回 西洋服飾文化史 6：大戦中、大戦後</p> <p>第 8 回 日本服飾文化史 1：胡服の伝来、唐風の衣服から日本の装束へ</p> <p>第 9 回 日本服飾文化史 2：平安～江戸時代 — 公家、武家、町人</p> <p>第 10 回 日本服飾文化史 3：染織、文様、明治以降のきもの</p> <p>第 11 回 日本服飾文化史 4：洋装化 — 明治、大正、昭和初期</p> <p>第 12 回 日本服飾文化史 5：戦中・戦後、現代の服飾文化</p> <p>第 13 回 服飾文化史のテーマ 1：西洋から見た東洋 — シノワズリ、ジャポニスム</p> <p>第 14 回 服飾文化史のテーマ 2：服飾とジェンダー — 西洋の異性装、きものジェンダー</p> <p>第 15 回 服飾文化史のテーマ 3：伝統的な染織品、歴史や技術</p>							
授業外学習(予習・復習)	適宜提示（予習・復習のためのキーワードや参考文献を提示）							
成績評価の方法	授業毎のコメントペーパー（50%）、期末レポート（50%）							

授業科目	保育学		担当者	奥 章三・池堂 猛彦・田中 真理				
	[履修年次]	2年	授業外対応	適宜対応				
	[学期]	後期	[単位]	2	[必修/選択]	選択（注）	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】保育の概念と保育に必要な基礎知識について学ぶ。</p> <p>【概要】子どもは、出生後さまざまな経験を積みながら発達していく。そして、子どもの発達には、周囲からの働きかけ（発達援助）が不可欠である。保育学講義では、保育（発達援助）の概念と実際を学ぶとともに、子どもの標準的な発育発達、子どもによくみられる病気と対処法、子どもの安全対策等、保育に必要な知識の習得を目指す。</p> <p>【到達目標】保育の概念と保育に必要な基礎知識について理解し、説明ができるようになること。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) (担当 奥) 『子どもの発達と保育』、実務出版</p> <p>(2) (担当 奥) 『乳幼児の発達からみる保育“気づきのポイント” 44』、診断と治療社 (担当 田中) 民秋言編著『保育所実習新版』北大路書房，2020年</p>							
授業スケジュール	<p>第 1 回 (担当 奥) 子どもの発達の特徴 ～乳幼児の発達と保育環境</p> <p>第 2 回 子どもの発達の過程（その1）～ 身体発育、運動発達 ～</p> <p>第 3 回 子どもの発達の過程（その2）～ 精神発達、人間関係の発達 ～</p> <p>第 4 回 子どもの生活（その1）栄養と食習慣、生活習慣の形成</p> <p>第 5 回 子どもの生活（その2）健康管理と事故防止</p> <p>第 6 回 子どもの保育（その1）保育の意義と重要性、保育環境</p> <p>第 7 回 子どもの保育（その2）保育の方法</p> <p>第 8 回 子どもの保育（その3）発達障害児への対応</p> <p>第 9 回 子どもの福祉</p> <p>第 10 回 講義の振り返り</p> <p>第 11 回 (担当 田中) 事前事後指導①：事前指導</p> <p>第 12 回 (担当 池堂) 実習①：保育園における保育実習(1)</p> <p>第 13 回 実習②：保育園における保育実習(2)</p> <p>第 14 回 実習③：保育園における保育実習(3)</p> <p>第 15 回 (担当 田中) 事前事後指導②：事後指導</p>							
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。							
成績評価の方法	(担当 奥) 筆記試験（100%） 各担当者が100点/3で点数を算出した後、3人の合計を総合点として評価する。							
実務経験について	奥：病院に小児科医として勤務 池堂：保育園の園長として勤務							

(注) 生活科学専攻は教職必修

授業科目	卒業研究A		担当者	浅海 真弓
	[履修年次]	2年	授業外対応	適宜対応
	[学期]	通年	[単位]	4
	[必修/選択]	選択	[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 被服材料学、被服整理学および染色加工学に関する課題について研究し、その成果をまとめる。</p> <p>【概要】 各自で研究テーマを設定し、課題を明らかにするための手法を検討して実験を行う。実験により得られたデータを図表にまとめて整理し、考察する。最終的に研究成果を論文にまとめ、卒業研究発表会で発表する。</p> <p>【到達目標】 自分で計画を立てて実験を遂行することにより、課題を解決していく力や科学的に考察する力を身につける。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 日本規格協会編『JISハンドブック 31 繊維』日本規格協会 福地健太郎、園山隆輔著『図解でわかる！理工系のためのよい文章の書き方』翔泳社</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 オリエンテーション (研究の進め方・論文の作成方法について)</p> <p>第 2回 ~第 4回 先行研究・参考文献の資料収集</p> <p>第 5回 資料収集の報告発表、研究テーマの設定</p> <p>第 6回 ~第 10回 予備実験</p> <p>第 11回 予備実験の報告発表、研究テーマの確定</p> <p>第 12回 ~第 22回 本実験</p> <p>第 23回 ~第 26回 論文作成、追加実験</p> <p>第 27回 ~第 29回 研究発表の準備 (要旨・スライドの作成)</p> <p>第 30回 まとめ (要旨・スライド・論文の最終確認)</p>			
授業外学習(予習・復習)	報告発表や課題を適宜指示するため、授業外での予習・復習・発表準備 (資料・スライドの作成) が必要である。			
成績評価の方法	卒業論文 (50%) + 研究発表 (20%) + 授業および課題への取り組み (30%)			

業科目	卒業研究A		担当者	田中 真理
	[履修年次]	2年	授業外対応	適宜対応
	[学期]	通年	[単位]	4
	[必修/選択]	選択 (注)	[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 心理学に関するテーマについて、リサーチ・分析し、成果として卒業論文にまとめプレゼンテーションを行う。</p> <p>【概要】 心理学に関する研究テーマやリサーチクエスチョンを設定した上で、先行研究について概観、資料やデータの収集、分析、結果の整理、考察を行う。最後に、卒業論文としてまとめるとともに、卒業研究発表会にて研究の成果を発表する。</p> <p>【到達目標】 ①調査研究のプロセスを体験する中で、日常の事象に対する科学的な視点を養う。 ②調査研究や論文執筆に必要な基礎知識やスキルを習得する。 ③研究の成果についてわかりやすくプレゼンテーションを行うことができる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 適宜紹介する。</p> <p>(2) 松井豊 (著) 『改訂新版 心理学論文の書き方…卒業論文や修士論文を書くために』河出書房新, 2010年</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 オリエンテーション</p> <p>第 2回 調査研究の進め方</p> <p>~ //</p> <p>第 4回 //</p> <p>第 5回 テーマ設定、情報収集、分析、結果整理、考察、論文の執筆 (毎回の報告)</p> <p>~ //</p> <p>第 26回 //</p> <p>第 27回 発表会の資料作成、プレゼンテーションの準備</p> <p>~ //</p> <p>第 29回 //</p> <p>第 30回 卒業研究発表会</p>			
授業外学習(予習・復習)	毎回課題を課すため、授業時間外の学習を要す。			
成績評価の方法	卒業論文とプレゼンテーション (70%) + 授業への参加度と毎回の課題 (30%)			

(注) 教職課程履修者を優先する。

授業科目	ファッションデザイン論		担当者	田邊 しずか				
	[履修年次]	1	授業外対応	適宜対応				
	[学期]	後期	[単位]	2	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】ファッションデザインの基礎とその展開</p> <p>【概要】前半はファッションデザインの基礎である、形態、色、素材、それらを組み合わせたコンポジション、ファッションイメージについて学ぶ。後半は、被服設計を行うとき重要である人体やパターンについて学びつつ、デザイン画に必要な8頭身モデルや着装された衣服を描く。最終課題では、ファッションデザイン画を含むミニポートフォリオを作成する。</p> <p>【到達目標】ファッションデザインの考え方を理解し、設定されたコンセプトに沿ったファッションデザインを行い、他者に伝えるためのポートフォリオを作成することができる。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布，一部 Web でも公開</p> <p>(2) 文化服装学院編，『文化ファッション大系 改訂版 服飾関連専門講座 (2) 服飾デザイン』，文化出版局，2021. ファッションクリエイション学科編，『文化学園大学ファッションデザイン学講座 ファッション画』，文化出版局，2021.</p>							
授業スケジュール	<p>第 1 回 オリエンテーション：授業概要と進め方、デザイン史概説</p> <p>第 2 回 服飾デザインとは、20 世紀ファッション史、最新のコレクションを見る</p> <p>第 3 回 ファッションデザイン基礎 1：形態</p> <p>第 4 回 ファッションデザイン基礎 2：色彩、色彩のイメージ</p> <p>第 5 回 ファッションデザイン基礎 3：素材</p> <p>第 6 回 ファッションデザイン基礎 4：コンポジション、ファッションイメージ</p> <p>第 7 回 流行、アパレル企画</p> <p>第 8 回 人体の構造と計測/8 頭身モデルの描き方 1：フロント</p> <p>第 9 回 8 頭身モデルの描き方 2：バック、手、足</p> <p>第 10 回 8 頭身モデルの描き方 3：ポーズ</p> <p>第 11 回 デザインとパターン 1：衿、袖/着装画の練習 (トップス)</p> <p>第 12 回 デザインとパターン 2：スカート、パンツ/着装画の練習 (ボトムス)</p> <p>第 13 回 ファッションデザイン実践 1：デザイン画の表現法/モデルへ着装</p> <p>第 14 回 ファッションデザイン実践 2：デザイン画の着色法/モデルへ着装</p> <p>第 15 回 アパレル動向、ファッションデザインのポートフォリオ、まとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	適宜指示							
成績評価の方法	期末課題提出 (40%) + 授業内実践課題 (30%) + 授業毎のコメントペーパー (30%) デザイン画を作成しますが絵が不得手でも構いません。理論の理解、課題への取り組みを評価します。							

授業科目	ファッション造形 I		担当者	坂上 ちえ子				
	[履修年次]	1 年	授業外対応	適宜対応				
	[学期]	後期	[単位]	1	[必修/選択]	選択 (注)	[授業形態]	実習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 上半身衣と下半身衣の原型展開とスカートの製作方法を学ぶ。</p> <p>【概要】 衣服を平面製図法で行う場合、基本となる型紙 (原型) の把握が重要である。まず、基本的な衣服である裏布つきスカートの製作実習を行い、それらの手順と方法を学ぶ。さらに、上・下半身衣の原型とその展開について学び、理解する。</p> <p>【到達目標】 平面製図の方法を理解し原型展開ができることと、裏布つきスカートの製作技術習得を目指す。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 文化服装学院『文化ファッション大系 服飾造形講座 2 スカート・パンツ』文化出版局</p>							
授業スケジュール	<p>第 1 回 オリエンテーション：講義概要と進め方</p> <p>第 2 回 下衣 (スカート) 製作 1：スカートの製図</p> <p>第 3 回 下衣 (スカート) 製作 2：表布の裁断，印つけ</p> <p>第 4 回 下衣 (スカート) 製作 3：仮縫い</p> <p>第 5 回 下衣 (スカート) 製作 4：試着，補正</p> <p>第 6 回 下衣 (スカート) 製作 5：表布の縫製 1</p> <p>第 7 回 下衣 (スカート) 製作 6：表布の縫製 2</p> <p>第 8 回 下衣 (スカート) 製作 7：ファスナーつけ</p> <p>第 9 回 下衣 (スカート) 製作 8：裏布の裁断，印つけ</p> <p>第 10 回 下衣 (スカート) 製作 9：裏布の縫製</p> <p>第 11 回 下衣 (スカート) 製作 10：ベルトつけ</p> <p>第 12 回 下衣 (スカート) 製作 11：仕上げ，着装評価</p> <p>第 13 回 上衣 (原型) 製作 1：上半身衣の原型</p> <p>第 14 回 上衣 (原型) 製作 2：上半身衣のデザイン展開</p> <p>第 15 回 まとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	適宜指示							
成績評価の方法	提出課題 (70%) + 授業での活動内容 (30%)							

(注) 教職必修

授業科目	ファッション造形Ⅱ	担当者	坂上 ちえ子
	[履修年次] 2年	授業外対応	適宜対応
	[学期] 前期 [単位] 1	[必修/選択] 選択	[授業形態] 実習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】ブラウスとパンツのデザイン展開と製作方法を学ぶ。</p> <p>【概要】基本的な上半身衣のブラウスと下半身衣のパンツのデザインと製作方法、その過程を学ぶ。デザインについては、着装者の体型や動きを考慮した製図展開が行えるよう、また、製作については、目的や段階に応じた効率的な縫製方法を学ぶ。</p> <p>【到達目標】上、下半身衣のデザインと製図展開ができることと、迅速で適切な縫製技術の習得を目指す。</p>		
(1)テキスト	(1) プリント		
(2)参考文献	(2) 文化服装学院『文化ファッション大系 服飾造形講座3 ブラウス・ワンピース』文化出版局		
授業スケジュール	第 1回 オリエンテーション：講義概要と進め方 第 2回 上衣（ブラウス）製作1：デザインと製図 第 3回 上衣（ブラウス）製作2：裁断と印つけ 第 4回 上衣（ブラウス）製作3：仮縫い 第 5回 上衣（ブラウス）製作4：試着、補正 第 6回 上衣（ブラウス）製作5：見頃の縫製 第 7回 上衣（ブラウス）製作6：衿つくりと衿つけ 第 8回 上衣（ブラウス）製作7：袖つくりと袖つけ 第 9回 上衣（ブラウス）製作8：ボタンホール、ボタンつけ、仕上げ 第 10回 下衣（パンツ）製作1：デザインと製図 第 11回 下衣（パンツ）製作2：裁断と印つけ 第 12回 下衣（パンツ）製作3：仮縫い、試着、補正 第 13回 下衣（パンツ）製作4：縫製 第 14回 下衣（パンツ）製作5：仕上げ 第 15回 着装評価、まとめ		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	提出課題 (70%) + 授業での活動内容 (30%)		

授業科目	ファッションアイテム演習	担当者	田邊 しずか
	[履修年次] 2	授業外対応	適宜対応
	[学期] 後期 [単位] 1	[必修/選択] 選択	[授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】ファッションアイテムの知識と工芸技法の習得</p> <p>【概要】前半は、編物（編む）、刺繍（縫う）、組紐（組む）の工芸製作ならびに各技法に関する服飾品の歴史や造形を学ぶ。後半は、前半に学んだ工芸を一部に取り入れた手提げバッグの製作である。加えて、副資材がアパレル小物にもたらす効果について学び、手提げバッグのデザインは自身で行なう。</p> <p>【到達目標】各工芸について理解し、技法を習得し作品を仕上げることができる</p>		
(1)テキスト	(1) プリントを配布、一部 Web でも公開		
(2)参考文献	(2) 石井照子（編著）、『生活造形—結ぶ・編む・組む・織る・繡う—』、建帛社、1995.		
授業スケジュール	第 1回 ガイダンス 第 2回 編む1：編みの技法と実践 第 3回 編む2：レース編みの実践 第 4回 編む3：レースのモチーフ製作 第 5回 組む1：組紐の技法と実践 第 6回 組む2：組紐、日本の伝統的な結び 第 7回 刺繍1：刺繍の技法と実践 第 8回 刺繍2：刺繍サンプラー 第 9回 刺繍3：モチーフの製作 第 10回 副資材1：副資材の種類、ファスナーポーチ 第 11回 副資材2：手提げバッグの設計 第 12回 副資材3：手提げバッグの製作（裁断等） 第 13回 副資材4：手提げバッグの製作（縫製等） 第 14回 副資材5：手提げバッグの製作（仕上げ等） 第 15回 まとめ		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	提出課題 (70%) + 授業への取り組み (30%)		

授業科目	ファッションビジネス		担当者	坂上 ちえ子		
	[履修年次]	2年	授業外対応	適宜対応		
	[学期]	後期	[単位]	2	[授業形態]	講義
			[必修/選択]	選択		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>ファッションに対する理解を深めるため、デザインや縫製だけではなくファッション産業やビジネスについて学ぶ。</p> <p>【概要】</p> <p>衣服を大量生産、大量消費する時代は過ぎ、ファッション産業は生活文化と生活を豊かにするライフスタイルの提案を目的として企業活動を行う時代となった。ファッション産業をビジネスと造形の両面から学び、ファッション全体の背景や仕組みを捉える。</p> <p>【到達目標】</p> <p>基礎知識を習得し、企画・販売の視点からも衣生活を充実させる。またファッションビジネス検定に挑戦することも目指す。</p>					
(1)テキスト	(1)	プリント				
(2)参考文献	(2)	日本ファッション教育振興会『ファッションビジネス [I]』財団法人 日本ファッション教育振興会				
授業スケジュール	<p>第 1回 オリエンテーション：講義概要と進め方</p> <p>第 2回 ファッションビジネス知識 1：ファッションビジネスの概要</p> <p>第 3回 ファッションビジネス知識 2：ファッション消費と消費者行動</p> <p>第 4回 ファッションビジネス知識 3：アパレル産業と小売産業</p> <p>第 5回 ファッションビジネス知識 4：ファッションマーケティング</p> <p>第 6回 ファッションビジネス知識 5：ファッションマーチャンダイジング</p> <p>第 7回 ファッションビジネス知識 6：ファッション物流と流通</p> <p>第 8回 ファッションビジネス知識 7：ファッションプロモーション</p> <p>第 9回 ファッションビジネス知識 8：ビジネス基礎知識と計数管理</p> <p>第 10回 ファッション造形知識 1：ファッション文化</p> <p>第 11回 ファッション造形知識 2：ファッションコーディネート基礎知識</p> <p>第 12回 ファッション造形知識 3：ファッション商品知識—服種・アイテム</p> <p>第 13回 ファッション造形知識 4：ファッションデザインの定義と特性</p> <p>第 14回 ファッション造形知識 5：パターンメイキングとファッションエンジニアリング</p> <p>第 15回 まとめ</p>					
授業外学習(予習・復習)	適宜指示					
成績評価の方法	筆記試験 (70%) + 授業での活動内容 (30%)					

授業科目	卒業研究 B		担当者	坂上 ちえ子		
	[履修年次]	2年	授業外対応	適宜対応		
	[学期]	通年	[単位]	4	[授業形態]	演習
			[必修/選択]	選択		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>学生自らが設定した衣生活に関わる課題について、分析・研究し、成果をまとめる。</p> <p>【概要】</p> <p>前期は衣生活に関わる問題やテーマを探索するとともに、それらを解明する調査や実験の手法も学ぶ。後期は自らが設定した課題を各自で調査・考察して文章にまとめる。さらに、卒業研究発表会において、それらの研究成果を発表する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>まず、衣生活に関する研究課題とそれに連なる問題点を明らかにし、問題を解明するに適切な手法を用いて分析・解決する。さらに、研究成果を文書にまとめることと、効果的な発表方法を身につけることを目指す。</p>					
(1)テキスト	(1)	適宜配布				
(2)参考文献	(2)	適宜紹介				
授業スケジュール	<p>第 1回 オリエンテーション</p> <p>第 2～ 10回 卒業研究のための基礎知識 1：文献購読</p> <p>第 11～ 12回 卒業研究のための基礎知識 2：研究手法の検討・理解</p> <p>第 13～ 15回 卒業研究のための基礎知識 3：テーマ設定と文献・情報収集</p> <p>第 16～ 23回 卒業研究 1：各自の調査・研究・考察</p> <p>第 24～ 27回 卒業研究 2：論文作成</p> <p>第 28～ 30回 卒業研究 3：発表準備、練習</p>					
授業外学習(予習・復習)	適宜指示					
成績評価の方法	卒業研究成果 (60%) + 研究発表 (20%) + 授業での取り組み内容 (20%)					

授業科目	ビジュアルデザイン基礎Ⅰ		担当者	北 一浩
	[履修年次]	1年	授業外対応	適宜対応 (要予約)
	[学期]	前期	[単位]	1
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 コンピューターを使用し、ビジュアルデザインの基礎的な考え方を学ぶ。</p> <p>【概要】 グラフィックデザインの基礎となる、ドローイングソフト「Adobe Illustrator」の基礎的な使用法及び、ビジュアルデザインの基礎的な考え方を学ぶ。</p> <p>【到達目標】 今後ビジュアルデザインのデザインワークに取り組むにあたり、基本となる考え方やソフトウェアの操作方法を習得する。</p> <p>※本講座の受講生は「ビジュアルデザイン基礎Ⅱ」を必ず受講してください。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 使用しない。適宜、プリントを配布する。</p> <p>(2) 参考文献は適宜紹介する。</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 オリエンテーション</p> <p>第 2回 Illustrator 基本操作 1 オブジェクトの作成、線・塗りの設定</p> <p>第 3回 実践課題 1 幾何形態色彩構成</p> <p>第 4回 ”</p> <p>第 5回 Illustrator 基本操作 3 パスの基本知識、ベジェ曲線</p> <p>第 6回 実践課題 2 ピクトグラム</p> <p>第 7回 ”</p> <p>第 8回 Illustrator 基本操作 4 文字入力、フォント、文字のアウトライン化</p> <p>第 9回 実践課題 3 タイポグラフィ構成</p> <p>第10回 ”</p> <p>第11回 応用課題 1 名刺のデザイン</p> <p>第12回 ”</p> <p>第13回 応用課題 2 ポスターのデザイン</p> <p>第14回 ”</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	提出課題 (50%) プレゼンテーション (50%)			
実務経験について	広告会社にてグラフィックデザイナーとして勤務 フリーランスのグラフィックデザイナーとして活動			

授業科目	ビジュアルデザイン基礎Ⅱ		担当者	上笹貫 鷹暁
	[履修年次]	1年	授業外対応	適宜対応 (要予約)
	[学期]	前期	[単位]	1
			[必修/選択]	選択 (注)
			[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 コンピュータを用いたビジュアルデザイン制作の基礎を学ぶ。</p> <p>【概要】 ドローソフト「Adobe Illustrator」の基礎的な操作方法を学び、デザインワークに必要な表現技術と美的感覚を養う。</p> <p>【到達目標】 デザインワークを行う上で必要十分な Adobe Illustrator の操作方法を習得する。</p> <p>※本講義の受講生は必ず「ビジュアルデザイン基礎Ⅰ」と合わせて履修をしてください。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 使用しない。適宜、プリントを配布する。</p> <p>(2) 適宜紹介する。</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 オリエンテーション</p> <p>第 2回 Illustrator の基本操作 1 オブジェクトの作成 (選択ツール/ダイレクト選択ツール/オブジェクトツール)</p> <p>第 3回 Illustrator の基本操作 2 線と塗りの設定 (カラーパネル/グラデーションツール/透明パネル)</p> <p>第 4回 Illustrator の基本操作 3 ペンツール (ペンツール/線パネル)</p> <p>第 5回 Illustrator の基本操作 4 オブジェクトの編集 (整列パネル/パスファインダー/変形/グループ化/重ね順)</p> <p>第 6回 Illustrator の基本操作 5 文字の編集 (フォント/文字パネル/段落パネル/アウトライン)</p> <p>第 7回 Illustrator の基本操作 6 画像の配置と編集 (レイヤーパネル/クリッピングマスク)</p> <p>第 8回 Illustrator の基本操作 7 レアウトの基本 (ガイドライン/近接・整列・反復・対比)</p> <p>第 9回 実践課題 1 ピクトグラム</p> <p>第10回 実践課題 2 ピクトグラム</p> <p>第11回 実践課題 3 名刺</p> <p>第12回 実践課題 4 POP</p> <p>第13回 実践課題 5 POP</p> <p>第14回 実践課題 6 ポスター (塗り足し/トリムマーク)</p> <p>第15回 実践課題 7 ポスター</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	授業課題 (100%)			
実務経験について	制作会社にてディレクター・デザイナーとして勤務			

授業科目	ビジュアルデザイン論Ⅱ		担当者	上笹貫 鷹暁
	[履修年次]	1年	授業外対応	適宜対応 (要予約)
	[学期]	後期	[単位]	2
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】ビジュアルデザインと現代社会の関わりについて概観を得ることを通じて、地域の課題をデザインを用いて解決するための知識と思考力を身につける。</p> <p>【概要】地域の課題に対しデザインを用いて解決しようとする取り組みが全国各地に多く存在する。前半ではビジュアルデザインの現代社会における役割と意義を学び、後半では実例を通じて地域の多面性とデザインの可能性について理解を深める。</p> <p>【到達目標】現代のビジュアルデザインについて概観できる視野を身に付け、地域の課題を発見する力とデザインを用いて解決する力を養う。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 使用しない。適宜、プリントを配布する。</p> <p>(2) 適宜紹介する。</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 オリエンテーション</p> <p>第 2回 導入 デザインとは</p> <p>第 3回 ビジュアルコミュニケーションの基礎 1 情報をひろう (目的/ターゲット/調査)</p> <p>第 4回 ビジュアルコミュニケーションの基礎 2 情報をならべる (レイアウト/文字/カラー)</p> <p>第 5回 ビジュアルコミュニケーションの基礎 3 情報をひろめる (媒体/手段/PR)</p> <p>第 6回 ビジュアルコミュニケーションの基礎 4 ブランディングデザイン (コンセプト/ロゴマーク/VI)</p> <p>第 7回 ビジュアルコミュニケーションの基礎 5 メディアとデザイン (紙媒体/Web 媒体/映像表現)</p> <p>第 8回 地域とデザイン 1 食 (現状と課題/商品コンセプト/パッケージデザイン)</p> <p>第 9回 地域とデザイン 2 観光 (現状と課題/観光資源の“魅力”とはなにか/ツーリズム/フィルムコミッション)</p> <p>第 10回 地域とデザイン 3 地方企業 (現状と課題/CI・VI/D2C ブランド)</p> <p>第 11回 地域とデザイン 4 伝統的工芸品 (現状と課題/伝統と革新/インバウンド)</p> <p>第 12回 実践課題：鹿児島とデザイン テーマ設定/キュレーション</p> <p>第 13回 “ ” キュレーション/プレゼン資料作成</p> <p>第 14回 “ ” プレゼンテーション</p> <p>第 15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	授業課題 (40%) プレゼンテーション (60%)			
実務経験について	制作会社にてディレクター・デザイナーとして勤務			

授業科目	ビジュアルデザインⅠ		担当者	北一浩・上笹貫鷹暁
	[履修年次]	1年	授業外対応	適宜対応 (要予約)
	[学期]	後期	[単位]	2
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	実習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】コンピューターを用いたビジュアルデザインの基礎的な制作を学ぶ。</p> <p>【概要】ビジュアルデザイン論Ⅰ・Ⅱ、ビジュアルデザイン基礎Ⅰ・Ⅱからの関連科目として、コンピューターを用いて基礎的な課題制作を行う。</p> <p>【到達目標】これまで学習した技術や概念を、コンピューターを使用して実媒体へと応用する。</p> <p>※本講座は「ビジュアルデザイン基礎Ⅰ・Ⅱ」の受講生のみを対象とします。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 使用しない。適宜、プリントを配布する。</p> <p>(2) 参考文献は適宜紹介する。</p>			
授業スケジュール	<p>第 1-2回 オリエンテーション</p> <p>第 3-4回 ポスターデザイン 公共問題をテーマとしたポスター制作</p> <p>第 5-6回 “ ”</p> <p>第 7-8回 “ ”</p> <p>第 9-10回 パッケージデザイン 実際に使用されているパッケージのリデザイン</p> <p>第 11-12回 “ ”</p> <p>第 13-14回 “ ”</p> <p>第 15-16回 ブックカバーデザイン 本学大学案内の表紙のデザイン</p> <p>第 17-18回 “ ”</p> <p>第 19-20回 “ ”</p> <p>第 21-22回 ポートフォリオ制作 各自のこれまでの作品をまとめたポートフォリオの制作</p> <p>第 23-24回 “ ”</p> <p>第 25-26回 “ ”</p> <p>第 27-28回 “ ”</p> <p>第 29-30回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	提出課題 (60%) プレゼンテーション (40%)			
実務経験について	広告会社にてグラフィックデザイナーとして勤務 フリーランスのグラフィックデザイナーとして活動			

授業科目	ビジュアルデザインⅡ		担当者	北 一浩				
	[履修年次]	2年	授業外対応	適宜対応 (要予約)				
	[学期]	前期	[単位]	1	[必修/選択]	選択	[授業形態]	実習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】プロジェクト形式の課題を通して、ビジュアルデザインの実践的な制作を学ぶ。</p> <p>【概要】ビジュアルデザインⅠからの関連科目として、プロジェクト形式の課題をグループで行い実践的な課題制作を行う。</p> <p>【到達目標】実際のデザインの現場で行われるワークフローを学び、実践的なデザインスキルを身につける。 ※本講座は「卒業研究C」の受講生のみを対象とします。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 使用しない。適宜、プリントを配布する。</p> <p>(2) 参考文献は適宜紹介する。</p>							
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 プロジェクト課題 内容は年度ごとに異なるが、主にはブランディングデザインなどを行う。</p> <p>第3回 "</p> <p>第4回 "</p> <p>第5回 "</p> <p>第6回 "</p> <p>第7回 "</p> <p>第8回 "</p> <p>第9回 "</p> <p>第10回 "</p> <p>第11回 自由課題 各自テーマを設定しデザインを行う</p> <p>第12回 "</p> <p>第13回 "</p> <p>第14回 "</p> <p>第15回 まとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	適宜指示							
成績評価の方法	提出課題 (60%) プレゼンテーション (40%)							
実務経験について	広告会社にてグラフィックデザイナーとして勤務 フリーランスのグラフィックデザイナーとして活動							

授業科目	卒業研究C		担当者	北 一浩				
	[履修年次]	2年	授業外対応	適宜対応 (要予約)				
	[学期]	通年	[単位]	4	[必修/選択]	必修	[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】ビジュアルデザインに関連した分野の研究。</p> <p>【概要】ビジュアルデザインに関連した分野から各自研究テーマを設定し、制作を通して新たな知見を発表する。</p> <p>【到達目標】研究テーマに関する作品制作を行い、展示及びプレゼンテーションを行う。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 使用しない。適宜、プリントを配布する。</p> <p>(2) 参考文献は適宜紹介する。</p>							
授業スケジュール	<p>第1-2回 オリエンテーション</p> <p>第3-4回 以下スケジュールに関しても各自が管理し研究を進める。</p> <p>第5-6回 随時進行に合わせて、テーマ審査、中間審査、最終審査を行う。</p> <p>第7-8回</p> <p>第9-10回</p> <p>第11-12回</p> <p>第13-14回</p> <p>第15-16回</p> <p>第17-18回</p> <p>第19-20回</p> <p>第21-22回</p> <p>第23-24回</p> <p>第25-26回</p> <p>第27-28回</p> <p>第29-30回 まとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	適宜指示							
成績評価の方法	研究成果 (50%) プレゼンテーション (25%) 研究態度 (25%)							
実務経験について	広告会社にてグラフィックデザイナーとして勤務 フリーランスのグラフィックデザイナーとして活動							

授業科目	住居史		担当者	川島 茂				
	[履修年次]	1年	授業外対応	適宜対応 (要予約)				
	[学期]	後期	[単位]	2	[必修/選択]	選択 (注)	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 社会の要請に呼応する建築の変遷について、西洋様式建築、近代建築を概観し、現代建築の将来展望を考える。 ※本講座の受講生は「設計製図Ⅱ」を必ず受講してください。</p> <p>【概要】 西洋様式建築から近代建築へと展開される時代背景と社会の要請、理念の変遷を開示しつつ、建築に求められ、必要とされるものを考察しつつ、現代建築のあり方を考える。</p> <p>【到達目標】 西洋様式建築、近代建築の理念と空間を理解する。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 高宮眞介・飯田義彦 著「高宮眞介 建築意匠講義 西洋の建築家 100人とその作品を巡る」アーキシップ叢書 (2) 矢代眞己・田所辰之助・濱崎良実 著「20世紀の空間デザイン」彰国社							
授業スケジュール	第 1 回 ガイダンス 歴史を学ぶことの意味 第 2 回 西洋様式建築の全体像 西洋様式建築について 第 3 回 幾何学の明晰性-1 -ルネサンス- 第 4 回 幾何学の明晰性-2 -ルネサンス- 第 5 回 幾何学の明晰性-3 -ルネサンス- 第 6 回 手法の多義性-1 -マニエリスム- 第 7 回 手法の多義性-2 -マニエリスム- 第 8 回 均整のプロポーション-1 -バラーディオの建築- 第 9 回 均整のプロポーション-2 -バラーディオの建築- 第 10 回 空間のダイナミズム -バロック- 第 11 回 崇高の自律性とピクチャレスクの他律性 -新古典主義- 第 12 回 新素材と新技術 -近代の萌芽- 第 13 回 思想の改革と運動の理念 -近代合理主義- 第 14 回 インターナショナルスタイルとナショナルリズム 第 15 回 表層・深層・透層 -モダニズムの終焉-							
授業外学習(予習・復習)	適宜指示							
成績評価の方法	レポート (100%)							
実務経験について	建築設計監理、コンサルタント業務							

(注) 二級建築士(木造建築士)資格指定科目

授業科目	住居・インテリア設計学		担当者	宍戸 克実				
	[履修年次]	1年	授業外対応	適宜対応				
	[学期]	前期	[単位]	2単位	[必修/選択]	選択 (注)	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 建築空間を構成する様々な構成要素や表現方法について理解し、身近な生活空間について考える。</p> <p>【概要】 建築空間を表現するための手段、図面の役割について理解するとともに、建築内外を構成する様々な要素についてのスケール感覚を身につける。また、商業施設や街の空間構成について理解し、多様な都市生活環境について学ぶ。</p> <p>【到達目標】 建築とインテリアについての理解が深まるとともに、暮らしを取り巻く住環境について幅広い視点で捉えることができるようになる。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 大塚篤『カタチから考える住宅発想法』彰国社 (2) 宮後浩『なぞっておぼえる遠近法 スケッチパース インテリア編』秀和システム							
授業スケジュール	第 1 回 はじめに 建築とインテリアの基礎知識 第 2 回 住居の平面構成 暮らしと間取り 第 3 回 図面表現 平面図、立面図、断面図、透視図① 第 4 回 " 透視図② 第 5 回 住空間の寸法 単位空間の事例研究 第 6 回 " 家具・設備の事例研究 第 7 回 間取りプランニング 所要室の配置と規模 第 8 回 " 集合住宅 第 9 回 " 戸建平屋 第 10 回 " 戸建複層 第 11 回 商業施設のデザイン 事例研究 第 12 回 " 発表・ディスカッション 第 13 回 街と公共空間のデザイン 事例研究 第 14 回 " 発表・ディスカッション 第 15 回 まとめ							
授業外学習(予習・復習)	予習・復習を兼ねた宿題を課す。課題の一部は授業外での取り組みが必要となる。							
成績評価の方法	授業課題 (50%)、宿題 (20%)、発表・レポート (30%)							
実務経験について	外食チェーン企業において店舗設計監理業務、都市コンサルタント企業において計画提案業務に携わった。							

(注) 二級建築士(木造建築士)資格指定科目、教職必修

授業科目	設計製図Ⅰ		担当者	宍戸 克実	
	[履修年次]	1年	授業外対応	適宜対応	
	[学期]	前期	[単位]	1単位	
			[必修/選択]	選択(注)	
				[授業形態]	実習
テーマ及び概要	【テーマ】建築設計製図の基本的事項について理解し、図面・模型製作を通じ建築物を平面的・立体的に把握する能力を養う。建築士を目指す学生を主体とした授業構成となっている。				
	【概要】基礎的な簡易住宅を題材として模型と図面を製作する。徐々に難易度や密度を上げ、住宅を構成する様々な単位空間についての理解を深める。				
	【到達目標】基本的ルールに則った建築図面の作成ができ、住空間を平面的・立体的に理解し図面や模型を用いて空間を表現することができる。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2) 小杉学『模型づくりからはじめる建築製図の基礎』彰国社 日本建築学会『コンパクト建築設計資料集成〈住居〉』丸善				
授業スケジュール	第1回	はじめに	設計製図の基礎知識		
	第2回	製図と模型の基礎	模型作成の手順(立体A)		
	第3回	〃	平行定規の使用法(立体B・C)		
	第4回	〃	製図道具の使用法(住宅A)		
	第5回	〃	平面図・立面図・断面図の理解(住宅A)		
	第6回	〃	縮尺と寸法の理解(住宅B)		
	第7回	〃	平面図・立面図・断面図の作成(住宅B)		
	第8回	設計課題:5つの空間住宅	課題説明		
	第9回	〃	スタディ模型		
	第10回	〃	スタディ模型		
	第11回	〃	模型作成		
	第12回	〃	模型作成・模型写真撮影		
	第13回	〃	図面作成(平面図)		
	第14回	〃	図面作成(立面・断面図)		
	第15回	〃	プレゼンテーション		
授業外学習(習・復習)	予習・復習を兼ねた宿題を課す。課題の一部は授業外での取り組みが必要となる。				
成績評価の方法	授業課題・プレゼンテーション(100%)				
実務経験について	外食チェーン企業において店舗設計監理業務、都市コンサルタント企業において計画提案業務に携わった。				

(注) 二級建築士(木造建築士)資格指定科目

授業科目	設計製図Ⅱ		担当者	川島 茂	
	[履修年次]	1年	授業外対応	適宜対応(要予約)	
	[学期]	後期	[単位]	1	
			[必修/選択]	選択(注)	
				[授業形態]	実習
テーマ及び概要	【テーマ】設計の実践により、空間のテーマと課題を見出し、それに呼応した空間を創出する。				
	【概要】個人指導とグループ指導、ディスカッション等を組み合わせ、各学生がそれぞれに設計主旨を見出し、アイデアを展開するよう促す。建築空間の諸条件を整理、設計からプレゼンテーションを含む自発的な学習が求められる。				
	【到達目標】居住空間、公共空間の計画を実践することにより、諸条件の分析と評価、空間構成手法を習得する。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 日本建築学会編「コンパクト建築設計資料〈住居〉」丸善 (2) 本杉省三他著「建築デザインの基礎 製図方から生活デザインまで」彰国社				
授業スケジュール	第1回	ガイダンス	課題出題		
	第2回	住宅の設計-1	条件の整理と敷地及び周辺環境の把握		
	第3回	住宅の設計-2	配置計画、諸機能の構成と動線計画		
	第4回	住宅の設計-3	平面計画		
	第5回	住宅の設計-4	断面、立面計画、外構計画		
	第6回	住宅の設計-5	ダイアグラム、模型、プレゼンテーション		
	第7回	住宅の設計-6	提出、評価		
	第8回	住宅の設計-7	講評、課題出題		
	第9回	ギャラリーの設計-1	条件の整理と敷地及び周辺環境の把握		
	第10回	ギャラリーの設計-2	配置計画、諸機能の構成と動線計画		
	第11回	ギャラリーの設計-3	平面計画		
	第12回	ギャラリーの設計-4	断面、立面計画、外構計画		
	第13回	ギャラリーの設計-5	ダイアグラム、模型、プレゼンテーション		
	第14回	ギャラリーの設計-6	提出、評価		
	第15回	ギャラリーの設計-7	講評		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	課題(100%)				
実務経験について	建築設計監理、コンサルタント業務				

(注) 二級建築士(木造建築士)資格指定科目

授業科目	住居構造学Ⅰ		担当者	田島 康弘	
	[履修年次]	2年	授業外対応	講義終了後	
	[学期]	前期	[単位]	2単位	
		[必修/選択]	選択(注)	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】住居を構築するための多様な構造方式および構法について学ぶ。</p> <p>【概要】建物にはたらく力、木質構造、鉄骨構造、鉄筋コンクリート構造、基礎などの概要と特徴を講述し、建物を構成する構造体について学ぶ。</p> <p>【到達目標】さまざまな構造方式の特徴や長所について理解して、構造上安全な建築物を設計又は説明できる基本的な能力が養われること。</p>				
(1)テキスト	(1) 浅野清昭著、『図説 やさしい構造力学』、学芸出版社				
(2)参考文献	(2) 浅野清昭著、『図説 やさしい構造設計』、学芸出版社				
授業スケジュール	第 1回 構造設計という仕事 第 2回 建物にかかる様々な荷重 第 3回 木質構造1 特徴と材料 第 4回 木質構造2 軸組構法(在来工法)と枠組壁構法(2×4工法) 第 5回 木質構造3 現場見学 他 第 6回 鉄骨構造1 特徴と材料 第 7回 鉄骨構造2 建物ができるまで 第 8回 鉄骨構造3 現場見学 他 第 9回 鉄筋コンクリート構造1 特徴と材料 第 10回 鉄筋コンクリート構造2 建物ができるまで 第 11回 鉄筋コンクリート構造3 現場見学 他 第 12回 基礎構造とその他の構造形式(プレストレストコンクリート構造 他) 第 13回 主要構造部材(屋根、壁、床、天井、階段 他) 第 14回 耐震設計(地震に強い建物) 第 15回 まとめ				
授業外学習(予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	レポート(80%)および授業での発言質問とその内容(20%)				
実務経験について	一級建築士、構造設計一級建築士として、構造設計業務を行う。				

(注) 二級建築士(木造建築士)資格指定

授業科目	住居構造学Ⅱ		担当者	田島 康弘	
	[履修年次]	2年	授業外対応	講義終了後	
	[学期]	前期	[単位]	2単位	
		[必修/選択]	選択(注)	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】建造物の安全性と力学的評価方法について学ぶ。</p> <p>【概要】住居構造学Ⅱでは、模型作成などの実習を通して力学の基礎を学び、構造物に作用する力によって部材に生じる力を求め、安全性を確認する。</p> <p>【到達目標】静定の片持ばり、単純ばり、門型ラーメンの応力と変形に関する計算法とそれから得られる結果の評価方法について理解する。</p>				
(1)テキスト	(1) 浅野清昭著、『やさしい建築構造力学 演習問題集』、学芸出版社				
(2)参考文献	(2) 浅野清昭著、『図説 建築構造力学』、学芸出版社				
授業スケジュール	第 1回 建物の模型を作ろう1 第 2回 建物の模型を作ろう2 第 3回 力のモーメント(模型による演習含む) 第 4回 力のつりあい(模型による演習含む) 第 5回 構造物の支点(ローラー・ピン・固定) 第 6回 反力の求め方 第 7回 片持ばりに生じる力 第 8回 単純ばりに生じる力 第 9回 門型ラーメンに生じる力 第 10回 トラスに生じる力 第 11回 断面の性質(断面1次モーメント、断面2次モーメント、他) 第 12回 部材に生じる応力度 第 13回 片持ばり、単純ばりの変形 第 14回 建築物の設計への応用 第 15回 まとめ				
授業外学習(予習・復習)	適宜指示(復習)				
成績評価の方法	レポート(80%)および授業での発言質問とその内容(20%)				
実務経験について	一級建築士、構造設計一級建築士として、構造設計業務を行う。				

(注) 二級建築士(木造建築士)資格指定

授業科目	住居環境学		担当者	曾我 和弘	
	[履修年次]	2年	授業外対応	[履修年次]	
	[学期]	後期	[単位]	2単位	
			[必修/選択]	選択 (注)	
				[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】快適で環境に優しい住まいや建築物の計画</p> <p>【概要】居住者が健康で快適に生活できる居住環境を構築するためには、建築環境（光・熱・空気・音環境）をバランスよく適切に調整しなければならない。この講義では、適切な建築環境を実現するために必要な環境計画の考え方と手法、さらに設備計画の考え方と手法について学ぶ。</p> <p>【到達目標】建築の環境計画と設備計画の基本的な考え方を理解する。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 最新建築環境工学、田中俊六ほか、井上書院 (2)				
授業スケジュール	第 1 回 建築と自然環境：建築と自然環境の関わり、自然環境に適応した建築 第 2 回 光環境計画 1：日照、日照時間、日影曲線、日影図、日影時間図 第 3 回 光環境計画 2：日射、太陽位置、日射量の計算、太陽エネルギー利用設備 第 4 回 光環境計画 3：採光、照明、視覚、測光量、昼光率、照明方式、室内照度の計算 第 5 回 光環境計画 4：光束法による照明計算、照明設備計画 第 6 回 熱環境計画 1：熱力学の第二法則、定常伝熱、熱伝導、熱対流、熱放射 第 7 回 熱環境計画 2：熱貫流率の計算、平均熱貫流率の計算 第 8 回 熱環境計画 3：住まいと結露、結露判定の計算 第 9 回 熱環境計画 4：温熱環境、代謝量、着衣量、PMV、局所不快感、温熱環境の基準、空調設備計画 第 10 回 空気環境計画 1：室内空気汚染、自然換気（温度差換気、風力換気）、機械換気 第 11 回 空気環境計画 2：室内ガス濃度、ザイデル式、必要換気量の計算 第 12 回 空気環境計画 3：機械換気設備、換気設備計画 第 13 回 音環境計画 1：音の強さ、音圧レベル、周波数補正、騒音レベル、音圧レベルの計算 第 14 回 音環境計画 2：騒音の防止、遮音、音響透過損失、コインシデンス効果、質量測、床衝撃音、吸音材料 第 15 回 音環境計画 3：室内音響計画、直接音、反射音、音響障害、残響時間、残響式、最適残響時間				
授業外学習(予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	筆記試験 (80%) とレポート (20%) で評価する。				

(注) 二級建築士 (木造建築士) 資格指定科目

授業科目	住居環境学演習		担当者	曾我 和弘	
	[履修年次]	2年	授業外対応	講義終了時	
	[学期]	後期	[単位]	1単位	
			[必修/選択]	選択 (注)	
				[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】身近な居住環境の快適性や健康性の測定</p> <p>【概要】居住環境の物理環境（光・熱・空気・音環境）の測定を行い、測定データに基づいて、居住環境の快適性や健康性の評価を行う。測定を通して物理環境の測定法を修得すると同時に、データ処理にはパソコンの表計算ソフトなどを活用しパソコンの利用技術を養う。また、気候と住居形態に関する調査を通して、環境にやさしい住居に対する理解を深める。</p> <p>【到達目標】身近な居住環境の熱・光・音・空気環境の基本的な測定・評価方法を習得する。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 最新建築環境工学、田中俊六ほか、井上書院 (2)				
授業スケジュール	第 1 回 クリモグラフの作成と気候に適した住居形態調査 第 2 回 日影図の作成と日照環境の評価 第 3 回 教室の照度分布測定と評価 第 4 回 教室の昼光率分布測定と評価 第 5 回 室内照明計算 第 6 回 定常伝熱計算 第 7 回 壁体の温度測定 第 8 回 温熱環境の測定 第 9 回 温熱環境の分析と評価 第 10 回 室内ガス濃度の測定 第 11 回 室内ガス濃度の分析と評価 第 12 回 必要換気量の計算 第 13 回 室内騒音の測定 第 14 回 交通騒音の測定 第 15 回 騒音の分析と評価				
授業外学習(予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	演習や実験への取り組み態度、レポートの内容及び発表内容を総合的に評価する。				

(注) 二級建築士 (木造建築士) 資格指定科目

授業科目	建築材料学		担当者	迫田 順一
	[履修年次]	2年	授業外対応	講義終了時
	[学期]	前期	[単位]	2
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 住居を中心とした建築物を構成する様々な材料とその特質</p> <p>【概要】 どのような材料がどのような特質を持ち、どのように使われて建築物が構築されているのかについて可能な限り現物を見ながら学ぶ</p> <p>【到達目標】 講義では建築材料の特質と建築の各種構造方式と仕上げ工事の関係について工種毎に理解することを目標とする。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 松本進 「図説 やさしい建築材料」 学芸出版社</p> <p>(2) 建築学会編 「建築材料用教材」 彰国社</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 構法と建築材料</p> <p>第 2回 主要構造部材と仕上げ材</p> <p>第 3回 木材1 特性</p> <p>第 4回 木材2 用法</p> <p>第 5回 木材3 種類</p> <p>第 6回 コンクリート1 特性</p> <p>第 7回 コンクリート2 配合と強度</p> <p>第 8回 コンクリート3 製作</p> <p>第 9回 鋼材1 鉄筋</p> <p>第10回 鋼材2 鉄骨と接合</p> <p>第11回 その他の主要材料(石・左官・ガラス・建具)</p> <p>第12回 材料の力学(曲がりにくさ)</p> <p>第13回 環境にやさしい建築材料</p> <p>第14回 材料の積算</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜対応(要予約)			
成績評価の方法	筆記試験			
実務経験について	建築設計並びに工事監理			

(注) 二級建築士(木造建築士)資格指定科目

授業科目	建築生産		担当者	迫田 順一
	[履修年次]	2年	授業外対応	講義終了時
	[学期]	後期	[単位]	1
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 各種建築構造方式の生産過程について学ぶ</p> <p>【概要】 住居を中心とした建築の企画設計から施工そして運営管理にいたる一連のプロセスの中で建築物がどのように生産されているのか総合的に理解する。</p> <p>【到達目標】 講義では建築の各種構造方式の施工手順について、工種と工程に沿って理解することを目標とする。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 今村仁美、田中美都 『図説 やさしい建築一般構造』 学芸出版社</p> <p>(2) 久富洋、古澤忠正 『図説 建築施工入門』 彰国社</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 構法と施工過程</p> <p>第 2回 木構造と木工事</p> <p>第 3回 鉄筋コンクリート造と鉄筋・型枠・コンクリート工事</p> <p>第 4回 鉄骨構造 その他の構造</p> <p>第 5回 建具・ガラス・屋根・防水工事・その他の仕上げ工事</p> <p>第 6回 施工計画と種々の管理</p> <p>第 7回 契約と実行</p> <p>第 8回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜対応(要予約)			
成績評価の方法	筆記試験			
実務経験について	建築設計並びに工事監理			

(注) 二級建築士(木造建築士)資格指定科目

授業科目	建築法規	担当者	福永 貴幸
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1単位	授業外対応	講義終了時
		[必修/選択]	選択 [授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 住宅をはじめとする建築物の安全性や快適性等を確保するための基本的なルールを定めた建築基準法等について学ぶ。</p> <p>【概要】 建築物は、人間の生活や社会活動の基盤であり、安全性や快適性等を確保するための最低基準を定めた建築基準法等を守らなければならない。 建築物の安全・衛生を確保するための基準や市街地の安全・環境を確保するための基準を定めた建築基準法を中心に、建築法規について解説する。</p> <p>【到達目標】 住宅や店舗・事務所等の建築物を安全に建てる際に必要な建築法規の基礎を理解する。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 「いちばんやさしい 建築基準法 改訂2版」 発行所：株式会社 新星出版社</p> <p>(2) 適宜関連資料を配付</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 建築基準法は何のために (建築基準法の目的と構成、法規を理解するための用語)</p> <p>第2回 ともに地域で生活していくために (道路、用途制限、容積率、建蔽率、高さ制限、まちづくり制度)</p> <p>第3回 火災や災害から人命や財産を守るために (防火規定)</p> <p>第4回 火災や災害時に安全に避難するために (避難規定)</p> <p>第5回 安全な構造を維持するために (構造安全規定)</p> <p>第6回 よりよい住環境のために (一般構造規定：採光、換気、衛生、階段等)</p> <p>第7回 法が守られるために (制度規定、建築関連法規)</p> <p>第8回 まとめ (建築基準法等の改正動向等)</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	筆記試験 (70%) ミニテスト (30%)		
実務経験について	行政機関にて建築主事(建築基準適合判定資格者)として、建築確認審査及び完了検査等の業務に従事		

(注) 二級建築士(木造建築士) 資格指定科目

授業科目	CAD設計	担当者	穴戸 克実
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 2単位	授業外対応	適宜対応
		[必修/選択]	選択(注) [授業形態] 講義(演習含む)
テーマ及び概要	<p>【テーマ】CADソフトや建築プレゼンテーションに関連する様々なソフトの基本的操作・建築図面作成手順、作品表現方法について学ぶ。</p> <p>【概要】2次元CAD (Vectorworks)、3次元CAD (SketchUp)、画像編集 (Photoshop) の他、多様な関連ソフトを体験する。</p> <p>【到達目標】CADソフトの操作法を習得し、基礎的な建築図面を作成できる。また、関連する多様なソフトの体験を通じ、プレゼンテーションスキルの幅が広がる。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 授業中に指示</p> <p>(2) 鳥谷部真『徹底解説 VECTORWORKS』エクスマレッジ、ObraClub『優しく学ぶSketchUp』エクスマレッジ</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 はじめに CADについて、関連ソフト・周辺機器について</p> <p>第2回 2次元CAD Vectorworks 基本操作</p> <p>第3回 " "</p> <p>第4回 " Vectorworks：図面作成</p> <p>第5回 " "</p> <p>第6回 " Vectorworks：地図・地形図</p> <p>第7回 " Vectorworks：立体図</p> <p>第8回 3次元CAD SketchUp 作図課題</p> <p>第9回 " "</p> <p>第10回 " SketchUp 応用課題</p> <p>第11回 " "</p> <p>第12回 " "</p> <p>第13回 画像編集 Photoshop</p> <p>第14回 関連ソフトの理解 iMovie, Illustrator, GoogleEarth 等</p> <p>第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	課題の一部は授業外での取り組みが必要となる。		
成績評価の方法	授業内課題 (100%)		
実務経験について	外食チェーン企業において店舗設計監理業務、都市コンサルタント企業において計画提案業務に携わった。		

(注) 二級建築士(木造建築士) 資格指定科目

授業科目	建築史	担当者	宍戸 克実
	〔履修年次〕 2年	授業外対応	適宜対応
	〔学期〕 後期	〔単位〕 2単位	〔必修/選択〕 選択 (注) 〔授業形態〕 講義
テーマ及び概要	【テーマ】日本及び世界の建築・都市の成り立ちや構成について学び、身近な都市空間に存在する建築物や街並みの構成原理について考える。		
	【概要】ヨーロッパ、アフリカ、中東、アジアの他、日本の都市空間や建築物について学ぶ。		
	【到達目標】世界各地の建築・都市文化の概要について理解するとともに、身近な地域においてもその土地に根ざした建築・都市の成立背景や空間構成について意識することができるようになる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 授業中に指示 (2) 西村幸夫『都市空間の構想力』学芸出版社、西田雅嗣『建築の歴史』学芸出版社		
授業スケジュール	第 1 回 はじめに 鹿児島市の都市と建築 第 2 回 西洋建築史 古代建築 第 3 回 " 中世建築 第 4 回 " 近世建築 第 5 回 日本建築史 古代建築 第 6 回 " 中世建築 第 7 回 " 近世建築 第 8 回 西洋・日本建築史 近代建築 第 9 回 世界の都市の歴史 アメリカ、ヨーロッパ 第 10 回 " 日本、アジア 第 11 回 " 中東、アフリカ 第 12 回 世界の都市の公共空間 市場、カフェ、商店街 第 13 回 " 広場、浴場、宗教施設 第 14 回 イスラーム地域の都市文化 トルコ・イラン・エジプト 第 15 回 まとめ		
授業外学習(予習・復習)	予習・復習を兼ねた宿題を課す。課題の一部は授業外での取り組みが必要となる。		
成績評価の方法	授業内課題・レポート (100%)		
実務経験について	外食チェーン企業において店舗設計監理業務、都市コンサルタント企業において計画提案業務に携わった。		

(注) 二級建築士(木造建築士)免許登録時の要実務経験年数を1年短縮する場合の資格指定科目

授業科目	CAD設計特講	担当者	宍戸 克実
	〔履修年次〕 2年	授業外対応	適宜対応
	〔学期〕 前期	〔単位〕 2単位	〔必修/選択〕 選択 (注) 〔授業形態〕 講義(演習含む)
テーマ及び概要	【テーマ】「CAD 設計」で習得した作図スキルを応用的に使用する課題に取り組む。本科目は設計製図Ⅲと連動したカリキュラムとなっている。		
	【概要】前半は CAD 関連ソフトを用いた応用的に使用する課題に取り組み、後期は二級建築士が設計可能な建築図面の作成課題に取り組む。		
	【到達目標】CAD 及び関連ソフトを複合的に使いこなし、建築物や周辺環境、都市空間について図面等多様な手法を用いて表現することができる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 授業中に指示 (2) 総合資格学院『2級建築士試験 設計製図テキスト』総合資格		
授業スケジュール	第 1 回 はじめに CAD ソフトとプレゼン関連機器について 第 2 回 CAD と地図データ 地理院地図、GoogleEarth、ゼンリン地図 第 3 回 3DCAD と立体地形 SketchUp 第 4 回 3DCAD と街並み再現 SketchUp 第 5 回 CAD とプレゼンソフト Vectorworks、Photoshop、その他 第 6 回 CAD とプレゼンソフト Vectorworks、iMovie 第 7 回 課題1：平面図 Vectorworks 第 8 回 " " " 第 9 回 課題2：立面図・断面図 " " 第 10 回 " " " 第 11 回 課題3：矩計図 " " 第 12 回 " " " 第 13 回 課題4：地域分析図 " " 第 14 回 " " " 第 15 回 まとめ		
授業外学習(予習・復習)	予習・復習を兼ねた宿題を課す。課題の一部は授業外での取り組みが必要となる。		
成績評価の方法	演習課題の発表・提出 (100%)		
実務経験について	外食チェーン企業において店舗設計監理業務、都市コンサルタント企業において計画提案業務に携わった。		

(注) 二級建築士(木造建築士)免許登録時の要実務経験年数を1年短縮する場合の資格指定科目

授業科目	設計製図Ⅲ		担当者	宍戸 克実			
	〔履修年次〕	2年	授業外対応	適宜対応			
	〔学期〕	前期	〔単位〕	1単位	〔必修/選択〕	選択(注)	〔授業形態〕
テーマ及び概要	【テーマ】二級建築士が設計可能な建築物の建築計画、設計手順、図面作成について理解する。本科目は CAD 設計特講と連動したカリキュラムとなっている。						
	【概要】店舗併用住宅や小規模公共施設等の設計課題に取り組み、課題文の読解、エスキス方法、要求図面について学ぶ。						
	【到達目標】二級建築士製図の構成・手順・図面作成方法について理解できる。						
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 総合資格学院『2級建築士試験 設計製図テキスト』総合資格 (2) 日建学院教材研究会『2級建築士設計製図試験課題対策集』日建資料研究社						
授業スケジュール	第 1 回	はじめに	建築士資格と試験、課題文の理解、例題				
	第 2 回	エスキス課題 1：木造	専用住宅				
	第 3 回	エスキス課題 2：木造	店舗併用住宅				
	第 4 回	エスキス課題 3：木造	〃				
	第 5 回	エスキス課題 4：鉄骨造	小規模な公共施設				
	第 6 回	エスキス課題 5：RC 造	〃				
	第 7 回	作図課題 1：木造	店舗併用住宅：平面図				
	第 8 回	〃	〃				
	第 9 回	作図課題 2：木造	店舗併用住宅：立面図				
	第 10 回	〃	店舗併用住宅：断面図				
	第 11 回	作図課題 3：木造	矩計図				
	第 12 回	〃	矩計図				
	第 13 回	課題：軸組在来工法の理解	軸組模型				
	第 14 回	〃	軸組模型				
	第 15 回	まとめ					
授業外学習(予習・復習)	予習・復習を兼ねた宿題を課す。課題の一部は授業外での取り組みが必要となる。						
成績評価の方法	演習課題の提出(100%)						
実務経験について	外食チェーン企業において店舗設計監理業務、都市コンサルタント企業において計画提案業務に携わった。						

(注) 二級建築士(木造建築士)免許登録時の要実務経験年数を1年短縮する場合の資格指定科目

授業科目	設計製図Ⅳ		担当者	宍戸 克実			
	〔履修年次〕	2年	授業外対応	適宜対応			
	〔学期〕	通年	〔単位〕	4単位	〔必修/選択〕	選択(注)	〔授業形態〕
テーマ及び概要	【テーマ】二級建築士が設計可能な規模の建築物を対象とした研究・設計課題に取り組みとともに、地域に根ざした建築や都市の空間構成・形成過程について考え、地域課題の解決を目指した設計提案を試みる。						
	【概要】本科目は通年科目である。前期は課題として設定した地域・建築の既存情報を整理し、図面等の資料を製作してプレゼンテーションする。後期は、前期の成果をもとに地域の課題と向き合い、建築・都市的アプローチによる提案を試みる。						
	【到達目標】地域における建築・都市的課題や魅力を踏まえた建築設計について理解できる。						
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 授業中に指示 (2) 日本建築学会『コンパクト建築設計資料集成』丸善、西村幸夫『まちの見方・調べ方』朝倉書店						
授業スケジュール	【前期】	第 1 回～第 3 回	課題 1：建築及び都市研究・製作	事例研究、資料調査、現地調査			
		第 4 回～第 6 回	〃	地域分析・ディスカッション			
		第 7 回～第 9 回	〃	地域模型の作成			
		第 10 回～第 12 回	〃	プレゼン図の作成・発表			
		第 13 回～第 15 回	〃	各自の研究・制作対象地の調査・研究			
	【後期】	第 16 回～第 21 回	課題 2：建築及び都市研究・製作	構想検討			
		第 22 回～第 27 回	〃	〃			
		第 28 回～第 33 回	〃	発表・ディスカッション			
		第 34 回～第 39 回	〃	都市構成図、地域構成図作成			
		第 40 回～第 45 回	〃	平面図、立面図、断面図、その他図版			
		第 46 回～第 51 回	〃	模型・プレゼン資料作成			
		第 52 回～第 57 回	〃	発表資料、プレゼンボード			
		第 59 回～第 60 回	〃	要旨・発表・論文提出			
授業外学習(予習・復習)	予習・復習を兼ねた宿題を課す。課題の一部は授業外での取り組みが必要となる。						
成績評価の方法	前期課題の発表・提出(30%)、後期課題の発表・提出(70%)						
実務経験について	外食チェーン企業において店舗設計監理業務、都市コンサルタント企業において計画提案業務に携わった。						

(注) 二級建築士(木造建築士)免許登録時の要実務経験年数を1年短縮する場合の資格指定科目

授業科目	空間デザイン論		担当者	川島 茂																																													
	[履修年次] 1年		授業外対応	適宜対応 (要予約)																																													
	[学期] 前期	[単位] 2	[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義																																													
テーマ及び概要	<p>【テーマ】空間デザインの事例分析等を通して設計手法とプレゼンテーションを学習する。 ※本講座の受講生は「設計製図Ⅰ」を必ず受講してください。</p> <p>【概要】建築、インテリア等の実例を示し、そこにある設計主旨、理念またプレゼンテーション手法を解説しつつ、学生自身の設計作品への水平展開を目指しつつ、プレゼンテーションを実施する。</p> <p>【到達目標】空間デザインにおける設計主旨、理念を学生自らが発案し、適切な表現でプレゼンテーションができるとともに他者作品についても意見を持てるようにする。</p>																																																
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 本杉省三他著「建築デザインの基礎 製図方から生活デザインまで」朝国社 (2) 適宜紹介</p>																																																
授業スケジュール	<table border="0"> <tr><td>第 1 回</td><td>ガイダンス</td><td>空間デザインにもとめられるもの</td></tr> <tr><td>第 2 回</td><td>空間のテーマ</td><td>コンセプトとは</td></tr> <tr><td>第 3 回</td><td>図面と表現</td><td>図面表現について</td></tr> <tr><td>第 4 回</td><td>平面図-1</td><td>平面図とは</td></tr> <tr><td>第 5 回</td><td>平面図-2</td><td>平面図演習</td></tr> <tr><td>第 6 回</td><td>断面図</td><td>平面から立体へ</td></tr> <tr><td>第 7 回</td><td>立体図-1</td><td>アクソメ図とアイソメ図</td></tr> <tr><td>第 8 回</td><td>立体図-2</td><td>透視図の原理と図法</td></tr> <tr><td>第 9 回</td><td>立体図-3</td><td>立体図によるプレゼンテーション</td></tr> <tr><td>第10 回</td><td>表現ツールとしての CAD</td><td>操作演習</td></tr> <tr><td>第11 回</td><td>住空間のコンセプト</td><td>狭小住宅課題</td></tr> <tr><td>第12 回</td><td>住空間の計画</td><td>狭小住宅課題</td></tr> <tr><td>第13 回</td><td>美術空間について-1</td><td>日本の美術館</td></tr> <tr><td>第14 回</td><td>美術空間について-2</td><td>世界の美術館</td></tr> <tr><td>第15 回</td><td>まとめ・講評</td><td></td></tr> </table>				第 1 回	ガイダンス	空間デザインにもとめられるもの	第 2 回	空間のテーマ	コンセプトとは	第 3 回	図面と表現	図面表現について	第 4 回	平面図-1	平面図とは	第 5 回	平面図-2	平面図演習	第 6 回	断面図	平面から立体へ	第 7 回	立体図-1	アクソメ図とアイソメ図	第 8 回	立体図-2	透視図の原理と図法	第 9 回	立体図-3	立体図によるプレゼンテーション	第10 回	表現ツールとしての CAD	操作演習	第11 回	住空間のコンセプト	狭小住宅課題	第12 回	住空間の計画	狭小住宅課題	第13 回	美術空間について-1	日本の美術館	第14 回	美術空間について-2	世界の美術館	第15 回	まとめ・講評	
第 1 回	ガイダンス	空間デザインにもとめられるもの																																															
第 2 回	空間のテーマ	コンセプトとは																																															
第 3 回	図面と表現	図面表現について																																															
第 4 回	平面図-1	平面図とは																																															
第 5 回	平面図-2	平面図演習																																															
第 6 回	断面図	平面から立体へ																																															
第 7 回	立体図-1	アクソメ図とアイソメ図																																															
第 8 回	立体図-2	透視図の原理と図法																																															
第 9 回	立体図-3	立体図によるプレゼンテーション																																															
第10 回	表現ツールとしての CAD	操作演習																																															
第11 回	住空間のコンセプト	狭小住宅課題																																															
第12 回	住空間の計画	狭小住宅課題																																															
第13 回	美術空間について-1	日本の美術館																																															
第14 回	美術空間について-2	世界の美術館																																															
第15 回	まとめ・講評																																																
授業外学習(予習・復習)	適宜指示																																																
成績評価の方法	課題 (100%)																																																
実務経験について	建築設計監理、コンサルタント業務																																																

授業科目	空間デザインⅠ		担当者	川島 茂																																													
	[履修年次] 2年		授業外対応	適宜対応 (要予約)																																													
	[学期] 前期	[単位] 1	[必修/選択] 選択	[授業形態] 実習																																													
テーマ及び概要	<p>【テーマ】空間創出に対する多様な発想と理念の強化。 ※本講座は「卒業研究 C」の受講生のみを対象とします。</p> <p>【概要】公募されている学生コンペ参加を通して、コンセプトの立案から計画、プレゼンテーションまでをグループでまとめ、協業で課題制作に取り組む。</p> <p>【到達目標】課題に対する多様なアイデアを発案しながら、それぞれの空間理念を強化、他者の考えを吸収しひとつの提案へとまとめるための調整力を習得する。</p>																																																
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 日本建築学会編「コンパクト建築設計資料〈住居〉丸善 (2) 本杉省三他著「建築デザインの基礎 製図方から生活デザインまで」朝国社</p>																																																
授業スケジュール	<table border="0"> <tr><td>第 1 回</td><td>ガイダンス</td><td>アイデアコンペについて</td></tr> <tr><td>第 2 回</td><td>コンペの選定</td><td>アイデアコンペに求められるもの</td></tr> <tr><td>第 3 回</td><td>コンセプトの立案-1</td><td>アイデアの発案-1</td></tr> <tr><td>第 4 回</td><td>コンセプトの立案-2</td><td>アイデアの発案-2</td></tr> <tr><td>第 5 回</td><td>コンセプトの立案-3</td><td>アイデアの発案-3</td></tr> <tr><td>第 6 回</td><td>計画案の立案-1</td><td>計画案のゾーニング</td></tr> <tr><td>第 7 回</td><td>計画案の立案-2</td><td>計画案のプランニング</td></tr> <tr><td>第 8 回</td><td>計画案の立案-3</td><td>計画案の立体</td></tr> <tr><td>第 9 回</td><td>中間講評-1</td><td>コンセプトのプレゼンテーションとグループディスカッション-1</td></tr> <tr><td>第10 回</td><td>中間講評-2</td><td>コンセプトのプレゼンテーションとグループディスカッション-2</td></tr> <tr><td>第11 回</td><td>計画案の再考</td><td>計画案のまとめ・模型作成</td></tr> <tr><td>第12 回</td><td>プレゼンシート作成-1</td><td>プレゼンシートレイアウトと模型作成</td></tr> <tr><td>第13 回</td><td>プレゼンシート作成-2</td><td>プレゼンシートレイアウトと模型写真撮影</td></tr> <tr><td>第14 回</td><td>プレゼンシート作成-3</td><td>プレゼンシート仕上げ</td></tr> <tr><td>第15 回</td><td>講評</td><td></td></tr> </table>				第 1 回	ガイダンス	アイデアコンペについて	第 2 回	コンペの選定	アイデアコンペに求められるもの	第 3 回	コンセプトの立案-1	アイデアの発案-1	第 4 回	コンセプトの立案-2	アイデアの発案-2	第 5 回	コンセプトの立案-3	アイデアの発案-3	第 6 回	計画案の立案-1	計画案のゾーニング	第 7 回	計画案の立案-2	計画案のプランニング	第 8 回	計画案の立案-3	計画案の立体	第 9 回	中間講評-1	コンセプトのプレゼンテーションとグループディスカッション-1	第10 回	中間講評-2	コンセプトのプレゼンテーションとグループディスカッション-2	第11 回	計画案の再考	計画案のまとめ・模型作成	第12 回	プレゼンシート作成-1	プレゼンシートレイアウトと模型作成	第13 回	プレゼンシート作成-2	プレゼンシートレイアウトと模型写真撮影	第14 回	プレゼンシート作成-3	プレゼンシート仕上げ	第15 回	講評	
第 1 回	ガイダンス	アイデアコンペについて																																															
第 2 回	コンペの選定	アイデアコンペに求められるもの																																															
第 3 回	コンセプトの立案-1	アイデアの発案-1																																															
第 4 回	コンセプトの立案-2	アイデアの発案-2																																															
第 5 回	コンセプトの立案-3	アイデアの発案-3																																															
第 6 回	計画案の立案-1	計画案のゾーニング																																															
第 7 回	計画案の立案-2	計画案のプランニング																																															
第 8 回	計画案の立案-3	計画案の立体																																															
第 9 回	中間講評-1	コンセプトのプレゼンテーションとグループディスカッション-1																																															
第10 回	中間講評-2	コンセプトのプレゼンテーションとグループディスカッション-2																																															
第11 回	計画案の再考	計画案のまとめ・模型作成																																															
第12 回	プレゼンシート作成-1	プレゼンシートレイアウトと模型作成																																															
第13 回	プレゼンシート作成-2	プレゼンシートレイアウトと模型写真撮影																																															
第14 回	プレゼンシート作成-3	プレゼンシート仕上げ																																															
第15 回	講評																																																
授業外学習(予習・復習)	適宜指示																																																
成績評価の方法	課題 (100%)																																																
実務経験について	建築設計監理、コンサルタント業務																																																

授業科目	空間デザインⅡ		担当者	川島 茂																																														
	[履修年次]	2年	授業外対応	適宜対応 (要予約)																																														
	[学期]	前期	[単位]	1	[必修/選択]	選択																																												
				[授業形態]	実習																																													
テーマ及び概要	<p>【テーマ】空間デザインにより発信するメッセージをクリアに伝えるプレゼンテーション力の強化。 ※本講座は「卒業研究C」の受講生のみを対象とします。</p> <p>【概要】設計製図Ⅰ、Ⅱで制作した課題作品を、それまで習得した表現を駆使し、ポートフォリオにまとめる。</p> <p>【到達目標】プレゼンテーション力の実践的総合化を達成する。</p>																																																	
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 本杉省三他著「建築デザインの基礎 製図方から生活デザインまで」朝国社 (2)																																																	
授業スケジュール	<table border="0"> <tr><td>第1回</td><td>ガイダンス</td><td>プレゼンテーションとは</td></tr> <tr><td>第2回</td><td>プレゼンテーション準備</td><td>フォーマットの作成</td></tr> <tr><td>第3回</td><td>プレゼンテーション-1</td><td>狭小住宅課題のコンセプトとダイアグラム-1</td></tr> <tr><td>第4回</td><td>プレゼンテーション-2</td><td>狭小住宅課題のコンセプトとダイアグラム-2</td></tr> <tr><td>第5回</td><td>プレゼンテーション-3</td><td>狭小住宅課題の図面表現</td></tr> <tr><td>第6回</td><td>プレゼンテーション-4</td><td>住宅課題のコンセプトとダイアグラム-1</td></tr> <tr><td>第7回</td><td>プレゼンテーション-5</td><td>住宅課題のコンセプトとダイアグラム-2</td></tr> <tr><td>第8回</td><td>プレゼンテーション-6</td><td>住宅課題の図面表現</td></tr> <tr><td>第9回</td><td>プレゼンテーション-7</td><td>ギャラリー課題のコンセプトとダイアグラム-1</td></tr> <tr><td>第10回</td><td>プレゼンテーション-8</td><td>ギャラリー課題のコンセプトとダイアグラム-2</td></tr> <tr><td>第11回</td><td>プレゼンテーション-9</td><td>ギャラリー課題の図面表現</td></tr> <tr><td>第12回</td><td>プレゼンテーション-10</td><td>模型写真</td></tr> <tr><td>第13回</td><td>プレゼンテーション-11</td><td>レイアウト-1</td></tr> <tr><td>第14回</td><td>プレゼンテーション-12</td><td>レイアウト-2</td></tr> <tr><td>第15回</td><td>まとめ・レポート出題</td><td></td></tr> </table>					第1回	ガイダンス	プレゼンテーションとは	第2回	プレゼンテーション準備	フォーマットの作成	第3回	プレゼンテーション-1	狭小住宅課題のコンセプトとダイアグラム-1	第4回	プレゼンテーション-2	狭小住宅課題のコンセプトとダイアグラム-2	第5回	プレゼンテーション-3	狭小住宅課題の図面表現	第6回	プレゼンテーション-4	住宅課題のコンセプトとダイアグラム-1	第7回	プレゼンテーション-5	住宅課題のコンセプトとダイアグラム-2	第8回	プレゼンテーション-6	住宅課題の図面表現	第9回	プレゼンテーション-7	ギャラリー課題のコンセプトとダイアグラム-1	第10回	プレゼンテーション-8	ギャラリー課題のコンセプトとダイアグラム-2	第11回	プレゼンテーション-9	ギャラリー課題の図面表現	第12回	プレゼンテーション-10	模型写真	第13回	プレゼンテーション-11	レイアウト-1	第14回	プレゼンテーション-12	レイアウト-2	第15回	まとめ・レポート出題	
第1回	ガイダンス	プレゼンテーションとは																																																
第2回	プレゼンテーション準備	フォーマットの作成																																																
第3回	プレゼンテーション-1	狭小住宅課題のコンセプトとダイアグラム-1																																																
第4回	プレゼンテーション-2	狭小住宅課題のコンセプトとダイアグラム-2																																																
第5回	プレゼンテーション-3	狭小住宅課題の図面表現																																																
第6回	プレゼンテーション-4	住宅課題のコンセプトとダイアグラム-1																																																
第7回	プレゼンテーション-5	住宅課題のコンセプトとダイアグラム-2																																																
第8回	プレゼンテーション-6	住宅課題の図面表現																																																
第9回	プレゼンテーション-7	ギャラリー課題のコンセプトとダイアグラム-1																																																
第10回	プレゼンテーション-8	ギャラリー課題のコンセプトとダイアグラム-2																																																
第11回	プレゼンテーション-9	ギャラリー課題の図面表現																																																
第12回	プレゼンテーション-10	模型写真																																																
第13回	プレゼンテーション-11	レイアウト-1																																																
第14回	プレゼンテーション-12	レイアウト-2																																																
第15回	まとめ・レポート出題																																																	
授業外学習(予習・復習)	適宜指示																																																	
成績評価の方法	課題 (100%)																																																	
実務経験について	建築設計監理、コンサルタント業務																																																	

授業科目	卒業研究D		担当者	川島 茂																			
	[履修年次]	2年	授業外対応	[履修年次]																			
	[学期]	通年	[単位]	4	[必修/選択]	選択																	
				[授業形態]	演習																		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】建築、インテリアデザイン分野の研究と設計。指導教員と相談のうえ、各自が自由なテーマを設定する。 ただし、テーマは現代社会が直面する計画課題とし、諸問題に対応するものが求められる。</p> <p>【概要】ゼミでは個人指導、ディスカッションを重ね、研究および設計テーマを設定しつつ、十分な調査、考察に基づいたうえ、具体的な設計に展開する。</p> <p>【到達目標】将来的に建築、インテリアデザイン分野に取り組むための基本的な視点を習得する。</p>																						
(1)テキスト (2)参考文献	(1) (2) 研究及び設計のテーマに沿った参考文献を適宜指示する。																						
授業スケジュール	<table border="0"> <tr><td>第1回</td><td></td><td>卒業研究・設計課題：研究と作品制作の進め方</td></tr> <tr><td>第2回</td><td>～第5回</td><td>卒業研究・設計課題：研究・設計のテーマの検討と設定</td></tr> <tr><td>第6回</td><td>～第12回</td><td>卒業研究・設計課題：文献、資料収集及び考察、計画条件の設定</td></tr> <tr><td>第13回</td><td>～第22回</td><td>卒業研究・設計課題：エスキス、設計</td></tr> <tr><td>第23回</td><td>～第29回</td><td>卒業研究・設計課題：プレゼンテーションシートの作成</td></tr> <tr><td>第30回</td><td></td><td>卒業研究・設計課題：発表</td></tr> </table>					第1回		卒業研究・設計課題：研究と作品制作の進め方	第2回	～第5回	卒業研究・設計課題：研究・設計のテーマの検討と設定	第6回	～第12回	卒業研究・設計課題：文献、資料収集及び考察、計画条件の設定	第13回	～第22回	卒業研究・設計課題：エスキス、設計	第23回	～第29回	卒業研究・設計課題：プレゼンテーションシートの作成	第30回		卒業研究・設計課題：発表
第1回		卒業研究・設計課題：研究と作品制作の進め方																					
第2回	～第5回	卒業研究・設計課題：研究・設計のテーマの検討と設定																					
第6回	～第12回	卒業研究・設計課題：文献、資料収集及び考察、計画条件の設定																					
第13回	～第22回	卒業研究・設計課題：エスキス、設計																					
第23回	～第29回	卒業研究・設計課題：プレゼンテーションシートの作成																					
第30回		卒業研究・設計課題：発表																					
授業外学習(予習・復習)	ゼミでは適当な指導を受けられるよう、自らの構想や提案を表現する図面、スケッチ、スタディ模型等を用意する等、十分な準備を求める。																						
成績評価の方法	研究および設計の取り組み方、成果物の総合評価とする。																						
実務経験について	建築設計監理、コンサルタント業務																						

10 第一部商経学科の専攻間で共通する科目
(専門基礎科目)

授業科目	経済学		担当者	山口 祐司
	[履修年次] 1年		授業外対応	メール等で予約の上適宜対応します。
	[学期] 前期	[単位] 2	[必修/選択] 必修	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 ミクロ経済学・マクロ経済学を中心に経済学の基礎的な考え方を学んでいきます。</p> <p>【概要】 経済とは、経済学の考え方（第1～2回）。ミクロ経済学の基礎理論（第3～7回）。マクロ経済学の基礎理論（第8～14回）。</p> <p>【到達目標】 経済学の基礎的な概念と理論を理解すること。新聞などに登場する時事的な経済問題について、自分なりの観点をもつこと。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) マンキュー, N・グレゴリー (2014)『マンキュー入門経済学 [第2版]』東洋経済新報社</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 授業ガイダンス、経済とは何か</p> <p>第2回 経済学の考え方</p> <p>第3回 ミクロ経済学の基礎（1）需要と供給</p> <p>第4回 ミクロ経済学の基礎（2）価格決定と政府の政策</p> <p>第5回 ミクロ経済学の基礎（3）市場の効率性</p> <p>第6回 ミクロ経済学の基礎（4）不完全市場</p> <p>第7回 ミクロ経済学の基礎（5）ミクロ経済学のまとめ</p> <p>第8回 マクロ経済学の基礎（1）GDPの測定</p> <p>第9回 マクロ経済学の基礎（2）インフレーションとデフレーション</p> <p>第10回 マクロ経済学の基礎（3）経済成長</p> <p>第11回 マクロ経済学の基礎（4）貯蓄、投資と金融システム</p> <p>第12回 マクロ経済学の基礎（5）マクロ経済政策の役割</p> <p>第13回 マクロ経済学の基礎（6）外国貿易</p> <p>第14回 マクロ経済学の基礎（7）マクロ経済学のまとめ</p> <p>第15回 全体のまとめ、テスト対策</p>			
授業外学習(予習・復習)	毎回の授業範囲の予習（テキスト）・復習のほか、新聞の経済欄を日常から読むようにしてください。			
成績評価の方法	筆記試験（60%）、授業ごとの小論文（40%）			

授業科目	消費者問題		担当者	石窪 奈穂美
	[履修年次] 1年, 2年 履修可		授業外対応	講義終了時及び適宜対応（要予約）
	[学期] 後期	[単位] 2	[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】「消費者問題を通して考える—自己責任社会における消費者のあり方・役割について」</p> <p>【概要】規制緩和やグローバル化等、私たち消費者を取り巻く状況は様々に変化し、自己責任社会を迎えています。また、消費者問題も多様化・複雑化しています。様々な消費者問題を取り上げながら、消費者の権利と責任について理解し、消費者問題を幅広い視点から捉え、問題点や解決策を考えます。その上で、消費者としてあるべき姿や企業・行政のあり方等についても同時に考えていきます。</p> <p>【到達目標】消費者基本法が制定され、消費者は単なる保護する対象ではなく権利主体であることが明確化され、消費者自らが自立し、「消費者力」を身につけなければならないといわれています。生活者として、消費者として、社会人として、各自の価値システムをどう作り上げていくのか、消費者主権の主体的・合理的な選択、判断能力を養います。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 無し。随時プリント・資料等を配布する。</p> <p>(2) 講義時に必要な際は紹介する。</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 講義の目的と進め方、消費者の権利と責任</p> <p>第2回 消費者問題と生活問題、現代の生活問題の全体像</p> <p>第3回 消費者問題の時代背景とその後への影響</p> <p>第4回 悪質商法の現状、若者に多い商法</p> <p>第5回 ネット時代の消費者トラブルとその付き合い方</p> <p>第6回 消費者と契約、消費者法のしくみ</p> <p>第7回 消費者契約法、特定商取引法等</p> <p>第8回 クレジットの基礎知識と消費者トラブルの現状</p> <p>第9回 食に関する安心・安全の動き、食品表示制度</p> <p>第10回 食情報との付き合い方、見極め方</p> <p>第11回 急増する製品事故と法改正</p> <p>第12回 消費者安全と製造物責任法</p> <p>第13回 環境・エネルギー問題の捉え方と消費行動</p> <p>第14回 消費者市民社会の構築、消費者の責任と自覚</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示、復習を重視する。			
成績評価の方法	授業への参加態度（20%）、提出物（20%）、定期試験（60%）による総合評価			
実務経験について	企業勤務ならびに企業のアドバイザーとして活動。			

授業科目	行政法		担当者	山本 敬生	
	[履修年次] 1,2年履修可	[学期] 前期	[単位] 2単位	授業外対応	適宜対応(要予約)
テーマ及び概要	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】行政行為論を中心とした行政法の基礎理論を理解した上で、行政不服審査法、行政事件訴訟法、国家賠償法の基本構造を体系的に把握し、行政の法的コントロールのあり方について学習することをテーマにする。</p> <p>【概要】周知のとおり、行政法は通則的法典が存在しておらず、そのため無数の行政法規を把握するための理論が他の法律学に比べて強く求められる学問である。本講義では、行政法の基本原則である法律による行政の原理（法律の法規創造力、法律の優位の原則、法律の留保の原則）、行政行為、行政立法、行政計画、行政指導、行政契約等の行政の行為形式論、行政上の義務履行確保制度、行政手続等の行政上の一般制度をわかりやすく解説し行政法の基礎理論を体系的に理解した上で、行政不服審査法、行政事件訴訟法、国家賠償法といった一般法について、国民の権利救済という視点から学習する。</p> <p>【到達目標】行政法の基本原則、行政の行為形式論、行政上の一般制度、行政救済法について説明できるようになり、行政法的視点に立った行政と市民との関係のあり方を考察できる力を習得することを目標にする。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 佐伯仁志他編、『ポケット六法（令和4年度版）』、有斐閣</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 行政法概論 ・行政の定義、法律の法規創造力、法律の優位の原則、法律の留保の原則について</p> <p>第2回 行政立法 ・法規命令、委任命令、執行命令、白紙委任の禁止の原則、行政規則について</p> <p>第3回 行政行為(1) ・公定力、不可争力、不可変更力、執行力、拘束力について</p> <p>第4回 行政行為(2) ・無効の行政行為、取消しうべき行政行為、羈束行為、裁量行為について</p> <p>第5回 行政指導 ・規制行政指導、助成行政指導、調整行政指導、要綱行政について</p> <p>第6回 行政上の強制執行制度 ・代執行、執行罰、直接強制、行政上の強制徴収、行政サービスの提供拒否について</p> <p>第7回 行政手続法 ・申請に対する処分、不利益処分、行政指導、命令等を定める行為の手続について</p> <p>第8回 行政不服申立て ・審査請求、異議申し立て、再審査請求、教示について</p> <p>第9回 行政事件訴訟法(1) ・抗告訴訟、民衆訴訟、義務付け訴訟、差止め訴訟、取消訴訟、事情判決について</p> <p>第10回 行政事件訴訟法(2) ・取消判決の効力、執行不停止の原則、内閣総理大臣の異議、処分性について</p> <p>第11回 行政事件訴訟法(3) ・原告適格、保護に値する利益説、狭義の訴えの利益について</p> <p>第12回 国家賠償法(1) ・代位責任説、自己責任説、公権力の行使の範囲、故意・過失、求償権について</p> <p>第13回 国家賠償法(2) ・公の营造物、人工公物、自然公物、高知落石事件、大東水害事件について</p> <p>第14回 損失補償 ・奈良県ため池条例事件、完全補償説、相当補償説、国家補償の谷間について</p> <p>第15回 公物 ・公共用物、公用物、自然公物、人工公物、公物の時効取得について</p>				
授業外学習(予習・復習)	復習を重視する。				
成績評価の方法	筆記試験(90%)＋授業での発言内容(10%)を基準にして評価する。				

授業科目	経済政策		担当者	岩上 敏秀	
	[履修年次] 1年、2年	[学期] 前期	[単位] 2	授業外対応	いつでも対応します。メールで連絡してください。
テーマ及び概要	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】日本および地域経済が抱えるさまざまな課題に対して、どのような政策が必要なのかを考えます。</p> <p>【概要】経済成長の鈍化と人口減少・少子高齢化の進展によって、これまで日本の経済社会を支えてきた諸制度にひずみが生じ、再構築が迫られています。日本や地域経済が抱えるさまざまな課題を採り上げ、将来に向けた制度設計について考えていきます。スマホを活用したリアルタイム投稿システムを使い、受講者の意見を聞きながら双方向の講義を行います。</p> <p>【到達目標】日本および地域経済が抱えている課題に関心を持ち、さまざまな見方を踏まえ、自分自身で考える視点を持ち、自分の意見を説明できるようになる。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 授業内で適宜紹介する</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス：講義の目的・進め方 序章：経済政策とは何か</p> <p>第2回 日本経済の構造変化と経済政策：日本はなぜ課題先進国となったのか、どのような経済政策がとられてきたか</p> <p>第3回 経済成長を考える：経済政策の目的は、現在どのような経済政策がとられているか</p> <p>第4回 財政再建を考える(1)：財政の現状は、財政赤字は問題なのか</p> <p>第5回 財政再建を考える(2)：財政再建のための方策は、「社会保障と税の一体改革」とは</p> <p>第6回 社会保障と雇用の将来を考える(1)：社会情勢の変化と社会保障制度、少子高齢化の背景は</p> <p>第7回 社会保障と雇用の将来を考える(2)：所得格差は拡大しているのか、非正規雇用をめぐる課題とは</p> <p>第8回 環境の将来を考える(1)：環境問題とは何か、パリ協定とは、日本の取り組みは</p> <p>第9回 環境の将来を考える(2)：環境問題と経済政策</p> <p>第10回 環境の将来を考える(3)：環境ビジネスとは</p> <p>第11回 地域経済の将来を考える(1)：地方の現状は（人口減少、産業空洞化、地方の財政）</p> <p>第12回 地域経済の将来を考える(2)：地域経済を支える産業政策、農業の6次産業化とは</p> <p>第13回 地域経済の将来を考える(3)：外部講師による特別講義－ビジネスとしての農業を考える－</p> <p>第14回 地域経済の将来を考える(4)：地域創生のために必要な政策とは</p> <p>第15回 まとめ、講義評価アンケート実施</p>				
授業外学習(予習・復習)	適宜指示します				
成績評価の方法	中間レポート(40%)＋期末レポート(60%)				
実務経験について	国内外の金融機関で約30年の実務経験があります。				

授業科目	金融論		担当者	岩上 敏秀				
	〔履修年次〕	1年、2年	授業外対応	いつでも対応します。メールで連絡してください。				
	〔学期〕	前期	〔単位〕	2	〔必修/選択〕	選択	〔授業形態〕	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】金融の仕組みや、経済社会の中で果たしている役割について理解を深めます。</p> <p>【概要】モノやサービスが取引される裏では必ずお金が動きます。経済活動には、お金がスムーズに動く仕組みが不可欠です。金融とは世の中でお金がスムーズに動く仕組みのこと。本講義では、経済社会における金融の役割を学んだうえで、銀行や証券会社の役割や業務内容、株式等の証券取引や最新のフィンテック動向まで幅広いテーマを採り上げます。金融と経済のかかわりを幅広く学び、社会人として必要な金融知識を身につけます。スマホを活用したリアルタイム投稿システムを使って、受講者の意見を聞きながら双方の講義を行います。</p> <p>【到達目標】金融の基本的な仕組みや用語を理解し、仕事や生活で関わる金融に関する出来事について説明できるようになる。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 授業内で適宜紹介する</p>							
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス： 講義の目的・進め方 序論：金融の仕組みと役割を知ろう。なぜ金融を学ぶのか考えよう</p> <p>第2回 資金循環： 日本の中でのお金の大きな動きについて知ろう</p> <p>第3回 家計の貯蓄と金融資産選択： 家計の消費・貯蓄・投資行動について考えよう</p> <p>第4回 企業の投資と資金調達： 企業がお金を必要とする理由やその資金調達の方法について考えよう</p> <p>第5回 金融取引の特徴と課題： 金融取引の特徴について考えよう</p> <p>第6回 金融取引と金利： 金利について学ぼう（実際に計算練習しながら学びます。計算機持参のこと）</p> <p>第7回 銀行の役割： 銀行の役割や業務内容について学ぼう</p> <p>第8回 地域金融機関の役割： 鹿銀や南銀、鹿信など地域金融機関の役割や経営環境について考えよう</p> <p>第9回 金融市場： 証券取引所など集中して金融取引を行う金融市場の役割について学ぼう</p> <p>第10回 株式会社と証券市場： そもそも株式会社とは何か、なぜ株式や債券を発行するのかについて学ぼう</p> <p>第11回 株式市場： 株価はどのように決定されるのかについて考えよう</p> <p>第12回 日本銀行と金融政策： 日本銀行の役割や金融政策について学ぼう</p> <p>第13回 金融危機と規制： バブル崩壊やリーマンショックといった金融危機について考えよう</p> <p>第14回 金融の新しい仕組み： フィンテックなど金融の新しい動きについて学ぼう</p> <p>第15回 まとめ： 講義の振り返り、期末試験に関する質疑応答、講義評価アンケート実施</p>							
授業外学習(予習・復習)	適宜指示します。							
成績評価の方法	中間レポート (30%) + 期末試験 (70%)							
実務経験について	国内外の金融機関で約30年の実務経験があります。							

授業科目	社会政策		担当者	近間 由幸				
	〔履修年次〕	1,2年	授業外対応	適宜対応 (要予約)				
	〔学期〕	前期	〔単位〕	2単位	〔必修/選択〕	選択	〔授業形態〕	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】「日本型雇用システム」の下での労働・生活の全体像と社会政策の関係性について</p> <p>【概要】授業では、大企業男性正社員をモデルとして構築されてきた「日本型雇用システム」とそれに基づく社会政策について解説し、このシステムの周辺部に位置した失業者、女性、若者の格差・貧困の問題に対処するための社会政策を解説する。</p> <p>【到達目標】受講学生には、国の社会政策が自身の生活と密接にかかわっていることを理解してもらい、日本社会における格差や貧困の実態に問題意識を持ち、社会政策の方向性について自分の考えを持てるようになることを目指す。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 石畑良太郎・牧野富夫・伍賀一道編『よくわかる社会政策 (第3版) 雇用と社会保障』ミネルヴァ書房</p>							
授業スケジュール	<p>第1回 イントロダクション-日本社会の「しくみ」について</p> <p>第2回 社会政策とはなにか</p> <p>第3回 賃金と社会政策</p> <p>第4回 企業と労働組合の関係</p> <p>第5回 過労死と長時間労働</p> <p>第6回 非正規雇用とは何か</p> <p>第7回 日本社会における入社のしくみと若者支援政策</p> <p>第8回 日本型雇用システムと女性の働き方</p> <p>第9回 子育てと雇用政策</p> <p>第10回 高齢者の福祉と雇用</p> <p>第11回 働けないときにどのような支援があるのか</p> <p>第12回 社会保険と生活保護の溝</p> <p>第13回 労働市場政策の国際比較—スウェーデンモデルを事例として</p> <p>第14回 移民問題と外国人労働者</p> <p>第15回 全体のまとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	適宜指示							
成績評価の方法	授業ごとのミニレポート (30%) 筆記試験 (70%)							

授業科目	社会思想	担当者	未定
	[履修年次] 1,2年 [学期] 後期 [単位] 2単位	授業外対応 [必修/選択]	選択 [授業形態] 講義
テーマ及び概要	【テーマ】 【概要】 【到達目標】		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) (2)		
授業スケジュール	第 1回 第 2回 第 3回 第 4回 第 5回 第 6回 第 7回 第 8回 第 9回 第10回 第11回 第12回 第13回 第14回 第15回		
授業外学習(予習・復習)			
成績評価の方法			
実務経験について			

授業科目	民法	担当者	疋田 京子
	[履修年次] 1,2年 [学期] 前期 [単位] 2単位	授業外対応 [必修/選択]	選択 [授業形態] 講義
テーマ及び概要	【テーマ】企業の取引や労働契約、消費者契約の一般法である民法のしくみを知る 【概要】民法は財産法と家族法に分かれますが、主に「財産法」を対象にします。明治 29 年に制定された日本の「民法（財産法）」は、今大きく変わろうとしています。成人年齢の引き下げもその一つです。企業間の取引にも、個人の生活上の紛争解決にも適用される民法の全体構造を知り、それがどのように変わろうとしているのかを講義します。 【到達目標】具体的な紛争の事例を、権利と義務の関係として捉え、法的に説得力ある主張ができるようになること。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 伊藤塾『伊藤塾の公務員試験「民法」の点数が面白いほどとれる本』KADOKAWA (2) 授業内で適宜紹介する		
授業スケジュール	第 1回 オリエンテーション：民法が対象とする紛争とは？ 第 2回 民法の全体像：グローバル化時代の民法とその基本構造 第 3回 強行規定と任意規定：法定利率が変わるとどうなる？ 第 4回 民法の基本原則：法の世界の「信義誠実」「善意と悪意」 第 5回 権利の主体になる能力（1）：父の死後に生まれた子どもに相続権はある？ 第 6回 権利の主体になる能力（2）：成人年齢が18歳になると何がどう変わる？ 第 7回 制限行為能力者の保護と取引の安全：権利を濫用する未成年者とどう向き合うか？ 第 8回 契約の発生から効力の発生まで（1）：民法上の「代理」とは何か？ 第 9回 契約の発生から効力の発生まで（1）：条件と期限がついた契約 第10回 契約の成立要件と有効要件：契約が有効に成立するためには 第11回 契約の拘束力から解放されるとき：本心と違うことを言ったとき・言わされたとき 第12回 民法の時効制度：権利の上に眠る者は保護しないのが民法 第13回 物権の変動時期：動産の即時取得と不動産の対抗要件？ 第14回 不動産の権利関係と登記：公信力って何？ 第15回 まとめ		
授業外学習(予習・復習)	復習をしっかりとってください。		
成績評価の方法	2回のレポート（中間レポートと最終レポート）の提出（80％） 授業ごとのミニレポート（20％）		

授業科目	商法	担当者	河野 総史	
	[履修年次] 1年、2年 [学期] 前期 [単位] 2	授業外対応	講義修了後またはメールにて対応	
		[必修/選択]	選択	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 商法学のうち、会社法の基礎知識</p> <p>【概要】商法は、「市民の法」たる民法の特別法にあたり、いわば「商人の法」である。商法において学ぶ分野は多岐に渡るが本講義においては会社法の基礎知識を身に付け、社会の重要な構成要素である会社についての理解を深めることを目的とする。</p> <p>【到達目標】 株式制度と機関設計を中心に、株式会社の基礎知識を身に付けることを目標とする。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 指定しない（レジュメを配布する） (2) 適宜指示する</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 講義ガイダンス 民法と商法 第2回 会社法総論 第3回 会社の種類 第4回 株式①（株式の種類等） 第5回 株式②（株式の譲渡と譲渡制限） 第6回 株式③（自己株式・親会社株式取得規制等） 第7回 株式④（株式併合・分割・無償割当等） 第8回 資金調達①（会社設立時） 第9回 資金調達②（募集株式の発行等） 第10回 資金調達③（株式以外の資金調達手段） 第11回 機関①（機関総論） 第12回 機関②（株主総会） 第13回 機関③（取締役・取締役会） 第14回 機関④（監査役・会計参与・会計監査人） 第15回 機関⑤（指名委員会等設置会社・監査等委員会設置会社） 総まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	復習を徹底して、小テストに備えること			
成績評価の方法	期末テスト 80%小テスト 20% 全体で 60%以上を合格とする			

授業科目	産業心理学	担当者	岡村 俊彦	
	[履修年次] 1,2年 [学期] 前期 [単位] 2単位	授業外対応	講義前後に適宜対応	
		[必修/選択]	選択	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】産業に関わる心理学を多角的に学ぶ</p> <p>【概要】産業におけるヒューマンファクター（人的要因）を多角的に考える。前半は主に労働者の心理的側面を対象とするが、人間の基本的な特性もとらえることで、コンピュータを始め、システムの評価など多方面への応用も可能となる。後半は消費者の心理を対象とし、購買行動に関する様々な要因を考えていく。簡単な心理実験、心理テストなども織り交ぜていく予定である。</p> <p>【到達目標】商品、システム、労働環境を人間の快適性から評価し、改善を考えることができるようになる。また、購買行動に関わる心理を売り手、買い手の両面から考えることができるようになる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布、Webでも公開 (2) なし</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 概要説明 第2回 人間とシステムの間わり合い、精神作業：ヒューマンインターフェイスの概念と精神作業の種類と性質 第3回 記憶と学習：記憶と学習のメカニズムと産業への応用 第4回 ヒューマンインターフェイス1：ヒューマンインターフェイスの基本原則 第5回 ヒューマンインターフェイス2：ヒューマンインターフェイスの事例紹介 第6回 職場のストレス：仕事におけるストレスのメカニズムと対策 第7回 仕事の成功と動機付け：成功、失敗の心理的要因と仕事に対するモチベーションの種類 第8回 人間関係、労働時間：職場における人間関係、労働時間と仕事の関係 第9回 ユニバーサルデザイン：UDの理論と実践例 第10回 広告の心理学：広告が視聴者にあたえる影響とメカニズム 第11回 購買心理：消費者の購買心理 第12回 販売、印象管理：セールステクニックと印章管理 第13回 人間のエラー：人間のエラーのメカニズムと対策 第14回 こころをはかる生理心理学：生理的現象の測定による心理状況の推察 第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	通常のレポート2回分が80%、出席・授業中のショートレポートが20%			

授業科目	会計学総論		担当者	宗田 健一		
	[履修年次]	1, 2年いずれも履修可	授業外対応	適宜対応		
	[学期]	前期	[単位]	2	[授業形態]	講義
			[必修/選択]	選択		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 会計学の全体像を知る。</p> <p>【概要】 この講義は、これから会計を学習しようと思っている人を対象としています。会計の様々な領域について学習をします。半年間で、会計学の全体的な内容を理解することができます。</p> <p>【到達目標】 会計学の全体像を知る。会計学の様々な領域について学ぶ。会計の社会における役割を知る。</p>					
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 上野清貴・小野正芳編著『スタートアップ会計学』(第3版) 同文館出版 (2022年発行予定)</p> <p>(2) 桜井久勝『財務会計講義』(第22版) 中央経済社</p>					
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス、会計って何? 簿記・会計はどこからやってきたの? 簿記・会計の歴史概要</p> <p>第2回 会計にどんな資格があるのか? 会計の社会的役割</p> <p>第3回 会計はどう利用するの? 財務分析の概要</p> <p>第4回 企業の成績はどうやってみるの? 財務諸表の概要</p> <p>第5回 会計は経営にどう役立つの? 管理会計の概要</p> <p>第6回 モノがいくらでできたかはどうやって決まるの? 原価計算の概要</p> <p>第7回 会計情報はどうやって作られるの? 簿記の概要</p> <p>第8回 会計制度はどうなっているの? 財務会計の概要</p> <p>第9回 財務諸表は信頼できるの? 財務諸表監査の概要</p> <p>第10回 会社の税金はいくらになるの? 税務会計の概要</p> <p>第11回 グローバル経済における会計ルールってなに? 国際会計の概要</p> <p>第12回 持続可能な社会づくりに会計はどう貢献できるの? 環境会計・CSR会計の概要</p> <p>第13回 ボランティア活動にも儲けが必要な? 非営利会計の概要</p> <p>第14回 自治体の会計はどうなっているの? 公会計の概要</p> <p>第15回 まとめ: 試験範囲の提示, 成績評価方法の説明, 質疑応答, 授業評価アンケートの実施</p>					
授業外学習(予習・復習)	復習が大切です。					
成績評価の方法	期末レポート(100%)					

授業科目	簿記論Ⅰ		担当者	岡村 雄輝		
	[履修年次]	1,2年	授業外対応	講義前後に適宜対応		
	[学期]	後期	[単位]	2単位	[授業形態]	講義
			[必修/選択]	選択		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 複式簿記の基本原則を学ぶ</p> <p>【概要】 日商簿記3級レベルのテキスト、ワークブックを使用して複式簿記による記帳手続を解説し、問題演習に取り組みます。簿記力を着実に養い、より高度な会計を学ぶためには、問題演習の反復を通じた複式簿記の基本原則の理解が肝要です。勤勉な学習姿勢が望まれます。※簿記論Ⅱと連続して講義を展開しますので、併せて受講してください。</p> <p>【到達目標】 簿記上の取引を仕訳・転記する手続から、決算本手続までの概要を理解する。</p>					
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 渡部裕互, 片山覚, 北村敬子(編)『新検定 簿記講義3級 商業簿記』『新検定 簿記ワークブック』(令和4年版), 中央経済社。</p> <p>(2) 伊藤龍峰ほか『基本簿記原理』(第2版), 中央経済社。</p>					
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス: 履修登録の確認, 講義概要の説明</p> <p>第2回 仕訳と転記: 勘定, 取引の意義と種類, 取引8要素と結合関係</p> <p>第3回 仕訳帳と元帳: 帳簿の種類, 仕訳帳への記入, 総勘定元帳への転記</p> <p>第4回 決算: 帳簿の締切りと財務諸表の作成, 決算手続と精算表</p> <p>第5回 現金と預金: 現金勘定と現金出納帳, 現金過不足, 当座預金と当座借越</p> <p>第6回 繰越商品・仕入・売上: 3分法, 諸掛と返品</p> <p>第7回 売掛金と買掛金: 売掛金と買掛金の意義, 人名勘定, 売掛金と元帳と買掛金元帳</p> <p>第8回 その他の債権と債務: 貸付金と借入金, 未収入金と未払金, 立替金と預り金</p> <p>第9回 受取手形と支払手形: 手形の振出しと受入れ, 受取手形記入帳と支払手形記入帳, 電子記録債権と債務</p> <p>第10回 貸倒損失と貸倒引当金: 貸倒れとは?, 貸倒引当金の設定</p> <p>第11回 収益と費用: 収益・費用の未収・未払いと前受け・前払い</p> <p>第12回 税金: 租税公課, 法人税, 住民税及び事業税, 消費税</p> <p>第13回 財務諸表: 決算手続, 試算表作成, 棚卸表の作成と決算整理事項</p> <p>第14回 総合問題: 問題演習と解説①</p> <p>第15回 総合問題: 問題演習と解説③</p>					
授業外学習(予習・復習)	毎回復習をすること。継続的な学習なしに簿記はできるようになりません。					
成績評価の方法	期末テスト80%, 小テスト20%					

授業科目	経営学総論		担当者	竹中 啓之
	[履修年次]	1年	授業外対応	適宜対応(要予約)、及び講義終了後
	[学期]	前期	[単位]	2単位
			[必修/選択]	必修
			[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】経営学全般について、幅広く理解し、経営学の特徴的な考え方を習得する。</p> <p>【概要】この講義では、これから経営学を学ぶにあたって、必要と思われる知識や考え方について説明する。まず、経営学が取り扱う様々なテーマをできるだけ幅広く取り上げ、企業や組織の仕組みを理解する。また、単なる知識の習得だけではなく、経営学が持っている特徴的な考え方も説明し、それに触れることで、その他の経営学関連の科目の修得の手助けになることを目指す。さらに、経営学が取り扱うテーマは、企業だけではなく、様々な場面で役立てることができる、実践的な学問であることも説明していくことにする。</p> <p>【到達目標】経営学に関する基礎的な知識を習得する。経営学と社会との関わりを理解する。そのほかの経営学関連の科目を履修する際に手助けとなるような力を身につける。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 授業中に配布するプリント</p> <p>(2) 講義中に指示する</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 講義概要の説明：講義の進め方・内容・評価方法について説明する。</p> <p>第2回 経営学と経済学の違い：経営学と経済学の最も特徴的な違いについて説明する。</p> <p>第3回 経営学の発展と必要性：経営学がいつか社会にとって必要とされてきたかを理解する。</p> <p>第4回 企業の種類について：企業の種類とそれぞれの特徴について考える。</p> <p>第5回 企業の目的と役割について：企業が持っている目的と、果たすべき役割について理解する。</p> <p>第6回 企業における4つの経営資源（ヒト）：働く私たちと企業と関係を考える。</p> <p>第7回 企業における4つの経営資源（カネ）：企業の資金調達の方法などについて説明する。</p> <p>第8回 これまでのまとめと補足説明、及び中間テスト（予定）</p> <p>第9回 企業における4つの経営資源（モノ）：主にマーケティングについて説明する。</p> <p>第10回 企業における4つの経営資源（情報）：企業における情報の種類やその活用方法について説明する。</p> <p>第11回 日本の経営を考える：年功主義や終身雇用、そして成果主義・能力主義などについて考える。</p> <p>第12回 組織の基本的な仕組みについて：基本的な組織構造を理解し、その特徴を知る。</p> <p>第13回 企業統治について：株式会社の意思決定の仕組みについて説明する。</p> <p>第14回 経営戦略を考える：経営戦略の考え方について説明する。</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。			
成績評価の方法	期末筆記試験（70%）、中間レポートもしくは小テスト（30%）（予定） 詳細は1回目の講義で説明します。			

授業科目	情報科学概論		担当者	岡村 俊彦
	[履修年次]	1,2年	授業外対応	講義前後に適宜対応
	[学期]	後期	[単位]	2単位
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】コンピュータやネットワークなど情報科学（ICT）全般の基礎知識を学ぶ</p> <p>【概要】コンピュータ（ハードウェア、ソフトウェア、周辺機器）やネットワークの仕組みを知り、現代社会においてどのような役割があり、どのような問題点があるかを知る。結果として、効果的かつ適切なIT活用が可能となり、トラブル解決もできるようになる。また、ネットワークを安全に使うためのルール、マナーを学ぶ。また、授業の3分の1程度の時間を使い、ITに関する学生からの質問に対する解説をおこなう。</p> <p>【到達目標】・初心者向け情報関連雑誌を80%以上理解できる ・初心者に対して、パソコンやネットワークの安全、便利な運用に関する簡単なアドバイスができる ・調子の悪いパソコンを直す</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布、Webでも公開</p> <p>(2) 初心者向け情報関連雑誌</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 概要説明</p> <p>第2回 ハードウェアとソフトウェア：ハードとソフトの違いと役割</p> <p>第3回 パソコンの中身：パソコン内部の部品とその役割</p> <p>第4回 単位と容量と速度：情報処理や通信に関わる単位と容量、速度</p> <p>第5回 インターネットの仕組み：インターネットとネットワークの仕組み</p> <p>第6回 電子メールの使い方：電子メールの仕組みと正しい使用法</p> <p>第7回 ITセキュリティ：マルウェアとセキュリティ対策</p> <p>第8回 インターフェイス：インターフェイスの種類と特性</p> <p>第9回 周辺機器1：モニター、光学ドライブなど周辺機器の役割、仕組み</p> <p>第10回 周辺機器2：プリンタ、デジカメなど周辺機器の役割、仕組み</p> <p>第11回 ソフトの分類：ソフトウェアの分類と正しい使用法</p> <p>第12回 クラウド、ビッグデータ、IoT：新たなインターネットのトレンドと今後の展開</p> <p>第13回 スペックの見方：パソコン、周辺機器のスペック（仕様）の見方</p> <p>第14回 AIの活用とインターネットの国際比較：AIの仕組み、活用例とインターネット利用の国際比較</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	まとめ			
成績評価の方法	通常のレポート2回分が80%、出席・授業中のショートレポートが20%			

授業科目	文書作成実習・経済		担当者	永仮 ゆかり
	[履修年次]	1年	授業外対応	講義終了時および必要に応じてメール
	[学期]	後期	[単位]	1単位
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	実習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>「Microsoft Word」を活用した、実践的なビジネス文書の作成能力の習得</p> <p>【概要】</p> <p>「Microsoft Word」を活用した実践的なビジネス文書の作成能力、IT・ネットワーク関連知識、文章の読解力、文書作成上の技巧など広く文書処理全般にわたる技能を習得することを目的とする。また、あわせて日商 PC 検定（文書作成 3 級）対策を行い、資格取得を目指す。</p> <p>【到達目標】</p> <p>実践的なビジネス文書の作成能力の習得（日商 PC 検定文書作成 3 級合格レベルの技能の習得）</p> <p>*後期から履修する場合は、前期「情報リテラシー I」授業内容程度の技能を習得していることを前提とする</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 未定</p> <p>(2) 富士通エフ・オー・エム (株)『よくわかる Microsoft Word 2019 基礎』FOM 出版 ほか授業にて紹介する</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 前期の復習 : 概要説明、前期の復習（基本的なビジネス文書の作成）</p> <p>第 2 回 検定対策（3 級） : 社外文書の作成（案内状）、知識問題（共通分野）</p> <p>第 3 回 検定対策（3 級） : 課題文書作成 1（表を利用した文書の作成）、知識問題（共通分野）</p> <p>第 4 回 検定対策（3 級） : 図形を利用した文書の作成、知識問題（共通分野）</p> <p>第 5 回 検定対策（3 級） : 報告書の作成（計算式を含む文書）、図形の補足、知識問題（共通分野）</p> <p>第 6 回 検定対策（3 級） : 通知状の作成、知識問題（共通分野）</p> <p>第 7 回 検定対策（3 級） : 課題文書作成 2（文書作成 3 級実技練習問題）、知識問題（共通分野）</p> <p>第 8 回 検定対策（3 級） : 文書作成 3 級検定模擬問題演習、知識問題（共通分野）</p> <p>第 9 回 検定対策（3 級） : 文書作成 3 級検定模擬問題演習</p> <p>第 10 回 Excel データの利用 : Excel データ（表、グラフ）の文書への取り込み</p> <p>第 11 回 文書の編集 : いろいろな応用機能（スタイル、セクション区切りの挿入、文書の挿入など）</p> <p>第 12 回 報告書の作成 : 課題文書作成 3（Excel データ・テキストファイルの利用、書式のコピーなど）</p> <p>第 13 回 稟議書の作成 : 稟議書の作成（ユーザー定義の段落番号、表の編集など）</p> <p>第 14 回 議事録の作成 : 議事録の作成（テンプレートの利用、スタイルの設定、セクション区切りなど）</p> <p>第 15 回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	知識問題の予習・復習、「Microsoft Word」操作の復習など適宜指示			
成績評価の方法	期末試験（知識科目 20%+実技科目 50%）+授業中に実施する課題（30%）			
実務経験について	OA インストラクター、職業訓練校パソコン実習科目の講師、市民講座パソコン講座の講師			

(注) 経済専攻

授業科目	文書作成実習・経情		担当者	永仮 ゆかり
	[履修年次]	1年	授業外対応	講義終了時および必要に応じてメール
	[学期]	後期	[単位]	1単位
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	実習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>「Microsoft Word」を活用した、実践的なビジネス文書の作成能力の習得</p> <p>【概要】</p> <p>「Microsoft Word」を活用した実践的なビジネス文書の作成能力、IT・ネットワーク関連知識、文章の読解力、文書作成上の技巧など広く文書処理全般にわたる技能を習得することを目的とする。また、あわせて日商 PC 検定（文書作成 3 級）対策を行い、資格取得を目指す。</p> <p>【到達目標】</p> <p>実践的なビジネス文書の作成能力の習得（日商 PC 検定文書作成 3 級合格レベルの技能の習得）</p> <p>*後期から履修する場合は、前期「情報リテラシー I」授業内容程度の技能を習得していることを前提とする</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 未定</p> <p>(2) 富士通エフ・オー・エム (株)『よくわかる Microsoft Word 2019 基礎』FOM 出版 ほか授業にて紹介する</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 前期の復習 : 概要説明、前期の復習（基本的なビジネス文書の作成）</p> <p>第 2 回 検定対策（3 級） : 社外文書の作成（案内状）、知識問題（共通分野）</p> <p>第 3 回 検定対策（3 級） : 課題文書作成 1（表を利用した文書の作成）、知識問題（共通分野）</p> <p>第 4 回 検定対策（3 級） : 図形を利用した文書の作成、知識問題（共通分野）</p> <p>第 5 回 検定対策（3 級） : 報告書の作成（計算式を含む文書）、図形の補足、知識問題（共通分野）</p> <p>第 6 回 検定対策（3 級） : 通知状の作成、知識問題（共通分野）</p> <p>第 7 回 検定対策（3 級） : 課題文書作成 2（文書作成 3 級実技練習問題）、知識問題（共通分野）</p> <p>第 8 回 検定対策（3 級） : 文書作成 3 級検定模擬問題演習、知識問題（共通分野）</p> <p>第 9 回 検定対策（3 級） : 文書作成 3 級検定模擬問題演習</p> <p>第 10 回 Excel データの利用 : Excel データ（表、グラフ）の文書への取り込み</p> <p>第 11 回 文書の編集 : いろいろな応用機能（スタイル、セクション区切りの挿入、文書の挿入など）</p> <p>第 12 回 報告書の作成 : 課題文書作成 3（Excel データ・テキストファイルの利用、書式のコピーなど）</p> <p>第 13 回 稟議書の作成 : 稟議書の作成（ユーザー定義の段落番号、表の編集など）</p> <p>第 14 回 議事録の作成 : 議事録の作成（テンプレートの利用、スタイルの設定、セクション区切りなど）</p> <p>第 15 回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	知識問題の予習・復習、「Microsoft Word」操作の復習など適宜指示			
成績評価の方法	期末試験（知識科目 20%+実技科目 50%）+授業中に実施する課題（30%）			
実務経験について	OA インストラクター、職業訓練校パソコン実習科目の講師、市民講座パソコン講座の講師			

(注) 経営情報専攻

授業科目	統計学		担当者	倉重 賢治	
	[履修年次]	1, 2年	授業外対応	適宜対応	
	[学期]	後期	[単位]	2	
			[必修/選択]	選択	
				[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 基本的な統計解析を学ぶ</p> <p>【概要】 現在、情報技術を有効に活用してデータ収集を行い、そのデータの分布や性質を明らかにすることが重要視されている。この講義では、そのためのツールとしての基本的な統計解析を学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的なデータ処理を行う ・相関関係について理解する ・検定について理解する 				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 木下栄蔵, 『入門統計解析』, 講談社サイエンティフィク</p>				
授業スケジュール	<p>第 1回 序論：統計学とは</p> <p>第 2回 データの基本処理：平均値、度数分布</p> <p>第 3回 データの基本処理：標準正規分布</p> <p>第 4回 データの基本処理：正規分布</p> <p>第 5回 データの基本処理：正規分布と偏差値</p> <p>第 6回 データの基本処理：確率分布</p> <p>第 7回 統計解析：相関係数</p> <p>第 8回 統計解析：回帰直線</p> <p>第 9回 統計解析：カイ2乗検定</p> <p>第10回 統計解析：平均値の推定</p> <p>第11回 統計解析：平均値の検定</p> <p>第12回 統計解析：比率の推定と検定</p> <p>第13回 統計解析：ベイズ統計学</p> <p>第14回 統計解析：分散分析</p> <p>第15回 まとめ</p>				
授業外学習(予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	期末試験 (100%)				

授業科目	応用文書処理		担当者	岡村 俊彦	
	[履修年次]	2年	授業外対応	講義前後に適宜対応	
	[学期]	前期	[単位]	1単位	
			[必修/選択]	選択	
				[授業形態]	実習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】複数のアプリケーションを有機的に活用しながら、ネットワークにも対応したドキュメント作成を学ぶ</p> <p>【概要】1) 自己紹介文書作成：ワープロソフトを核に、グラフや写真などを含んだ自己紹介文書を作成する。 2) ホームページ作成：自分なりの大学のホームページを作成し、公開する。 3) 提案書作成：インターネット検索と表計算ソフトを使い、架空の提案書を作成する。</p> <p>【到達目標】初めて扱うソフトでもすぐに使えるようになる ・わかりやすいドキュメントを作成する ・インターネット上のルールやマナーを身に付ける。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Webで公開</p> <p>(2) なし</p>				
授業スケジュール	<p>第 1回 概要説明</p> <p>第 2回 自己紹介文書作成1：ワープロを使ったベース文書の作成</p> <p>第 3回 自己紹介文書作成2：表計算ソフトを使ったグラフ作成とベース文書の結合</p> <p>第 4回 自己紹介文書作成3：写真、図の取り扱いとベース文書の結合</p> <p>第 5回 自己紹介文書作成4：仕上げ。印刷設定のコツ</p> <p>第 6回 ホームページ作成1：HTML 概念の復習。USB メモリへのソフトの導入</p> <p>第 7回 ホームページ作成2：課題設定とページ作成</p> <p>第 8回 ホームページ作成3：資料収集とページ作成</p> <p>第 9回 ホームページ作成4：ページ公開</p> <p>第10回 提案書作成1：インターネットによる費用情報検索</p> <p>第11回 提案書作成2：表計算ソフトを使った自動計算書</p> <p>第12回 提案書作成3：プレゼン資料の作成</p> <p>第13回 提案書作成4：仕上げ、データ送信のコツ</p> <p>第14回 提案書作成5：プレゼンと評価</p> <p>第15回 まとめ</p>				
授業外学習(予習・復習)	まとめ				
成績評価の方法	レポート (3つの課題を総合的に評価)				

授業科目	PCデータ活用・経済		担当者	口脇 淳子	
	[履修年次]	1年	授業外対応	授業後のまとめプリントで質問対応・習熟度確認	
	[学期]	前期	[単位]	2	
		[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 表計算ソフト「Microsoft Excel」を活用した基本操作の習得と活用</p> <p>【概要】 表計算ソフト「Microsoft Excel」を使用し、まずは作表やグラフ化・業務データの分析など実務に必要な機能・操作法を習得する。さらに各機能の特徴と活用法を目的に応じて使い分けができる応用力を身につけられる技術を学ぶ。</p> <p>【到達目標】 表計算ソフト「Microsoft Excel」の基本操作を確実に習得する。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 実教出版編修部 30時間でマスター Excel2019 (Windows10 対応) 実教出版株式会社</p> <p>(2)</p>				
授業スケジュール	<p>第 1回 習熟度確認アンケート Excelの起動と画面の確認 文字入力の確認</p> <p>第 2回 簡単な表作成とグラフ化: Excelの基本的な流れを確認</p> <p>第 3回 編集機能を活用した見やすい表の作成: 行・列の操作・計算式や関数(合計・平均)の活用</p> <p>第 4回 編集機能を活用した見やすい表の作成: 体裁の整え方・罫線</p> <p>第 5回 データ処理: 関数の利用(カウント・端数処理など)</p> <p>第 6回 データ処理: 関数の利用(条件の判定・論理関数など)</p> <p>第 7回 データ処理: 関数の利用(順位づけ・VLOOKUPなど)</p> <p>第 8回 各関数を利用した実習問題(小テスト)</p> <p>第 9回 棒グラフ・折れ線グラフの作成とさまざまな設定(軸ラベル・データラベル・目盛りなど)</p> <p>第 10回 円グラフ・3-Dグラフの作成とさまざまな設定(データ範囲の変更・系列の書式など)</p> <p>第 11回 複合グラフ・ドーナツグラフ・絵グラフの作成(系列の設定・テキストボックスの利用・画像の利用など)</p> <p>第 12回 データベース入門: データベース作成上の各機能</p> <p>第 13回 データの集計(並べ替え・抽出 ほか)</p> <p>第 14回 データの集計(ピボットテーブル)</p> <p>第 15回 前期のまとめ</p>				
授業外学習(予習・復習)	各回の授業後、テキスト内の練習問題を復習し、次回授業時に提出もしくは確認を行う。				
成績評価の方法	期末試験(70%) + 小テスト(20%) + 授業で課せられる課題の提出状況(10%)				
実務経験について	企業、個人への講習会講師				

授業科目	PCデータ活用実習・経済		担当者	口脇 淳子	
	[履修年次]	1年	授業外対応	授業後のまとめプリントで質問対応・習熟度確認	
	[学期]	後期	[単位]	1	
		[必修/選択]	選択	[授業形態]	実習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 表計算ソフト「Microsoft Excel」を活用したビジネス現場で活用できる実践的な知識と技術の習得</p> <p>【概要】 前期習得した内容が確実に活用できるよう、さまざまな実践問題に取り組む。また、実務に必要な業務知識も身につけられるようにする。</p> <p>【到達目標】 知識と技術の習得を日商PC検定試験(データ活用)の3級資格取得で確認 ☆ 後期から履修する場合は、前期授業内容程度の技術を習得していることを前提とする</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 実教出版編修部 30時間でマスター Excel2019 (Windows10 対応) 実教出版株式会社</p> <p>(2) プリント</p>				
授業スケジュール	<p>第 1回 前期授業の復習 知識科目問題</p> <p>第 2回 検定対策問題: 構成比を求める問題 知識科目問題</p> <p>第 3回 検定対策問題: データの追加入力がある問題 知識科目問題</p> <p>第 4回 検定対策問題: ABC分析 知識科目問題</p> <p>第 5回 検定対策問題: 簿記の要素を含んだ問題 知識科目問題</p> <p>第 6回 検定対策問題: 利益率を求める問題 知識科目問題</p> <p>第 7回 検定対策問題: データの集計を取る問題 知識科目問題</p> <p>第 8回 検定対策問題: 達成率を求める問題 知識科目問題</p> <p>第 9回 検定対策問題小テスト(実技問題・知識科目問題)</p> <p>第 10回 検定対策問題: 伸び率を求める問題 知識科目問題</p> <p>第 11回 検定対策問題: データを参照する問題 知識科目問題</p> <p>第 12回 検定対策問題: 集計データから請求書を作成する問題 知識科目問題</p> <p>第 13回 検定対策問題: 別シートのデータから計算式を設定する問題 知識科目問題</p> <p>第 14回 検定対策問題: 集計データをグループ化する問題 知識科目問題</p> <p>第 15回 後期のまとめ 知識科目問題</p>				
授業外学習(予習・復習)	授業後、同じ問題を、時間を計って解いてみる				
成績評価の方法	期末試験(70%) + 小テスト(20%) + 授業で課せられる課題の提出状況(10%)				
実務経験について	企業、個人への講習会講師				

授業科目	PCデータ活用・経営情報		担当者	口脇 淳子
	[履修年次]	1年	授業外対応	授業後のまとめプリントで質問対応・習熟度確認
	[学期]	前期	[単位]	2
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 表計算ソフト「Microsoft Excel」を活用した基本操作の習得と活用</p> <p>【概要】 表計算ソフト「Microsoft Excel」を使用し、まずは作表やグラフ化・業務データの分析など実務に必要な機能・操作法を習得する。さらに各機能の特徴と活用法を目的に応じて使い分けができる応用力を身につけられる技術を学ぶ。</p> <p>【到達目標】 表計算ソフト「Microsoft Excel」の基本操作を確実に習得する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 実教出版編修部 30時間でマスター Excel2019 (Windows10 対応) 実教出版株式会社 (2)			
授業スケジュール	<p>第 1 回 習熟度確認アンケート Excel の起動と画面の確認 文字入力の確認</p> <p>第 2 回 簡単な表作成とグラフ化: Excel の基本的な流れを確認</p> <p>第 3 回 編集機能を活用した見やすい表の作成: 行・列の操作・計算式や関数 (合計・平均) の活用</p> <p>第 4 回 編集機能を活用した見やすい表の作成: 体裁の整え方・罫線</p> <p>第 5 回 データ処理: 関数の利用 (カウント・端数処理など)</p> <p>第 6 回 データ処理: 関数の利用 (条件の判定・論理関数など)</p> <p>第 7 回 データ処理: 関数の利用 (順位づけ・VLOOKUP など)</p> <p>第 8 回 各関数を利用した実習問題 (小テスト)</p> <p>第 9 回 棒グラフ・折れ線グラフの作成とさまざまな設定 (軸ラベル・データラベル・目盛りなど)</p> <p>第 10 回 円グラフ・3-D グラフの作成とさまざまな設定 (データ範囲の変更・系列の書式など)</p> <p>第 11 回 複合グラフ・ドーナツグラフ・絵グラフの作成 (系列の設定・テキストボックスの利用・画像の利用など)</p> <p>第 12 回 データベース入門: データベース作成上の各機能</p> <p>第 13 回 データの集計 (並べ替え・抽出 ほか)</p> <p>第 14 回 データの集計 (ピボットテーブル)</p> <p>第 15 回 前期のまとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	各回の授業後、テキスト内の練習問題を復習し、次回授業時に提出もしくは確認を行う。			
成績評価の方法	期末試験 (70%) + 小テスト (20%) + 授業で課せられる課題の提出状況 (10%)			
実務経験について	企業、個人への講習会講師			

授業科目	PCデータ活用実習・経営情報		担当者	口脇 淳子
	[履修年次]	1年	授業外対応	授業後のまとめプリントで質問対応・習熟度確認
	[学期]	後期	[単位]	1
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	実習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 表計算ソフト「Microsoft Excel」を活用したビジネス現場で活用できる実践的な知識と技術の習得</p> <p>【概要】 前期習得した内容が確実に活用できるよう、さまざまな実践問題に取り組む。また、実務に必要な業務知識も身につけられるようにする。</p> <p>【到達目標】 知識と技術の習得を日商PC検定試験(データ活用)の3級資格取得で確認 ☆ 後期から履修する場合は、前期授業内容程度の技術を習得していることを前提とする</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 実教出版編修部 30時間でマスター Excel2019 (Windows10 対応) 実教出版株式会社 (2) プリント			
授業スケジュール	<p>第 1 回 前期授業の復習 知識科目問題</p> <p>第 2 回 検定対策問題: 構成比を求める問題 知識科目問題</p> <p>第 3 回 検定対策問題: データの追加入力がある問題 知識科目問題</p> <p>第 4 回 検定対策問題: ABC分析 知識科目問題</p> <p>第 5 回 検定対策問題: 簿記の要素を含んだ問題 知識科目問題</p> <p>第 6 回 検定対策問題: 利益率を求める問題 知識科目問題</p> <p>第 7 回 検定対策問題: データの集計を取る問題 知識科目問題</p> <p>第 8 回 検定対策問題: 達成率を求める問題 知識科目問題</p> <p>第 9 回 検定対策問題小テスト (実技問題・知識科目問題)</p> <p>第 10 回 検定対策問題: 伸び率を求める問題 知識科目問題</p> <p>第 11 回 検定対策問題: データを参照する問題 知識科目問題</p> <p>第 12 回 検定対策問題: 集計データから請求書を作成する問題 知識科目問題</p> <p>第 13 回 検定対策問題: 別シートのデータから計算式を設定する問題 知識科目問題</p> <p>第 14 回 検定対策問題: 集計データをグループ化する問題 知識科目問題</p> <p>第 15 回 後期のまとめ 知識科目問題</p>			
授業外学習(予習・復習)	授業後、同じ問題を、時間を計って解いてみる			
成績評価の方法	期末試験 (70%) + 小テスト (20%) + 授業で課せられる課題の提出状況 (10%)			
実務経験について	企業、個人への講習会講師			

授業科目	PC アプリケーション実習	担当者	刈屋 美枝子
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1	授業外対応	授業前後。メールでの質問にも随時対応。
		[必修/選択] 選択	[授業形態] 実習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 学習やビジネスの場で使用されている様々なアプリケーション・ソフトウェアを実践的に使いこなす。</p> <p>【概要】 本実習は前期の情報リテラシーII (E) (F) の応用となるので、基本的に前期の PC 経験度別クラス編成を継続する。情報リテラシーII で扱えなかった各種アプリケーション (プレゼンテーション、PDF ファイル、OCR、動画編集、HP 作成など) の基本的な使い方を学習する。また、スマートフォンアプリと連携したパソコンの使い方を強化する。</p> <p>【到達目標】 上記アプリケーション・ソフトウェアの基本的使い方に習熟し、自ら実践的に応用できるようになる。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) なし</p> <p>(2) 随時、資料ファイルを配信。</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 前期授業の復習 プレゼンテーションアプリ PowerPoint (1)</p> <p>第 2 回 プレゼンテーションアプリ PowerPoint (2) 第 1 回課題</p> <p>第 3 回 スマートフォンアプリとの連携 授業アンケート (授業の要望及び取り組みたいアプリの希望など)</p> <p>第 4 回 動画ファイルの扱い方…動画作成・編集ソフト</p> <p>第 5 回 動画ファイルの扱い方…動画の撮影、編集</p> <p>第 6 回 動画ファイルの扱い方…動画の編集 第 2 回課題</p> <p>第 7 回 PDF ファイルの扱い方…スキャナーと OCR の利用 : 画像文書からテキストへ</p> <p>第 8 回 PDF ファイル (ソフトウェア Adobe Acrobat) の扱い方…文書ファイルの統合</p> <p>第 9 回 PDF ファイル (ソフトウェア Adobe Acrobat) の扱い方…セキュリティ設定などの応用</p> <p>第 10 回 Windows パソコンの知っておくと便利な機能</p> <p>第 11 回 ホームページの作成 (1)</p> <p>第 12 回 ホームページの作成 (2)</p> <p>第 13 回 ホームページの作成 (3) 第 3 回課題</p> <p>第 14 回 アンケートで学生が希望したアプリへの対応</p> <p>第 15 回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	3 回の課題は基本的に宿題。自宅にパソコンがない場合、空き時間に学校で取り組むこと。		
成績評価の方法	3 回の課題 (70%) と実技試験 (30%) の総合評価		
実務経験について	本学パソコン講師歴 20 年以上、実務翻訳業 20 年以上 (鹿児島商工会議所会員)		

11 經濟專攻專門科目

授業科目	日本経済論	担当者	船津 潤
	[履修年次] 1年, 2年いずれでも履修可 [学期] 前期 [単位] 2	授業外対応	講義前後, それ以外にも随時(日時を調整することがあるかもしれませんが, 遠慮なく声をかけてください)
		[必修/選択]	選択 [授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】日本の明治維新以降の経済・経済政策の動きとその背景について理解を深めること</p> <p>【概要】明治維新から現在までの日本の経済と経済政策の動向について, 特に産業政策, そして構造改革とアベノミクスに焦点を当てながら講義します。また, 過去が現在とどうつながっているかという歴史的推移とともに, 石油危機, プラザ合意, 日米構造協議, そしてグローバル化といった海外からの影響を強く意識しながら講義を進めます。</p> <p>【到達目標】①明治維新以降の日本の経済と経済政策の歴史的推移について理解し, 説明できるようになること ②日本経済の歴史と海外とのつながりを踏まえて, 日本経済の現状と課題について自分なりの見解が持てるようになること</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) なし (2) 三和良一『概説日本経済史 近現代 (第3版)』東京大学出版会 内閣府『年次経済財政報告 各年度版』</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス: 講義の目標, 評価基準等の説明 第2回 日本の産業政策の歴史 戦前(1): 資本主義社会とはどんな社会か等 第3回 日本の産業政策の歴史 戦前(2): 明治維新の意義, その後の産業構造の変化等 第4回 敗戦直後の日本経済: 敗戦直後の状況, 傾斜生産方式, 1950年代前半の産業政策等 第5回 高度成長の開始: 高度成長初期の産業政策と経済状況・産業構造等 第6回 行政指導: 勸告操短, 企業の反発等 第7回 開放経済体制への移行: IMF8 条国への移行, 産業再編等 第8回 1970年代の日本経済: 2度のオイル・ショック, 構造不況業種への対応, 知識集約化・高付加価値化への動き等 第9回 企業集団とその変化: 戦後の企業集団の特徴, グループ内の結び付き, 現在の状況等 第10回 1980年代以降の日本経済: 対米貿易摩擦, 日米構造協議等 第11回 現在の産業政策: 産業競争力強化法, 現在の産業政策の特徴等 第12回 グローバル化と構造改革への動き: プラザ合意と国際協調, バブル崩壊後の動向等 第13回 構造改革: 構造改革の特徴・本質等 第14回 構造改革とアベノミクス: 構造改革下の福祉改革の内容と特徴, アベノミクスとの比較等 第15回 まとめ: 講義を振り返りつつポイントの説明, 試験についての説明等</p>		
授業外学習(予習・復習)	<p>普段から日本経済関連のニュース(できれば外国のメディアを含む複数)に注目すること, 特に講義後に関連する事項についてインターネットや文献等を通して調べ, 検討することを勧めます(これらは公務員試験を含む就職活動や四大への編入にも非常に有効です)。そして, 講義内容に直接関係しなくても, 聞きたいことが出てきたら, 遠慮なく質問してください。</p>		
成績評価の方法	<p>筆記試験(80%), 小テスト(20%)を基本とし, アクティブラーニングでの発言内容で加点します。小テストやアクティブラーニング等の詳細については1回目の講義(ガイダンス)で説明します。</p>		

授業科目	財政学	担当者	船津 潤
	[履修年次] 1年, 2年いずれでも履修可 [学期] 後期 [単位] 2	授業外対応	講義前後, それ以外にも随時(日時を調整することがあるかもしれませんが, 遠慮なく声をかけてください)
		[必修/選択]	選択 [授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】財政に関する基本的な概念や理論, 日本の財政の基礎的な制度について, 内容, 実態, 特徴, 課題に関する理解を深めること</p> <p>【概要】まずは財政に関する基本的な概念や理論について講義します。その上で, それらを踏まえて財政の基礎的な制度に関する講義を行います。そこでは, 財政民主主義という財政制度の根幹, 経済における公共部門と民間部門の関係, 歴史的推移, そしてグローバル化の影響を強く意識しながら講義を進めます。この講義を受講することで, 経済学等で学んだマクロ経済学の理論等が実際にどのように政府の政策に活用されているのかも理解できると思います。また, 財政は, 政治と経済の「つなぎ目」の役割を担っていますので, 他の科目では触れることが少ない経済に対する政治の影響に関しても見識を高めることができるはずです。</p> <p>【到達目標】①財政の基礎的な制度について理解し, 説明できるようになること ②実際の政府の活動について分析・評価できるようになること ③マクロ経済学の理論等がどのように政策に活用されているのかを理解すること ④財政の影響を踏まえて, 経済・社会の動向を的確に把握できるようになること</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) なし (2) 金澤史男編著『財政学』有斐閣(2005年) 植田和弘・諸富徹編著『テキストブック現代財政学』有斐閣(2016年) 佐々木伯朗編著『財政学』有斐閣(2019年) 廣光俊昭編著『図説 日本の財政 各年度版』東洋経済新報社</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス: 講義の目標, 評価基準等の説明 第2回 財政(1): 財政の定義, 財政学の特徴, 政府に対する評価の揺れ等 第3回 財政(2): 市場の失敗, 財政民主主義と制度化に必要な原則等 第4回 予算(1): 定義, 役割, 政府と議会の役割, 予算原則等 第5回 予算(2): 予算の種類, 特別会計と「埋蔵金」, 改革の方向等 第6回 経費(1): 定義, 主要な分類, 経費膨張の法則, 転位効果等 第7回 経費(2): 小さな政府論とサプライサイド・エコノミクス等 第8回 租税(1): 定義, 租税の根拠, 代表的な租税原則等 第9回 租税(2): 公平の基準, 望ましい税制とは等 第10回 公債(1): 定義, 民間債務・租税との対比, 公債の種類等 第11回 公債(2): 日本の国債発行における原則, 制度, 「ギリシャよりひどい」は本当か等 第12回 財政投融资: 定義, 運用対象, 批判, 2001年度の改革, 今後の展望等 第13回 財政の国際化: 国際公共財, グローバル化と国際的財政移転等 第14回 財政改革を考える: 社会の変化と財政, 財政危機とは, 財政改革で求められる視点等 第15回 まとめ: 講義を振り返りつつポイントの説明, 試験についての説明等</p>		
授業外学習(予習・復習)	<p>講義の前後に財務省のサイト等で関連事項について調べて検討すること, 普段から経済・財政関連のニュースに注目すること(できれば外国のメディアを含む複数, 加えて日本関連だけでなく, 諸外国関連のニュースも)を勧めます(公務員試験を含む就職活動や四大への編入にも非常に有効です)。そして, 講義内容に直接関係しなくても, 聞きたいことが出てきたら, 遠慮なく質問してください。</p>		
成績評価の方法	<p>筆記試験(80%), 小テスト(20%)を基本とし, アクティブラーニングでの発言内容で加点します。小テストやアクティブラーニング等の詳細については1回目の講義(ガイダンス)で説明します。</p>		

授業科目	農業経済論	担当者	岡田 登
	[履修年次] 1, 2年 [学期] 後期 [単位] 2	授業外対応	適宜対応
		[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】表面化している食料・農業・農村の問題の背景を理解する。</p> <p>【概要】世界農業の形成過程及び日本農業の展開を把握した上で、生産、組織、流通等の仕組みを学び、現在起こっている農業経済現象とその原因を理解する。</p> <p>【到達目標】食料・農業・農村の問題の背景を理解し、日本農業の今後の展望と農業のあり方を説明できる能力を身につける。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 授業中に適宜紹介する</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 はじめに：講義の目標、食料・農業・農村の問題提起、鹿児島島の農村景観</p> <p>第 2 回 農業の基礎：基本知識</p> <p>第 3 回 世界農業の形成過程：農業の起源、農業形態の発展、雑草対策、植民地政策、大規模穀物生産</p> <p>第 4 回 日本農業の展開（1）：稲作の普及、近郊農業、明治期から戦前までの展開</p> <p>第 5 回 日本農業の展開（2）：経済成長期、農業基本法と産地形成、食糧管理法と農地法</p> <p>第 6 回 日本農業の展開（3）食糧管理法から食糧法、米の生産調整、農地法改正、食料・農業・農村基本法への転換</p> <p>第 7 回 農業保護政策：国内市場、農産物貿易</p> <p>第 8 回 農業のグローバル化：フードレジーム、日本における農産物自由化</p> <p>第 9 回 農産物流通の仕組み：農業協同組合、市場流通</p> <p>第 10 回 農業と関連産業：アグリビジネス</p> <p>第 11 回 農業法人の設立：農地法改正と農業法人化、農業経営基盤強化促進法</p> <p>第 12 回 農産物の高付加価値化とブランド化：有機農産物、伝統野菜、地理的表示、食の安全性、六次産業化、農商工連携</p> <p>第 13 回 農村空間の商品化：観光農園、農産物直売所、地産地消</p> <p>第 14 回 都市の農村化：都市農業、市民農園、体験農園、自家菜園、マルシェ</p> <p>第 15 回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	復習をして次回の講義を受けること		
成績評価の方法	授業時に実施するレポート(40%)＋期末試験(60%)		
実務経験について	自治体の元職員		

授業科目	ファイナンス論	担当者	岩上 敏秀
	[履修年次] 1年、2年 [学期] 後期 [単位] 2	授業外対応	いつでも対応します。メールで連絡してください。
		[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】資産運用のための投資商品や投資手法について実践的な知識を学びます。</p> <p>【概要】私たちが働いて生涯で得られる所得は限られています。限られた生涯所得を運用し、上手に資産形成しながら将来に備えていく必要があります。本講義は、債券や株式などさまざまな投資商品について学んだ上で、リスクを抑えながら一定の効果を生む投資手法について考えていきます。スマホを活用したリアルタイム投稿システムを使って、受講者と双方向コミュニケーションしながら講義を進めます。</p> <p>【到達目標】・証券投資や資産運用に関するニュースを理解できるようになる。 ・各種投資商品の内容とリスクを理解し、自分に最適な投資商品を選べるようになる。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 授業内で適宜紹介する</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 ガイダンス：講義の目的・進め方 序論：資産形成が必要な理由</p> <p>第 2 回 金利：金利の仕組み、単利と複利、ローン支払い額計算</p> <p>第 3 回 貨幣の時間的価値：キャッシュフロー、現在値と将来価値、割引率</p> <p>第 4 回 債券(1)：債券とは、債券市場、債券取引</p> <p>第 5 回 債券(2)：債券の価格と利回り、債券のリスク</p> <p>第 6 回 株式(1)：株式とは、株式市場、株式取引</p> <p>第 7 回 株式(2)：株式の投資尺度、株価評価モデル、株式のリスク</p> <p>第 8 回 株式(3)：株式取引の事例</p> <p>第 9 回 証券投資と資産運用：資産運用の目的、長期・積立・分散投資の効果</p> <p>第 10 回 リスクとリターン：期待収益、リスクの測定</p> <p>第 11 回 ポートフォリオ理論(1)：安全資産とリスク資産、投資家選好</p> <p>第 12 回 ポートフォリオ理論(2)：分散投資の効果</p> <p>第 13 回 さまざまな投資商品(1)：投資信託、ETF</p> <p>第 14 回 さまざまな投資商品(2)：金、FX、海外投資(外国株式・債券・投信)、不動産</p> <p>第 15 回 まとめ：講義の振り返り、期末試験に関する質疑応答、講義評価アンケート実施</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示します。		
成績評価の方法	中間レポート(30%)＋期末試験(70%)		
実務経験について	国内外の金融機関で約30年の実務経験があります。		

授業科目	経済学史		担当者	カムチャイ ライサミ
	〔履修年次〕	1年、2年	授業外対応	講義終了時
	〔学期〕	後期	〔単位〕	2
			〔必修/選択〕	選択
			〔授業形態〕	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】経済学史入門 経済学説の史的展開をやさしく解説する。</p> <p>【概要】経済学の時代的要請と経済学者の略伝 経済学の黎明期前後（17世紀頃）から現代経済学（20世紀初頭）までの主要経済学説と経済学者を中心に紹介する。</p> <p>【到達目標】経済学の歴史を知ることによって経済学がより深く理解できること 経済学の歴史を学んでその意義と限界を知ることによって経済の正しい見方を身につける。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) テキストなし。毎回プリントを配布する。</p> <p>(2) 必要に応じて、その都度指示する。</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 経済学史の範囲と方法：経済学史年表</p> <p>第2回 重商主義の経済思想：マリーンズ、マン、スチュアート</p> <p>第3回 重農主義の経済思想：ケネー、テュルゴー</p> <p>第4回 過渡期の経済思想：ペティ、ロック、マンデヴィル、カンティロン、ヒューム</p> <p>第5回 古典学派の生成：スミス</p> <p>第6回 古典学派の発展：マルサス、リカード</p> <p>第7回 古典学派の完成：セイ、シモンディ、シーニア、ミル</p> <p>第8回 ドイツ歴史学派：リスト、ヒルデブラント、ロッシヤー、クニース</p> <p>第9回 マルクスの経済学説</p> <p>第10回 限界革命の先駆者達：チューネン、ゴッセン、デュピュイ</p> <p>第11回 限界分析の経済学：クールノー、ジェヴォンズ</p> <p>第12回 オーストリア学派：メンガー、ウィーザー、バウム＝バヴェルク</p> <p>第13回 ローザンヌ学派：ワルラス、パレート</p> <p>第14回 ケンブリッジ学派：マーシャル、ピグウ</p> <p>第15回 ケインズ革命：ケインズ</p>			
授業外学習(予習・復習)	授業前後に必ず合計で4時間程度の予習・復習を行うこと。			
成績評価の方法	期末筆記試験（100%）			

授業科目	経済学特講Ⅰ		担当者	岩上 敏秀
	〔履修年次〕	2年	授業外対応	いつでも対応します。メールで連絡してください。
	〔学期〕	後期	〔単位〕	2
			〔必修/選択〕	選択
			〔授業形態〕	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】証券外務員一種資格試験合格に必要な証券取引の基礎知識および実務知識を学びます。</p> <p>【概要】金融機関の職員として金融商品の営業活動に従事するには、証券外務員の資格が必要です。本講義は、銀行などの金融機関に内定した学生を対象に、証券外務員一種資格試験に合格するために必要な証券取引の基礎知識および実務知識を学びます。商経学科以外の学科から銀行に内定している学生の履修も歓迎します。（本講義は、金融商品を販売する側の金融機関での実務知識を学びます。金融商品を利用する側の証券投資や資産運用を学びたい場合は、「ファイナンス論」の履修を薦めます）</p> <p>【到達目標】証券外務員一種資格試験に合格できる知識を修得する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 授業内で適宜紹介する</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス：講義の目的・進め方 序論：間接金融と直接金融、証券市場</p> <p>第2回 株式会社法：株主の責任と権利、株式会社の機関</p> <p>第3回 財務諸表と企業分析(1)：財務諸表の仕組み、収益性分析、安全性分析</p> <p>第4回 財務諸表と企業分析(2)：資本効率性分析、成長性分析、損益分岐点分析</p> <p>第5回 株式業務：証券取引所取引、店頭取引、株式の上場、株式投資計算</p> <p>第6回 証券売買のルール(1)：証券取引所のルール、証券業協会のルール</p> <p>第7回 証券売買のルール(2)：金融商品取引法のルール</p> <p>第8回 債券業務(1)：債券の仕組み、債券市場、債券売買</p> <p>第9回 債券業務(2)：債券投資計算、転換社債型新株予約権付社債</p> <p>第10回 投資信託業務：投資信託の仕組み</p> <p>第11回 デリバティブ取引(1)：先物取引</p> <p>第12回 デリバティブ取引(2)：オプション取引、店頭デリバティブ取引</p> <p>第13回 証券税制：利子所得・配当所得・譲渡所得の課税、相続・贈与の課税</p> <p>第14回 確認テスト</p> <p>第15回 まとめ、確認テスト答案返却・解説、講義評価アンケート実施 (受講者の外務員資格試験受験日程を踏まえ、講義スケジュールを変更する可能性があります)</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示します。			
成績評価の方法	確認テスト（100%）			
実務経験について	国内外の金融機関で約30年の実務経験があります。			

授業科目	経済学特講Ⅱ		担当者	山口 祐司				
	〔履修年次〕	1, 2年	授業外対応	メール等で予約の上適宜対応します。				
	〔学期〕	前期	〔単位〕	2	〔必修/選択〕	選択	〔授業形態〕	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 アメリカ経済とアメリカを中心とした国際経済関係の歴史を通して、経済学上のキーワードを学んでいきます。</p> <p>【概要】 アメリカの力の相対的低下にもかかわらずアメリカに学ぶ意義（第1回）。19世紀から20世紀初頭にかけてのアメリカ経済の勃興（第2～3回）。1929年に始まる大恐慌の原因と結果（第4～6回）。1950～70年代にかけて、アメリカが主導する資本主義陣営の高度経済成長とその限界（第7～9回）。1980年代以降の、「新自由主義」と呼ばれる改革をテコにした新たな経済成長の仕組み（第10～12回）。新自由主義がアメリカにもたらした問題と今後のゆくえ（第13～14回）。 経済を考える上でも、科学・技術や文化、政治など、同時代の社会の動きを知ることは重要である。映像資料等を利用してそうした知識も補っていく。</p> <p>【到達目標】 アメリカ経済の歴史から特質を学ぶこと。良い意味でも悪い意味でも資本主義経済の最先端をいくアメリカに学ぶことで、日本を含む世界が直面する経済・社会の問題に取り組む力をつけること。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント (2) 講義時に提示</p>							
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス、なぜいまアメリカ経済を学ぶか 第2回 アメリカ経済の勃興（1）大量生産体制 第3回 アメリカ経済の勃興（2）債務国から世界最大の債権国へ 第4回 大恐慌と第二次世界大戦（1）狂騒の1920年代 第5回 大恐慌と第二次世界大戦（2）保護貿易と世界恐慌 第6回 大恐慌と第二次世界大戦（3）ニューディールと戦争 第7回 ブレトンウッズ体制とケインズ政策（1）ブレトンウッズ体制と戦後国際経済秩序 第8回 ブレトンウッズ体制とケインズ政策（2）ケインズ政策と持続的経済成長 第9回 ブレトンウッズ体制とケインズ政策（3）ドル危機と石油危機 第10回 新自由主義の興隆（1）レーガノミクスと金融化 第11回 新自由主義の興隆（2）グローバルサプライチェーンの形成 第12回 新自由主義の興隆（3）先端技術とイノベーション 第13回 新自由主義の帰結（1）リーマンショック 第14回 新自由主義の帰結（2）格差問題のゆくえ 第15回 まとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	事前に提示する参考文献を予習し、授業後にはプリントをよく見直すようにしてください。							
成績評価の方法	期末レポート（60%）、授業ごとの小論文（40%）							

授業科目	法学特講		担当者	疋田 京子				
	〔履修年次〕	1,2年	授業外対応	コミュニケーションカードを利用する				
	〔学期〕	後期	〔単位〕	2単位	〔必修/選択〕	選択	〔授業形態〕	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】ジェンダーの視点から法を捉え直し、ジェンダーという概念の多義性と、ジェンダー/セックス/セクシュアリティなどの概念を学ぶ。</p> <p>【概要】法は平等や中立性を実現するものとされていますが、現実にはマタニティ・ハラスメントや管理職・議員の女性比率や賃金の男女格差など、性別に基づく差別はなお深いものがあります。講義では、こうした法の理念と、現実とのギャップを架橋しようとするジェンダー法学の到達点を概観します。</p> <p>【到達目標】ジェンダー概念それ自体、法との関係について理解し、ジェンダーの視点から法の世界を見直すことを目指します。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布する。 (2) 講義時に適宜紹介する。</p>							
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション 第2回 ジェンダーとは何か：なぜジェンダー概念が必要だったのか 第3回 ジェンダー概念の展開：セックス/ジェンダー/セクシュアリティ 第4回 ジェンダーと法：ジェンダー主流化による法政策 第5回 性暴力とジェンダー（1）なぜ「女性に対する暴力」を問題にするのか？ 第6回 性暴力とジェンダー（2）強姦罪から強制性交罪へ 第7回 性暴力とジェンダー（3）ストーカー、セクシュアル・ハラスメント 第8回 性暴力とジェンダー（4）ドメスティックバイオレンス 第9回 労働とジェンダー：男女雇用機会均等法の意義と問題点 第10回 リプロダクティブ・ヘルス/ライツ：優生保護法から母体保護法へ 第11回 家族法とジェンダー（1）：婚姻・離婚・夫婦同性制度 第12回 家族法とジェンダー（2）生殖補助医療と家族関係 第13回 性の多様性と法（1）性同一性障害特例法の意義と問題点 第14回 性の多様性と法（2）パートナーシップ条例の意義と問題点 第15回 まとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	講義中に紹介した映画や本にぜひ直接接してください。							
成績評価の方法	毎回の小レポート（40%）と最終レポート（60%）							

授業科目	簿記論Ⅱ		担当者	岡村 雄輝	
	[履修年次]	1,2年	授業外対応	講義前後に適宜対応	
	[学期]	後期	[単位]	2単位	
		[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】複式簿記の基本原理を学ぶ</p> <p>【概要】日商簿記3級レベルのテキスト、ワークブックを使用して複式簿記による記帳手続を解説し、問題演習に取り組みます。簿記力を着実に養い、より高度な会計を学ぶためには、問題演習の反復を通じた複式簿記の基本原理の理解が肝要です。勤勉な学習姿勢が望まれます。※簿記論Ⅰと連続して講義を展開しますので、併せて受講してください。</p> <p>【到達目標】個別の勘定科目に応じた決算手続、補助簿、伝票の記入を学習する。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 渡部裕互, 片山寛, 北村敬子 (編)『新検定 簿記講義3級 商業簿記』『新検定 簿記ワークブック』(令和4年版), 中央経済社。</p> <p>(2) 伊藤龍峰ほか『基本簿記原理』(第2版), 中央経済社。</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 簿記とは? : 簿記の意義, 目的, 財務諸表</p> <p>第2回 仕訳と転記: 仕訳の意義, 勘定への転記</p> <p>第3回 決算: 決算の意義と手続, 試算表作成</p> <p>第4回 決算: 帳簿の締切りと財務諸表の作成, 決算手続と精算表</p> <p>第5回 現金と預金: 当座預金と当座借越, その他の預金, 小口現金</p> <p>第6回 繰越商品・仕入・売上: 仕入帳と売上帳, 商品有高帳</p> <p>第7回 売掛金と買掛金: 売掛金明細表と買掛金明細表, クレジット売掛金, 前払金と前受金</p> <p>第8回 その他の債権と債務: 仮払金と仮受金, 受取商品券, 差入保証建</p> <p>第9回 有形固定資産: 有形固定資産の取得と売却, 減価償却, 固定資産台帳, 年次決算と月次決算</p> <p>第10回 資本: 株式会社の設立と株s期の発行, 繰越利益剰余金, 配当</p> <p>第11回 収益と費用: 収益・費用の未収・未払いと前受け・前払い, 消耗品と貯蔵品</p> <p>第12回 伝票: 仕訳帳と伝票, 3伝票制, 伝票から帳簿への記入, 伝票の集計</p> <p>第13回 財務諸表: 精算表の作成, 財務諸表の作成</p> <p>第14回 総合問題: 問題演習と解説②</p> <p>第15回 まとめ</p>				
授業外学習(予習・復習)	毎回復習をすること。継続的な学習なしに簿記はできるようになりません。				
成績評価の方法	期末テスト80%, 小テスト20%				

授業科目	国際経済論		担当者	野村 俊郎	
	[履修年次]	1,2年	授業外対応	講義前後に適宜対応	
	[学期]	後期	[単位]	2単位	
		[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】WTOについて学び、国境のない世界、自由で平和な世界を目指すとはどういうことか考える</p> <p>【概要】現在の世界は国境によって193の国に分かれている。しかし、WTOによって経済的な国境の壁は低くなり、企業は国境を超えて全世界で活動するようになった。WTOは第2次世界大戦の反省に基づいて生まれたGATTを前身としている。経済的な国境の壁を低くすることが、どのように国境のない世界、自由で平和な世界に繋がっていくかを順次説明していく。</p> <p>【到達目標】第2次大戦前のブロック経済がどのように戦争に進んだのか、それをどう反省してGATTが創設されたのか、自由で平和な世界に向かうWTOの意義と限界を理解する。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布</p> <p>(2) 野村俊郎『トヨタの新興国車IMV』および『トヨタの新興国適応』文真堂</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 テーマ説明: 「国境のない世界、自由で平和な世界を目指す」とはどういうことか</p> <p>第2回 戦争と冷戦を超えて～WTOは何故うまれたのか～</p> <p>第3回 WTOの概要</p> <p>第4回 一般的最恵国待遇</p> <p>第5回 内国民待遇</p> <p>第6回 数量制限禁止</p> <p>第7回 経済制裁をWTOは禁止しているのに、実際には行われているのは何故なのか</p> <p>第8回 交渉に時間のかかるWTOを補完する地域統合</p> <p>第9回 EU①</p> <p>第10回 EU②</p> <p>第11回 EU③</p> <p>第12回 AFTAとAEC</p> <p>第13回 メルコスール</p> <p>第14回 TPP</p> <p>第15回 まとめ</p>				
授業外学習(予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	筆記試験(100%)				

授業科目	国際地論		担当者	野村 俊郎
	〔履修年次〕	1,2年	授業外対応	講義前後に適宜対応
	〔学期〕	後期	〔単位〕	2単位
			〔必修/選択〕	選択
			〔授業形態〕	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】「日本のものづくり」の海外移転に関わる問題はどうか解決されているか考える</p> <p>【概要】日本のモノづくりは、①暗黙知に依拠したカイゼン、②何を、何個、いつ納品するかが曖昧な契約と、契約時に価格が決まらず、契約後の改善を経て価格が決まる契約の2つによって、世界1位のトヨタをはじめとする世界上位の販売と、ドイツVWの2倍に達するトヨタの利益に象徴される競争優位を生み出している。その秘密を解き明かし、その海外移転の課題について説明する。</p> <p>【到達目標】日本のモノづくりの強さの秘密を、暗黙知によるものと、取引関係によるものに分けて理解し、その海外移転の課題について理解する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布</p> <p>(2) 野村俊郎『トヨタの新興国車IMV』および『トヨタの新興国適応』文眞堂</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 テーマ説明：自動車産業に代表される日本のモノづくりの強さの秘密はどこにあるのか</p> <p>第2回 日本の強さの秘密はなぜ海外移転が難しいのか</p> <p>第3回 モノにおけるプロダクトイノベーションとプロセスイノベーション</p> <p>第4回 モノづくりにおける形式知と暗黙知</p> <p>第5回 暗黙知とは何か</p> <p>第6回 暗黙知はどうすれば移転できるのか</p> <p>第7回 トヨタが考えた暗黙知海外移転の方法①</p> <p>第8回 トヨタが考えた暗黙知海外移転の方法②</p> <p>第9回 自動車メーカーと部品メーカーの取引関係～日本と欧米の比較～曖昧契約の意義①</p> <p>第10回 自動車メーカーと部品メーカーの取引関係～日本と欧米の比較～曖昧契約の意義②</p> <p>第11回 自動車メーカーと部品メーカーの取引関係～日本と欧米の比較～価格決定のタイミング①</p> <p>第12回 自動車メーカーと部品メーカーの取引関係～日本と欧米の比較～価格決定のタイミング②</p> <p>第13回 自動車メーカーと部品メーカーの取引関係の海外移転①</p> <p>第14回 自動車メーカーと部品メーカーの取引関係の海外移転②</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	筆記試験 (100%)			

授業科目	アジア経済論		担当者	野村 俊郎
	〔履修年次〕	1,2年	授業外対応	講義前後に適宜対応
	〔学期〕	前期	〔単位〕	2単位
			〔必修/選択〕	選択
			〔授業形態〕	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】中国・インド・ASEANの経済とAFTA・AECについて学び、その成長と限界を考える</p> <p>【概要】アジアには経済規模が世界最大の中国、第3位の日本、第5位のインド、今後の成長が期待されるASEANなどがある。それぞれが日本を除いて先進国の植民地だったという共通の過去、そして独立のための戦いを経て政治的に独立し、様々な試みの末に資本主義国として経済成長を遂げたという共通の歴史を持つ。こうした歴史を踏まえてアジア経済がどこに向かうのかを説明していく。</p> <p>【到達目標】アジア各国の経済が植民地経済から低開発経済を経て資本主義国として成長してきたことの意義と限界を理解する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布</p> <p>(2) 野村俊郎『トヨタの新興国車IMV』および『トヨタの新興国適応』文眞堂</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 テーマ説明：植民地経済から低開発経済を経て先進国経済へ～資本主義経済の成長力と限界～</p> <p>第2回 日米欧による植民地支配下と植民地経済～日米欧に収奪されたアジア～</p> <p>第3回 植民地支配からの独立を目指すアジア各国の戦い①中国</p> <p>第4回 植民地支配からの独立を目指すアジア各国の戦い②インド</p> <p>第5回 植民地支配からの独立を目指すアジア各国の戦い③インドネシア</p> <p>第6回 植民地支配からの独立を目指すアジア各国の戦い④ベトナム</p> <p>第7回 低開発経済からの脱却への道：社会主義、そして資本主義へ①中国</p> <p>第8回 低開発経済からの脱却への道：社会主義、そして資本主義へ②インド</p> <p>第9回 低開発経済からの脱却への道：社会主義、そして資本主義へ③ベトナム・ラオス・カンボジア</p> <p>第10回 奇跡の成長①中国の改革開放</p> <p>第11回 奇跡の成長②インド</p> <p>第12回 奇跡の成長③インドネシアの外資規制緩和</p> <p>第13回 奇跡の成長④ベトナムのドイモイ</p> <p>第14回 AFTA・AECと成長の限界：アジアに豊かで平等で持続可能な未来はあるか</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	筆記試験 (100%)			

授業科目	外国貿易論		担当者	大重 康雄				
	[履修年次]	1年, 2年	授業外対応	適宜対応 (要予約)				
	[学期]	後期	[単位]	2	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 グローバル化という視点でとらえた貿易取引の変化とその問題について考える</p> <p>【概要】貿易や外国為替取引の仕組みをわかりやすく解説し、変化する貿易の現状とSDGs等国際間で発生する様々な課題を報道資料や日本貿易振興機構（ジェトロ）等のデータを使い考える。</p> <p>【到達目標】 貿易取引の基本的仕組み理解し、国際経済の動静に対し自分なりの見解が持てる。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) グローバル・エコノミー第3版 (有斐閣アルマ)</p> <p>(2) 講師配付プリント (毎回配付)</p>							
授業スケジュール	<p>第1回 開講 貿易と私たちの暮らし</p> <p>第2回 自由貿易のもたらす利益</p> <p>第3回 新古典派貿易理論を学ぶ</p> <p>第4回 グローバル生産システムと貿易の現状</p> <p>第5回 国際収支からみた貿易の姿</p> <p>第6回 外国為替市場と為替レート</p> <p>第7回 貿易政策と貿易摩擦の歴史</p> <p>第8回 貿易決済の方法</p> <p>第9回 国際貿易の論点 中間まとめ</p> <p>第10回 世界の地域貿易協定の現状</p> <p>第11回 東アジアの発展と日本の貿易</p> <p>第12回 鹿児島県の貿易取引の現状</p> <p>第13回 グローバリゼーションの将来を考える</p> <p>第14回 グローバル・イシュー 開発と環境を考える</p> <p>第15回 まとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	授業中各自に質問をするのでシラバスに従って予習をしてください。また復習し次回質問すべきことをまとめておくこと。							
成績評価の方法	筆記試験 (80%) + 授業での発言内容 (20%)							
実務経験について	地域金融機関職員としての実務経験 (外貨資金取引・貿易投資相談業務など)、AIBA 認定貿易アドバイザー							

授業科目	国際関係論		担当者	福田 忠弘				
	[履修年次]	1, 2年いずれも履修可	授業外対応	適宜対応				
	[学期]	前期	[単位]	2	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】国際社会に生じうるさまざまな諸問題について理解する。同時に、国家以外の行為体についての理解を深める。</p> <p>【概要】本講義では、国際関係の史的展開を概説したうえで、現代国際関係における諸問題について分析する。国際関係の史的展開では、第二次世界大戦後の冷戦史 (特にアジアにおける冷戦) を対象とし、国際システムの歴史の変遷をたどる。</p> <p>【到達目標】国際社会の現代的諸問題を把握し、その背景についての理解を深める。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 使用しない</p> <p>(2) 多賀秀敏編『平和学から見る世界』(成文堂、2020年)</p>							
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス：講義の目的、方法</p> <p>第2回 国際関係論の基礎1：国内社会と国際社会は何が違うのか</p> <p>第3回 国際関係論の基礎2：行為体と争点の多様化</p> <p>第4回 国際関係のなりたち1：第二次世界大戦後の秩序形成と冷戦</p> <p>第5回 国際関係のなりたち2：アジアにおける冷戦の拡大1</p> <p>第6回 国際関係のなりたち3：アジアにおける冷戦の拡大2</p> <p>第7回 国際関係のなりたち4：朝鮮戦争とベトナム戦争</p> <p>第8回 国際関係のなりたち5：大国の支配とナショナリズム</p> <p>第9回 国際関係のなりたち6：冷戦後の世界秩序</p> <p>第10回 国際社会における諸問題1：グローバリゼーションと貧困問題</p> <p>第11回 国際社会における諸問題2：貧困と開発</p> <p>第12回 国際社会における諸問題3：国境を越える諸問題</p> <p>第13回 国際社会における諸問題4：グローバルガバナンス (1)</p> <p>第14回 国際社会における諸問題5：グローバルガバナンス (2)</p> <p>第15回 まとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する							
成績評価の方法	試験 (100%) によって評価する。							

授業科目	比較文化	担当者	小林 朋子
	〔履修年次〕 2年 〔学期〕 前期 〔単位〕 2	授業外対応	適宜対応 (要予約)
		〔必修/選択〕	選択 (授業形態) 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】異文化理解・異文化コミュニケーション・異文化交流とは何か。</p> <p>【概要】今日のグローバル化社会では、毎日の生活で異なる文化を持つ人々とのコミュニケーションが増加している。また、「異文化」とは国境を越える出会いを背景とした文化であるというステレオタイプを取り払えば、異質な他者との出会いも私たちの日常にあふれている。本講義では、そうした他者とのような<関係性=コミュニケーション>を構築していくべきなのか、様々な観点から学んでいく。講義終盤では外国人との交流の時間を設ける。受講者はこの「異文化交流会」に向けて、主体的に考えながら講義を受ける必要がある。</p> <p>【到達目標】・広い視野から異文化を正しく理解した上で、他言語を話す人々の価値観を知り、適切にコミュニケーションを行うことができる。・異文化交流の意義について体験的に理解する。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 伊佐雅子監修『多文化社会と異文化コミュニケーション』（三修社刊、2007年）</p> <p>(2) 池田理知子編著『よくわかる異文化コミュニケーション』（ミネルヴァ書房、2010年）他。（授業で随時紹介します）</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 異文化コミュニケーションを学ぶことの意義：文化・異文化とは何か</p> <p>第2回 グローバル社会と異文化コミュニケーション（1）：グローバル化の意図</p> <p>第3回 グローバル社会と異文化コミュニケーション（2）：異文化交流の歴史と異文化への眼差し</p> <p>第4回 空間、時間、異文化コミュニケーション：さまざまな意味をもつ空間と時間</p> <p>第5回 「地球都市の出現とコミュニケーション」：都市化する世界</p> <p>第6回 女性と異文化適応：異文化適応におけるジェンダー</p> <p>第7回 異文化コミュニケーションと誤解の接点：誤解という身近なできごと</p> <p>第8回 異文化コミュニケーションにおける言語選択：「英語の普及」をどう捉えるか</p> <p>第9回 異文化コミュニケーションとしての通訳者（1）：通訳の種類、通訳の歴史</p> <p>第10回 異文化コミュニケーションとしての通訳者（2）：通訳は言葉の置き換え作業？</p> <p>第11回 異文化交流会準備（1）：異文化接触とは「よそ者」と異文化適応</p> <p>第12回 異文化交流会準備（2）：グローバル化とアイデンティティー自分のことば、他者のことば</p> <p>第13回 異文化交流会準備（3）：異文化コミュニケーションとは</p> <p>第14回 異文化交流会：異文化コミュニケーションの実践</p> <p>第15回 異文化交流会まとめ：新しい「異文化コミュニケーション」に向けて</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。		
成績評価の方法	授業への参加態度（40%）、小レポート（異文化交流会前の準備レポートを含む）（20%）、最終レポート（40%）		

(注) 文学科に合同

授業科目	アジア事情	担当者	福田 忠弘
	〔履修年次〕 1, 2年いずれも履修可 〔学期〕 後期 〔単位〕 2	授業外対応	適宜対応
		〔必修/選択〕	選択 (授業形態) 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】東アジア、東南アジアの歴史と現在の状況について把握する。</p> <p>【概要】アジアは、地理、歴史、言語、文化、宗教、民族など、すべての面において多様である。本講義では、「アジア」という概念のもつ多様性について基本的な理解を得ながらも、脱植民地化、国民国家建設など「共通性」について焦点をあてる。</p> <p>【到達目標】「アジア」という概念のもつ多様性について基本的な理解を深める。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 使用しない</p> <p>(2) 講義中に指示する</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス：講義の目的と方法</p> <p>第2回 「アジア」という概念：アジアはどこまでがアジアか</p> <p>第3回 歴史的形成1：植民地以前のアジア</p> <p>第4回 歴史的形成2：植民地のようす</p> <p>第5回 歴史的形成3：植民地からの独立</p> <p>第6回 歴史的形成4：脱植民地化、国民国家建設、開発</p> <p>第7回 歴史的形成5：冷戦下のアジア</p> <p>第8回 東南アジア1：インドシナ三国</p> <p>第9回 東南アジア2：ベトナム戦争の影響</p> <p>第10回 東南アジア3：タイ、ミャンマー、マレーシア</p> <p>第11回 東南アジア4：メコン河流域開発</p> <p>第12回 東南アジアの地域協力体制：ASEANの形成</p> <p>第13回 アジアにおける協力体制1：ASEANを中心とする協力1</p> <p>第14回 アジアにおける協力体制2：ASEANを中心とする協力2</p> <p>第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する		
成績評価の方法	レポート（100%）によって評価する。		

授業科目	国際経済特講 I		担当者	村田 秀博	
	[履修年次]	1、2年生	授業外対応	授業終了後 Eメールにて	
	[学期]	後期	[単位]	2	
		[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】地域経済の国際化と鹿児島県内企業の海外進出事例、それに伴う貿易取引</p> <p>【概要】日本の中小企業は、近年の国内経済環境の変化の中で企業活動を海外へ拡大させ、更なる商機をつかもうという動きが活発化している。県内でも同様であり、海外を目指す中小企業が「挑戦」「失敗」「成功」を繰り返している。その具体的な現状を認識した上で、海外展開方法論を考える。また基礎となる貿易知識も習得する。</p> <p>【到達目標】地域の海外展開の具体的な動きを理解する中で、優位性・課題問題点をふまえた独自の解決方法を見出す。県内企業・行政機関などで、海外業務を担当できるスキルを習得する。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) レジュメ・プリント資料</p> <p>(2) 海外映像・サンプル・雑誌新聞投稿資料ほか</p>				
授業スケジュール	<p>第 1 回 ガイダンス (日本経済・地域経済のグローバル化・海外知的財産権・外国人人材)</p> <p>第 2 回 鹿児島県内中小企業の国際化の現状</p> <p>第 3 回 進出国の情勢比較 (中国)</p> <p>第 4 回 進出国の情勢比較 (中国)</p> <p>第 5 回 海外知的財産権の保護 (悪意の商標登録など)</p> <p>第 6 回 県内大学の海外展開・県内医療機関メディカルツアーの誘致</p> <p>第 7 回 進出国の情勢比較 (台湾・香港・タイ)</p> <p>第 8 回 進出国の情勢比較 (ベトナム・外国人人材受け入れ)</p> <p>第 9 回 進出国の情勢比較 (ミャンマー・シンガポール)</p> <p>第 10 回 進出国の情勢比較 (マレーシア・インドネシア・ロシアほか)</p> <p>第 11 回 貿易実務 (各自由貿易協定、RCEP・TPP・FTA・EPA ほか)</p> <p>第 12 回 貿易実務 (外国為替・為替相場・先物予約)</p> <p>第 13 回 貿易実務 (外貨預金・外貨貸付)</p> <p>第 14 回 貿易実務 (輸出・輸入)</p> <p>第 15 回 まとめ</p>				
授業外学習(予習・復習)					
成績評価の方法	筆記試験 50%+レポート 50%				
実務経験について	金融機関にて国際業務に 2 3 年間携わり、世界各地にてフィールドワーク実践。貿易・外国人人材・海外知的財産権専門家。海外ビジネスツアー 100 回以上企画催行。タイ王国赴任経験あり。				

授業科目	地域経済論		担当者	岡田 登	
	[履修年次]	1、2年	授業外対応	適宜対応	
	[学期]	前期	[単位]	2	
		[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】地域経済構造及び理論を理解する。</p> <p>【概要】経済のグローバル化が進行し、国内においても地域間格差が拡大する中で、地域的な特徴を見極めて経済の再建と発展を図ることが求められる。この講義では、地域経済構造と基本的な理論を学び、地域の発展に向けた対応策について検討する。</p> <p>【到達目標】地域経済構造と理論を正確に理解することで、地域の特徴を分析する能力を身につけ、その発展に向けて考察できるようにする。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 授業中に適宜紹介する</p>				
授業スケジュール	<p>第 1 回 はじめに：講義の目標、地域とは何か、等質地域と機能地域からみた地域経済</p> <p>第 2 回 都市地域論 (1)：都市と農村、都市化の概念、都市の発展段階</p> <p>第 3 回 都市地域論 (2)：都市の内部構造とメカニズム、都市システム</p> <p>第 4 回 産業地域論：産業構造の変化、都市の機能、都市の分類、地域経済基盤分析</p> <p>第 5 回 第三次産業地域論：中心地理論</p> <p>第 6 回 工業地域論：工業立地の変動、工業立地論、工業立地の分散</p> <p>第 7 回 農業地域論：農業立地論、農業地域区分、技術の地域的拡散</p> <p>第 8 回 漁業林業地域論：漁業地域の資源管理とコモンス論、林業地域の資源管理とガバナンス</p> <p>第 9 回 地域経済分析：地域経済計算、地域成長の経済分析、地域間格差</p> <p>第 10 回 内発的発展論：定義、事例紹介</p> <p>第 11 回 都市計画とまちづくり：仕組み、中心市街地と郊外、景観と緑地</p> <p>第 12 回 コンパクトシティ：経緯と概念、都市空間の形成、公共交通ネットワーク</p> <p>第 13 回 地域連携 (1)：地域内連携、地域間連携</p> <p>第 14 回 地域連携 (2)：産業連携</p> <p>第 15 回 まとめ</p>				
授業外学習(予習・復習)	復習をして次回の講義を受けること				
成績評価の方法	授業時に実施するレポート (40%) + 期末試験 (60%)				
実務経験について	自治体の元職員				

授業科目	地域産業政策	担当者	岡田 登
	[履修年次] 1, 2年 [学期] 後期 [単位] 2	授業外対応	適宜対応
テーマ及び概要	<p>【テーマ】地域間格差の実態を理解し、これからの地域づくりの方策を探る。</p> <p>【概要】経済のグローバル化が進行し、国内においても地域間格差が拡大する中で、地域的な特徴を見極めて経済の再建と発展を図ることが求められる。地域経済論では地域経済構造と基本的な理論を学ぶが、この講義では地域間格差の現状と顕在化する問題点を理解し、これからの地域づくりの方策を探る。</p> <p>【到達目標】地域間格差の現状と問題点を正確に理解し、具体的な取り組みの実態を学び、地域のあり方を考えて発想できるようになる。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 授業中に適宜紹介する</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 はじめに：講義の目標</p> <p>第2回 政策的要因(1)：国土総合開発法、全国総合開発計画</p> <p>第3回 政策的要因(2)：新全国総合開発計画、第三次全国総合開発計画</p> <p>第4回 政策的要因(3)：第四次全国総合開発計画、21世紀の国土のグランドデザイン</p> <p>第5回 地域間格差の現状(1)：ライフコースと人口移動</p> <p>第6回 地域間格差の現状(2)：産業、社会、生活</p> <p>第7回 地域間格差の是正(1)：過疎化対策、広域的市町村合併、地方分権</p> <p>第8回 地域間格差の是正(2)：国土形成計画法、地方創生</p> <p>第9回 地域づくりの事例(1)：大都市地域</p> <p>第10回 地域づくりの事例(2)：都市地域</p> <p>第11回 地域づくりの事例(3)：工業地域</p> <p>第12回 地域づくりの事例(4)：農村地域</p> <p>第13回 地域づくりの事例(5)：観光業地域</p> <p>第14回 地域のあり方を考える：鹿児島を事例に</p> <p>第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	復習をして次回の講義を受けること		
成績評価の方法	授業時に実施するレポート(40%)＋期末試験(60%)		
実務経験について	自治体の元職員		

授業科目	地方財政論	担当者	船津 潤
	[履修年次] 1年, 2年いずれでも履修可 [学期] 後期 [単位] 2	授業外対応	講義前後、それ以外も随時(日時を調整することがあるかもしれませんが、遠慮なく声をかけてください)
テーマ及び概要	<p>【テーマ】地方財政に関する基本的な概念や理論、日本の地方財政制度の内容、実態、特徴、課題に関する理解を深めること</p> <p>【概要】地方自治とは何か、日本の国と地方自治体との関係(政府間関係)の特徴を踏まえて、日本の地方財政について、基本的な概念や理論、制度について講義します。そこでは、地方団体の自治体としての側面と国の地方行政機関としての側面の葛藤やグローバル化など、地方財政に改革が求められている背景、そして生活の基盤を支える地方財政の重要性を強く意識しながら講義を進めます。</p> <p>【到達目標】①日本の地方財政制度について理解し、説明できるようになること ②地方財政について主体的に考察し、判断できるようになること ③自分が暮らす地域の課題を見出し、その解決策を提案できるようになるための基礎力を身につけること</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) なし</p> <p>(2) 総務省編『地方財政白書 各年版』日経印刷</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス：講義の目標、評価基準等の説明</p> <p>第2回 地方自治(1)：定義、地方政府の特徴、地方分権が求められる背景等</p> <p>第3回 地方自治(2)：グローバル化の影響等</p> <p>第4回 地方の予算(1)：予算の役割、地方予算の特徴、中央と地方の相互依存関係等</p> <p>第5回 地方の予算(2)：日本の制度の特徴、課題、日本の政府間関係の特徴の影響等</p> <p>第6回 地方の決算：定義、日本の制度と問題点、外部監査、市民オンブズマン等</p> <p>第7回 地方の経費(1)：定義、主な分類とその見方、都道府県と市町村の違い等</p> <p>第8回 地方の経費(2)：義務的経費と投資的経費、その問題点等</p> <p>第9回 国庫支出金(1)：補助金の分類、国庫支出金とは、求められる役割、補助金制度において配慮すべき原則等</p> <p>第10回 国庫支出金(2)：実態、問題点、三位一体の改革等</p> <p>第11回 地方交付税(1)：財政調整制度とは、地方交付税の制度等</p> <p>第12回 地方交付税(2)：機能、問題点等</p> <p>第13回 地方債：定義、適債事業、2006年度からの変化等</p> <p>第14回 住民自治：シアトル・メトロの事例について</p> <p>第15回 まとめ：講義を振り返りつつポイントの説明、試験についての説明等</p>		
授業外学習(予習・復習)	講義の前後に総務省のサイト等で関連事項について調べ、検討すること、普段から地方財政関連のニュースに注目すること(できれば外国のメディア(民間企業との関係では特に興味深い)記事を出すことがあります)を含む複数)を勧めます(公務員試験を含む就職活動や四大への編入(地域との連携は殆どの大学にとって重要な課題です)にも非常に有効です)。そして、講義内容に直接関係しなくても、聞きたいことが出てきたら、遠慮なく質問してください。		
成績評価の方法	筆記試験(80%)、小テスト(20%)を基本とし、アクティブラーニングでの発言内容で加点します。小テストやアクティブラーニング等の詳細については1回目の講義(ガイダンス)で説明します。		

授業科目	非営利組織論		担当者	丸田 真悟				
	[履修年次]	1,2年いずれでも履修可	授業外対応	適宜対応 (要予約)				
	[学期]	後期	[単位]	2	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 現代社会における非営利組織 (NPO) の役割と課題そして可能性</p> <p>【概要】 非営利組織 (NPO) は、医療・福祉から街作り、学術・文化・芸術、国際交流まで社会のあらゆる分野で市民の多種多様なニーズに応えるサービスを創り出しています。行政や企業との協働も一段と進み、その存在は今や市民生活の中で重要な位置を占めるようになってきました。一方で NPO を巡る環境も大きく変わりつつあります。そこで本講義では NPO の概念と組織運営について考えると共に、現代日本社会における NPO の役割と課題、これからの可能性について考えます。</p> <p>【到達目標】 NPO に関する基本的な知識を習得し、現代社会における NPO の役割と課題、可能性を考える基盤を養います。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを使用</p> <p>(2) 雨森孝悦『テキストブック NPO 第3版』東洋経済新報社 (2020)、澤村明・田中敬文・黒田かをり・西出優子『はじめてのNPO論』有斐閣 (2017)、田尾雅夫・吉田忠彦『非営利組織論』有斐閣 (2009) ほか随時紹介します。</p>							
授業スケジュール	<p>第 1 回 非営利組織 (NPO) とは何か 「非営利」の意味、NPO の定義について考えます。</p> <p>第 2 回 NPO とボランティア NPO を支える理念について考えます。</p> <p>第 3 回 NPO の歴史と存在理由 資本主義経済の中で存在感を増している理由を考えます。</p> <p>第 4 回 NPO の世界① 様々な NPO の活動分野とその組織としての特徴について考えます。</p> <p>第 5 回 NPO の世界② 様々な NPO の活動分野とその組織としての特徴について考えます。</p> <p>第 6 回 NPO の機能 NPO が社会において果たしている機能について考えます。</p> <p>第 7 回 NPO にかかわる制度と政策 NPO の運営や税に関する制度について考えます。</p> <p>第 8 回 行政、企業と NPO 行政や企業との「協働」・「パートナーシップ」について考えます。</p> <p>第 9 回 NPO のマネジメント① NPO の経営管理について考えます。</p> <p>第 10 回 NPO のマネジメント② NPO の経営戦略について考えます。</p> <p>第 11 回 NPO のマネジメント③ NPO の資金調達と評価手法について考えます。</p> <p>第 12 回 (WS) NPO をつくる① 具体的に NPO を考え、立ち上げる実習です。</p> <p>第 13 回 (WS) NPO をつくる② 具体的に NPO を考え、立ち上げる実習です。</p> <p>第 14 回 NPO の課題と可能性 NPO を取り巻く環境とそこから見えてくる課題と可能性について考えます。</p> <p>第 15 回 まとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	適宜指示							
成績評価の方法	レポート (70%) + 授業ごとに実施する小論文 (30%)							
実務経験について	認定 NPO 法人理事長							

授業科目	労働法		担当者	疋田 京子				
	[履修年次]	1,2年	授業外対応	コミュニケーションカードを利用する				
	[学期]	後期	[単位]	2単位	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 ディーセント・ワーク (人間らしい働き方) を実現するための基礎知識</p> <p>【概要】 「過労死」が国際語として通用するほど有名な日本の長時間労働。また顕著になってきた正規と非正規の格差の拡大。こうした日本企業に根強い労働慣行は、どのような法制度の中で起こったのか。改革を目指す法整備と共に考える。</p> <p>【到達目標】 働くときに知っておくべき労働者の権利と、使用者が守るべき義務とは何かを理解する。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布する。</p> <p>(2) 講義時に適宜紹介する。</p>							
授業スケジュール	<p>第 1 回 ガイダンス：労働法を知る大切さ。</p> <p>第 2 回 憲法—民法—労働法の関係：労働組合って何？</p> <p>第 3 回 労働法と労働契約：自分の労働条件を知らないとなどうなる？</p> <p>第 4 回 賃金に関するルール：研修期間中は最低賃金法の適用がないってホント？</p> <p>第 5 回 労働時間に関するルール：タイムカードはいつ押すの？</p> <p>第 6 回 労働時間に関するルール：時間外労働・深夜労働・休日労働とは？</p> <p>第 7 回 「各種保険完備」とは：パイトのケガは自己責任？</p> <p>第 8 回 労働契約終了のパターン：辞めると辞めさせられるは何が違う？</p> <p>第 9 回 有給休暇の権利：アルバイトにも有給休暇があるってホント？</p> <p>第 10 回 産前・産後・育児・介護休業：働くことは人権です！</p> <p>第 11 回 内定辞退と内定取消し：「必ず入社します」と誓約書を出したら内定辞退はできないの？</p> <p>第 12 回 募集・採用に対する法的規制：採用面接で会社は何を質問してもいいの？</p> <p>第 13 回 賃金に関する応用問題：残業代込みの基本給の場合、それ以上の残業代は出ないの？</p> <p>第 14 回 労働契約の応用問題：契約社員は契約期間が満了したらどうしたらいいの？</p> <p>第 15 回 まとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	復習をしっかりとってください。							
成績評価の方法	2回のレポート (中間レポートと最終レポート) の提出 (80%) 授業ごとのミニレポート (20%)							

授業科目	地域研究特講		担当者	福田 忠弘	
	[履修年次]	1, 2年いずれも履修可	授業外対応	適宜対応	
	[学期]	後期	[単位]	2	
		[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】世界の格差の状況について認識し、貧困の問題について国際社会はどのような対応をとってきたのかを講義する。</p> <p>【概要】本講義では、さまざまな国際協力・開発援助について取り上げる。最初に開発援助についての歴史について言及した後、国際機関、国家、地方自治体、市民が主体となった国際協力について概観する。</p> <p>【到達目標】さまざまな行為体が、さまざまなレベルで、多様な援助が行われていることを理解することが到達目標である。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 使用しない。</p> <p>(2) 新潟国際ボランティアセンター編『地方発の国際NGO：グローバルな市民社会に向けて』（明石書店、2008年）</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス：講義の目的と方法</p> <p>第2回 世界の現状1：数値からみる世界の格差</p> <p>第3回 世界の現状2：グローバル化の進展</p> <p>第4回 第二次世界大戦後の国際経済体制：ブレトンウッズ体制について</p> <p>第5回 途上国の開発：輸入代替工業化戦略と輸出志向工業化戦略</p> <p>第6回 国際機関による援助1：さまざまな国際機関1</p> <p>第7回 国際機関による援助2：さまざまな国際機関2</p> <p>第8回 国家を主体とする援助1：ODAについて（1）</p> <p>第9回 国家を主体とする援助2：ODAについて（2）</p> <p>第10回 企業による社会活動：CSRを中心に</p> <p>第11回 市民を主体とする援助1：NPOの活動（1）</p> <p>第12回 市民を主体とする援助2：NPOの活動（2）</p> <p>第13回 市民を主体とする援助3：NPOの活動（3）</p> <p>第14回 人間の安全保障</p> <p>第15回 まとめ</p>				
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する				
成績評価の方法	試験（100％）によって評価する。				

授業科目	地方自治法		担当者	山本 敬生	
	[履修年次]	1,2年履修可	授業外対応	適宜対応（要予約）	
	[学期]	後期	[単位]	2単位	
		[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】住民自治、団体自治といった地方自治の基礎理論を理解した上で、地方公共団体の種類及び事務、住民の権利義務、条例と規則、議会、執行機関を中心に地方自治法を体系的に学習し、地方の時代における国と地方公共団体との新たな関係について検証することをテーマにする。</p> <p>【概要】地方自治法は、国と地方自治公共団体の役割分担、機関委任事務の廃止に伴う法定受託事務の創設、普通地方公共団体に対する国または都道府県の関与、国と普通地方公共団体との間の係争処理手続等を規定している。本講義では、地方自治法をわかりやすく解説することで、地方自治法が地方分権改革を推進する上でいかなる役割を果たすかを学習する。</p> <p>【到達目標】地方自治法の基本構造を正確に理解し、国と地方公共団体のあるべき関係を法的視点から考察できる力を習得することを目標にする。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 佐伯仁志他編、『ポケット六法（令和4年度版）』、有斐閣</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 地方自治の意義</p> <p>第2回 地方公共団体の種類</p> <p>第3回 地方公共団体の区域・事務</p> <p>第4回 住民の権利義務(1)</p> <p>第5回 住民の権利義務(2)</p> <p>第6回 条例と規則(1)</p> <p>第7回 条例と規則(2)</p> <p>第8回 議会(1)</p> <p>第9回 議会(2)</p> <p>第10回 執行機関(1)</p> <p>第11回 執行機関(2)</p> <p>第12回 国等の地方公共団体への関与</p> <p>第13回 長と議会との関係(1)</p> <p>第14回 長と議会との関係(2)</p> <p>第15回 予算</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住民自治、団体自治、伝来説、固有権説、地方自治の本旨について ・地方公共団体の構成要素（住民、区域、法人格）、都道府県、市町村について ・区域、機関委任事務、法手受託事務について ・住民、条例の制定改廃の請求、事務監査の請求について ・議会の解散請求、議員、長及び特定職員の解職請求、住民監査請求について ・条例制定権の範囲と限界、法令先占論、条例の効力について ・条例制定手続、条例と罰則、行政罰、規則の制定事項について ・議会の地位、町村総会、議会の組織、議会の権限、調査権について ・定例会、臨時会、議会の運営、会議公開の原則、会期不継続の原則について ・長の地位、長の権限、長の職務の代理、地方公共団体の事務所について ・行政委員会の意義、長と行政委員会との関係、監査委員、教育委員会について ・国の関与の原則、法定受託事務の処理基準、国地方係争処理委員会について ・議会の監視、再議制度、一般的拒否権、特別的拒否権について ・専決処分、長に対する不信任議決、議会の解散、再度の不信任議決について ・予算事前議決の原則、予算公開の原則、会計年度独立の原則について 				
授業外学習(予習・復習)	復習を重視する。				
成績評価の方法	筆記試験（90％）＋授業での発言内容（10％）を基準にして評価する。				

12 経営情報専攻専門科目

授業科目	簿記論Ⅱ		担当者	岡村 雄輝
	[履修年次] 1,2年	[学期] 後期	[単位] 2単位	[授業外対応] 授業外対応
	(1)テキスト	(2)参考文献	[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】複式簿記の基本原理を学ぶ</p> <p>【概要】日商簿記3級レベルのテキスト、ワークブックを使用して複式簿記による記帳手続を解説し、問題演習に取り組みます。簿記力を着実に養い、より高度な会計を学ぶためには、問題演習の反復を通じた複式簿記の基本原理の理解が肝要です。勤勉な学習姿勢が望まれます。※簿記論Ⅰと連続して講義を展開しますので、併せて受講してください。</p> <p>【到達目標】個別の勘定科目に応じた決算手続、補助簿、伝票の記入を学習する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 渡部裕互, 片山寛, 北村敬子 (編)『新検定 簿記講義3級 商業簿記』『新検定 簿記ワークブック』(令和4年版), 中央経済社。</p> <p>(2) 伊藤龍峰ほか『基本簿記原理』(第2版), 中央経済社。</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 簿記とは? : 簿記の意義, 目的, 財務諸表</p> <p>第2回 仕訳と転記: 仕訳の意義, 勘定への転記</p> <p>第3回 決算: 決算の意義と手続, 試算表作成</p> <p>第4回 決算: 帳簿の締切りと財務諸表の作成, 決算手続と精算表</p> <p>第5回 現金と預金: 当座預金と当座借越, その他の預金, 小口現金</p> <p>第6回 繰越商品・仕入・売上: 仕入帳と売上帳, 商品有高帳</p> <p>第7回 売掛金と買掛金: 売掛金明細表と買掛金明細表, クレジット売掛金, 前払金と前受金</p> <p>第8回 その他の債権と債務: 仮払金と仮受金, 受取商品券, 差入保証建</p> <p>第9回 有形固定資産: 有形固定資産の取得と売却, 減価償却, 固定資産台帳, 年次決算と月次決算</p> <p>第10回 資本: 株式会社の設立と株s期の発行, 繰越利益剰余金, 配当</p> <p>第11回 収益と費用: 収益・費用の未収・未払いと前受け・前払い, 消耗品と貯蔵品</p> <p>第12回 伝票: 仕訳帳と伝票, 3伝票制, 伝票から帳簿への記入, 伝票の集計</p> <p>第13回 財務諸表: 精算表の作成, 財務諸表の作成</p> <p>第14回 総合問題: 問題演習と解説②</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	毎回復習をすること。継続的な学習なしに簿記はできるようになりません。			
成績評価の方法	期末テスト80%, 小テスト20%			

授業科目	経営管理論		担当者	竹中 啓之
	[履修年次] 1, 2年いずれも履修可	[学期] 後期	[単位] 2単位	[授業外対応] 授業外対応
	(1)テキスト	(2)参考文献	[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】企業経営や組織運営での「ヒト」及び「組織」の管理方法について講義する。</p> <p>【概要】2人以上の個人が集団として活動する場合、そこには必ずその集団の行動を調整する役割が必要となり、その役割を一般的に「管理」と呼んでいます。すなわち管理はすべての集団・組織において存在する職能であるといえます。また「経営」とは、財またはサービスを生産する経済活動に従事する組織体を統制することだと定義することができます。</p> <p>したがって経営管理とは、経営活動を行う組織体を調整する職能ということになり、このような活動を行うのは経営者や管理者の役割です。この講義では、彼らが、目的を実行するための効率的な組織運営のための工夫や、組織内部にいる関係者および組織外部のさまざまな状況との関わり合いの中、対処している方法について講義していきます。</p> <p>【到達目標】組織管理の難しさを理解する。経営管理に関する諸学説を概観する。経営管理に関連する専門用語を知る。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 授業中に配布するプリント</p> <p>(2) 講義中に指示する</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 講義概要の説明: 講義の進め方・内容・評価方法について説明する。</p> <p>第2回 経営管理論とは何か: 管理論の特徴と他の経営学関連の科目と連携について説明する。</p> <p>第3回 組織における人間 (1): 企業で人を管理する際の基本となる考え方などについて説明する。</p> <p>第4回 組織における人間 (2): テイラーの科学的管理法と「経済人モデル」について説明する。</p> <p>第5回 組織における人間 (3): メイヨー他の人間関係論と「社会人モデル」について説明する。</p> <p>第6回 組織における人間 (4): マズローの欲求階層説と「自己実現人モデル」について説明する。</p> <p>第7回 他の動機づけモデルについて説明し、改めて人が働く意欲とはどのように生み出されるのか考える。</p> <p>第8回 人的資源管理 (1): 企業での人的資源管理全体の流れや考え方について説明する。</p> <p>第9回 人的資源管理 (2): 採用管理について説明する。</p> <p>第10回 人的資源管理 (3): 人事異動 (初任配置・配置転換・昇進など) について説明する。</p> <p>第11回 人的資源管理 (4): 人材育成の基礎について説明する。</p> <p>第12回 人的資源管理 (5): 人材育成の「熟練」について考えていく。</p> <p>第13回 人的資源管理 (6): 人事評価の仕組みと賃金管理について説明する。</p> <p>第14回 リーダーの役割とは何か: リーダー (上司) として適切な行動とは何かを考える。</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。			
成績評価の方法	期末筆記試験 (70%)、中間レポートもしくは小テスト (30%) (予定) 詳細は1回目の講義で説明します。			

授業科目	労務管理論		担当者	近間 由幸
	[履修年次]	1,2年	授業外対応	適宜対応(要予約)
	[学期]	後期	[単位]	2単位
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】労務管理に関わる諸制度と働く人々に及ぼす影響について</p> <p>【概要】授業では、日本型雇用慣行の下での労務管理の諸制度とそれらが成立した背景について解説し、それらが時代に応じて一定の合理性を持っていたことを解説する。また、それらの諸制度がどのような労働問題を生じさせてきたのかを解説する。</p> <p>【到達目標】歴史的・国際的な視点から、企業の働き方には多様な形が存在することを理解し、受講学生が現代の企業に望ましい労働環境とは何かについて考えられることを到達目標とする。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 梶原豊・吉村孝司編『働き方改革時代の人的資源管理』同友館 守屋貴司・中村艶子・橋場俊展『価値創発(EVP)時代の人的資源管理 Industry4.0の新しい働き方・働き方』ミネルヴァ書房</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 インTRODクシヨン - 講義の概要と労務管理を学ぶ意義について</p> <p>第2回 労務管理とはなにか</p> <p>第3回 雇用管理制度のしくみ</p> <p>第4回 組織構造と職務内容</p> <p>第5回 キャリア開発のしくみ</p> <p>第6回 賃金管理制度のしくみ (1) 一年功賃金とはなにか</p> <p>第7回 賃金管理制度のしくみ (2) 一職能給と職務給</p> <p>第8回 人事評価制度のしくみ</p> <p>第9回 福利厚生制度のしくみ</p> <p>第10回 労働時間管理のしくみ</p> <p>第11回 日本企業の女性管理職・役人の現状と労務管理</p> <p>第12回 ダイバーシティ・マネジメント</p> <p>第13回 労務管理と労働組合</p> <p>第14回 労務管理の国際比較</p> <p>第15回 全体のまとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	授業ごとのミニレポート (30%) 筆記試験 (70%)			

授業科目	管理会計論		担当者	福田 正彦
	[履修年次]	1年,2年いずれも履修可	授業外対応	
	[学期]	前期	[単位]	2
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】経営者、幹部、経理の立場から、企業の利益を増大するための合理的な意思決定や管理方法を学ぶ。</p> <p>【概要】実務経験に基づく、管理会計のノウハウを講義するとともに、学生は作成した事業計画を発表する。</p> <p>【到達目標】管理会計の基礎の考え方、ノウハウを理解し、社会で適用できる能力を身に付ける。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 教員が配布する。</p> <p>(2) 『「管理会計の基本」がすべてわかる本』金子智朗著(2009) 秀和システム</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション、原価の性格</p> <p>第2回 事業計画の作成(発表課題)</p> <p>第3回 短期的意思決定 1 (広告宣伝や値引きで利益をあげる)</p> <p>第4回 短期的意思決定 2 (管理会計の意思決定)</p> <p>第5回 アウトソーシング、追加受注</p> <p>第6回 商品部の利益管理</p> <p>第7回 事業部の利益管理</p> <p>第8回 中間試験</p> <p>第9回 長期的意思決定 1 (キャッシュフロー、NPV)</p> <p>第10回 長期的意思決定 2 (IRR、回収期間)</p> <p>第11回 予算管理</p> <p>第12回 予算と実績との差異分析</p> <p>第13回 コストコントロール 1 (重要性とABC)</p> <p>第14回 コストコントロール 2 (原価企画)</p> <p>第15回 ブランドの企業業績への効果</p>			
授業外学習(予習・復習)	管理会計は積み重ねの科目であり、毎回復習し、次の授業に参加すること。			
成績評価の方法	中間試験、期末試験、発表それぞれ 1/3の比重で評価する。さらに発言点も加える。			
実務経験について	入社から定年退職まで約37年間、日産自動車(株)にて海外営業、開発部門の経理の実務経験を持つ。			

授業科目	原価計算		担当者	宗田 健一				
	[履修年次]	1, 2年いずれも履修可	授業外対応	適宜対応				
	[学期]	前期	[単位]	2	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】原価計算入門</p> <p>【概要】原価はソフトウェアや基幹システムなどに基本的なデータを入力すれば自動的に計算されます。しかし、システムがどのような計算過程を経て原価を計算しているのかわらなければ、システム構築や改善はできません。この講義では、原価計算の基礎について、論説し、計算問題を繰り返すことで原価計算を学びます。</p> <p>【到達目標】原価計算の理論的な理解、計算能力の獲得</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 高橋賢『テキスト原価計算』(第3版) 中央経済社</p> <p>(2) 伊丹敬之・青木康晴『現場が動き出す会計』日本経済新聞社</p>							
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス、原価および原価計算の基礎知識</p> <p>第2回 原価の費目別計算</p> <p>第3回 製造間接費の計算</p> <p>第4回 単純個別原価計算</p> <p>第5回 原価の部門別計算と部門別個別原価計算</p> <p>第6回 中間レポート</p> <p>第7回 単純総合原価計算</p> <p>第8回 総合原価計算における減損費と仕損費の処理</p> <p>第9回 工程別総合原価計算と組別総合原価計算</p> <p>第10回 等級別総合原価計算と連産品の原価計算</p> <p>第11回 標準原価計算 1</p> <p>第12回 標準原価計算 2</p> <p>第13回 直接原価計算</p> <p>第14回 CVP分析</p> <p>第15回 まとめ：試験範囲の提示、成績評価方法の説明、質疑応答、授業評価アンケートの実施</p>							
授業外学習(予習・復習)	復習が大切です。毎回、計算問題に取り組む予定です。							
成績評価の方法	中間レポート(30%)、期末レポート(70%)							

*受講生の学習進捗状況、従前の会計系履修済み科目の状況に応じて授業スケジュールを変更する場合があります。
 会計学総論、簿記論 I、簿記論 II、管理会計論を受講済みであることが望ましい。もしくは、日商3級レベルの簿記を学習済みであることが望ましい。

授業科目	経営学特講 I		担当者	田原 武志 東 圭太				
	[履修年次]	1年、2年	授業外対応	授業終了時、もしくは適宜、メール、電話にて対応				
	[学期]	前期	[単位]	2	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【講義の特徴】毎週のレポート作成、発表を通じて、レポート作成力が身につきます。結果、経営情報からの4年制大学編入試験の合格者の多くが当講義の履修者です。編入試験を目指す、他学科からの受講生を積極的に受け入れています。(手続きをすれば受講可能です。)</p> <p>【テーマ】経営を学んで、人生を豊かに幸せにしよう。</p> <p>【概要】マネージメント手法を学びます。本講義で定義する経営は会社はもちろん、大学の文化祭実行委員会、部活動、町内会、PTA、家庭、人生なども含みます。講義を通して、情報収集、論理展開、自分の意見をもつ重要性を伝えます。毎回の講義で達成感、充実感を提供し成長を実感させます。大学で受講した講義の中で一番思い出深い講義の一つになると確信しています。</p> <p>【到達目標】社会人として様々な立場で、講義で学んだマネージメント手法を活用し成果を出せるようになる。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 毎回、次回課題をプリントにて配布。メールにて送信。</p> <p>(2) 無し。</p>							
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーリング</p> <p>第2回 毎回テーマを決めて講義、レポート、感想発表</p> <p>~第14回 (テーマ例)</p> <p>「隠れた経営資源に気づく」</p> <p>「目的、目標の設定の重要性を認識する」</p> <p>「継続的改善の仕組みを取り入れる」</p> <p>「企業の果たす社会的責任について認識する」</p> <p>「トレンドを把握する」</p> <p>「コンプライアンス(法令遵守)が求められる社会的背景と必要性の考察」</p> <p>「企業人、社会人、家庭人としてのリスクマネージメント」</p> <p>「投機と投資の考察」等々</p> <p>第15回 まとめ 試験対策</p>							
授業外学習(予習・復習)	予習(課題が毎回発表)と復習(講義のまとめ)のレポート作成があります。							
成績評価の方法	レポート提出(25%)、授業での発表(25%) 筆記試験(50%)							
実務経験について	30年間以上の経営コンサルタント実務有り。経営する会社が平成11年鹿児島商工会議所 産業経済賞大賞受賞。							

授業科目	経営学特講Ⅱ		担当者	瀬口 毅士
	〔履修年次〕	1,2年	授業外対応	適宜対応 (要予約)
	〔学期〕	後期	〔単位〕	2単位
			〔必修/選択〕	選択
			〔授業形態〕	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】現代における多国籍企業の市場戦略を理解する</p> <p>【概要】本講義は、現代における多国籍企業の市場戦略について講義します。プリントの配付と板書を基本としつつ、現代の多国籍企業を理解する上で有益な各種資料を使用しながら進めます。また、リアクションペーパーやグループ・ワークを活用することで、双方向の授業を目指します。したがって、他の学生と議論し皆の前で発表することに対して積極的に参加できる学生さんの受講を望みます。</p> <p>【到達目標】多国籍企業の市場戦略における現代の特徴を知る。本講義で学んだ知識や視角を基に、新聞や経済誌などで得られる企業活動に関する情報を理解し、分析できる能力を涵養する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリントを配付 (2)			
授業スケジュール	<p>第1回 インTRODクシヨン：授業の進め方や成績の評価方法を確認する。</p> <p>第2回 多国籍企業とは何か：多国籍企業の定義や国内企業との相違について解説する。</p> <p>第3回 多国籍企業の経営環境（1）：グローバル化を中心に、多国籍企業の経営環境を講義する。</p> <p>第4回 多国籍企業の経営環境（2）：各種資料を用いて、経営環境の現代の特徴を考える。</p> <p>第5回 多国籍企業の経営環境（3）：グループ・ワークを通じて、現代の経営環境について議論する。</p> <p>第6回 多国籍企業の活動（1）：各種資料を用いて、現代社会における多国籍企業の重要性を考える。</p> <p>第7回 多国籍企業の活動（2）：グループ・ワークを通じて、多国籍企業の経営戦略について議論する。</p> <p>第8回 市場戦略の現代の特徴（1）：現代企業における市場戦略の特徴を解説する。</p> <p>第9回 市場戦略の現代の特徴（2）：各種資料を通じて、市場戦略に関する理解を深める。</p> <p>第10回 市場戦略の現代の特徴（3）：グループ・ワークによって、多国籍企業の市場戦略について考える。</p> <p>第11回 文化とは何か：文化の定義や企業活動との関連性について解説する。</p> <p>第12回 多国籍企業の市場戦略と文化の関係（1）：多国籍企業の市場戦略と文化の関係について講義する。</p> <p>第13回 多国籍企業の市場戦略と文化の関係（2）：各種資料によって、多国籍企業の市場戦略と文化を考える。</p> <p>第14回 多国籍企業の市場戦略と文化の関係（3）：グループ・ワークによって、これまでの内容を検討する。</p> <p>第15回 まとめ：全体の流れを振り返りながら、講義のポイントについて解説する。</p>			
授業外学習(予習・復習)	授業のなかで適宜指示します。			
成績評価の方法	期末筆記試験 (70%) +リアクション・ペーパー、グループ・ワーク、授業に取り組む姿勢など (30%)			

授業科目	情報管理論		担当者	竹中 啓之
	〔履修年次〕	1, 2年いずれも履修可	授業外対応	適宜対応 (要予約)、及び講義終了後
	〔学期〕	後期	〔単位〕	2単位
			〔必修/選択〕	選択
			〔授業形態〕	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】現代社会における情報への正しい理解と、情報管理の重要性について考えていく。</p> <p>【概要】情報社会の現在、多様な情報の取捨選択が問題となっている。また、有効な情報を無数のデータの海から選り分け、意味のあるものとして加工する能力も必要とされている。このような作業を情報管理ととらえることができるが、実はこの作業の基礎には、情報とはそもそもどのようなものなのか、情報を管理することによって何をしようとしているのか、どの視点から情報を捉えようとしているのか、といった単に情報管理技術だけではない、社会科学的な知識も必要となる。そこで、この授業ではこの点を意識しながら、情報を巡るさまざまな考え方について講義をおこなうことにする。</p> <p>【到達目標】今日の情報の定義を理解する。メディアリテラシーに考え方について理解する。単なるデータと情報の違いを理解し、情報があふれる社会の危険性や問題点について考える。企業での情報の効果的な活用について考える。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 授業中に配布するプリント (2) 講義中に指示する			
授業スケジュール	<p>第1回 講義概要の説明：講義の進め方・内容・評価方法について説明する。</p> <p>第2回 情報とは何か・情報の定義（1）：情報の定義を確認し、「情報」と「データ」の違いなどを説明する。</p> <p>第3回 情報とは何か・情報の定義（2）：情報の単位や具体的事例を示して、情報の重要性を理解する。</p> <p>第4回 情報(化)社会について取り上げ、「産業の情報化」「情報の産業化」などについて説明する。</p> <p>第5回 情報リテラシーについて（1）：情報リテラシーの概要について説明する。</p> <p>第6回 情報リテラシーについて（2）：リテラシー能力の必要性について具体的事例を踏まえ説明する。</p> <p>第7回 情報リテラシーについて（3）：情報リテラシーとメディアリテラシーの関係について考える。</p> <p>第8回 メディアの歴史について（1）：各種メディアについて理解を深める（新聞～テレビ）。</p> <p>第9回 メディアの歴史について（2）：各種メディアについて理解を深める（テレビ～ネット）。</p> <p>第10回 自分のメディア史を考える：ワークシートを利用して、自分とメディア媒体との関係を考える。</p> <p>第11回 情報操作：情報操作とは何かを説明する。</p> <p>第12回 炎上について：主にネット上で起こる「炎上」について取り上げ、特徴や対策について考える。</p> <p>第13回 情報と編集：情報発信における編集作業の重要性を認識し、編集という考え方の理解を深める。</p> <p>第14回 情報化の必要性：現代社会における情報化の必要性とその意味について考える。</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。			
成績評価の方法	期末筆記試験 (70%)、中間レポートもしくは小テスト (30%) (予定) 詳細は1回目の講義で説明します。			

授業科目	会計情報論		担当者	岡村 雄輝
	[履修年次]	2年	授業外対応	講義前後に適宜対応
	[学期]	後期	[単位]	2単位
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】財務諸表を利用して企業分析ができるようになる</p> <p>【概要】本講義は、担当者が企業の会計情報を分析し、いくつかの実在する企業のあり様を考察します。それを受けて受講者のみなさんは、企業の会計情報を各自で入手し、読解に取り組むことになります。</p> <p>【到達目標】財務諸表分析を通して企業研究ができるようになる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 太田康広『ビジネススクールで教える経営分析』、日経文庫。</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 ガイダンス：履修登録の確認、講義計画の説明等</p> <p>第 2回 会計情報分析の対象：経営企画・戦略・会計</p> <p>第 3回 事例研究①：アパレル企業数社の収益性</p> <p>第 4回 会計情報の読み方（1）：収益性の分析</p> <p>第 5回 会計情報の読み方（2）：成長性の分析</p> <p>第 6回 会計情報の読み方（3）：安全性の分析①</p> <p>第 7回 会計情報の読み方（4）：安全性の分析②</p> <p>第 8回 事例研究②：アパレル企業数社の安全性</p> <p>第 9回 ビジネスプランを練る：損益分岐点分析と DCF 法</p> <p>第 10回 有価証券報告書を読む（1）：有報の読むポイントを知る</p> <p>第 11回 有価証券報告書を読む（2）：非会計情報から事業の概況を把握する</p> <p>第 12回 会計情報分析の実践（1）：比例縮尺財務諸表の作成と収益性分析</p> <p>第 13回 会計情報分析の実践（2）：成長性分析</p> <p>第 14回 会計情報分析の実践（3）：安全性分析</p> <p>第 15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	有価証券報告書等の企業情報を積極的に収集し、精読してください。			
成績評価の方法	期末レポート 100%			

授業科目	経営戦略論		担当者	瀬口 毅士
	[履修年次]	1,2年	授業外対応	適宜対応(要予約)
	[学期]	後期	[単位]	2単位
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】経営戦略論に関する基本的知識を習得する</p> <p>【概要】経営戦略とは、外部環境の変化に対応しながら長期的な存続・発展を図るための、企業の意思決定を意味します。経営戦略論のなかでも、企業全体の戦略である「企業戦略」、および事業ごとの戦略である「競争戦略」を中心に講義します。さらに、最近の企業動向を紹介しながら、現代社会における経営戦略のあり方についても解説します。</p> <p>【到達目標】経営戦略論の基本概念を知るとともに、各概念がどのような関係にあるのかについても考えることができる。また、講義を通じて獲得した知識を基に、企業に関するニュースや新聞などの情報をより理解できるようになる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配付</p> <p>(2)</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 イントロダクション：授業の進め方や成績の評価方法を確認する。</p> <p>第 2回 経営戦略とは何か：経営戦略論の概要を説明する。</p> <p>第 3回 経営理念とドメイン：経営戦略およびドメイン（事業領域）について解説する。</p> <p>第 4回 規模の経済と範囲の経済、垂直統合と水平統合：規模の経済等の基本タームを説明する。</p> <p>第 5回 多角化戦略：関連型多角化と非関連型多角化の違いを中心に、企業の多角化戦略について考える。</p> <p>第 6回 M&A と戦略的提携（1）：実例を紹介しながら、M&A の戦略上のメリットとデメリットを解説する。</p> <p>第 7回 M&A と戦略的提携（2）：主に戦略的提携について講義する。M&A との相違点を考える。</p> <p>第 8回 経験曲線と PLC：PPM の基礎となる、経験曲線と PLC について解説する。</p> <p>第 9回 PPM：全社的視点から、経営資源の配分について考える。</p> <p>第 10回 経営戦略の実際：実際の企業を事例として、経営戦略の重要性を再確認する。</p> <p>第 11回 競争戦略論とは何か：競争戦略論の概要や競争戦略論における 2 つのアプローチを紹介する。</p> <p>第 12回 ポジショニング・アプローチ：M. ポーターの学説を中心に、ポジショニング・アプローチについて講義する。</p> <p>第 13回 資源ベース・アプローチ：前回の内容と対比しながら、資源ベース・アプローチを説明する。</p> <p>第 14回 企業の社会的責任と経営戦略：CSR 戦略を中心に、企業の社会的責任について考える。</p> <p>第 15回 経営戦略と現代社会：これまでの内容を振り返りながら、現代社会における経営戦略のあり方を解説する。</p>			
授業外学習(予習・復習)	授業のなかで適宜指示します。			
成績評価の方法	期末筆記試験 (100%)			

授業科目	財務会計論		担当者	岡村 雄輝
	[履修年次]	1,2年	授業外対応	講義前後に適宜対応
	[学期]	後期	[単位]	2単位
			[必修/選択]	選択
				[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】財務会計の全体像を理解する</p> <p>【概要】近年、グローバル化の影響によって会計基準の新設・改定が続き、会計への関心が高まっています。現代の経済社会では、会計の基礎概念や理論への理解が重要になっているといえます。本科目では、会計の機能を説明し、会計基準の考察を通して、現代会計の深淵に迫ってみたいと思います。※会計学総論の学修を前提として講義を展開します。また、財務会計を学ぶためには複式簿記の理解が欠かせません。簿記論の併修を勧めます。</p> <p>【到達目標】現代の経済社会で果たしている会計の役割、会計基準に通底する基礎概念や理論を理解する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 桜井久勝『財務会計講義』(第23版), 中央経済社。</p> <p>(2) 『新版 会計法規集』(第12版), 中央経済社。</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 財務会計の機能と制度：財務会計の機能と法規制</p> <p>第2回 利益計算の仕組み：企業活動と財務諸表、複式簿記の構造</p> <p>第3回 利益計算の仕組み：複式簿記の構造、利益計算と財務諸表</p> <p>第4回 会計理論と会計基準：会計基準設定のアプローチと会計情報の質的特性</p> <p>第5回 利益測定と資産評価の基礎概念：発生主義会計</p> <p>第6回 利益測定と資産評価の基礎概念：資産評価の基準</p> <p>第7回 資金運用活動の資産と収益：現金預金と有価証券、キャッシュ・フロー計算書</p> <p>第8回 売上高と売上債権：収益認識、売上債権</p> <p>第9回 棚卸資産と売上原価：棚卸資産の取得原価、原価配分、払い出し単価の決定、期末評価</p> <p>第10回 有形固定資産：減価償却、減損、リース</p> <p>第11回 無形固定資産と繰延資産：知的財産、研究開発費</p> <p>第12回 負債：負債の範囲と区分、引当金</p> <p>第13回 純資産：払込資本、稼得資本、区分表示</p> <p>第14回 財務諸表の作成と公開：財務諸表の体系、注記と附属明細表</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	講義前後にテキストを精読してください。			
成績評価の方法	期末レポート 80%, 中間レポート 20%			

授業科目	マーケティング論		担当者	瀬口 毅士
	[履修年次]	1,2年	授業外対応	適宜対応(要予約)
	[学期]	前期	[単位]	2単位
			[必修/選択]	選択
				[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】マーケティング論を体系的に学ぶ</p> <p>【概要】マーケティングとは、企業がモノやサービスを売るための仕組みづくりです。現代の企業にとって、マーケティングはますます重要になっています。本講義では、マーケティング論の基本事項を説明した後、現代社会におけるマーケティングのあり方を解説します。可能であれば、グループ・ワークを適宜取り入れることで、より理解を深めていきます。</p> <p>【到達目標】マーケティング論に関する基本的知識を習得し、消費者としてあるいはマーケターとしての視点を養うことを目標とする。すなわち、今日の企業がどのようにマーケティング戦略を遂行しているのかを理解することで、「賢い」消費者になると同時に、顧客ニーズや顧客満足度を満たすためにいかなる工夫が必要であるかを考えられることである。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配付</p> <p>(2)</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 イントロダクション：授業の進め方や成績の評価方法を確認する。</p> <p>第2回 マーケティング論の基本概念：マーケティング論の概要や基本概念を説明する。</p> <p>第3回 グループ・ワーク①：商品とマーケティングについて考えよう。</p> <p>第4回 標的市場の選択：STPについて解説する。</p> <p>第5回 消費者行動分析：消費者行動論の基本を知ること、消費者の購買行動について理解を深める。</p> <p>第6回 競争分析：「ポジショニング」の概念を中心に、企業間競争の構造分析の方法を知る。</p> <p>第7回 グループ・ワーク②：市場・顧客分析をしてみよう。</p> <p>第8回 製品戦略：製品・サービスの分類や製品ミックスなどを説明する。</p> <p>第9回 価格戦略：価格設定の重要性とその方法について講義する。</p> <p>第10回 流通戦略(1)：流通の仕組みとチャネル選択について説明する。</p> <p>第11回 流通戦略(2)：チャネル管理とサプライチェーン・マネジメントについて解説する。</p> <p>第12回 プロモーション戦略：プロモーション・ミックスとメディア・ミックスなどを講義する。</p> <p>第13回 ブランド戦略：これまでの内容を基に、ブランド構築やブランド管理について考える。</p> <p>第14回 企業の社会的責任とマーケティング：企業の社会性とマーケティングの関係性について解説する。</p> <p>第15回 グループ・ワーク③：ソーシャル・プロダクトを探してみよう。</p>			
授業外学習(予習・復習)	授業のなかで適宜指示します。			
成績評価の方法	期末筆記試験(80%) +リアクション・ペーパーやグループ・ワークなど(20%)			

授業科目	流通論		担当者	近間 由幸		
	[履修年次]	1,2年	授業外対応	適宜対応 (要予約)		
	[学期]	後期 [単位]	2単位	[必修/選択]	選択 [授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】小売業態の変化・発展を歴史的に捉える</p> <p>【概要】授業では、日本の小売企業を対象とし、現代の小売企業を取り巻く環境や消費者ニーズの多様性に対して、小売企業がどのように対応し、進化してきたのかを歴史的、体系的に考察する。また、このような小売企業の発展とともに現われ現代の流通における課題について検討する。</p> <p>【到達目標】受講学生が現代の流通業界の具体的な姿について理解し、流通業界に関する知識を身につけ、流通ビジネスの背後にある論理やメカニズムについて考えられるようになることを到達目標としている。</p>					
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 石原武政・竹村正明・細井謙一編『1からの流通論 (第2版)』碩学舎</p>					
授業スケジュール	<p>第1回 インTRODクダクシヨン - 流通を取り巻く経済環境</p> <p>第2回 流通とはなにか</p> <p>第3回 日本の欧米化と百貨店の誕生</p> <p>第4回 高度経済成長と総合スーパー</p> <p>第5回 食品スーパーの革新性</p> <p>第6回 利便性の追求とコンビニエンス・ストア (CVS)</p> <p>第7回 ディスカウント・ストアの低価格戦略</p> <p>第8回 専門量販店の台頭</p> <p>第9回 ショッピングセンターの商業集積</p> <p>第10回 インターネット技術と電子商取引 (EC)</p> <p>第11回 流通構造の変化と小売業態</p> <p>第12回 小売・流通における労働問題 (1) - 物流危機とトラックドライバー</p> <p>第13回 小売・流通における労働問題 (2) - 接客販売業の働き方</p> <p>第14回 デフレ支援型流通と消費行動の変化</p> <p>第15回 全体のまとめ</p>					
授業外学習(予習・復習)	適宜指示					
成績評価の方法	授業ごとのミニレポート (30%) 期末レポート (70%)					

授業科目	経営工学		担当者	倉重 賢治		
	[履修年次]	1, 2年	授業外対応	適宜対応		
	[学期]	後期 [単位]	2	[必修/選択]	選択 [授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>企業などにおける運營業務の科学化</p> <p>【概要】</p> <p>現在の企業活動においては、情報技術を有効に活用した情報収集、さらにそれらの情報を用いた意思決定が頻繁に行われている。今後は社内に限らず、取引先も含めた情報も共有化されることで、より広範囲での最適化を目指した意思決定の必要性が増してきている。この講義では、企業活動において頻繁に行われる意思決定、例えば、生産スケジュールの立案や在庫管理など、その問題の概要や解法アルゴリズムに関して論じる。</p> <p>【到達目標】</p> <p>企業活動における、ヒト・モノ・カネ・情報の効率的な運用の大切さを理解する。</p>					
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 圓川隆夫・伊藤謙治、『生産マネジメントの手法』, 朝倉書店</p>					
授業スケジュール	<p>第1回 序論：経営工学とは</p> <p>第2回 生産スケジューリング1：どんな順番で製品を作れば良いのか</p> <p>第3回 生産スケジューリング2：どんな順番で作業を行えば良いのか</p> <p>第4回 工程編成：均等に作業を割り当てるには</p> <p>第5回 プロジェクト管理：プロジェクトをなるべく早く終わらせるには</p> <p>第6回 設備配置：設備のキャパシティはどれくらいにすれば良いのか</p> <p>第7回 生産計画：何をどれくらい作れば一番儲かるのか</p> <p>第8回 作業分析：作業者の動作を分析する</p> <p>第9回 投資計画1：お金の現在価値と将来価値</p> <p>第10回 投資計画2：プロジェクトの価値</p> <p>第11回 在庫問題：在庫コストを少なくする</p> <p>第12回 評価と選択：複数の代替案の中から一番良いものを選ぶ</p> <p>第13回 最短経路：一番近い道を探す</p> <p>第14回 配送計画：配達順序を決める</p> <p>第15回 まとめ</p>					
授業外学習(予習・復習)	適宜指示					
成績評価の方法	期末試験 (100%)					

授業科目	応用データ活用	担当者	倉重 賢治		
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 1	授業外対応	適宜対応		
		[必修/選択]	選択	[授業形態]	実習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 リレーショナルデータベースの概念と基本操作</p> <p>【概要】 実務でのコンピュータ利用において、データベース処理ソフトは、非常に重要な役割を果たしている。この演習では、まず、リレーショナルデータベースの基本的な概念を論じる。次に、代表的なデータベースソフトであるマイクロソフト社の Access の基本操作を修得し、データベース設計に関する問題に取り組んでいく。</p> <p>【到達目標】 データベースソフト Access の使い方を習得する。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 未定 (2) 特になし				
授業スケジュール	第 1回 序論：リレーショナルデータベースの概念 第 2回 Access の操作：Access とは 第 3回 Access の操作：レコードの並べ替え 第 4回 Access の操作：レコードの追加 第 5回 Access の操作：フォームの作成 第 6回 Access の操作：選択クエリの作成 第 7回 Access の操作：さまざまなクエリ 第 8回 Access の操作：アクションクエリ 第 9回 Access の操作：データベースの設計 第 10回 Access の操作：リレーションシップの作成 第 11回 Access の操作：リレーションシップされたクエリの計算 第 12回 Access の操作：レポートの作成 第 13回 Access の操作：レポートのアレンジ 第 14回 Access の操作：マクロの利用 第 15回 まとめ				
授業外学習(予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	講義中の小テスト (50%) + 期末試験 (50%)				

授業科目	プログラミング	担当者	倉重 賢治		
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1	授業外対応	適宜対応		
		[必修/選択]	選択	[授業形態]	実習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 VBA (Visual Basic for Application) を用いたプログラミング</p> <p>【概要】 プログラミングとは、コンピュータで実行したい作業を人間ではなく計算機が理解できるように記述することである。この演習では、プログラミングの基本概念を Excel に含まれている VBA により学習する。プログラムの作成を通じて、論理的な思考を身につけることはもちろんのこと、VBA の利用により、さらに高度な Excel の活用方法が可能となる。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 基本的なプログラミング技術を身につける。 VBA を利用した Excel のより高度な活用方法を修得する。 				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 伊藤潔人、『いちばんやさしい ExcelVBA の教本』、インプレス (2) 特になし				
授業スケジュール	第 1回 序論：プログラミングの概念 第 2回 VBA の利用：演算子と関数 第 3回 VBA の利用：変数 第 4回 VBA の利用：条件分岐 第 5回 VBA の利用：ループ処理 (1) 第 6回 VBA の利用：ループ処理 (2) 第 7回 VBA の利用：オブジェクト関連の文法 第 8回 VBA の利用：マクロの記録 第 9回 VBA の利用：Range オブジェクト 第 10回 VBA の利用：Worksheet オブジェクト 第 11回 VBA の利用：複数シートをまとめる 第 12回 VBA の利用：Workbook オブジェクト 第 13回 VBA の利用：イベントプロシージャ 第 14回 VBA の利用：ユーザフォーム 第 15回 まとめ				
授業外学習(予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	講義中の小テスト (50%) + 期末試験 (50%)				

授業科目	簿記論Ⅲ		担当者	今村 明代				
	[履修年次]	1, 2年	授業外対応	講義終了時				
	[学期]	後期	[単位]	2	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 経営内容の把握に役立つ商業簿記を学ぶ</p> <p>【概要】 日商簿記2級レベルの商業簿記のテキストとワークブックを使用して、種々の取引の会計処理方法や記帳方法、各種計算書類の作成方法を解説し、問題演習に取り組みます。単なるパターン学習ではなく、背後に存在する考え方を理解するという意識を取り組みましょう。</p> <p>【到達目標】 商業経営における種々の取引の会計処理方法や記帳方法を理解し、財務諸表（損益計算書、貸借対照表、株主資本等変動計算書、精算表）を作成することができる。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 渡部裕亘・片山覚・北村敬子編著『検定簿記講義2級商業簿記2022年度版』中央経済社 及び 渡部裕亘・片山覚・北村敬子編著『検定簿記ワークブック2級商業簿記』中央経済社。</p> <p>(2)</p>							
授業スケジュール	<p>第1回 簿記一巡の手続と財務諸表</p> <p>第2回 現金預金と売掛金、手形</p> <p>第3回 有価証券, その他の債権・債務</p> <p>第4回 商品売買</p> <p>第5回 固定資産</p> <p>第6回 引当金, 収益と費用</p> <p>第7回 株式会社の純資産(資本)</p> <p>第8回 税金, リース会計</p> <p>第9回 外貨建取引</p> <p>第10回 税効果会計, 決算: 決算整理</p> <p>第11回 決算: 財務諸表の作成</p> <p>第12回 決算: 株主資本等変動計算書</p> <p>第13回 決算: 精算表</p> <p>第14回 本支店会計, 連結会計</p> <p>第15回 まとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	予習と復習を毎回確実にすること。「予習→授業→復習」のくりかえしにより簿記の学習効果は着実に上がります。							
成績評価の方法	筆記試験70%+小テスト30%。詳細は1回目の授業で説明します。							
実務経験について	外資系銀行東京支店の人事・会計部門での実務経験を有する(6年間)。							

授業科目	情報論特講		担当者	岡村俊彦, 倉重賢治				
	[履修年次]	2年	授業外対応	講義前後に適宜対応				
	[学期]	前期	[単位]	2	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>ICT(情報通信技術)について実用的, 応用的な学習をおこなう。</p> <p>【概要】</p> <p>ハードウェア, ソフトウェア, ネットワークといったICTを学び, 日商PC検定2級知識科目と同等以上の知識を得る。表計算ソフト(エクセル)の実用的な使用方法について学習を行う。</p> <p>【到達目標】</p> <p>実社会において, 自らICT業務に携わり, 効果的, 効率的な活用ができるようにする。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) FOM出版「よくわかるマスター 改訂版 日商PC検定試験2級知識科目公式問題集」, プリント</p> <p>(2) 特になし</p>							
授業スケジュール	<p>第1回 概要説明: 授業概要と評価方法の説明</p> <p>第2回 ハードとソフト: PC等のICT機器のハードウェア, ソフトウェアの解説</p> <p>第3回 コンピュータの内部部品1: CPUとメモリの解説</p> <p>第4回 コンピュータの内部部品2: ストレージと光学ドライブの解説</p> <p>第5回 インターネットとネットワーク: TCP/IPの設定, ルータの役割の解説</p> <p>第6回 表計算ソフトの活用1: Webクエリのグラフ作成</p> <p>第7回 表計算ソフトの活用2: フィルターとピボットテーブル</p> <p>第8回 コンピュータが扱う数字1: 2進数と16進数</p> <p>第9回 コンピュータが扱う数字2: 負の数と実数</p> <p>第10回 情報セキュリティ: 共通鍵暗号と公開鍵暗号</p> <p>第11回 シミュレーション1: シミュレーションとは</p> <p>第12回 シミュレーション2: エクセルを用いたシミュレーション</p> <p>第13回 意思決定: エクセルのソルバー</p> <p>第14回 データ分析: エクセルのデータ分析</p> <p>第15回 まとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	適宜指示							
成績評価の方法	レポート(30%)+授業中の課題(40%)+期末試験(30%)							

(注)「情報科学概論」(担当: 岡村)を履修済み, もしくは同等以上の学習が終了している者を対象とする

13 第二部商経学科教養科目
(教養一般)

授業科目	人間と文化	担当者	木戸裕子・古川那由太・倉重賢治・石井英里子・田邊しずか・竹中啓之・疋田京子
	[履修年次] 1～3年いずれでも履修可	[学期] 前期(集中講義)	
	[単位] 2 単位	[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】文化という人間の営みを、人文・社会諸科学の多岐にわたる分野から考察する。</p> <p>【概要】県立短大3学科の教員7名が、それぞれの分野から、さまざまな地域・時代における「文化」を、異なる角度から考察します。1週間という集中した期間に、多角的な知見を学ぶことで、受講生にとって、時代と社会の趨勢を理解する幅広い教養を身につけることを期待します。 (9/13,9/14,9/15,9/16,9/20,9/21,9/22の集中講義。県内大学等のコーディネート科目であり、他大学等の学生も受講する)</p> <p>【到達目標】人間と文化について学際的に学ぶことにより、さまざまな事象を多面的に考察する姿勢を身につける。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 未定(必要に応じて後日指示します。) (2) 授業中、必要に応じて指示します。		
授業スケジュール	第1回 古典文学と文化(1):文学の利用(木戸) 第2回 古典文学と文化(2):現代に生きる古典(木戸) 第3回 生物文化多様性:生態系を守る文化(古川) 第4回 生物文化多様性:地域の付加価値を創造する文化(古川) 第5回 人間の感覚の定量化(倉重) 第6回 人間の行動の定量化(倉重) 第7回 令和の教育と文化(1):個別最適な学びについて考える(石井) 第8回 令和の教育と文化(2):協働的な学びについて考える(石井) 第9回 西洋の服飾文化:ハイファッションの歴史(田邊) 第10回 日本の服飾文化:大正から昭和初期(田邊) 第11回 企業理念と企業文化(竹中) 第12回 組織と文化の関係について(竹中) 第13回 法と文化:世界に法律がなかったら?(疋田) 第14回 日本の法文化:安楽死が合法化されたら?(疋田) 第15回 まとめ (順番、内容を変更することがあります)		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示します。		
成績評価の方法	レポートの提出(85%)と毎回の授業の感想・意見等(15%)で評価します。		

授業科目	日本の歴史	担当者	永山 修一
	[履修年次] 1, 2, 3年	授業外対応	講義
	[学期] 後期	[単位] 2	[必修/選択] 選択
			[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】原始～中世前期の「日本の歴史」</p> <p>【概要】日本全体の歴史の流れを視野に入れ、十分に意識しながら、南九州から南島に生活した人々の姿を、なるべく最新の情報を使用しながら概観していく。</p> <p>【到達目標】身近な歴史に関心を持つことができ、歴史的思考力の一端を理解する。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 授業時に配布(プリント) (2) 『鹿児島県の歴史』(山川出版社, 1999年)原口泉・永山修一・日隈正守・松尾千歳・皆村武一		
授業スケジュール	第1回 歴史の見方 第2回 資料と史料(文献) 第3回 資料と史料(遺物) 第4回 資料と史料(遺構) 第5回 旧石器時代・縄文時代 第6回 弥生時代 第7回 古墳時代 第8回 神話と伝承 第9回 隼人と律令制度 第10回 薩摩国正税帳を読む 第11回 平安時代の薩摩・大隅 第12回 奄美諸島の歴史 第13回 キカイガシマをめぐる 第14回 イオウガシマをめぐる 第15回 まとめ		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	授業時毎の小レポート(60%) レポート(40%)		

授業科目	日本文学・近代		担当者	竹本 寛秋				
	[履修年次]	1, 2, 3年	授業外対応	適宜対応 (要予約)				
	[学期]	前期	[単位]	2	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 日本近代の小説を読む</p> <p>【概要】 日本近代の小説を、様々な観点から読み解きます。様々な観点から小説を読むことで、小説の方法論、言語表現の仕組み、時代毎の価値観などを理解し、現代に生きる私達自身の問題として考える能力を身につけます。</p> <p>【到達目標】 「文学」を多様な角度から読む方法を理解する。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 適宜、授業中に紹介する</p>							
授業スケジュール	<p>第 1回 ガイダンス</p> <p>第 2回 梶井基次郎「檸檬」</p> <p>第 3回 梶井基次郎「檸檬」</p> <p>第 4回 芥川龍之介「蜜柑」</p> <p>第 5回 芥川龍之介「蜜柑」</p> <p>第 6回 太宰治「葉桜と魔笛」</p> <p>第 7回 太宰治「葉桜と魔笛」</p> <p>第 8回 前半のまとめ</p> <p>第 9回 萩原朔太郎「猫町」</p> <p>第 10回 萩原朔太郎「猫町」</p> <p>第 11回 宮澤賢治「猫の事務所」</p> <p>第 12回 宮澤賢治「猫の事務所」</p> <p>第 13回 有島武郎「カインの末裔」</p> <p>第 14回 有島武郎「カインの末裔」</p> <p>第 15回 まとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	対象テキストの精読。							
成績評価の方法	授業ごとのコメントカード (40%)、レポート (60%)							

授業科目	こころの科学		担当者	田中 真理				
	[履修年次]	1, 2, 3年	授業外対応	適宜対応				
	[学期]	前期	[単位]	2	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】心理学の視点から、人間の心理に対する理解を深めるとともに、精神的健康を維持増進する方法について学ぶ。</p> <p>【概要】本講義では特に、社会心理学、臨床心理学、発達心理学の観点から、人間の行動や心理の理解、日常生活における精神的健康に関わる知識、発達の理解の習得を目指す。適宜、質問紙や心理検査、ワークなどを用いた体験的な学習を行う。</p> <p>【到達目標】①自己理解や他者理解を深めるための心理学の知識の習得を目標とする。 ②精神的健康やその予防・対処に関する知識の習得を目標とする。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 適宜紹介する。</p> <p>(2) 無藤隆他著『心理学 (新版)』有斐閣、2018年 丹野義彦他著『臨床心理学』有斐閣、2015年 池田謙一他著『社会心理学補訂版』有斐閣、2019年 西村純一・平野真理編『生涯発達心理学』ナカニシヤ出版、2019年 中野敬子著『ストレス・マネジメント入門[第2版]—自己診断と対処法を学ぶ』金剛出版、2016年</p>							
授業スケジュール	<p>第 1回 オリエンテーション</p> <p>第 2回 心理学の研究手法</p> <p>第 3回 社会心理学：自己をめぐる諸概念</p> <p>第 4回 社会心理学：自己と社会</p> <p>第 5回 社会心理学：感情・情動</p> <p>第 6回 社会心理学：パーソナリティ</p> <p>第 7回 臨床心理学：ストレス理論</p> <p>第 8回 臨床心理学：ストレス・マネジメント—理論編</p> <p>第 9回 臨床心理学：ストレス・マネジメント—実践編</p> <p>第 10回 臨床心理学：ストレス関連障害、うつ病</p> <p>第 11回 発達心理学：乳児期～児童期の発達</p> <p>第 12回 発達心理学：青年期の発達</p> <p>第 13回 発達心理学：成人期・中年期の発達</p> <p>第 14回 発達心理学：高齢期の発達</p> <p>第 15回 まとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	適宜指示							
成績評価の方法	試験 (60%) + レポート課題 (30%) + リアクションペーパーの内容 (10%)							
実務経験について	大学の学生相談室にて相談業務に従事							

授業科目	比較文化	担当者	陳 躍
	〔履修年次〕 1, 2, 3年 〔学期〕 後期 〔単位〕 2	授業外対応	メール対応 (chenyue0205@yahoo.co.jp)
		〔必修/選択〕	選択 〔授業形態〕 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】異文化理解とは何か：中国人と日本人はここまで違う！（中国人留学生もその他の国の留学生も大歓迎！）</p> <p>【概要】第一回から第七回までは、学生が輪になって座談会形式で、ときには寸劇やディスカッション形式でも授業を行う。会話パターンの日中相違、接し方の日中相違、しぐさの日中相違、名づけの日中相違、そして、恋のしかた、ファッション、娯楽、漫画、金銭感覚、就職、食、歌、幸福感など、日常生活の中から、身近なことで、日中を比較して、その相違を見つける。第九回から第十五回までは、前半の授業経験を踏まえて、ペアを組んで、興味のあるテーマをひとつ選び、それについて、自分達で調べる。さらに、教師と二人三脚で議論をしながら認識を深め、相違の背後にある文化価値観を浮き彫りにし、最終レポートにまとめる。</p> <p>【到達目標】1 中国社会を知る。2 中国人を知る。3 日本人と中国人との相違を知る。4 「日本人」に関して再度認識する。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント配布</p> <p>(2) 陳 躍著『恋文の翻訳（日中おうらい）』（南日本新聞社、2006年）</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 空気を読まない中国人と空気を読む日本人</p> <p>第 2 回 初対面の人にも給料を聞く中国人と夫婦しか給料を聞かない日本人</p> <p>第 3 回 店員が紳様である中国と客が紳様である日本</p> <p>第 4 回 イルカを食べる中国人とクジラを食べる日本人</p> <p>第 5 回 家族にはあまり「ありがとう」を言わない中国人と家族にもよく「ありがとう」を言う日本人</p> <p>第 6 回 向かい合って立ち話をしているとき、距離が近い中国人と距離が遠い日本人</p> <p>第 7 回 なげなげしい中国人とよそよそしい日本人</p> <p>第 8 回 中国映画鑑賞「海の天国」か「言えない秘密」</p> <p>第 9 回 「かわわない」をよく言う中国人と「すまない」をよく言う日本人</p> <p>第 10 回 無責任なことをかかると言う中国人と責任をとりたくないからはっきり言わない日本人</p> <p>第 11 回 その通りのことを言えば罪にならない中国人とその通りのことをいうからこそ罪になる日本人</p> <p>第 12 回 喧嘩しても引きずらない中国人と喧嘩したら必ず引きずる日本人</p> <p>第 13 回 核心にふれる話を好む中国人とあたりさわりのない話を好む日本人</p> <p>第 14 回 傍若無人な中国人と人の目ばかり気にする日本人</p> <p>第 15 回 相手との相違点を見つけて話していく中国人と相手との共通点を見つけて話していく日本人</p>		
授業外学習(予習・復習)	<p>プリントを参考にしながら、日頃から持っている関心や疑問、日中間のトラブルでもよい、中国人観光客への印象でもよい、その中から、気になることを一つ選び、自分の課題にし、その課題について、日中比較をし、その相違を見つけて、背後にある文化の相違を浮き彫りにするように意識し、考える。</p>		
成績評価の方法	<p>授業への参加態度 (60%)、レポート (40%)。</p>		

授業科目	アジア文化論	担当者	カムチャイ ライサミ
	〔履修年次〕 1年, 2年, 3年 〔学期〕 後期 〔単位〕 2	授業外対応	講義終了時
		〔必修/選択〕	選択 〔授業形態〕 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】アジア文化のダイナミズム</p> <p>アジア文化は多様性に富んでいる。その要因とは何か。アジア文化の本源的要素と現代的状況を明らかにする。</p> <p>【概要】アジア文化は世界文化の一大拠点成している。アジアの自然・風土・民族・宗教がどのようにアジア文化を育み、どのように経済社会や生活に影響を与えるか、実例を交えながら比較検討する。</p> <p>【到達目標】アジアの自然・民族・宗教を展望し、アジア文化の深層が理解できること。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) テキストなし。毎回プリントを配布する。</p> <p>(2) 必要に応じて、その都度指示する。</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 アジア文化の多様性</p> <p>第 2 回 文化と風土・民族</p> <p>第 3 回 文化と生活</p> <p>第 4 回 文化と経済</p> <p>第 5 回 文化と宗教Ⅰ：儒教と道教</p> <p>第 6 回 文化と宗教Ⅱ：仏教</p> <p>第 7 回 文化と宗教Ⅲ：インドの宗教</p> <p>第 8 回 文化と宗教Ⅳ：イスラム教</p> <p>第 9 回 アジア比較文化Ⅰ：日本と韓国</p> <p>第 10 回 アジア比較文化Ⅱ：中国と台湾</p> <p>第 11 回 アジア比較文化Ⅲ：香港とシンガポール</p> <p>第 12 回 アジア比較文化Ⅳ：マレーシアとインドネシア</p> <p>第 13 回 アジア比較文化Ⅴ：タイとフィリピン</p> <p>第 14 回 アジア比較文化Ⅵ：ベトナムとミャンマー</p> <p>第 15 回 アジア比較文化Ⅶ：インドとパキスタン</p>		
授業外学習(予習・復習)	<p>授業前後に必ず合計で4時間程度の予習・復習を行うこと。</p>		
成績評価の方法	<p>期末筆記試験 (100%)</p>		

授業科目	日本国憲法	担当者	山本 敬生																																														
	[履修年次] 1,2,3年履修可 [学期] 後期 [単位] 2単位	授業外対応	適宜対応 (要予約)																																														
		[必修/選択]	選択	[授業形態] 講義																																													
テーマ及び概要	<p>【テーマ】日本国憲法の基本原理である国民主権、基本的人権の尊重、平和主義を体系的に理解した上で、日本国憲法の理念とその普遍的妥当性について検証することをテーマにする。</p> <p>【概要】日本国憲法はわが国の最高法規であるとともに、基本的人権および国家の統治機構を定めた基本法である。近年、その価値が問い直されている一方、新世紀における新しい世界秩序の中で新たな意義をもちはじめている。本講義では、国の政治のあり方を究極的に決定する権威が国民にあることをいう国民主権、平和に崇高な価値をおき、その擁護に最大限の努力を払う原則である平和主義、個人の尊厳の原理に基づき、個人が有する人権は最大限尊重されるべきとする基本的人権の尊重の三つの基本原理を中心として、人類の叡智の結晶である日本国憲法の本質を学習する。</p> <p>【到達目標】日本国憲法の基本原理を深く理解し、政治的・社会的諸問題について憲法的視点から考察できる力を習得することを目標にする。</p>																																																
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 佐伯仁志他編、『ポケット六法（令和4年度版）』、有斐閣</p>																																																
授業スケジュール	<table border="0"> <tr> <td>第1回</td> <td>憲法概論</td> <td>・国民主権、基本的人権の尊重、平和主義、権力分立主義の理念について</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>基本権総論</td> <td>・私人間の人権保障、基本権の享有主体性、二重の基準の理論について</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>幸福追求権</td> <td>・幸福追求権、人間の尊厳、プライバシーの権利、法の下での平等について</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>精神的自由権(1)</td> <td>・思想・良心の自由、信教の自由、政教分離の原則について</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>精神的自由権(2)</td> <td>・表現の自由、検閲の禁止、知る権利、通信の秘密、報道の自由について</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>精神的自由権(3)</td> <td>・集会・結社の自由、検閲の禁止、IRAの基準、学問の自由、大学の自治について</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>経済的自由権</td> <td>・職業選択の自由、居住・移転の自由、国籍離脱の自由、財産権について</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>受益権</td> <td>・裁判を受ける権利、請願権、国家賠償請求権、刑事補償請求権について</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>社会権(1)</td> <td>・生存権、環境権、教育を受ける権利、教育の自由について</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>社会権(2)</td> <td>・勤労権、労働基本権、争議権、参政権、選挙権について</td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>国会(1)</td> <td>・国権の最高機関の意味、唯一の立法機関の意味、衆議院の優越について</td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>国会(2)</td> <td>・国会議員の地位、議員の特権、国会の活動、国会と議院の権能について</td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>内閣</td> <td>・内閣の地位、内閣総理大臣の権限、国務大臣の権限、内閣の責任について</td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>裁判所</td> <td>・最高裁判所の権限、統治行為論、違憲審査制について</td> </tr> <tr> <td>第15回</td> <td>財政</td> <td>・財政民主主義、租税法主義、国費支出議決主義、公金支出の禁止について</td> </tr> </table>				第1回	憲法概論	・国民主権、基本的人権の尊重、平和主義、権力分立主義の理念について	第2回	基本権総論	・私人間の人権保障、基本権の享有主体性、二重の基準の理論について	第3回	幸福追求権	・幸福追求権、人間の尊厳、プライバシーの権利、法の下での平等について	第4回	精神的自由権(1)	・思想・良心の自由、信教の自由、政教分離の原則について	第5回	精神的自由権(2)	・表現の自由、検閲の禁止、知る権利、通信の秘密、報道の自由について	第6回	精神的自由権(3)	・集会・結社の自由、検閲の禁止、IRAの基準、学問の自由、大学の自治について	第7回	経済的自由権	・職業選択の自由、居住・移転の自由、国籍離脱の自由、財産権について	第8回	受益権	・裁判を受ける権利、請願権、国家賠償請求権、刑事補償請求権について	第9回	社会権(1)	・生存権、環境権、教育を受ける権利、教育の自由について	第10回	社会権(2)	・勤労権、労働基本権、争議権、参政権、選挙権について	第11回	国会(1)	・国権の最高機関の意味、唯一の立法機関の意味、衆議院の優越について	第12回	国会(2)	・国会議員の地位、議員の特権、国会の活動、国会と議院の権能について	第13回	内閣	・内閣の地位、内閣総理大臣の権限、国務大臣の権限、内閣の責任について	第14回	裁判所	・最高裁判所の権限、統治行為論、違憲審査制について	第15回	財政	・財政民主主義、租税法主義、国費支出議決主義、公金支出の禁止について
第1回	憲法概論	・国民主権、基本的人権の尊重、平和主義、権力分立主義の理念について																																															
第2回	基本権総論	・私人間の人権保障、基本権の享有主体性、二重の基準の理論について																																															
第3回	幸福追求権	・幸福追求権、人間の尊厳、プライバシーの権利、法の下での平等について																																															
第4回	精神的自由権(1)	・思想・良心の自由、信教の自由、政教分離の原則について																																															
第5回	精神的自由権(2)	・表現の自由、検閲の禁止、知る権利、通信の秘密、報道の自由について																																															
第6回	精神的自由権(3)	・集会・結社の自由、検閲の禁止、IRAの基準、学問の自由、大学の自治について																																															
第7回	経済的自由権	・職業選択の自由、居住・移転の自由、国籍離脱の自由、財産権について																																															
第8回	受益権	・裁判を受ける権利、請願権、国家賠償請求権、刑事補償請求権について																																															
第9回	社会権(1)	・生存権、環境権、教育を受ける権利、教育の自由について																																															
第10回	社会権(2)	・勤労権、労働基本権、争議権、参政権、選挙権について																																															
第11回	国会(1)	・国権の最高機関の意味、唯一の立法機関の意味、衆議院の優越について																																															
第12回	国会(2)	・国会議員の地位、議員の特権、国会の活動、国会と議院の権能について																																															
第13回	内閣	・内閣の地位、内閣総理大臣の権限、国務大臣の権限、内閣の責任について																																															
第14回	裁判所	・最高裁判所の権限、統治行為論、違憲審査制について																																															
第15回	財政	・財政民主主義、租税法主義、国費支出議決主義、公金支出の禁止について																																															
授業外学習(予習・復習)	復習を重視する。																																																
成績評価の方法	筆記試験(90%)＋授業での発言内容(10%)を基準にして評価する。																																																

授業科目	キャリアデザイン	担当者	担当教員	
	[履修年次] 2年 [単位] 1	[学期]	通年	
		[必修/選択]	選択	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】1年生が就職活動を始める前に、卒業後のキャリア形成について具体的なイメージを描けるようにする。</p> <p>【概要】就業後の職業や人生設計について適切な考察を行う能力の獲得のため、個々の体験に基づく就活イメージの提供や就活のノウハウの伝授にとどまらず、キャリアパス再設計の機会に対応可能なように、職業についての基本的な考え方、企業社会の理解、企業選択に対して知っておくべきことや、退職や転職、再就職などに際して考えるべきこと等を体系的に学習することを通じて、将来、自らのキャリアパスを再デザインし、マネージしうるための支援となるような内容についても学習する。</p> <p>【到達目標】8回の授業を通じて自らの進路のイメージを形成する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 適宜紹介</p>			
授業スケジュール	<p>◆5月18日(水)(特設時間を利用)</p> <p>第1回 総論 キャリア、キャリアデザインとは</p> <p>◆6月15日(水)(特設時間を利用)</p> <p>第2回 自己分析 志望動機</p> <p>◆7月13日(水)(特設時間を利用)</p> <p>第3回 企業研究の必要性とそのやり方</p> <p>◆9月21日(木)3限</p> <p>第4回 企業が求める人材</p> <p>◆9月21日(木)4限</p> <p>第5回 先輩の就活体験・職業体験から学ぶ</p> <p>◆10月19日(水)(特設時間を利用)</p> <p>第6回 働いて「困った」への対応方法</p> <p>◆11月9日(水)(特設時間を利用)</p> <p>第7回 これから働くあなたへのメッセージ</p> <p>◆12月21日(水)(特設時間を利用)</p> <p>第8回 プロフェッショナルになろう(パネルディスカッション)</p> <p>※ 4年度の講師については適宜掲示する。</p>			
成績評価の方法	ワークシート及び授業から学んだことの感想を提出(100%)			

授業科目	ライフプランニング	担当者	瀬尾 由美子
	[履修年次] 1, 2, 3年 [学期] 前期 [単位] 2	授業外対応	講義終了後
		[必修/選択]	選択 [授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 将来の生活設計に必要な「ライフプランニングの考え方」を身につける</p> <p>【概要】「ライフプランニング」とはこれから先の人生をどのように過すのかを思い描き、実現するための方法を考え、計画を立てることである。「ライフプランニング」の考え方を学ぶことで、経済的に自立し、安心して将来の生活を過ごすことができるようになる。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ライフプランニングに必要な金融や経済に関する基礎知識を身につける。 ・金融商品や各種サービスの選択をする際に適切な判断ができるようになる。 		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 「大学生のための人生とお金の知恵」 金融広報中央委員会（無償提供）、プリント</p> <p>(2) 「これであなたもひとり立ち」 金融広報中央委員会（無償提供）</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 ライフプランニング（1）：ライフプランニングの必要性と考え方</p> <p>第2回 ライフプランニング（2）：これからの人生のライフデザインを思い描く</p> <p>第3回 ライフプランニング（3）：ライフプランニングとキャリアプランニングの関係性</p> <p>第4回 社会保険制度（1）：社会保険制度の概要と基礎知識</p> <p>第5回 社会保険制度（2）：公的年金制度の概要と基礎知識</p> <p>第6回 社会保険制度（3）：セーフティネットを理解する</p> <p>第7回 所得税：所得税の基礎知識と源泉徴収票の見方</p> <p>第8回 貯蓄と投資（1）：消費と投資の考え方の違い</p> <p>第9回 貯蓄と投資（2）：貯蓄と運用の考え方の違い</p> <p>第10回 貯蓄と投資（3）：運用する際の基礎知識</p> <p>第11回 貯蓄と投資（4）：将来に備えるために役立つ制度</p> <p>第12回 貯蓄と投資（5）：金利と法律の基礎知識</p> <p>第13回 保険（1）：生命保険の基礎知識と考え方</p> <p>第14回 保険（2）：損害保険の基礎知識と考え方</p> <p>まとめ：第1回から第14回までのまとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	講義中ごとの感想 (50%) 期末試験 (50%)		
実務経験について	2010年からライフプランセミナー講師、2013年からFP3級資格取得講座講師、2016年からFP2級資格取得講座講師		

授業科目	環境問題	担当者	瀬口毅士, 井村隆介, 榮村奈緒子, 浅海真弓, 八木正
	[履修年次] 1, 2, 3年 [学期] 前期 [単位] 2単位	授業外対応	講義前後に適宜対応
		[必修/選択]	選択 [授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】環境問題を異なる視点から考える</p> <p>【概要】自然史(井村), 森林科学(榮村), 生活科学(浅海), 経済社会(八木)の視点から環境問題を考える</p> <p>【到達目標】環境問題に関する複眼的思考を養う</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布</p> <p>(2) 國部克彦(編集), 神戸CSR研究会(編集)『CSRの基礎』, 中央経済社</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス：履修登録の確認、講義計画の説明等</p> <p>第2回 鹿児島島の自然史(1) 鹿児島島と気候変動</p> <p>第3回 鹿児島島の自然史(2) 鹿児島島の地震と火山</p> <p>第4回 鹿児島島の自然史(3) 鹿児島島の植生史</p> <p>第5回 鹿児島島の自然史(4) 鹿児島島の自然と人</p> <p>第6回 森林科学(1)：動物と植物の相互作用</p> <p>第7回 森林科学(2)：獣害</p> <p>第8回 森林科学(3)：外来種</p> <p>第9回 生活科学(1)：衣生活と環境問題(衣服廃棄・リサイクルの現状と課題)</p> <p>第10回 生活科学(2)：食生活と環境問題(食品ロスの現状と課題)</p> <p>第11回 生活科学(3)：環境に配慮した生活(私たちの生活の中でできる取り組み)</p> <p>第12回 経済社会(1)：企業と公害(1)</p> <p>第13回 経済社会(2)：企業と公害(2)</p> <p>第14回 経済社会(3)：企業と地球環境(1)</p> <p>第15回 経済社会(4)：企業と地球環境(2)</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	各講師の課題(20~30点満点)×4=100点とする		

授業科目	かごしま教養プログラム		担当者	県内7大学等の担当教員	
	[履修年次]	1年	[学期]	通年	
	[単位]	2	[必修/選択]	選択(注)	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【概要】この講義では、鹿児島県内のすべての大学等が伝統を活かして開発してきた、鹿児島を素材にした授業を持ち寄り、「グローバルな視点から見たかごしま再発見」というテーマに基づき、リベラルアーツ教育を行います。また、地域の特色ある分野について対象としていることから、特に、地域社会での活躍を目指す学生にとっては、充実した内容となっている。3日間の夏季集中授業で、講義とグループ学習を行います。ディベートなどを取り入れ、学生間でよく話し合い、切磋琢磨しながら学習します。</p> <p>【学習目標】①講義で提示される鹿児島独自の文化、自然、社会、産業、防災、食と観光などのテーマについて、内容をよく理解し、自分の考えに従って問題点を正しく整理できる。</p> <p>②グループ学習により、テーマに関連する問題を独自の視点で討論を行い、グループとしての考えと方策などを具体的にまとめ上げ、それを適切に発表できる。</p> <p>③テーマに関してグループで検討し得られた結論等について、受講生全員がそれぞれレポートにまとめて提出する。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 未定 (2) 未定				
授業スケジュール	<p>第1回 令和3年度実施概要(令和4年度については未定) 遠隔授業で実施</p> <p>日程：8月18日(水)～20日(金) 場所：鹿児島大学 定員：県内4大学等の学生 44人</p>				
授業外学習(予習・復習)					
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> 発表とレポートを合わせて評価する。従って、どちらか一方がかけた場合は、評価対象外とする。 レポート提出期限までにレポートを提出しなかった者は、評価対象外とする。 				

(注)「日本文学概論」(日本語日本文学専攻)、「スタディスキルズ」(英語英文学専攻)、「生活科学概論」(生活科学科)、「基礎演習」(商経学科)の履修が条件となります。

授業科目	かごしまフィールドスクール		担当者	県内7大学等の担当教員	
	[履修年次]	1年	[学期]	通年	
	[単位]	2	[必修/選択]	選択(注)	[授業形態] 実習
テーマ及び概要	<p>【概要】地場産業、農業、商業、文化、観光、環境、暮らし、防災などにかかわる地域・施設などを学習の場とし、そこに内在する特徴や住民・関係者の暮らし、今後の方向性への住民・関係者の意識などを実践的に学習し、今後、地域の課題を解決していくための方策について考察し、若者のグローバルな視点でそれらの方策を実現する可能性について検討します。</p> <p>この活動により、鹿児島の特徴と問題点を理解し、国際社会の中での鹿児島の個性化・活性化を考える「グローバルな素養」を身につけ、あるいは自己開発の能力を身につけます。具体的には、実践的な学びの場において体験的な学習能力を向上し、考察・討論・発表を通じた理解力と問題解決能力の修得を促進するとともに、発表後の意見交換を加味して本授業全体を通じた総合的な成果を文書化することにより、日本語コミュニケーション能力の向上を図ります。</p> <p>【学習目標】①指定地域内の調査地区の実地視察や関係者との交流を通して、同地区の住民生活、商業活動、文化活動、防災等の特徴を把握し、選択したテーマに関する独自の問題を調査する。</p> <p>②同地区等の課題解決のために、今後どのような展望が望ましいか、どのような可能性があるか等の視点でテーマを考え、グループ討論により改善策等を具体的に討論しその成果を発表する。</p> <p>③実地調査、討論、発表を通して得られた成果を総合的にとりまとめたレポートを作成する。</p> <p>テーマ別に編成されたグループにおいて、これら三つの学習目標を達成する。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 未定 (2) 未定				
授業スケジュール	<p>第1回 令和3年度実施概要(令和4年度については未定) 中止</p>				
授業外学習(予習・復習)					
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> 発表とレポートを合わせて評価する。従って、どちらか一方がかけた場合は、評価対象外とする。 レポート提出期限までにレポートを提出しなかった者は、評価対象外とする。 				

(注)「かごしま教養プログラム」の履修が条件となります。

14 第二部商経学科教養科目
(外国語科目)

授業科目	英語 I (A)	担当者	石井 英里子
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1	授業外対応	適宜 (要予約) および Edmodo [必修/選択] 選択 [授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 英語を使う本質的意味の理解を深めながら、英語で自己発信するスキルを向上させる。</p> <p>【概要】 本授業では、返答や補足・確認質問など、日常会話でよく使われるコミュニケーションストラテジーを学習します。授業では、各ストラテジーに関して、インフォメーションギャップなどのタスクをペアやグループで実践し、コミュニケーションを体験しながら英語表現を身につけます。英語のスキル向上だけでなく、何のために英語を使うのか、何のために英語を学ぶのかについて再考し、自身の理想の英語ユーザーとなるためにはどのようなことが必要かについて考えます。授業言語は英語です。</p> <p>【到達目標】①英語のコミュニケーションストラテジー表現を理解する。②積極的に英語で表現することができる。③英語で表現することや今後の英語学習への興味・関心・意欲を持つ。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント配布 (2) Kehe D. & Kehe D. P. (2007) <i>Conversation Strategies: Pair and Group Activities for Developing Communicative Competence, 2nd Edition</i>, Pro Lingua Associates.</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 Course introduction 第 2 回 Rejoinders 第 3 回 Follow-up questions 第 4 回 Confirmation questions 第 5 回 Clarifications with question words 第 6 回 Keeping or killing the conversation 第 7 回 Expressing probability 第 8 回 Mid-term exam and review 第 9 回 Interrupting someone 第 10 回 Eching instructions 第 11 回 Polite requests, responses, and excuses 第 12 回 Getting response 第 13 回 Soliciting details 第 14 回 Responding with details 第 15 回 Course review</p>		
授業外学習(予習・復習)	復習 1 時間以上必要である。		
成績評価の方法	Learning Portfolio 40% Mid-term 20% Final (定期試験期間中) 40% で評価する。		

授業科目	英語 I (B)	担当者	James Murray ジェイムズ・マレー
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1	授業外対応	授業終了後 [必修/選択] 選択 [授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This is a course for practicing all skills in English: Reading, Writing, Listening, Speaking, and Comprehension.</p> <p>【概要】 Lectures will teach vocabulary, phrases, and grammar that is used in everyday English conversation. Students will learn useful English for meeting people, describing things, giving directions, etc. Relaxed group discussions will give students the chance to use what they are learning, and to improve their confidence when communicating.</p> <p>【到達目標】 The aim of this course is to learn the basic skills of English used in everyday life, and to improve confidence in communicating and expressing oneself.</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Helgesen, Wiltshier, Brown 「English Firsthand 1」(Fifth Edition) Pearson, 2018 (ISBN: 9789813130227) (2)</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 Introduction / Conversation Activities 第 2 回 Unit 1: Meeting People; Personal Information 第 3 回 Unit 1: Using Simple Present; Hobbies and Interests 第 4 回 Unit 2: Describing People; Talking about Family 第 5 回 Unit 2: Using Simple Present (Be vs. Have); Appearance Adjectives 第 6 回 Unit 3: Describing Routines and Schedules 第 7 回 Unit 3: Using Adverbs of Frequency 第 8 回 Test (1) and Conversation Activities 第 9 回 Unit 4: Talking about Locations 第 10 回 Unit 4: Using Prepositions 第 11 回 Unit 5: Giving Directions 第 12 回 Unit 5: Using To, At, From, On, In: Using Imperative Verbs 第 13 回 Unit 6: Talking about Past Events and Activities 第 14 回 Unit 6: Using Past Tense; Using Irregular Verbs 第 15 回 Test (2) and Conversation Activities</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	Class participation 授業での参加の度合 (25%), Tests 試験 (50%), Homework 宿題 (25%)		

授業科目	英語Ⅱ(A)	担当者	石井 英里子
	[履修年次] 1年, [学期] 後期 [単位] 1	授業外対応	適宜(要予約) および Edmodo
		[必修/選択]	選択 [授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 英語を使う本質的意味の理解を深めながら、英語で自己発信するスキルを向上させる。</p> <p>【概要】 本授業では、返答や補足・確認質問など、日常会話でよく使われるコミュニケーションストラテジーを学習します。授業では、各ストラテジーに関して、インフォメーションギャップなどのタスクをペアやグループで実践し、コミュニケーションを体験しながら英語表現を身につけます。英語のスキル向上だけでなく、何のために英語を使うのか、何のために英語を学ぶのかについて再考し、自身の理想の英語ユーザーとなるためにはどのようなことが必要かについて考えます。授業言語は英語です。</p> <p>【到達目標】①英語のコミュニケーションストラテジー表現を理解する。②積極的に英語で表現することができる。③英語で表現することや今後の英語学習への興味・関心・意欲を持つ。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント配布 (2) Kehe D. & Kehe D. P. (2007) <i>Conversation Strategies: Pair and Group Activities for Developing Communicative Competence, 2nd Edition</i>, Pro Lingua Associates.</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 Course introduction, Making comparisons 第2回 Finding the right word 第3回 Exploring a word 第4回 Correcting someone 第5回 Eliciting confirmation 第6回 Starting and stoppong a conversation 第7回 Beginning and ending a phone call 第8回 Mid-term exam and review 第9回 Expressing opinions 第10回 Making a group discussion 第11回 Discussion connectors 第12回 Summarizing 第13回 Conductiong a formal meeting 第14回 For fun: Find the strange word 第15回 Volunteering an answer</p>		
授業外学習(予習・復習)	復習1時間以上必要である。		
成績評価の方法	Learning Portfolio 40% Mid-term 20% Final (定期試験期間中) 40%で評価する。		

授業科目	英語Ⅱ(B)	担当者	James Murray ジェイムズ・マレー
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1	授業外対応	授業終了後
		[必修/選択]	選択 [授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This is a course for practicing all skills in English: Reading, Writing, Listening, Speaking, and Comprehension.</p> <p>【概要】 Lectures will teach vocabulary, phrases, and grammar that is used in everyday English conversation. Students will learn useful English for jobs, making plans, shopping, giving instructions, etc. Relaxed group discussions will give students the chance to use what they are learning, and to improve their confidence when communicating.</p> <p>【到達目標】 The aim of this course is to learn the basic skills of English used in everyday life, and to improve confidence in communicating and expressing oneself.</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Helgesen, Wiltshier, Brown 「English Firsthand 1」(Fifth Edition) Pearson, 2018 (ISBN: 9789813130227) (2)</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 Unit 7: Talking about Types of jobs, Job qualifications, Job skills 第2回 Unit 7: Using Enjoy, Like, Good at, Good with 第3回 Unit 8: Talking about Entertainment; Making Invitations and Suggestions 第4回 Unit 8: Using different verb patterns 第5回 Quiz (1) and Discussion 第6回 Unit 9: Talking about Future plans and Activities 第7回 Unit 9: Using Future tense; Making predictions 第8回 Unit 10: Clothing, Electronics, Personal items 第9回 Unit 10: Using Comparatives and Intensifiers 第10回 Quiz (2) and Discussion 第11回 Unit 11: Giving instructions 第12回 Unit 11: Using Sequence markers; Imperatives; Simple past 第13回 Unit 12: Expressing opinions; Discussing music 第14回 Unit 12: Using Simple past vs Present perfect 第15回 Final Exam</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	Class participation 授業での参加の度合 (25%), Tests 試験 (50%), Homework 宿題 (25%)		

授業科目	異文化コミュニケーション(英語)	担当者	英語担当教員全員
		[履修年次] 1,2,3年いずれでも履修可 [単位] 2単位	[学期] 通年 [必修/選択] 選択
テーマ及び概要	<p>【テーマ】生きた英語の運用能力を高める。</p> <p>【概要】ハワイ大学カピオラニ・コミュニティ・カレッジで研修を行う。授業は英語研修とハワイ文化研修から成り立ち、滞在期間中、基礎的な生活英語とハワイの文化習慣などについて直接体験する。</p> <p>2019年度の実績 日程：9月4日～9月17日 参加者：31名 研修費用：約38万円（授業料、往復航空運賃、宿泊費、平日の朝・昼食費等）</p> <p>【到達目標】英語運用能力を高めるだけでなく、ハワイの文化を学び、多文化が共生するハワイで「国際化」「グローバル化」の意味を自らの実体験を通して考え、理解する。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) ハワイ大学附属カピオラニ・コミュニティ・カレッジの担当教員が指示 (2)		
授業スケジュール	<p>事前指導： 特設時間を利用して受講希望者に3～4回行う。ハワイ大学カピオラニ・コミュニティ・カレッジでの研修内容の説明、パスポートの取得方法など、海外渡航に伴うさまざまな必要事項の説明、課題（研修中の日記、研修後のレポート作成）の指示など。</p> <p>海外研修： 9月を予定（約2週間）。現地の大学では、午前中に英語の授業、午後にはハワイ文化に関する授業（フラダンス）、KCC学生との異文化交流。その他、学外授業としてプランテーションヴィレッジ、イオラニ宮殿、真珠湾の見学。</p> <p>事後指導：帰国後に総括。</p>		
成績評価の方法	担当教員が課した課題（研修日誌・体験記）（50%）とハワイでの研修状況（50%）で評価する。		

授業科目	異文化コミュニケーション(中国語)	担当者	中国語担当教員全員
		[履修年次] 1, 2, 3年いずれでも可 [学期] 通年 [単位] 2	授業外対応 [必修/選択] 選択
テーマ及び概要	<p>【テーマ】生きた中国語の運用能力を高める。</p> <p>【概要】南京農業大学国際教育学院で研修を行います。南京農業大学国際教育学院は、わたしたち県立短大と交流協定を結んでいる中国の大学です。この科目は、中国語研修と中国文化研修から成り立ちます。中国滞在中、基礎的な実用中国語を習得し、さらに、南京農業大学の学生と交流し、中国の文化習慣などについて直接体験します。中国語を用いて活動するため、あらかじめ「中国語Ⅰ」を受講または修得していることが履修条件になります。</p> <p>※2019年度中国研修の実績 ・日程：9月7日（土）～21日（土）[15日間] ・参加者：11名（日本語日本文学専攻3名、英語英文学専攻4名、経済専攻1名、経営情報専攻2名、第二部商経学科1名） ・費用：約16万円（ビザ、往復航空券、授業料、宿泊費、南京市内・市外の見学費用など）</p> <p>【到達目標】「国際化」の意味を自らの実体験を通して考え理解する。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 南京農業大学国際教育学院の担当教員が指示します。 (2)		
授業スケジュール	<p><u>事前指導</u> 受講希望者に3～5回行います。 [1] 南京農業大学国際教育学院での研修内容の説明、 [2] 海外渡航に伴うさまざまな事柄の説明、 [3] 課題（レポート作成）の指示などです。</p> <p><u>海外研修</u> 休業期間に約2週間実施予定です。現地の大学で中国語の授業を受けます。そのほか、さまざまな活動を通じて中国の生活・文化に関する体験をします。さらに南京農業大学外国語学院日本語専攻の学生と交流します。</p> <p><u>事後指導</u> 帰国後に総括します。</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	担当教員が課した課題（50%）、および中国での学習成果（50%）を基に成績を算出します。		

授業科目	中国語 I (A)		担当者	陳 躍
	[履修年次]	1 年	授業外対応	授業終了後及びメールによる (アドレスは授業中に告知)
	[学期]	前期	[単位]	1
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 楽しい中国語会話</p> <p>【概要】 中国語会話の練習はスポーツだと考える。会話は頭より口を使い、説明を聞くより真似て練習する。言葉は形で文化がその中身である。文化を言葉と平行して学んでいくのが最速な方法だと考える。90 分のうち、70 分程度練習し、残りの時間は文化や事情を語る。中国の映画を数回鑑賞する。授業毎に感想を書いてもらい、参考にする。希望に応えるように、授業のあり方を随時修正する。</p> <p>【到達目標】 中国語検定準四級。漢語水平考試HSK筆記1級程度。前期はその前半部分の学習に当てる</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) テキスト①『楽しい中国』于国軍著 斯文堂</p> <p>(2) ①関西大学中国語教材研究会編「中国語検定徹底対策準四級」アルク ②『恋文の翻訳一日中往来』陳躍著 南日本新聞社</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 我是上海人 第 2 回 我叫王平 第 3 回 这里是南京路 第 4 回 现在几点了? 第 5 回 今天是星期几? 第 6 回 你家有几口人? 第 7 回 没关系 (映画) 第 8 回 香港的夏天热吗? (映画) 第 9 回 四川菜很好吃 (中間テスト) 第 10 回 我经常散步 第 11 回 牌价是多少? 第 12 回 汉语难不难? 第 13 回 我没吃蒜 第 14 回 我想去超市 第 15 回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	評価割合を定期試験 50%にする。残り 50%の評価は小テストとレポートにする			

授業科目	中国語 I (B)		担当者	楊 虹
	[履修年次]	1 年	授業外対応	適宜対応 (要予約)
	[学期]	前期	[単位]	1
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 中国語に親しむ</p> <p>【概要】 この授業では、中国語の発音を身につけ、ロールプレイ、ゲームなど様々な教室活動を通して、中国語の基本構文を楽しく学ぶ。さらに中国の音楽や映画などの映像、留学生との交流活動を通して中国の社会や文化にも触れる。</p> <p>【到達目標】 中国語の発音記号 (ピンイン) の読み方と綴り方がわかり、簡単な日常あいさつ、自己紹介ができる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 陳淑梅・胡興智『楽々学習初級中国語 12 課』同学社</p> <p>(2) 授業中に紹介する。</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 オリエンテーション：授業の概要説明、中国語で自分の名前を言う練習 第 2 回 発音 (1)：単母音と声調の導入、練習 第 3 回 発音 (2)：複母音の導入、練習 第 4 回 発音 (3)：子音の導入、練習 第 5 回 発音 (4)：子音の練習、発音のまとめ 第 6 回 動詞是の使い方 第 7 回 姓の言い方、尋ね方。フルネームの言い方、尋ね方 第 8 回 これまでの復習 第 9 回 動詞文の導入と練習 第 10 回 動詞文の練習、疑問文の練習 第 11 回 二つ以上の動詞からなる連動文 第 12 回 希望や願望を表す助動詞「想」の導入、練習 第 13 回 留学生との交流：中国人留学生と中国語で話してみる 第 14 回 全体の復習 第 15 回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜小テストを実施するので、毎回復習が必要である。			
成績評価の方法	小テスト(50%) 期末試験(50%)で評価する			

授業科目	中国語Ⅱ (A)		担当者	陳 躍
	[履修年次]	1 年	授業外対応	授業終了後及びメールによる (アドレスは授業中に告知)
	[学期]	後期	[単位]	1
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】楽しい中国語会話</p> <p>【概要】中国語会話の練習はスポーツだと考える。会話は頭より口を使い、説明を聞くより真似て練習する。言葉は形で文化がその中身である。文化を言葉と平行して学んでいくのが最速な方法だと考える。90 分のうち、70 分程度練習し、残りの時間は文化や事情を語る。中国の映画を数回鑑賞する。授業毎に感想を書いてもらい、参考にする。希望に応えるように、授業のあり方を随時修正する。</p> <p>【到達目標】中国語検定準四級。漢語水平考試HSK筆記1級程度。後期はその後半部分の学習に当てる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) テキスト①『楽しい中国』于国軍著 斯文堂</p> <p>(2) ①関西大学中国語教材研究会編「中国語検定徹底対策準四級」アルク ②『恋文の翻訳一日中往来』陳躍著 南日本新聞社</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 来我家玩吧</p> <p>第 2 回 我打算去旅行</p> <p>第 3 回 没看过, 听过</p> <p>第 4 回 我能参加</p> <p>第 5 回 我记一下</p> <p>第 6 回 我们边走边谈</p> <p>第 7 回 好像借给小李了 (中間テスト)</p> <p>第 8 回 我不会打日文 (映画)</p> <p>第 9 回 你知道号码吗? (映画)</p> <p>第 10 回 什么都可以</p> <p>第 11 回 被谁偷走了呢?</p> <p>第 12 回 让你久等了</p> <p>第 13 回 有没有单间?</p> <p>第 14 回 我说得不好</p> <p>第 15 回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	評価割合を定期試験 50%にする。残り 50%の評価は小テストとレポートにする			

授業科目	中国語Ⅱ (B)		担当者	楊 虹
	[履修年次]	1 年	授業外対応	適宜対応 (要予約)
	[学期]	後期	[単位]	1
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>中国語によるコミュニケーションに慣れる</p> <p>【概要】</p> <p>この授業では、中国語Ⅰを履修した受講生を対象としている。前期の内容を復習しつつ、引き続き中国語の基本構文を導入し、中国語を聞いて、話す力を伸ばす。さらに、中国の音楽や映画などの映像を通して、中国の社会、文化にも触れる。</p> <p>【到達目標】</p> <p>学習を進める上での基礎的知識を有し、中国語による家族構成の紹介や、簡単な買い物ができる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 陳淑梅・胡興智『楽々学習初級中国語 12 課』同学社</p> <p>(2) 授業中に紹介する。</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 オリエンテーション: 授業の概要説明, 前期の復習</p> <p>第 2 回 動詞「有」の導入, 練習</p> <p>第 3 回 動詞「在」の導入, 練習</p> <p>第 4 回 「有」と「在」の応用練習</p> <p>第 5 回 年月日、曜日の言い方の練習</p> <p>第 6 回 助動詞「得」と「要」言い方の導入, 練習</p> <p>第 7 回 助動詞を使った文の応用練習</p> <p>第 8 回 復習 (1) これまでの内容の復習</p> <p>第 9 回 形容詞述語文の導入, 練習</p> <p>第 10 回 時刻の言い方の導入, 練習</p> <p>第 11 回 形容詞述語文の応用練習</p> <p>第 12 回 お金の言い方の導入, 練習</p> <p>第 13 回 量詞の導入, 練習</p> <p>第 14 回 復習 (4): 全体の復習</p> <p>第 15 回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜小テストを実施するので、毎回復習が必要である。			
成績評価の方法	小テスト (50%) 口頭試験(50%)で評価する			

15 第二部商経学科教養科目
(スポーツ・健康科目)

授業科目	生涯スポーツ実習Ⅰ・Ⅱ		担当者	西迫 貴美代 長岡 良治
	[履修年次]	1年次	授業外対応	随時 nisizako@k-kentan.ac.jp
	[学期]	前期・後期	[単位]	各1
			[必修/選択]	必修
			[授業形態]	実習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】生涯にわたって運動に親しむ力を身につけることを目的とし、スポーツを通じて、その特徴的な身体技法の学習の中で、自分に合った種目や得意な運動を発見する。前期は大学生活が始まり、新しい環境に適応する手立てとして所属専攻の仲間と共にスポーツを楽しむことをめざす(生涯スポーツ実習Ⅰ)。また年間を通じて、チームの仲間と共に安全かつ楽しくゲームを運営する方法について理解する</p> <p>【概要】取り扱う教材(種目)①野外スポーツ:硬式テニス、サッカー、ソフトボール、フットサル ②屋内スポーツ:バドミントン、バレーボール、ソフトバレーボール、バスケットボール、フットサルなど その他に、ニュースポーツやストレッチの方法、基本的な身体技法(からだほぐし)を取り入れる。</p> <p>【到達目標】①各種目の基礎的な技術を理解するとともに技能を習得する ②各種目のゲームの特徴を理解し、合理的な作戦を立てることができるようになる ③チームメイトと安全かつ楽しくゲームを運営することができるようになる(ルールの理解 審判の方法 簡易ルールの設定)</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 適時、資料を配付する(ゲーム分析の方法について、日常生活の健康管理について) (2)			
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション:主に男女別に履修する(出席状況、天候によって男女合同の場合もある)</p> <p>第2回 1. バドミントン</p> <p>第3回 ハイクリアー、スマッシュ、ドロップ、ヘヤーピン、ドライブの各技術について理解しできるようになる。ゲームの方法を理解する(シングルス、ダブルスゲームの方法)</p> <p>第4回</p> <p>第5回 2. 硬式テニス(ミニテニス)</p> <p>第6回 フォアストローク、バックストローク、サーブなどの技術について理解し、技能習得を目指す。ゲームの方法を理解する(主にダブルスのゲーム 前衛と後衛のポジションの理解)</p> <p>第7回</p> <p>第8回 3. バレーボール、ミニバレーボール</p> <p>第9回 アタック、パス、レシーブ、ブロックの各技術について理解し、できるようになる。ゲームにおいて三段攻撃につなげるための作戦を立てることができるようになる</p> <p>第10回</p> <p>第11回 4. バスケットボール</p> <p>第12回 シュート、ドリブル、パスの技術について理解し、できるようになる。ゲームの方法を理解する(意味あるパスについて考える)</p> <p>第13回</p> <p>第14回 5. サッカー、ミニサッカー、フットサル(主に男子)</p> <p>第15回 シュート、パス、ヘディングなどの技術について理解し、できるようになる。ゲームの方法を理解する(意味あるパスについて考える)</p> <p>6. 卓球</p> <p>自分に適したラケットの選択、フォアストローク、バックストローク、サーブなどの技術について理解し、技能習得を目指す。ゲームの方法を理解する(主にダブルスのゲーム 前衛と後衛のポジションの理解)</p>			
授業外学習(予習・復習)	体調管理に留意すること			
成績評価の方法	授業参加状況(60%) + スキル及び技術認識(40%)を基準に総合的に評価する			

(注) 卒業必修

16 第二部商経学科教養科目
(情報科目)

授業科目	情報リテラシー I (A)		担当者	永仮 ゆかり
	[履修年次]	1年	授業外対応	講義終了時および必要に応じてメール
	[学期]	前期	[単位]	1単位
			[必修/選択]	必修
			[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>ワープロソフト「Microsoft Word」を活用した基本的な文書作成能力の習得</p> <p>【概要】</p> <p>ワープロソフト「Microsoft Word」を活用し、文字の入力から文書の作成、編集、保存、印刷などの基本操作をはじめ、表・図形・画像を盛り込んだ文書の作成技法までを習得することを目的とする。また、あわせて基本的なビジネス文書に関する知識やライティング技術についても解説する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>タッチタイピングの習得、「Microsoft Word」の基本操作の習得、基本的なビジネス文書の作成能力の習得</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 富士通エフ・オー・エム (株)『よくわかる Microsoft Word 2019 基礎』FOM 出版、プリント</p> <p>(2) 授業にて紹介する</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 パソコンの基本操作 : 概要説明、起動と終了、ウインドウ操作、ファイル操作、Word の画面構成</p> <p>第 2 回 文字の入力 : キータッチ練習、文字の入力・訂正・削除・変換</p> <p>第 3 回 文章の入力 : キータッチ練習、文章の入力 (分節単位の変換、一括変換)、IME パッドの利用</p> <p>第 4 回 文書の作成 1 : ページレイアウト設定、あいさつ文の挿入、範囲選択、コピーと移動、保存</p> <p>第 5 回 文書の作成 2 : 文字の配置、書式設定 (フォント、サイズ変更など)、印刷</p> <p>第 6 回 課題文書作成 1 : お知らせ文書の作成、ビジネス文書の構成について</p> <p>第 7 回 表の作成 : 表の作成、表の選択、行の挿入・削除、列幅変更、文書の書き方について</p> <p>第 8 回 表の編集 : セルの結合・分割、セル内の配置、塗りつぶし、罫線の変更、表のスタイル</p> <p>第 9 回 課題文書作成 2 : 表を含むビジネス文書の作成</p> <p>第 10 回 文書の編集 : 均等割り付け、行間、段組み、改ページ</p> <p>第 11 回 グラフィック機能の利用 : ワードアートの挿入、画像の挿入、図形の作成、ページ罫線の設定、図解について</p> <p>第 12 回 課題文書作成 3 : 案内状の作成、文書管理について</p> <p>第 13 回 便利な機能 : 検索・置換、PDF ファイルとして保存</p> <p>第 14 回 レポートの作成 : レポート作成に役立つ機能を利用した文書作成</p> <p>第 15 回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	文字入力・Word 操作の復習、知識問題の予習など適宜指示			
成績評価の方法	期末試験 (知識科目 20%+実技科目 50%) +授業中に実施する課題 (30%)			
実務経験について	OA インストラクター、職業訓練校パソコン実習科目の講師、市民講座パソコン講座の講師			

授業科目	情報リテラシー I (B)		担当者	永仮 ゆかり
	[履修年次]	1年	授業外対応	講義終了時および必要に応じてメール
	[学期]	前期	[単位]	1単位
			[必修/選択]	必修
			[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>ワープロソフト「Microsoft Word」を活用した基本的な文書作成能力の習得</p> <p>【概要】</p> <p>ワープロソフト「Microsoft Word」を活用し、文字の入力から文書の作成、編集、保存、印刷などの基本操作をはじめ、表・図形・画像を盛り込んだ文書の作成技法までを習得することを目的とする。また、あわせて基本的なビジネス文書に関する知識やライティング技術についても解説する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>タッチタイピングの習得、「Microsoft Word」の基本操作の習得、基本的なビジネス文書の作成能力の習得</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 富士通エフ・オー・エム (株)『よくわかる Microsoft Word 2019 基礎』FOM 出版、プリント</p> <p>(2) 授業にて紹介する</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 パソコンの基本操作 : 概要説明、起動と終了、ウインドウ操作、ファイル操作、Word の画面構成</p> <p>第 2 回 文字の入力 : キータッチ練習、文字の入力・訂正・削除・変換</p> <p>第 3 回 文章の入力 : キータッチ練習、文章の入力 (分節単位の変換、一括変換)、IME パッドの利用</p> <p>第 4 回 文書の作成 1 : ページレイアウト設定、あいさつ文の挿入、範囲選択、コピーと移動、保存</p> <p>第 5 回 文書の作成 2 : 文字の配置、書式設定 (フォント、サイズ変更など)、印刷</p> <p>第 6 回 課題文書作成 1 : お知らせ文書の作成、ビジネス文書の構成について</p> <p>第 7 回 表の作成 : 表の作成、表の選択、行の挿入・削除、列幅変更、文書の書き方について</p> <p>第 8 回 表の編集 : セルの結合・分割、セル内の配置、塗りつぶし、罫線の変更、表のスタイル</p> <p>第 9 回 課題文書作成 2 : 表を含むビジネス文書の作成</p> <p>第 10 回 文書の編集 : 均等割り付け、行間、段組み、改ページ</p> <p>第 11 回 グラフィック機能の利用 : ワードアートの挿入、画像の挿入、図形の作成、ページ罫線の設定、図解について</p> <p>第 12 回 課題文書作成 3 : 案内状の作成、文書管理について</p> <p>第 13 回 便利な機能 : 検索・置換、PDF ファイルとして保存</p> <p>第 14 回 レポートの作成 : レポート作成に役立つ機能を利用した文書作成</p> <p>第 15 回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	文字入力・Word 操作の復習、知識問題の予習など適宜指示			
成績評価の方法	期末試験 (知識科目 20%+実技科目 50%) +授業中に実施する課題 (30%)			
実務経験について	OA インストラクター、職業訓練校パソコン実習科目の講師、市民講座パソコン講座の講師			

授業科目	情報リテラシーⅡ (A)		担当者	上野 祐子	
	[履修年次]	1年	授業外対応	講義終了時, 適宜対応 (要予約)	
	[学期]	前期	[単位]	1単位	
		[必修/選択]	必修	[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 学校生活に必要な情報活用技術の修得</p> <p>【概要】 学校生活で必要不可欠なタイピングスキル, メールを送受信, ファイル操作, Web 検索, PowerPoint 作成技術を習得する。講義内 15 分間はタイピング練習を実施する。メールの送受信やファイル操作が円滑に出来るよう, 課題の提出はメールで行う。Web による情報検索では, 著作権や情報セキュリティに関する知識も習得する。課題 (2 回目 Web による情報検索 (画像検索) 3 回目 PowerPoint) は自分でテーマを考えて作成し, 授業内で公開する。</p> <p>【到達目標】 課題やレポートを作成し, メールで提出出来るようになる。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 適宜プリントを配布する。</p> <p>(2) 授業にて紹介する。</p>				
授業スケジュール	<p>第 1 回 オリエンテーション, 電子メール (Web メール, スマホと連携) 確認テスト 1</p> <p>第 2 回 電子メール (Web メール), USB メモリ, タイピング練習ソフト, ファイル操作の練習 確認テスト 2</p> <p>第 3 回 ファイルの整理 (ファイルの概念, フォルダの概念) 及びファイルの検索 確認テスト 3</p> <p>第 4 回 ファイルの操作の練習 (圧縮と解凍), 電子メール (Thunderbird) 確認テスト 4</p> <p>第 5 回 ファイルの操作の練習, 電子メール (Thunderbird) 確認テスト 5</p> <p>第 6 回 USB カメラの操作, 動画編集体験 確認テスト 6</p> <p>第 7 回 Web による情報検索 確認テスト 7</p> <p>第 8 回 Web による情報検索 (2) 確認テスト 8</p> <p>第 9 回 Web による情報検索 第 1 回課題</p> <p>第 10 回 Web による情報検索 (画像検索), 画像の編集 確認テスト 9</p> <p>第 11 回 Web による情報検索 (画像検索) 第 2 回課題</p> <p>第 12 回 PowerPoint (概要, 起動と終了, 画面構成, 作成) 確認テスト 10</p> <p>第 13 回 PowerPoint (作成, スライドショーの実行, 原稿作り) 第 3 回課題</p> <p>第 14 回 PowerPoint (原稿作り, 発表, 鑑賞)</p> <p>第 15 回 PowerPoint (発表, 鑑賞)</p>				
授業外学習(予習・復習)	タイピング練習を適宜実施すること。授業内容の復習をすること。課題 (単元の復習問題) を実施すること。				
成績評価の方法	10 回の確認テスト (30%) と 3 回の課題 (40%), 期末レポート (30%) の総合評価				
実務経験について	大企業ではシステムエンジニア, 中小企業では会計事務員として勤務した経験有り。日商マスター。市民講座講師。				

授業科目	情報リテラシーⅡ (B)		担当者	上野 祐子	
	[履修年次]	1年	授業外対応	講義終了時, 適宜対応 (要予約)	
	[学期]	前期	[単位]	1単位	
		[必修/選択]	必修	[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 学校生活に必要な情報活用技術の修得</p> <p>【概要】 学校生活で必要不可欠なタイピングスキル, メールを送受信, ファイル操作, Web 検索, PowerPoint 作成技術を習得する。講義内 15 分間はタイピング練習を実施する。メールの送受信やファイル操作が円滑に出来るよう, 課題の提出はメールで行う。Web による情報検索では, 著作権や情報セキュリティに関する知識も習得する。課題 (2 回目 Web による情報検索 (画像検索) 3 回目 PowerPoint) は自分でテーマを考えて作成し, 授業内で公開する。</p> <p>【到達目標】 課題やレポートを作成し, メールで提出出来るようになる。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 適宜プリントを配布する。</p> <p>(2) 授業にて紹介する。</p>				
授業スケジュール	<p>第 1 回 オリエンテーション, 電子メール (Web メール, スマホと連携) 確認テスト 1</p> <p>第 2 回 電子メール (Web メール), USB メモリ, タイピング練習ソフト, ファイル操作の練習 確認テスト 2</p> <p>第 3 回 ファイルの整理 (ファイルの概念, フォルダの概念) 及びファイルの検索 確認テスト 3</p> <p>第 4 回 ファイルの操作の練習 (圧縮と解凍), 電子メール (Thunderbird) 確認テスト 4</p> <p>第 5 回 ファイルの操作の練習, 電子メール (Thunderbird) 確認テスト 5</p> <p>第 6 回 USB カメラの操作, 動画編集体験 確認テスト 6</p> <p>第 7 回 Web による情報検索 確認テスト 7</p> <p>第 8 回 Web による情報検索 (2) 確認テスト 8</p> <p>第 9 回 Web による情報検索 第 1 回課題</p> <p>第 10 回 Web による情報検索 (画像検索), 画像の編集 確認テスト 9</p> <p>第 11 回 Web による情報検索 (画像検索) 第 2 回課題</p> <p>第 12 回 PowerPoint (概要, 起動と終了, 画面構成, 作成) 確認テスト 10</p> <p>第 13 回 PowerPoint (作成, スライドショーの実行, 原稿作り) 第 3 回課題</p> <p>第 14 回 PowerPoint (原稿作り, 発表, 鑑賞)</p> <p>第 15 回 PowerPoint (発表, 鑑賞)</p>				
授業外学習(予習・復習)	タイピング練習を適宜実施すること。授業内容の復習をすること。課題 (単元の復習問題) を実施すること。				
成績評価の方法	10 回の確認テスト (30%) と 3 回の課題 (40%), 期末レポート (30%) の総合評価				
実務経験について	大企業ではシステムエンジニア, 中小企業では会計事務員として勤務した経験有り。日商マスター。市民講座講師。				

17 第二部商経学科専門科目

授業科目	現代社会論	担当者	山口 祐司
	[履修年次] 1、2、3年 [学期] 後期 [単位] 2	授業外対応	メール等で予約の上適宜対応します。
		[必修/選択]	選択 [授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 私たちの社会における「分断」の問題を、「グローバリゼーション」と「新自由主義」という視座から考えていきます。</p> <p>【概要】 この授業は、現代社会を主として1970年代以降の資本主義の調整・発展という切り口からとらえていきます。「グローバリゼーション」(第2～4回)、「新自由主義」(第5～7回)でというキーワードでまず理解の枠組みを整理し、現代社会が直面する大きな問題(第8～12回)についてそれぞれ検討します。最後に問題の打開の兆し(第13～14回)をみていきます。</p> <p>【到達目標】 現代社会が直面するさまざまな問題について理解を深めること。問題の背景について考え、これからの社会を作る一員として解決策を見出す力をつけること。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント (2) 講義時に提示</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス、現代社会をとらえる視座：グローバリゼーションと新自由主義 第2回 グローバリゼーション(1) グローバリゼーションとは何か 第3回 グローバリゼーション(2) グローバリゼーションと企業 第4回 グローバリゼーション(3) グローバリゼーションと国・地域 第5回 新自由主義(1) 経済学における自由 第6回 新自由主義(2) 新自由主義とは何か 第7回 新自由主義(3) 新自由主義政策と格差問題 第8回 現代社会の諸問題(1) 民族・宗教をめぐる国際紛争 第9回 現代社会の諸問題(2) 人の移動と排外主義 第10回 現代社会の諸問題(3) 疲弊する地域経済 第11回 現代社会の諸問題(4) 行き詰まる社会保障システム 第12回 現代社会の諸問題(5) 悪化する地球環境問題 第13回 行き詰まりを打開するために(1) 所得再分配の模索 第14回 行き詰まりを打開するために(2) 世界的に活発化する社会運動 第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	事前に提示する参考文献を予習し、授業後にはプリントをよく見直すようにしてください。		
成績評価の方法	期末レポート(60%)、授業ごとの小論文(40%)		

授業科目	経済学	担当者	山口 祐司
	[履修年次] 1、2、3年 [学期] 前期 [単位] 2	授業外対応	メール等で予約の上適宜対応します。
		[必修/選択]	選択 [授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 ミクロ経済学・マクロ経済学を中心に経済学の基礎的な考え方を学んでいきます。</p> <p>【概要】 経済とは、経済学の考え方(第1～2回)。ミクロ経済学の基礎理論(第3～7回)。マクロ経済学の基礎理論(第8～14回)。</p> <p>【到達目標】 経済学の基礎的な概念と理論を理解すること。新聞などに登場する時事的な経済問題について、自分なりの観点をもつこと。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント (2) マンキュー、N・グレゴリー(2014)『マンキュー入門経済学[第2版]』東洋経済新報社</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 授業ガイダンス、経済とは何か 第2回 経済学の考え方 第3回 ミクロ経済学の基礎(1) 需要と供給 第4回 ミクロ経済学の基礎(2) 価格決定と政府の政策 第5回 ミクロ経済学の基礎(3) 市場の効率性 第6回 ミクロ経済学の基礎(4) 不完全市場 第7回 ミクロ経済学の基礎(5) ミクロ経済学のまとめ 第8回 マクロ経済学の基礎(1) GDPの測定 第9回 マクロ経済学の基礎(2) インフレーションとデフレーション 第10回 マクロ経済学の基礎(3) 経済成長 第11回 マクロ経済学の基礎(4) 貯蓄、投資と金融システム 第12回 マクロ経済学の基礎(5) マクロ経済政策の役割 第13回 マクロ経済学の基礎(6) 外国貿易 第14回 マクロ経済学の基礎(7) マクロ経済学のまとめ 第15回 全体のまとめ、テスト対策</p>		
授業外学習(予習・復習)	毎回の授業範囲の予習(テキスト)・復習のほか、新聞の経済欄を日常から読むようにしてください。		
成績評価の方法	筆記試験(60%)、授業ごとの小論文(40%)		

授業科目	社会学	担当者	竹内 宏
	[履修年次] 1年、2年、3年いずれでも履修可	授業外対応	メールによる。場合により非常勤講師室にて対応（アポイントメント要）
	[学期] 前期 [単位] 2	[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>社会学とは比較の学問であるとはよく言われることです。この授業では、「社会学」の前に「国際」という語を冠して、グローバル化の影響下にあるドイツと日本の社会について比較考察します。</p> <p>【概要】</p> <p>グローバル化の諸影響の中でも、この授業では国際的人口移動に与える影響を、ドイツと日本の場合について考えてみましょう。ドイツが移民国家となった原因、移民統合政策の現況と課題、日本は移民国家に向かうのか、また、向うべきなのか、さらには、社会と市民の意識の変容と言ったテーマを中心に授業を進めます。</p> <p>【到達目標】</p> <p>「グローバル化」という概念の理解、国際社会に生きる私たちに必要な知識の獲得と意識の涵養。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) テキスト、文献とも、適宜配布、指示します。</p> <p>(2) 内藤正典『外国人労働者・移民・難民ってだれのこと?』集英社、を必ず購入してください。</p>		
授業スケジュール	<p>第 1回 オリエンテーション、グローバル化とは何か</p> <p>第 2回 国際人口移動の原因</p> <p>第 3回 難民・移民の具体例</p> <p>第 4回 ドイツにおける移民激増の背景と歴史（1）</p> <p>第 5回 ドイツにおける移民激増の背景と歴史（2）</p> <p>第 6回 「統合」とは何か、「同化」、「編入」</p> <p>第 7回 ドイツにおける難民認定とその問題点</p> <p>第 8回 統合状況と将来の課題</p> <p>第 9回 日本在住のエスニック・マイノリティ（1）</p> <p>第 10回 日本在住のエスニック・マイノリティ（2）</p> <p>第 11回 日本の外国人政策の問題点（1）</p> <p>第 12回 日本の外国人政策の問題点（2）</p> <p>第 13回 日本の難民認定</p> <p>第 14回 日本が直面するこれからの課題</p> <p>第 15回 まとめ、レポートの課題説明</p>		
授業外学習(予習・復習)	授業に集中すれば特に必要ないが、関連する新聞・雑誌の記事、テレビ等の報道に注意すること		
成績評価の方法	中間小レポート及び期末レポート		
実務経験について	ドイツ連邦移民・難民局等における当該テーマでの講演		

授業科目	文化と社会	担当者	田口 康明
	[履修年次] 1年・2年・3年いずれでも履修可	授業外対応	taguchi@k-kentan.ac.jpへメール
	[学期] 後期 [単位] 2	[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】文化と社会の関連について、教育的な側面から検討する。手がかりとして、ひとり子どもがどのように社会的文化的にその社会の成員になっていくのかについて検討する。</p> <p>【概要】本科目は、専門基礎科目に位置づけられているが、一定の文化を保持する社会と人間の関わりを子どもの成長という側面からとらえるものである。今日、「幼児」の世界は、「大人」の側からの強大な圧力にさらされ、「幼児」を「幼児」たらしめている「幼児期」が軽視されている。こうした今日の「幼児」と「幼児期」をどのようにとらえるのかについて、テキストをとおして検討する。</p> <p>【到達目標】テキストを熟読することによって、幼児期の特徴について深く理解する。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 岡本夏木『幼児期』岩波新書、2005年</p> <p>(2) 授業内で随時紹介する。</p>		
授業スケジュール	<p>第 1回 ガイダンス この授業のすすめ方</p> <p>第 2回 「しつけ」1 しつけとは/自己実現</p> <p>第 3回 「しつけ」2 「問題解決」としつけ/大人の非合理性</p> <p>第 4回 「あそび」1 発達と身体/象徴あそび</p> <p>第 5回 「あそび」2 ルール/思考と文化</p> <p>第 6回 「表現」1 生活と表現</p> <p>第 7回 「表現」2 独自性と共同性</p> <p>第 8回 「ことば」1 ことばの世界と身体</p> <p>第 9回 「ことば」2 ことばのない世界</p> <p>第 10回 「ことば」3 身体と心的世界の結合</p> <p>第 11回 「ことば」4 ことばの世界の前</p> <p>第 12回 「ことば」5 ことばの成り立ちと私の世界</p> <p>第 13回 「ことば」6 関係性とことば</p> <p>第 14回 「幼児期」1 存在と時間</p> <p>第 15回 「幼児期」2 自分にとっての幼児期 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	授業内にて指示（テキストの指示した範囲を必ず読むこと）		
成績評価の方法	授業中の発表（各自分担する）70%、ファイナルレポート30%		

授業科目	行政法	担当者	山本 敬生																																															
	[履修年次] 1,2,3年履修可 [学期] 前期 [単位] 2単位	授業外対応	適宜対応 (要予約)																																															
		[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義																																													
テーマ及び概要	<p>【テーマ】行政行為論を中心とした行政法の基礎理論を理解した上で、行政不服審査法、行政事件訴訟法、国家賠償法の基本構造を体系的に把握し、行政の法的コントロールのあり方について学習することをテーマにする。</p> <p>【概要】周知のとおり、行政法は通則的法典が存在しておらず、そのため無数の行政法規を把握するための理論が他の法律学に比べて強く求められる学問である。本講義では、行政法の基本原則である法律による行政の原理（法律の法規創造力、法律の優位の原則、法律の留保の原則）、行政行為、行政立法、行政計画、行政指導、行政契約等の行政の行為形式論、行政上の義務履行確保制度、行政手続等の行政上の一般制度をわかりやすく解説し行政法の基礎理論を体系的に理解した上で、行政不服審査法、行政事件訴訟法、国家賠償法といった一般法について、国民の権利救済という視点から学習する。</p> <p>【到達目標】行政法の基本原則、行政の行為形式論、行政上の一般制度、行政救済法について説明できるようになり、行政法的視点に立った行政と市民との関係のあり方を考察できる力を習得することを目標にする。</p>																																																	
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 佐伯仁志他編、『ポケット六法（令和4年度版）』、有斐閣</p>																																																	
授業スケジュール	<table border="0"> <tr> <td>第1回</td> <td>行政法概論</td> <td>行政の定義、法律の法規創造力、法律の優位の原則、法律の留保の原則について</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>行政立法</td> <td>法規命令、委任命令、執行命令、白紙委任の禁止の原則、行政規則について</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>行政行為(1)</td> <td>公定力、不可争力、不可変更力、執行力、拘束力について</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>行政行為(2)</td> <td>無効の行政行為、取消しうべき行政行為、羈束行為、裁量行為について</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>行政指導</td> <td>規制的行政指導、助成的行政指導、調整的行政指導、要綱行政について</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>行政上の強制執行制度</td> <td>代執行、執行罰、直接強制、行政上の強制徴収、行政サービスの提供拒否について</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>行政手続法</td> <td>申請に対する処分、不利益処分、行政指導、命令等を定める行為の手続について</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>行政不服申立て</td> <td>審査請求、異議申し立て、再審査請求、教示について</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>行政事件訴訟法(1)</td> <td>抗告訴訟、民衆訴訟、義務付け訴訟、差止め訴訟、取消訴訟、事情判決について</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>行政事件訴訟法(2)</td> <td>取消判決の効力、執行不停止の原則、内閣総理大臣の異議、処分性について</td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>行政事件訴訟法(3)</td> <td>原告適格、保護に値する利益説、狭義の訴えの利益について</td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>国家賠償法(1)</td> <td>代位責任説、自己責任説、公権力の行使の範囲、故意・過失、求償権について</td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>国家賠償法(2)</td> <td>公の管造物、人工公物、自然公物、高知落石事件、大東水害事件について</td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>損失補償</td> <td>奈良県ため池条例事件、完全補償説、相当補償説、国家補償の谷間について</td> </tr> <tr> <td>第15回</td> <td>公物</td> <td>公共物、公用物、自然公物、人工公物、公物の時効取得について</td> </tr> </table>					第1回	行政法概論	行政の定義、法律の法規創造力、法律の優位の原則、法律の留保の原則について	第2回	行政立法	法規命令、委任命令、執行命令、白紙委任の禁止の原則、行政規則について	第3回	行政行為(1)	公定力、不可争力、不可変更力、執行力、拘束力について	第4回	行政行為(2)	無効の行政行為、取消しうべき行政行為、羈束行為、裁量行為について	第5回	行政指導	規制的行政指導、助成的行政指導、調整的行政指導、要綱行政について	第6回	行政上の強制執行制度	代執行、執行罰、直接強制、行政上の強制徴収、行政サービスの提供拒否について	第7回	行政手続法	申請に対する処分、不利益処分、行政指導、命令等を定める行為の手続について	第8回	行政不服申立て	審査請求、異議申し立て、再審査請求、教示について	第9回	行政事件訴訟法(1)	抗告訴訟、民衆訴訟、義務付け訴訟、差止め訴訟、取消訴訟、事情判決について	第10回	行政事件訴訟法(2)	取消判決の効力、執行不停止の原則、内閣総理大臣の異議、処分性について	第11回	行政事件訴訟法(3)	原告適格、保護に値する利益説、狭義の訴えの利益について	第12回	国家賠償法(1)	代位責任説、自己責任説、公権力の行使の範囲、故意・過失、求償権について	第13回	国家賠償法(2)	公の管造物、人工公物、自然公物、高知落石事件、大東水害事件について	第14回	損失補償	奈良県ため池条例事件、完全補償説、相当補償説、国家補償の谷間について	第15回	公物	公共物、公用物、自然公物、人工公物、公物の時効取得について
第1回	行政法概論	行政の定義、法律の法規創造力、法律の優位の原則、法律の留保の原則について																																																
第2回	行政立法	法規命令、委任命令、執行命令、白紙委任の禁止の原則、行政規則について																																																
第3回	行政行為(1)	公定力、不可争力、不可変更力、執行力、拘束力について																																																
第4回	行政行為(2)	無効の行政行為、取消しうべき行政行為、羈束行為、裁量行為について																																																
第5回	行政指導	規制的行政指導、助成的行政指導、調整的行政指導、要綱行政について																																																
第6回	行政上の強制執行制度	代執行、執行罰、直接強制、行政上の強制徴収、行政サービスの提供拒否について																																																
第7回	行政手続法	申請に対する処分、不利益処分、行政指導、命令等を定める行為の手続について																																																
第8回	行政不服申立て	審査請求、異議申し立て、再審査請求、教示について																																																
第9回	行政事件訴訟法(1)	抗告訴訟、民衆訴訟、義務付け訴訟、差止め訴訟、取消訴訟、事情判決について																																																
第10回	行政事件訴訟法(2)	取消判決の効力、執行不停止の原則、内閣総理大臣の異議、処分性について																																																
第11回	行政事件訴訟法(3)	原告適格、保護に値する利益説、狭義の訴えの利益について																																																
第12回	国家賠償法(1)	代位責任説、自己責任説、公権力の行使の範囲、故意・過失、求償権について																																																
第13回	国家賠償法(2)	公の管造物、人工公物、自然公物、高知落石事件、大東水害事件について																																																
第14回	損失補償	奈良県ため池条例事件、完全補償説、相当補償説、国家補償の谷間について																																																
第15回	公物	公共物、公用物、自然公物、人工公物、公物の時効取得について																																																
授業外学習(予習・復習)	復習を重視する。																																																	
成績評価の方法	筆記試験 (90%) + 授業での発言内容 (10%) を基準にして評価する。																																																	

授業科目	金融論	担当者	岩上 敏秀																																															
	[履修年次] 1~3年いずれも履修可 [学期] 前期 [単位] 2	授業外対応	いつでも対応します。メールで連絡してください。																																															
		[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義																																													
テーマ及び概要	<p>【テーマ】金融の仕組みや、経済社会の中で果たしている役割について理解を深めます。</p> <p>【概要】モノやサービスが取引される裏では必ずお金が動きます。経済活動には、お金がスムーズに動く仕組みが不可欠です。金融とは世の中でお金がスムーズに動く仕組みのこと。本講義では、経済社会における金融の役割を学んだうえで、銀行や証券会社の役割や業務内容、株式等の証券取引や最新のフィンテック動向まで幅広いテーマを採り上げます。金融と経済のかかわりを幅広く学び、社会人として必要な金融知識を身につけます。スマホを活用したリアルタイム投稿システムを使って、受講者の意見を聞きながら双方の講義を行います。</p> <p>【到達目標】金融の基本的な仕組みや用語を理解し、仕事や生活で関わる金融に関する出来事について説明できるようになる。</p>																																																	
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 授業内で適宜紹介する</p>																																																	
授業スケジュール	<table border="0"> <tr> <td>第1回</td> <td>ガイダンス： 講義の目的・進め方</td> <td>序論：金融の仕組みと役割を知ろう。なぜ金融を学ぶのか考えよう</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>資金循環： 日本の中でのお金の大きな動きについて知ろう</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>家計の貯蓄と金融資産選択： 家計の消費・貯蓄・投資行動について考えよう</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>企業の投資と資金調達： 企業がお金を必要とする理由やその資金調達の方法について考えよう</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>金融取引の特徴と課題： 金融取引の特徴について考えよう</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>金融取引と金利： 金利について学ぼう（実際に計算練習しながら学びます。計算機持参のこと）</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>銀行の役割： 銀行の役割や業務内容について学ぼう</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>地域金融機関の役割： 鹿銀や南銀、鹿信など地域金融機関の役割や経営環境について考えよう</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>金融市場： 証券取引所など集中して金融取引を行う金融市場の役割について学ぼう</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>株式会社と証券市場： そもそも株式会社とは何か、なぜ株式や債券を発行するのかについて学ぼう</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>株式市場： 株価はどのように決定されるのかについて考えよう</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>日本銀行と金融政策： 日本銀行の役割や金融政策について学ぼう</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>金融危機と規制： バブル崩壊やリーマンショックといった金融危機について考えよう</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>金融の新しい仕組み： フィンテックなど金融の新しい動きについて学ぼう</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第15回</td> <td>まとめ： 講義の振り返り、期末試験に関する質疑応答、講義評価アンケート実施</td> <td></td> </tr> </table>					第1回	ガイダンス： 講義の目的・進め方	序論：金融の仕組みと役割を知ろう。なぜ金融を学ぶのか考えよう	第2回	資金循環： 日本の中でのお金の大きな動きについて知ろう		第3回	家計の貯蓄と金融資産選択： 家計の消費・貯蓄・投資行動について考えよう		第4回	企業の投資と資金調達： 企業がお金を必要とする理由やその資金調達の方法について考えよう		第5回	金融取引の特徴と課題： 金融取引の特徴について考えよう		第6回	金融取引と金利： 金利について学ぼう（実際に計算練習しながら学びます。計算機持参のこと）		第7回	銀行の役割： 銀行の役割や業務内容について学ぼう		第8回	地域金融機関の役割： 鹿銀や南銀、鹿信など地域金融機関の役割や経営環境について考えよう		第9回	金融市場： 証券取引所など集中して金融取引を行う金融市場の役割について学ぼう		第10回	株式会社と証券市場： そもそも株式会社とは何か、なぜ株式や債券を発行するのかについて学ぼう		第11回	株式市場： 株価はどのように決定されるのかについて考えよう		第12回	日本銀行と金融政策： 日本銀行の役割や金融政策について学ぼう		第13回	金融危機と規制： バブル崩壊やリーマンショックといった金融危機について考えよう		第14回	金融の新しい仕組み： フィンテックなど金融の新しい動きについて学ぼう		第15回	まとめ： 講義の振り返り、期末試験に関する質疑応答、講義評価アンケート実施	
第1回	ガイダンス： 講義の目的・進め方	序論：金融の仕組みと役割を知ろう。なぜ金融を学ぶのか考えよう																																																
第2回	資金循環： 日本の中でのお金の大きな動きについて知ろう																																																	
第3回	家計の貯蓄と金融資産選択： 家計の消費・貯蓄・投資行動について考えよう																																																	
第4回	企業の投資と資金調達： 企業がお金を必要とする理由やその資金調達の方法について考えよう																																																	
第5回	金融取引の特徴と課題： 金融取引の特徴について考えよう																																																	
第6回	金融取引と金利： 金利について学ぼう（実際に計算練習しながら学びます。計算機持参のこと）																																																	
第7回	銀行の役割： 銀行の役割や業務内容について学ぼう																																																	
第8回	地域金融機関の役割： 鹿銀や南銀、鹿信など地域金融機関の役割や経営環境について考えよう																																																	
第9回	金融市場： 証券取引所など集中して金融取引を行う金融市場の役割について学ぼう																																																	
第10回	株式会社と証券市場： そもそも株式会社とは何か、なぜ株式や債券を発行するのかについて学ぼう																																																	
第11回	株式市場： 株価はどのように決定されるのかについて考えよう																																																	
第12回	日本銀行と金融政策： 日本銀行の役割や金融政策について学ぼう																																																	
第13回	金融危機と規制： バブル崩壊やリーマンショックといった金融危機について考えよう																																																	
第14回	金融の新しい仕組み： フィンテックなど金融の新しい動きについて学ぼう																																																	
第15回	まとめ： 講義の振り返り、期末試験に関する質疑応答、講義評価アンケート実施																																																	
授業外学習(予習・復習)	適宜指示します。																																																	
成績評価の方法	中間レポート (30%) + 期末試験 (70%)																																																	
実務経験について	国内外の金融機関で約30年の実務経験があります。																																																	

授業科目	社会政策		担当者	近間 由幸
	[履修年次]	1,2,3年	授業外対応	適宜対応(要予約)
	[学期]	前期 [単位]	2単位	[必修/選択] 選択 [授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】「日本型雇用システム」の下での労働・生活の全体像と社会政策の関係性について</p> <p>【概要】授業では、大企業男性正社員をモデルとして構築されてきた「日本型雇用システム」とそれに基づく社会政策について解説し、このシステムの周辺部に位置した失業者、女性、若者の格差・貧困の問題に対処するための社会政策を解説する。</p> <p>【到達目標】受講学生には、国の社会政策が自身の生活と密接にかかわっていることを理解してもらい、日本社会における格差や貧困の実態に問題意識を持ち、社会政策の方向性について自分の考えを持てるようになることを目指す。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 石畑良太郎・牧野富夫・伍賀一道編『よくわかる社会政策(第3版) 雇用と社会保障』ミネルヴァ書房</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 イントロダクション-日本社会の「しくみ」について</p> <p>第2回 社会政策とはなにか</p> <p>第3回 賃金と社会政策</p> <p>第4回 企業と労働組合の関係</p> <p>第5回 過労死と長時間労働</p> <p>第6回 非正規雇用とは何か</p> <p>第7回 日本社会における入社のしくみと若者支援政策</p> <p>第8回 日本型雇用システムと女性の働き方</p> <p>第9回 子育てと雇用政策</p> <p>第10回 高齢者の福祉と雇用</p> <p>第11回 働けないときにどのような支援があるのか</p> <p>第12回 社会保険と生活保護の溝</p> <p>第13回 労働市場政策の国際比較-スウェーデンモデルを事例として</p> <p>第14回 移民問題と外国人労働者</p> <p>第15回 全体のまとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	授業ごとのミニレポート(30%) 筆記試験(70%)			

授業科目	社会思想		担当者	未定
	[履修年次]	1,2,3年	授業外対応	
	[学期]	後期 [単位]	2単位	[必修/選択] 選択 [授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>【概要】</p> <p>【到達目標】</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1)</p> <p>(2)</p>			
授業スケジュール	<p>第1回</p> <p>第2回</p> <p>第3回</p> <p>第4回</p> <p>第5回</p> <p>第6回</p> <p>第7回</p> <p>第8回</p> <p>第9回</p> <p>第10回</p> <p>第11回</p> <p>第12回</p> <p>第13回</p> <p>第14回</p> <p>第15回</p>			
授業外学習(予習・復習)				
成績評価の方法				
実務経験について				

授業科目	民法		担当者	疋田 京子				
	[履修年次]	1, 2, 3年	授業外対応	コミュニケーションカードを利用する				
	[学期]	前期	[単位]	2単位	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】企業の取引や労働契約、消費者契約の一般法である民法のしくみを知る</p> <p>【概要】民法は財産法と家族法に分かれますが、主に「財産法」を対象にします。明治 29 年に制定された日本の「民法（財産法）」は、大きく変わろうとしています。成人年齢の引き下げもその一つです。企業間の取引にも、個人の生活上の紛争解決にも適用される民法の全体構造を知り、それがどのように変わろうとしているのかを講義します。</p> <p>【到達目標】具体的な紛争の事例を、権利と義務の関係として捉え、法的に説得力ある主張ができるようになること。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布する。</p> <p>(2) 伊藤塾『伊藤塾の公務員試験「民法」の点数が面白いほどとれる本』KADOKAWA</p>							
授業スケジュール	<p>第 1 回 オリエンテーション：民法が対象とする紛争とは？</p> <p>第 2 回 民法の全体像：グローバル化時代の民法とその基本構造</p> <p>第 3 回 グループワーク</p> <p>第 4 回 民法の基本原則：法の世界の「信義誠実」「善意と悪意」</p> <p>第 5 回 権利の主体になる能力（1）：父の死後に生まれた子どもに相続権はある？</p> <p>第 6 回 権利の主体になる能力（2）：成人年齢が18歳になると何がどう変わる？</p> <p>第 7 回 制限行為能力者の保護と取引の安全：権利を濫用する未成年者どう向き合うか？</p> <p>第 8 回 契約の発生から効力の発生まで（1）：民法上の「代理」とは何か？</p> <p>第 9 回 契約の発生から効力の発生まで（1）：条件と期限がついた契約</p> <p>第 10 回 契約の成立要件と有効要件：契約が有効に成立するためには</p> <p>第 11 回 契約の拘束力から解放されるとき：本心と違うことを言ったとき・言われたとき</p> <p>第 12 回 民法の時効制度：権利の上に眠る者は保護しないのが民法</p> <p>第 13 回 物権の変動時期：動産の即時取得と不動産の対抗要件？</p> <p>第 14 回 不動産の権利関係と登記：公信力って何？</p> <p>第 15 回 まとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	復習をしっかりとしてください。							
成績評価の方法	2回のレポート（中間レポートと最終レポート）の提出（80%） 授業ごとのミニレポート（20%）							

授業科目	商法		担当者	河野 総史				
	[履修年次]	1年、2年、3年	授業外対応	講義修了後またはメールにて対応				
	[学期]	前期	[単位]	2	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>商法学のうち、会社法の基礎知識</p> <p>【概要】商法は、「市民の法」たる民法の特別法にあたり、いわば「商人の法」である。商法において学ぶ分野は多岐に渡るが本講義においては会社法の基礎知識を身に付け、社会の重要な構成要素である会社についての理解を深めることを目的とする。</p> <p>【到達目標】</p> <p>株式制度と機関設計を中心に、株式会社の基礎知識を身に付けることを目標とする。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 指定しない（レジュメを配布する）</p> <p>(2) 適宜指示する</p>							
授業スケジュール	<p>第 1 回 講義ガイダンス 民法と商法</p> <p>第 2 回 会社法総論</p> <p>第 3 回 会社の種類</p> <p>第 4 回 株式①（株式の種類等）</p> <p>第 5 回 株式②（株式の譲渡と譲渡制限）</p> <p>第 6 回 株式③（自己株式・親会社株式取得規制等）</p> <p>第 7 回 株式④（株式併合・分割・無償割当等）</p> <p>第 8 回 資金調達①（会社設立時）</p> <p>第 9 回 資金調達②（募集株式の発行等）</p> <p>第 10 回 資金調達③（株式以外の資金調達手段）</p> <p>第 11 回 機関①（機関総論）</p> <p>第 12 回 機関②（株主総会）</p> <p>第 13 回 機関③（取締役・取締役会）</p> <p>第 14 回 機関④（監査役・会計参与・会計監査人）</p> <p>第 15 回 機関⑤（指名委員会等設置会社・監査等委員会設置会社） 総まとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	復習を徹底して、小テストに備えること							
成績評価の方法	期末テスト 80%小テスト 20% 全体で 60%以上を合格とする							

授業科目	産業心理学		担当者	岡村 俊彦		
	[履修年次]	1, 2, 3年	授業外対応	講義前後に適宜対応		
	[学期]	前期	[単位]	2単位	[授業形態]	講義
		[必修/選択]	選択			
テーマ及び概要	<p>【テーマ】産業に関わる心理学を多角的に学ぶ</p> <p>【概要】産業におけるヒューマンファクター（人的要因）を多角的に考える。前半は主に労働者の心理的側面を対象とするが、人間の基本的な特性もとらえることで、コンピュータを始め、システムの評価など多方面への応用も可能となる。後半は消費者の心理を対象とし、購買行動に関する様々な要因を考えていく。簡単な心理実験、心理テストなども織り交ぜていく予定である。</p> <p>【到達目標】商品、システム、労働環境を人間の快適性から評価し、改善を考えることができるようになる。また、購買行動に関わる心理を売り手、買い手の両面から考えることができるようになる。</p>					
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布、Webでも公開</p> <p>(2) なし</p>					
授業スケジュール	<p>第1回 概要説明</p> <p>第2回 人間とシステムの関わり合い、精神作業：ヒューマンインターフェイスの概念と精神作業の種類と性質</p> <p>第3回 記憶と学習：記憶と学習のメカニズムと産業への応用</p> <p>第4回 ヒューマンインターフェイス1：ヒューマンインターフェイスの基本原則</p> <p>第5回 ヒューマンインターフェイス2：ヒューマンインターフェイスの事例紹介</p> <p>第6回 職場のストレス：仕事におけるストレスのメカニズムと対策</p> <p>第7回 仕事の成功と動機付け：成功、失敗の心理的要因と仕事に対するモチベーションの種類</p> <p>第8回 人間関係、労働時間：職場における人間関係、労働時間と仕事の関係</p> <p>第9回 ユニバーサルデザイン：UDの理論と実践例</p> <p>第10回 広告の心理学：広告が視聴者に与える影響とメカニズム</p> <p>第11回 購買心理：消費者の購買心理</p> <p>第12回 販売、印象管理：セールステクニックと印章管理</p> <p>第13回 人間のエラー：人間のエラーのメカニズムと対策</p> <p>第14回 こころをはかる生理心理学：生理的現象の測定による心理状況の推察</p> <p>第15回 まとめ</p>					
授業外学習(予習・復習)	適宜指示					
成績評価の方法	通常のレポート2回分が80%、出席・授業中のショートレポートが20%					

授業科目	会計学総論		担当者	宗田 健一		
	[履修年次]	1～3年いずれも履修可	授業外対応	適宜対応		
	[学期]	前期	[単位]	2	[授業形態]	講義
		[必修/選択]	選択			
テーマ及び概要	<p>【テーマ】会計学の全体像を知る。</p> <p>【概要】この講義は、これから会計を学習しようと思っている人を対象としています。会計の様々な領域について学習をします。半年間で、会計学の全体的な内容を理解することができます。</p> <p>【到達目標】会計学の全体像を知る。会計学の様々な領域について学ぶ。会計の社会における役割を知る。</p>					
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 上野清貴・小野正芳編著『スタートアップ会計学』（第3版）同文館出版（2022年発行予定）</p> <p>(2) 桜井久勝『財務会計講義』（第22版）中央経済社</p>					
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス、会計って何？ 簿記・会計はどこからやってきたの？ 簿記・会計の歴史概要</p> <p>第2回 会計にどんな資格があるのか？ 会計の社会的役割</p> <p>第3回 会計はどう利用するの？ 財務分析の概要</p> <p>第4回 企業の成績はどうやってみるの？ 財務諸表の概要</p> <p>第5回 会計は経営にどう役立つの？ 管理会計の概要</p> <p>第6回 モノがいくらでできたかはどうやって決まるの？ 原価計算の概要</p> <p>第7回 会計情報はどうやって作られるの？ 簿記の概要</p> <p>第8回 会計制度はどうなっているの？ 財務会計の概要</p> <p>第9回 財務諸表は信頼できるの？ 財務諸表監査の概要</p> <p>第10回 会社の税金はいくらになるの？ 税務会計の概要</p> <p>第11回 グローバル経済における会計ルールってなに？ 国際会計の概要</p> <p>第12回 持続可能な社会づくりに会計はどう貢献できるの？ 環境会計・CSR会計の概要</p> <p>第13回 ボランティア活動にも儲けが必要なの？ 非営利会計の概要</p> <p>第14回 自治体の会計はどうなっているの？ 公会計の概要</p> <p>第15回 まとめ：試験範囲の提示、成績評価方法の説明、質疑応答、授業評価アンケートの実施</p>					
授業外学習(予習・復習)	復習が大切です。					
成績評価の方法	期末レポート(100%)					

授業科目	簿記論Ⅰ		担当者	岡村 雄輝
	[履修年次]	1, 2, 3年	授業外対応	講義前後に適宜対応
	[学期]	後期	[単位]	2単位
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】複式簿記の基本原則を学ぶ</p> <p>【概要】日商簿記3級レベルのテキスト、ワークブックを使用して複式簿記による記帳手続を解説し、問題演習に取り組みます。簿記力を着実に養い、より高度な会計を学ぶためには、問題演習の反復を通じた複式簿記の基本原則の理解が肝要です。勤勉な学習姿勢が望まれます。※簿記論Ⅱと連続して講義を展開しますので、併せて受講してください。</p> <p>【到達目標】簿記上の取引を仕訳・転記する手続から、決算本手続までの概要を理解する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 渡部裕互, 片山覚, 北村敬子 (編)『新検定 簿記講義3級 商業簿記』『新検定 簿記ワークブック』(令和4年版), 中央経済社。</p> <p>(2) 伊藤龍峰ほか『基本簿記原理』(第2版), 中央経済社。</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス：履修登録の確認、講義概要の説明</p> <p>第2回 仕訳と転記：勘定、取引の意義と種類、取引8要素と結合関係</p> <p>第3回 仕訳帳と元帳：帳簿の種類、仕訳帳への記入、総勘定元帳への転記</p> <p>第4回 決算：帳簿の締切りと財務諸表の作成、決算手続と精算表</p> <p>第5回 現金と預金：現金勘定と現金出納帳、現金過不足、当座預金と当座借越</p> <p>第6回 繰越商品・仕入・売上：3分法、諸掛と返品</p> <p>第7回 売掛金と買掛金：売掛金と買掛金の意義、人名勘定、売掛金と元帳と買掛金元帳</p> <p>第8回 その他の債権と債務：貸付金と借入金、未収入金と未払金、立替金と預り金</p> <p>第9回 受取手形と支払手形：手形の振出しと受入れ、受取手形記入帳と支払手形記入帳、電子記録債権と債務</p> <p>第10回 貸倒損失と貸倒引当金：貸倒れとは？、貸倒引当金の設定</p> <p>第11回 収益と費用：収益・費用の未収・未払いと前受け・前払い</p> <p>第12回 税金：租税公課、法人税、住民税及び事業税、消費税</p> <p>第13回 財務諸表：決算手続、試算表作成、棚卸表の作成と決算整理事項</p> <p>第14回 総合問題：問題演習と解説①</p> <p>第15回 総合問題：問題演習と解説③</p>			
授業外学習(予習・復習)	毎回復習をすること。継続的な学習なしに簿記はできるようになりません。			
成績評価の方法	期末テスト80%、小テスト20%			

授業科目	経営学総論		担当者	竹中 啓之
	[履修年次]	1,2,3年いずれでも履修可	授業外対応	適宜対応(要予約)、及び講義終了後
	[学期]	前期	[単位]	2単位
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】経営学全般について、幅広く理解し、経営学の特徴的な考え方を習得する。</p> <p>【概要】この講義では、これから経営学を学ぶにあたって、必要と思われる知識や考え方について説明する。まず、経営学が取り扱う様々なテーマをできるだけ幅広く取り上げ、企業や組織の仕組みを理解する。また、単なる知識の習得だけではなく、経営学が持っている特徴的な考え方も説明し、それに触れることで、その他の経営学関連の科目の修得の手助けになることを目指す。さらに、経営学が取り扱うテーマは、企業だけではなく、様々な場面で役立てることができる、実践的な学問であることも説明していくことにする。</p> <p>【到達目標】経営学に関する基礎的な知識を習得する。経営学と社会との関わりを理解する。そのほかの経営学関連の科目を履修する際に手助けとなるような力を身につける。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 授業中に配布するプリント</p> <p>(2) 講義中に指示する</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 講義概要の説明：講義の進め方・内容・評価方法について説明する。</p> <p>第2回 経営学と経済学の違い：経営学と経済学の最も特徴的な違いについて説明する。</p> <p>第3回 経営学の発展と必要性：経営学がいかに社会にとって必要とされてきたかを理解する。</p> <p>第4回 企業の種類について：企業の種類とそれぞれの特徴について考える。</p> <p>第5回 企業の目的と役割について：企業が持っている目的と、果たすべき役割について理解する。</p> <p>第6回 人と企業との関係について(1)：企業で働く従業員の立場から、企業との関係を考える。</p> <p>第7回 人と企業との関係について(2)：株主(出資者)としての立場から、企業との関係を考える。</p> <p>第8回 これまでのまとめと補足説明、及び中間テスト(予定)</p> <p>第9回 企業における4つの経営資源(モノ)：主にマーケティングについて説明する。</p> <p>第10回 企業における4つの経営資源(情報)：企業における情報の種類やその活用方法について説明する。</p> <p>第11回 日本の経営を考える：年功主義や終身雇用、そして成果主義・能力主義などについて考える。</p> <p>第12回 組織の基本的な仕組みについて：基本的な組織構造を理解し、その特徴を知る。</p> <p>第13回 企業統治について：株式会社の意思決定の仕組みについて説明する。</p> <p>第14回 経営戦略を考える：経営戦略の考え方について説明する。</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。			
成績評価の方法	期末筆記試験(70%)、中間レポートもしくは小テスト(30%)(予定) 詳細は1回目の講義で説明します。			

授業科目	情報科学概論		担当者	岡村 俊彦	
	[履修年次]	1, 2, 3年	授業外対応	講義前後に適宜対応	
	[学期]	後期	[単位]	2単位	
		[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】コンピュータやネットワークなど情報科学 (ICT) 全般の基礎知識を学ぶ</p> <p>【概要】コンピュータ (ハードウェア, ソフトウェア, 周辺機器) やネットワークの仕組みを知り, 現代社会においてどのような役割があり, どのような問題点があるかを知る。結果として, 効果的かつ適切な IT 活用が可能となり, トラブル解決もできるようになる。また, ネットワークを安全に使うためのルール, マナーを学ぶ。また, 授業の3分の1程度の時間を使い, IT に関する学生からの質問に対する解説をおこなう。</p> <p>【到達目標】・初心者向け情報関連雑誌を80%以上理解できる ・初心者に対して, パソコンやネットワークの安全, 便利な運用に関する簡単なアドバイスができる ・調子の悪いパソコンを直す</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布, Web でも公開</p> <p>(2) 初心者向け情報関連雑誌</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 概要説明</p> <p>第2回 ハードウェアとソフトウェア: ハードとソフトの違いと役割</p> <p>第3回 パソコンの中身: パソコン内部の部品とその役割</p> <p>第4回 単位と容量と速度: 情報処理や通信に関わる単位と容量, 速度</p> <p>第5回 インターネットの仕組み: インターネットとネットワークの仕組み</p> <p>第6回 電子メールの使い方: 電子メールの仕組みと正しい使用法</p> <p>第7回 ITセキュリティ: マルウェアとセキュリティ対策</p> <p>第8回 インターフェイス: インターフェイスの種類と特性</p> <p>第9回 周辺機器1: モニタ, 光学ドライブなど周辺機器の役割, 仕組み</p> <p>第10回 周辺機器2: プリンタ, デジカメなど周辺機器の役割, 仕組み</p> <p>第11回 ソフトの分類: ソフトウェアの分類と正しい使用法</p> <p>第12回 クラウド, ビッグデータ, IoT: 新たなインターネットのトレンドと今後の展開</p> <p>第13回 スペックの見方: パソコン, 周辺機器のスペック (仕様) の見方</p> <p>第14回 AIの活用とインターネットの国際比較: AIの仕組み, 活用例とインターネット利用の国際比較</p> <p>第15回 まとめ</p>				
授業外学習(予習・復習)	まとめ				
成績評価の方法	通常のレポート2回分が80%, 出席・授業中のショートレポートが20%				

授業科目	文書作成実習 (第二部)		担当者	永仮 ゆかり	
	[履修年次]	1年	授業外対応	講義終了時および必要に応じてメール	
	[学期]	後期	[単位]	1単位	
		[必修/選択]	選択	[授業形態]	実習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>「Microsoft Word」を活用した, 実践的なビジネス文書の作成能力の習得</p> <p>【概要】</p> <p>「Microsoft Word」を活用した実践的なビジネス文書の作成能力, IT・ネットワーク関連知識, 文章の読解力, 文書作成上の技巧など広く文書処理全般にわたる技能を習得することを目的とする。また, あわせて日商 PC 検定 (文書作成3級) 対策を行い, 資格取得を目指す。</p> <p>【到達目標】</p> <p>実践的なビジネス文書の作成能力の習得 (日商 PC 検定文書作成3級合格レベルの技能の習得)</p> <p>*後期から履修する場合は, 前期「情報リテラシー I」授業内容程度の技能を習得していることを前提とする</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 未定</p> <p>(2) 富士通エフ・オー・エム (株) 『よくわかる Microsoft Word 2019 基礎』 FOM 出版 ほか授業にて紹介する</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 前期の復習 : 概要説明, 前期の復習 (基本的なビジネス文書の作成)</p> <p>第2回 検定対策 (3級) : 社外文書の作成 (案内状), 知識問題 (共通分野)</p> <p>第3回 検定対策 (3級) : 課題文書作成1 (表を利用した文書の作成), 知識問題 (共通分野)</p> <p>第4回 検定対策 (3級) : 図形を利用した文書の作成, 知識問題 (共通分野)</p> <p>第5回 検定対策 (3級) : 報告書の作成 (計算式を含む文書), 図形の補足, 知識問題 (共通分野)</p> <p>第6回 検定対策 (3級) : 通知状の作成, 知識問題 (共通分野)</p> <p>第7回 検定対策 (3級) : 課題文書作成2 (文書作成3級実技練習問題), 知識問題 (共通分野)</p> <p>第8回 検定対策 (3級) : 文書作成3級検定模擬問題演習, 知識問題 (共通分野)</p> <p>第9回 検定対策 (3級) : 文書作成3級検定模擬問題演習</p> <p>第10回 Excelデータの利用 : Excelデータ (表, グラフ) の文書への取り込み</p> <p>第11回 文書の編集 : いろいろな応用機能 (スタイル, セクション区切りの挿入, 文書の挿入など)</p> <p>第12回 報告書の作成 : 課題文書作成3 (Excelデータ・テキストファイルの利用, 書式のコピーなど)</p> <p>第13回 稟議書の作成 : 稟議書の作成 (ユーザー定義の段落番号, 表の編集など)</p> <p>第14回 議事録の作成 : 議事録の作成 (テンプレートの利用, スタイルの設定, セクション区切りなど)</p> <p>第15回 まとめ</p>				
授業外学習(予習・復習)	知識問題の予習・復習, 「Microsoft Word」操作の復習など適宜指示				
成績評価の方法	期末試験 (知識科目20%+実技科目50%) +授業中に実施する課題 (30%)				
実務経験について	OAインストラクター, 職業訓練校パソコン実習科目の講師, 市民講座パソコン講座の講師				

授業科目	統計学	担当者	倉重 賢治
	[履修年次] 1, 2, 3年 [学期] 後期 [単位] 2	授業外対応	適宜対応
		[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 基本的な統計解析を学ぶ</p> <p>【概要】 現在、情報技術を有効に活用してデータ収集を行い、そのデータの分布や性質を明らかにすることが重要視されている。この講義では、そのためのツールとしての基本的な統計解析を学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的なデータ処理を行う ・相関関係について理解する ・検定について理解する 		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 木下栄蔵, 『入門統計解析』, 講談社サイエンティフィク</p>		
授業スケジュール	<p>第 1回 序論：統計学とは</p> <p>第 2回 データの基本処理：平均値、度数分布</p> <p>第 3回 データの基本処理：標準正規分布</p> <p>第 4回 データの基本処理：正規分布</p> <p>第 5回 データの基本処理：正規分布と偏差値</p> <p>第 6回 データの基本処理：確率分布</p> <p>第 7回 統計解析：相関係数</p> <p>第 8回 統計解析：回帰直線</p> <p>第 9回 統計解析：カイ2乗検定</p> <p>第 10回 統計解析：平均値の推定</p> <p>第 11回 統計解析：平均値の検定</p> <p>第 12回 統計解析：比率の推定と検定</p> <p>第 13回 統計解析：ベイズ統計学</p> <p>第 14回 統計解析：分散分析</p> <p>第 15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	期末試験 (100%)		

授業科目	応用文書処理	担当者	岡村 俊彦
	[履修年次] 2,3年 [学期] 前期 [単位] 1単位	授業外対応	講義前後に適宜対応
		[必修/選択] 選択	[授業形態] 実習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】複数のアプリケーションを有機的に活用しながら、ネットワークにも対応したドキュメント作成を学ぶ</p> <p>【概要】1) 自己紹介文書作成：ワープロソフトを核に、グラフや写真などを含んだ自己紹介文書を作成する。 2) ホームページ作成：自分なりの大学のホームページを作成し、公開する。 3) 提案書作成：インターネット検索と表計算ソフトを使い、架空の提案書を作成する。</p> <p>【到達目標】初めて扱うソフトでもすぐに使えるようになる ・わかりやすいドキュメントを作成する ・インターネット上のルールやマナーを身に付ける。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Webで公開</p> <p>(2) なし</p>		
授業スケジュール	<p>第 1回 概要説明</p> <p>第 2回 自己紹介文書作成1：ワープロを使ったベース文書の作成</p> <p>第 3回 自己紹介文書作成2：表計算ソフトを使ったグラフ作成とベース文書の結合</p> <p>第 4回 自己紹介文書作成3：写真、図の取り扱いとベース文書の結合</p> <p>第 5回 自己紹介文書作成4：仕上げ。印刷設定のコツ</p> <p>第 6回 ホームページ作成1：HTML 概念の復習。USB メモリへのソフトの導入</p> <p>第 7回 ホームページ作成2：課題設定とページ作成</p> <p>第 8回 ホームページ作成3：資料収集とページ作成</p> <p>第 9回 ホームページ作成4：ページ公開</p> <p>第 10回 提案書作成1：インターネットによる費用情報検索</p> <p>第 11回 提案書作成2：表計算ソフトを使った自動計算書</p> <p>第 12回 提案書作成3：プレゼン資料の作成</p> <p>第 13回 提案書作成4：仕上げ、データ送信のコツ</p> <p>第 14回 提案書作成5：プレゼンと評価</p> <p>第 15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	まとめ		
成績評価の方法	レポート (3つの課題を総合的に評価)		

授業科目	PCデータ活用		担当者	口脇 淳子		
	[履修年次]	1年	授業外対応	授業後のまとめプリントで質問対応・習熟度確認		
	[学期]	前期	[単位]	2	[授業形態]	講義
			[必修/選択]	選択		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 表計算ソフト「Microsoft Excel」を活用した基本操作の習得と活用</p> <p>【概要】 表計算ソフト「Microsoft Excel」を使用し、まずは作表やグラフ化・業務データの分析など実務に必要な機能・操作法を習得する。さらに各機能の特徴と活用法を目的に応じて使い分けができる応用力を身につけられる技術を学ぶ。</p> <p>【到達目標】 表計算ソフト「Microsoft Excel」の基本操作を確実に習得する。</p>					
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 実教出版編修部 30時間でマスター Excel2019 (Windows10 対応) 実教出版株式会社</p> <p>(2)</p>					
授業スケジュール	<p>第 1回 習熟度確認アンケート Excel の起動と画面の確認 文字入力の確認</p> <p>第 2回 簡単な表作成とグラフ化：Excel の基本的な流れを確認</p> <p>第 3回 編集機能を活用した見やすい表の作成：行・列の操作・計算式や関数（合計・平均）の活用</p> <p>第 4回 編集機能を活用した見やすい表の作成：体裁の整え方・罫線</p> <p>第 5回 データ処理：関数の利用（カウント・端数処理など）</p> <p>第 6回 データ処理：関数の利用（条件の判定・論理関数など）</p> <p>第 7回 データ処理：関数の利用（順位づけ・VLOOKUP など）</p> <p>第 8回 各関数を利用した実習問題（小テスト）</p> <p>第 9回 棒グラフ・折れ線グラフの作成とさまざまな設定（軸ラベル・データラベル・目盛りなど）</p> <p>第 10回 円グラフ・3-D グラフの作成とさまざまな設定（データ範囲の変更・系列の書式など）</p> <p>第 11回 複合グラフ・ドーナツグラフ・絵グラフの作成（系列の設定・テキストボックスの利用・画像の利用など）</p> <p>第 12回 データベース入門：データベース作成上の各機能</p> <p>第 13回 データの集計（並べ替え・抽出 ほか）</p> <p>第 14回 データの集計（ピボットテーブル）</p> <p>第 15回 前期のまとめ</p>					
授業外学習(予習・復習)	各回の授業後、テキスト内の練習問題を復習し、次回授業時に提出もしくは確認を行う。					
成績評価の方法	期末試験（70%）＋小テスト（20%）＋授業で課せられる課題の提出状況（10%）					
実務経験について	企業、個人への講習会講師					

授業科目	PCデータ活用実習		担当者	口脇 淳子		
	[履修年次]	1年	授業外対応	授業後のまとめプリントで質問対応・習熟度確認		
	[学期]	後期	[単位]	1	[授業形態]	実習
			[必修/選択]	選択		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 表計算ソフト「Microsoft Excel」を活用したビジネス現場で活用できる実践的な知識と技術の習得</p> <p>【概要】 前期習得した内容が確実に活用できるよう、さまざまな実践問題に取り組む。また、実務に必要な業務知識も身につけられるようにする。</p> <p>【到達目標】 知識と技術の習得を日商PC検定試験（データ活用）の3級資格取得で確認 ☆ 後期から履修する場合は、前期授業内容程度の技術を習得していることを前提とする</p>					
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 実教出版編修部 30時間でマスター Excel2019 (Windows10 対応) 実教出版株式会社</p> <p>(2) プリント</p>					
授業スケジュール	<p>第 1回 前期授業の復習 知識科目問題</p> <p>第 2回 検定対策問題：構成比を求める問題 知識科目問題</p> <p>第 3回 検定対策問題：データの追加入力がある問題 知識科目問題</p> <p>第 4回 検定対策問題：ABC分析 知識科目問題</p> <p>第 5回 検定対策問題：簿記の要素を含んだ問題 知識科目問題</p> <p>第 6回 検定対策問題：利益率を求める問題 知識科目問題</p> <p>第 7回 検定対策問題：データの集計を取る問題 知識科目問題</p> <p>第 8回 検定対策問題：達成率を求める問題 知識科目問題</p> <p>第 9回 検定対策問題小テスト（実技問題・知識科目問題）</p> <p>第 10回 検定対策問題：伸び率を求める問題 知識科目問題</p> <p>第 11回 検定対策問題：データを参照する問題 知識科目問題</p> <p>第 12回 検定対策問題：集計データから請求書を作成する問題 知識科目問題</p> <p>第 13回 検定対策問題：別シートのデータから計算式を設定する問題 知識科目問題</p> <p>第 14回 検定対策問題：集計データをグループ化する問題 知識科目問題</p> <p>第 15回 後期のまとめ 知識科目問題</p>					
授業外学習(予習・復習)	授業後、同じ問題を、時間を計って解いてみる					
成績評価の方法	期末試験（70%）＋小テスト（20%）＋授業で課せられる課題の提出状況（10%）					
実務経験について	企業、個人への講習会講師					

授業科目	PC アプリケーション実習 (A)		担当者	上野 祐子	
	[履修年次]	1年	授業外対応	講義終了時, 適宜対応 (要予約)	
	[学期]	後期	[単位]	1単位	
		[必修/選択]	選択	[授業形態]	実習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】様々なアプリケーションソフトを使ってみよう</p> <p>【概要】事務系の職に就いても、プログラミングやPDF編集、データベースの仕事をする機会が増えてきている。また、様々な機能が搭載された使い勝手の良いアプリケーションソフトは多数存在するが、その習得には非常に時間がかかる。そこで、この授業では、学校やビジネスでよく使用されている代表的なアプリケーションソフトの基本的な操作方法を学ぶ。なお、ホームページ作成については、その仕組みを理解して欲しいため、専用のソフトではなくメモ帳を使用する。</p> <p>【到達目標】各アプリケーションで課題を完成させる。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 適宜プリントを配布する。</p> <p>(2) 授業にて紹介する。</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション、ホームページ作成 (HTML: 見出し, 画像, 箇条書き, ハイパーリンク, 表)</p> <p>第2回 ホームページ作成2 (HTML: 段落, 水平線, 地図, 動画)</p> <p>第3回 ホームページ作成3 (CSS: Web ページのデザイン設定, 鑑賞会) 第1回課題</p> <p>第4回 プログラミング (Scratch)</p> <p>第5回 プログラミング2 (Scratch)</p> <p>第6回 プログラミング3 (言語は受講者の希望により決定する) 第2回課題</p> <p>第7回 動画編集 (フォト: 起動, トリミング, テキスト入りビデオの作成, 素材の収集)</p> <p>第8回 動画編集2 (フォト: 描画, クリップの速度, 音楽, 3D 効果)</p> <p>第9回 動画編集3 (フォト: タイトル, 鑑賞会) 第3回課題</p> <p>第10回 データベース (Excel のデータベース機能)</p> <p>第11回 データベース2 (Microsoft Access: テーブル, クエリ)</p> <p>第12回 データベース3 (Microsoft Access: テーブル, クエリ, フォーム) 第4回課題</p> <p>第13回 PDF 編集 (Adobe Acrobat Reader: PDF の作成と閲覧)</p> <p>第14回 PDF 編集2 (Adobe Acrobat Reader: PDF 編集)</p> <p>第15回 PDF 編集3 (Adobe Acrobat Pro: 画像やファイルで PDF 資料作成, 鑑賞会) 第5回課題</p>				
授業外学習(予習・復習)	興味を持って予習し、授業内容の復習をすること。				
成績評価の方法	5回の課題 (80%) と期末レポート (20%) の総合評価				
実務経験について	大企業ではシステムエンジニア, 中小企業では会計事務員として勤務した経験有り。日商マスター。市民講座講師。				

授業科目	PC アプリケーション実習 (B)		担当者	上野 祐子	
	[履修年次]	1年	授業外対応	講義終了時, 適宜対応 (要予約)	
	[学期]	後期	[単位]	1単位	
		[必修/選択]	選択	[授業形態]	実習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】様々なアプリケーションソフトを使ってみよう</p> <p>【概要】事務系の職に就いても、プログラミングやPDF編集、データベースの仕事をする機会が増えてきている。また、様々な機能が搭載された使い勝手の良いアプリケーションソフトは多数存在するが、その習得には非常に時間がかかる。そこで、この授業では、学校やビジネスでよく使用されている代表的なアプリケーションソフトの基本的な操作方法を学ぶ。なお、ホームページ作成については、その仕組みを理解して欲しいため、専用のソフトではなくメモ帳を使用する。</p> <p>【到達目標】各アプリケーションで課題を完成させる。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 適宜プリントを配布する。</p> <p>(2) 授業にて紹介する。</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション、ホームページ作成 (HTML: 見出し, 画像, 箇条書き, ハイパーリンク, 表)</p> <p>第2回 ホームページ作成2 (HTML: 段落, 水平線, 地図, 動画)</p> <p>第3回 ホームページ作成3 (CSS: Web ページのデザイン設定, 鑑賞会) 第1回課題</p> <p>第4回 プログラミング (Scratch)</p> <p>第5回 プログラミング2 (Scratch)</p> <p>第6回 プログラミング3 (言語は受講者の希望により決定する) 第2回課題</p> <p>第7回 動画編集 (フォト: 起動, トリミング, テキスト入りビデオの作成, 素材の収集)</p> <p>第8回 動画編集2 (フォト: 描画, クリップの速度, 音楽, 3D 効果)</p> <p>第9回 動画編集3 (フォト: タイトル, 鑑賞会) 第3回課題</p> <p>第10回 データベース (Excel のデータベース機能)</p> <p>第11回 データベース2 (Microsoft Access: テーブル, クエリ)</p> <p>第12回 データベース3 (Microsoft Access: テーブル, クエリ, フォーム) 第4回課題</p> <p>第13回 PDF 編集 (Adobe Acrobat Reader: PDF の作成と閲覧)</p> <p>第14回 PDF 編集2 (Adobe Acrobat Reader: PDF 編集)</p> <p>第15回 PDF 編集3 (Adobe Acrobat Pro: 画像やファイルで PDF 資料作成, 鑑賞会) 第5回課題</p>				
授業外学習(予習・復習)	興味を持って予習し、授業内容の復習をすること。				
成績評価の方法	5回の課題 (80%) と期末レポート (20%) の総合評価				
実務経験について	大企業ではシステムエンジニア, 中小企業では会計事務員として勤務した経験有り。日商マスター。市民講座講師。				

授業科目	日本経済論	担当者	船津 潤
	[履修年次] 1年, 2年, 3年いずれでも履修可 [学期] 前期 [単位] 2	授業外対応	講義前後, それ以外にも随時(日時を調整することがあるかもしれませんが, 遠慮なく声をかけてください)
		[必修/選択]	選択 [授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】日本の明治維新以降の経済・経済政策の動きとその背景について理解を深めること</p> <p>【概要】明治維新から現在までの日本の経済と経済政策の動向について, 特に産業政策, そして構造改革とアベノミクスに焦点を当てながら講義します。また, 過去が現在とどうつながっているかという歴史的推移とともに, 石油危機, プラザ合意, 日米構造協議, そしてグローバル化といった海外からの影響を強く意識しながら講義を進めます。</p> <p>【到達目標】①明治維新以降の日本の経済と経済政策の歴史的推移について理解し, 説明できるようになること ②日本経済の歴史と海外とのつながりを踏まえて, 日本経済の現状と課題について自分なりの見解が持てるようになること</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) なし (2) 三和良一『概説日本経済史 近現代 (第3版)』東京大学出版会 内閣府『年次経済財政報告 各年度版』</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス：講義の目標, 評価基準等の説明 第2回 日本の産業政策の歴史 戦前(1)：資本主義社会とはどんな社会か等 第3回 日本の産業政策の歴史 戦前(2)：明治維新の意義, その後の産業構造の変化等 第4回 敗戦直後の日本経済：敗戦直後の状況, 傾斜生産方式, 1950年代前半の産業政策等 第5回 高度成長の開始：高度成長初期の産業政策と経済状況・産業構造等 第6回 行政指導：勸告操短, 企業の反発等 第7回 開放経済体制への移行：IMF8 条国への移行, 産業再編等 第8回 1970年代の日本経済：2度のオイル・ショック, 構造不況業種への対応, 知識集約化・高付加価値化への動き等 第9回 企業集団とその変化：戦後の企業集団の特徴, グループ内の結び付き, 現在の状況等 第10回 1980年代以降の日本経済：対米貿易摩擦, 日米構造協議等 第11回 現在の産業政策：産業競争力強化法, 現在の産業政策の特徴等 第12回 グローバル化と構造改革への動き：プラザ合意と国際協調, バブル崩壊後の動向等 第13回 構造改革：構造改革の特徴・本質等 第14回 構造改革とアベノミクス：構造改革下の福祉改革の内容と特徴, アベノミクスとの比較等 第15回 まとめ：講義を振り返りつつポイントの説明, 試験についての説明等</p>		
授業外学習(予習・復習)	<p>普段から日本経済関連のニュース(できれば外国のメディアを含む複数)に注目すること, 特に講義後に関連する事項についてインターネットや文献等を通して調べ, 検討することを勧めます(これらは公務員試験を含む就職活動や四大への編入にも非常に有効です)。そして, 講義内容に直接関係しなくても, 聞きたいことが出てきたら, 遠慮なく質問してください。</p>		
成績評価の方法	<p>筆記試験(80%), 小テスト(20%)を基本とし, アクティブラーニングでの発言内容で加点します。小テストやアクティブラーニング等の詳細については1回目の講義(ガイダンス)で説明します。</p>		

授業科目	財政学	担当者	船津 潤
	[履修年次] 1年, 2年, 3年いずれでも履修可 [学期] 後期 [単位] 2	授業外対応	講義前後, それ以外も随時(日時を調整することがあるかもしれませんが, 遠慮なく声をかけてください)
		[必修/選択]	選択 [授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】財政に関する基本的な概念や理論, 日本の財政の基礎的な制度について, 内容, 実態, 特徴, 課題に関する理解を深めること</p> <p>【概要】まずは財政に関する基本的な概念や理論について講義します。その上で, それらを踏まえて財政の基礎的な制度に関する講義を行います。そこでは, 財政民主主義という財政制度の根幹, 経済における公共部門と民間部門の関係, 歴史的推移, そしてグローバル化の影響を強く意識しながら講義を進めます。この講義を受講することで, 経済学等で学んだマクロ経済学の理論等が実際にどのように政府の政策に活用されているのかも理解できると思います。また, 財政は, 政治と経済の「つなぎ目」の役割を担っていますので, 他の科目では触れることが少ない経済に対する政治の影響に関しても見識を高めることができるはずです。</p> <p>【到達目標】①財政の基礎的な制度について理解し, 説明できるようになること ②実際の政府の活動について分析・評価できるようになること ③マクロ経済学の理論等がどのように政策に活用されているのかを理解すること ④財政の影響を踏まえて, 経済・社会の動向を的確に把握できるようになること</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) なし</p> <p>(2) 金澤史男編著『財政学』有斐閣(2005年) 植田和弘・諸富徹編著『テキストブック現代財政学』有斐閣(2016年) 佐々木伯朗編著『財政学』有斐閣(2019年) 廣光俊昭編著『図説 日本の財政 各年度版』東洋経済新報社</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス: 講義の目標, 評価基準等の説明</p> <p>第2回 財政(1): 財政の定義, 財政学の特徴, 政府に対する評価の揺れ等</p> <p>第3回 財政(2): 市場の失敗, 財政民主主義と制度化に必要な原則等</p> <p>第4回 予算(1): 定義, 役割, 政府と議会の役割, 予算原則等</p> <p>第5回 予算(2): 予算の種類, 特別会計と「埋蔵金」, 改革の方向等</p> <p>第6回 経費(1): 定義, 主要な分類, 経費膨張の法則, 転位効果等</p> <p>第7回 経費(2): 小さな政府論とサブライサイド・エコノミクス等</p> <p>第8回 租税(1): 定義, 租税の根拠, 代表的な租税原則等</p> <p>第9回 租税(2): 公平の基準, 望ましい税制とは等</p> <p>第10回 公債(1): 定義, 民間債務・租税との対比, 公債の種類等</p> <p>第11回 公債(2): 日本の国債発行における原則, 制度, 「ギリシャよりひどい」は本当か等</p> <p>第12回 財政投融资: 定義, 運用対象, 批判, 2001年度の改革, 今後の展望等</p> <p>第13回 財政の国際化: 国際公共財, グローバル化と国際的財政移転等</p> <p>第14回 財政改革を考える: 社会の変化と財政, 財政危機とは, 財政改革で求められる視点等</p> <p>第15回 まとめ: 講義を振り返りつつポイントの説明, 試験についての説明等</p>		
授業外学習(予習・復習)	<p>講義の前後に財務省のサイト等で関連事項について調べて検討すること, 普段から経済・財政関連のニュースに注目すること(できれば外国のメディアを含む複数, 加えて日本関連だけでなく, 諸外国関連のニュースも)を勧めます(公務員試験を含む就職活動や四大への編入にも非常に有効です)。そして, 講義内容に直接関係しなくても, 聞きたいことが出てきたら, 遠慮なく質問してください。</p>		
成績評価の方法	<p>筆記試験(80%), 小テスト(20%)を基本とし, アクティブラーニングでの発言内容で加点します。小テストやアクティブラーニング等の詳細については1回目の講義(ガイダンス)で説明します。</p>		

授業科目	農業経済論	担当者	岡田 登
	[履修年次] 1, 2, 3年 [学期] 後期 [単位] 2	授業外対応	適宜対応
		[必修/選択]	選択
		[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】表面化している食料・農業・農村の問題の背景を理解する。</p> <p>【概要】世界農業の形成過程及び日本農業の展開を把握した上で、生産、組織、流通等の仕組みを学び、現在起こっている農業経済現象とその原因を理解する。</p> <p>【到達目標】食料・農業・農村の問題の背景を理解し、日本農業の今後の展望と農業のあり方を説明できる能力を身につける。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 授業中に適宜紹介する</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 はじめに：講義の目標、食料・農業・農村の問題提起、鹿児島島の農村景観</p> <p>第 2 回 農業の基礎：基本知識</p> <p>第 3 回 世界農業の形成過程：農業の起源、農業形態の発展、雑草対策、植民地政策、大規模穀物生産</p> <p>第 4 回 日本農業の展開（1）：稲作の普及、近郊農業、明治期から戦前までの展開</p> <p>第 5 回 日本農業の展開（2）：経済成長期、農業基本法と産地形成、食糧管理法と農地法</p> <p>第 6 回 日本農業の展開（3）食糧管理法から食糧法、米の生産調整、農地法改正、食料・農業・農村基本法への転換</p> <p>第 7 回 農業保護政策：国内市場、農産物貿易</p> <p>第 8 回 農業のグローバル化：フードレジーム、日本における農産物自由化</p> <p>第 9 回 農産物流通の仕組み：農業協同組合、市場流通</p> <p>第 10 回 農業と関連産業：アグリビジネス</p> <p>第 11 回 農業法人の設立：農地法改正と農業法人化、農業経営基盤強化促進法</p> <p>第 12 回 農産物の高付加価値化とブランド化：有機農産物、伝統野菜、地理的表示、食の安全性、六次産業化、農工商連携</p> <p>第 13 回 農村空間の商品化：観光農園、農産物直売所、地産地消</p> <p>第 14 回 都市の農村化：都市農業、市民農園、体験農園、自家菜園、マルシェ</p> <p>第 15 回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	復習をして次回の講義を受けること		
成績評価の方法	授業時に実施するレポート(40%)＋期末試験(60%)		
実務経験について	自治体の元職員		

授業科目	ファイナンス論	担当者	岩上 敏秀
	[履修年次] 1～3年いずれも履修可 [学期] 後期 [単位] 2	授業外対応	いつでも対応します。メールで連絡してください。
		[必修/選択]	選択
		[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】資産運用のための投資商品や投資手法について実践的な知識を学びます。</p> <p>【概要】私たちが働いて生涯で得られる所得は限られています。限られた生涯所得を運用し、上手に資産形成しながら将来に備えていく必要があります。本講義は、債券や株式などさまざまな投資商品について学んだ上で、リスクを抑えながら一定の効果を生む投資手法について考えていきます。スマホを活用したリアルタイム投稿システムを使って、受講者と双方向コミュニケーションしながら講義を進めます。</p> <p>【到達目標】・証券投資や資産運用に関するニュースを理解できるようになる。 ・各種投資商品の内容とリスクを理解し、自分に最適な投資商品を選べるようになる。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 授業内で適宜紹介する</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 ガイダンス：講義の目的・進め方 序論：資産形成が必要な理由</p> <p>第 2 回 金利：金利の仕組み、単利と複利、ローン支払い額計算</p> <p>第 3 回 貨幣の時間的価値：キャッシュフロー、現在値と将来価値、割引率</p> <p>第 4 回 債券(1)：債券とは、債券市場、債券取引</p> <p>第 5 回 債券(2)：債券の価格と利回り、債券のリスク</p> <p>第 6 回 株式(1)：株式とは、株式市場、株式取引</p> <p>第 7 回 株式(2)：株式の投資尺度、株価評価モデル、株式のリスク</p> <p>第 8 回 株式(3)：株式取引の事例</p> <p>第 9 回 証券投資と資産運用：資産運用の目的、長期・積立・分散投資の効果</p> <p>第 10 回 リスクとリターン：期待収益、リスクの測定</p> <p>第 11 回 ポートフォリオ理論(1)：安全資産とリスク資産、投資家選好</p> <p>第 12 回 ポートフォリオ理論(2)：分散投資の効果</p> <p>第 13 回 ささまざまな投資商品(1)：投資信託、ETF</p> <p>第 14 回 ささまざまな投資商品(2)：金、FX、海外投資(外国株式・債券・投信)、不動産</p> <p>第 15 回 まとめ：講義の振り返り、期末試験に関する質疑応答、講義評価アンケート実施</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示します。		
成績評価の方法	中間レポート(30%)＋期末試験(70%)		
実務経験について	国内外の金融機関で約30年の実務経験があります。		

授業科目	経済学史	担当者	未定
	[履修年次] 1, 2, 3年 [学期] 前期 [単位] 2	授業外対応	
		[必修/選択]	選択 [授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>【概要】</p> <p>【到達目標】</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) (2)		
授業スケジュール	第 1 回 第 2 回 第 3 回 第 4 回 第 5 回 第 6 回 第 7 回 第 8 回 第 9 回 第 10 回 第 11 回 第 12 回 第 13 回 第 14 回 第 15 回		
授業外学習(予習・復習)			
成績評価の方法			

授業科目	経済学特講	担当者	山口 祐司
	[履修年次] 1, 2, 3年 [学期] 後期 [単位] 2	授業外対応	メール等で予約の上適宜対応します。
		[必修/選択]	選択 [授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>アメリカ経済とアメリカを中心とした国際経済関係の歴史を通して、経済学上のキーワードを学んでいきます。</p> <p>【概要】</p> <p>アメリカの力の相対的低下にもかかわらずアメリカに学ぶ意義(第1回)。19世紀から20世紀初頭にかけてのアメリカ経済の勃興(第2～3回)。1929年に始まる大恐慌の原因と結果(第4～6回)。1950～70年代にかけて、アメリカが主導する資本主義陣営の高度経済成長とその限界(第7～9回)。1980年代以降の、「新自由主義」と呼ばれる改革をテコにした新たな経済成長の仕組み(第10～12回)。新自由主義がアメリカにもたらした問題と今後のゆくえ(第13～14回)。経済を考える上でも、科学・技術や文化、政治など、同時代の社会の動きを知ることは重要である。映像資料等を利用してそうした知識も補っていく。</p> <p>【到達目標】</p> <p>アメリカ経済の歴史から特質を学ぶこと。良い意味でも悪い意味でも資本主義経済の最先端をいくアメリカに学ぶことで、日本を含む世界が直面する経済・社会の問題に取り組む力をつけること。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2) 講義時に提示		
授業スケジュール	第 1 回 ガイダンス、なぜいまアメリカ経済を学ぶか 第 2 回 アメリカ経済の勃興(1) 大量生産体制 第 3 回 アメリカ経済の勃興(2) 債務国から世界最大の債権国へ 第 4 回 大恐慌と第二次世界大戦(1) 狂騒の1920年代 第 5 回 大恐慌と第二次世界大戦(2) 保護貿易と世界恐慌 第 6 回 大恐慌と第二次世界大戦(3) ニューディールと戦争 第 7 回 ブレトンウッズ体制とケインズ政策(1) ブレトンウッズ体制と戦後国際経済秩序 第 8 回 ブレトンウッズ体制とケインズ政策(2) ケインズ政策と持続的経済成長 第 9 回 ブレトンウッズ体制とケインズ政策(3) ドル危機と石油危機 第 10 回 新自由主義の興隆(1) レーガノミクスと金融化 第 11 回 新自由主義の興隆(2) グローバルサプライチェーンの形成 第 12 回 新自由主義の興隆(3) 先端技術とイノベーション 第 13 回 新自由主義の帰結(1) リーマンショック 第 14 回 新自由主義の帰結(2) 格差問題のゆくえ 第 15 回 まとめ		
授業外学習(予習・復習)	事前に提示する参考文献を予習し、授業後にはプリントをよく見直すようにしてください。		
成績評価の方法	期末レポート(60%)、授業ごとの小論文(40%)		

授業科目	国際経済論	担当者	未定		
	[履修年次] 1, 2, 3年 [学期] 後期 [単位] 2	授業外対応			
		[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	【テーマ】 【概要】 【到達目標】				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) (2)				
授業スケジュール	第 1 回 第 2 回 第 3 回 第 4 回 第 5 回 第 6 回 第 7 回 第 8 回 第 9 回 第 10 回 第 11 回 第 12 回 第 13 回 第 14 回 第 15 回				
授業外学習(予習・復習)					
成績評価の方法					

授業科目	アジア経済論	担当者	山本 一哉		
	[履修年次] 1, 2, 3年いずれでも履修可 [学期] 前期 [単位] 2	授業外対応			
		[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	【テーマ】 アジア諸国の経済発展と課題を学ぶ 【概要】 本講義では、東アジア、東南アジア、南アジア諸国の経済発展と構造変化を学ぶとともに、各国経済が抱える課題やアジア域内における相互依存関係（貿易・投資）の深化、また日本とアジア諸国との経済関係等について解説する。特に、アジアだけでなく世界において政治・経済的なプレゼンスを急激に高めつつある中国経済について詳しく解説する。 【到達目標】 アジア諸国の経済発展の現状、要因、プロセスと各国が抱える問題点について理解する。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント（使用しない。講義の際にレジュメ・資料を配付する）。 (2) レジュメに記載する。				
授業スケジュール	第 1 回 ガイダンスー本講義の概要と進め方について 第 2 回 日本の経済発展ー戦後の高度経済成長 第 3 回 東アジア諸国の経済発展と課題ー韓国と台湾 第 4 回 東アジア諸国の経済発展と課題ー香港とシンガポール 第 5 回 東南アジア諸国の成長戦略と構造変化ータイ・マレーシア 第 6 回 東南アジア諸国の成長戦略と構造変化ーフィリピン・インドネシア 第 7 回 東南アジア諸国の成長戦略と構造変化ーベトナムの「ドイモイ」政策と経済発展 第 8 回 国際的な資本移動とアジア通貨危機ー東南アジア・韓国 第 9 回 中国の「改革開放」戦略と経済発展 第 10 回 中国の経済発展と経済格差の拡大ー地域発展戦略の転換と産業集積 第 11 回 中国人民元改革ー為替レート制度改革・人民元国際化・資本取引の自由化 第 12 回 中国の貿易・直接投資の拡大ー一帯一路戦略・米国との通商摩擦 第 13 回 南アジア諸国の経済発展ーインド、パキスタン、バングラデシュ 第 14 回 アジア域内の相互依存の深化ー市場メカニズムと FTA による経済統合 第 15 回 日本とアジア諸国の貿易及び直接投資				
授業外学習(予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	筆記試験 (100%)				

授業科目	外国貿易論		担当者	大重 康雄	
	[履修年次]	1年, 2年, 3年	3年授業外対応	適宜対応 (要予約)	
	[学期]	後期	[単位]	2	
		[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 グローバル化という視点でとらえた貿易取引の変化とその問題について考える</p> <p>【概要】貿易や外国為替取引の仕組みをわかりやすく解説し、変化する貿易の現状とSDGs等国際間で発生する様々な課題を報道資料や日本貿易振興機構(ジェトロ)等のデータを使い考える。</p> <p>【到達目標】 貿易取引の基本的仕組み理解し、国際経済の動静に対し自分なりの見解が持てる。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) グローバル・エコノミー第3版 (有斐閣アルマ)</p> <p>(2) 講師配付プリント (毎回配付)</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 開講 貿易と私たちの暮らし</p> <p>第2回 自由貿易のもたらす利益</p> <p>第3回 新古典派貿易理論を学ぶ</p> <p>第4回 グローバル生産システムと貿易の現状</p> <p>第5回 国際収支からみた貿易の姿</p> <p>第6回 外国為替市場と為替レート</p> <p>第7回 貿易政策と貿易摩擦の歴史</p> <p>第8回 貿易決済の方法</p> <p>第9回 国際貿易の論点 中間まとめ</p> <p>第10回 世界の地域貿易協定の現状</p> <p>第11回 東アジアの発展と日本の貿易</p> <p>第12回 鹿児島県の貿易取引の現状</p> <p>第13回 グローバリゼーションの将来を考える</p> <p>第14回 グローバル・イシュー 開発と環境を考える</p> <p>第15回 まとめ</p>				
授業外学習(予習・復習)	授業中各自に質問をするのでシラバスに従って予習をしてください。また復習し次回質問すべきことをまとめておくこと。				
成績評価の方法	筆記試験(80%) + 授業での発言内容(20%)				
実務経験について	地域金融機関職員としての実務経験(外貨資金取引・貿易投資相談業務など)、AIBA認定貿易アドバイザー				

授業科目	国際関係論		担当者	福田 忠弘	
	[履修年次]	1, 2, 3年いずれも履修可	授業外対応	適宜対応	
	[学期]	前期	[単位]	2	
		[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】国際社会に生じうるさまざまな諸問題について理解する。同時に、国家以外の行為体についての理解を深める。</p> <p>【概要】本講義では、国際関係の史的展開を概説したうえで、現代国際関係における諸問題について分析する。国際関係の史的展開では、第二次世界大戦後の冷戦史(特にアジアにおける冷戦)を対象とし、国際システムの歴史的変遷をたどる。</p> <p>【到達目標】国際社会の現代的諸問題を把握し、その背景についての理解を深める。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 使用しない</p> <p>(2) 多賀秀敏編『平和学から見る世界』(成文堂、2020年)</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス：講義の目的、方法</p> <p>第2回 国際関係論の基礎1：国内社会と国際社会は何か違うのか</p> <p>第3回 国際関係論の基礎2：行為体と争点の多様化</p> <p>第4回 国際関係のなりたち1：第二次世界大戦後の秩序形成と冷戦</p> <p>第5回 国際関係のなりたち2：アジアにおける冷戦の拡大1</p> <p>第6回 国際関係のなりたち3：アジアにおける冷戦の拡大2</p> <p>第7回 国際関係のなりたち4：朝鮮戦争とベトナム戦争</p> <p>第8回 国際関係のなりたち5：大国の支配とナショナリズム</p> <p>第9回 国際関係のなりたち6：冷戦後の世界秩序</p> <p>第10回 国際社会における諸問題1：グローバリゼーションと貧困問題</p> <p>第11回 国際社会における諸問題2：貧困と開発</p> <p>第12回 国際社会における諸問題3：国境を越える諸問題</p> <p>第13回 国際社会における諸問題4：グローバルガバナンス(1)</p> <p>第14回 国際社会における諸問題5：グローバルガバナンス(2)</p> <p>第15回 まとめ</p>				
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する				
成績評価の方法	試験(100%)によって評価する。				

授業科目	アジア事情		担当者	福田 忠弘	
	[履修年次]	1, 2, 3年いずれも履修可	授業外対応	適宜対応	
	[学期]	後期	[単位]	2	
		[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】東アジア、東南アジアの歴史と現在の状況について把握する。</p> <p>【概要】アジアは、地理、歴史、言語、文化、宗教、民族など、すべての面において多様である。本講義では、「アジア」という概念のもつ多様性について基本的な理解を得ながらも、脱植民地化、国民国家建設など「共通性」について焦点をあてる。</p> <p>【到達目標】「アジア」という概念のもつ多様性について基本的な理解を深める。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 使用しない</p> <p>(2) 講義中に指示する</p>				
授業スケジュール	<p>第 1 回 ガイダンス：講義の目的と方法</p> <p>第 2 回 「アジア」という概念：アジアはどこまでがアジアか</p> <p>第 3 回 歴史的形成 1：植民地以前のアジア</p> <p>第 4 回 歴史的形成 2：植民地のようす</p> <p>第 5 回 歴史的形成 3：植民地からの独立</p> <p>第 6 回 歴史的形成 4：脱植民地化、国民国家建設、開発</p> <p>第 7 回 歴史的形成 5：冷戦下のアジア</p> <p>第 8 回 東南アジア 1：インドシナ三国</p> <p>第 9 回 東南アジア 2：ベトナム戦争の影響</p> <p>第 10 回 東南アジア 3：タイ、ミャンマー、マレーシア</p> <p>第 11 回 東南アジア 4：メコン河流域開発</p> <p>第 12 回 東南アジアの地域協力体制：ASEAN の形成</p> <p>第 13 回 アジアにおける協力体制 1：ASEAN を中心とする協力 1</p> <p>第 14 回 アジアにおける協力体制 2：ASEAN を中心とする協力 2</p> <p>第 15 回 まとめ</p>				
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する				
成績評価の方法	レポート (100%) によって評価する。				

授業科目	地域経済論		担当者	岡田 登	
	[履修年次]	1, 2, 3年	授業外対応	適宜対応	
	[学期]	前期	[単位]	2	
		[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】地域経済構造及び理論を理解する。</p> <p>【概要】経済のグローバル化が進行し、国内においても地域間格差が拡大する中で、地域的な特徴を見極めて経済の再建と発展を図ることが求められる。この講義では、地域経済構造と基本的な理論を学び、地域の発展に向けた対応策について検討する。</p> <p>【到達目標】地域経済構造と理論を正確に理解することで、地域の特徴を分析する能力を身につけ、その発展に向けて考察できるようにする。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 授業中に適宜紹介する</p>				
授業スケジュール	<p>第 1 回 はじめに：講義の目標、地域とは何か、等質地域と機能地域からみた地域経済</p> <p>第 2 回 都市地域論 (1)：都市と農村、都市化の概念、都市の発展段階</p> <p>第 3 回 都市地域論 (2)：都市の内部構造とメカニズム、都市システム</p> <p>第 4 回 産業地域論：産業構造の変化、都市の機能、都市の分類、地域経済基盤分析</p> <p>第 5 回 第三次産業地域論：中心地理論</p> <p>第 6 回 工業地域論：工業立地の変動、工業立地論、工業立地の分散</p> <p>第 7 回 農業地域論：農業立地論、農業地域区分、技術の地域的拡散</p> <p>第 8 回 漁業林業地域論：漁業地域の資源管理とコモンズ論、林業地域の資源管理とガバナンス</p> <p>第 9 回 地域経済分析：地域経済計算、地域成長の経済分析、地域間格差</p> <p>第 10 回 内発的発展論：定義、事例紹介</p> <p>第 11 回 都市計画とまちづくり：仕組み、中心市街地と郊外、景観と緑地</p> <p>第 12 回 コンパクトシティ：経緯と概念、都市空間の形成、公共交通ネットワーク</p> <p>第 13 回 地域連携 (1)：地域内連携、地域間連携</p> <p>第 14 回 地域連携 (2)：産業連携</p> <p>第 15 回 まとめ</p>				
授業外学習(予習・復習)	復習をして次回の講義を受けること				
成績評価の方法	授業時に実施するレポート (40%) + 期末試験 (60%)				
実務経験について	自治体の元職員				

授業科目	地域産業政策	担当者	岡田 登
	[履修年次] 1, 2, 3年	授業外対応	適宜対応
	[学期] 後期 [単位] 2	[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】地域間格差の実態を理解し、これからの地域づくりの方策を探る。</p> <p>【概要】経済のグローバル化が進行し、国内においても地域間格差が拡大する中で、地域的な特徴を見極めて経済の再建と発展を図ることが求められる。地域経済論では地域経済構造と基本的な理論を学ぶが、この講義では地域間格差の現状と顕在化する問題点を理解し、これからの地域づくりの方策を探る。</p> <p>【到達目標】地域間格差の現状と問題点を正確に理解し、具体的な取り組みの実態を学び、地域のあり方を考えて発想できるようになる。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 授業中に適宜紹介する</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 はじめに：講義の目標</p> <p>第2回 政策的要因(1)：国土総合開発法、全国総合開発計画</p> <p>第3回 政策的要因(2)：新全国総合開発計画、第三次全国総合開発計画</p> <p>第4回 政策的要因(3)：第四次全国総合開発計画、21世紀の国土のグランドデザイン</p> <p>第5回 地域間格差の現状(1)：ライフコースと人口移動</p> <p>第6回 地域間格差の現状(2)：産業、社会、生活</p> <p>第7回 地域間格差の是正(1)：過疎化対策、広域的市町村合併、地方分権</p> <p>第8回 地域間格差の是正(2)：国土形成計画法、地方創生</p> <p>第9回 地域づくりの事例(1)：大都市地域</p> <p>第10回 地域づくりの事例(2)：都市地域</p> <p>第11回 地域づくりの事例(3)：工業地域</p> <p>第12回 地域づくりの事例(4)：農村地域</p> <p>第13回 地域づくりの事例(5)：観光業地域</p> <p>第14回 地域のあり方を考える：鹿児島を事例に</p> <p>第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	復習をして次回の講義を受けること		
成績評価の方法	授業時に実施するレポート(40%)＋期末試験(60%)		
実務経験について	自治体の元職員		

授業科目	地方財政論	担当者	船津 潤
	[履修年次] 1年, 2年, 3年いずれでも履修可	授業外対応	講義前後、それ以外も随時(日時を調整することがあるかもしれませんが、遠慮なく声をかけてください)
	[学期] 後期 [単位] 2	[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】地方財政に関する基本的な概念や理論、日本の地方財政制度の内容、実態、特徴、課題に関する理解を深めること</p> <p>【概要】地方自治とは何か、日本の国と地方自治体との関係(政府間関係)の特徴を踏まえて、日本の地方財政について、基本的な概念や理論、制度について講義します。そこでは、地方団体の自治体としての側面と国の地方行政機関としての側面の葛藤やグローバル化など、地方財政に改革が求められている背景、そして生活の基盤を支える地方財政の重要性を強く意識しながら講義を進めます。</p> <p>【到達目標】①日本の地方財政制度について理解し、説明できるようになること ②地方財政について主体的に考察し、判断できるようになること ③自分が暮らす地域の課題を見出し、その解決策を提案できるようになるための基礎力を身につけること</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) なし</p> <p>(2) 総務省編『地方財政白書 各年版』日経印刷</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス：講義の目標、評価基準等の説明</p> <p>第2回 地方自治(1)：定義、地方政府の特徴、地方分権が求められる背景等</p> <p>第3回 地方自治(2)：グローバル化の影響等</p> <p>第4回 地方の予算(1)：予算の役割、地方予算の特徴、中央と地方の相互依存関係等</p> <p>第5回 地方の予算(2)：日本の制度の特徴、課題、日本の政府間関係の特徴の影響等</p> <p>第6回 地方の決算：定義、日本の制度と問題点、外部監査、市民オンブズマン等</p> <p>第7回 地方の経費(1)：定義、主な分類とその見方、都道府県と市町村の違い等</p> <p>第8回 地方の経費(2)：義務的経費と投資的経費、その問題点等</p> <p>第9回 国庫支出金(1)：補助金の分類、国庫支出金とは、求められる役割、補助金制度において配慮すべき原則等</p> <p>第10回 国庫支出金(2)：実態、問題点、三位一体の改革等</p> <p>第11回 地方交付税(1)：財政調整制度とは、地方交付税の制度等</p> <p>第12回 地方交付税(2)：機能、問題点等</p> <p>第13回 地方債：定義、適債事業、2006年度からの変化等</p> <p>第14回 住民自治：シアトル・メトロの事例について</p> <p>第15回 まとめ：講義を振り返りつつポイントの説明、試験についての説明等</p>		
授業外学習(予習・復習)	講義の前後に総務省のサイト等で関連事項について調べ、検討すること、普段から地方財政関連のニュースに注目すること(できれば外国のメディア(民間企業との関係では特に興味深い)記事を出すことがあります)を含む複数)を勧めます(公務員試験を含む就職活動や四大への編入(地域との連携は殆どの大学にとって重要な課題です)にも非常に有効です)。そして、講義内容に直接関係しなくても、聞きたいことが出てきたら、遠慮なく質問してください。		
成績評価の方法	筆記試験(80%)、小テスト(20%)を基本とし、アクティブラーニングでの発言内容で加点します。小テストやアクティブラーニング等の詳細については1回目の講義(ガイダンス)で説明します。		

授業科目	非営利組織論		担当者	丸田 真悟				
	[履修年次]	1,2,3年	授業外対応	適宜対応 (要予約)				
	[学期]	後期	[単位]	2	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】現代社会における非営利組織 (NPO) の役割と課題そして可能性</p> <p>【概要】非営利組織 (NPO) は、医療・福祉から街作り、学術・文化・芸術、国際交流まで社会のあらゆる分野で市民の多種多様なニーズに応えるサービスを創り出しています。行政や企業との協働も一段と進み、その存在は今や市民生活の中で重要な位置を占めるようになってきました。一方でNPOを巡る環境も大きく変わりつつあります。そこで本講義ではNPOの概念と組織運営について考えると共に、現代日本社会におけるNPOの役割と課題、これからの可能性について考えます。</p> <p>【到達目標】NPOに関する基本的な知識を習得し、現代社会におけるNPOの役割と課題、可能性を考える基盤を養います。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを使用</p> <p>(2) 雨森孝悦『テキストブック NPO 第3版』東洋経済新報社 (2020)、澤村明・田中敬文・黒田かをり・西出優子『はじめてのNPO論』有斐閣 (2017)、田尾雅夫・吉田忠彦『非営利組織論』有斐閣 (2009) ほか随時紹介します。</p>							
授業スケジュール	<p>第1回 非営利組織 (NPO) とは何か 「非営利」の意味、NPOの定義について考えます。</p> <p>第2回 NPOとボランティア NPOを支える理念について考えます。</p> <p>第3回 NPOの歴史と存在理由 資本主義経済の中で存在感を増している理由を考えます。</p> <p>第4回 NPOの世界① 様々なNPOの活動分野とその組織としての特徴について考えます。</p> <p>第5回 NPOの世界② 様々なNPOの活動分野とその組織としての特徴について考えます。</p> <p>第6回 NPOの機能 NPOが社会において果たしている機能について考えます。</p> <p>第7回 NPOにかかわる制度と政策 NPOの運営や税に関する制度について考えます。</p> <p>第8回 行政、企業とNPO 行政や企業との「協働」・「パートナーシップ」について考えます。</p> <p>第9回 NPOのマネジメント① NPOの経営管理について考えます。</p> <p>第10回 NPOのマネジメント② NPOの経営戦略について考えます。</p> <p>第11回 NPOのマネジメント③ NPOの資金調達と評価手法について考えます。</p> <p>第12回 (WS) NPOをつくる① 具体的にNPOを考え、立ち上げる実習です。</p> <p>第13回 (WS) NPOをつくる② 具体的にNPOを考え、立ち上げる実習です。</p> <p>第14回 NPOの課題と可能性 NPOを取り巻く環境とそこから見えてくる課題と可能性について考えます。</p> <p>第15回 まとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	適宜指示							
成績評価の方法	レポート (70%) + 授業ごとに実施する小論文 (30%)							
実務経験について	認定 NPO 法人理事長							

授業科目	労働法		担当者	疋田 京子				
	[履修年次]	1, 2, 3年	授業外対応	コミュニケーションカードを利用する				
	[学期]	後期	[単位]	2単位	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】ディーセント・ワーク (人間らしい働き方) を実現するための基礎知識</p> <p>【概要】「過労死」が国際語として通用するほど有名な日本の長時間労働。また顕著になってきた正規と非正規の格差の拡大。こうした日本企業に根強い労働慣行は、どのような法制度の中で起こったのか。改革を目指す法整備と共に考える。</p> <p>【到達目標】働くときに知っておくべき労働者の権利と、使用者が守るべき義務とは何かを理解する。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布する。</p> <p>(2) 講義時に適宜紹介する。</p>							
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス：労働法を知る大切さ。</p> <p>第2回 憲法—民法—労働法の関係：労働組合って何？</p> <p>第3回 労働法と労働契約：自分の労働条件を知らないとなどうなる？</p> <p>第4回 賃金に関するルール：研修期間中は最低賃金法の適用がないってホント？</p> <p>第5回 労働時間に関するルール：タイムカードはいつ押すの？</p> <p>第6回 労働時間に関するルール (2)：時間外労働・深夜労働・休日労働とは？</p> <p>第7回 「各種保険完備」とは：パイトのケガは自己責任？</p> <p>第8回 労働契約終了のパターン：辞めると辞めさせられるは何が違う？</p> <p>第9回 有給休暇の権利：アルバイトにも有給休暇があるってホント？</p> <p>第10回 産前・産後・育児・介護休業：働くことは人権です！</p> <p>第11回 内定辞退と内定取消し：「必ず入社します」と誓約書を出したら内定辞退はできないの？</p> <p>第12回 募集・採用に対する法的規制：採用面接で会社は何を質問してもいいの？</p> <p>第13回 賃金に関する応用問題：残業代込みの基本給の場合、それ以上の残業代は出ないの？</p> <p>第14回 労働契約の応用問題：契約社員は契約期間が満了したらどうしたらいいの？</p> <p>第15回 まとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	復習をしっかりとってください。							
成績評価の方法	2回のレポート (中間レポートと最終レポート) の提出 (80%) 授業ごとのミニレポート (20%)							
実務経験について								

授業科目	地域研究特講	担当者	山本 晃正
	[履修年次] 1年, 2年, 3年 [学期] 前期 [単位] 2	授業外対応	講義終了時に適宜対応します
		[必修/選択]	選択 [授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 消費者をめぐる法律問題の諸相</p> <p>【概要】 様々な手口の悪徳商法や詐欺的商法の手口とその規制, 危険な製品による被害の賠償, 危険な投機的取引の規制, サラ金の規制, 公正な競争や表示の規制など, われわれ消費者が日々の消費生活で直面する様々な法律問題を, 消費者に認められている各種の諸権利の理解を中心として, 最新の法律改正も交えながら, できるだけ具体的事例を取り上げながら考えていく。</p> <p>【到達目標】 消費者の性格と, 直面する法律上の諸問題を具体的かつ多面的に理解し, その上で, 消費者に保障されている法律上の制度や諸権利の内容を理解する。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 杉浦市郎編著『新・消費者法これだけは〔第3版〕』法律文化社</p> <p>(2)</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 消費者と契約: 悪徳商法のターゲットと手口, 契約とは何か, 契約の拘束力からの離脱</p> <p>第2回 消費者と契約: 消費者契約法 (目的, 対象, 取消権)</p> <p>第3回 消費者と契約: 消費者契約法 (不当条項の無効, 適格消費者団体による差止請求権), 電子消費者契約法</p> <p>第4回 消費者と契約: 特定商取引法 (規制対象, 訪問販売・電話勧誘販売の諸規制)</p> <p>第5回 消費者と契約: 特定商取引法 (訪問販売・電話勧誘販売での民事救済制度, クーリングオフの意味と制度概要)</p> <p>第6回 消費者と契約: 特定商取引法 (通信販売・特定継続的役務提供・業務提供誘引販売取引・連鎖販売取引=マルチ)</p> <p>第7回 消費者と契約: 特定商取引法 (送り付け商法), 無限連鎖講防止法, 復習のための第1回模擬演習テスト</p> <p>第8回 消費者と安全: 製造物責任法 (目的, 製造物の概念・欠陥の概念・責任主体・製造物責任・免責事由)</p> <p>第9回 消費者と信用取引: 貸金業法とグレーゾーン金利など</p> <p>第10回 消費者と信用取引: 割賦販売法 (割賦販売・ローン提携販売・信用購入あっせん)</p> <p>第11回 消費者と金融商品取引: 金融商品取引法 (投資家=消費者保護規制) と金融商品販売法</p> <p>第12回 消費者と公正な競争秩序の維持: 独占禁止法 (競争政策の意味, カルテル禁止と灯油裁判, 共同の取引拒絶など)</p> <p>第13回 消費者と公正な競争秩序の維持: 独占禁止法 (差別対価, 不当廉売, 抱合せ販売, 再販売価格の拘束)</p> <p>第14回 消費者と不当表示・景品提供: 不当景品類及び不当表示防止法 (景品表示法・改正法)</p> <p>第15回 まとめ: 消費者基本法, 消費者の諸権利, 復習のための第2回模擬演習テスト</p>		
授業外学習(予習・復習)	テキストの該当ページを読み, ほぼ毎回配付する資料も利用して, 予習と復習を行って下さい。		
成績評価の方法	筆記試験 (100%)		

授業科目	地方自治法	担当者	山本 敬生
	[履修年次] 1,2,3年履修可 [学期] 後期 [単位] 2単位	授業外対応	適宜対応 (要予約)
		[必修/選択]	選択 [授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】住民自治, 団体自治といった地方自治の基礎理論を理解した上で, 地方公共団体の種類及び事務, 住民の権利義務, 条例と規則, 議会, 執行機関を中心に地方自治法を体系的に学習し, 地方の時代における国と地方公共団体との新たな関係について検証することをテーマにする。</p> <p>【概要】地方自治法は, 国と地方自治公共団体の役割分担, 機関委任事務の廃止に伴う法定受託事務の創設, 普通地方公共団体に対する国または都道府県の関与, 国と普通地方公共団体との間の係争処理手続等を規定している。本講義では, 地方自治法をわかりやすく解説することで, 地方自治法が地方分権改革を推進する上でいかなる役割を果たすかを学習する。</p> <p>【到達目標】地方自治法の基本構造を正確に理解し, 国と地方公共団体のあるべき関係を法的視点から考察できる力を習得することを目標にする。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 佐伯仁志他編, 『ポケット六法 (令和4年度版)』, 有斐閣</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 地方自治の意義</p> <p>第2回 地方公共団体の種類</p> <p>第3回 地方公共団体の区域・事務</p> <p>第4回 住民の権利義務(1)</p> <p>第5回 住民の権利義務(2)</p> <p>第6回 条例と規則(1)</p> <p>第7回 条例と規則(2)</p> <p>第8回 議会(1)</p> <p>第9回 議会(2)</p> <p>第10回 執行機関(1)</p> <p>第11回 執行機関(2)</p> <p>第12回 国等の地方公共団体への関与</p> <p>第13回 長と議会との関係(1)</p> <p>第14回 長と議会との関係(2)</p> <p>第15回 予算</p>		
授業外学習(予習・復習)	復習を重視する。		
成績評価の方法	筆記試験 (90%) + 授業での発言内容 (10%) を基準にして評価する。		

授業科目	簿記論Ⅱ		担当者	岡村 雄輝
	[履修年次]	1, 2, 3年	授業外対応	講義前後に適宜対応
	[学期]	後期	[単位]	2単位
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】複式簿記の基本原則を学ぶ</p> <p>【概要】日商簿記3級レベルのテキスト、ワークブックを使用して複式簿記による記帳手続を解説し、問題演習に取り組みます。簿記力を着実に養い、より高度な会計を学ぶためには、問題演習の反復を通じた複式簿記の基本原則の理解が肝要です。勤勉な学習姿勢が望まれます。※簿記論Ⅰと連続して講義を展開しますので、併せて受講してください。</p> <p>【到達目標】個別の勘定科目に応じた決算手続、補助簿、伝票の記入を学習する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 渡部裕互, 片山寛, 北村敬子 (編)『新検定 簿記講義3級 商業簿記』『新検定 簿記ワークブック』(令和4年版), 中央経済社。</p> <p>(2) 伊藤龍峰ほか『基本簿記原理』(第2版), 中央経済社。</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 簿記とは? : 簿記の意義, 目的, 財務諸表</p> <p>第2回 仕訳と転記: 仕訳の意義, 勘定への転記</p> <p>第3回 決算: 決算の意義と手続, 試算表作成</p> <p>第4回 決算: 帳簿の締切りと財務諸表の作成, 決算手続と精算表</p> <p>第5回 現金と預金: 当座預金と当座借越, その他の預金, 小口現金</p> <p>第6回 繰越商品・仕入・売上: 仕入帳と売上帳, 商品有高帳</p> <p>第7回 売掛金と買掛金: 売掛金明細表と買掛金明細表, クレジット売掛金, 前払金と前受金</p> <p>第8回 その他の債権と債務: 仮払金と仮受金, 受取商品券, 差入保証建</p> <p>第9回 有形固定資産: 有形固定資産の取得と売却, 減価償却, 固定資産台帳, 年次決算と月次決算</p> <p>第10回 資本: 株式会社の設立と株s期の発行, 繰越利益剰余金, 配当</p> <p>第11回 収益と費用: 収益・費用の未収・未払いと前受け・前払い, 消耗品と貯蔵品</p> <p>第12回 伝票: 仕訳帳と伝票, 3伝票制, 伝票から帳簿への記入, 伝票の集計</p> <p>第13回 財務諸表: 精算表の作成, 財務諸表の作成</p> <p>第14回 総合問題: 問題演習と解説②</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	毎回復習をすること。継続的な学習なしに簿記はできるようになりません。			
成績評価の方法	期末テスト80%, 小テスト20%			

授業科目	経営管理論		担当者	竹中 啓之
	[履修年次]	1,2,3年いずれでも履修可	授業外対応	適宜対応(要予約)、及び講義終了後
	[学期]	後期	[単位]	2単位
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】企業経営や組織運営での「ヒト」及び「組織」の管理方法について講義する。</p> <p>【概要】2人以上の個人が集団として活動する場合、そこには必ずその集団の行動を調整する役割が必要となり、その役割を一般的に「管理」と呼んでいます。すなわち管理はすべての集団・組織において存在する職能であるといえます。また「経営」とは、財またはサービスを生産する経済活動に従事する組織体を統制することだと定義することができます。</p> <p>したがって経営管理とは、経営活動を行う組織体を調整する職能ということになり、このような活動を行うのは経営者や管理者の役割です。この講義では、彼らが、目的を実行するための効率的な組織運営のための工夫や、組織内部にいる関係者および組織外部のさまざまな状況との関わり合いの中、対処している方法について講義していきます。</p> <p>【到達目標】組織管理の難しさを理解する。経営管理に関する諸学説を概観する。経営管理に関連する専門用語を知る。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 授業中に配布するプリント</p> <p>(2) 講義中に指示する</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 講義概要の説明: 講義の進め方・内容・評価方法について説明する。</p> <p>第2回 経営管理論とは何か: 管理論の特徴と他の経営学関連の科目と連携について説明する。</p> <p>第3回 組織における人間(1): 企業で人を管理する際の基本となる考え方などについて説明する。</p> <p>第4回 組織における人間(2): テイラーの科学的管理法と「経済人モデル」について説明する。</p> <p>第5回 組織における人間(3): メイヨー他の人間関係論と「社会人モデル」について説明する。</p> <p>第6回 組織における人間(4): マズローの欲求階層説と「自己実現人モデル」について説明する。</p> <p>第7回 他の動機づけモデルについて説明し、改めて人が働く意欲とはどのように生み出されるのか考える。</p> <p>第8回 人的資源管理(1): 企業での人的資源管理全体の流れや考え方について説明する。</p> <p>第9回 人的資源管理(2): 採用管理について説明する。</p> <p>第10回 人的資源管理(3): 人事異動(初任配置・配置転換・昇進など)について説明する。</p> <p>第11回 人的資源管理(4): 人材育成の基礎について説明する。</p> <p>第12回 人的資源管理(5): 人材育成の「熟練」について考えていく。</p> <p>第13回 人的資源管理(6): 人事評価の仕組みと賃金管理について説明する。</p> <p>第14回 リーダーの役割とは何か: リーダー(上司)として適切な行動とは何かを考える。</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。			
成績評価の方法	期末筆記試験(70%)、中間レポートもしくは小テスト(30%)(予定) 詳細は1回目の講義で説明します。			

授業科目	労務管理論		担当者	近間 由幸		
	[履修年次]	1,2,3年	授業外対応	適宜対応 (要予約)		
	[学期]	後期	[単位]	2単位	[授業形態]	講義
			[必修/選択]	選択		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 労務管理に関わる諸制度と働く人々に及ぼす影響について</p> <p>【概要】 授業では、日本型雇用慣行の下での労務管理の諸制度とそれらが成立した背景について解説し、それらが時代にに応じて一定の合理性を持っていたことを解説する。また、それらの諸制度がどのような労働問題を生じさせてきたのかを解説する。</p> <p>【到達目標】 歴史的・国際的な視点から、企業の働き方には多様な形が存在することを理解し、受講学生が現代の企業に望ましい労働環境とは何かについて考えられることを到達目標とする。</p>					
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 梶原豊・吉村孝司編『働き方改革時代の人的資源管理』同友館 守屋貴司・中村艶子・橋場俊展『価値創発 (EVP) 時代の人的資源管理 Industry4.0 の新しい働き方・働き方』ミネルヴァ書房</p>					
授業スケジュール	<p>第 1 回 インTRODクシヨン - 講義の概要と労務管理を学ぶ意義について</p> <p>第 2 回 労務管理とはなにか</p> <p>第 3 回 雇用管理制度のしくみ</p> <p>第 4 回 組織構造と職務内容</p> <p>第 5 回 キャリア開発のしくみ</p> <p>第 6 回 賃金管理制度のしくみ (1) 一年功賃金とはなにか</p> <p>第 7 回 賃金管理制度のしくみ (2) 職能給と職務給</p> <p>第 8 回 人事評価制度のしくみ</p> <p>第 9 回 福利厚生制度のしくみ</p> <p>第 10 回 労働時間管理のしくみ</p> <p>第 11 回 日本企業の女性管理職・役人の現状と労務管理</p> <p>第 12 回 ダイバーシティ・マネジメント</p> <p>第 13 回 労務管理と労働組合</p> <p>第 14 回 労務管理の国際比較</p> <p>第 15 回 全体のまとめ</p>					
授業外学習(予習・復習)	適宜指示					
成績評価の方法	授業ごとのミニレポート (30%) 筆記試験 (70%)					

授業科目	原価計算		担当者	宗田 健一		
	[履修年次]	1～3年いずれも履修可	授業外対応	適宜対応		
	[学期]	前期	[単位]	2	[授業形態]	講義
			[必修/選択]	選択		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 原価計算入門</p> <p>【概要】 原価はソフトウェアや基幹システムなどに基本的なデータを入力すれば自動的に計算されます。しかし、システムがどのような計算過程を経て原価を計算しているのかを知らなければ、システム構築や改善はできないでしょう。この講義では、原価計算の基礎について論説し、計算問題を繰り返すことで原価計算を学びます。</p> <p>【到達目標】 原価計算の理論的な理解、計算能力の獲得</p>					
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 高橋賢『テキスト原価計算』(第3版) 中央経済社</p> <p>(2) 伊丹敬之・青木康晴『現場が動き出す会計』日本経済新聞社</p>					
授業スケジュール	<p>第 1 回 ガイダンス、原価および原価計算の基礎知識</p> <p>第 2 回 原価の費目別計算</p> <p>第 3 回 製造間接費の計算</p> <p>第 4 回 単純個別原価計算</p> <p>第 5 回 原価の部門別計算と部門別個別原価計算</p> <p>第 6 回 中間レポート</p> <p>第 7 回 単純総合原価計算</p> <p>第 8 回 総合原価計算における減損費と仕損費の処理</p> <p>第 9 回 工程別総合原価計算と組別総合原価計算</p> <p>第 10 回 等級別総合原価計算と連産品の原価計算</p> <p>第 11 回 標準原価計算 1</p> <p>第 12 回 標準原価計算 2</p> <p>第 13 回 直接原価計算</p> <p>第 14 回 CVP 分析</p> <p>第 15 回 まとめ：試験範囲の提示、成績評価方法の説明、質疑応答、授業評価アンケートの実施</p>					
授業外学習(予習・復習)	復習が大切です。毎回、計算問題に取り組む予定です。					
成績評価の方法	中間レポート (30%)、期末レポート (70%)					

*受講生の学習進捗状況、従前の会計系履修済み科目の状況に応じて授業スケジュールを変更する場合があります。
会計学総論、簿記論 I、簿記論 II、管理会計論を受講済みであることが望ましい。もしくは、日商3級レベルの簿記を学習済みであることが望ましい。

授業科目	経営学特講		担当者	瀬口 毅士	
	[履修年次]	1～3年	授業外対応	適宜対応 (要予約)	
	[学期]	後期	[単位]	2単位	
		[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 現代における多国籍企業の市場戦略を理解する</p> <p>【概要】 本講義は、現代における多国籍企業の市場戦略について講義します。プリントの配付と板書を基本としつつ、現代の多国籍企業を理解する上で有益な各種資料を使用しながら進めます。また、リアクションペーパーやグループ・ワークを活用することで、双方向の授業を目指します。したがって、他の学生と議論し皆の前で発表することに対して積極的に参加できる学生さんの受講を望みます。</p> <p>【到達目標】 多国籍企業の市場戦略における現代の特徴を知る。本講義で学んだ知識や視角を基に、新聞や経済誌などで得られる企業活動に関する情報を理解し、分析できる能力を涵養する。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリントを配付 (2)				
授業スケジュール	<p>第 1回 インTRODakション：授業の進め方や成績の評価方法を確認する。</p> <p>第 2回 多国籍企業とは何か：多国籍企業の定義や国内企業との相違について解説する。</p> <p>第 3回 多国籍企業の経営環境（1）：グローバル化を中心に、多国籍企業の経営環境を講義する。</p> <p>第 4回 多国籍企業の経営環境（2）：各種資料を用いて、経営環境の現代の特徴を考える。</p> <p>第 5回 多国籍企業の経営環境（3）：グループ・ワークを通じて、現代の経営環境について議論する。</p> <p>第 6回 多国籍企業の活動（1）：各種資料を用いて、現代社会における多国籍企業の重要性を考える。</p> <p>第 7回 多国籍企業の活動（2）：グループ・ワークを通じて、多国籍企業の経営戦略について議論する。</p> <p>第 8回 市場戦略の現代の特徴（1）：現代企業における市場戦略の特徴を解説する。</p> <p>第 9回 市場戦略の現代の特徴（2）：各種資料を通じて、市場戦略に関する理解を深める。</p> <p>第 10回 市場戦略の現代の特徴（3）：グループ・ワークによって、多国籍企業の市場戦略について考える。</p> <p>第 11回 文化とは何か：文化の定義や企業活動との関連性について解説する。</p> <p>第 12回 多国籍企業の市場戦略と文化の関係（1）：多国籍企業の市場戦略と文化の関係について講義する。</p> <p>第 13回 多国籍企業の市場戦略と文化の関係（2）：各種資料によって、多国籍企業の市場戦略と文化を考える。</p> <p>第 14回 多国籍企業の市場戦略と文化の関係（3）：グループ・ワークによって、これまでの内容を検討する。</p> <p>第 15回 まとめ：全体の流れを振り返りながら、講義のポイントについて解説する。</p>				
授業外学習(予習・復習)	授業のなかで適宜指示します。				
成績評価の方法	期末筆記試験 (70%) +リアクション・ペーパー、グループ・ワーク、授業に取り組む姿勢など (30%)				

授業科目	情報管理論		担当者	竹中 啓之	
	[履修年次]	1,2,3年いずれでも履修可	授業外対応	適宜対応 (要予約)、及び講義終了後	
	[学期]	後期	[単位]	2単位	
		[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 現代社会における情報への正しい理解と、情報管理の重要性について考えていく。</p> <p>【概要】 情報社会の現在、多様な情報の取捨選択が問題となっている。また、有効な情報を無数のデータの海から選り分け、意味のあるものとして加工する能力も必要とされている。このような作業を情報管理ととらえることができるが、実はこの作業の基礎には、情報とはそもそもどのようなものなのか、情報を管理することによって何をしようとしているのか、どの視点から情報を捉えようとしているのか、といった単に情報管理技術だけではない、社会科学的な知識も必要となる。</p> <p>そこで、この授業ではこの点を意識しながら、情報を巡るさまざまな考え方について講義をおこなうことにする。</p> <p>【到達目標】 今日的な情報の定義を理解する。メディアリテラシーに考え方について理解する。単なるデータと情報の違いを理解し、情報があふれる社会の危険性や問題点について考える。企業での情報の効果的な活用について考える。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 授業中に配布するプリント (2) 講義中に指示する				
授業スケジュール	<p>第 1回 講義概要の説明：講義の進め方・内容・評価方法について説明する。</p> <p>第 2回 情報とは何か・情報の定義（1）：情報の定義を確認し、「情報」と「データ」の違いなどを説明する。</p> <p>第 3回 情報とは何か・情報の定義（2）：情報の単位や具体的事例を示して、情報の重要性を理解する。</p> <p>第 4回 情報(化)社会について取り上げ、「産業の情報化」「情報の産業化」などについて説明する。</p> <p>第 5回 情報リテラシーについて（1）：情報リテラシーの概要について説明する。</p> <p>第 6回 情報リテラシーについて（2）：リテラシー能力の必要性について具体的事例を踏まえ説明する。</p> <p>第 7回 情報リテラシーについて（3）：情報リテラシーとメディアリテラシーの関係について考える。</p> <p>第 8回 メディアの歴史について（1）：各種メディアについて理解を深める（新聞～テレビ）。</p> <p>第 9回 メディアの歴史について（2）：各種メディアについて理解を深める（テレビ～ネット）。</p> <p>第 10回 自分のメディア史を考える：ワークシートを利用して、自分とメディア媒体との関係を考える。</p> <p>第 11回 情報操作：情報操作とは何かを説明する。</p> <p>第 12回 炎上について：主にネット上で起こる「炎上」について取り上げ、特徴や対策について考える。</p> <p>第 13回 情報と編集：情報発信における編集作業の重要性を認識し、編集という考え方の理解を深める。</p> <p>第 14回 情報化の必要性：現代社会における情報化の必要性とその意味について考える。</p> <p>第 15回 まとめ</p>				
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。				
成績評価の方法	期末筆記試験 (70%)、中間レポートもしくは小テスト (30%) (予定) 詳細は1回目の講義で説明します。				

授業科目	会計情報論		担当者	宗田 健一				
	[履修年次]	2, 3年いずれも履修可	授業外対応	適宜対応				
	[学期]	後期	[単位]	2	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 会計情報の作成方法、伝達方法、利用方法を知る</p> <p>【概要】 会計情報の作成方法についての基礎を学ぶ。開示される会計情報について、その仕組みを知る。開示された会計情報の利用方法を知る。</p> <p>各種分析手法（成長性、収益性、安全性）について学習し、個別企業・グループの財務諸表分析を行います。その際、『金融商品取引法に基づく有価証券報告書等の開示書類に関する電子開示システム』（通称：EDINET（Electronic Disclosure for Investors' Network））を用いて実際の財務諸表データを入手して各種分析を行います。</p> <p>【到達目標】 会計情報の作成、伝達、利用の方法を知る。基本的な財務諸表分析が行えるようになる。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 宇田川荘二『中小企業の財務分析』（第5版）同友館（予定） (2)							
授業スケジュール	第1回 ガイダンス：履修登録確認、講義計画に関する説明 第2回 会計情報の利用者：利害関係者、会計情報の入手方法（EDINETの使い方、アニュアルレポートの入手等） 第3回 有価証券報告書：全体像、記載内容の確認、分析対象企業の絞り込み 第4回 会計学と財務情報・非財務情報について 第5回 財務諸表分析による企業分析①（収益性分析：ROA、ROEなど） 第6回 財務諸表分析による企業分析②（収益性分析：損益分岐点分析など） 第7回 財務諸表分析による企業分析③（成長性分析：各種増加率など） 第8回 財務諸表分析による企業分析④（成長性分析：売上予測など） 第9回 財務諸表分析による企業分析⑤（安全性分析：短期的視点、長期的視点など） 第10回 財務諸表分析による企業分析⑥（キャッシュ・フロー分析①） 第11回 財務諸表分析による企業分析⑦（キャッシュ・フロー分析②） 第12回 時系列分析（2社以上） 第13回 同業他社比較分析（2社以上） 第14回 学生による分析報告とディスカッション 第15回 まとめ：レポート試験の提示、成績評価方法の説明、質疑応答、授業評価アンケートの実施							
授業外学習(予習・復習)	復習が大切です。毎回、宿題を課します。							
成績評価の方法	中間レポート（30%）、期末レポート（70%）							

*受講生の学習進捗状況、従前の会計系履修済み科目の状況に応じて授業スケジュールを変更する場合があります。

授業科目	経営戦略論		担当者	瀬口 毅士				
	[履修年次]	1~3年	授業外対応	適宜対応（要予約）				
	[学期]	後期	[単位]	2単位	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 経営戦略論に関する基本的知識を習得する</p> <p>【概要】 経営戦略とは、外部環境の変化に対応しながら長期的な存続・発展を図るための、企業の意思決定を意味します。経営戦略論のなかでも、企業全体の戦略である「企業戦略」、および事業ごとの戦略である「競争戦略」を中心に講義します。さらに、最近の企業動向を紹介しながら、現代社会における経営戦略のあり方についても解説します。</p> <p>【到達目標】 経営戦略論の基本概念を知るとともに、各概念がどのような関係にあるのかについても考えることができる。また、講義を通じて獲得した知識を基に、企業に関するニュースや新聞などの情報をより理解できるようになる。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリントを配付 (2)							
授業スケジュール	第1回 イントロダクション：授業の進め方や成績の評価方法を確認する。 第2回 経営戦略とは何か：経営戦略論の概要を説明する。 第3回 経営理念とドメイン：経営戦略およびドメイン（事業領域）について解説する。 第4回 規模の経済と範囲の経済、垂直統合と水平統合：規模の経済等の基本タームを説明する。 第5回 多角化戦略：関連型多角化と非関連型多角化の違いを中心に、企業の多角化戦略について考える。 第6回 M&Aと戦略的提携（1）：実例を紹介しながら、M&Aの戦略上のメリットとデメリットを解説する。 第7回 M&Aと戦略的提携（2）：主に戦略的提携について講義する。M&Aとの相違点を考える。 第8回 経験曲線とPLC：PPMの基礎となる、経験曲線とPLCについて解説する。 第9回 PPM：全社的視点から、経営資源の配分について考える。 第10回 経営戦略の実際：実際の企業を事例として、経営戦略の重要性を再確認する。 第11回 競争戦略論とは何か：競争戦略論の概要や競争戦略論における2つのアプローチを紹介する。 第12回 ポジショニング・アプローチ：M. ポーターの学説を中心に、ポジショニング・アプローチについて講義する。 第13回 資源ベース・アプローチ：前回の内容と対比しながら、資源ベース・アプローチを説明する。 第14回 企業の社会的責任と経営戦略：CSR戦略を中心に、企業の社会的責任について考える。 第15回 経営戦略と現代社会：これまでの内容を振り返りながら、現代社会における経営戦略のあり方を解説する。							
授業外学習(予習・復習)	授業のなかで適宜指示します。							
成績評価の方法	期末筆記試験（100%）							

授業科目	応用データ活用	担当者	倉重 賢治	
	[履修年次] 1, 2, 3年 [学期] 後期 [単位] 1	授業外対応	適宜対応	
		[必修/選択]	選択	[授業形態] 実習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 リレーショナルデータベースの概念と基本操作</p> <p>【概要】 実務でのコンピュータ利用において、データベース処理ソフトは、非常に重要な役割を果たしている。この演習では、まず、リレーショナルデータベースの基本的な概念を論じる。次に、代表的なデータベースソフトであるマイクロソフト社の Access の基本操作を修得し、データベース設計に関する問題に取り組んでいく。</p> <p>【到達目標】 データベースソフト Access の使い方を習得する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 未定 (2) 特になし			
授業スケジュール	第 1回 序論：リレーショナルデータベースの概念 第 2回 Access の操作：Access とは 第 3回 Access の操作：レコードの並べ替え 第 4回 Access の操作：レコードの追加 第 5回 Access の操作：フォームの作成 第 6回 Access の操作：選択クエリの作成 第 7回 Access の操作：さまざまなクエリ 第 8回 Access の操作：アクションクエリ 第 9回 Access の操作：データベースの設計 第 10回 Access の操作：リレーションシップの作成 第 11回 Access の操作：リレーションシップされたクエリの計算 第 12回 Access の操作：レポートの作成 第 13回 Access の操作：レポートのアレンジ 第 14回 Access の操作：マクロの利用 第 15回 まとめ			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	講義中の小テスト (50%) + 期末試験 (50%)			

授業科目	プログラミング	担当者	倉重 賢治	
	[履修年次] 1, 2, 3年 [学期] 前期 [単位] 1	授業外対応	適宜対応	
		[必修/選択]	選択	[授業形態] 実習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 VBA (Visual Basic for Application) を用いたプログラミング</p> <p>【概要】 プログラミングとは、コンピュータで実行したい作業を人間ではなく計算機が理解できるように記述することである。この演習では、プログラミングの基本概念を Excel に含まれている VBA により学習する。プログラムの作成を通じて、論理的な思考を身につけることはもちろんのこと、VBA の利用により、さらに高度な Excel の活用方法が可能となる。</p> <p>【到達目標】 ・基本的なプログラミング技術を身につける。 ・VBA を利用した Excel のより高度な活用方法を修得する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 伊藤潔人、『いちばんやさしい ExcelVBA の教本』、インプレス (2) 特になし			
授業スケジュール	第 1回 序論：プログラミングの概念 第 2回 VBA の利用：演算子と関数 第 3回 VBA の利用：変数 第 4回 VBA の利用：条件分岐 第 5回 VBA の利用：ループ処理 (1) 第 6回 VBA の利用：ループ処理 (2) 第 7回 VBA の利用：オブジェクト関連の文法 第 8回 VBA の利用：マクロの記録 第 9回 VBA の利用：Range オブジェクト 第 10回 VBA の利用：Worksheet オブジェクト 第 11回 VBA の利用：複数シートをまとめる 第 12回 VBA の利用：Workbook オブジェクト 第 13回 VBA の利用：イベントプロシージャ 第 14回 VBA の利用：ユーザフォーム 第 15回 まとめ			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	講義中の小テスト (50%) + 期末試験 (50%)			

授業科目	財務会計論		担当者	岡村 雄輝
	[履修年次]	1, 2, 3年	授業外対応	講義前後に適宜対応
	[学期]	後期	[単位]	2単位
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】財務会計の全体像を理解する</p> <p>【概要】近年、グローバル化の影響によって会計基準の新設・改定が続き、会計への関心が高まっています。現代の経済社会では、会計の基礎概念や理論への理解が重要になっているといえます。本科目では、会計の機能を説明し、会計基準の考察を通して、現代会計の深淵に迫ってみたいと思います。※会計学総論の学修を前提として講義を展開します。また、財務会計を学ぶためには複式簿記の理解が欠かせません。簿記論の併修を勧めます。</p> <p>【到達目標】現代の経済社会で果たしている会計の役割、会計基準に通底する基礎概念や理論を理解する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 桜井久勝『財務会計講義』(第23版), 中央経済社。</p> <p>(2) 『新版 会計法規集』(第12版), 中央経済社。</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 財務会計の機能と制度：財務会計の機能と法規制</p> <p>第2回 利益計算の仕組み：企業活動と財務諸表、複式簿記の構造</p> <p>第3回 利益計算の仕組み：複式簿記の構造、利益計算と財務諸表</p> <p>第4回 会計理論と会計基準：会計基準設定のアプローチと会計情報の質的特性</p> <p>第5回 利益測定と資産評価の基礎概念：発生主義会計</p> <p>第6回 利益測定と資産評価の基礎概念：資産評価の基準</p> <p>第7回 資金運用活動の資産と収益：現金預金と有価証券、キャッシュ・フロー計算書</p> <p>第8回 売上高と売上債権：収益認識、売上債権</p> <p>第9回 棚卸資産と売上原価：棚卸資産の取得原価、原価配分、払い出し単価の決定、期末評価</p> <p>第10回 有形固定資産：減価償却、減損、リース</p> <p>第11回 無形固定資産と繰延資産：知的財産、研究開発費</p> <p>第12回 負債：負債の範囲と区分、引当金</p> <p>第13回 純資産：払込資本、稼得資本、区分表示</p> <p>第14回 財務諸表の作成と公開：財務諸表の体系、注記と附属明細表</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	講義前後にテキストを精読してください。			
成績評価の方法	期末レポート 80%, 中間レポート 20%			

授業科目	情報論特講		担当者	岡村 俊彦, 倉重 賢治
	[履修年次]	1, 2, 3年	授業外対応	講義前後に適宜対応
	[学期]	前期	[単位]	2
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>ICT (情報通信技術) について実用的、応用的な学習をおこなう。</p> <p>【概要】</p> <p>ハードウェア、ソフトウェア、ネットワークといった ICT を学び、日商 PC 検定 2 級知識科目と同等以上の知識を得る。表計算ソフト (エクセル) の実用的な使用方法について学習を行う。</p> <p>【到達目標】</p> <p>実社会において、自ら ICT 業務に携わり、効果的、効率的な活用ができるようにする。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) FOM 出版「よくわかるマスター 改訂版 日商 PC 検定試験 2 級 知識科目 公式問題集」, プリント</p> <p>(2) 特になし</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 概要説明：授業概要と評価方法の説明</p> <p>第2回 ハードとソフト：PC等のICT機器のハードウェア、ソフトウェアの解説</p> <p>第3回 コンピュータの内部部品1：CPUとメモリの解説</p> <p>第4回 コンピュータの内部部品2：ストレージと光学ドライブの解説</p> <p>第5回 インターネットとネットワーク：TCP/IPの設定、ルータの役割の解説</p> <p>第6回 表計算ソフトの活用1：Webクエリのグラフ作成</p> <p>第7回 表計算ソフトの活用2：フィルターとピボットテーブル</p> <p>第8回 コンピュータが扱う数字1：2進数と16進数</p> <p>第9回 コンピュータが扱う数字2：負の数と実数</p> <p>第10回 情報セキュリティ：共通鍵暗号と公開鍵暗号</p> <p>第11回 シミュレーション1：シミュレーションとは</p> <p>第12回 シミュレーション2：エクセルを用いたシミュレーション</p> <p>第13回 意思決定：エクセルのソルバー</p> <p>第14回 データ分析：エクセルのデータ分析</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	レポート(30%)＋授業中の課題(40%)＋期末試験(30%)			

(注)「情報科学概論」(担当：岡村)を履修済み、もしくは同等以上の学習が終了している者を対象とする

授業科目	マーケティング論		担当者	瀬口 毅士				
	[履修年次]	1～3年	授業外対応	適宜対応 (要予約)				
	[学期]	前期	[単位]	2単位	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】マーケティング論を体系的に学ぶ</p> <p>【概要】マーケティングとは、企業がモノやサービスを売るための仕組みづくりです。現代の企業にとって、マーケティングはますます重要になっています。本講義では、マーケティング論の基本事項を説明した後、現代社会におけるマーケティングのあり方を解説します。可能であれば、グループ・ワークを適宜取り入れることで、より理解を深めていきます。</p> <p>【到達目標】マーケティング論に関する基本的知識を習得し、消費者としてあるいはメーカーとしての視点を養うことを目標とする。すなわち、今日の企業がどのようにマーケティング戦略を遂行しているのかを理解することで、「賢い」消費者になると同時に、顧客ニーズや顧客満足度を満たすためにいかなる工夫が必要であるかを考えられることである。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリントを配付 (2)							
授業スケジュール	<p>第1回 インTRODクシヨン：授業の進め方や成績の評価方法を確認する。</p> <p>第2回 マーケティング論の基本概念：マーケティング論の概要や基本概念を説明する。</p> <p>第3回 グループ・ワーク①：商品とマーケティングについて考えよう。</p> <p>第4回 標的市場の選択：STPについて解説する。</p> <p>第5回 消費者行動分析：消費者行動論の基本を知ること、消費者の購買行動について理解を深める。</p> <p>第6回 競争分析：「ポジショニング」の概念を中心に、企業間競争の構造分析の方法を知る。</p> <p>第7回 グループ・ワーク②：市場・顧客分析をしてみよう。</p> <p>第8回 製品戦略：製品・サービスの分類や製品ミックスなどを説明する。</p> <p>第9回 価格戦略：価格設定の重要性とその方法について講義する。</p> <p>第10回 流通戦略(1)：流通の仕組みとチャネル選択について説明する。</p> <p>第11回 流通戦略(2)：チャネル管理とサプライチェーン・マネジメントについて解説する。</p> <p>第12回 プロモーション戦略：プロモーション・ミックスとメディア・ミックスなどを講義する。</p> <p>第13回 ブランド戦略：これまでの内容を基に、ブランド構築やブランド管理について考える。</p> <p>第14回 企業の社会的責任とマーケティング：企業の社会性とマーケティングの関係性について解説する。</p> <p>第15回 グループ・ワーク③：ソーシャル・プロダクツを探してみよう。</p>							
授業外学習(予習・復習)	授業のなかで適宜指示します。							
成績評価の方法	期末筆記試験 (80%) +リアクション・ペーパーやグループ・ワークなど (20%)							

授業科目	流通論		担当者	近間 由幸				
	[履修年次]	1,2,3年	授業外対応	適宜対応 (要予約)				
	[学期]	後期	[単位]	2単位	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】小売業態の変化・発展を歴史的に捉える</p> <p>【概要】授業では、日本の小売企業を対象とし、現代の小売企業を取り巻く環境や消費者ニーズの多様性に対して、小売企業がどのように対応し、進化してきたのかを歴史的、体系的に考察する。また、このような小売企業の発展とともに現われ現代の流通における課題について検討する。</p> <p>【到達目標】受講学生が現代の流通業界の具体的な姿について理解し、流通業界に関する知識を身につけ、流通ビジネスの背後にある論理やメカニズムについて考えられるようになることを到達目標としている。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2) 石原武政・竹村正明・細井謙 編『1からの流通論 (第2版)』碩学舎							
授業スケジュール	<p>第1回 INTRODUCTION - 流通を取り巻く経済環境</p> <p>第2回 流通とはなにか</p> <p>第3回 日本の欧米化と百貨店の誕生</p> <p>第4回 高度経済成長と総合スーパー</p> <p>第5回 食品スーパーの革新性</p> <p>第6回 利便性の追求とコンビニエンス・ストア (CVS)</p> <p>第7回 ディスカウント・ストアの低価格戦略</p> <p>第8回 専門量販店の台頭</p> <p>第9回 ショッピングセンターの商業集積</p> <p>第10回 インターネット技術と電子商取引 (EC)</p> <p>第11回 流通構造の変化と小売業態</p> <p>第12回 小売・流通における労働問題 (1) -物流危機とトラックドライバー</p> <p>第13回 小売・流通における労働問題 (2) -接客販売業の働き方</p> <p>第14回 デフレ支援型流通と消費行動の変化</p> <p>第15回 全体のまとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	適宜指示							
成績評価の方法	授業ごとのミニレポート (30%) 期末レポート (70%)							

18 商経学科の演習・実習科目

第一部商経学科の演習科目

「演習科目」

(経済専攻・経営情報専攻とも)

授業科目	履修年次	学期	単位	必修・選択	備考
基礎演習	1年	前期	2	必修	詳細は学科で指示する。
演習 I	1年	後期	2	必修	詳細は学科で指示する。
演習 II	2年	前期	2	必修	詳細は学科で指示する。
卒業研究	2年	後期	2	必修	詳細は学科で指示する。

第二部商経学科の演習科目

「演習科目」

授業科目	履修年次	学期	単位	必修・選択	備考
基礎演習	1年	前期	2	必修	詳細は学科で指示する。
演習 I	2年	後期	2	必修	詳細は学科で指示する。
演習 II	3年	前期	2	必修	詳細は学科で指示する。
卒業研究	3年	後期	2	必修	詳細は学科で指示する。

授業科目	(第一部・第二部) 基礎演習・演習Ⅰ・演習Ⅱ・卒業研究	担当者	各年度で指定する教員
<p>①社会科学に独特の授業形態としての「演習」系の授業科目</p> <p>社会科学系の学習の要は「演習」という授業形式です。これは(1)司会・報告・問題提起・討論といった対話型の授業で、講義科目と異なり、参加する学生の皆さんによって自発的に運営されます。また、担当教員と所属学生で構成する演習は、工場見学や研究のための合宿、国内外における調査活動などを行う基礎となる集団でもあります。そして、(2)対話型であるために、参加学生各自の自発性が重要で、他の講義科目・実習科目などで身につけた学力を自分自身の力で統合し、応用してゆく場です。そのため、(3)どの担当教員の演習に参加するかということが、その他の講義科目・実習科目をどのように履修してゆくべきかを決定することになりますので、加入が決定した演習Ⅰの専門性を充分考慮して、受講登録に臨むようにして下さい。</p>			
<p>②商経学科の「演習」系の授業科目はどんな特性があるのか?</p> <p>商経学科の「演習」系授業科目は、(1)すべて必修科目で、(2)これを順番に受講することで、社会学的なものの考え方から出発して、自分自身の問題関心に基づいて卒業論文を執筆するところまで系統的に学ぶことができるようになっています。</p>			
<p>③「演習」系科目の受講の流れ</p>			
<p>(第一部)</p>			
<p>1年生前期「基礎演習」</p>			
<p>全員が基礎演習に所属し、ゼミナールの基本的な部分(運営・議論など)について、学びます。</p>			
<p>1年生後期「演習Ⅰ」→2年生前期「演習Ⅱ」→2年生後期「卒業研究」</p>			
<p>1年生後期から始まる演習は、卒業までの期間、自らが選択した教員と学んでいくことになります。</p>			
<p>演習ごとの特色のあるテーマについて、教員や演習に所属する人たちと一緒に理解を深めていきます。</p>			
<p>2年後期に卒業論文を仕上げることによって、物事を深く考察し論理的にまとめる力を養っていきます。</p>			
<p>(第二部)</p>			
<p>1年生前期「基礎演習」</p>			
<p>全員が基礎演習に所属し、ゼミナールの基本的な部分(運営・議論など)について、学びます。</p>			
<p>2年生後期「演習Ⅰ」→3年生前期「演習Ⅱ」→3年生後期「卒業研究」,</p>			
<p>2年生後期から始まる演習は、卒業までの期間、自らが選択した教員と学んでいくことになります。</p>			
<p>演習ごとの特色のあるテーマについて、教員や演習に所属する人たちと一緒に理解を深めていきます。</p>			
<p>3年生後期に卒業論文を仕上げることによって、物事を深く考察し論理的にまとめる力を養っていきます。</p>			
<p>④演習のテーマ及び概要・スケジュール</p>			
<p>各演習には、担当教員によって設定されたテーマがあります。それは応募段階での掲示で示されます。皆さんはそれを参考にして、「演習Ⅰ」の所属を考えることになります。ただし、最終的には、演習参加者との討論によって決定されることになります。スケジュールについても同様です。</p>			
<p>⑤成績評価の方法</p>			
<p>演習ごとに異なりますが、個人の報告や出席状況、グループの中での役割やレポートなどによって総合評価されます。</p>			
<p>⑥受講登録上の注意</p>			
<p>原則として「演習Ⅰ」から「卒業研究」までは一つの集団として継続されます。従って、「演習Ⅰ」の選択が重要となります。</p>			

授業科目	社会活動	担当者	担当教員全員
		[履修年次] 年次指定なし [単位] 2単位	[学期] 通年 [必修/選択] 選択
テーマ及び概要	<p>【テーマ】「社会活動」は、非営利組織を中心とした研修先において、実際の現場での体験を得ることにより、将来のキャリアの形成に役立てることを狙いとしている。</p> <p>【概要】公共機関等が開催するイベントへのボランティア参加や外国の大学生との交流活動などを通じて、社会での実践力・企画力を養うとともに「社会を見る目」を養う。 具体的な研修先、及び研修内容等は多様であり、毎年4月末から6月頃に掲示され、募集が行われる。</p> <p>【到達目標】自分の職業適性や将来計画を考える機会を持つことができる、研修先の現場体験で専門分野における高度な知識・技術にふれることができる、自立的に考え行動できるようになる、など。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	未定（事前指導のなかで指示する）		
授業スケジュール	<p>事前指導：主に前期を中心に研修先の決定、各研修先での研修内容の確認および研修先での諸注意や保険の説明などを行う。</p> <p>研修：主に夏期休暇期間に、実際に研修先での研修を行う。</p> <p>事後指導：研修終了後は、研修日誌の作成・提出、研修レポートの作成、研修報告会の発表の準備などを行う。</p>		
成績評価の方法	研修レポートおよび事前事後指導の出席状況・履修態度を中心に評価する。（100％）		

授業科目	企業研修	担当者	担当教員全員
		[履修年次] 1年（第一部）、2年（第二部） [単位] 2単位	[学期] 通年 [必修/選択] 選択
テーマ及び概要	<p>【テーマ】この科目は、一般的には「インターンシップ」と呼ばれている。「企業研修」は、民間企業を中心に県庁、病院などの研修先において、現場で就業体験を行い、将来のキャリアの形成に役立てることを狙いとしている。</p> <p>【概要】県内外企業や県庁・市役所の現場で働く経験を通じて、社会人としての課題、企業運営、職務遂行に必要な知識・技術を理解し、働くことの自覚や自信を身につける。 具体的な研修先、及び研修内容等は多様であり、毎年4月末から6月頃に掲示され、募集が行われる。</p> <p>【到達目標】自分の職業適性や将来計画を考える機会を持つことができる、研修先の現場体験で専門分野における高度な知識・技術にふれることができる、自立的に考え行動できるようになる、など。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	未定（事前指導のなかで指示する）		
授業スケジュール	<p>事前指導：主に前期を中心にインターンシップの意義、研修先の決定、各研修先での研修内容の確認および研修先での諸注意や保険の説明などを行う。</p> <p>研修：主に夏期休暇期間に、実際に研修先での研修を行う。</p> <p>事後指導：研修終了後は、研修日誌の作成・提出、研修レポートの作成、研修報告会の発表の準備などを行う。</p>		
成績評価の方法	研修レポートおよび事前事後指導の出席状況・履修態度を中心に評価する。（100％）		

19 教職に関する科目

授業科目名： 教職入門	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：田口 康明 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める科目区分 又は事項等	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ： 【テーマ】日本における今日の学校教育や教職の社会的意義。戦前戦後、諸外国の教職観の変遷を踏まえ、専門職としての教員に求められる役割や資質能力。変化の激しい社会において学校に求められる役割を果たすための多様な職員・専門家の連携・分担。 【到達目標】教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等、学校における少数職種について理解する。また、進路選択に資する教職の在り方を理解する。			
授業の概要 今日の教育現場の現実と向きあって教育とは何かを問い、教科指導だけではない具体的な教師の仕事を紹介する。また、「教職」は教員（教諭）だけで担われるわけでないことを理解し、学校にいる「少数職種」といわれる職について理解をすすめる。また、地域にある教職的な諸職業についても理解を深める。			
授業計画 第1回：進路選択の対象としての教員 第2回：教育の理念と思想①大正自由教育期の教員像 第3回： 同上 ②「授業名人」といわれた人たち 第4回：教職観の変遷①古代ギリシャからルネサンス期 第5回： 同上 ②明治期と戦後の教員像 第6回： 同上 ③現代日本の学校と教員 第7回：教員の職務内容と服務①学校内外の職務と研修 第8回： 同上 ②教員の服務上・身分上の義務と身分保障 第9回：チーム学校への対応① 中教審答申「チームとしての学校の在り方と今後の改善方策について」の理解 第10回： 同上 ②校内の多様な専門職（少数職種の意義と役割） 第11回：諸外国の教職員 第12回：教育方法と教員の役割①ITCと教員 第13回： 同上 ②アクティブ・ラーニングへの対応 第14回：中学生と教職員の諸関係 第15回：まとめ 定期試験			
テキスト： 特に定めない。資料を配付する。			
参考書・参考資料等：中学校学習指導要領解説 総則編 教職員ハンドブック 第3次改訂版 東京都教職員研修センター（監修） 都政新報社			
学生に対する評価：3回程度の小レポート（30％）・定期試験（70％）			

授業科目名： 教育原理	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：田口 康明 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める科目区分 又は事項等	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		
授業の到達目標及びテーマ： 【テーマ】教育の本質、教育の目的、教育の実際の理解 【到達目標】教育学の基本概念、教育の歴史に関する基礎、代表的な教育思想の理解、学校・家庭・地域の協働関係。これらの理解。			
授業の概要 「教育」については、誰もが何らかの形で経験するものである。必ずしも専門家である教職員のみが関与するわけではない。また受講生自らも経験してきている。こうした「固定」概念を相対化し、「教育とは何か」について問い続けていくために必要な原理的知識を、思想や歴史、社会的な諸関係について多角的な観点から講義する。			
授業計画 第1回：教育学の諸概念① 日本の近代以前と近代以降の教育概念 第2回： 同上 ② 諸外国の教育概念 第3回：日本における教育的諸関係①子どもと保護者の関係論 第4回： 同上 ②地域における教育と教育的関係 第5回：教育に関する歴史①近代以前の教育と教育思想（ギリシャ・ローマなど） 第6回： 同上 ②近代の教育と教育思想（近世・啓蒙期） 第7回： 同上 ③コメニウス・ロック・ルソーの教育思想 第8回： 同上 ④日本の明治期以降の教育思想 第9回： 同上 ⑤戦後日本の教育の変遷 第10回：近代公教育の原理 第11回：世界の教育改革 第12回：学力の要素と学力政策 第13回：幼児期の教育 第14回：思春期の教育 第15回：まとめ 定期試験			
テキスト： 特に定めない。資料を配付する。			
参考書・参考資料等：中学校学習指導要領解説 総則編 思春期の子どもと向き合うために 文部科学省著 ぎょうせい			
学生に対する評価：3回程度の小レポート（30％）・定期試験（70％）			

授業科目名： 教育心理学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：田中 真理 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	幼児，児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育対象である幼児児童生徒に関する心身の発達の特徴，学習，個性（パーソナリティ）に関する理論や概念を習得する。 ・各発達段階の特性に応じた教育や指導の基盤となる考え方を理解することができる。 <p>【テーマ】</p> <p>幼児児童生徒の心身の発達，学習過程，個性について理解し，それらをふまえた教育や指導方法について考える。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>教育活動とは，教育対象に対して教育や指導といった働きかけを行うことで，対象がよりよい方向に変化する過程である。学校教育では，教育対象である幼児児童生徒に関わる発達の特徴と個人特性，さらには教育や指導に不可欠な学習の過程に関して理解することが不可欠である。教育心理学は，こうした教育活動をより効果的に行うための心理学の知識や技術を提供する学問領域といえる。</p> <p>授業では，発達（幼児児童生徒の身体，心理，社会性の発達や発達に関する理論），学習（学習過程とそのプロセスに関する基礎的知識），教育実践と評価（学習法・教授法，教育評価，知能やパーソナリティ）について取り上げる。さらには，これらの理解に基づいた教育や指導のあり方についても考えていく。適宜，ワークやディスカッションも交えながら体験的に理解を深めていく。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：発達① 発達に関する基礎的な概念</p> <p>第2回：発達② 発達の規定要因（内的・外的要因），初期経験の重要性</p> <p>第3回：発達③ 身体発達とそれに伴う心理特性，言語発達，認知発達に関する理論</p> <p>第4回：発達④ 愛着，遊び，友人関係や仲間関係などの社会性の発達</p> <p>第5回：発達⑤ 代表的な発達理論と各発達段階，発達課題</p> <p>第6回：発達⑥ 発達と教育，各発達段階に応じた指導のあり方</p> <p>第7回：学習① 代表的な学習理論，条件づけ，観察学習，問題解決学習</p> <p>第8回：学習② 記憶プロセスやその種類，記憶の方略と忘却，記憶と教育の関係</p>			

第9回：学習③ 動機づけ，欲求，学習意欲

第10回：実践・評価① 教授法，学習方法と教科との関連，ATI

第11回：実践・評価② 教育評価機能と方法，評価情報の収集方法

第12回：実践・評価③ 知能観，代表的な知能理論，知能検査と指導への活用

第13回：実践・評価④ パーソナリティ理論

第14回：実践・評価⑤ パーソナリティ検査と心理検査に関する諸概念

第15回：まとめ

定期試験

テキスト

毎時プリントによる資料を配布する。

参考書・参考資料等

藤原雅彦・竹綱誠一郎他著『やさしい教育心理学第5版（有斐閣アルマ）』有斐閣，2019年

田瓜宏二他著『教育心理学（よくわかる教職エクササイズ）』ミネルヴァ書房，2018年

服部 環・外山 美樹編『スタンダード教育心理学』サイエンス社，2013年

櫻井 茂男・佐藤有耕 編『スタンダード発達心理学』サイエンス社，2013年

学生に対する評価

定期試験（70%）＋小テスト（20%）＋リアクションペーパー（10%）

授業科目名： 特別支援教育概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：田中 真理 担当形態：単独
科目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別の支援を必要とする幼児，児童及び生徒に対する理解		
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育の制度と仕組みについて理解する。 ・特別支援教育対象の幼児児童生徒の障害特性と発達の特徴を理解し，組織的な対応や支援の方法について理解する。 ・個別の教育的ニーズを有する幼児児童生徒の把握や支援方法について理解する。 <p>【テーマ】</p> <p>特別な支援あるいは個別の教育的ニーズを有す幼児児童生徒に対して組織的に対応するために必要な基礎知識と支援方法について理解する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>平成19年の学校教育法の改正により特別支援教育が本格的に開始され，従来の視覚障害や聴覚障害，知的障害といった従来の特殊教育の対象に加え，通常学級に在籍している発達障害や個別の教育的ニーズを有す幼児児童生徒もその支援対象に含まれるようになった。本講義ではこうした特別な支援を必要とする，あるいは個別の教育的ニーズを有す幼児児童生徒を支援するために，特別支援教育の制度や仕組み，各障害の特性と個別の教育的ニーズへの理解，さらには組織的な対応のための支援や関係機関との連携方法について学ぶ。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：インクルーシブ教育，特別支援の理念，関連する制度</p> <p>第2回：「通級による指導」及び「自立活動」</p> <p>第3回：指導計画及び教育支援計画の作成</p> <p>第4回：障害のある児童生徒（視覚・聴覚・知的・肢体不自由・病弱等）の理解</p> <p>第5回：学習障害，注意欠陥多動性障害，高機能自閉症等の発達障害の特性と理解</p> <p>第6回：発達障害，軽度知的障害児への支援</p> <p>第7回：貧困世帯，被虐待児等の特別な教育的ニーズの理解と組織的支援のあり方</p> <p>第8回：特別支援コーディネーターや専門家，保護者など学内外の関係者・関係機関との連携と支援体制の構築</p> <p>定期試験</p>			

テキスト

全国特別支援学校校長会全国特別支援教育推進連盟編著『介護等体験ガイドブック 新フィリア』
ジアース教育新社, 2020年
毎時プリントによる資料を配布する。

参考書・参考資料等

石橋裕子・林幸範編著『特別支援教育(よくわかる!教職エクササイズ)』ミネルヴァ書房, 2019年
柘植雅義・渡部匡隆『はじめての特別支援教育--教職を目指す大学生のために 改訂版』有斐閣, 2014年

学生に対する評価

定期試験 (100%)

授業科目名： 教育行政学概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名：田口 康明 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める科目区分 又は事項等	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ： 【テーマ】教育行政及び教育行政学の基本的事項について扱い、学校経営のしくみ、「社会に開かれた教育課程」、学校と地域との連携、安全教育及び学校安全への対応について扱う。 【到達目標】現代の学校教育に関する制度及び学校経営について基本的な知識を身に付けるとともに、それらに関連する課題を理解する。さらに、「社会に開かれた教育課程」を実現するための学校と地域との連携に関する理解。また安全教育を含めた学校安全への対応に関する基礎的知識も身に付ける。			
授業の概要 教育行政は公教育（公権力によって管理運営される教育）を支える重要な執行機関であり、広義には教育法規や教育裁判も含む。他方で、学校内部のマネジメントである学校経営も含まれる。さらには、学校の存立基盤である地域社会との連携も今日急速に進んでいる。またここでは近年の「防災」意識の高まりから「学校安全」についても扱う。			
授業計画 第1回：公教育の原理及び理念 第2回：現代日本の教育法規と教育行政のしくみ 第3回：現代日本の教育制度と教育改革 第4回：学校経営①校務分掌と各部署の役割 第5回： 同上 ②学級経営のしくみ 第6回：学校と地域の連携①学校と地域の関係 第7回： 同上 ②社会に開かれた教育課程と開かれた学校づくり 第8回：学校安全への対応			
テキスト： 特に定めない。資料を配付する。			
参考書・参考資料等：中学校学習指導要領解説 総則編 教職員ハンドブック 第3次改訂版 東京都教職員研修センター（監修） 都政新報社			
学生に対する評価：3 回程度の小レポート（30％）・定期試験（70％）			

授業科目名： 教育課程論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：森田 司郎 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p><授業のテーマ> これからの社会を生き抜く子どもたちに必要な資質・能力を育成するためには、各学校が創意工夫をして魅力ある教育課程を編成することが必須である。この授業では、学習指導要領を基準として編成される教育課程の意義と役割、学習指導要領の変遷と社会的背景、各学校の実情に応じて教育課程を編成するための基本原理、具体的な授業における指導計画の作成に必要な視点、そしてカリキュラム評価とカリキュラム・マネジメントの考え方について学修する。この授業は、教員として魅力的な教育課程を編成するために教員にとって必要となる諸資質を育成することを主なねらいとする。</p> <p><到達目標></p> <p>(1) 社会における学校教育と教育課程の意義と役割について理解する。</p> <p>(2) 学習指導要領の内容および改訂の変遷について、その社会的背景とともに理解する。</p> <p>(3) 各学校の実情に即して教育課程を編成する際の基本原理について理解する。</p> <p>(4) 開かれた教育課程を実現するためにカリキュラム・マネジメントが果たす役割と意義、そしてその方法について理解する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>授業は、主に講義形式で行われる。前半では主に教育課程に関する基本原理について、日本の学校教育制度と学習指導要領の内容について検討しながら理解していく。後半では実際の教育現場においてどのような手続きで教育課程が編成されているのか、教科・領域を横断した教育課程や教科外活動の教育課程の編成事例等を検討しながら理解していく。最後に、これからの学校教育に必須となるカリキュラム評価とカリキュラム・マネジメントの意義と役割、そしてその実施に必要な視点について学んでいく。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション</p> <p>概要：学校とは何を学ぶところか？ 社会における学校教育の意義と役割</p> <p>予習：社会の中で学校が果たしている役割について自分の考えを持ち、それを説明できるようにする。</p> <p>復習：社会における学校教育と教育課程の意義と役割について、具体的な例を挙げて説明で</p>			

きるようにする。

第2回：日本の学校教育と教育課程

概要：諸外国と比較して日本の学校教育にはどのような特徴があるのか？ 教育制度・教育内容・教育方法・京員養成の比較を通して検討する。

予習：日本以外の国を一つ選び、その国の学校教育制度と日本のそれとを比較する。

復習：日本とそれ以外の二つ以上の国について、教育制度・教育内容・教育方法・教育養成の様子を比較する。

第3回：教育課程の基本原則(1)

概要：学校で教える内容(教育課程)はどのようにして決定されるのか？ カリキュラムと教育課程の概念整理

予習：「カリキュラム」と「教育課程」それぞれの用語がどのような場面で使用されているか調べる。

復習：教育内容の規定要因として、国、地域、家庭、学校、メディア等が与える影響について考察する。

第4回：教育課程の基本原則(2)

概要：教育課程はどのようにして編成され、実施されるのか？ 法令、教科書・教材・学習環境

予習：特定の教材と単元を選び、複数の教科書の内容を比較して同じ点と相違点を挙げる。

復習：授業を構成する際に有益な教科書、教材、学習環境お活用・開発の仕方について考察する。

第5回：教育課程の基本原則(3)

概要：学習指導要領とは何か？ 学習指導要領の意義と役割、改訂の仕組み

予習：学習指導要領の大まかな内容と、学校教育現場に与える影響について説明できるようにする。

復習：学習指導要領の有無に関して、日本以外の複数の国について調べる。

第6回：教育課程の基本原則(4)

概要：戦後の日本の学校ではどのような教育が行われていたのか？ 学習指導要領の変遷(戦後～1968年版の内容と社会的背景)

予習：学習指導要領の変遷の全体像について時系列で理解し、説明できるようにする。

復習：戦後～1968年版の学習指導要領の内容について、当時の社会的背景と関連づけて説明できるようにする

第7回：教育課程の基本原則(5)

概要：高度経済成長期後の日本の学校ではどのような教育が行われていたのか？ 学習指導要領の変遷(1977年～1989年版の内容と社会的背景)

予習：高度経済成長期の日本の学校教育の内容に関して窺える資料を探し、概要を説明できるようにする。

復習：1977年版～1989年版の学習指導要領の内容について、当時の社会的背景と関連づけて説明できるようにする。

第8回：教育課程の基本原則(6)

概要：近年の日本の学校ではどのような教育が行われてきたのか？ 学習指導要領の変遷(1998年～2008年版の内容と社会的背景)

予習：1990～2010年における学校教育の内容に関して知ることができる資料を探し、概要を説明できるようにする。

復習：1998年版～2008年版の学習指導要領の内容について、当時の社会的背景と関連づけて説明できるようにする。

第9回：教育課程の基本原則(7)

概要：今後の日本の学校ではどのような教育が行われていくのか？ 新学習指導要領の内容と今後の改革の方向性

予習：現行(2017年版)の学習指導要領にもとづく学校教育の内容に関して知ることができる資料を探し、概要を説明できるようにする。

復習：現行(2017年版)の学習指導要領の内容について、現在の社会的背景と関連づけて説明できるようにする。

第10回：教育課程編成の基本原則(1)

概要：学校での教育内容はどのようにして決められているのか？ 各学校における教育課程編成の仕組みと方法、カリキュラム・マネジメントの意義と方法

予習：学習指導要領と実際の授業内容との関係について理解し、説明できるようにする。

復習：学校におけるカリキュラム・マネジメントのプロセスを、PDCAサイクルに即して理解し説明できるようにする。

第11回：教育課程編成の基本原則(2)

概要：実際の授業の内容はどのようにして決められているのか？ 各教科における教育課程編成の仕組みと方法、教科・領域を横断した教育課程編成の仕組みと方法

予習：特定の教科と単元を選び、それに関して作成された複数の学習指導案の内容を比較して同じ点と相違点を挙げる。複数の学習指導案はインターネット上の教材共有サイトなどを活用して入手する。

復習：教科・領域を横断した教育課程編成の仕組みと方法、留意点について具体的事例を挙げて説明できるようにする。

第12回：教育課程編成の基本原則(3)

概要：教科外活動の内容はどのようにして決められているのか？ 開かれた教育課程の意義と編成方法

予習：教科外活動の内容について複数の学校の事例を比較して、同じ点と相違点を把握する。

復習：開かれた教育課程を編成する際に教科外活動が果たす役割について、具体的事例を挙げて説明できるようにする。

第13回：カリキュラム評価とカリキュラム・マネジメント

概要：子どもたちが身につけた資質・能力をどのように確認すればよいか？ カリキュラム評価の意義と方法、PDCAサイクルの実際

予習：子どもたちの学習成果を評価する方法を複数挙げ、それぞれが明らかにできる側面と限界について把握する。

復習：PDCAサイクルに即したカリキュラム評価の意義と方法について、具体的事例を挙げて説明できるようにする。

第14回：今後の教育課程の在り方

概要：現代社会の課題に対応して生きる力を育成するためにはどのような教育課程が必要となるのか？ 主体的・対話的で深い学びを実現する教育課程編成の事例、開かれた教育課程を実現するカリキュラム・マネジメントの事例

予習：主体的・対話的で深い学びの具体例を挙げ、その実施要件を説明できるようにする。

復習：開かれた教育課程を実現するカリキュラム・マネジメントの具体例を挙げ、その要点を説明できるようにする。

第15回：まとめ：授業全体の要点整理と理解の確認

予習：授業全体を振り返り、補足が必要な項目の有無について確認する。

復習：まとめを参照して授業に関する自己の理解度を確認し、資料や記録等を振り返ることで不足部分を補う。

*学習指導要領の改訂年は小学校のものを表記している。

テキスト：プリント

『小学校学習指導要領』、『中学校学習指導要領』*『高等学校学習指導要領』

参考書・参考資料等：適宜指示する

学生に対する評価

授業内テストの結果と小レポート、そして授業への貢献度を総合的に評価して判断する。

(授業内テスト 60%、小レポート 20%。授業への貢献度 20%)

小レポート：それぞれの回における授業内容の理解度を評価する。

授業内テスト：授業全体を通じた授業内容の理解度を評価する。

授業科目名： 国語科教育法 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：竹本 寛秋 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ			
<p>中学校の国語教員に必要とされる基本的な知識・資質を理解し、授業の実施に必要な技能や方法を修得する。また、模擬授業により、実践的な授業の能力を身につける。</p> <p>中学校国語科教育の意義を説明できる。学習指導案を作成することができる。</p> <p>模擬授業の振り返りを通して、客観的な観点から授業研究ができる。</p>			
授業の概要			
<p>中学校学習指導要領を読み解き、現在の中学校国語に求められていることを理解する。その上で、授業を計画し、指導案を作成し、授業を実施する流れを修得する。そのために、指導案を作成し、模擬授業を取り入れた講義を行う。模擬授業、および模擬授業の振り返りを行うことで、授業を客観的にとらえる能力を修得し、授業研究の意義を理解する。</p>			
授業計画			
<p>第1回：ガイダンス：中学校国語科の目標と内容</p> <p>第2回：中学校学習指導要領について</p> <p>第3回：「知識及び技能」に関する事項について</p> <p>第4回：「思考力、判断力、表現力」に関する事項について</p> <p>第5回：教材研究の方法（1）：教材研究の観点</p> <p>第6回：教材研究の方法（2）：事例研究</p> <p>第7回：学習指導案の作成（1）：教材観、生徒観、指導観</p> <p>第8回：学習指導案の作成（2）：目標の設定、授業内容の設定、評価の観点</p> <p>第9回：模擬授業の意義</p> <p>第10回：模擬授業（1）：文学的文章</p> <p>第11回：模擬授業（2）：説明的文章</p> <p>第12回：模擬授業（3）：古典</p> <p>第13回：模擬授業の振り返り：方法と実践</p> <p>第14回：教育実習について</p> <p>第15回：まとめ</p>			
テキスト：文部科学省『中学校学習指導要領』『中学校学習指導要領解説国語編』プリント。			
参考書・参考資料等：授業中、適宜紹介する。			
学生に対する評価： 学習指導案の作成（50%）、模擬授業についてのレポート（50%）			

授業科目名： 国語科教育法Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：竹本 寛秋 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>中学校の国語教員に必要なとされる基本的な知識・資質を理解し、授業の実施に必要な技能や方法を修得する。国語科教育を取り巻く現状について理解し、情報機器を活用した授業、様々な指導理論を踏まえた授業を行う能力を身につける。</p> <p>国語科教育の現状、様々な指導理論・方法を理解し説明できる。多様な機器、方法を利用した授業を計画・実践できる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>国語教育の現状、様々な学習指導理論・方法について理解する。様々な指導理論を踏まえた指導を踏まえた学習指導計画を立て、実践する能力を身につける。情報機器やネットワーク、学習支援ソフトウェアなどを活用した学習指導計画を立て、実践する能力を身につける。国語科教育の課題と展望を理解し、新たな教育理論・実践を授業に取り入れる方法を理解する。</p>			
<p>第1回：ガイダンス：国語科教育の現状</p> <p>第2回：様々な学習指導理論と国語科教育の方法</p> <p>第3回：アクティブラーニングによる国語科の授業（1）：読みの場の創造</p> <p>第4回：アクティブラーニングによる国語科の授業（2）：対話の場の創造</p> <p>第5回：ICTを利用した授業（1）：電子黒板、タブレット端末</p> <p>第6回：ICTを利用した授業（2）：ネットワークの活用、学習支援ソフトウェアの活用</p> <p>第7回：これからの国語科教育の展望と課題</p> <p>第8回：まとめ</p>			
<p>テキスト</p> <p>文部科学省『中学校学習指導要領』『中学校学習指導要領解説 国語編』，プリント。</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>授業中，適宜紹介する。</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>授業での課題（50%），期末レポート（50%）</p>			

授業科目名： 英語科教育法 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：土持かおり 担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校 英語)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ			
<p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語教師に求められる英語科教育の基本となる知識を身につける。 ・小学校及び中学校の学習指導要領に掲げられている外国語教育の目標と内容を理解する。 ・4技能5領域の到達目標達成に必要な指導法を理解し、指導技術を身につける。 <p>【テーマ】未来の英語教師に求められる英語科教育指導法の理論について理解を深めるとともに、指導法に必要な実践力を身につける。</p>			
授業の概要			
<p>外国語（英語）教育の指針となる小学校及び中学校の学習指導要領を理解するとともに、3つの資質・能力を踏まえた「5つの領域」の学習到達目標とそれを達成するための指導法及び言語活動について学び、実践的コミュニケーション能力を育成するための指導技術を身につける。さらに、毎回グループによるディスカッションを通し、主体的に英語科教育について考えていく。</p>			
授業計画			
<p>第1回：(1) 英語科教育の目的：英語教師を目指す者にとって習得すべきことは何かについて考える。 (2) 異文化理解：国際共通語としての英語の役割、英語の多様性について認識し、理解を深める。</p> <p>第2回：第二言語習得：言語習得（母語習得）と比較しながら、第二言語習得理論とその活用について理解し、授業指導に生かせるよう考えていく。</p> <p>第3回：「コミュニケーション能力：「コミュニケーション能力」(Communicative Competence)とは何か、どのような構成要素から成り立っているかについて学び、授業での養成について考える。</p> <p>第4回：外国語教授法：各教授法の歴史と理論的背景を概観し、それぞれの指導法の特徴及び活用法について学び、問題点について検討することで教室の現場にあったものを取捨選択できる知識と技能を身につける。さらに教師の実演による主な教授法の授業を生徒の立場で体験する。</p> <p>第5回：学習指導要領：中学校学習指導要領について学ぶとともに、外国語（英語）及び領域別の到達目標と内容について「3つの資質・能力」の観点から理解する。さらに、旧・現・次期中学校学習指導要領を比較しながら改訂のポイントについて理解する。</p> <p>第6回：小学校での英語教育：小学校の外国語活動及び教科としての外国語（2020年度より）の学習指導要領、授業活動及び教材例について理解するとともに小・中連携の英語教育の在り方について考える。</p> <p>第7回：教科書の理解：中学校検定教科書の意義、種類、構成及び内容を理解するとともに、様々な情報が掲載されたページも含め教科書の活用方法について学ぶ。</p>			

第8回：「聞くこと」の指導：(1) 学習指導要領における「聞くこと」の「目標」及び「言語活動」を理解する。(2) リスニングのプロセスを理解し、生徒に英語を聞く力を身につけさせるための指導法のバリエーションをしり、それぞれの特質について学ぶ。

第9回：「話すこと [やり取り・発表]」の指導：(1) 学習指導要領における、「話すこと」の「目標」及び「言語活動」を理解する。(2) コミュニケーション能力の育成の観点から、生徒に英語で話すこと（やり取り・発表）の力を身に付けさせるための指導法のバリエーションを知り、それぞれの特質について学ぶ。

第10回：「読むこと」の指導：(1) 学習指導要領における「読むこと」の「目標」及び「言語活動」を理解する。(2) 生徒に英語を読む力を身に付けさせるための指導法のバリエーションを知り、それぞれの特質について学ぶ。

第11回：文法の指導(1)：文法事項の導入法(2つのアプローチの仕方とオーラル・イントロダクション等)や定着のための練習活動、コミュニケーション場面を意識した言語活動を中心に文法の指導について学ぶ。さらにオーラル・イントロダクションによる導入、展開での言語活動についてビデオ映像視聴を通して理解するとともに指導技術を身につける。

第12回：文法の指導(2)／音声の指導及び語彙・表現の指導：教師によるオーラル・イントロダクションによる文法事項の導入の実演を見て、英語での導入及び文法事項の説明のやり方を理解するとともに指導技術を身につける。／英語の音声的な特徴に関する指導について理解するとともに、プロソディーを身につけさせるための効果的な指導法を学ぶ。また、語彙・表現の指導において、「意味」の理解とともにその「使い方」を身に付けさせるための指導技術や導入・定着のための活動について学ぶ。

第13回：「書くこと」の指導及び文字の指導：(1) 学習指導要領における「書くこと」の「目標」及び「言語活動」を理解し、生徒に英語を書く力を身に付けさせるための指導法のバリエーションを知り、それぞれの特質について学ぶ。(2) 文字の指導について理解し、特に英語の音声と文字の結び付きを身につけさせるための指導法とその特質を学ぶ。

第14回：模擬授業：オーラル・イントロダクションによる文法事項の導入を各自で作成・実演する。

第15回：模擬授業：オーラル・イントロダクションによる文法事項の導入を各自で作成・実演する。

テキスト

『新・グローバル時代の英語教育』（岡秀夫編著、成美堂）

『中学校学習指導要領解説 外国語編』（文部科学省、開隆堂）

『小学校学習指導要領解説 外国語編』（文部科学省、東洋館出版社）

参考書・参考資料等

『中学校学習指導要領』（文部科学省、東山出版）

学生に対する評価

毎回の振り返りシート（40%）、課題のレポート（30%）、模擬授業レポート等（30%）

授業科目名： 英語科教育法Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：土持かおり 担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校 英語)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語教師に求められる実際の授業で応用できる知識・技能を身につける。 ・教材研究、授業の組み立て方を理解し、学習指導案を作成できる力を養う。 ・教育実習で実際に授業を行えるよう作成した指導案に基づき模擬授業を行う。 <p>【テーマ】 未来の英語教師に求められる英語科教育指導法の理論について理解を深めるとともに、指導法に必要な実践力を身につける</p>			
<p>授業の概要</p> <p>英語科教育の基本となる言語習得理論、生徒論、評価論、教材論(ICT機器を含む)について学び、実際の授業で応用できる知識を身につける。また、実際の授業をビデオ映像の視聴により体験し、具体的指導技術を身につける。さらに、教材研究の方法、授業の組み立て方、学習指導案の作成について学び、「コミュニケーション能力の育成」という視点で指導案を作成し、それに基づき模擬授業を行う。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：英語でのインタラクション：英語で授業を行う際に必要な、クラスルーム・イングリッシュ、ティーチャー・トーク、文法事項や題材のオーラル・イントロダクションなどについて学ぶ。さらに現場教員へのアンケート結果を基に英語で授業を行う際の利点、問題点等について考えていく。</p> <p>第2回：生徒の特性・習熟度に応じた指導：生徒の特性や多様性を知るとともに、生徒の特性や習熟度に応じた効果的な指導方法について学ぶ。</p> <p>第3回：評価：(1) 観点別評価：観点別学習状況に基づく評価基準の設定、実際の評価、評定への総括について、その理念と方法について学ぶ。(2) 言語能力の測定と評価（パフォーマンス評価等）：言語テストの適切さの規準（妥当性、信頼性、実効可能性、波及効果）について理解し、パフォーマンス評価を含む主な言語テストの種類と目的について学ぶ。</p> <p>第4回：教科書と教材研究：教科書を実際の授業で効果的に活用するための教材研究の方法と活用の仕方について、実際の教科書や教師用指導書も使用しながら学ぶ。</p> <p>第5回：教材研究及びICT機器等の活用：言語活動のための効果的な補助教材（ワークシート、フラッシュカード等）の作成・活用の仕方について学ぶ。さらに、PC、映像、デジタル教科書、電子黒板、タブレットなど授業で活用できる様々なICT機器の種類及びその効果的活用法を学ぶとともに、実際の授業で利用する際の留意点や課題についても考える。</p>			

第6回：学習到達目標と授業：学習指導要領及び学習到達目標に基づく年間指導計画、単元計画について理解する。さらに各時間の指導計画及び授業の組立について理解し、実際の指導に生かすことができるよう授業での指導手順について学ぶ。

第7回：学習指導案：学習指導案の目的・基本的構成について理解するとともに、略案、細案の書き方について具体例を基に、それぞれの作成の仕方を理解する。さらに、実際の指導案を参考にしながら書式のバリエーションと授業の組立てについて学ぶ。

第8回：学習指導案と授業：学習指導案に基づき授業が実際どのように行われているかを、授業のビデオ映像の視聴を通し、指導技術を身につける。

第9回：：言語活動の指導（1）：教師による導入及び展開の授業実演を見ることで、言語活動の進め方、指導技術を身に付ける。／複数領域を統合した言語活動の指導について学ぶ。

第10回：言語活動の指導（2）／ALTとのチーム・ティーチング：複数の領域を組み合わせた効果的なコミュニケーション活動について具体例を参考に学ぶ。／ALTとのチーム・ティーチングについて、効果及び留意点について学ぶ。

第11回：教育実習：教育実習の趣旨・内容・心構えについて理解する。さらに、DVD教材を視聴し、教育実習生の生徒との交流、教材研究及び実際の授業展開について学ぶ。

第12回：模擬授業（1）各自作成した指導案に基づき模擬授業を行う。

第13回：模擬授業（2）各自作成した指導案に基づき模擬授業を行う。

第14回：模擬授業（3）各自作成した指導案に基づき模擬授業を行う。

第15回：模擬授業（4）各自作成した指導案に基づき模擬授業を行う。

テキスト

『新・グローバル時代の英語教育』（岡秀夫編著、成美堂）

『中学校学習指導要領解説 外国語編』（文部科学省、開隆堂）

参考書・参考資料等

『中学校学習指導要領』（文部科学省、東山書房）

学生に対する評価

毎回の振り返りシート（40%）、学習指導案（20%）、模擬授業（20%）、模擬授業レポート（20%）

授業科目名： 家庭科教育法Ⅰ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：富山 裕子 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ			
<p>【到達目標】・学習指導要領を踏まえた家庭科の指導目標と評価について理解し、授業計画及び学習指導案の作成ができる。・学家庭科教育の意義を理解でき、適切な教材研究に基づいた授業計画及び学習指導案の作成ができる。・立案した学習指導案の考察をとおして、具体的かつ適切な評価の考え方を理解できる。</p> <p>【テーマ】 家庭科教育に携わる教育実践力を備えた教師になるために求められる基本的な資質・能力を身に付ける。</p>			
【授業の概要】・中学校家庭科教育について理解し、学習指導要領を踏まえた教科の目標や内容の理解及び学習指導計画に基づいた指導案を作成する能力の習得を目指す。			
授業計画			
第1回：「家庭科教育法」受講にあたって／ 家庭科教育のあゆみと現行学習指導要領について			
第2回：家庭科教育の意義と期待できる家庭科教育が育む力			
第3回：家庭科教育への理解と今日的課題			
第4回：教科教育としての家庭科教育の理念と特徴			
第5回：家庭科教育を学ぶ子どもの生活実態と課題			
第6回：小・中・高等学校の指導目標と内容1			
第7回：小・中・高等学校の指導目標と内容2			
第8回：家庭科教育の学習指導			
第9回：家庭科教育の学習指導計画			
第10回：中学校の「技術・家庭（家庭分野）」の指導目標と内容			
第11回：中学校の「技術・家庭（家庭分野）」の指導及び目標と評価			
第12回：中学校の「技術・家庭（家庭分野）」の年間指導計画と学習指導案			
第13回：中学校の「技術・家庭（家庭分野）」の教材と教材研究			
第14回：模擬授業実施に向けた中学校の「技術・家庭（家庭分野）」の学習指導案（本時案）の作成			
第15回：まとめ			
テキスト：多々納道子・伊藤圭子 編著「実践的指導力をつける家庭科教育法」大学教育出版			
参考書・参考資料等			
文部科学省「中学校学習指導要領 技術・家庭編」，「中学校学習指導要領解説 技術・家庭編」			
学生に対する評価：筆記試験（80％）と提出物（学習指導案20％）で評価する。			

授業科目名： 家庭科教育法Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：富山 裕子 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>【到達目標】・「家庭科教育法Ⅰ」で立案した学習指導案の検証をとおり学習指導要領への理解を深める・立案した学習指導案による教材研究の実践と考察をとおり様々な教材研究法授業の実践と相互の授業観察をとおり適の習得をめざす</p> <p>・立案した学習指導案による模擬的な授業設計の考え方を理解する。</p> <p>【テーマ】「家庭科教育法Ⅰ」の内容を踏まえた指導案作成及び模擬授業等の演習をとおり、家庭科教育に携わる教育実践力を確実にし、家庭科教師として求められる望ましい資質・能力を身に付ける。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>「家庭科教育法Ⅰ」の内容を踏まえ、情報機器等を利用した効果的な指導法の模索を試みる等、教材研究演習や模擬授業による授業実践力の習得を目指す。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：学習指導案の読み合わせと確認</p> <p>第2回：学習指導案による授業展開の実際について 1（板書計画，提供資料，学習形態等）</p> <p>第3回：学習指導案による授業展開の実際について 2（教材研究の方法）</p> <p>第4回：学習指導案による授業展開の実際について 3（実物提示及び視聴覚教材の種類と活用法） （鹿児島県総合教育センター提供の指導資料（教材研究，実践事例等）の収集と活用）</p> <p>第5回：学習指導案による授業展開の実際について 4（パワーポイント等情報活用教材作成の実際）</p> <p>第6回：模擬授業1（指導案と実際の授業展開の検証）</p> <p>第7回：模擬授業2（目標達成度の確認と評価方法）</p> <p>第8回：まとめ</p>			
<p>テキスト：多々納道子・伊藤圭子 編著「実践的指導力をつける家庭科教育法」大学教育出版</p>			
<p>参考書・参考資料等：文部科学省「中学校学習指導要領 技術・家庭編」 文部科学省「中学校学習指導要領解説 技術・家庭編」</p>			
<p>学生に対する評価：筆記試験（50%）と提出物（学習指導案等50%）で評価する。</p>			

授業科目名： 道徳教育指導論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：田口 康明 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める科目区分 又は事項等	道徳の理論及び指導法		
授業の到達目標及びテーマ： 【テーマ】 現代社会における道徳の意義、学校教育における道徳の目標。学習指導要領に示された道徳教育及び「特別の教科 道徳」の目標に関する理解。「特別の教科 道徳」の特性を踏まえた授業過程の理解（指導案の作成、学習評価規準の設定を含む）の理解。 【到達目標】 道徳の役割の理解。学校教育における道徳教育の目標の理解。実際の授業過程の理解と模擬授業の実施とピア評価の実施。			
授業の概要 道徳教育は、憲法、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神を踏まえ、自己の生き方や人間としての生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を育成する教育活動である。これらを授業実践の場に応用できるように、知識・技術の習得に努める。			
授業計画 第1回：人間存在と道徳（道徳とは何か） 第2回：各学校段階の道徳教育の目標と内容 第3回：中学校における道徳教育の指導計画 第4回：「特別の教科 道徳」の指導法①教科の特質の理解 第5回： 同上 ②授業設計における留意事項 第6回： 同上 ③指導案の作成 第7回：模擬授業とピア評価①第1班 第8回：模擬授業とピア評価②第2班			
テキスト： 特に定めない。資料を配付する。			
参考書・参考資料等：中学校学習指導要領／中学校学習指導要領解説「特別の教科 道徳」編 思考力を育む道徳教育の理論と実践 - コールバーグからハーバーマスへ 浅沼茂著 黎明書房			
学生に対する評価：模擬授業の評価（30％）・定期試験（70％）			

授業科目名： 道徳教育の指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：田口 康明 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める科目区分 又は事項等	道徳、総合的な学習の時間及び特別活動に関する内容		
授業の到達目標及びテーマ： 【テーマ】 現代社会における道徳の意義、学校教育における道徳の目標。学習指導要領に示された道徳教育及び「特別の教科 道徳」の目標に関する理解。 【到達目標】 道徳の役割の理解。学校教育における道徳教育の目標の理解。			
授業の概要 道徳教育は、憲法、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神を踏まえ、自己の生き方や人間としての生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を育成する教育活動である。これらについての理解を深める。			
授業計画 第1回：人間存在と道徳（道徳とは何か） 第2回：道徳教育の歴史①戦前の修身科 第3回： 同上 ①戦後の道徳教育 第4回：小学校と中学校の道徳教育の特質 第5回：幼稚園と高等学校における道徳教育の特質 第6回：小学校学習指導要領の道徳教育の内容・目標 第7回：中学校学習指導要領の道徳教育の内容・目標 第8回：まとめ			
テキスト： 特に定めない。資料を配付する。			
参考書・参考資料等：幼稚園教育要領／小学校学習指導要領／中学校学習指導要領／高等学校学習指導要領 思考力を育む道徳教育の理論と実践 - コールバーグからハーバーマスへ 浅沼茂著 黎明書房			
学生に対する評価：小レポート（30％）・定期試験（70％）			

授業科目名： 総合的な学習の時間 の指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名：松崎 康弘 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等 に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	総合的な学習の時間の指導法		
授業の到達目標及びテーマ <p>総合的な学習の時間について、その目標や意義を理解するとともに、指導計画の作成及び具体的な指導並びに学習活動の評価に関する基本的な知識・技能を身に付ける。</p> <p>小・中学校の「総合的な学習の時間」の目標・内容・方法・評価等について実践事例を踏まえて学び、将来の自分の実践を構想する。</p>			
授業の概要 <p>前半（第1日）はテキストの読み込みや事例の提示を通して、総合的な学習の時間の目標・内容・方法・実践事例について紹介する。後半（第2日）は評価の観点も踏まえて指導計画の作成について学び、将来自分が行う実践を考える。</p>			
授業計画 第1回：総合的な学習の時間の目標と意義～カリキュラム・マネジメントを踏まえ～ 第2回：総合的な学習の時間の目標・内容・実践事例（1）（横断的・総合的な課題） 第3回：総合的な学習の時間の目標・内容・実践事例（2）（地域や学校の特色に応じた課題） 第4回：総合的な学習の時間の授業方法～体験活動や思考ツール・ICT活用を事例に～ 第5回：総合的な学習の時間における評価～探究的な学習の過程を踏まえ～ 第6回：総合的な学習の時間の年間指導計画・単元計画の事例 第7回：今後の総合的な学習の時間に求められるもの～「令和の日本型学校教育」等踏まえ～ 第8回：まとめ・最終試験			
テキスト 文部科学省著『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総合的な学習の時間編』 （東山書房2019年） 文部科学省著『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総合的な学習の時間編』 （東洋館出版社2018年）			
参考書・参考資料等 <p>授業中に適宜資料を配布する。</p> <p>予習：テキスト（特に第2章・第3章を中心に）を読んでおくこと。</p> <p>復習：第1～4回（集中講義初日）の内容を復習し、自分ならどのような実践</p>			

を行いたいか構想すること。

学生に対する評価 : 最終試験 (70%)、小レポート (30%)

授業科目名： 特別活動指導論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：田口 康明 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める科目区分 又は事項等	特別活動の指導法		
授業の到達目標及びテーマ： 【テーマ】学校における特別活動の目標及び主な内容を理解する。特別活動の指導の意義・役割・在り方について理解する。学級活動の特質を理解し、指導案を作成する。生徒会活動、学校行事の特質を理解する。 【到達目標】中学校学習指導要領の特別活動の目標及び主な内容を理解。学校教育全体における特別活動の理解。学級活動・生徒会活動、クラブ活動、学校行事の特質を理解。学活の指導案の作成。			
授業の概要 特別活動は、望ましい集団生活の中において実施される教育活動である。課題の発見や解決を行い、よりよい集団や学校生活を目指して様々に行われる活動の目的と内容について理解し 「人間関係形成」・「社会参画」・「自己実現」の三つの視点や「チームとしての学校」の視点を持つ特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付ける。			
授業計画 第1回：特別活動の意義、目標及び内容の理解①学習指導要領の内容等 第2回： 同上 ②学校教育全体における位置づけ 第3回： 同上 ③学級とその活動 第4回： 同上 ④自治的諸活動の意義 第5回： 同上 ⑤学校行事と地域社会 第6回：特別活動の指導計画①年間計画と地域の関係 第7回： 同上 ②学活の指導案 第8回：まとめ			
テキスト： 特に定めない。資料を配付する。			
参考書・参考資料等：中学校学習指導要領／中学校学習指導要領解説「特別活動」編／学級・学校文化を創る特別活動 中学校編 文部科学省国立教育政策研究所教育課程研究センター著 東京書籍			
学生に対する評価：指導案の作成（30％）・定期試験（70％）			

授業科目名： 特別活動論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：田口 康明 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める科目区分 又は事項等	道徳、総合的な学習の時間及び特別活動に関する内容		
授業の到達目標及びテーマ： 【テーマ】学校における特別活動の目標及び主な内容を理解する。特別活動の指導の意義・役割・在り方について理解する。学級活動の特質を理解し、食育の指導に関する指導案を作成する。生徒会活動、学校行事の特質を理解する。 【到達目標】中学校学習指導要領の特別活動の目標及び主な内容を理解。学校教育全体における特別活動の理解。学級活動・生徒会活動、クラブ活動、学校行事の特質を理解。学活の指導案の作成。			
授業の概要 特別活動は、望ましい集団生活の中において実施される教育活動である。課題の発見や解決を行い、よりよい集団や学校生活を目指して様々に行われる活動の目的と内容について理解し 「人間関係形成」・「社会参画」・「自己実現」の三つの視点や「チームとしての学校」の視点を持つ特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付ける。			
授業計画 第1回：特別活動の意義、目標及び内容の理解①学習指導要領の内容等 第2回： 同上 ②学校教育全体における位置づけ 第3回： 同上 ③学級とその活動 第4回： 同上 ④自治的諸活動の意義 第5回： 同上 ⑤学校行事と地域社会 第6回：特別活動と食に関する指導①食に関する指導と学級活動 第7回： 同上 ②給食の時間の活用 第8回：まとめ			
テキスト： 特に定めない。資料を配付する。			
参考書・参考資料等：小学校学習指導要領／中学校学習指導要領／小学校学習指導要領解説「特別活動」編／文科省HP「栄養教諭を中核としたこれからの学校の食育（平成29年3月）」			
学生に対する評価：小レポート（30％）・定期試験（70％）			

授業科目名： 教育方法学概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：元井 一郎 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める科目区分 又は事項等	教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ <p>教授理論の史的な展開を把握できる。現在議論されている新たな教授方法の理論的な基礎を説明できる。</p> <p>教育方法（論）に関する史的な展開をふまえ、現代的な教授方法についての理解を深める。</p>			
授業の概要 <p>教育方法史に関する概括的な整理を行い、現代の学校教育において注目されている教育方法の理論的な視角および特徴を確認し、理解する。</p>			
授業計画 <p>第1回 教育方法の史的構成－1 ヨーロッパ近代と教授論の成立</p> <p>第2回 教育方法の史的構成－2 近代社会の展開と新教育運動の成立</p> <p>第3回 教育方法の史的構成－3 現代教授論の展開－教育の現代化を中心に</p> <p>第4回 教育方法の史的構成－4 日本近代と教授法の導入</p> <p>第5回 教育方法の史的構成－5 教授法の受容と変容</p> <p>第6回 教育方法の史的構成－6 現代日本の教授法とその構成</p> <p>第7回 現代教育方法論の特徴(1) 学習理論の発展と教授法の論理</p> <p>第8回 現代教育方法論の特徴(2) 学習理論とその現在</p> <p>第9回 授業研究とその展開 1（授業研究の歴史）</p> <p>第10回 授業研究とその展開 2（授業研究の理論）</p> <p>第11回 授業研究の課題</p> <p>第12回 教育方法論と教育評価</p> <p>第13回 教育方法論と学校改革</p> <p>第14回 教育方法論の論理と構成</p> <p>第15回 教育方法論の現代的課題 講義のまとめ</p>			
テキスト： 特に指定しない。			
参考書・参考資料等：講義中に基本文献等の紹介を行う。 <p style="text-align: center;">：集中講義であるため、手校するプリントの内容は必ず復習すること。</p>			
学生に対する評価： <p>講義テーマ終了ごとの確認テスト（計4回）および授業終了後の提出を求めるレポート課題。</p>			

授業科目名： 学校教育におけるICT活用	教員の免許状取得のための 必修科目（中学校教諭）	単位数： 1単位	担当教員名：田口康明 担当形態：単独
科目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標 <p>【テーマ】情報機器を活用した効果的な授業や情報活用能力の育成を視野に入れた適切な教材の作成・活用に関する基礎的な能力を身に付ける。</p> <p>【到達目標】</p> <p>(1) 教員として必要な情報機器を活用して効果的に教材等を作成・提示する技能を身につける。</p> <p>(2) 情報活用能力（情報モラルを含む）を育成するための指導法を理解する。</p>			
授業の概要 <p>GIGAスクール構想が実現されつつある中、中学校において生徒1人1台端末の環境において、教員としてICT活用・指導力を身につけることが求められている。そこで、現在の推奨されているICT活用の向上に向けて、教員が持つべきとされるICTの教育利用に関する基本的な考え方と基礎技能を形成することを目標に講義や一部、演習を行う。</p>			
授業計画 第1回：ガイダンス 日本の政策について確認 第2回：ICT教育利用に関する基本的な考え方（1）コンピュータとは何か、ネットワークとは何か 第3回：ICT教育利用に関する基本的な考え方（2）ICTがもたらす学校と社会の変化 第4回：ICT教育利用の基本技能（1）ICTを利用した学習環境のデザイン 第5回：ICT教育利用の基本技能（2）電子黒板とデジタル教科書を活用した授業例の検討 第6回：ICT教育利用の基本技能（3）電子黒板とデジタル教科書を活用した授業の作成 第7回：ICT教育利用の基本技能（4）グループによる模擬授業 第8回：ICT教育に利用に関する総括的なグループ討議と試験			
テキスト <p>「教育の情報化に関する手引」（令和元年12月・文部科学省）データと紙で配布</p>			
参考書・参考資料等 <p>授業中に示す</p>			
学生に対する評価 <p>模擬授業50%、試験50%</p>			

授業科目名： 生徒指導論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：田中 真理 担当形態：単独
科 目	道徳，総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導，教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	生徒指導の理論及び方法		
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育における生徒指導の意義と原理について理解できる。 ・児童生徒理解の必要性とその方法について理解できる。 ・児童生徒への全体的な指導方法と個別の課題を抱える児童生徒への指導のあり方について理解できる。 <p>【テーマ】</p> <p>学校教育における生徒指導の意義と原理と児童生徒理解のための理論と知識を習得するとともに，組織的な生徒指導を進めるための基礎知識と指導のあり方について学ぶ。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>生徒指導は，学習指導とならぶ，学校教育のなかで教師が行う重要な教育活動のひとつである。本講義では，生徒指導の意義と原理，児童生徒理解，全体への指導，個別の指導といった観点から，生徒指導を進めるする上で求められる生徒指導に関する基礎知識や技能，児童生徒の不応等に関する問題といった課題解決的な生徒指導について学ぶ。また各テーマに沿った実際の実践例や事例などについてディスカッションしながら，具体的・実践的な生徒指導・教育支援のあり方についても考える。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：生徒指導の定義，教育課程における位置付け</p> <p>第2回：意義と原理① 教科指導や道徳教育，総合的な学習，特別活動などの教育活動における生徒指導の意義と重要性</p> <p>第3回：意義と原理② 集団指導と個別指導に関する方法原理方法原理と生徒指導体制</p> <p>第4回：児童生徒理解① 児童生徒理解のための児童期から青年期の心理的特徴</p> <p>第5回：児童生徒理解② アセスメントの方法論と資料収集の方法</p> <p>第6回：児童生徒理解③ 教師との関係やリーダーシップ，教師期待効果</p> <p>第7回：全体への指導① 生徒指導の組織的取組と教師の役割</p> <p>第8回：全体への指導② 日常的な生徒指導のあり方</p> <p>第9回：全体への指導③ 自己存在感の育成のための活動や取り組み（集団の人間関係作り）</p>			

第10回：全体への指導④ 構成的グループエンカウターの理論と実際

第11回：個別の指導① 不登校に関する基礎知識と対応

第12回：個別の指導② いじめ、暴力行為に関する基礎知識と対応

第13回：個別の指導③ 生徒指導に関する法制度と非行に関する基礎知識とその処遇

第14回：個別の指導④ インターネットや虐待等の今日的な生徒指導上の課題と
関係機関との連携

第15回：まとめ

定期試験

テキスト

文部科学省『生徒指導提要』教育図書，（最新版）

参考書・参考資料等

安達未来・森田健宏編著『生徒指導・進路指導（よくわかる!教職エクササイズ）』ミネル
ヴァ書房，2020年

小泉令三編著『よくわかる生徒指導・キャリア教育』ミネルヴァ書房，2010年

一丸藤太郎・菅野信夫編著『学校教育相談』ミネルヴァ書房，2002年

学生に対する評価

定期試験（70%）＋小テスト（20%）＋リアクションペーパー（10%）

授業科目名： 進路指導論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：田口 康明 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める科目区分 又は事項等	進路指導及びキャリア教育の理論及び方法		
<p>授業の到達目標及びテーマ：</p> <p>【到達目標】 進路指導・キャリア教育の視点に立った授業改善や体験活動、評価改善の堆進やガイダンスとカウンセリングの充実、それに向けた学校内外の組織的体制に必要な知識や素養を身に付ける。</p> <p>【テーマ】 中学校生徒が自ら、将来の進路を選択・計画し、その後の生活によりよく適応し、能力を伸長するように、教員が組織的・継続的に指導・援助する過程が進路指導であり、さらそれを包含し、,学校で学ぶことと社会との接続を意識し、一人一人の社会的・職業的自立に向けて必要な基盤を育むことを目的とする教育活動をキャリア教育とよぶ。本講義ではその内容について扱う。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>進路指導・キャリア教育は、学校の教育活動全体を通じた活動であるので、まず教育課程上の位置づけについて理解する。その際、とりわけ特別活動や道徳、総合的な活動の時間との関連について理解する。また職場体験活動について理解を深め、その意義を理解する。そのために必要なカウンセリングのあり方について理解する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回<イントロダクション> 授業計画と基本概念の理解</p> <p>第2回<進路指導からキャリア教育> キャリア教育の成立過程の概説</p> <p>第3回<日本における職業指導と進路指導> 戦前・戦後の日本における職業指導・進路指導の歴史</p> <p>第4回<進路指導改革としてのキャリア教育>1990年代前半の進路指導改革の動き</p> <p>第5回<学校におけるキャリア教育①>職場体験・インターンシップなど特別活動との関連</p> <p>第6回<学校におけるキャリア教育②>各教科・道徳教育・総合的な学習の時間との関連</p> <p>第7回<学校におけるキャリア教育③>教育行政・学校経営との関連</p> <p>第8回<まとめ></p>			
<p>テキスト： 特に定めない。資料を配付する。</p>			
<p>参考書・参考資料等：</p> <p>古橋和夫編『改訂教職入門』 萌文書林／中学校学習指導要領／中学校キャリア教育の手引き（2011） 文部科学省</p>			
<p>学生に対する評価：小レポート（30％）・定期試験（70％）</p>			

授業科目名： 教育相談	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：田中 真理 担当形態：単独
科 目	道徳，総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導，教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		
授業の到達目標及びテーマ			
<p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育相談を实践するうえで必要となる知識を習得する。 ・生徒の問題に応じた援助のあり方を実践的に理解する。 <p>【テーマ】教育相談に関する知識や技術について実践的に学ぶ。</p>			
授業の概要			
<p>学校現場での教育相談とは，児童生徒それぞれの発達に即して好ましい人間関係を育て，生活によく適応させ，自己理解を深めさせ，人格の成長への援助を図る教育実践である。教育相談を進めるには，児童生徒の発達状況や個別的な課題を理解した上で，個々に応じた支援が求められる。本講義では，教育相談の意義と発達臨床心理学的な理論の理解，カウンセリングマインドを基礎とする実践的な教育相談の進め方や取り組みについて学ぶ。さらに事例を通じた学習による実践的な支援のあり方について考える。</p>			
授業計画			
第1回：オリエンテーション，教育相談と生徒指導との関連性			
第2回：意義と理論① 教育相談の意義と教育相談体制			
第3回：意義と理論② 教育相談とカウンセリングとの関係			
第4回：方法① 児童生徒の「問題」理解とその背景要因			
第5回：方法② 児童生徒からのサインの理解とアセスメントの視点と方法論			
第6回：方法③ 教師に求められるカウンセリングマインドの必要性			
第7回：方法④ カウンセリングの理論と技法			
第8回：方法⑤ ロールプレイによる実習			
第9回：展開① 児童生徒や保護者に対する教育相談の進め方			
第10回：展開② 開発的・予防的教育相談の方法			
第11回：展開③ 不登校への理解と対応			
第12回：展開④ いじめへの理解と対応			
第13回：展開⑤ 非行や虐待等への理解と対応			
第14回：展開⑤ 教育相談での課題に応じた関係機関との連携			

第15回：まとめ

定期試験

テキスト

文部科学省『生徒指導提要』教育図書，2010年

参考書・参考資料等

森田健宏・田瓜宏二他編著『教育相談（よくわかる!教職エクササイズ）』ミネルヴァ書房，2018年

河村茂雄編著『教育相談の理論と実際』図書文化社 2012年

一丸藤太郎・菅野信夫『学校教育相談』ミネルヴァ書房，2002年

学生に対する評価

定期試験（70%）＋レポート課題（20%）＋リアクションペーパー（10%）

授業科目	教職実践演習(中)	担当者	田口康明, 田中真理, 竹本寛秋, 土持かおり, 坂上ちえ子
		授業外対応	田口へメール
	〔履修年次〕2年 〔学期〕後期 〔単位〕2 〔必修/選択〕必修 〔授業形態〕演習		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】：教職課程の授業科目の履修や、介護等体験など教職課程以外の活動を通じて身につけてきた能力を、教師になるために必要な資質能力として、有機的に統合し定着させる。</p> <p>【到達目標】：①教育に対する使命感や職責を果たす強い意志を持ち、常に子どもから学び共に成長しようとする姿勢が身についている。②教員としての職責や義務の自覚に基づいた適切な言動をとり、他の教職員や地域の人々と良好な人間関係を築くことができる。③子どもの発達や心身の状況に応じて、抱える課題を理解し、規律ある学級経営を適切に行うことができる。④学習指導の基本事項を身に付けており、子どもの状況に応じて、授業計画や学習形態等を工夫することができる。</p> <p>【概要】：短大の2年間で学んだ教職に関する知識と、教育実習などで獲得した教科指導や生徒指導などの実践体験を統合する。その際、教師として重要である人格的な基盤に根ざした実践力を有することの大切さを自覚するとともに、社会性や対人関係能力、幼児児童生徒理解や学級経営力、教科内容の指導力をこれまでの学修と統合し、教員として必要な資質能力を保持できるように、知識や技能等を補い、その定着を図る。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1)視聴覚教材(模擬授業の映像など)やプリントを適宜用いる。 (2)学習指導案資料など適宜紹介する。		
授業スケジュール	<p>授業計画</p> <p>第1回:[ガイダンス]プログラムの説明、資料の配布、課題の提示、各授業の到達目標の提示、学習計画の提示・説明、履修カルテの活用説明を行う。</p> <p>第2回:[イントロダクション]2年前期までの学修を振り返り、グループ討論、履修カルテを使った自己評価活動を行う。</p> <p>第3回:[ロールプレイ(1)]</p> <p>第4回:[ロールプレイ(2)] 教職の意義や教員の役割についてのグループ討論を行う。第5回:[グループ討論(1)]生活習慣の変化を踏まえた生徒指導、特別支援教育の基本理念について、グループ討論を行う。</p> <p>第6回:[教育委員会から講師を招いての講演] 教育現場で求められている、子どもの特性や心身の状況を把握した学級経営の基礎などについて学ぶ。ただしこの回の時期は未定。</p> <p>第7回:[振り返り]講演についてのグループ討論、これまでの学修に関する小レポートの作成、履修カルテを活用した教員との面談を行う。</p> <p>第8回:[グループ討論(2)]居場所づくりを意識した生徒理解、多様化に応じた学級づくりについて、グループ討論を行う。</p> <p>第9回:[学校見学](11月中旬を予定。ただし、この回のみ見学対象校の都合により異なる時期の開催となる場合もある。)教科指導の実際・学校経営の実際を学ぶ。</p> <p>第10回:[グループ討論(3)]学校見学についての省察</p> <p>第11回:[模擬授業(1)] 教科に関する科目担当教員による指導の下、教科に関する実践的な指導力を身につける(例:文部科学省『中学校学習指導要領』等を活用する)。</p> <p>第12回:[模擬授業(2)] 教科及び総合的な学習の時間に関する実践的な指導力を身につける(例:文部科学省『中学校学習指導要領』等を活用する)。</p> <p>第13回:[模擬授業(3)] 道徳及び特別活動に関する実践的な指導力を身につける(例:文部科学省『中学校学習指導要領』等を活用する)。</p> <p>第14回:[人権学習] 「人権教育」に関する講演会(県人権同和対策課派遣講師)</p> <p>第15回:[レポートの作成と発表] テーマ「これからの教師に求められること」を発表する</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する		
成績評価の方法	授業に関するミニ・レポート、ファイナル・レポートによって評価する。		

授業科目	教職実践演習（栄養教諭）	担当者	中西 智美・田口 康明・田中 真理・未定
		授業外対応	田口へメール
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 2 [必修/選択] 必修 [授業形態] 演習		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】：教職課程の授業科目の履修や、栄養士養成課程の授業科目の履修など教職課程以外の活動を通じて身につけてきた能力を、栄養教諭となるために必要な資質能力として、有機的に統合し定着させる。</p> <p>【到達目標】：①教育に対する使命感や職責を果たす強い意志を持ち、常に子どもから学び共に成長しようとする姿勢が身につけている。②教員としての職責や義務の自覚に基づいた適切な言動をとり、他の教職員や地域の人々と良好な人間関係を築くことができる。③子どもの発達や心身の状況に応じて、抱える課題を理解し、学級の状態に応じて給食の管理及び食育の指導を適切に行うことができる。④食育の指導の基本事項を身に付けて、児童生徒の状況に応じて、学習活動、体験活動等を工夫することができる。</p> <p>【概要】 教員として必要な資質能力を保持できるように、知識や技能等を補い、その定着を図る。すべての回について、教職課程の栄養教育実習担当専任教員と教職課程専任教員が中心になって行う。ただし、第11回と第14回は学校栄養教育論の担当教員が中心となって行う。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 文部科学省（2008）『中学校学習指導要領』、文部科学省（2007）『食に関する指導の手引』（いずれも東山書房） (2) 適宜紹介する。		
授業スケジュール	授業計画 第1回：[ガイダンス]プログラムの説明、資料の配布、課題の提示、各授業の到達目標の提示、学習計画の提示・説明。 第2回：[イントロダクション]2年前期までの学修を振り返り、グループ討論、履修カルテを使った自己評価活動を行う。 第3回：[ロールプレイ(1)]教職の意義や教員の役割についてのグループ討論を行う。特に、場面に応じた教師としての話し方を身につける。 第4回：[ロールプレイ(2)] 教職の意義や教員の役割についてのグループ討論を行う。特に、日常的に発生する学級内の問題への対処方法を身につける。 第5回：[グループ討論(1)]生活習慣の変化を踏まえた生徒指導、特別支援教育の基本理念について、グループ討論を行う。 第6回：[教育委員会から講師を招いての講演] 教育現場で求められている子どもの特性や心身の状況を把握した学級経営の基礎、生活習慣の変化を踏まえた生徒理解について学ぶ。ただし、時期は未定。 第7回：[振り返り]講演についてのグループ討論、これまでの学修に関する小レポートの作成、履修カルテを活用した教員との面談を行う。 第8回：[グループ討論(2)]居場所づくりを意識した生徒理解、多様化に応じた学級づくりについて、グループ討論を行う。 第9回：[学校見学]（学校経営・給食の管理・食育の指導の実際を学ぶ。 第10回：[グループ討論(3)]学校見学についての省察を行う。 第11回：[模擬授業(1)]教室の場面を想定した実践的な指導力を身につける。 第12回：[模擬授業(2)] 食育の指導及び総合的な学習の時間の実践的な指導について。 第13回：[模擬授業(3)] 道徳及び特別活動に関する実践的な指導力を身につける。 第14回：[人権学習] 「人権教育」に関する講演会（県人権同和対策課派遣講師） 第15回：[レポートの作成と発表] テーマ「これからの栄養教諭に求められること」		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する		
成績評価の方法	授業に関するミニ・レポート、ファイナル・レポートによって評価する。		

授業科目	教育実習（事前・事後指導を含む。）	担当者	田口 康明
		授業外対応	田口へメール
	〔履修年次〕 2年 〔学期〕 前期 〔単位〕 5 〔必修/選択〕 必修 〔授業形態〕 実習・講義		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 中学校における教育実習</p> <p>【概要】 教育実習は、教員免許状を取得するための必修科目であり、単なる体験ではなく、大学における教職科目や専門科目の知識・理論などの学習を学校現場で適用、実践研究する「実習」である。大学（短大）において積み重ねてきた教職のための学習は、「目の前」に生徒のいない学習であったが、実習期間中は生徒との「応答」関係の中での学習である。とりわけ思春期にある「中学生」や、先達である教職員の先生方との交流が基盤となる。とりあえず教員の資格を持ちたい、という安易な気持ちで教育現場での実習に臨むことは許されない。教員を目指す強い意志と実習生としての立場をわきまえた謙虚さ、教育への愛着、生徒たちとの相互理解があつてこそ、はじめて教育実習生として受け入れられ存在が認知される。この授業では、教育実習のために必要な構えやスキルを中心に学習し、実習に臨み、実習後は、実習体験から得られた多くの事柄を定着させ、社会人としてのあるべき姿を省察するような活動を行う。</p> <p>【到達目標】 事前において教育実習に必要な知識・技能を習得し、実際に教育実習を行い、事後においては、実習において習得した知識技能を定着させる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 視聴覚教材（模擬授業の映像など）やプリントを適宜用いる。</p> <p>(2) 学習指導案資料など適宜紹介する。</p>		
授業スケジュール	<p>事前・事後指導：ワークショップ形式を中心とし、適宜講義を加える。</p> <p>第1回 教育実習ガイダンス。授業を創ることと学習指導案との関連性</p> <p>第2回 教室における教師のふるまい。授業展開の実際例を学ぶ。</p> <p>第3回 模擬授業（1）</p> <p>第4回 模擬授業（2）</p> <p>第5回 模擬授業（3）</p> <p>第6回 教育実習に関わる実務について</p> <p>第7回 教育実習の反省と総括、採用試験に向けて</p> <p>教育実習：中学校という教育現場の協力を得て3週間の実習活動を行う。</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する		
成績評価の方法	実習先の評価、実習日誌、事前事後の提出物等のポートフォリオ的な評価を行う。加えて授業への参加態度によって総合的に評価する。科目の性質上、遅刻、欠席は原則として一切認めない。		

授業科目	栄養教育実習	担当者	町田 和恵
		授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔履修年次〕 2年 〔学期〕 前期集中 〔単位〕 1 〔必修/選択〕 必修（注） 〔授業形態〕 実習		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 栄養教育実習の目的の達成をより確かなものにする。</p> <p>【概要】 栄養に係る教育に関して得た知識を単なる知識として終わらせるのではなく、指導の場に臨んで生かせる技術を習得する。</p> <p>【到達目標】 教育実習に参加する基本的な心構えや技能、及び実習後の反省と総括、今後に向けての展望を持つことをねらいとする。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) プリント冊子『栄養教育実習ノート』</p> <p>(2) 文部科学省：小学生用食育教材「たのしい食事つながる食育」（平成28年2月） 文部科学省：『食に関する指導の手引き』一弟二次改訂版一（平成31年3月）</p>		
授業スケジュール	<p>各施設により異なる</p> <ol style="list-style-type: none"> 指導教諭等からの説明 <ul style="list-style-type: none"> 学校経営 校務分掌の理解 服務 等 児童及び生徒への個別的相談、指導の実習 <ul style="list-style-type: none"> 指導、相談の場の参観、補助 等 児童及び生徒への教科・特別活動等における指導の実習 <ul style="list-style-type: none"> 学級活動及び給食の時間における指導の参観、補助 教科等における教科担任等と連携した指導の参観、補助 給食放送指導、配膳指導、後片付け指導の参観、補助 児童生徒会、委員会活動、クラブ活動における指導の参観、補助 指導計画案、指導案の立案作成、教材研究 等 食に関する指導の連携・調整の実習 <ul style="list-style-type: none"> 校内における連携・調整（学級担任、研究授業の企画立案、校内研修等）の参観、補助 家庭・地域との連携・調整の参観、補助 等 学校給食の管理を一体的に担う方法 		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	実習先評価（60%）＋実習ノート・実習への取り組み態度（40%）により評価する。		

(注) 前期集中

授業科目	栄養教育実習の事前事後の指導		担当者	町田 和恵
	[履修年次] 2年		授業外対応	適宜対応(要予約)
	[学期] 前期	[単位] 1	[必修/選択] 必修	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】栄養教育実習の目的の達成をより確かなものにする。</p> <p>【概要】栄養に係る教育に関して得た知識を単なる知識として終わらせるのではなく、指導の場に臨んで生かせる技術を習得するために、栄養教育実習の教育効果を高め実践的指導力の充実はかることを目的として、実習の事前事後の指導を行う。</p> <p>【到達目標】教育実習に参加する基本的な心構えや技能、及び実習後の反省と総括、今後に向けての展望を持つことをねらいとする。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント冊子『栄養教育実習ノート』</p> <p>(2) 文部科学省：小学生用食育教材「たのしい食事つながる食育」（平成28年2月） 文部科学省：『食に関する指導の手引き』一第二次改訂版一（平成31年3月）</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 栄養教育実習のオリエンテーション 意義や目的、心構えなど</p> <p>第2回 実習の評価の方法、実習後の提出物（実習ノート、学習指導案など）、実習中の短大との連絡方法などの指導</p> <p>第3回 指導計画案、指導案の立案作成、教材研究</p> <p>第4回 模擬授業の実施（1）</p> <p>第5回 模擬授業の実施（2）</p> <p>第6回 栄養教育実習の報告・発表（1） 栄養教育実習の意義の理解と自己の課題の明確化</p> <p>第7回 栄養教育実習の報告・発表（2） 栄養教育実習の意義の理解と自己の課題の明確化</p> <p>第8回 相互評価、実習の反省、問題点の整理、今後の課題</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	発表・提出物（80%）＋取り組み態度（20%）により評価する。 事前事後指導の完全参加が基礎条件となる。			

※ 7.5回

20 司書教諭に関する科目

授業科目	学校経営と学校図書館		担当者	岩下 雅子		
	[履修年次]	1年	授業外対応	メールによる	m-iwashita@int.iuk.ac.jp	
	[学期]	後期	[単位]	2	[必修/選択]	必修
					[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】従来の学校図書館からさらに変化し続ける“新しい学校図書館”について理解する</p> <p>【概要】多くの学校図書館の運営事例を校種別に学ぶと同時に、今後の学校図書館の可能性についても様々な角度から考察する。</p> <p>【到達目標】 学校経営の中の学校図書館の位置づけを理解し、司書教諭の果たす役割を学ぶ。</p>					
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント配布 (2)					
授業スケジュール	第1回 学校図書館の理念と教育的意義について学ぶ 第2回 世界・日本の学校図書館史 第3回 鹿児島県の読書運動（「母と子の20分間読書運動」と椋鳩十について） 第4回 学校図書館法と読書に関する法律について 第5回 第4次鹿児島県子ども読書活動推進計画について 第6回 学校図書館押さえておきたいポイント①読書センター 第7回 学校図書館押さえておきたいポイント②学習・情報センター 第8回 学校図書館押さえておきたいポイント③心の居場所 第9回 学校経営の中の学校図書館（校務分掌） 第10回 学校図書館の運営 小学校の図書館運営 第11回 学校図書館の運営 中学校の図書館運営 第12回 学校図書館の運営 高校の図書館運営 第13回 学校図書館の運営 特別支援学校の図書館運営 第14回 学校図書館の蔵書構成を考える 第15回 学校図書館をデザインする					
授業外学習(予習・復習)	事前に配布された資料は読んでくること					
成績評価の方法	筆記試験(50%) 授業ごとのミニレポート (25%) 課題レポート (25%)					
実務経験について	学校図書館、大学附属図書館で司書の実務経験あり					

授業科目	学校図書館メディアの構成		担当者	岩下 雅子		
	[履修年次]	1・2年	授業外対応	メールによる	m-iwashita@int.iuk.ac.jp	
	[学期]	後期	[単位]	2	[必修/選択]	必修
					[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 多様化した今日の情報メディアを学校図書館でどのように扱うか学ぶ。</p> <p>【概要】学校図書館メディアとは何だろう。学校図書館メディア構築のために適切な情報・資料の選択・収集・組織化をどのように学校図書館は行うかを考察する。</p> <p>【到達目標】 学校図書館メディアの組織化と司書教諭の果たす役割を学ぶ。</p>					
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント配布 (2)					
授業スケジュール	第1回 学校図書館メディアの種類と特性（メディアの変遷） 第2回 学校図書館メディアの種類と特性（メディアの発達） 第3回 学校図書館メディアの種類と特性（情報と図像学） 第4回 学校図書館メディアの選択と構成 第5回 日本十進分類法（分類と件名 0～4） 第6回 日本十進分類法（分類と件名 5～9） 第7回 学校図書館と目録（OPACと書誌情報） 第8回 学校図書館と目録（OPACと書誌情報） 第9回 学校教育の方針とメディア選択 第10回 学校図書館メディアの組織化（読書センター） 第11回 学校図書館メディアの組織化（学習・情報センター） 第12回 学校図書館メディアと探究学習 第13回 特別支援と学校図書館メディア 第14回 学校図書館をデザインする（本棚、分類、配架） 第15回 学校図書館をデザインする（目録～ネットワーク）					
授業外学習(予習・復習)	事前に配布された資料は読んでくること					
成績評価の方法	筆記試験(50%) 授業ごとのミニレポート (25%) 課題レポート (25%)					
実務経験について	学校図書館、大学附属図書館で司書の実務経験あり					

授業科目	読書と豊かな人間性		担当者	木戸 裕子	
	[履修年次]	2年	授業外対応	オフィスアワーに準じる	
	[学期]	後期	[単位]	2	
		[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】本と図書館に関する現状を学び、読書が子どもの成長にもたらすものについて考える。</p> <p>【概要】子どもにとって読書とは、広い世界への興味や想像力をはぐくむために大切なものである。この授業では、本と図書館に関する話題や、読書活動の方法を通して、読書が私たちにもたらす豊かな世界を考えていく。授業では、実際に図書館や書店を訪問したり、読みきかせ、ブックトークなどの子どもの読書の手助けとなる方法を実際に体験したりする。</p> <p>【到達目標】読書と心の豊かさの関連について考えることができる。児童生徒の読書活動に対する学校図書館の役割を理解する。様々な読書活動（読み聞かせ、ブックトークなど）の方法を知る。自分の読書活動について振り返る。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 立田 慶裕編著『読書教育の方法—学校図書館の活用に向けて—』学文社</p> <p>(2) 「読むチカラ」プロジェクト編「鍛えよう！読むチカラ学校図書館で育てる 25 の方法」明治書院、小林功「楽しい読み聞かせ 改訂版」全国学校図書館協議会、渡部康夫「読む力を育てる読書のアニメーション」全国学校図書館協議会、</p>				
授業スケジュール	<p>第 1 回 読書教育とは何か：発達に応じた読書</p> <p>第 2 回 読書教育の担い手：学校図書館を支える人々</p> <p>第 3 回 学校図書館の歴史：制度としての学校図書館</p> <p>第 4 回 読書教育のための学校環境：学校における読書環境、地域との連携</p> <p>第 5 回 読書教育の方法 1：就学前・学校全体</p> <p>第 6 回 読書教育の方法 2：教科と読書教育</p> <p>第 7 回 小学校の読書：物語を楽しみ、言葉をはぐくむ</p> <p>第 8 回 中学校・高校の読書教育：言語教育と科学的探究の融合</p> <p>第 9 回 公共図書館の児童室と学校図書館：グループワークとディスカッション</p> <p>第 10 回 発達を支える読書：特別支援教育との関係</p> <p>第 11 回 読書活動 1：読書案内、ブックトーク、ブックリスト</p> <p>第 12 回 読書活動 2：読み聞かせ、読みあい、ストーリーテリング</p> <p>第 13 回 読書活動 3：パネルシアター、紙芝居</p> <p>第 14 回 実演 1：ブックトーク、読み聞かせ、読みあいなど</p> <p>第 15 回 実演 2：ブックトーク、読み聞かせ、読みあいなど</p>				
授業外学習(予習・復習)	積極的に読書活動に取り組み、読書記録を取るようになる。				
成績評価の方法	課題提出 (50%) と、授業第 14 回、15 回での実演 (50%)				

授業科目	情報メディアの活用		担当者	竹本 寛秋	
	[履修年次]	2	授業外対応	適宜対応 (要予約)	
	[学期]	後期	[単位]	2	
		[必修/選択]	必修	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>高度情報化社会である現代における多様な情報メディアの特性を学び、学校図書館での活用方法について考える。</p> <p>【概要】</p> <p>テクノロジーの発展により高度情報化した現代において、情報と人々の関係は急速に変化している。新たな情報環境を積極的に活用していくことが学校図書館には常に求められており、その中で、司書教諭は多様なメディアについて理解し、活用する能力を持つことが期待される。授業においては、情報化社会と人間の関係について基礎的な理解に基づき、様々なメディアの特性を知って、効果的に活用する方法を学ぶ。またデジタル社会における著作権について学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <p>現代社会の多様な情報メディアの特性について理解し、説明できる。</p> <p>学校図書館における情報メディアを活用した教育や応用の手法について理解し、説明できる。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 適宜プリント。</p> <p>(2) なし</p>				
授業スケジュール	<p>第 1 回 高度情報化社会と人間：情報化社会と司書教諭の役割</p> <p>第 2 回 情報メディアの歴史の変遷</p> <p>第 3 回 学校教育と情報メディア</p> <p>第 4 回 情報メディアの種類と特性</p> <p>第 5 回 情報メディアの選択：状況に応じた選択の必要と留意点</p> <p>第 6 回 視聴覚メディアの活用</p> <p>第 7 回 情報メディアの活用 1：コンピュータの活用と運用</p> <p>第 8 回 教育メディアの活用 2：教育用ソフトウェアの活用</p> <p>第 9 回 情報メディアの活用 3：データベースと情報検索</p> <p>第 10 回 情報メディアの活用 4：インターネットと情報検索</p> <p>第 11 回 情報メディアの活用 5：インターネットによる情報発信</p> <p>第 12 回 情報セキュリティ</p> <p>第 13 回 ネットワーク環境と学校教育</p> <p>第 14 回 学校図書館メディアと著作権</p> <p>第 15 回 まとめ：情報メディア活用の課題と将来</p>				
授業外学習(予習・復習)	教科書の精読、授業で課す課題の調査など。				
成績評価の方法	授業での課題 (30%)、期末試験 (70%)				
実務経験について	高等学校、高等専門学校に教員として勤務				